

基本計画書

基本計画		
事項	記入欄	備考
計画の区分	学部設置	
フリガナ 設置者	ガッコウホカイシン トウカイダいがく 学校法人 東海大学	
フリガナ 大学の名称	トウカイダいがく 東海大学 (Tokai University)	
大学の本部の位置	神奈川県平塚市北金目4-1-1	
大学の目的	本学は、人道に根ざした深い教養をもつ有能な人材を養成すると同時に、高度の学問技術を研究教授することにより、人類社会の福祉に貢献することをもって目的とする。	
新設学部等の目的	【文化社会学部】 「人類の幸福と恒久平和の実現を目指した精神文明と物質文明の融合による総合文明社会の構築」という東海大学の理念に基づき、(1)多文化理解の促進、(2)高度な言語表現力の育成、(3)メディアの理解・利用・創造、(4)自立と共生を実現する知識と力、を柱とする研究教育を通じて、人・社会・自然の共生に立脚した社会生活の基盤の構築に寄与できる人材を養成する。 【文化社会学部アジア学科】 多様性に満ち、グローバル化のなか急速な変化を遂げているアジアについて学識を深めることで、異文化に向き合い中長期的な展望をもって現代のさまざまな課題に取り組み、国際社会、地域社会に貢献できる人材を養成する。 【文化社会学部ヨーロッパ・アメリカ学科】 西洋世界について古代から現代までの包括的な理解を深め、さらに「文学・芸術」「宗教・思想」「歴史・社会」という多角的な視点からの学びを通じて、第一に、変動する世界情勢のなかでも揺るがない洞察力を持ち、新たな文明を創成するエネルギーに溢れた人材を養成する。第二に、多様性を尊び、共生を志向する精神をもって未来を切り開き、暮らしを豊かにする知恵をもつ人材を養成する。 【文化社会学部北欧学科】 「共生社会の構築に貢献できる自立した人材の育成」という目的へ向け、(1)北欧社会の先進的な取り組みや文化について学ぶことで広い視野と柔軟な発想力を備え、多様な価値観を受容することのできる人材、(2)言語学習や留学・海外研修などを通じて自らの考えを発信する力を高めた人材、(3)日本という視点から北欧を研究することで批判的考察力を身につけた人材、(4)自己と社会との関わり方や自立した生き方を主体的に構想し、日本社会が抱える課題の克服に積極的に取り組むことのできる人材を養成する。 【文化社会学部文芸創作学科】 文芸の創作と批評を通じ、(1)現代社会で通用する正確な言葉によって論理的かつクリエイティブに個々の感性と経験を表現する力、(2)人間と世界に関する情報や事象を柔軟かつクリティカルに読み取り、的確に分析し、本質を洞察する力、(3)広く諸芸術を鑑賞して培った教養を未来に向かって総合的に生かしてゆく力、という三つの力を備えた人材を養成する。 【文化社会学部広報メディア学科】 単なる技術の習得にとどまらず、メディアに関する理論的・歴史的・制度的な研究成果を土台としつつ、混沌としたメディアシーンに対応できる人材、社会的価値のあるメッセージを創造・発信できる人材、メディアや企業・行政の広報・広告部門で活躍できる人材を養成する。 【文化社会学部心理・社会学科】 社会的な課題や問題に対して具体的な解決策や行動計画を提案できる“社会的構想力”と、人間関係の充実に必要な社会的スキルである“コミュニケーション能力”を育成する。加えて、実社会において、社会と人・集団、そしてそれらの関係性についての知識と情報を持ち、現代社会の諸問題と現代に生きる人間を多角的・複合的に考察できる力を育成し、“自立と共生を目指した社会の実現”に参画し貢献できる人材を養成する。	

	新 設 学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	取容 定員	学位又は 称号	開設時期及び 開設年次	所 在 地
		年	人	年次 人	人		年 月 第 年次	
新設学部等の概要	文化社会学部 [Undergraduate School of Cultural and Social Studies]							
	アジア学科 [Department of Asian Studies]	4	70	—	280	学士 (文化社会学)	平成30年4月 第1年次	
	ヨーロッパ・アメリカ学科 [Department of European and American Studies]	4	70	—	280	学士 (文化社会学)	平成30年4月 第1年次	
	北欧学科 [Department of Nordic Studies]	4	60	—	240	学士 (文化社会学)	平成30年4月 第1年次	
	文芸創作学科 [Department of Creative Writing]	4	60	—	240	学士 (文化社会学)	平成30年4月 第1年次	
	広報メディア学科 [Department of Media Studies]	4	100	—	400	学士 (文化社会学)	平成30年4月 第1年次	
	心理・社会学科 [Department of Psychological and Sociological Studies]	4	90	—	360	学士 (文化社会学)	平成30年4月 第1年次	
	計		450		1,800			神奈川県平塚市 北金目4-1-1
同一設置者内における変更状況 (定員の移行, 名称の変更等)		健康学部 (平成29年4月届出) 健康マネジメント学科 (200) 医学部 看護学科 (平成29年4月届出) (85) 文学部 アジア文明学科 (廃止) (△60) ※平成30年4月学生募集停止 ヨーロッパ文明学科 (廃止) (△70) ※平成30年4月学生募集停止 アメリカ文明学科 (廃止) (△60) ※平成30年4月学生募集停止 北欧学科 (廃止) (△60) ※平成30年4月学生募集停止 文芸創作学科 (廃止) (△55) ※平成30年4月学生募集停止 広報メディア学科 (廃止) (△110) ※平成30年4月学生募集停止 心理・社会学科 (廃止) (△100) ※平成30年4月学生募集停止 健康科学部 (廃止) ※平成30年4月学生募集停止 看護学科 (廃止) (△75) (3年次編入学定員) (△20) 社会福祉学科 (廃止) (△85) (3年次編入学定員) (△10) 文学部 歴史学科〔定員減〕 (△45) (平成30年4月) 政治経済学部 政治学科〔定員増〕 (10) (平成30年4月) 経済学科〔定員増〕 (10) (平成30年4月) 経営学科〔定員増〕 (10) (平成30年4月) 体育学部 体育学科〔定員増〕 (10) (平成30年4月) 競技スポーツ学科〔定員増〕 (10) (平成30年4月) 武道学科〔定員増〕 (5) (平成30年4月) 生涯スポーツ学科〔定員増〕 (10) (平成30年4月) スポーツ・レジャーマネジメント学科〔定員増〕 (5) (平成30年4月) 工学部 機械工学科〔定員減〕 (△10) (平成30年4月) 動力機械工学科〔定員減〕 (△50) (平成30年4月) 航空宇宙学科〔定員減〕 (△10) (平成30年4月)						
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数		
		講義	演習	実験・実習	計			
	文化社会学部アジア学科	66科目	17科目	23科目	106科目	124単位		
	文化社会学部ヨーロッパ・アメリカ学科	69科目	10科目	17科目	96科目	124単位		
	文化社会学部北欧学科	44科目	20科目	19科目	83科目	124単位		
	文化社会学部文芸創作学科	34科目	20科目	15科目	69科目	124単位		
	文化社会学部広報メディア学科	51科目	16科目	15科目	82科目	124単位		
	文化社会学部心理・社会学科	68科目	22科目	17科目	107科目	124単位		

教 員 組 の 概 要	学 部 等 の 名 称		専任教員等						兼任 教員
			教授	准教授	講師	助教	計	助手	
			人	人	人	人	人	人	人
新 設 分	文化社会学部		5	3	1	0	9	0	60
	アジア学科		(5)	(3)	(1)	(0)	(9)	(0)	(60)
	文化社会学部		3	3	3	0	9	0	52
	ヨーロッパ・アメリカ学科		(3)	(3)	(3)	(0)	(9)	(0)	(52)
	文化社会学部		3	0	3	0	6	0	36
	北欧学科		(3)	(0)	(3)	(0)	(6)	(0)	(36)
	文化社会学部		5	1	1	0	7	0	31
	文芸創作学科		(5)	(1)	(1)	(0)	(7)	(0)	(31)
	文化社会学部		8	2	0	0	10	0	44
	広報メディア学科		(8)	(2)	(0)	(0)	(10)	(0)	(44)
既 設	文化社会学部		5	5	0	0	10	0	49
	心理・社会学科		(5)	(5)	(0)	(0)	(10)	(0)	(49)
	健康学部		8	6	6	4	24	0	23
	健康マネジメント学科		(8)	(6)	(6)	(4)	(24)	(0)	(23)
	医学部		9	8	9	3	29	0	88
	看護学科		(9)	(8)	(9)	(3)	(29)	(0)	(88)
	計		46	28	23	7	104	0	—
			(46)	(28)	(23)	(7)	(104)	(0)	—
	文学部		4	0	2	0	6	0	14
	文明学科		(4)	(0)	(2)	(0)	(6)	(0)	(14)
新 設	文学部		8	4	3	0	15	0	24
	歴史学科		(8)	(4)	(3)	(0)	(15)	(0)	(24)
	文学部		3	2	1	0	6	0	20
	日本文学科		(3)	(2)	(1)	(0)	(6)	(0)	(20)
	文学部		4	2	1	0	7	0	10
	英語文化コミュニケーション学科		(4)	(2)	(1)	(0)	(7)	(0)	(10)
	政治経済学部		8	5	1	0	14	0	12
	政治学科		(8)	(5)	(1)	(0)	(14)	(0)	(12)
	政治経済学部		6	3	2	0	11	0	12
	経済学科		(6)	(3)	(2)	(0)	(11)	(0)	(12)
既 設	政治経済学部		7	4	0	0	11	0	9
	経営学科		(7)	(4)	(0)	(0)	(11)	(0)	(9)
	法学部		14	4	2	0	20	0	5
	法律学科		(14)	(4)	(2)	(0)	(20)	(0)	(5)
	教養学部		10	7	0	0	17	0	21
	人間環境学科		(10)	(7)	(0)	(0)	(17)	(0)	(21)
	教養学部		12	3	2	0	17	0	73
	芸術学科		(12)	(3)	(2)	(0)	(17)	(0)	(73)
	教養学部		4	2	3	0	9	0	10
	国際学科		(4)	(2)	(3)	(0)	(9)	(0)	(10)
新 設	体育学部		11	4	2	0	17	0	4
	体育学科		(11)	(4)	(2)	(0)	(17)	(0)	(4)
	体育学部		7	7	4	0	18	0	7
	競技スポーツ学科		(7)	(7)	(4)	(0)	(18)	(0)	(7)
	体育学部		5	5	2	0	12	0	10
	武道学科		(5)	(5)	(2)	(0)	(12)	(0)	(10)
	体育学部		5	5	1	0	11	0	5
	生涯スポーツ学科		(5)	(5)	(1)	(0)	(11)	(0)	(5)
	体育学部		4	4	0	1	9	0	0
	スポーツ・レジャーマネジメント学科		(4)	(4)	(0)	(1)	(9)	(0)	(0)
既 設	理学部		11	5	6	0	22	0	13
	数学科		(11)	(5)	(6)	(0)	(22)	(0)	(13)
	理学部		6	5	2	0	13	0	8
	情報数理学科		(6)	(5)	(2)	(0)	(13)	(0)	(8)
	理学部		14	2	3	0	19	0	18
	物理学科		(14)	(2)	(3)	(0)	(19)	(0)	(18)
	理学部		13	6	2	0	21	0	5
	化学科		(13)	(6)	(2)	(0)	(21)	(0)	(5)
	理学部		3	4	1	0	8	0	0
	基礎教育研究室		(3)	(4)	(1)	(0)	(8)	(0)	(0)
新 設	情報理工学部		7	3	0	0	10	0	7
	情報科学科		(7)	(3)	(0)	(0)	(10)	(0)	(7)
	情報理工学部		6	1	1	1	9	0	10
	コンピュータ応用工学科		(6)	(1)	(1)	(1)	(9)	(0)	(10)
	工学部		7	4	1	0	12	0	0
	生命化学科		(7)	(4)	(1)	(0)	(12)	(0)	(0)
	工学部		6	2	0	1	9	0	3
	応用化学科		(6)	(2)	(0)	(1)	(9)	(0)	(3)
	工学部		7	0	1	0	8	0	7
	光・画像工学科		(7)	(0)	(1)	(0)	(8)	(0)	(7)
既 設	工学部		8	1	0	0	9	0	7
	原子力工学科		(8)	(1)	(0)	(0)	(9)	(0)	(7)
新 設	工学部		11	1	3	1	16	0	4
	電気電子工学科		(11)	(1)	(3)	(1)	(16)	(0)	(4)

平成29年4月届出済み

平成29年4月届出済み

教	既	工学部	8	0	2	0	10	0	4
		材料科学科	(8)	(0)	(2)	(0)	(10)	(0)	(4)
		工学部	11	5	0	2	18	0	31
		建築学科	(11)	(5)	(0)	(2)	(18)	(0)	(31)
員		工学部	8	2	0	0	10	0	9
		土木工学科	(8)	(2)	(0)	(0)	(10)	(0)	(9)
		工学部	8	0	1	0	9	0	4
		精密工学科	(8)	(0)	(1)	(0)	(9)	(0)	(4)
組		工学部	9	2	2	0	13	0	10
		機械工学科	(9)	(2)	(2)	(0)	(13)	(0)	(10)
		工学部	7	4	3	1	15	0	15
		動力機械工学科	(7)	(4)	(3)	(1)	(15)	(0)	(15)
		工学部	14	3	2	1	20	0	2
		航空宇宙学科	(14)	(3)	(2)	(1)	(20)	(0)	(2)
		工学部	8	1	1	0	10	0	3
		医用生体工学科	(8)	(1)	(1)	(0)	(10)	(0)	(3)
		観光学部	9	3	3	0	15	0	8
		観光学科	(9)	(3)	(3)	(0)	(15)	(0)	(8)
		情報通信学部	6	2	1	0	9	0	3
		情報メディア学科	(6)	(2)	(1)	(0)	(9)	(0)	(3)
		情報通信学部	5	0	4	0	9	0	3
		組込みソフトウェア工学科	(5)	(0)	(4)	(0)	(9)	(0)	(3)
		情報通信学部	4	4	0	0	8	0	6
		経営システム工学科	(4)	(4)	(0)	(0)	(8)	(0)	(6)
		情報通信学部	4	3	2	0	9	0	4
		通信ネットワーク工学科	(4)	(3)	(2)	(0)	(9)	(0)	(4)
		海洋学部	5	3	2	0	10	0	3
		海洋文明学科	(5)	(3)	(2)	(0)	(10)	(0)	(3)
		海洋学部	6	2	1	1	10	0	3
		環境社会学科	(6)	(2)	(1)	(1)	(10)	(0)	(3)
		海洋学部	5	2	2	0	9	0	7
		海洋地球科学科	(5)	(2)	(2)	(0)	(9)	(0)	(7)
		海洋学部	7	6	1	0	14	0	8
		水産学科	(7)	(6)	(1)	(0)	(14)	(0)	(8)
		海洋学部	7	2	1	0	10	0	3
		海洋生物学科	(7)	(2)	(1)	(0)	(10)	(0)	(3)
		海洋学部	5	4	1	0	10	0	11
		航海工学科	(5)	(4)	(1)	(0)	(10)	(0)	(11)
		海洋学部	1	1	2	0	4	0	12
		海洋フロンティア教育センター	(1)	(1)	(2)	(0)	(4)	(0)	(12)
		医学部	106	125	193	412	836	0	162
		医学科	(106)	(125)	(193)	(412)	(836)	(0)	(162)
		経営学部	6	2	1	1	10	0	1
		経営学科	(6)	(2)	(1)	(1)	(10)	(0)	(1)
		経営学部	6	2	1	1	10	0	4
		観光ビジネス学科	(6)	(2)	(1)	(1)	(10)	(0)	(4)
		基盤工学部	6	1	1	0	8	0	1
		電気電子情報工学科	(6)	(1)	(1)	(0)	(8)	(0)	(1)
		基盤工学部	5	2	2	0	9	0	14
		医療福祉工学科	(5)	(2)	(2)	(0)	(9)	(0)	(14)
		農学部	7	2	0	0	9	0	4
		応用植物科学科	(7)	(2)	(0)	(0)	(9)	(0)	(4)
		農学部	5	1	2	1	9	0	4
		応用動物科学科	(5)	(1)	(2)	(1)	(9)	(0)	(4)
		農学部	5	2	2	0	9	0	5
		バイオサイエンス学科	(5)	(2)	(2)	(0)	(9)	(0)	(5)
		国際文化学部	8	3	0	3	14	0	12
		地域創造学科	(8)	(3)	(0)	(3)	(14)	(0)	(12)
		国際文化学部	7	2	2	0	11	0	6
		国際コミュニケーション学科	(7)	(2)	(2)	(0)	(11)	(0)	(6)
		国際文化学部	7	2	1	0	10	0	10
		デザイン文化学科	(7)	(2)	(1)	(0)	(10)	(0)	(10)
		生物学部	5	3	3	0	11	0	10
		生物学科	(5)	(3)	(3)	(0)	(11)	(0)	(10)
		生物学部	4	2	1	1	8	0	4
		海洋生物科学科	(4)	(2)	(1)	(1)	(8)	(0)	(4)
		現代教養センター	18	20	7	1	46	0	25
			(18)	(20)	(7)	(1)	(46)	(0)	(25)
		国際教育センター	26	30	31	2	89	0	245
			(26)	(30)	(31)	(2)	(89)	(0)	(245)
		情報教育センター	6	6	5	0	17	0	23
			(6)	(6)	(5)	(0)	(17)	(0)	(23)
		課程資格教育センター	11	9	4	0	24	0	56
			(11)	(9)	(4)	(0)	(24)	(0)	(56)
要	分	創造科学技術研究機構	0	3	2	1	6	0	0
			(0)	(3)	(2)	(1)	(6)	(0)	(0)
		海洋研究所	2	1	0	0	3	0	0
			(2)	(1)	(0)	(0)	(3)	(0)	(0)

教 員 組 織 の 概 要	既 分	総合医学研究所	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)
		先進生命科学研究所	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)
		教育開発研究センター	2 (2)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	4 (4)	0 (0)	0 (0)
		スポーツ医科学研究所	4 (4)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	6 (6)	0 (0)	0 (0)
		沖縄地域研究センター	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)
		総合科学技術研究所	2 (2)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	3 (3)	0 (0)	0 (0)
		情報技術センター	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)
		総合科学技術研究所	1 (1)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	2 (2)	0 (0)	0 (0)
		平和戦略国際研究所	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)
		計	599 (599)	367 (367)	339 (339)	432 (432)	1,737 (1,737)	0 (0)	－
	合　　計	645 (645)	395 (395)	362 (362)	439 (439)	1,841 (1,841)	0 (0)	－	
教員 以外 の職 員の 概要	職　　種		専　　任		兼　　任		計		
	事　　務　　職　　員		605 (605)　人		419 (419)　人		1,024 (1,024)　人		
	技　　術　　職　　員		60 (60)		83 (83)		143 (143)		
	図　書　館　専　門　職　員		56 (56)		30 (30)		86 (86)		
	そ　の　他　の　職　員		18 (18)		115 (115)		133 (133)		
	計		739 (739)		647 (647)		1,386 (1,386)		
校 地 等	区　　分		専　　用	共　　用	共用する他の 学校等の専用		計		
	校　舎　敷　地		1,614,127.67 m ²	2,052.88 m ²	0.00 m ²		1,616,180.55 m ²		
	運　動　場　用　地		421,731.97 m ²	0.00 m ²	0.00 m ²		421,731.97 m ²		
	小　　　計		2,035,859.64 m ²	2,052.88 m ²	0.00 m ²		2,037,912.52 m ²		
	そ　　の　　他		219,768.53 m ²	0.00 m ²	0.00 m ²		219,768.53 m ²		
	合　　　計		2,255,628.17 m ²	2,052.88 m ²	0.00 m ²		2,257,681.05 m ²		
校　　舎			専　　用	共　　用	共用する他の 学校等の専用		計		
			580,976.38 m ² (580,976.38 m ²)	0.00 m ² (0.00 m ²)	0.00 m ² (0.00 m ²)		580,976.38 m ² (580,976.38 m ²)		
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設		語学学習施設			
	507 室	230 室	1,481 室	89 室 (補助職員 18 人)		6 室 (補助職員 0 人)			
専　任　教　員　研　究　室			新設学部等の名称			室　　数			
			文化社会学部アジア学科			12　　室			
			文化社会学部ヨーロッパ・アメリカ学科			14　　室			
			文化社会学部北欧学科			6　　室			
			文化社会学部文芸創作学科			7　　室			
			文化社会学部広報メディア学科			11　　室			
			文化社会学部心理・社会学科			11　　室			
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種　　〔うち外国書〕		視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点		
	文化社会学部	1,394,600 [446,250] (1,387,400[444,004])	7,479 [5,759] (6,537[4,874])	5,148 [4,990] (4,265[4,125])	9,368 (9,296)	0 (0)	0 (0)		
	計	1,394,600 [446,250] (1,387,400[444,004])	7,479 [5,759] (6,537[4,874])	5,148 [4,990] (4,265[4,125])	9,368 (9,296)	0 (0)	0 (0)		
図書館		面積		閲覧座席数		収　納　可　能　冊　数			
		21,620.00 m ²		3,567　席		2,248,166冊			
体育館		面積		体育館以外のスポーツ施設の概要					
		34,224.13 m ²		400mトラック　1 面					

東海大学付属望星高等学校と共用

名称：東海大学付属望星高等学校（通信制）
収容定員：3,000名
校地面積基準：なし

図書費には電子ジャーナル・データベースの整備費（運用コスト含む）を含む。
大学全体での共用分として、電子データベースは59種〔うち国外36種〕学術雑誌（電子ジャーナル含む）は約27,746種〔うち国外約11,728種〕と、電子ブックは約10,000点〔うち国外約7,000点〕がそれぞれ利用可能。

大学全体

概 経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 要	積 経 費 の 見 積 り	区 分	開設前年度	第 1 年 次	第 2 年 次	第 3 年 次	第 4 年 次	第 5 年 次	第 6 年 次	
		教員 1 人 当 り 研 究 費 等		330 千 円	330 千 円	330 千 円	330 千 円	— 千 円	— 千 円	
		共同研究費等		2,880 千 円	2,880 千 円	2,880 千 円	2,880 千 円	— 千 円	— 千 円	
		図書購入費	12,000 千 円	12,000 千 円	12,000 千 円	12,000 千 円	12,000 千 円	— 千 円	— 千 円	
		設備購入費	6,412 千 円	6,412 千 円	6,412 千 円	6,412 千 円	6,412 千 円	— 千 円	— 千 円	
	学生 1 人 当 り 納 付 金	第 1 年 次	第 2 年 次	第 3 年 次	第 4 年 次	第 5 年 次	第 6 年 次	届出学部全体		
	広報メディア学科、 心理・社会学科	1,477 千 円	1,177 千 円	1,177 千 円	1,177 千 円	— 千 円	— 千 円			
	広報メディア学科、 心理・社会学科以外	1,466 千 円	1,166 千 円	1,166 千 円	1,166 千 円	— 千 円	— 千 円			
	学生納付金以外の維持方法の概要	私立大学等経常経費補助金、資産の運用、手数料及び国庫助成金等								

既設大学	大学 の 名 称	東 海 大 学								
	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入 学 定 員	編入学 定 員	収 容 定 員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	開 設 年 度	所 在 地	備 考
		年	人	年次 人	人		倍			
大 学	文学部		930	—	3,720		1.10	昭和25年	神奈川県平塚市北金目4-1-1	
	文学部 文学学科	4	60	—	240	学士(文学)	1.14	平成13年	〃	
	文学部 文学学科	4	60	—	240	学士(文学)	1.03	平成13年	〃	
	文学部 文学学科	4	70	—	280	学士(文学)	1.09	平成13年	〃	
	文学部 文学学科	4	60	—	240	学士(文学)	1.01	平成13年	〃	
	文学部 文学学科	4	60	—	240	学士(文学)	1.10	昭和42年	〃	
	文学部 文学学科		175	—	700		1.11	昭和35年	〃	
	文学部 文学学科	4	55	—	220	学士(文学)	1.18	昭和58年	〃	
	文学部 文学学科	4	40	—	160	学士(文学)	1.04	昭和58年	〃	
	文学部 文学学科	4	50	—	200	学士(文学)	1.10	昭和58年	〃	
	文学部 文学学科	4	30	—	120	学士(文学)	1.12	昭和58年	〃	
	文学部 文学学科	4	90	—	360	学士(文学)	1.11	平成13年	〃	
	文学部 文学学科	4	55	—	220	学士(文学)	1.12	平成13年	〃	
	文学部 文学学科	4	90	—	360	学士(文学)	1.12	昭和35年	〃	
	文学部 文学学科	4	110	—	440	学士(文学)	1.11	平成13年	〃	
	文学部 文学学科	4	100	—	400	学士(文学)	1.13	平成13年	〃	
	政治経済学部		450	—	1,800		1.09	昭和41年	神奈川県平塚市北金目4-1-1	
	政治学部 政治学科	4	150	—	600	学士(政治学)	1.08	昭和41年	〃	
大 学	政治学部 政治学科	4	150	—	600	学士(政治学)	1.09	昭和41年	〃	
	政治学部 政治学科	4	150	—	600	学士(政治学)	1.10	昭和49年	〃	
	法学部		300	—	1,200		1.06	昭和61年	神奈川県平塚市北金目4-1-1	
	法学部 法律学科	4	300	—	1,200	学士(法学)	1.06	昭和61年	〃	
	教養学部		330	—	1,320		1.11	昭和43年	神奈川県平塚市北金目4-1-1	
	人間環境学部 人間環境学科	4	160	—	640	学士(教養学)	1.11	昭和43年	〃	
	人間環境学部 人間環境学科	4	90	—	360	学士(教養学)	1.05	昭和43年	〃	
	人間環境学部 人間環境学科	4	80	—	320	学士(教養学)	1.17	昭和47年	〃	
	体育学部		440	—	1,760		1.07	昭和42年	神奈川県平塚市北金目4-1-1	
	体育学部 体育学科	4	100	—	400	学士(体育学)	1.07	昭和42年	〃	
	体育学部 体育学科	4	130	—	520	学士(体育学)	1.08	平成16年	〃	
	体育学部 体育学科	4	55	—	220	学士(体育学)	1.07	昭和43年	〃	
	体育学部 体育学科	4	100	—	400	学士(体育学)	1.05	昭和46年	〃	
	体育学部 体育学科	4	55	—	220	学士(体育学)	1.07	平成16年	〃	
	理学部		320	—	1,280		1.05	昭和39年	神奈川県平塚市北金目4-1-1	
	理学部 数学科	4	80	—	320	学士(理学)	1.08	昭和39年	〃	
	理学部 数学科	4	80	—	320	学士(理学)	1.07	昭和49年	〃	
大 学	理学部 数学科	4	80	—	320	学士(理学)	1.04	昭和39年	〃	
	理学部 数学科	4	80	—	320	学士(理学)	1.02	昭和39年	〃	
	情報理工学部		200	—	800		1.09	平成13年	神奈川県平塚市北金目4-1-1	
	情報理工学部 情報科学学科	4	100	—	400	学士(工学)	1.09	平成13年	〃	
	情報理工学部 情報科学学科	4	100	—	400	学士(工学)	1.08	平成13年	〃	
	工学部		1,460	—	5,840		1.05	昭和25年	神奈川県平塚市北金目4-1-1	
	工学部 生命化学科	4	100	—	400	学士(工学)	1.12	平成13年	〃	
	工学部 生命化学科	4	80	—	320	学士(工学)	1.07	平成13年	〃	
	工学部 生命化学科	4	60	—	240	学士(工学)	1.06	平成18年	〃	
	工学部 生命化学科	4	40	—	160	学士(工学)	0.97	平成18年	〃	
	工学部 生命化学科	4	140	—	560	学士(工学)	1.07	平成18年	〃	
	工学部 生命化学科	4	80	—	320	学士(工学)	1.03	昭和41年	〃	
	工学部 生命化学科	4	200	—	800	学士(工学)	1.10	昭和41年	〃	
	工学部 生命化学科	4	120	—	480	学士(工学)	1.10	昭和41年	〃	
	工学部 生命化学科	4	80	—	320	学士(工学)	1.14	昭和46年	〃	
	工学部 生命化学科	4	150	—	600	学士(工学)	1.02	昭和46年	〃	
	工学部 生命化学科	4	200	—	800	学士(工学)	0.95	昭和46年	〃	
大 学	工学部 生命化学科		150	—	600		0.99	昭和42年	〃	
	工学部 生命化学科	4	100	—	400	学士(工学)	1.07	昭和42年	〃	
	工学部 生命化学科	4	50	—	200	学士(工学)	0.84	平成18年	〃	
	工学部 生命化学科	4	60	—	240	学士(工学)	1.15	平成22年	神奈川県平塚市北金目4-1-1 神奈川県伊勢原市下糟屋143	

大 学 等 の 状 況	既 設	観光学部			200	—	800		1. 12	平成22年	神奈川県平塚市北金目4-1-1 東京都渋谷区富ヶ谷2-28-4	
		観光学科		4	200	—	800	学士(観光学)	1. 12	平成22年	〃	
		情報通信学部			320	—	1, 280		1. 10	平成20年	東京都港区高輪2-3-23	
		情報メディア学科		4	80	—	320	学士(工学)	1. 08	平成20年	〃	
		組込みソフトウェア工学科		4	80	—	320	学士(工学)	1. 09	平成20年	〃	
		経営システム工学科		4	80	—	320	学士(工学)	1. 13	平成20年	〃	
		通信ネットワーク工学科		4	80	—	320	学士(工学)	1. 11	平成20年	〃	
		海洋学部			530	—	2, 120		1. 01	昭和37年	静岡県静岡市清水区折戸3-20-1	
		海洋文明学科		4	80	—	320	学士(海洋学)	0. 99	平成16年	〃	
		環境社会学科		4	80	—	320	学士(海洋学)	1. 09	平成23年	〃	
		海洋地球科学科		4	80	—	320	学士(海洋学)	1. 05	平成23年	〃	
		水産学科		4	120	—	480	学士(海洋学)	1. 06	平成18年	〃	
		海洋生物学科		4	90	—	360	学士(海洋学)	1. 05	平成18年	〃	
		航海工学科			80	—	320		0. 79	平成23年	〃	
		航海学専攻		4	20	—	80	学士(海洋学)	1. 05	平成23年	〃	
		海洋機械工学専攻		4	60	—	240	学士(海洋学)	0. 70	平成23年	〃	
		医学部			118	—	692		0. 84	昭和49年	神奈川県伊勢原市下糟屋143	
		医学科		6	118	—	692	学士(医学)	0. 84	昭和49年	〃	
		健康科学部			160	3年次 30	700		1. 06	平成7年	神奈川県伊勢原市下糟屋143	
		看護学科		4	75	3年次 20	340	学士(看護学)	1. 11	平成7年	〃	
		社会福祉学科		4	85	3年次 10	360	学士(社会福祉学)	1. 02	平成7年	〃	
		総合経営学部			—	—	—		—	平成20年	熊本県熊本市東区渡鹿9-1-1	平成25年度より学生募集停止
		マネジメント学科		4	—	—	—	学士(経営学)	—	平成20年	〃	平成25年度より学生募集停止
		経営学部			230	—	920		0. 92	平成25年	熊本県熊本市東区渡鹿9-1-1	
		経営学科		4	150	—	600	学士(経営学)	1. 02	平成25年	〃	
		観光ビジネス学科		4	80	—	320	学士(経営学)	0. 72	平成25年	〃	
		産業工学部			—	—	—		—	平成20年	熊本県熊本市東区渡鹿9-1-1	平成25年度より学生募集停止
		環境保全学科		4	—	—	—	学士(工学)	—	平成20年	〃	平成25年度より学生募集停止
		電子知能システム工学科		4	—	—	—	学士(工学)	—	平成20年	〃	平成25年度より学生募集停止
		機械システム工学科		4	—	—	—	学士(工学)	—	平成20年	〃	平成25年度より学生募集停止
		建築学科		4	—	—	—	学士(工学)	—	平成20年	〃	平成25年度より学生募集停止
		基盤工学部			140	—	560		0. 76	平成25年	熊本県熊本市東区渡鹿9-1-1	
		電気電子情報工学科		4	80	—	320	学士(工学)	0. 57	平成25年	〃	
		医療福祉工学科		4	60	—	240	学士(工学)	1. 01	平成25年	〃	
		農学部			230	—	920		1. 04	平成20年	熊本県阿蘇郡南阿蘇村河陽	
		応用植物科学科		4	80	—	320	学士(農学)	1. 05	平成20年	〃	
		応用動物科学科		4	80	—	320	学士(農学)	1. 06	平成20年	〃	
		バイオサイエンス学科		4	70	—	280	学士(農学)	0. 99	平成20年	〃	
		国際文化学部			260	—	1, 040		0. 85	平成20年	北海道札幌市南区南沢5条1-1-1	
		地域創造学科		4	110	—	440	学士(教養学)	1. 04	平成20年	〃	
		国際コミュニケーション学科		4	80	—	320	学士(教養学)	0. 79	平成20年	〃	
		デザイン文化学科		4	70	—	280	学士(教養学)	0. 60	平成24年	〃	
		生物学部			140	—	560		1. 06	平成24年	北海道札幌市南区南沢5条1-1-1	
		生物学科		4	70	—	280	学士(理学)	1. 03	平成24年	〃	
		海洋生物科学科		4	70	—	280	学士(理学)	1. 09	平成24年	〃	
		《大学院》										
		総合理工学研究科								平成17年	神奈川県平塚市北金目4-1-1 等	
		総合理工学専攻 博士課程		3	35	—	105	博士(理学)・博士(工学)	0. 34	平成17年	〃	
		地球環境科学研究科								平成17年	神奈川県平塚市北金目4-1-1 等	
		地球環境科学専攻 博士課程		3	10	—	30	博士(理学)・博士(工学)	0. 06	平成17年	〃	
		生物科学研究科								平成17年	神奈川県平塚市北金目4-1-1 等	
		生物科学専攻 博士課程		3	10	—	30	博士(理学)・博士(農学) 博士(応用学)	0. 23	平成17年	〃	

既設	文学研究科							昭和44年	神奈川県平塚市北金目4-1-1		
	文明研究専攻	博士課程前期	2	8	—	16	修士(文学)	0.62		昭和49年	
	文明研究専攻	博士課程後期	3	4	—	12	博士(文学)	0.50		昭和51年	
	史学専攻	博士課程前期	2	8	—	16	修士(文学)	0.37		昭和44年	
	史学専攻	博士課程後期	3	4	—	12	博士(文学)	0.00		昭和46年	
	日本文学専攻	博士課程前期	2	8	—	16	修士(文学)	0.49		昭和49年	
	日本文学専攻	博士課程後期	3	4	—	12	博士(文学)	0.08		昭和51年	
	英文学専攻	博士課程前期	2	4	—	8	修士(文学)	0.00		昭和44年	
	英文学専攻	博士課程後期	3	2	—	6	博士(文学)	0.33		昭和46年	
大	コミュニケーション学専攻	博士課程前期	2	8	—	16	修士(文学)	1.18	昭和49年		
	コミュニケーション学専攻	博士課程後期	3	4	—	12	博士(文学)	0.16	昭和51年		
	観光学専攻	修士課程	2	8	—	16	修士(観光学)	0.25	平成26年		
	政治学研究科							昭和46年	神奈川県平塚市北金目4-1-1		
	政治学専攻	博士課程前期	2	10	—	20	修士(政治学)	0.05		昭和46年	
	政治学専攻	博士課程後期	3	5	—	15	博士(政治学)	0.06		昭和48年	
	経済学研究科				—			昭和54年	神奈川県平塚市北金目4-1-1		
	応用経済学専攻	博士課程前期	2	10	—	20	修士(経済学)	0.10		昭和54年	
	応用経済学専攻	博士課程後期	3	5	—	15	博士(経済学)	0.00		昭和56年	
学	法学研究科				—			平成2年	神奈川県平塚市北金目4-1-1		
	法学専攻	博士課程前期	2	10	—	20	修士(法学)	0.05		平成2年	
	法学専攻	博士課程後期	3	5	—	15	博士(法学)	0.00		平成5年	
	人間環境学研究科				—			平成19年	神奈川県平塚市北金目4-1-1		
	人間環境学専攻	修士課程	2	10	—	20	修士(学術)	0.65		平成19年	
	芸術学研究科							昭和48年	神奈川県平塚市北金目4-1-1		
	音響芸術専攻	修士課程	2	4	—	8	修士(芸術学)	0.25		昭和48年	
	造型芸術専攻	修士課程	2	4	—	8	修士(芸術学)	0.50		昭和48年	
	体育学研究科							昭和51年	神奈川県平塚市北金目4-1-1		
体育学専攻	修士課程	2	15	—	30	修士(体育学)	1.36	昭和51年			
等	理学研究科							昭和43年	神奈川県平塚市北金目4-1-1		
	数理学専攻	修士課程	2	8	—	16	修士(理学)	0.37		昭和43年	
	物理学専攻	修士課程	2	12	—	24	修士(理学)	1.37		昭和43年	
	化学専攻	修士課程	2	12	—	24	修士(理学)	1.29		昭和43年	
	工学研究科							昭和38年	神奈川県平塚市北金目4-1-1		
	情報理工学専攻	修士課程	2	—	—	—	修士(工学)	—		平成17年	
	電気電子システム工学専攻	修士課程	2	—	—	—	修士(工学)	—		平成17年	
	応用理学専攻	修士課程	2	—	—	—	修士(工学)	—		昭和38年	
	光工学専攻	修士課程	2	—	—	—	修士(工学)	—		昭和47年	
工業化学専攻	修士課程	2	—	—	—	修士(工学)	—	昭和45年			
金属材料工学専攻	修士課程	2	—	—	—	修士(工学)	—	昭和48年			
建築学専攻	修士課程	2	—	—	—	修士(工学)	—	昭和39年			
土木工学専攻	修士課程	2	—	—	—	修士(工学)	—	昭和41年			
機械工学専攻	修士課程	2	—	—	—	修士(工学)	—	昭和42年			
航空宇宙学専攻	修士課程	2	—	—	—	修士(工学)	—	昭和46年			
電気電子工学専攻	修士課程	2	50	—	100	修士(工学)	1.14	平成28年			
応用理化学専攻	修士課程	2	45	—	90	修士(工学)	1.17	平成28年			
建築土木学専攻	修士課程	2	25	—	50	修士(工学)	1.02	平成28年			
機械工学専攻	修士課程	2	75	—	150	修士(工学)	1.17	平成28年			
医用生体工学専攻	修士課程	2	8	—	16	修士(工学)	0.31	平成26年			
状	情報通信学研究科							平成24年	東京都港区高輪2-3-23		
	情報通信学専攻	修士課程	2	30	—	60	修士(情報通信学)	0.68		平成24年	
	海洋学研究科							昭和42年	静岡県静岡市清水区折戸3-20-1		
	海洋工学専攻	修士課程	2	—	—	—	修士(工学)	—		昭和42年	
	海洋学専攻	修士課程	2	20	—	40	修士(海洋学)	1.07		平成27年	
	況	医学研究科							昭和55年	神奈川県伊勢原市下糟屋143	
		医科学専攻	修士課程	2	10	—	20	修士(医科学)	0.60		平成7年
		先端医科学専攻	博士課程	4	35	—	140	博士(医学)	0.52		平成17年
		健康科学研究科							平成11年		
看護学専攻		修士課程	2	10	—	20	修士(看護学)	0.55	平成11年		
保健福祉学専攻	修士課程	2	10	—	20	修士(保健福祉学)	0.45	平成11年			

既 設 大 学 等 の 状 況	産業工学研究科								平成20年	熊本県熊本市東区渡鹿9-1-1	平成29年度より学生募集停止
	生産工学専攻	修士課程	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成20年	〃	平成29年度より学生募集停止
	情報工学専攻	修士課程	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成20年	〃	平成29年度より学生募集停止
	社会開発工学専攻	修士課程	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成20年	〃	平成29年度より学生募集停止
	農学研究科								平成20年	熊本県阿蘇郡南阿蘇村河陽	
	農学専攻	修士課程	2	12	—	24	修士(農学)	0.58	平成20年	〃	
	国際地域学研究科								平成20年	北海道札幌市南区南沢5条1-1-1	平成28年度より学生募集停止
	国際地域学専攻	修士課程	2	—	—	—	修士(国際学)	—	平成20年	〃	平成28年度より学生募集停止
	理工学研究科								平成20年	北海道札幌市南区南沢5条1-1-1	平成28年度より学生募集停止
	環境生物科学専攻	修士課程	2	—	—	—	修士(理学)	—	平成20年	〃	平成28年度より学生募集停止
	大 学 の 名 称		東海大学短期大学部								
	学部等の名称		修業 年限	入 学 定 員	編入学 定 員	収 容 定 員	学位又 は称号	定 員 超過率	開 設 年 度	所 在 地	
			年	人	年次 人	人		倍			
	食物栄養学科		2	100	—	200	短期大学士(食物栄養学)	0.85	昭和41年	静岡県静岡市葵区宮前町101	
	児童教育学科		2	100	—	200	短期大学士(児童教育学)	1.08	昭和44年	〃	
	大 学 の 名 称		東海大学医療技術短期大学								
	学部等の名称		修業 年限	入 学 定 員	編入学 定 員	収 容 定 員	学位又 は称号	定 員 超過率	開 設 年 度	所 在 地	
			年	人	年次 人	人		倍			
	看護学科		3	80	—	240	短期大学士(看護学)	1.10	昭和49年	神奈川県平塚市北金目4-1-2	
	大 学 の 名 称		東海大学福岡短期大学								
	学部等の名称		修業 年限	入 学 定 員	編入学 定 員	収 容 定 員	学位又 は称号	定 員 超過率	開 設 年 度	所 在 地	
			年	人	年次 人	人		倍			
	情報処理科		2	—	—	—	短期大学士(情報学)	—	平成2年	福岡県宗像市田久1-9-1	平成29年度より学生募集停止
	国際文化学科		2	—	—	—	短期大学士(国際文化学)	—	平成2年	〃	平成29年度より学生募集停止

附属施設の概要	名称：東海大学医学部付属病院 目的：医療機関 所在地：神奈川県伊勢原市下糟屋143 設置年月：昭和50年2月 規模等：土地 118,828.50㎡、建物 85,897.78㎡ 名称：東海大学医学部付属東京病院 目的：医療機関 所在地：東京都渋谷区代々木1－2－5 設置年月：昭和58年12月 規模等：土地 2,498.45㎡、建物 7,550.91㎡ 名称：東海大学医学部付属大磯病院 目的：医療機関 所在地：神奈川県中郡大磯町月京21－1 設置年月：昭和59年4月 規模等：土地 23,286.72㎡、建物 19,950.38㎡ 名称：東海大学医学部付属八王子病院 目的：医療機関 所在地：東京都八王子市石川町1838 設置年月：平成14年3月 規模等：土地 47,708.39㎡、建物 46,636.17㎡	
---------	---	--

教 育 課 程 等 の 概 要															
(文化社会学部 アジア学科)															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
Ⅰ 現代文明論	現代文明論	2前・後	2			○								兼1	
	小計（1科目）	－	2	0	0	－			0	0	0	0	0	兼1	
Ⅱ 現代教養科目	基礎教養科目	人文科学	1後	2			○							兼1	
		社会科学	1後	2			○							兼1	
		自然科学	1前	2			○							兼1	
		小計（3科目）	－	6	0	0	－			0	0	0	0	0	兼3
	発展教養科目	シティズンシップ	1後	1			○								兼1
		ボランティア	1後	1			○								兼1
		地域理解	1前	1			○								兼1
		国際理解	1前	1			○								兼1
		小計（4科目）	－	4	0	0	－			0	0	0	0	0	兼3
	健康スポーツ科	健康・フィットネス理論実習	1後	1					○						兼2
		生涯スポーツ理論実習	1前	1					○						兼2
		小計（2科目）	－	2	0	0	－			0	0	0	0	0	兼4
	Ⅲ 英語科目	英語コミュニケーション科目	英語リスニング&スピーキング	1後	2					○					兼1
			英語リーディング&ライティング	1前	2					○					兼1
小計（2科目）			－	4	0	0	－			0	0	0	0	0	兼1
グローバル人材育成科目		グローバルスキル	2前	2					○						兼1
		アカデミック英語	2後	2					○						兼1
		小計（2科目）	－	4	0	0	－			0	0	0	0	0	兼1

教 育 課 程 等 の 概 要

（文化社会学部 アジア学科）

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
IV 主専攻科目	基礎科目	アジア研究入門	1前	2		○			1	1				
		アジアの学び方 1	1前	2			○		5	3	1			
		アジアの学び方 2	1後	2			○		5	3	1			
		アジアの学び方 3	2前	2			○		5	3	1			
		文物に学ぶアジア	1後・2前		2		○		1					兼1
		東アジア概論	1・2前		2	○			1					
		東南アジア概論	1・2前		2	○			1					
		南アジア概論	1・2後		2	○				1				
		西アジア概論	1・2後		2	○			1		1			オムニバス
		基礎情報処理 1	1・2前・後		2	○								兼1
		小計（10科目）	—	8	12	0	—		5	3	1	0	0	兼2
	アジアの歴史と文明	東洋史概説	1・2前・後		4	○			1	1				
		東アジア古代・中世史	1・2前・後		2	○								兼4
		東アジア近世史	1・2前・後		2	○								兼3
		東アジア近現代史	1・2前・後		2	○			1					兼1
		東南アジア史	1・2・3後		4	○								兼1
		南アジア史	2・3前		4	○				1				
		西アジア史	2・3前		4	○			1					
		ユーラシア史	2・3前・後		2	○			1					兼2
		アジア文明交流史	2・3前・後		2	○			1					兼2
		黄河・長江文明	2・3前		4	○								兼2
		インダス文明	1・2後		4	○								兼1
		古代メソポタミア文明	2・3前		4	○								兼1
		古代エジプト文明	1・2後		4	○				1				
		アジア文明研究 A	2・3・4前・後		2	○			1					兼1

教 育 課 程 等 の 概 要

（文化社会学部 アジア学科）

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
IV 主専攻科目	文 明 ア ジ ア の 歴 史 と	アジア文明研究B	2・3・4前・後	2		○				2				
		アジアの世界遺産	1・2後	2		○			1					兼2 オムニバス
		小計（16科目）	—	0	48	0	—			4	2	1	0	0 兼14
	ア ジ ア の 文 化 と 社 会	東アジアの文化と社会	1・2後	2		○			1					
		東南アジアの文化と社会	1・2後	2		○								兼1
		南アジアの文化と社会	2・3前	2		○								兼1
		西アジアの文化と社会	2・3前	2		○					1			
		アジアの思想と宗教A	2・3・4前	2		○				1				兼1
		アジアの思想と宗教B	2・3・4後	2		○					1			兼1
		アジアの芸術A	1・2・3・4後	2		○				1				兼2
		アジアの芸術B	1・2・3・4前	2		○								兼1
		現代中国論	2・3・4前	2		○			1					
		現代コリア論	1・2・3・4後	2		○								兼1
		現代東南アジア論	1・2・3・4後	2		○			1					
		現代インド論	2・3・4前	2		○				1				
		イスラム文明概論	1・2後	2		○					1			
		イスラム文明と現代世界	2・3・4前	2		○					1			
		国際社会のなかのアジア	2・3・4前	4		○			2					兼1
		日本とアジア	2・3・4前	2		○			1					兼1
		アジア文化理解A	2・3・4前・後	2		○								兼1
		アジア文化理解B	2・3・4前・後	2		○					1			
		現代アジアの課題A	2・3・4前・後	2			○		1					兼1
		現代アジアの課題B	2・3・4前・後	2			○			1				兼1
		小計（20科目）	—	0	42	0	—			3	1	2	0	0 兼8

教 育 課 程 等 の 概 要

（文化社会学部 アジア学科）

科目 区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
IV 主専攻科目	アジアの言語	アラビア語入門 1	1・2後		2				○							兼1	
		トルコ語入門 1	1・2後		2				○							兼1	
		ペルシア語入門 1	1・2後		2				○			1					
		ヒンディー語入門 1	1・2後		2				○							兼1	
		アラビア語入門 2	2・3前		2				○							兼1	
		トルコ語入門 2	2・3前		2				○							兼1	
		ペルシア語入門 2	2・3前		2				○			1					
		ヒンディー語入門 2	2・3前		2				○							兼1	
		アジア言語 A	2・3前・後		2				○	1							兼2
		アジア言語 B	2・3前・後		2				○	1							兼2
		古典アジア言語 A	2・3・4前・後		2				○								兼2
		古典アジア言語 B	2・3・4前・後		2				○	1	1						
		小計（12科目）	—	0	24	0	—			3	1	1	0	0	兼7		
	演習・プロジェクト	アジア研究特別演習 A	2・3・4前・後		2				○		4	3					兼1
		アジア研究特別演習 B	2・3・4前・後		2				○		2						兼2
		アジア研究特別演習 C	2・3・4前・後		2				○		1						兼4
		アジア研究特別演習 D	2・3・4前・後		2				○		1	1					兼2
		アジア研究プロジェクト A	2・3・4前・後		2				○		1	2					
		アジア研究プロジェクト B	2・3・4前・後		2				○		1	2					
		アジア海外研修	2・3・4前・休		4				○				1				
		小計（7科目）	—	0	16	0	—			5	3	1	0	0	兼8		

教 育 課 程 等 の 概 要

（文化社会学部 アジア学科）

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
IV 主専攻科目	卒業研究	アジア研究セミナー1	3前	2			○		5	3	1			
		アジア研究セミナー2	3後	2			○		5	3	1			
		卒業論文1	4前	4			○		5	3	1			
		卒業論文2	4後	4			○		5	3	1			
		小計（4科目）	—	12	0	0	—		5	3	1	0	0	
	学部教養科目	ことばの世界	1・2・3前		2		○							兼1
		知のフロンティア	1・2・3前・後		2		○							兼1
		文章表現法	1・2後		2		○							兼3
		古文基礎	1・2・3前・後		2		○							兼1
		ギリシア語入門1	1・2・3前		1			○						兼1
		ギリシア語入門2	1・2・3後		1			○						兼1
		ラテン語入門1	1・2・3前		1			○						兼1
		ラテン語入門2	1・2・3後		1			○						兼1
		東欧諸語	1・2・3前・後		2			○						兼2
		小計（9科目）	—	0	14	0	—		0	0	0	0	0	兼8
	教職科目	日本史概説	1・2・3前・後		4		○							兼2
		西洋史概説	1・2・3前・後		4		○							兼2
		自然地理学概論	1・2・3前・後		4		○							兼1
		人文地理学概論	1・2・3後		4		○							兼1
		地誌	1・2・3前・後		4		○							兼1
		法律学概論	1・2・3前・後		4		○							兼2
		政治学原論	1・2・3前		4		○							兼1
		社会学概論	1・2・3前・後		2		○							兼1
		経済学概論	1・2・3前		4		○							兼1
		哲学概論	1・2・3前・後		4		○							兼1

教 育 課 程 等 の 概 要															
(文化社会学部 アジア学科)															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
IV 主専攻科目	教職科目	宗教学概論	1・2・3前		4		○								兼1
		社会科・地理歴史科教育法1	3前			2	○								兼1
		社会科・地理歴史科教育法2	3後			2	○								兼1
		社会科教材論	3・4前			2	○								兼1
		小計（14科目）	—	0	42	6	—			0	0	0	0	0	兼15
合計（106科目）		—	42	198	6	—			5	3	1	0	0	兼60	
学位又は称号		学士（文化社会学）			学位又は学科の分野			文学関係							
卒業要件及び履修方法								授業期間等							
以下の合計で124単位以上修得する。 （履修科目の登録の上限：24単位（1学期）） ☐科目区分Ⅰ現代文明論（必修科目） ☐科目区分Ⅱ現代教養科目（必修科目） ☐科目区分Ⅲ英語科目（必修科目） ☐科目区分Ⅳ主専攻科目 （必修科目）20単位修得 （選択必修科目）4単位修得 （選択科目）48単位修得 ☐科目区分Ⅳの余剰、他学部・他学科科目を修得した単位 2単位修得 12単位修得 8単位修得 72単位修得 30単位修得 合計124単位修得								1学年の学期区分		2学期					
								1学期の授業期間		15週					
								1時限の授業時間		90分					

教 育 課 程 等 の 概 要															
(文化社会学部 ヨーロッパ・アメリカ学科)															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
Ⅰ 現代文明	現代文明論	2前・後	2			○								兼1	
	小計（1科目）	—	2	0	0	—			0	0	0	0	0	兼1	
Ⅱ 現代教養科目	基礎教養科目	人文科学	1前	2			○							兼1	
		社会科学	1前	2			○							兼1	
		自然科学	1後	2			○							兼1	
		小計（3科目）	—	6	0	0	—			0	0	0	0	0	兼3
	発展教養科目	シティズンシップ	1前	1			○								兼1
		ボランティア	1前	1			○								兼1
		地域理解	1後	1			○								兼1
		国際理解	1後	1			○								兼1
		小計（4科目）	—	4	0	0	—			0	0	0	0	0	兼3
	健康スポーツ科	健康・フィットネス理論実習	1後	1					○						兼2
		生涯スポーツ理論実習	1前	1					○						兼2
		小計（2科目）	—	2	0	0	—			0	0	0	0	0	兼4
	Ⅲ 英語科目	英語コミュニケーション科目	英語リスニング&スピーキング	1後	2					○					兼1
			英語リーディング&ライティング	1前	2					○					兼1
小計（2科目）			—	4	0	0	—			0	0	0	0	0	兼1
グローバル人材育成科目		グローバルスキル	2前	2					○						兼1
		アカデミック英語	2後	2					○						兼1
		小計（2科目）	—	4	0	0	—			0	0	0	0	0	兼1

教 育 課 程 等 の 概 要

（文化社会学部 ヨーロッパ・アメリカ学科）

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
IV 主専攻科目	初年次科目	入門ゼミナール1	2				○		2	3	3			
		入門ゼミナール2	2				○		2	3	3			
		小計（2科目）	—	4	0	0	—		2	3	3	0	0	
	基礎科目	ヨーロッパ・アメリカ概論		2		○			2	3	3			オムニバス
		小計（1科目）	—	0	2	0	—		2	3	3	0	0	
	地域	地中海地域研究A		2		○			1					
		地中海地域研究B		2		○					1			
		西ヨーロッパ地域研究A		2		○			1					
		西ヨーロッパ地域研究B		2		○					1			
		東ヨーロッパ地域研究A		2		○				1				
		東ヨーロッパ地域研究B		2		○								兼1
		アメリカ地域研究A		2		○								兼1
		アメリカ地域研究B		2		○			1					
		小計（8科目）	—	0	16	0	—		3	1	2	0	0	兼2
	源流	ギリシア・ローマ思想		2		○								兼1
		中世・ルネサンス論		2		○								兼1
		キリスト教入門		2		○			1					
		西洋の現代思想		2		○								兼1
		ヨーロッパの科学史		2		○								兼1
		原典を読む	1・2・3前・後	2		○					2			
		小計（6科目）	—	0	12	0	—		1	0	2	0	0	兼4
	多様性	ヨーロッパの都市と文化A		2		○					1			
		ヨーロッパの都市と文化B		2		○					1			
		比較文化論A	1・2前・後	2		○								兼2

教 育 課 程 等 の 概 要

（文化社会学部 ヨーロッパ・アメリカ学科）

科目 区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
IV 主専攻科目	多 様 性	比較文化論B	1・2・3前・後		2		○									兼2
		ヨーロッパとアメリカ	1・2・3前		2		○					1				兼1
		日本とヨーロッパ	1・2・3後		2		○						1			兼1
		日本とアメリカ	1・2・3後		2		○					1				
		民俗文化研究A	1・2後		2		○									兼1
		民俗文化研究B	1・2後		2		○									兼1
		スポーツ文化研究	1・2・3前		2		○									兼1
		小計（10科目）	—	0	20	0	—			0	2	2	0	0	兼5	
	文 字 ・ 芸 術 分 野	ギリシア・ローマの世界A	1・2・3前		4		○						1			
		ギリシア・ローマの世界B	1・2・3後		4		○									兼1
		ヨーロッパ芸術論A	1・2・3前・後		4		○				1					兼1
		ヨーロッパ芸術論B	1・2・3前・後		4		○				1					兼1
		西洋文学の世界A	1・2・3前		4		○						1			
		西洋文学の世界B	1・2・3後		4		○						1			
		小計（6科目）	—	0	24	0	—			1	0	2	0	0	兼2	
	宗 教 ・ 思 想 分 野	ギリシア・ローマの神話	1・2・3後		4		○						1			
		キリスト教文化	1・2・3後		4		○									兼1
		ヨーロッパ近代哲学	1・2・3後		4		○				1					兼1 オムニバス
		小計（3科目）	—	0	12	0	—			1	0	1	0	0	兼2	
	歴 史 ・ 社 会 分 野	ヨーロッパ民族問題	1・2・3後		4		○					1				
		西洋世界の形成	1・2・3前		4		○					2				
		ヨーロッパの戦争と文明	1・2・3前		4		○				1		1			オムニバス
		現代文化論	1・2・3前・後		4		○					1	1			
		マイノリティと社会	1・2・3後		4		○				1	1				兼1

教 育 課 程 等 の 概 要

（文化社会学部 ヨーロッパ・アメリカ学科）

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
IV 主専攻科目	分歴史・社会	アメリカ文化の諸相	1・2・3前	4		○			1	1				
		小計（6科目）	—	0	24	0	—		2	3	1	0	0	兼1
	特殊講義	ヨーロッパ・アメリカ特殊講義A	1・2・3・4前	2			○			1				
		ヨーロッパ・アメリカ特殊講義B	1・2・3・4前	2			○				1			
		ヨーロッパ・アメリカ特殊講義C	1・2・3・4後	2			○			2				
		ヨーロッパ・アメリカ特殊講義D	1・2・3・4後	2			○		2					
		小計（4科目）	—	0	8	0	—		2	3	1	0	0	
	卒業論文	基礎ゼミナール1	3前	2			○		2	3	3			
		基礎ゼミナール2	3後	2			○		2	3	3			
		卒業論文1	4前	4			○		2	3	3			
		卒業論文2	4後	4			○		2	3	3			
		小計（4科目）	—	12	0	0	—		2	3	3	0	0	
	実地研修	ヨーロッパ・アメリカ実地研修	1・2・3・4前・休	4		○								兼1
		小計（1科目）	—	0	4	0	—		0	0	0	0	0	兼1
	言語科目	イタリア語とイタリア文化1	1・2前	2				○						兼1
		イタリア語とイタリア文化2	1・2後	2				○						兼1
		ギリシア語入門1	1・2前	1				○						兼1
		ギリシア語入門2	1・2後	1				○						兼1
		ラテン語入門1	1・2前	1				○						兼1
		ラテン語入門2	1・2後	1				○						兼1
		東欧諸語	1・2前・後	2				○						兼2
		小計（7科目）	—	0	10	0	—		0	0	0	0	0	兼4
	学部教養科目	ことばの世界	1・2・3前	2		○								兼1
		知のフロンティア	1・2・3前・後	2		○								兼1
		基礎情報処理1	1・2前・後	2		○								兼1

教 育 課 程 等 の 概 要

（文化社会学部 ヨーロッパ・アメリカ学科）

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
IV 主専攻科目	学部教養科目	文章表現法	1・2後	2		○								兼3
	古文基礎	1・2・3前・後		2		○								兼1
	アラビア語入門1	1・2・3後		2				○						兼1
	トルコ語入門1	1・2・3後		2				○						兼1
	ヒンディー語入門1	1・2・3後		2				○						兼1
	ペルシア語入門1	1・2・3後		2				○						兼1
	小計（9科目）	—	0	18	0	—			0	0	0	0	0	兼10
	教職科目	東洋史概説	1・2・3前・後	4		○								兼1
	日本史概説	1・2・3前・後		4		○								兼2
	西洋史概説	1・2・3前・後		4		○								兼2
	自然地理学概論	1・2・3前・後		4		○								兼1
	人文地理学概論	1・2・3後		4		○								兼1
	地誌	1・2・3前・後		4		○								兼1
	法律学概論	1・2・3前・後		4		○								兼2
	政治学原論	1・2・3前		4		○								兼1
	社会学概論	1・2・3前・後		2		○								兼1
	経済学概論	1・2・3前		4		○								兼1
	哲学概論	1・2・3前・後		4		○								兼1
	宗教学概論	1・2・3前		4		○								兼1
	社会科・地理歴史科教育法1	3前			2	○								兼1
	社会科・地理歴史科教育法2	3後			2	○								兼1
	社会科教材論	3・4前			2	○								兼1
合計（96科目）		—	38	196	6	—			3	3	3	0	0	兼52

教 育 課 程 等 の 概 要														
(文化社会学部 ヨーロッパ・アメリカ学科)														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
学位又は称号	学士（文化社会学）		学位又は学科の分野			文学関係								
卒業要件及び履修方法						授業期間等								
以下の合計で124単位以上修得する。 (履修科目の登録の上限：24単位（1学期）） ☐科目区分Ⅰ現代文明論（必修科目） ☐科目区分Ⅱ現代教養科目（必修科目） ☐科目区分Ⅲ英語科目（必修科目） ☐科目区分Ⅳ主専攻科目 (必修科目)16単位修得 (選択科目)56単位修得 ☐科目区分Ⅳの余剰、他学部・他学科科目を修得した単位 2単位修得 12単位修得 8単位修得 72単位修得 30単位修得 合計124単位修得						1学年の学期区分			2学期					
						1学期の授業期間			15週					
						1時限の授業時間			90分					

教 育 課 程 等 の 概 要

（文化社会学部 北欧学科）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
Ⅰ 現代文明論	現代文明論	2前・後	2			○								兼1
	小計（1科目）	—	2	0	0	—			0	0	0	0	0	兼1
Ⅱ 現代教養科目	基礎教養科目													
	人文科学	1前	2			○								兼1
	社会科学	1後	2			○								兼1
	自然科学	1前	2			○								兼1
	小計（3科目）	—	6	0	0	—			0	0	0	0	0	兼3
	発展教養科目													
	シティズンシップ	1前	1			○								兼1
	ボランティア	1前	1			○								兼1
	地域理解	1後	1			○								兼1
	国際理解	1後	1			○								兼1
	小計（4科目）	—	4	0	0	—			0	0	0	0	0	兼3
	目健康スポーツ科													
	健康・フィットネス理論実習	1後	1					○						兼2
	生涯スポーツ理論実習	1前	1					○						兼2
	小計（2科目）	—	2	0	0	—			0	0	0	0	0	兼4
Ⅲ 英語科目	英語コミュニケーション科目													
	英語リスニング&スピーキング	1前	2					○						兼1
	英語リーディング&ライティング	1後	2					○						兼1
	小計（2科目）	—	4	0	0	—			0	0	0	0	0	兼1
	グローバル人材育成科目													
	グローバルスキル	2後	2					○						兼1
	アカデミック英語	2前	2					○						兼1
	小計（2科目）	—	4	0	0	—			0	0	0	0	0	兼1

教 育 課 程 等 の 概 要

（文化社会学部 北欧学科）

科目 区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
IV 主専攻科目	初年次科目	北欧入門セミナー	1前	2			○			3		3			兼2	オムニバス
		デンマーク概論	1前		2		○			1						
		スウェーデン概論	1前		2		○			1		1				
		ノルウェー概論	1前		2		○			1						
		フィンランド概論	1前		2		○			1		1				
		小計（5科目）	－	2	8	0	－			3	0	3	0	0	兼2	
	北欧歴史科目	北欧史概説	1・2前		4		○			2						
		デンマーク史	1・2後		2		○			1						
		スウェーデン史	1・2後		2		○			1		1				
		ノルウェー史	1・2後		2		○			1						
		フィンランド史	1・2後		2		○								兼1	
		小計（5科目）	－	0	12	0	－			2	0	1	0	0	兼1	
	北欧社会基盤科目	北欧ジェンダー論入門	1・2後		2		○					2				
		北欧の思想とアイデンティティ	1・2前		2		○					1			兼1	
		多文化社会としての北欧	1・2後		2		○			1						
		北欧の福祉概説	1・2前		2		○					2				
		北欧の自然と環境	1・2前		2		○			1						
		北欧文化論	1・2前		2		○					2			兼1	
		北欧のこどもと文化	1・2前		2		○					1				
		北欧文学の世界	1・2前		2		○					1				
		北欧児童文学入門	1・2後		2		○								兼1	
		北欧の神話	1・2後		2		○								兼1	
		小計（10科目）	－	0	20	0	－			2	0	3	0	0	兼3	

教 育 課 程 等 の 概 要

（文化社会学部 北欧学科）

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
IV 主専攻科目	北欧社会発展科目	北欧の女性と社会	2・3・4後	2		○					2			
		北欧の教育と学び	3・4前	2		○					1			兼1
		北欧における多文化共生	2・3・4後	2		○			1					
		北欧の福祉政策	3・4前	2		○					2			
		北欧の環境政策	3・4前	2		○			1					
		現代北欧社会論	3・4後	2		○			1		2			
		北欧文学の探究	3・4前	2		○								兼1
		北欧児童文学研究	2・3・4後	2		○					1			
		アイスランドのことばと文化	3・4前	2		○								兼1
		小計（9科目）	—	0	18	0	—		3	0	3	0	0	兼3
	北欧語導入科目	デンマーク語入門	1前	2				○						兼1
		スウェーデン語入門	1前	2				○			1			
		ノルウェー語入門	1前	2				○						兼1
		フィンランド語入門	1前	2				○	1					兼1
		小計（4科目）	—	0	8	0	—		1	0	1	0	0	兼3
	北欧語基礎科目	デンマーク語講読1	1・2後	4			○							兼1
		デンマーク語講読2	2・3前	4			○							兼1
		スウェーデン語講読1	1・2後	4			○				1			
		スウェーデン語講読2	2・3前	4			○							兼2
		ノルウェー語講読1	1・2後	4			○							兼1
		ノルウェー語講読2	2・3前	4			○							兼2
		フィンランド語講読1	1・2後	4			○							兼2
		フィンランド語講読2	2・3前	4			○							兼2
		小計（8科目）	—	0	32	0	—		0	0	1	0	0	兼9

教 育 課 程 等 の 概 要

（文化社会学部 北欧学科）

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
IV 主専攻科目	北 欧 語 中 級 科 目	デンマーク語表現演習	2・3後	4			○							兼1
		スウェーデン語表現演習	2・3後	4			○							兼2
		ノルウェー語表現演習	2・3後	4			○							兼2
		フィンランド語表現演習	2・3後	4			○							兼2
		小計（4科目）	—	0	16	0	—		0	0	0	0	0	兼7
	北 欧 語 上 級 科 目	北欧語特講A	3前	4		○								兼7
		北欧語特講B	3後	4		○								兼7
		小計（2科目）	—	0	8	0	—		0	0	0	0	0	兼7
	卒 業 研 究 科 目	北欧語研究セミナーA	4前	2			○		1		1			
		北欧語研究セミナーB	4後	2			○		1		1			
		北欧セミナーA	3前	2			○		3		3			
		北欧セミナーB	3後	2			○		3		3			
		卒業研究A	4前	4			○		3		3			
		卒業研究B	4後	4			○		3		3			
		小計（6科目）	—	0	16	0	—		3	0	3	0	0	
	現 地 研 修 科 目	北欧現地研修	2・3休	2			○				1			集中
		北欧現地研修事前演習	2・3前	2			○				1			
		小計（2科目）	—	0	4	0	—		0	0	1	0	0	
	学 部 教 養 科 目	ことばの世界	1・2・3前	2		○								兼1
		知のフロンティア	1・2・3前・後	2		○								兼1
		基礎情報処理1	1・2前・後	2		○								兼1
		文章表現法	1・2後	2		○								兼3
		古文基礎	1・2・3前・後	2		○								兼1
		アラビア語入門1	1・2・3後	2				○						兼1
		トルコ語入門1	1・2・3後	2				○						兼1

教 育 課 程 等 の 概 要															
(文化社会学部 北欧学科)															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
IV 主専攻科目	学部 教養科目	ヒンディー語入門1	1・2・3後		2				○						兼1
		ペルシア語入門1	1・2・3後		2				○						兼1
		ギリシア語入門1	1・2・3前		1				○						兼1
		ギリシア語入門2	1・2・3後		1				○						兼1
		ラテン語入門1	1・2前		1				○						兼1
		ラテン語入門2	1・2・3後		1				○						兼1
		東欧諸語	1・2・3前・後		2				○						兼2
		小計（14科目）	—	0	24	0	—			0	0	0	0	0	兼14
合計（83科目）		—	24	166	0	—			3	0	3	0	0	兼36	
学位又は称号	学士（文化社会学）			学位又は学科の分野				文学関係							
卒業要件及び履修方法									授業期間等						
以下の合計で124単位以上修得する。 (履修科目の登録の上限：24単位（1学期）） ☐科目区分Ⅰ現代文明論（必修科目） ☐科目区分Ⅱ現代教養科目（必修科目） ☐科目区分Ⅲ英語科目（必修科目） ☐科目区分Ⅳ主専攻科目 （必修科目）2単位修得 （選択必修科目）14単位修得 （選択科目）56単位修得 ☐科目区分Ⅳの余剰、他学部・他学科科目を修得した単位 合計124単位修得									1 学年の学期区分				2 学期		
									1 学期の授業期間				1 5 週		
									1 時限の授業時間				9 0 分		

教 育 課 程 等 の 概 要

（文化社会学部 文芸創作学科）

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
Ⅰ 現代文明論	現代文明論	2前・後	2			○								兼1
	小計（1科目）	—	2	0	0	—			0	0	0	0	0	兼1
Ⅱ 現代教養科目	基礎教養科目													
	人文科学	1前	2			○								兼1
	社会科学	1後	2			○								兼1
	自然科学	1前	2			○								兼1
	小計（3科目）	—	6	0	0	—			0	0	0	0	0	兼3
	発展教養科目													
	シティズンシップ	1前	1			○								兼1
	ボランティア	1前	1			○								兼1
	地域理解	1後	1			○								兼1
	国際理解	1後	1			○								兼1
	小計（4科目）	—	4	0	0	—			0	0	0	0	0	兼3
	目健康スポーツ科													
	健康・フィットネス理論実習	1前	1					○						兼2
	生涯スポーツ理論実習	1後	1					○						兼2
	小計（2科目）	—	2	0	0	—			0	0	0	0	0	兼4
Ⅲ 英語科目	英語コミュニケーション科目													
	英語リスニング&スピーキング	1後	2					○						兼1
	英語リーディング&ライティング	1前	2					○						兼1
	小計（2科目）	—	4	0	0	—			0	0	0	0	0	兼1
	育成グローバル人材													
	グローバルスキル	2前	2					○						兼1
	アカデミック英語	2後	2					○						兼1
	小計（2科目）	—	4	0	0	—			0	0	0	0	0	兼1

教 育 課 程 等 の 概 要

（文化社会学部 文芸創作学科）

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
IV 主専攻科目	学科導入科目	ストーリーを発見する	1前	2				○			1			
		文芸創作入門ワークショップ	1前	2				○	3	1				
		小計（2科目）	—	4	0	0	—		3	1	1	0	0	
	基礎科目	文学の遠近法（創作のための文学史）	1前		4		○				1			
		日本の古典を読む	1前		4		○		1					
		文芸批評入門	1前・後		4		○		1					
		世界の文学を読むA	1後		4		○				1			
		世界の文学を読むB	1・2前		4		○			1				
		人間とは何か（哲学入門）	1前		2		○		1					
		映画史入門	1前		4			○						兼2
		編集と出版	1後		2			○		1				
		日本の古典ワークショップ	2・3後		4			○		1				
		文章と表現	2・3前・後		2			○	2					
		演劇ワークショップ	2・3前		2			○						兼1
		民俗学入門	3前		2		○				1			
		小計（12科目）	—	0	38	0	—		4	1	1	0	0	兼2

教 育 課 程 等 の 概 要

（文化社会学部 文芸創作学科）

科目 区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
IV 主専攻科目	創作系科目	詩の技法	2・3前		2		○									兼1
		思春期文学とファンタジー	1・2前		4		○						1			
		現代文学のフロンティア	2・3後		4		○					1				
		小説で読む現代社会	2・3後		4		○				2					
		クリエイティヴ・ライティング 1	2・3前・後		2			○			1	1				
		エッセイを読む／書く	3・4後		2			○			2					
		クリエイティヴ・ライティング 2	2・3前・後		2			○			1	1				
		俳句ワークショップ	3・4前・後		2			○			2					
		詩をつくる／読む	3・4後		2			○			2					
		小計（9科目）	—	0	24	0	—			3	1	1	0	0	兼1	
	批評系科目	ノンフィクションを読む	2・3前		2		○				1	1				
		現代映画論	2・3後		4		○									兼2
		近現代文学～他者のゆくえ	2・3後		4		○				1					
		明治の文学～私の誕生	3・4前		4		○				1					
		文学とセクシュアリティ	3・4前		2		○									兼1
		読み換えの技法	3・4前		2			○				1				
		文学精読	3・4前・後		2			○			3		1			
		リーディング・ワークショップ	3・4後		4			○			1					
		小計（8科目）	—	0	24	0	—			5	1	1	0	0	兼3	
	編集系科目	サブカルチャーと文学	2・3前・後		2		○						1			
		編集ワークショップ	2・3前		2			○				1				
		童話の世界	2後・3前		2			○								兼1
		比較文学の楽しみ	3・4後		4		○				1					
		空想の美術館	3・4前		2		○									兼1
		デジタルメディアと文学A	3・4前		2		○									兼1

教 育 課 程 等 の 概 要

（文化社会学部 文芸創作学科）

科目 区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
IV 主専攻科目	編集系科目	デジタルメディアと文学B	3・4後		2		○								兼1
		小計（7科目）	—	0	16	0	—			1	1	1	0	0	兼3
	卒業制作科目	卒業制作ワークショップ1	3後		4			○		3	1	1			兼1
		卒業制作ワークショップ2	4前		4			○		3	1	1			兼1
		卒業制作ワークショップ3	4後		4			○		3	1	1			兼1
		小計（3科目）	—	0	12	0	—			3	1	1	0	0	兼1
	学部教養科目	ことばの世界	1・2・3前		2		○								兼1
		知のフロンティア	1・2・3前・後		2		○								兼1
		基礎情報処理1	1・2前・後		2		○								兼1
		文章表現法	1・2後		2		○								兼3
		古文基礎	1・2・3前・後		2		○								兼1
		アラビア語入門1	1・2・3後		2				○						兼1
		トルコ語入門1	1・2・3後		2				○						兼1
		ヒンディー語入門1	1・2・3後		2				○						兼1
		ペルシア語入門1	1・2・3後		2				○						兼1
		ギリシア語入門1	1・2・3前		1				○						兼1
		ギリシア語入門2	1・2・3後		1				○						兼1
		ラテン語入門1	1・2・3前		1				○						兼1
		ラテン語入門2	1・2・3後		1				○						兼1
		東欧諸語	1・2・3前・後		2				○						兼2
	小計（14科目）		—	0	24	0	—			0	0	0	0	0	兼13
合計（69科目）		—	26	138	0	—			5	1	1	0	0	兼31	

教 育 課 程 等 の 概 要														
(文化社会学部 文芸創作学科)														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
学位又は称号	学士（文化社会学）		学位又は学科の分野			文学関係								
卒 業 要 件 及 び 履 修 方 法						授 業 期 間 等								
以下の合計で124単位以上修得する。 (履修科目の登録の上限：24単位（1学期）） ☐科目区分Ⅰ 現代文明論（必修科目） ☐科目区分Ⅱ 現代教養科目（必修科目） ☐科目区分Ⅲ 英語科目（必修科目） ☐科目区分Ⅳ 主専攻科目 (必修科目) 4単位修得 (選択科目) 68単位修得 ☐科目区分Ⅳの余剰、他学部・他学科科目を修得した単位 合計124単位修得						1 学年の学期区分			2 学期					
						1 学期の授業期間			1 5 週					
						1 時限の授業時間			9 0 分					

教 育 課 程 等 の 概 要															
(文化社会学部 広報メディア学科)															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
Ⅰ 現代文明論	現代文明論	2前・後	2			○								兼1	
	小計（1科目）	－	2	0	0	－			0	0	0	0	0	兼1	
Ⅱ 現代教養科目	基礎教養科目	人文科学	1後	2			○							兼1	
		社会科学	1前	2			○							兼1	
		自然科学	1前	2			○							兼1	
		小計（3科目）	－	6	0	0	－			0	0	0	0	0	兼3
	発展教養科目	シティズンシップ	1後	1			○								兼1
		ボランティア	1後	1			○								兼1
		地域理解	1前	1			○								兼1
		国際理解	1前	1			○								兼1
		小計（4科目）	－	4	0	0	－			0	0	0	0	0	兼3
	健康スポーツ科	健康・フィットネス理論実習	1前	1					○						兼2
		生涯スポーツ理論実習	1後	1					○						兼2
		小計（2科目）	－	2	0	0	－			0	0	0	0	0	兼4
	Ⅲ 英語科目	英語コミュニケーション科目	英語リスニング&スピーキング	1前	2					○					兼1
			英語リーディング&ライティング	1後	2					○					兼1
小計（2科目）			－	4	0	0	－			0	0	0	0	0	兼1
グローバル人材育成科目		グローバルスキル	2後	2					○						兼1
		アカデミック英語	2前	2					○						兼1
		小計（2科目）	－	4	0	0	－			0	0	0	0	0	兼1

教 育 課 程 等 の 概 要

（文化社会学部 広報メディア学科）

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
IV 主専攻科目	広報メディア基礎演習	1前・後	2				○		8	2				オムニバス
	新聞・出版論	1前		4		○			1					
	放送論	1後		4		○			1					
	広報・広告論	1前		4		○			1					
	マス・コミュニケーション史	1後		4		○			1					
	メディア社会学	1前		4		○				1				
	メディア産業と倫理	1後		4		○			1					
	コンテンツ分析論	2前		4		○			1					
	プレゼンテーション実践	2前		4			○		1					
	メディア英語演習	2前・後		4			○		1					
	映像制作	2前・後		4			○		1					
	小計（11科目）	—	2	40	0	—			8	2	0	0	0	
メディアと社会	新聞報道論	1・2後		4		○			1					
	メディアと市民	2・3後		4		○			1					
	メディア・コミュニケーション論	2・3前		4		○			1					
	女性とメディア	2・3前		4		○			1					
	メディア文化と歴史	2・3後		4		○				1				
	出版文化史演習	1・2前		4			○			1				
	グローバル化とメディア	2・3前		4		○			1					
	スポーツとメディア	2・3前		4		○			1					
	小計（8科目）	—	0	32	0	—			5	2	0	0	0	

教 育 課 程 等 の 概 要

（文化社会学部 広報メディア学科）

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
IV 主専攻科目	広報の企画・戦略	PR・広告戦略演習	2・3前・後	4			○		1					
		Webメディア論	2・3後	4		○			1					
		企業広報論	2・3後	4		○			1					
		地域メディア論	2・3後	4		○			1					
		行政広報論	2・3前	4		○			1					
		広告デザイン企画	2・3前・後	4		○				1				
		小計（6科目）	—	0	24	0	—		2	1	0	0	0	
	メディアの制作・実践	マスコミ文章表現	2・3・4前・後	4			○			1				
		映像表現論	2・3・4後	4		○			1					
		雑誌編集技術	2・3・4後	4			○			1				
		マスコミ音声表現	2・3・4後	4			○		1					
		ラジオ番組制作	2・3・4前・後	4			○		1					
		プロデューサー実践	2・3・4前	4			○		1					
		小計（6科目）	—	0	24	0	—		2	1	0	0	0	
	卒業制作・研究	ゼミナールA	3前	4			○		8	2				
		ゼミナールB	3後	4			○		8	2				
		ゼミナールC	3前	4			○		8	2				
		ゼミナールD	3後	4			○		8	2				
		アドバンスゼミナール	3前・後	4			○		1					
		小計（5科目）	—	0	20	0	—		8	2	0	0	0	

教 育 課 程 等 の 概 要

（文化社会学部 広報メディア学科）

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
IV 主専攻科目	学部教養科目	ことばの世界	1・2・3前	2		○			1					
	知のフロンティア	1・2・3前・後		2		○			1					
	基礎情報処理 1	1・2前・後		2		○								兼1
	文章表現法	1・2後		2		○								兼3
	古文基礎	1・2・3前・後		2		○								兼1
	アラビア語入門 1	1・2・3後		2				○						兼1
	トルコ語入門 1	1・2・3後		2				○						兼1
	ヒンディー語入門 1	1・2・3後		2				○						兼1
	ペルシア語入門 1	1・2・3後		2				○						兼1
	ギリシア語入門 1	1・2・3前		1				○						兼1
	ギリシア語入門 2	1・2・3後		1				○						兼1
	ラテン語入門 1	1・2・3前		1				○						兼1
	ラテン語入門 2	1・2・3後		1				○						兼1
	東欧諸語	1・2・3前・後		2				○						兼2
	小計（14科目）	—	0	24	0	—			1	0	0	0	0	兼12
	教職科目	東洋史概説	1・2・3前・後	4		○								兼1
	日本史概説	1・2・3前・後		4		○								兼2
	西洋史概説	1・2・3前・後		4		○								兼2
	自然地理学概論	1・2・3前・後		4		○								兼1
	人文地理学概論	1・2・3後		4		○								兼1
	地誌	1・2・3前・後		4		○								兼1
	法律学概論	1・2・3前・後		4		○								兼2
	政治学原論	1・2・3前		4		○								兼1
	国際政治学	1・2・3後		4		○								兼1
	社会学概論	1・2・3前・後		2		○								兼1

教 育 課 程 等 の 概 要															
(文化社会学部 広報メディア学科)															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
IV 主専攻科目	教職科目	経済学概論	1・2・3前		4		○								兼1
		国際経済学	1・2・3前		4		○								兼1
		哲学概論	1・2・3前・後		4		○								兼1
		宗教学概論	1・2・3前		4		○								兼1
		国際法	1・2・3前		4		○								兼1
		社会科・公民科教育法1	3前			2	○								兼1
		社会科・公民科教育法2	3後			2	○								兼1
		社会科教材論	3・4前			2	○								兼1
		小計（18科目）	—	0	58	6	—		0	0	0	0	0	0	兼20
	合計（82科目）		—	24	222	6	—		8	2	0	0	0	0	兼44
学位又は称号		学士（文化社会学）			学位又は学科の分野			社会学・社会福祉学関係							
卒業要件及び履修方法								授業期間等							
以下の合計で124単位以上修得する。 (履修科目の登録の上限：24単位（1学期）） ☐科目区分Ⅰ現代文明論（必修科目） ☐科目区分Ⅱ現代教養科目（必修科目） ☐科目区分Ⅲ英語科目（必修科目） ☐科目区分Ⅳ主専攻科目 （必修科目）2単位修得 （選択科目）70単位修得 ☐科目区分Ⅳの余剰、他学部・他学科科目を修得した単位 2単位修得 12単位修得 8単位修得 72単位修得 30単位修得 合計124単位修得								1学年の学期区分		2学期					
								1学期の授業期間		15週					
								1時限の授業時間		90分					

教 育 課 程 等 の 概 要

（文化社会学部 心理・社会学科）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
Ⅰ 現代文明論	現代文明論	2前・後	2			○								兼1
	小計（1科目）	—	2	0	0	—			0	0	0	0	0	兼1
Ⅱ 現代教養科目	基礎教養科目													
	人文科学	1後	2			○								兼1
	社会科学	1後	2			○								兼1
	自然科学	1前	2			○								兼1
	小計（3科目）	—	6	0	0	—			0	0	0	0	0	兼3
	発展教養科目													
	シティズンシップ	1後	1			○								兼1
	ボランティア	1後	1			○								兼1
	地域理解	1前	1			○								兼1
	国際理解	1前	1			○								兼1
	小計（4科目）	—	4	0	0	—			0	0	0	0	0	兼3
	目健康スポーツ科													
	健康・フィットネス理論実習	1前	1					○						兼2
	生涯スポーツ理論実習	1後	1					○						兼2
	小計（2科目）	—	2	0	0	—			0	0	0	0	0	兼4
Ⅲ 英語科目	英語コミュニケーション科目													
	英語リスニング&スピーキング	1後	2					○						兼1
	英語リーディング&ライティング	1前	2					○						兼1
	小計（2科目）	—	4	0	0	—			0	0	0	0	0	兼1
	グローバル人材育成科目													
	グローバルスキル	2後	2					○						兼1
	アカデミック英語	2前	2					○						兼1
	小計（2科目）	—	4	0	0	—			0	0	0	0	0	兼1

教 育 課 程 等 の 概 要

（文化社会学部 心理・社会学科）

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
IV 主専攻科目	心理・社会学基礎科目	基礎ゼミナール1	2				○		5	5				
		心理学概論	4			○				1				
		社会学概論	4			○				1				
		基礎ゼミナール2	2				○		5	5				
		統計学		2		○			1					
		心理・社会学研究法		2		○			5	5				オムニバス
		小計（6科目）	—	12	4	0	—		5	5	0	0	0	
	心理・社会学共通科目	社会心理学概論		2		○			1					
		犯罪と非行の心理学		2		○								兼1
		身体論		2		○			1					
		ジェンダー論		2		○			1					
		コミュニティと社会支援		2		○			1					
		組織心理学		2		○			1					
		コミュニティ心理学		2		○				1				
		小計（7科目）	—	0	14	0	—		3	1	0	0	0	兼1
	社会学講義科目	現代社会とマスメディア		4		○			1					
		現代文化論		2		○				1				
		大衆行動論		2		○				1				
		セクシュアリティと社会		2		○			1					
		社会意識論		2		○			1					
		地域社会論		4		○			1					
		社会変動論		2		○				1				
		国際社会学		2		○				1				
		小計（8科目）	—	0	20	0	—		2	2	0	0	0	

教 育 課 程 等 の 概 要

（文化社会学部 心理・社会学科）

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
IV 主専攻科目	心理学講義科目	学習心理学	1・2後	2		○			1					
		認知心理学	2・3前	2		○								兼1
		学校心理学	1・2前	2		○			1					
		パーソナリティ論	1・2前・後	4		○				1				
		人間関係の心理	2・3前	4		○				1				
		ストレス心理学	2・3前	2		○								兼1
		発達心理学	2・3前	2		○				1				
		カウンセリング	2・3後	2		○				1				
		心理学研究法	2・3後	2		○								兼1
		家族関係論	2・3後	4		○				1				
		行動分析学	2・3前	2		○				1				
		教育心理学特講	1・2後	2		○			1					
		社会福祉学	2・3・4後	2		○								兼1
		精神医学	3・4前	2		○				1				
		脳と心	2・3・4後	2		○				1				
		心理実践職能論	2・3・4後	2		○				1				
		臨床心理学1	2・3前	2		○				1				
		臨床心理学2	2・3後	2		○				1				
		小計（18科目）	—	0	42	0	—		1	3	0	0	0	兼4

教 育 課 程 等 の 概 要

（文化社会学部 心理・社会学科）

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
IV 主専攻科目	心理・社会学研究法科目	心理・社会学文章表現法	2・3前・後	2			○		1					
		英文読解1	2・3前	1				○	1					
		英文読解2	2・3後	1				○		1				
		社会調査入門	2・3前	2		○			1					
		インタビュー調査演習	2・3前	2			○			1				
		心理学測定演習	2・3後	2			○							兼1
		心理学実験演習	2・3後	4			○			1				兼3 オムニバス
		心理アセスメント	2・3後	2			○		1					
		プロジェクト演習1	2・3・4前	2			○		1					
		プロジェクト演習2	2・3・4後	2			○		1					
		臨床ボランティア実習1	2・3前	2			○		1					
		臨床ボランティア実習2	2・3後	2			○		1					
		質問紙調査演習	2・3前・後	2			○			1				
		多変量解析	2後・3前	2			○			1				
		心理面接実習1	3・4前	2			○		1	2				
		心理面接実習2	3・4後	2			○		1	2				
		小計（16科目）	—	0	32	0	—	—	4	4	0	0	0	兼3
	心理・社会学演習科目	心理・社会学研究A	3前	2			○		5	5				
		心理・社会学研究B	3後	2			○		5	5				
		ゼミナール1	3前	2			○		5	5				
		ゼミナール2	3後	2			○		5	5				
		小計（4科目）	—	0	8	0	—	—	5	5	0	0	0	

教 育 課 程 等 の 概 要

（文化社会学部 心理・社会学科）

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
IV 主専攻科目	心理・社会学専門研究	ゼミナール 3	4前	2			○		5	5				
		卒業演習	4後	2			○		5	5				
		卒業論文	4後	4			○		5	5				
		小計（3科目）	—	0	8	0	—		5	5	0	0	0	
	学部教養科目	ことばの世界	1・2・3前	2		○								兼1
		知のフロンティア	1・2・3前・後	2		○								兼1
		基礎情報処理 1	1・2前・後	2		○								兼1
		文章表現法	1・2後	2		○								兼3
		古文基礎	1・2・3前・後	2		○								兼1
		アラビア語入門 1	1・2・3後	2				○						兼1
		トルコ語入門 1	1・2・3後	2				○						兼1
		ヒンディー語入門 1	1・2・3後	2				○						兼1
		ペルシア語入門 1	1・2・3後	2				○						兼1
		ギリシア語入門 1	1・2・3前	1				○						兼1
		ギリシア語入門 2	1・2・3後	1				○						兼1
		ラテン語入門 1	1・2・3前	1				○						兼1
		ラテン語入門 2	1・2・3後	1				○						兼1
		東欧諸語	1・2・3前・後	2				○						兼2
		小計（14科目）	—	0	24	0	—		0	0	0	0	0	兼13

教 育 課 程 等 の 概 要																
(文化社会学部 心理・社会学科)																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
IV 主専攻科目	教職科目	東洋史概説	1・2・3前・後		4		○								兼1	
		日本史概説	1・2・3前・後		4		○								兼2	
		西洋史概説	1・2・3前・後		4		○								兼2	
		自然地理学概論	1・2・3前・後		4		○								兼1	
		人文地理学概論	1・2・3後		4		○								兼1	
		地誌	1・2・3前・後		4		○								兼1	
		法律学概論	1・2・3前・後		4		○								兼2	
		政治学原論	1・2・3前		4		○								兼1	
		国際政治学	1・2・3後		4		○								兼1	
		経済学概論	1・2・3前		4		○								兼1	
		国際経済学	1・2・3前		4		○								兼1	
		哲学概論	1・2・3前・後		4		○								兼1	
		宗教学概論	1・2・3前		4		○								兼1	
		国際法	1・2・3前		4		○								兼1	
		社会科・公民科教育法 1	3前			2	○								兼1	
		社会科・公民科教育法 2	3後			2	○								兼1	
		社会科教材論	3・4前			2	○								兼1	
		小計（17科目）	—	0	56	6	—			0	0	0	0	0	兼19	
		合計（107科目）			—	34	208	6	—		5	5	0	0	0	兼49
		学位又は称号		学士（文化社会学）			学位又は学科の分野			社会学・社会福祉学関係						
卒業要件及び履修方法								授業期間等								
以下の合計で124単位以上修得する。 （履修科目の登録の上限：24単位（1学期）） ☐科目区分Ⅰ現代文明論（必修科目） ☐科目区分Ⅱ現代教養科目（必修科目） ☐科目区分Ⅲ英語科目（必修科目） ☐科目区分Ⅳ主専攻科目（必修科目） ☐科目区分Ⅳの余剰、他学部・他学科科目を修得した単位 12単位修得 60単位修得 30単位修得 合計124単位修得								1 学年の学期区分		2 学期						
								1 学期の授業期間		1 5 週						
								1 時限の授業時間		9 0 分						

教 育 課 程 等 の 概 要

（文学部 アジア文明学科）

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
Ⅰ 現代 文明 論	現代文明論 1	1前	2			○								兼4
	現代文明論 2	1後	2			○								兼1
	小計（2科目）	—	4	0	0	—			0	0	0	0	0	兼5
Ⅱ 現代 教養 科目	文理共通科目													
	生命と環境	1前・後		2		○								兼2
	文化と自然	1前・後		2		○								兼1
	構造と変化	1前・後		2		○								兼2
	アイデンティティと共生	1前・後		2		○								兼1
	知識とコミュニケーション	1前・後		2		○								兼1
	テクノロジーと社会	1前・後		2		○								兼2
	小計（6科目）	—	0	12	0	—			0	0	0	0	0	兼9
	体育科目													
	健康・フィットネス理論実習	1前	1					○						兼15
	生涯スポーツ理論実習	1後	1					○						兼7
	小計（2科目）	—	2	0	0	—			0	0	0	0	0	兼19
Ⅲ 英語 コミュニケーション	英語リスニング&スピーキング 1	1前	2					○						兼9
	英語リーディング&ライティング 1	1後	2					○						兼26
	英語リスニング&スピーキング 2	2前	2					○						兼9
	英語リーディング&ライティング 2	2後	2					○						兼29
	小計（4科目）	—	8	0	0	—			0	0	0	0	0	兼61

教 育 課 程 等 の 概 要

（文学部 アジア文明学科）

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
IV 主専攻科目	アジア文明研究の基礎	アジアの学び方1	1前・後	2				○		3	2			
		アジアの学び方2	2前・後	2				○		2				
		東アジア文明概論	1前		2		○			1				
		東南アジア文明概論	1前		2		○			1				
		南アジア文明概論	1前		2		○				1			
		西アジア文明概論	1前		2		○			1				
		小計（6科目）	—	4	8	0	—			3	3	0	0	0
	文明の成立と交流	アジアの世界遺産	1後		2		○			1				
		アジア文明交流史	3前		4		○			1				
		アジアの伝統美術	3後		4		○							兼1
		黄河・長江文明	2前		4		○							兼1
		インダス文明	2後		4		○							兼1
		古代メソポタミア文明	2前		4		○							兼1
		古代エジプト文明	2後		4		○				1			
		小計（7科目）	—	0	26	0	—			1	1	0	0	0

教 育 課 程 等 の 概 要

（文学部 アジア文明学科）

科目 区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
IV 主専攻科目	アジア文明の展開	東アジア文明の歴史	2後		4		○									兼1
		中華文明と東アジア	3前		4		○									兼1
		東アジアの文化と社会	3前		4		○			1						
		東南アジア諸文明の歴史	2後		4		○									兼1
		東南アジアの文化と社会	3前		4		○									兼1
		南アジア文明の歴史	2後		4		○				1					
		インドの思想と文芸	3後		4		○									兼1
		南アジアの文化と社会	3後		4		○				1					
		西アジア文明の歴史	2後		4		○			1						
		イスラム文明の展開	3後		4		○									兼1
		西アジアの文化と社会	3前		4		○									兼1
		小計（11科目）	—	0	44	0	—			2	1	0	0	0	兼5	
	近現代アジアと国際社会	国際社会のなかのアジア	2前		4		○			1						
		現代アジアの開発と社会	2後		4			○								兼1
		イスラム文明と現代世界	3後		4		○									兼1
		近現代東アジア論	3後		4		○			1						
		近現代東南アジア論	3後		4		○			1						
		近現代インド論	3後		4		○									兼1
		小計（6科目）	—	0	24	0	—			2	0	0	0	0	兼3	

教 育 課 程 等 の 概 要

（文学部 アジア文明学科）

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
IV 主専攻科目	調査とプレゼンテーション	アジア海外研修		4			○		1					
		アジア文明基礎演習		2			○		1	1				
		アジア文献諸語演習 A		4			○			2				兼1
		アジア文献諸語演習 B		4			○		1					
		アジア文献諸語演習 C		4			○		1					
		アジア文明セミナー 1	2				○		3	2				
		アジア文明セミナー 2	2				○		3	2				兼1
		卒業論文 1	4				○		3	2				
		卒業論文 2	4				○		3	2				
		小計（9科目）	—	12	18	0	—		3	3	0	0	0	兼2
	アジアの諸言語	アラビア語入門 1		2				○						兼1
		アラビア語入門 2		2				○						兼1
		ペルシア語入門 1		2				○						兼1
		ペルシア語入門 2		2				○						兼1
		トルコ語入門 1		2				○						兼1
		トルコ語入門 2		2				○						兼1
		ヒンディー語・ベンガル語入門 1		2				○						兼1
		ヒンディー語・ベンガル語入門 2		2				○						兼1
		サンスクリット語入門 1		1				○						兼1
		サンスクリット語入門 2		1				○						兼1
		古代諸語演習		4			○		1					
		小計（11科目）	—	0	22	0	—		1	0	0	0	0	兼5

教 育 課 程 等 の 概 要

（文学部 アジア文明学科）

科目 区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
Ⅳ 主専攻科目	文学部 共通科目	ことばの世界	1前		2		○								兼1
		知のフロンティア	2前・後		2		○								兼2
		基礎情報処理 1	1前・後		2		○								兼8
		小計（3科目）	—	0	6	0	—			0	0	0	0	0	兼11
	教科に 関する 科目	東洋史概説	1前・後		4		○								兼1
		日本史概説	1前・後		4		○								兼2
		西洋史概説	1前・後		4		○								兼1
		自然地理学概論	1前・後		4		○								兼1
		人文地理学概論	1後		4		○								兼1
		地誌	1前・後		4		○								兼2
		法律学概論	1前・後		4		○								兼2
		政治学原論	1前		4		○								兼1
		社会学概論	1前・後		2		○								兼2
		経済学概論	1前		4		○								兼1
		哲学概論	1前・後		4		○								兼1
		宗教学概論	1前		4		○								兼1
		小計（12科目）	—	0	46	0	—			0	0	0	0	0	兼15
	教職に 関する 科目	社会科・地歴科教育法 1	3前		2		○								兼1
		社会科・地歴科教育法 2	3後		2		○								兼1
		社会科教材論	3前		2		○								兼1
		小計（3科目）	—	0	6	0	—			0	0	0	0	0	兼1
合計（82科目）		—	30	212	0	—			3	3	0	0	0	兼76	

教 育 課 程 等 の 概 要															
(文学部 アジア文明学科)															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
学位又は称号	学士（文学）		学位又は学科の分野			文学関係									
卒業要件及び履修方法						授業期間等									
以下の合計で124単位以上修得する。 (履修科目の登録の上限：24単位（1学期）） ☐科目区分Ⅰ 現代文明論 (必修科目) : 4単位修得 ☐科目区分Ⅱ 現代教養科目：文理共通科目 (選択科目) : 6単位修得 体育科目 (必修科目) : 2単位修得 ☐科目区分Ⅲ 英語コミュニケーション科目 (必修科目) : 8単位修得 ☐科目区分Ⅳ 主専攻科目 (必修科目) : 16単位修得 (選択科目) : 46単位修得 ☐科目区分Ⅱ・Ⅳの余剰、他学部・他学科科目を修得した単位 : 42単位修得 合 計：124単位修得						1 学年の学期区分			2 学期						
						1 学期の授業期間			1 5 週						
						1 時限の授業時間			9 0 分						

教 育 課 程 等 の 概 要														
（文学部 ヨーロッパ文明学科）														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
Ⅰ 現代 文明 論	現代文明論 1	1前	2			○								兼4
	現代文明論 2	1後	2			○								兼1
	小計（2科目）	—	4	0	0	—			0	0	0	0	0	兼5
Ⅱ 現代 教養 科目	文理 共通 科目	生命と環境	1前・後		2		○							兼2
	文化と自然	1前・後			2		○							兼1
	構造と変化	1前・後			2		○							兼2
	アイデンティティと共生	1前・後			2		○							兼1
	知識とコミュニケーション	1前・後			2		○							兼1
	テクノロジーと社会	1前・後			2		○							兼2
	小計（6科目）	—	0	12	0	—			0	0	0	0	0	兼9
	体育 科目	健康・フィットネス理論実習	1前		1									兼15
	生涯スポーツ理論実習	1後			1									兼7
	小計（2科目）	—	2	0	0	—			0	0	0	0	0	兼19
Ⅲ 英語 コミュ ニケー ション	英語リスニング&スピーキング 1	1前	2					○						兼9
	英語リーディング&ライティング 1	1後	2					○						兼26
	英語リスニング&スピーキング 2	2前	2					○						兼9
	英語リーディング&ライティング 2	2後	2					○						兼29
	小計（4科目）	—	8	0	0	—			0	0	0	0	0	兼61

教 育 課 程 等 の 概 要														
（文学部 ヨーロッパ文明学科）														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
IV 主専攻科目	ヨーロッパ文明基礎	ヨーロッパ文明入門セミナー1	1前・後	2			○		3	1	3			
		ヨーロッパ文明入門セミナー2	1前・後	2			○		3	1	3			
		ヨーロッパ文明概論	1前	2		○			1					兼1
		原典と思索	1前・後	2		○			1					
		小計（4科目）	—	4	4	0	—		3	1	3	0	0	兼1
	地域研究	西ヨーロッパ地域研究A	1前	2		○								兼3
		西ヨーロッパ地域研究B	2・3後	2		○								兼2
		東ヨーロッパ地域研究A	1前	2		○								兼2
		東ヨーロッパ地域研究B	2・3後	2		○								兼1
		地中海地域研究A	1前	2		○			1					
		地中海地域研究B	2・3後	2		○					1			
		小計（6科目）	—	0	12	0	—		1	0	1	0	0	兼6
	ヨーロッパの文化	ギリシア・ローマの伝統A	2・3前	4		○					1			
		ギリシア・ローマの伝統B	3後	4		○								兼1
		ギリシア・ローマの神話	2・3後	4		○					1			
		ヨーロッパの形成	2・3後	4		○				1				
		キリスト教文化A	2・3前	4		○								兼1
		キリスト教文化B	3後	4		○								兼1
		ヨーロッパの都市と文化	2・3後	4		○					1			
		ヨーロッパ民俗文化論	2・3後	4		○								兼1
		ヨーロッパ比較文化論A	2・3前・後	4		○								兼2
		ヨーロッパ比較文化論B	3前・後	4		○								兼2
		ヨーロッパ芸術論A	2・3前・後	4		○			1					兼1
		ヨーロッパ芸術論B	3前・後	4		○								兼1

教 育 課 程 等 の 概 要															
(文学部 ヨーロッパ文明学科)															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
IV 主専攻科目	ヨーロッパの文化	ヨーロッパ文芸論	2・3後		4		○					1			
		ヨーロッパの言語と文化	2・3前		4		○					1			
		ヨーロッパ現代文化論	2・3後		4		○								兼1
		ヨーロッパスポーツ文化論	2・3前		4		○								兼1
		小計（16科目）	—	0	64	0	—			1	1	3	0	0	兼12
	ヨーロッパの思想	ギリシア・ローマの思想	2・3前		4		○								兼1
		キリスト教思想	2・3前		4		○								兼1
		ヨーロッパ近代論	2・3前		4		○								兼1
		ヨーロッパ近代哲学	2・3後		4		○			1					兼1 オムニバス
		ヨーロッパ近代科学	2・3前		4		○			1					兼1 オムニバス
		ヨーロッパ科学思想史	2・3後		4		○								兼1
		小計（6科目）	—	0	24	0	—			2	0	0	0	0	兼6
	国際政治	ヨーロッパ民族問題	2・3前		4		○								兼1
		ヨーロッパ統合論	2・3後		4		○								兼1
		ヨーロッパの戦争と文明	2・3前		4		○								兼1
		小計（3科目）	—	0	12	0	—			0	0	0	0	0	兼3
	古典語	ギリシア語入門 1	1前		1				○	1					
		ギリシア語入門 2	1後		1				○						兼1
		ラテン語入門 1	1前		1				○						兼1
		ラテン語入門 2	1後		1				○	1					
		小計（4科目）	—	0	4	0	—			2	0	0	0	0	兼2

教 育 課 程 等 の 概 要															
(文学部 ヨーロッパ文明学科)															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
IV 主専攻科目	主要近代語	イタリア語とイタリア文化 1	1前		2				○						兼1
		イタリア語とイタリア文化 2	1後		2				○						兼1
		ポーランド語入門	1前		2				○						兼1
		ハンガリー語入門	1後		2				○						兼1
		ブルガリア語入門	1後		2				○						兼1
		小計（5科目）	—	0	10	0	—			0	0	0	0	0	兼5
	卒業研究	ヨーロッパ文明セミナー 1	4前・後	2					○		3	1	3		
		ヨーロッパ文明セミナー 2	4前・後	2					○		2	1	2		
		卒業論文 1	4前・後	4					○		3	1	3		
		卒業論文 2	4前・後	4					○		2	1	2		
		小計（4科目）	—	12	0	0	—			3	1	3	0	0	0
	実地研修	ヨーロッパ実地研修	1前		4				○		1				
		小計（1科目）	—	0	4	0	—			1	0	0	0	0	0
	文学部 共通科目	ことばの世界	1前		2			○							兼1
		知のフロンティア	2前・後		2			○							兼2
		基礎情報処理 1	1前・後		2			○							兼8
		小計（3科目）	—	0	6	0	—			0	0	0	0	0	兼1

教 育 課 程 等 の 概 要																
(文学部 ヨーロッパ文明学科)																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
IV 主専攻科目	人文社会科学基礎論	東洋史概説	1前・後			4	○								兼1	
		日本史概説	1前・後			4	○								兼1	
		西洋史概説	1前・後			4	○								兼1	
		自然地理学概論	1前・後			4	○								兼1	
		人文地理学概論	1後			4	○								兼1	
		地誌	1前・後			4	○								兼2	
		法律学概論	1前・後			4	○								兼1	
		政治学原論	1前			4	○								兼1	
		社会学概論	1前・後			2	○								兼1	
		経済学概論	1前			4	○								兼1	
		哲学概論	1前・後			4	○								兼1	
		宗教学概論	1前			4	○								兼1	
		社会科・地歴科教育法 1	2・3前			2	○								兼1	
		社会科・地歴科教育法 2	2・3後			2	○								兼1	
		社会科教材論	2・3前			2	○								兼1	
		小計（15科目）		—	0	0	52	—			0	0	0	0	0	兼16
		合計（78科目）		—	30	152	52	—			3	1	3	0	0	兼82
学位又は称号	学士（文学）			学位又は学科の分野					文学関係							
卒業要件及び履修方法									授業期間等							
以下の合計で124単位以上修得する。 （履修科目の登録の上限：24単位（1学期）） □科目区分Ⅰ 現代文明論（必修科目）：4単位修得 □科目区分Ⅱ 現代教養科目：文理共通科目（選択科目）：6単位修得 																

教 育 課 程 等 の 概 要														
（文学部 アメリカ文明学科）														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
Ⅰ 現代 文明 論	現代文明論 1	1前	2			○								兼4
	現代文明論 2	1後	2			○								兼1
	小計（2科目）	—	4	0	0	—			0	0	0	0	0	兼5
Ⅱ 現代 教養 科目	文理 共通 科目	生命と環境	1前・後		2	○								兼2
	文化と自然	1前・後			2	○								兼1
	構造と変化	1前・後			2	○								兼2
	アイデンティティと共生	1前・後			2	○								兼1
	知識とコミュニケーション	1前・後			2	○								兼1
	テクノロジーと社会	1前・後			2	○								兼2
	小計（6科目）	—	0	12	0	—			0	0	0	0	0	兼9
	体育 科目	健康・フィットネス理論実習	1前		1			○						兼15
	生涯スポーツ理論実習	1後			1			○						兼7
	小計（2科目）	—	2	0	0	—			0	0	0	0	0	兼19
Ⅲ 英語 コミュ ニケー ション	英語リスニング&スピーキング 1	1前	2					○						兼9
	英語リーディング&ライティング 1	1後	2					○						兼26
	英語リスニング&スピーキング 2	2前	2					○						兼9
	英語リーディング&ライティング 2	2後	2					○						兼29
	小計（4科目）	—	8	0	0	—			0	0	0	0	0	兼61

教 育 課 程 等 の 概 要															
(文学部 アメリカ文明学科)															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
IV 主専攻科目	初期教育	アメリカ文明入門セミナー	1前・後	2				○		3	2	1			
		アメリカ文明概論	1前・後	2				○		1					
		文明の人類学 1	2・3前・後	2				○		1					
		文明の人類学 2	2・3前・後	2				○				1			
		北アメリカ文明史 1	1前		4			○				1			オムニバス
		北アメリカ文明史 2	1後		4			○		1					
		ラテンアメリカ文明史 1	1前		4			○		1					
		ラテンアメリカ文明史 2	1後		4			○							兼1
		小計（8科目）	—	8	16	0	—			3	2	1	0	0	兼1
	アメリカ比較研究	現代北アメリカの政治と社会	2・3前		4			○		1					
		現代ラテンアメリカの政治と社会	2・3後		4			○							兼1
		植民地時代の政治と社会	2・3前		4			○							兼1
		先史時代の政治と社会	2・3後		4			○							兼1
		北アメリカの思想と文化	2・3前		2			○			1				
		ラテンアメリカの思想と文化	2・3後		2			○		1					
		小計（6科目）	—	0	20	0	—			2	1	0	0	0	兼3
	地域間研究	北アメリカとラテンアメリカ	2・3前		4			○			1				
		アメリカとヨーロッパ	2・3後		2			○			1				
		アメリカとアジア	2・3前		2			○			1				
		小計（3科目）	—	0	8	0	—			0	2	0	0	0	
	北米研究	合衆国の人種と民族	3後		4			○			1				
		合衆国の社会問題	3後		4			○			1				
		北アメリカ文明の諸相A	3前		2			○							兼1
		北アメリカ文明の諸相B	3後		2			○		1					
		小計（4科目）	—	0	12	0	—			1	2	0	0	0	兼1

教 育 課 程 等 の 概 要														
（文学部 アメリカ文明学科）														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
IV 主専攻科目	中南米研究	中米の人種と民族	3前	2		○								兼1
		南米の人種と民族	3後	2		○			1					
		メソアメリカの諸文明	3前	4		○								兼1
		アンデス地域の諸文明	3後	4		○					1			
		マヤ文明	3後	4		○			1					
		アステカ文明	3後	4		○					1			
		インカ文明	3前	4		○			1					
		小計（7科目）	—	0	24	0	—		3	0	1	0	0	兼2
	特殊研究	アメリカ文明総合講座A	2・3前	2		○				1				
		アメリカ文明総合講座B	2・3後	2		○			1					
		アメリカ文明特殊研究A	2・3前	2		○			1					
		アメリカ文明特殊研究B	2・3後	2		○				1				
		小計（4科目）	—	0	8	0	—		2	2	0	0	0	
	フィールドワーク	資料整理演習	2・3後	2			○			1				
		野外調査演習	2・3前	2			○				1			
		北米実地研修	1前	4			○		1					
		中米実地研修	1前	4			○		1					
		南米実地研修	1前	4			○				1			
		小計（5科目）	—	0	16	0	—		2	1	1	0	0	
	卒業論文セミナー	アメリカ文明セミナー1	4前・後	2			○		3	2	1			
		アメリカ文明セミナー2	4前・後	2			○		3	2	1			
		アメリカ文明セミナー3	4前・後	2			○		3	2	1			
		アメリカ文明セミナー4	4前・後	2			○		3	2	1			
		小計（4科目）	—	8	0	0	—		3	2	1	0	0	

教 育 課 程 等 の 概 要															
(文学部 アメリカ文明学科)															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
IV 主専攻科目	外国語	アメリカ文明専門英語 1	1前・後	2					○						兼1
		アメリカ文明専門英語 2	1前・後	2					○						兼1
		アメリカ文明専門第二外国語 1	1前・後	2					○						兼1
		アメリカ文明専門第二外国語 2	1前・後	2					○						兼1
		アメリカ文明専門第二外国語 3	1前		2				○						兼1
		アメリカ文明専門第二外国語 4	1前		2				○						兼1
		小計（6科目）	－	8	4	0	－			0	0	0	0	0	兼5
	文学部 共通科目	ことばの世界	1前		2		○								兼1
		知のフロンティア	2前・後		2		○								兼2
		基礎情報処理 1	1前・後		2		○								兼8
		小計（3科目）	－	0	6	0	－			0	0	0	0	0	兼1
	教科に 関する科目・ 教職	東洋史概説	1前・後		4		○								兼1
		日本史概説	1前・後		4		○								兼1
		西洋史概説	1前・後		4		○								兼1
		自然地理学概論	1前・後		4		○								兼1
		人文地理学概論	1後		4		○								兼1
		地誌	1前・後		4		○								兼2
		法律学概論	1前・後			4	○								兼1
		政治学原論	1前			4	○								兼1
		社会学概論	1前・後		2		○								兼1
		経済学概論	1前			4	○								兼1
		哲学概論	1前・後			4	○								兼1
		宗教学概論	1前			4	○								兼1
		社会科・地歴科教育法 1	2・3前			2	○								兼1
		社会科・地歴科教育法 2	2・3後			2	○								兼1
		社会科教材論	2・3前			2	○								兼1
		小計（15科目）	－	0	26	26	－			0	0	0	0	0	兼16

教 育 課 程 等 の 概 要															
(文学部 アメリカ文学学科)															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
合計（76科目）		—	38	152	26	—			3	2	1	0	0	兼89	
学位又は称号	学士（文学）		学位又は学科の分野				文学関係								
卒業要件及び履修方法							授業期間等								
以下の合計で124単位以上修得する。 （履修科目の登録の上限：24単位（1学期））							1 学年の学期区分				2 学期				
□科目区分Ⅰ 現代文明論（必修科目）：4単位修得 □科目区分Ⅱ 現代教養科目：文理共通科目（選択科目）：6単位修得 体育科目（必修科目）：2単位修得 □科目区分Ⅲ 英語コミュニケーション科目（必修科目）：8単位修得 □科目区分Ⅳ 主専攻科目（必修科目）：24単位修得 （選択科目）：38単位修得 □科目区分Ⅱ・Ⅳの余剰、他学部・他学科学科目を修得した単位：42単位修得							1 学期の授業期間				1 5 週				
合 計：124単位修得							1 時限の授業時間				9 0 分				

教 育 課 程 等 の 概 要

（文学部 北欧学科）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
Ⅰ 現代文明論	現代文明論 1	1前	2			○								兼4
	現代文明論 2	1後	2			○								兼1
	小計（2科目）	—	4	0	0	—			0	0	0	0	0	兼5
Ⅱ 現代教養科目	文理共通科目													
	生命と環境	1前・後		2		○								兼2
	文化と自然	1前・後		2		○								兼1
	構造と変化	1前・後		2		○								兼2
	アイデンティティと共生	1前・後		2		○								兼1
	知識とコミュニケーション	1前・後		2		○								兼1
	テクノロジーと社会	1前・後		2		○								兼2
	小計（6科目）	—	0	12	0	—			0	0	0	0	0	兼9
	体育科目													
Ⅲ 英語コミュニケーション	健康・フィットネス理論実習	1前	1					○						兼15
	生涯スポーツ理論実習	1後	1					○						兼7
	小計（2科目）	—	2	0	0	—			0	0	0	0	0	兼19
	英語リスニング&スピーキング 1	1前	2					○						兼9
	英語リーディング&ライティング 1	1後	2					○						兼26
Ⅲ 英語コミュニケーション	英語リスニング&スピーキング 2	2前	2					○						兼9
	英語リーディング&ライティング 2	2後	2					○						兼29
	小計（4科目）	—	8	0	0	—			0	0	0	0	0	兼61

教 育 課 程 等 の 概 要

（文学部 北欧学科）

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
IV 主専攻科目	北欧導入科目	北欧入門セミナー	1前・後	2			○		1					
		デンマーク概論	1前		2		○		1					
		スウェーデン概論	1前		2		○		1					
		ノルウェー概論	1前		2		○							
		フィンランド概論	1前		2		○		1					
		小計（5科目）	—	2	8	0	—		3	0	0	0	0	
	北欧歴史系科目	デンマーク史	2・3後		4		○		1					
		スウェーデン史	2・3後		4		○		1					
		ノルウェー史	2・3後		4		○							
		フィンランド史	2・3後		4		○							兼1
		現代ヨーロッパと北欧	2・3後		4		○							
		小計（5科目）	—	0	20	0	—		2	0	0	0	0	兼1
	北欧社会系科目	北欧の女性と社会	2・3後		4		○							兼1
		北欧の教育・文化政策	2・3前		4		○							兼1
		北欧における多文化共生	2・3後		4		○		1					
		北欧の福祉	2・3前		4		○							兼1
		北欧の自然と環境	2・3後		4		○		1					
		北欧の外交と国際貢献	3前		4		○							
		小計（6科目）	—	0	24	0	—		1	0	0	0	0	兼2
	北欧文科系科目	北欧文化論	2・3前		4		○		1					
		北欧文学の世界	2・3前		4		○				1			
		北欧の児童文学	2・3後		4		○		1					
		アイスランドのことばと文化	2・3前		4		○		1					
		北欧神話研究	3後		4		○		1					
		小計（5科目）	—	0	20	0	—		2	0	1	0	0	

教 育 課 程 等 の 概 要

（文学部 北欧学科）

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
IV 主専攻科目	デンマーク語入門	1前		2				○	1					
	スウェーデン語入門	1前		2				○						兼1
	ノルウェー語入門	1前		2				○	1					
	フィンランド語入門	1前		2				○	1					兼1 オムニバース
	デンマーク語講読1	2・3後		4		○			1					
	スウェーデン語講読1	2・3後		4		○					1			
	ノルウェー語講読1	2・3後		4		○			1					
	フィンランド語講読1	2・3後		4		○								兼2 オムニバース
	デンマーク語講読2	2・3前		4		○								兼1
	スウェーデン語講読2	2・3前		4		○								兼2 オムニバース
	ノルウェー語講読2	2・3前		4		○								兼2 オムニバース
	フィンランド語講読2	2・3前		4		○								兼2 オムニバース
	デンマーク語表現演習	3後		4		○								兼1
	スウェーデン語表現演習	3後		4		○								兼2 オムニバース
	ノルウェー語表現演習	3後		4		○								兼2 オムニバース
	フィンランド語表現演習	3後		4		○								兼2 オムニバース
	北欧語特講A	3前		4		○								兼7 オムニバース
	北欧語特講B	3後		4		○								兼7 オムニバース
	北欧語海外研修	2・3前		2		○			1					
	北欧語海外研修事前演習	2・3前		2			○		1					
	小計（20科目）	—	0	68	0	—			3	0	1	0	0	兼9

教 育 課 程 等 の 概 要																
(文学部 北欧学科)																
科目 区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
Ⅳ 主専攻科目	北欧卒業研究科目	北欧語研究セミナーA	4前		2			○		5		1				
		北欧語研究セミナーB	4後		2			○		5		1				
		北欧セミナーA	4前		2			○		5		1				
		北欧セミナーB	4後		2			○		5		1				
		卒業研究A	4前		4			○		5		1				
		卒業研究B	4後		4			○		5		1				
		小計（6科目）	—	0	16	0	—			5	0	1	0	0		
	文学部 共通科目	ことばの世界	1前		2		○									兼1
		知のフロンティア	2前・後		2		○									兼2
		基礎情報処理 1	1前・後		2		○									兼8
		小計（3科目）	—	0	6	0	—			0	0	0	0	0	兼11	
	合計（61科目）			—	16	174	0	—			5	0	1	0	0	兼69
	学位又は称号	学士（文学）			学位又は学科の分野				文学関係							
卒業要件及び履修方法									授業期間等							
以下の合計で124単位以上修得する。 （履修科目の登録の上限：24単位（1学期））									1学年の学期区分				2学期			
□科目区分Ⅰ 現代文明論（必修科目）：4単位修得 □科目区分Ⅱ 現代教養科目：文理共通科目（選択科目）：6単位修得 体育科目（必修科目）：2単位修得									1学期の授業期間				15週			
□科目区分Ⅲ 英語コミュニケーション科目（必修科目）：8単位修得 □科目区分Ⅳ 主専攻科目（必修科目）：2単位修得 （選択科目）：60単位修得 □科目区分Ⅱ・Ⅳの余剰、他学部・他学科科目を修得した単位：42単位修得									1時限の授業時間				90分			
合 計：124単位修得																

教 育 課 程 等 の 概 要														
（文学部 文芸創作学科）														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
Ⅰ 現代 文明 論	現代文明論 1	1前	2			○								兼4
	現代文明論 2	1後	2			○								兼1
	小計（2科目）	—	4	0	0	—			0	0	0	0	0	兼5
Ⅱ 現代 教養 科目	文理 共通 科目	生命と環境	1前・後		2		○							兼2
	文化と自然	1前・後		2		○								兼1
	構造と変化	1前・後		2		○								兼2
	アイデンティティと共生	1前・後		2		○								兼1
	知識とコミュニケーション	1前・後		2		○								兼1
	テクノロジーと社会	1前・後		2		○								兼2
	小計（6科目）	—	0	12	0	—			0	0	0	0	0	兼9
	体育 科目	健康・フィットネス理論実習	1前	1				○						兼15
	生涯スポーツ理論実習	1後	1					○						兼7
	小計（2科目）	—	2	0	0	—			0	0	0	0	0	兼19
Ⅲ 英語 コミュニケーション	英語リスニング&スピーキング 1	1前	2					○						兼9
	英語リーディング&ライティング 1	1後	2					○						兼26
	英語リスニング&スピーキング 2	2前	2					○						兼9
	英語リーディング&ライティング 2	2後	2					○						兼29
	小計（4科目）	—	8	0	0	—			0	0	0	0	0	兼61

教 育 課 程 等 の 概 要

（文学部 文芸創作学科）

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
IV 主専攻科目	導入科目	文学のユニヴァース	1前・後	2			○		1					
		文芸創作入門ゼミ	1前・後	2				○	2	1	1			
		小計（2科目）	—	4	0	0	—		1	1	1	0	0	
	文章系科目	文章と表現	2・3前		2		○		1					
		創作表現1	2・3前		2		○		1	1				
		創作表現2	3後		2		○			1				
		エッセイを読む／書く	3後		2		○		2					
		小計（4科目）	—	0	8	0	—		2	1	1	0	0	
	文学系基幹科目	文学の遠近法（創作のための文学史）	1前		4		○				1			
		日本の古典を読むA	1前		4		○		1					
		日本の古典を読むB	1後		4		○			1				
		世界の文学を読むA	2・3後		4		○				1			兼1
		世界の文学を読むB	2・3前		4		○			1				兼1
		現代文学の展望	2・3後		4		○		1					
		現代小説論	2・3後		4		○		1					
		近代文学論	2・3後		4		○		1					
		江戸・明治の文学を読む	3前		4		○		1					
		外国文学の探究A	3前		4		○				1			
		外国文学の探究B	3後		4		○		1					
		文学精読	3前		2		○		3					
		翻訳文学論	3前		4		○		1					
		小計（13科目）	—	0	50	0	—		5	1	1	0	0	兼1

教 育 課 程 等 の 概 要

（文学部 文芸創作学科）

科目 区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
IV 主専攻科目	批評系科目	人間とは何か（哲学入門）	1前		2		○				1						
		文芸批評入門	1前・後		4		○				1						
		批評の役割	2・3前		4		○					1					
		民俗学入門	2・3前		2		○						1				
		コンピュータと文学A	2・3前		2		○										兼1
		コンピュータと文学B	3後		2		○										兼1
		編集と出版	3後		2		○										兼1
		小計（7科目）	－	0	18	0	－			1	1	1	0	0		兼2	
	芸術系科目	映画史入門	1前		4		○										兼2
		詩学入門	1前		2		○										兼1
		現代映画論	2・3後		4		○										兼2
		詩論と作品	2・3後		2		○										兼1
		俳句を読む／つくる	3前		2		○				2						
		文学とセクシュアリティ	3前		2		○										兼1
		演劇入門	2・3後		2		○										兼1
		空想の美術館	3前		2		○										兼1
		小計（8科目）	－		20		－			2	0	0	0	0		兼2	
	卒業制作科目	創作演習	4後		4				○		5	1	1				
		創作ワークショップ	4後		4				○		5	1	1				
		小計（2科目）	－		30		－			5	1	1	0	0			
	文学部共通科目	ことばの世界	1前		2		○										兼1
		知のフロンティア	2前・後		2		○										兼2
		基礎情報処理 1	1前・後		2		○										兼8
		小計（3科目）	－	0	6	0	－									兼9	
合計（50科目）		－	18	144	0	－			5	1	1	0	0		兼65		

教 育 課 程 等 の 概 要														
(文学部 文芸創作学科)														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
学位又は称号	学士（文学）		学位又は学科の分野			文学関係								
卒業要件及び履修方法						授業期間等								
以下の合計で124単位以上修得する。 (履修科目の登録の上限：24単位（1学期）） ☐科目区分Ⅰ 現代文明論 (必修科目) : 4単位修得 ☐科目区分Ⅱ 現代教養科目：文理共通科目 (選択科目) : 6単位修得 体育科目 (必修科目) : 2単位修得 ☐科目区分Ⅲ 英語コミュニケーション科目 (必修科目) : 8単位修得 ☐科目区分Ⅳ 主専攻科目 (必修科目) : 4単位修得 (選択科目) : 58単位修得 ☐科目区分Ⅱ・Ⅳの余剰、他学部・他学科科目を修得した単位 : 42単位修得 合 計 : 124単位修得 <td colspan="3">1 学年の学期区分</td> <td colspan="3">2 学期</td>						1 学年の学期区分			2 学期					
						1 学期の授業期間			1 5 週					
						1 時限の授業時間			9 0 分					

教 育 課 程 等 の 概 要														
（文学部 広報メディア学科）														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
Ⅰ 現代文明論	現代文明論 1	1前	2			○								兼4
	現代文明論 2	1後	2			○								兼1
	小計（2科目）	—	4	0	0	—			0	0	0	0	0	兼5
Ⅱ 現代教養科目	文理共通科目													
	生命と環境	1前・後		2		○								兼2
	文化と自然	1前・後		2		○								兼1
	構造と変化	1前・後		2		○								兼2
	アイデンティティと共生	1前・後		2		○								兼1
	知識とコミュニケーション	1前・後		2		○								兼1
	テクノロジーと社会	1前・後		2		○								兼2
	小計（6科目）	—	0	12	0	—			0	0	0	0	0	兼9
	体育科目													
	健康・フィットネス理論実習	1前	1					○						兼15
	生涯スポーツ理論実習	1後	1					○						兼7
	小計（2科目）	—	2	0	0	—			0	0	0	0	0	兼19
Ⅲ 英語コミュニケーション	英語リスニング&スピーキング 1	1前	2					○						兼9
	英語リーディング&ライティング 1	1後	2					○						兼26
	英語リスニング&スピーキング 2	2前	2					○						兼9
	英語リーディング&ライティング 2	2後	2					○						兼29
	小計（4科目）	—	8	0	0	—			0	0	0	0	0	兼61

教 育 課 程 等 の 概 要

（文学部 広報メディア学科）

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
IV 主専攻科目	広報メディア基礎	広報メディア基礎演習	1前・後	2				○		1	1			
		新聞・出版論	1前		4		○			1				
		放送論	1後		4		○				1			
		広報・広告論	1前		4		○			1				
		マス・コミュニケーション史	1後		4		○			1				
		メディア社会学	2前		4		○				1			
		広報メディア・フィールドリサーチ	2後		2			○		1				
		広報メディア・アクションリサーチ	2前		2			○		1				
		小計（8科目）	—	2	24	0	—			3	2	0	0	0
	報道	新聞報道論	2後		4		○			1				
		放送ジャーナリズム論	2前		4		○				1			
		ドキュメンタリー論	2後		4		○				1			
		女性とメディア	3前		4		○				1			
		メディア・コミュニケーション論	3前		4		○			1				
		マスコミ文章表現	3後		4			○			1			
		ジャーナリズム英語	3前		4			○			1			
		小計（7科目）	—	0	28	0	—			2	2	0	0	0

教 育 課 程 等 の 概 要

（文学部 広報メディア学科）

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
IV 主専攻科目	生活・エンタテインメント情報	エンタテインメントメディア論	2後	4		○			1					
		雑誌メディア論	2前	4		○			1					
		スポーツ・メディア論	2後	4		○			1					
		映像表現論	2後	4		○			1					
		地域メディア論	2後	4		○			1					
		Webメディア論	2後	4		○			1					
		番組・CM分析論	3前	4			○		1					
		視聴者行動論	3前	4		○			1					
		コミュニケーション調査法	3前	4			○		1					
		プロデューサー実務	3前	4			○		1					
		テレビ番組制作	3前・後	4			○		1					
		ラジオ番組制作	3前・後	4			○		1					
		マスコミ音声表現	3前	4			○		1					
		雑誌編集技術	3後	4			○			1				
		小計（14科目）	—	0	56	0	—		6	1	0	0	0	
P R ・ 広 告		PR・広告戦略論	2後	4		○			1					
		行政広報論	2前	4		○			1					
		企業広報論	2後	4		○			1					
		プレゼンテーション基礎	2前	2			○		1					
		プレゼンテーション応用	3前	2			○		1					
		広報・広告企画	3前	4		○				1				
		広告表現	3後	4		○				1				
		CM制作	3後	4			○		1					
		小計（8科目）	—	0	28	0	—		2	1	0	0	0	

教 育 課 程 等 の 概 要

（文学部 広報メディア学科）

科目 区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
IV 主専攻科目	ゼミナール	ゼミナールA	3前		4			○		9	2				
		ゼミナールB	3後		4			○		9	2				
		ゼミナールC	3前		4			○		9	2				
		ゼミナールD	3後		4			○		9	2				
		ゼミナールE	3前		4			○		9	2				
		小計（5科目）	—	0	20	0	—			9	2	0	0	0	
	文学部 共通科目	ことばの世界	1前		2		○								兼1
		知のフロンティア	2前・後		2		○								兼2
		基礎情報処理 1	1前・後		2		○								兼8
		小計（3科目）	—	0	6	0	—			0	0	0	0	0	兼11

教 育 課 程 等 の 概 要

（文学部 広報メディア学科）

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
IV 主専攻科目	教職	東洋史概説	1前・後	4		○								兼1
	日本史概説	1前・後		4		○								兼2
	西洋史概説	1前・後		4		○								兼1
	自然地理学概論	1前・後		4		○								兼1
	人文地理学概論	1後		4		○								兼1
	地誌	1前・後		4		○								兼2
	法律学概論	1前・後		4		○								兼2
	政治学原論	1前		4		○								兼1
	国際政治学	1後		4		○								兼2
	社会学概論	1前・後		2		○								兼2
	経済学概論	1前		4		○								兼1
	国際経済学	1前		4		○								兼1
	哲学概論	1前・後		4		○								兼1
	宗教学概論	1前		4		○								兼1
	国際法	1前		4		○								兼1
	社会科・公民科教育法 1	3前		2		○								兼1
	社会科・公民科教育法 2	3後		2		○								兼1
	社会科教材論	3前		2		○								兼1
	小計（18科目）	—	0	64	0	—			0	0	0	0	0	兼20
合計（77科目）		—	16	238	0	—			9	2	0	0	0	兼64

教 育 課 程 等 の 概 要														
(文学部 広報メディア学科)														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
学位又は称号	学士（文学）		学位又は学科の分野			社会学・社会福祉学関係								
卒業要件及び履修方法						授業期間等								
以下の合計で124単位以上修得する。 (履修科目の登録の上限：24単位（1学期）） ☐科目区分Ⅰ 現代文明論（必修科目） ☐科目区分Ⅱ 現代教養科目：文理共通科目（選択科目） ☐科目区分Ⅲ 英語コミュニケーション科目（必修科目） ☐科目区分Ⅳ 主専攻科目（必修科目） ☐科目区分Ⅱ・Ⅳの余剰、他学部・他学科科目を修得した単位 合計：124単位修得						1 学年の学期区分			2 学期					
						1 学期の授業期間			1 5 週					
						1 時限の授業時間			9 0 分					

教 育 課 程 等 の 概 要

（文学部 心理・社会学科）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
Ⅰ 現代文明論	現代文明論 1	1前	2			○								兼4
	現代文明論 2	1後	2			○								兼1
	小計（2科目）	—	4	0	0	—			0	0	0	0	0	兼5
Ⅱ 現代教養科目	文理共通科目													
	生命と環境	1前・後		2		○								兼2
	文化と自然	1前・後		2		○								兼1
	構造と変化	1前・後		2		○								兼2
	アイデンティティと共生	1前・後		2		○								兼1
	知識とコミュニケーション	1前・後		2		○								兼1
	テクノロジーと社会	1前・後		2		○								兼2
	小計（6科目）	—	0	12	0	—			0	0	0	0	0	兼9
	体育科目													
Ⅲ 英語コミュニケーション	健康・フィットネス理論実習	1前	1					○						兼15
	生涯スポーツ理論実習	1後	1					○						兼7
	小計（2科目）	—	2	0	0	—			0	0	0	0	0	兼19
	英語リスニング&スピーキング 1	1前	2					○						兼9
	英語リーディング&ライティング 1	1後	2					○						兼26
Ⅲ 英語コミュニケーション	英語リスニング&スピーキング 2	2前	2					○						兼9
	英語リーディング&ライティング 2	2後	2					○						兼29
	小計（4科目）	—	8	0	0	—			0	0	0	0	0	兼61

教 育 課 程 等 の 概 要

（文学部 心理・社会学科）

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
IV 主専攻科目	心理・社会学基礎科目	心理・社会学基礎ゼミ 1	1前・後	2			○		6	5				
		心理学概論	1前・後	4		○				1				
		社会学概論	1前・後	4		○				1				
		心理・社会学基礎ゼミ 2	2・3前	2			○		6	5				
		統計学	2・3前・後	2		○			1					
		小計（5科目）	—	10	4	0	—		6	5	0	0	0	
	心理学講義演習科目	社会心理学概論	1前	2		○			1					
		パーソナリティ論	1前・後	4		○				1				
		学習心理学	1後	2		○			1					
		認知心理学	1前	2		○								兼1
		発達心理学	1前	2		○				1				
		学校心理学	1前	2		○			1					
		犯罪と非行の心理学	1後	2		○								兼1
		カウンセリング	2・3後	2		○				1				
		人間関係の心理	2・3前	4		○				1				
		ストレス心理学	2・3前	2		○								兼1
		心理学研究法	2・3後	2		○								兼1
		現代人の暮らしといのち	2・3後	2		○								兼1
		家族関係論	2・3後	4		○				1				
		行動分析学	2・3前	2		○				1				
		教育心理学特講	2・3後	2		○			1					
		臨床心理学 1	3前	2		○				1				
		臨床心理学 2	3後	2		○				1				

教 育 課 程 等 の 概 要

（文学部 心理・社会学科）

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
IV 主専攻科目	心理学講義演習科目	社会福祉学	3前	2		○								兼1
		心理実践職能論	3後	2		○				1				
		ジェンダーの心理学	3前	2		○			1					
		脳と心	3後	2		○				1				
		精神医学	3前	2		○				1				
		組織心理学	3前	2		○			1					
		人間関係と自己	3前	2		○								兼1
		コミュニティ心理学	3前	2		○				1				
		臨床ボランティア実習1	2・3前	2			○		1					
		臨床ボランティア実習2	2・3後	2			○		1					
		心理面接実習1	3前	2			○		1	2				
		心理面接実習2	3後	2			○		1	2				
		小計（29科目）	—	0	64	0			4	3	0	0	0	兼4
	社会学講義演習科目	現代社会とマスメディア	1前	4		○			1					
		現代文化論	1後	4		○				1				
		コミュニティと社会支援	2・3前	4		○			1					
		ジェンダーの社会学	2・3後	2		○			1					
		大衆行動論	2・3前	4		○				1				
		政治とマスメディア	2・3前	4		○			1					
		日本社会の変動	3後	4		○				1				
		地域社会論	3後	4		○			1					
		社会意識論	3前	4		○			1					
		小計（9科目）	—	0	34	0			3	1	0	0	0	

教 育 課 程 等 の 概 要

（文学部 心理・社会学科）

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
IV 主専攻科目	心理・社会学研究技法科目	社会調査入門		4		○			1					
		心理学測定演習		2			○							兼1
		心理アセスメント		2			○		1					
		心理学実験演習		4			○			1				兼3
		内容分析演習		2			○		1					
		インタビュー調査演習		4			○			1				
		プロジェクト演習1		2			○		1					
		プロジェクト演習2		2			○		1					
		質問紙調査演習1		2			○			1				
		質問紙調査演習2		2			○			1				
		文章表現法基礎		2		○								兼1
		文章表現法上級		2		○								兼1
		専門英語		2		○				1				
		小計（13科目）	—	0	32	0			4	4	0	0	0	兼3
	心理・社会学研究科目	心理・社会学研究A		2			○		6	5				
		心理・社会学研究B		2			○		6	5				
		ゼミナール1		2			○		6	5				
		ゼミナール2		2			○		6	5				
		ゼミナール3		2			○		6	5				
		卒業演習		2			○		6	5				
		卒業論文		4			○		6	5				
		小計（7科目）	—	0	16	0			6	5	0	0	0	

教 育 課 程 等 の 概 要

（文学部 心理・社会学科）

科目 区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
IV 主専攻科目	文学部 共通科目	ことばの世界	1前		2		○								兼1
		知のフロンティア	2前・後		2		○								兼2
		基礎情報処理 1	1前・後		2		○								兼8
		小計（3科目）	—	0	6	0	—			0	0	0	0	0	兼11
	教科に 関する科目	東洋史概説	1前・後			4	○								兼1
		日本史概説	1前・後			4	○								兼2
		西洋史概説	1前・後			4	○								兼2
		自然地理学概論	1前・後			4	○								兼1
		人文地理学概論	1後			4	○								兼1
		地誌	1前・後			4	○								兼1
		法律学概論	1前・後			4	○								兼2
		政治学原論	1前			4	○								兼1
		国際政治学	1後			4	○								兼1
		経済学概論	1前			4	○								兼1
		国際経済学	1前			4	○								兼1
		哲学概論	1前・後			4	○								兼1
		宗教学概論	1前			4	○								兼1
		国際法	1前			4	○								兼1
		社会科・公民科教育法 1	2・3前			2	○								兼1
		社会科・公民科教育法 2	2・3後			2	○								兼1
		社会科教材論	2・3前			2	○								兼1
		小計（17科目）	—			62									兼19
合計（94科目）		—	24	168	62	—			6	5	0	0	0	兼81	

教 育 課 程 等 の 概 要														
(文学部 心理・社会学科)														
科目 区分	授業科目の名称	配当年度	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
学位又は称号	学士（文学）		学位又は学科の分野			社会学・社会福祉学関係								
卒業要件及び履修方法						授業期間等								
以下の合計で124単位以上修得する。 （履修科目の登録の上限：24単位（1学期））						1 学年の学期区分				2 学期				
□科目区分Ⅰ 現代文明論（必修科目）：4単位修得						1 学期の授業期間				1 5 週				
□科目区分Ⅱ 現代教養科目：文理共通科目（選択科目）：6単位修得 体育科目（必修科目）：2単位修得														
□科目区分Ⅲ 英語コミュニケーション科目（必修科目）：8単位修得						1 時限の授業時間				9 0 分				
□科目区分Ⅳ 主専攻科目（必修科目）：10単位修得 （選択科目）：52単位修得														
□科目区分Ⅱ・Ⅳの余剰、他学部・他学科科目を修得した単位：42単位修得														
合 計：124単位修得														

授 業 科 目 の 概 要			
（文化社会学部 アジア学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
I 現代 文明 論	現代文明論	この科目は東海大学に学ぶすべての学生が、建学の精神を理解し自らの思想を培うために開講される。すなわち歴史や世界への見識を高め、人類社会のあり方を見直すことを通じて、地球規模で深刻化する困難な事態にあっても、時代を開拓しようとする力強い思考や意欲を養うことを目的としている。理系、文系の枠を超えて、現代の課題の根源を探るために不可欠な歴史的・系譜的な認識を深め、それを多様な角度から読み解く思考法を身につけるとともに、人間的価値に基づいた倫理観によって未来を選択しうることを学ぶ。	
II 現代 教養 科目	基礎 教養 科目		
	人文科学	人間は長い歴史の中で多くのことを考え、様々なものを生み出してきた。哲学、宗教等の思想や、文学、音楽、絵画など、現代まで残されているものもあれば、過去のある時代、ある地域で途絶えたものもある。これらは、どの時代や社会においても生きるうえで不可欠な営みであり、これを通して人類の歴史は形成されている。この科目では、人間がどのような過去を歩み、どのようなことを考えてきたかを学び、現代社会から未来への思考や創造の可能性について考えていく。	
	社会科学	人間が生きて行くためには、集まり、秩序を作り、法やルールを持って、コミュニケーションや援助を行い、社会を形成していく。現代社会を見渡し、その問題点や未来を考える際には、その見方としての社会科学を学ぶ必要がある。この科目は、「法・政治」「経済・経営」「社会・福祉」「心理・教育」の分野において、それぞれの歴史、思想、メカニズム、理論、制度等について得た知識や考え方を、「社会を見るための道具として、使いこなすことが出来る力」として養うことを目的とする。	
	自然科学	17世紀頃に生まれた「科学的方法」は、現代社会の礎となっており、仮説を立て、結果を予測し、実験や観測で正しいかを検証するという方法の積み重ねにより、現在も科学技術は進歩し続け、私たちの豊かな生活に繋がっている。この科目は、長い年月をかけて発展した物理学、化学、生物等の各分野の基本的な知識を学習し、講義で身に付けた基本的な知識や思考法を、日常的・職業的な生活に役立て、科学的要素を持つ社会問題に対しても、根拠を持って判断が出来る力を養うことを目的としている。	
	発展 教養 科目		
	シティズンシップ	全ての人間は、基本的人権を持ち個人として尊重され、他者から不当な干渉を受けず、自分の人生を決める権利を持ち、この権利の下、人々は集い、社会を形成し、政治へ参加し、市民としての地位を持っている。現代社会においては、宗教、思想、人種、民族、文化、性別等が異なる、多くの人が生活しており、民主政治を形成しており、意見の相違を乗り越えて、お互いの陣形を尊重し合える社会を形成する必要がある。この科目では、シティズンシップの概念や歴史や、社会参加の方法等を、グループワークを交えて理解し、問題解決の方法を探っていく。	
	ボランティア	もともと、わが国においては、福祉分野を中心に地道なボランティア活動が根付いていたが、大規模な自然災害などを通じ、その関心は高まり、自らNPOを設立したり、市民活動に参加する人も増加している。この科目では、ボランティアの歴史や意味、ルールやマナーを学び、ボランティアを基盤として人の繋がりを広げていく活動や、問題解決型のボランティア活動等について、グループワークを交えて理解や興味を深めていくことを目的とする。	
	地域理解	人はみな特定の地域で生活し、豊かな生活を営むために、仲間を作り、議論し、協働して社会を作り上げていくことが求められている。この科目は、人口、自然、文化、産業、福祉、街づくり等の観点から、地域の課題を掘り起こす問題発見能力を身に付けることを目的とする。具体的には、校舎の所在地の周りの地域社会の実態や課題について探り、グループワークを交えてその解決策を考え、市民参加・参画の前提となる知識や観点を養っていく。	
	国際理解	地球上には70億人を超える人々が生活しており、様々な言語・文化・社会のもとに生活をしている。近年の情報や交通の発展により、遠く離れた地域、異なる文化や宗教、考えを持った人と緊密に触れ合うことが出来る社会になっている。この科目は、現代社会の現実を理解するため、時事問題の理解を深め、現在生じている諸問題を客観的に理解し、他者（異文化）との違いを容認する姿勢や態度、考え方、公平性を、グループワークを交えて養っていくことを目的とする。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
II 現代教養科目	健康スポーツ科目	健康・フィットネス理論実習	本授業では、生涯を通じて活力あるライフスタイルを形成するための理論と実践方法を講義と実習を通して学習する。また、健康・体力面だけでなく、仲間とともに身体活動を通しての「友達づくり」や「仲間との信頼関係づくり」を体験し、コミュニケーション能力の向上をねらいとする。具体的には、健康的な生活習慣を身につけることに重点を置き、健康に関する理論や重要性を理解するとともに、自己の体力に応じたフィットネスの実践能力を習得する。	
		生涯スポーツ理論実習	本授業では、生涯を通じて活力あるライフスタイルを形成するための理論と実践方法を講義と実習を通して学習する。また、健康・体力面だけでなく、仲間とともに身体活動を通しての「友達づくり」や「仲間との信頼関係づくり」を体験し、コミュニケーション能力の向上をねらいとする。具体的には、生涯を通じたスポーツライフスタイルの獲得に重点を置き、スポーツの”おもしろさ”や”大切さ”などを学び、ライフステージに応じたスポーツの楽しみ方と実践能力を習得する。	
III 英語科目	英語コミュニケーション科目	英語リスニング&スピーキング	国際化時代の今日、日本国内外を問わず言語や価値観そして文化の異なる人々と英語を使って意思疎通をはかることの重要性がさらに高まっている。その中で課題に柔軟に対応し、問題を解決するための実践的英語コミュニケーション能力の基盤を作ることを目標とする。学習者の英語力に合わせて効率よく学習できる習熟度別クラス編成で、多様な種類の英語を理解するリスニング力と、自分の意志を適切に表現するためのスピーキング力を相互に関連させながら、総合的に英語力の向上を図る。	
		英語リーディング&ライティング	国際化時代の今日、日本国内外を問わず言語や価値観そして文化の異なる人々と英語を使って意思疎通をはかることの重要性がさらに高まっている。その中で課題に柔軟に対応し、問題を解決するための実践的英語コミュニケーション能力の基盤を作ることを目標とする。学習者の英語力に合わせて効率よく学習できる習熟度別クラス編成で、多様な種類の英語を理解するリーディング力と、自分の意志を適切に表現するためのライティング力を相互に関連させながら、総合的に英語力の向上を図る。	
	グローバル人材育成科目	グローバルスキル	「英語リスニング&スピーキング」、「英語リーディング&ライティング」で培った英語の4技能をさらに伸ばすことを目標とする。リスニングにおいては、聞く目的に合わせて全体像を把握したり、必要な情報を聞き取ることができ、またスピーキングにおいては、様々な文化的背景・状況・相手に合った適切な表現を使って、議論・意見発表を含めた自己表現ができる等、国際社会で通用することを目指したより実践的な英語の総合的運用能力を養成する。	
		アカデミック英語	「英語リスニング&スピーキング」、「英語リーディング&ライティング」で培った英語の4技能をさらに伸ばし、国内外で英語を使用して仕事ができる人材の育成を目標とする。具体的には、様々な文化的背景・状況・相手に合った適切な表現を使って、主専攻科目で学んでいる専門知識を英語でも理解し、伝えることができるように、読解力の向上、英語での議論・意見発表を含めた自己表現を含んだ総合的な英語の運用能力の養成を目指す。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
IV 主専攻科目	基礎科目	アジア研究入門	アジアに関する基本的な知識の確認とアジア研究の問題構成を探究する。具体的には、アジア概念の成り立ち、地域の区分、自然環境をはじめとする地理的な特徴、歴史の構造、政治経済の特質ほか社会文化的な多様性などについて学ぶ。植民地主義的視座など、今日まで、アジアがどのように認識されてきたか、アジアをめぐる問題の立て方についても概観する。また、現在、国際社会のなかでアジアが占めている位置や役割についても理解を深める。	
		アジアの学び方 1	4年間のアジア学科での勉学を進めるための基礎的な学習方法や発表のしかたを学ぶ。と同時に、アジアに関する問題関心の再構築を実践的に行うことをめざす。具体的には、資料の探し方、読解方法、レポートの書き方、口頭発表やディスカッションの手法など、基礎的なことがらを中心にとりあげていく。これらを実践するにあたって、アジアに関する文字資料、映像、その他にふれることで体得していく。対象としてのアジアに向き合うことの意味が確認される。授業の中心は個々の受講生が、自ら考え、試みていくことにある。	
		アジアの学び方 2	「アジアの学び方1」をふまえ、徹底した講読演習を行う。アジアに関する文献の講読を通して、大学での勉学の基礎固めを行っていく。と同時にテキストを通して、先達のアジア理解について学び取っていく。相当量の文章を正確に読みこなすことは、地道な作業ではあるけれども、知の継承のみならず、深い思考に通じる。本科目を通して、学術的論考を読みこなしレポートのなかに考察の道筋を再現する、しっかりとしたスキルを確認しておくこと。	
		アジアの学び方 3	「アジアの学び方1」「同2」をふまえ、アジアについてさらに理解を深めていくための手法を学ぶ。史料の読解、新聞等のメディア・リテラシーの向上、ネットの活用方法、統計等の読み方、フィールドワークの手法など、アジアに関する情報を入手する際の専門的技法について学ぶ。またディベートをはじめとする討論の手法についても学ぶ。アジア研究の基礎的方法論を総覧する科目であるが、受講生がこれらの手法を実際に体験するなかでイメージをつかむことを重視する。	
		文物に学ぶアジア	現在、アジア各地の文物は日本各地の博物館や美術館などにも多く収蔵され、一般に公開されている。私たちはそれを見ることが可能である。本科目では、それらの文物に対する考察を通して、学ぼうとする時代や地域の歴史・社会・文化の様相をより具体的に実感することを目的とする。そのためにまず教員がテーマを設定して、それに関連する文物資料の特徴を解説した上で各地域の文物について学び、それが生み出された社会について文字史料とは別の視点から理解を深めることを目指す。	
		東アジア概論	中国大陸・朝鮮半島・日本列島などから構成される東アジア地域には、伝統的に漢字文化や儒教・大乘仏教の影響がみられること、人間関係において血縁の果たす役割が大きいなど共通した特色がみられ、古くから東アジア文明圏と呼ぶべき独特な一大文明圏が形づくられてきた。本科目では、この東アジア世界の地理的理解を基礎として、重要な事項をとりあげて解説し、今後の学習の基礎力を養う。東アジアの中心をなす中国と、それに隣接して独自の文化を形成した朝鮮に焦点をあてて検討することになる。	
		東南アジア概論	世界の諸文明の影響を常に受け続けてきた東南アジアは、多様な要素が交錯する地域である。しかも、東南アジア内部における地域的相違も大きい。同時に、東南アジアという概念自体、たかだか数十年の歴史しかもない。いわば諸文明が混雑する場から新たに立ち上がってきた地域である。本科目は入門科目として、そうした東南アジアの地理的理解を基礎として、さらに歴史、社会、文化の諸側面にわたる基本的な知識を習得するとともに、日本との関係も深いこの地域の魅力にふれることをめざす。	
		南アジア概論	南アジアはインド亜大陸とその周辺の島嶼からなる地域である。北部の山岳地域から南部の島嶼まで地理的にも多様性に富み、またインダス文明の時代以来、文化的歴史的にも様々な人間集団による複雑な諸要素が絡み合った世界を形成してきた。宗教を初めとして他のアジア地域に与えた影響も大きい。本科目は、南アジアの地理的理解を基礎として、さらに歴史、社会、文化の諸側面にわたる基本的な知識を習得するとともに、急速に発展しつつある現代南アジアの姿にも焦点をあてる。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
IV 主専攻科目	基礎科目	西アジア概論	(概要) 中東を中心として、中央アジア西部から北アフリカにおよぶ地域を対象とし、古代より現代に至るまで、この地域に生成発展してきた多様で豊かな西アジア地域を包括的に概観する。これらの地域の自然地理・人文地理・地誌の理解を基礎に、歴史・宗教・文化・社会等の解説を通じて、西アジア地域に関する基礎的な知識を習得する。入門科目として、より発展的な学習における手がかりを提供することが本科目の主たる目的であるが、同時に文明に関する幅広い教養も身につけることができるであろう。 (オムニバス方式／全15回) (4 春田晴郎／7回) 西アジアの自然地理およびイスラム以前の時代について担当する。 (9 今堀恵美／8回) 西アジアの人文地理、地誌およびイスラム勃興以降現代にいたる時代について担当する。	オムニバス方式
		基礎情報処理 1	現代は高度情報化社会となり、あらゆる分野で自ら考える力を育成するためにも、コンピュータの操作技術と知識が必要とされる。本科目は、そのような社会的要請に答えて、基本的なコンピュータ活用能力を養うと共にコンピュータや高度情報化社会に関する基礎知識の習得を目標としている。具体的には、コンピュータの基本操作から始まり、ワードプロセッサによる日本語文書処理、表計算ソフトによるデータ整理とグラフ作成、マルチメディア・プレゼンテーション、さらにインターネットの活用(電子メールによる情報交換、Web情報検索)などの実習を行う。	
	アジアの歴史と文明	東洋史概説	日本では、明治になって近代的学問が導入されて以来、東洋史学は中国史を中心に発展してきた。その伝統を基本的に維持しつつも、現在では、その研究分野はアジア全域にまで拡大している。こうした歴史的経緯を踏まえ、この授業では、中国を中心とした東アジアをはじめ、それに隣接する諸地域との関連も含めながら、その歴史的状況とその文化的な多様性とを広く学び、それらに関する基礎的な知識を習得することを主な目的とする。	
		東アジア古代・中世史	東アジアでは中国を中心として比較的早い段階で高度な文明が発展してきた。この科目は、中国を中心とした東アジア地域の古代から中世にかけての歴史過程及び古代・中世社会への理解を深化させることを目的としている。具体的な時代の範囲は、先史時代から三世紀初頭の中国後漢王朝の滅亡と三国の動乱期という古代と、隋唐時代における中国が東アジア諸民族に大きな影響を及ぼし、東アジア諸国家の成立がみられた中世にまで及ぶ。	
		東アジア近世史	唐代以前の東アジア世界の社会構造は10世紀以降、質的にも大きく転換していく。この科目ではこうした近世に関する歴史過程と、近世という時代概念との理解を深化させることを目的としている。具体的に本講義では、近世という時代区分がもつ多くの課題を視野に入れながら、中国の宋代から、北方の遊牧世界との関係がそれまで以上に密になり中国という概念が拡大していく元代・明代を経て、満州族による中国の専制支配・多民族国家の完成をみる清の後期から、アヘン戦争直前までの時代を講ずる。	
		東アジア近現代史	通説に従えば、東アジアの近現代史は、アヘン戦争を契機にそれまでの中国を中心とする冊封体制を中心とした国際秩序が、ヨーロッパ世界との接触・衝突により崩壊していき、条約という新たな概念によって国際社会にとりこまれ展開する。この科目では、こうした歴史的状況を概観しながら各時期の主要な問題を検討する。東アジアの近現代に関する歴史過程と、それを通じてみられる東アジア史さらには近現代という時代に対する理解を深化させることを目的としている。	
		東南アジア史	東南アジアは世界の大文明地域からみれば周辺にあったが、それらの文明を受け止めて多様性に満ちた社会を形成してきた。本科目では、その過程を時間的に追って、東南アジアの歴史がどのように展開してきたのかを概観する。具体的には、中国文明、インド・ヒンドゥー文明、イスラム文明、ヨーロッパ文明などとの関わり、そして現在進行中のアメリカナイズーションが取り上げられる。また、日本の占領統治とその影響などにもふれることになる。	
		南アジア史	南アジアに人類が生息するようになってから現代にいたるまでの歴史を概観することを目的にした科目である。ここで描き出そうとするのは北インドのアーリア人の社会を中心としたインド史ではなく、インド亜大陸の全域にわたる多様な人間集団が織りなしてきた南アジア史である。あまりよく知られていないとは言えない南アジア史を、世界のほかの文明との関係のなかで、できるかぎり解りやすく説明することが、この授業の目的である。それを通じて、特徴ある南アジア文明がどう形成されてきたかが明らかにされよう。	

科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
IV 主 専 攻 科 目	ア ジ ア の 歴 史 と 文 明	西アジア史	エジプト・北アフリカ、中央アジアを含む広い意味での西アジア地域の歴史を概観する。西アジア地域は、世界で最初に農耕牧畜が行なわれ、都市文明が発生し、世界帝国が興り、さらにユダヤ教、キリスト教、イスラムの諸宗教もこの地から広がった。アジアのみならず世界の文明を考察する際にも重要な材料を与えてくれる地域である。このような西アジア地域の諸文明の歴史的展開を、他の文明圏との関係も押えながら、総合的に把握することを目標とする。	
		ユーラシア史	人類の歴史の中でユーラシアは東西交易・交渉の重要な場として存在してきた。広大なユーラシア地域を超時代的に、各地域の内外あるいは各地域間に存在する広義の交渉・交流などを中心に諸問題を探っていく。ユーラシア地域における国際関係・交渉・外交と歴史などのテーマに沿って交錯する問題を扱うが、特に一定の歴史的期間、変遷の中に交渉史的問題と各地域間における政治史や文化史との比較対比の中で位置づけるような視点と理解をめざし、問題意識を高めていくことを目標とする。	
		アジア文明交流史	東アジア、東南アジア、南アジア、西アジア、中央アジアといったアジア内部での文明の交流を歴史的に扱う。題材は宗教、文字など多岐にわたる。草原の道、オアシスの道（狭義のシルクロード）、海の道、というアジアを貫く交通路（広義のシルクロード）の果たした役割やアジア外部との交流についても考察し、地域区分概念そのものについても批判的に吟味する。アジアの各地域をばらばらに捉えるのではなく、相互の有機的な結び付きをもったアジア諸文明を理解できるような広い視点の獲得が目標である。	
		黄河・長江文明	古代中国では粟を主穀とし銅器・青銅器や文字記録をもつ黄河文明が形成され、それは世界四大文明の一つに数えられてきた。一方長江(揚子江)流域には稲を主穀とした文明が芽生えていた。本科目では、例えば殷周時代の文明をはじめとして、多様な古代中国の文明を構成するいくつかの重要事項に焦点をあて、その時代背景(政治、経済、社会、文化、技術、等)を視野に入れつつ、後世への影響にも留意して、構造的に理解していくことを目標とする。	
		インダス文明	世界四大文明の一つに数えられるインダス文明は、研究の進展にともない、現在ではインド文明の源流とも位置づけられるようになっている。本科目では、インダス文明のありかたを、多角的・総合的な視点から概観する。インダス文明の分布や構造が現状ではどう考えられるかを検討し、古代メソポタミア文明とのかかわりやその後に展開するインド文明への影響についても視野に入れつつ、インダス文明の全体像を理解していくことを目標とする。	
		古代メソポタミア文明	世界四大文明の一つに数えられるメソポタミア文明、すなわち古代メソポタミアおよび周辺地域（シリア、アナトリア・ヒッタイトなど楔形文字が使用された地域）の文明、についての理解を得るための科目である。古代メソポタミア文明は、約5千年前に世界で最初に都市文明が発生、文字が使用され、4千年以上前に官僚制国家が発達し、3千数百年前には国際条約が締結される、というように人類の文明史上きわめて重要な位置を占める。このような文明を通時的に概観するとともに、資料が語る文化社会についても焦点をあてる。	
		古代エジプト文明	古代エジプト文明についての理解を得るための科目である。古代エジプトでは約五千年前に世界で最初に統一国家が形成され、以後3千年間ほど独自性を持った古代文明が展開されてきた。同時代他地域の諸文明に比して、建築物を含む物質資料がきわめて豊富に残されていることも特徴である。このような文明を通時的に概観することで古代エジプト文明の時代を通じた連続性と時代による変化を把握するとともに、資料が語る文化社会についても焦点をあてる。	
		アジア文明研究A	文明史の上で、アジアは極めて豊かである。本科目は、今日の人類の繁栄の礎となった古代の文明のうちひとつを取り上げて探究したり、あるいは植民地主義に代表されるようにヨーロッパ文明との交渉のなかで起きた事象（ポストコロニアルな状況を含む）に迫るなど、アジア史に現れた文明状況を特定のトピックをケースとして深く掘り下げていく。「文明」というマクロな問題設定からアジアに果敢にアプローチしていきたい。なお、本科目は主に東アジアもしくは東南アジア地域を対象とする。	

科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
IV 主 専 攻 科 目	ア ジ ア の 歴 史 と 文 明	アジア文明研究B	文明史の上で、アジアは極めて豊かである。本科目は、今日の人類の繁栄の礎となった古代の文明のうちひとつを取り上げて探究したり、あるいは植民地主義に代表されるようにヨーロッパ文明との交渉のなかで起きた事象（ポストコロニアルな状況を含む）に迫るなど、アジア史に現れた文明状況を特定のトピックをケースとして深く掘り下げていく。「文明」というマクロな問題設定からアジアに果敢にアプローチしていきたい。なお、本科目は主に南アジアもしくは西アジア地域を対象とする。	
		アジアの世界遺産	(概要) 世界遺産条約に従って登録されたアジア各地の世界遺産について、アジア全体での特徴、各地域（東アジア、東南アジア、南アジア、西アジア・北アフリカ）ごとの特徴を理解し、あわせて代表的な数ヶ所の世界遺産を取り上げて、各々について歴史的背景、考古・建築・美術面などから多面的に考察して「生」の文化遺産を総合的に把握する力を身につけることが目標である。なお、ユネスコ世界遺産全般についての概観や登録世界遺産の偏在など登録にまつわる問題点などについても触れる。 (オムニバス方式／全15回) (4 春田晴郎／9回) 総論および西アジア、南アジアの世界遺産について担当する。 (53 佐藤恵子／3回) 東南アジアの世界遺産について担当する。 (67 森和／3回) 東アジアの世界遺産について担当する。	オムニバス方式
	ア ジ ア の 文 化 と 社 会	東アジアの文化と社会	黄河・長江文明にはじまる悠久の歴史のなかで東アジア文明圏は形成されてきた。漢字や儒教など中国で生み出された文明が朝鮮半島や日本など周辺諸地域に伝わり、豊かな文明圏をつくりあげたのである。本科目は、中国を中心とする東アジア諸地域の多様な思想・宗教・学問・芸術・社会生活などに焦点をあて、東アジアの文化・社会を多面的に考察し、その全体像を把握するのが目標である。急速に発展しつつある現代東アジア社会の諸問題をも視野に入れて検討をすすめていく。	
		東南アジアの文化と社会	東南アジアは地理的、生態的条件により大陸部と島嶼部に大別される。宗教、芸術文化、生活様式、社会構造のいずれも、こうした条件によって大きく影響され、それぞれの地域で独自の展開を見せている。本科目は、こうした東南アジアの文化や社会の多様性について概観した後、特定地域の文化と社会について具体的事例をあげて考究していく。いずれの地域を取り上げることになるにせよ、文化的・社会的事象の紹介を通して、そこに住まう人々の思考と生活の理解が目指される。	
		南アジアの文化と社会	インド亜大陸とその周辺の島嶼からなる南アジア世界は、それ自体が世界の縮図ともいべき多様な姿をしている。社会のあり方も多面的であり、簡単に一括りすることを許さない。本科目は、インドを中心とする南アジア諸地域の多様な思想・宗教・学問・芸術・社会生活などに焦点をあて、南アジアの文化・社会を多面的に考察し、その全体像を把握するのが目標である。急速に発展しつつある現代南アジア社会の諸問題をも視野に入れて検討をすすめていく。	
		西アジアの文化と社会	現代世界の諸問題に対処する上で、西アジアに関する的確な知識が必要なのは最近ますます明らかになってきている。そのような問題関心のもと、本科目は、いわゆる中東を中心として、中央アジア西部から北アフリカ一帯におよぶ地域を対象に、イスラム勃興期以後、アラブ、イラン、トルコ等の諸民族が作り上げてきた文化と社会を考察し、その全体像を把握することを目標とする。現代中東が抱える様々な問題も視野に入れつつ検討をすすめていく。	
		アジアの思想と宗教A	アジアの思想、宗教は、ときにヨーロッパのそれと緊張関係をもちつつも独自の性格をもって今日につながっている。それらはアジアに生活するひとびとの思考や文化の様式に大きな影響を与えてきただけでなく、ヨーロッパの文化的発展にすら影響してきた。本科目ではとくにひとつないし複数の思想ないし宗教をとりあげて探究を行い、人類の思想的営為について深い考察を試みる。なお、地域としては主に東アジア、東南アジア、あるいは南アジアをとりあげる。	
		アジアの思想と宗教B	アジアの思想、宗教は、ときにヨーロッパのそれと緊張関係をもちつつも独自の性格をもって今日につながっている。それらはアジアに生活するひとびとの思考や文化の様式に大きな影響を与えてきただけでなく、ヨーロッパの文化的発展にすら影響してきた。本科目ではとくにひとつないし複数の思想ないし宗教をとりあげて探究を行い、人類の思想的営為について深い考察を試みる。なお、テーマとしては主に西アジアをとりあげるか、ヨーロッパとアジア世界の交渉を扱う。	

科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
IV 主 専 攻 科 目	ア ジ ア の 文 化 と 社 会	アジアの芸術A	アジアは芸術においても、西洋とは異なる伝統を作り上げてきた。と同時に、東西の芸術文化は互いに交流を図りながら発展してきた。これらを振り返ることは、アジアの文化的豊かさに触れることに通じる。本科目では、東アジアもしくは東南アジア地域を中心に、音楽、美術、文学などのジャンルから特定のものを取り上げて考察を深める。時代も古代から現代に至るまでの広範なスパンのなかから、特定の関心に沿ってテーマを設定していく。	
		アジアの芸術B	アジアは芸術においても、西洋とは異なる伝統を作り上げてきた。と同時に、東西の芸術文化は互いに交流を図りながら発展してきた。これらを振り返ることは、アジアの文化的豊かさに触れることに通じる。本科目では、南アジアもしくは西アジア地域を中心に、音楽、美術、文学などのジャンルから特定のものを取り上げて考察を深める。時代も古代から現代に至るまでの広範なスパンのなかから、特定の関心に沿ってテーマを設定していく。	
		現代中国論	世界第2位の経済大国に躍り出た中国は大きな可能性とさまざまな課題を抱えている。その動向を、思想・宗教・社会構造・政治・経済・国際関係などの面から多角的に分析していく。日本とは強い相互依存の関係にある国でありその重要性は極めて大きいにもかかわらず、近視眼的で断片的な情報から間違った理解に陥りやすい国でもある。単なる事情紹介にとどまらず、歴史的文脈からも現在の中国をどう解釈したらよいのか、広い視野に立って考察していく。適宜、台湾事情にもふれていく。	
		現代コリア論	韓国・北朝鮮については、隣国であるにもかかわらず、十分に理解されているとは言いがたい。日本と複雑な関係にある韓国・北朝鮮について理解を進めることは、東アジアの国際関係について考える上でも重要である。急速な発展を遂げてきた韓国、特異な体制を守り続ける北朝鮮、いずれも深い考察を必要とする。本科目では、韓国・北朝鮮について基本事項を押さえた上で、両国のいずれかあるいは両方の政治、経済、社会、あるいは文化に関し、特定のテーマを設定しつつ分析していく。	
		現代東南アジア論	東南アジアでは従来の権威主義体制が崩壊し、民主化が大きな政治的テーマとなってきた。その背景には経済発展に伴う中間層の成長やグローバリゼーションによる情報流通の増大、そしてそれに伴う社会意識の変化などがあるとされる。また、その一方で欧米とは異なるアイデンティティの模索に苦しんでいる。こうした状況は植民地時代から続く諸条件に影響されたポストコロニアル的状况でもある。本科目では、特定の国をひとつないし複数とりあげて、このような近代から現代にいたる過程を理解しつつ、現状を深く分析したい。	
		現代インド論	現代インドを理解するためには、近代におけるイギリスによる植民地支配の歴史を理解することが不可欠である。「世界最大の民主主義国家」を自認する一方で、大国インドがかかえるさまざまな問題の多くもそうした歴史的条件に起因していたりする。そこで、本科目は、18世紀のインド社会とイギリスとの関係をふまえた上で、きわめて多様でダイナミックなこの国の政治、経済、社会、文化の実相を深く掘り下げていく。日本の関与も大きい開発援助の実相などにも適宜ふれていくことになる。	
		イスラム文明概論	7世紀にアラビア半島から興ったイスラムは、現在では世界人口の1/5ほどがその信徒という大宗教となっている。イスラムは単に一つの宗教というばかりでなく、信者の日常生活全般や政治、経済、社会のありかたにも関わる包括的な価値基準の体系である。このようなイスラムの影響下における人間の営為の総体がイスラム文明なのである。本科目は、イスラムについての基本的理解、すなわちその信条、歴史的展開、周辺文明との関係、文化社会の特質、を得、イスラム文明の全体像を把握することを目標とする。	
		イスラム文明と現代世界	昨今の世界情勢をみれば、現代世界におけるイスラム文明を的確に理解することの重要性はあらためて指摘する必要はないであろう。本科目では、イスラム文明の現代世界における実態、すなわち現代のイスラム、イスラム教徒の現状、世界の中でのイスラムとイスラム教徒のありようを把握し、その意義を理解することを目標とする。報道されることの多い紛争に関わることももちろん論じられるが、同時に、多数の平和なイスラム教徒の現状や、イスラム世界に対する報道などに現れるバイアスや無理解についても触れていく。	
		国際社会のなかのアジア	アジアでは、近年、グローバリゼーションが急速に進行し、物、金、人、情報の国境を越えた移動が国家間の垣根を低くする傾向が現れてきている。また、世界経済を牽引する成長センターとして重要度を増している。アジアの国際関係を注視することの重要性を認識し、国際的な文脈のなかでアジアをどうとらえていくか考えることは避けて通ることができない。本科目では、現代のアジアについて広く議論を展開すると同時に、そのなかで日本のおかれている位置についても確認していきたい。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
IV 主専攻科目	アジアの文化と社会	日本とアジア	日本とアジア諸国の間に何らかの政治問題が発生すると、それらは多くの場合、近代以降における日本との関係や、中でも1945年に終結したアジア太平洋戦争の戦後処理の問題に突き当たる。日本は戦後、アジアの国々にどのような向き合ってきたのだろうか。この授業では、いま現在、日本がアジアの国々との間に抱える諸問題を確認した上で、それらの問題が発生した近代にさかのぼり、さらには1945年以降、日本がアジア諸国とどのような関係を築いてきたのかを概観して日本とアジアの今後を展望する。	
		アジア文化理解A	多様性をもって語られることの多いアジアの文化について、理解を進めていく。とくに欧米との対比で浮かび上がる価値観や生活様式の違いを確認する。また、地誌・民族誌的なアプローチによる探究の一方で、異文化理解の手法についても学んでいく。アジアでは古くから文化の交流がさかんであったし、西欧近代との遭遇が今日に至るまで大きく生活のあり方を規定している。ポストコロニアルな状況も含めて、考察していく。なお、取り上げる地域としては、東アジアもしくは東南アジアが中心となる。	
		アジア文化理解B	多様性をもって語られることの多いアジアの文化について、理解を進めていく。とくに欧米との対比で浮かび上がる価値観や生活様式の違いを確認する。また、地誌・民族誌的なアプローチによる探究の一方で、異文化理解の手法についても学んでいく。アジアでは古くから文化の交流がさかんであったし、西欧近代との遭遇が今日に至るまで大きく生活のあり方を規定している。ポストコロニアルな状況も含めて、考察していく。なお、取り上げる地域としては、南アジアもしくは西アジアが中心となる。	
		現代アジアの課題A	民主化、経済発展と貧困、ジェンダー、宗教対立等々、アジアにはさまざまな課題が山積されている。しかし、アジアとひとくちに言っても、政治システムの違い、経済発展の度合い、国際社会に占める位置もさまざまであり、こうした問題も発現のしかたが国や地域によって異なる。したがって、この科目では、特定のテーマを設定して、ひとつのあるいは複数の国の事象について深く探究する。なお、取り上げる地域としては、東アジアもしくは東南アジアが中心となる。	
		現代アジアの課題B	民主化、経済発展と貧困、ジェンダー、宗教対立等々、アジアにはさまざまな課題が山積されている。しかし、アジアとひとくちに言っても、政治システムの違い、経済発展の度合い、国際社会に占める位置もさまざまであり、こうした問題も発現のしかたが国や地域によって異なる。したがって、この科目では、特定のテーマを設定して、ひとつのあるいは複数の国の事象について深く探究する。なお、取り上げる地域としては、南アジアもしくは西アジアが中心となる。	
	アジアの言語	アラビア語入門 1	アラビア語は、東はイラクから西はモロッコにいたるアラブ諸国の共通語であるばかりでなく、国連の公用語のひとつでもある。さらにはコーランの言葉として、アラブ以外の全世界のイスラム教徒にとっての意義も大きい。ただし、アラビア語は、日本語とは大きく異なるセム系の言語で、文字表記も子音文字中心で短母音も一般の文章では原則として表記されない。このような言語であるため、最初の入門科目である本科目では、アラビア文字の発音、書き方、読み方、初歩的文法の習得を目標とする。	
		トルコ語入門 1	トルコ語は、西アジア・中央アジアを代表する民族のひとつであり、同地域の文明の形成に大きな役割をはたしてきたトルコ人の言語である。トルコ語の学習は中央ユーラシアに広がるトルコ系諸文化を理解することにも繋がっている。本科目では、現在のトルコ共和国で用いられている現代トルコ語を学習する。現代トルコ語の表記はローマ字であり、文法構造も日本語と類似しているので、マスターしやすい。本科目では、文法の基礎を習得して、平易な文章を読めるようになることを目標にするとともに、簡単な日常会話の練習も行なう。	
		ペルシア語入門 1	イランの国語であるペルシア語は、アラビア語と並んで、西アジアを代表する大言語のひとつである。また前近代におけるペルシア語文化圏の広がり、西アジアばかりでなく、中央アジアや北インドをも覆い、これらの地域の文明を支えてきた。ペルシア語はインド・ヨーロッパ系の言語であるが、動詞が文末にくるなど日本語との類似点もある。文字は子音中心の表記である。本科目は、このようなペルシア語の基礎、すなわち、ペルシア文字の発音、書き方、読み方、初歩的文法の習得を目標とする。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
IV 主専攻科目	アジアの言語	ヒンディー語入門 1	ヒンディー語はインドの連邦公用語であり、人口10億をこえるインド国民の過半数が理解する、世界第三位の話者人口をもつ大言語である。インドに興味をもつ人は、その文明を根底から把握するために、ぜひとも理解しておきたい言語である。インド・ヨーロッパ系の言語であるヒンディー語は、文字表記は独特とはいえ明快な言語である。本科目は、インド理解の前提として、ヒンディー語の基礎、すなわち、発音・文字・初級文法の把握を目標とする。	
		アラビア語入門 2	原則として「アラビア語入門 1」修了者を対象に、標準アラビア語の基礎を完成する。主として短い文章を読み書きしながら、文法事項を体得し、アラビア語独特の構文や表現法に習熟していく。またアラビア語は辞書を引くこと自体が難しいので、辞書を使いこなす練習もして、最終的には、平易な文章を辞書を引きながら読めるようになることが本科目の目標である。アラビア語は広大なイスラム世界の文明を支えてきた大言語である。この言語を学ぶことによって、受講者には新たに大きな文明世界への扉が開かれるであろう。	
		トルコ語入門 2	トルコに関する学習・研究にあたっては、トルコ語による研究書や論文を使いこなすことが重要になる。またトルコを理解するためには、トルコ文学を原語で読めることが望ましい。そこで本科目は、原則として「トルコ語入門 1」修了者を対象に、様々な内容の文献の講読を通じて、現代トルコ語による著述を読みこなす能力を身に付けることを目標とする。さらに会話の練習もありまぜて、トルコ語の総合力の向上もめざす。また、教材の紹介を通じて現代トルコ文化の理解も深めていく。	
		ペルシア語入門 2	原則として「ペルシア語入門 1」修了者を対象に、ペルシア語の基礎を完成する。主として様々なパターンの短い文章を読み書きすることを通じて、文法知識の応用を学び、ペルシア語文献を読みこなす能力を身に付けることが本科目の目標である。広大なペルシア語文化圏の生み出した歴史や文学や芸術に関わる文献を読むことは、アジア文明におけるひとつの大きな分野に分け入ることでもある。また、現代文明や国際社会との関連においても、ペルシア語学習は重要である。	
		ヒンディー語入門 2	原則として「ヒンディー語入門 1」修了者を対象に、ヒンディー語の基礎を完成する。主として様々なパターンの短い文章を読み書きすることを通じて、文法知識の応用を学び、ヒンディー語の文章を読みこなす能力を身に付けるとともに基礎的な会話能力を習得することが本科目の目標である。ヒンディー語は、人口10億をこえるインド国民の過半数が理解する世界第三位の話者人口をもつ大言語であり、この言語を修得しておくことは、他のインドの諸言語の学習する際にも基礎となりうる重要性を持っている。	
		アジア言語 A	本科目は英語も含めて、アジアのコミュニケーション・シーンを支える主要な言語の発展的学習を目指す。すなわち、既に入門科目を習得済みの実用言語について、読解、作文、リスニング、スピーキングなど、実際のコミュニケーションで発揮できるような運用能力の向上を図る。特定の言語についてクラスを編成していくが、以上のような趣旨から留学や検定などをもって認定を行う場合もある。なお、本科目はリスニング、スピーキングに重きをおく。	
		アジア言語 B	本科目は英語も含めて、アジアのコミュニケーション・シーンを支える主要な言語の発展的学習を目指す。すなわち、既に入門科目を習得済みの実用言語について、読解、作文、リスニング、スピーキングなど、実際のコミュニケーションで発揮できるような運用能力の向上を図る。特定の言語についてクラスを編成していくが、以上のような趣旨から留学や検定などをもって認定を行う場合もある。なお、本科目は読解、作文、各種言語検定への対応に重きをおく。	
		古典アジア言語 A	アジアは言語においても多様であるが、とくに近代以前において様々な言語を有し独自の文明を育んできた。したがって、古典言語について学ぶことは、古代アジアの探究や、今日まで続くアジアの思想の起源をさぐるためには必須である。本科目は、特定の古典言語を取り上げてその成り立ちについて確認すると同時に、実際のテキストの読解を通して、それら言語の特徴をつかんでいく。古典史資料の分析に資するような力の向上を目指す。なお、本科目は東アジアもしくは南アジアの古典言語をあつかう。	
		古典アジア言語 B	アジアは言語においても多様であるが、とくに近代以前において様々な言語を有し独自の文明を育んできた。したがって、古典言語について学ぶことは、古代アジアの探究や、今日まで続くアジアの思想の起源をさぐるためには必須である。本科目は、特定の古典言語を取り上げてその成り立ちについて確認すると同時に、実際のテキストの読解を通して、それら言語の特徴をつかんでいく。古典史資料の分析に資するような力の向上を目指す。なお、本科目は西アジアの古典言語をあつかう。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
IV 主専攻科目	演習・プロジェクト	アジア研究特別演習 A	アジアの歴史、文化、そして社会について理解を深めるには、たとえば史資料の読解やフィールドワークなど、実践的な探究を地道に重ねていくことが有効である。したがって、本科目では専門性の高い特定のテーマについて、それにふさわしい研究手法の下、集中的に追究していく。場合によっては、研究手法の訓練の性格が強くなることもありうる。なお、本科目はなかでも日本語文献の講読またはフィールドワークの初歩的実践を主におこなう。	
		アジア研究特別演習 B	アジアの歴史、文化、そして社会について理解を深めるには、たとえば史資料の読解やフィールドワークなど、実践的な探究を地道に重ねていくことが有効である。したがって、本科目では専門性の高い特定のテーマについて、それにふさわしい研究手法の下、集中的に追究していく。場合によっては、研究手法の訓練の性格が強くなることもありうる。なお、本科目は外国語文献の講読、なかでも英語や中国語の史資料講読を中心としていく。	
		アジア研究特別演習 C	アジアの歴史、文化、そして社会について理解を深めるには、たとえば史資料の読解やフィールドワークなど、実践的な探究を地道に重ねていくことが有効である。したがって、本科目では専門性の高い特定のテーマについて、それにふさわしい研究手法の下、集中的に追究していく。場合によっては、研究手法の訓練の性格が強くなることもありうる。なお、本科目は漢文に関する基本的な素養を前提として、漢籍を中心とした史資料の講読演習に力を入れていく。	
		アジア研究特別演習 D	アジアの歴史、文化、そして社会について理解を深めるには、たとえば史資料の読解やフィールドワークなど、実践的な探究を地道に重ねていくことが有効である。したがって、本科目では専門性の高い特定のテーマについて、それにふさわしい研究手法の下、集中的に追究していく。場合によっては、研究手法の訓練の性格が強くなることもありうる。なお、本科目は主として中国語以外のアジア言語を用いた史資料講読演習等を中心とする。	
		アジア研究プロジェクト A	今日のアジア研究においては、フィールドワークにせよ、各種展示企画にせよ、総合的な実践力が問われることが多い。本科目は、そうした実践力を鍛えることをめざし、実際のプロジェクトに関わっていくことが求められる。チームでの協働を求められるプロジェクトでは、社会一般で求められる能力を体験することができる。設定した課題、目標に向かって、組織づくり、計画策定、実行、評価といった一連のプロセスから学ぶことは多い。本科目は、原則として認定型とする。具体的な内容としては、国内外における主に調査実習を中心とする。	
		アジア研究プロジェクト B	今日のアジア研究においては、フィールドワークにせよ、各種展示企画にせよ、総合的な実践力が問われることが多い。本科目は、そうした実践力を鍛えることをめざし、実際のプロジェクトに関わっていくことが求められる。チームでの協働を求められるプロジェクトでは、社会一般で求められる能力を体験することができる。設定した課題、目標に向かって、組織づくり、計画策定、実行、評価といった一連のプロセスから学ぶことは多い。本科目は、原則として認定型とする。具体的な内容としては、国内外における主に展示企画実習を中心とする。	
		アジア海外研修	アジアをより深く理解するには現地を直接体験することが望ましい。また、異文化との接触は新たな興味関心、そして問題意識の喚起につながることもある。本科目は、現地での研修を通じてアジアに対する理解を深めることを目指す。このため事前の授業を通じて研修に関する知識を身につけるなど、滞在型研修であるにせよ移動型であるにせよ、単なる観光旅行とは異なる体験を重視したい。なお、年度によって研修地域は変わる予定である。	
	卒業研究	アジア研究セミナー 1	学生が、自分なりの関心にそって研究テーマを定め、研究の第一歩をふみだすための授業である。研究テーマを定めるということは簡単なことではない。たとえば、五里霧中の段階の学生が、自らの研究テーマを見出してゆくガイドをするのが本授業の目的である。「アジア研究セミナー 1」では、原則として、専門的研究のためのツールを使いこなす知識の獲得、分野ごとの研究史のサーベイ、関心ある研究分野のしぼりこみ、初歩的研究発表とそれに基づくディスカッション等を柱とする。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
IV 主専攻科目	卒業研究	アジア研究セミナー 2	「アジア研究セミナー 1」に引き続き、学生が、自分独自の研究の第一歩をふみだすためのガイドをする授業である。同時に、「卒業論文」執筆に向けての予備指導の意味合いを持つ。授業では、各人が進めている研究について発表を行うことでプレゼンテーション能力の向上を図り、あわせて参加者全体でのディスカッション能力の向上も目指す。担当教員は、研究の進捗状況に対し、適宜アドバイスを与えるとともに、学術研究における約束事やレポート・論文の形式についての指導も行う。なお、クラスによっては全体での研究・発表にもとりくむ。	
		卒業論文 1	本科目は、個々の学生が、大学での勉学の集大成として、納得できる論文が書けるように導くことを目的としている。「卒業論文 2」の前段階に位置づけられる科目である。「アジア研究セミナー 1・2」以降、自分なりに定めてきたテーマは、学術論文の形式をとって、筋道たてて論証して、はじめて客観的に他者にも意義のある理解可能なものになる。本科目では、個人指導を中心に、最終テーマの決定、資料の探索と収集、調査、文献の読破などの具体的作業をおこなう。	
		卒業論文 2	「卒業論文 1」をふまえて、実際に論文の執筆して完成させるのが、本科目の目標である。論文作成のスケジュールをくみ、必要な作業をこなしてゆき、進行状況に合わせて適宜修正しながら卒業論文を完成させていくことが必要であり、研究能力、表現能力のみならず、企画立案・実行・修正および完成という大学で学ぶ総合力が必要とされる科目である。卒業論文を完成させるのはあくまで学生自身であるが、指導教員は随時必要な助言を行なう。	
	学部教養科目	ことばの世界	「ことば」は人間を人間たらしめている大切なツールであり、人間は「ことば」によって生活し、歴史を刻み、世界を発展させてきた。「ことば」と「コミュニケーション」は文化・社会系の学部が特に大切にしている分野である。この講義は文化社会学部の基礎的な科目として設置されており、特に新入生に「ことば」や「表現」や「コミュニケーション」の面白さ、大切さ、奥深さを知ってもらふことを通して、文章を読み解く力を磨くことを目標とする。	
		知のフロンティア	グローバル化が進み、技術や組織あるいは社会を構成する人々の意識や価値観など、現代社会のさまざまな分野で急速な変化が進み、さらにそのスピードはますます高まっている。しかも各分野の様々な事象は加速度的にかつ複雑に交差しつつあり、社会では特定分野や考え方にとらわれない広い視野と柔軟な発想が求められている。本授業では、現代のさきがけとなる学問研究上の諸成果の中から学科の枠にとらわれない知的刺激に富んだテーマを取り上げ、学部横断的視点から知の最前線について平易に学んでもらうことを目的とする。	
		文章表現法	現代社会のコミュニケーションにおいて、話し言葉による表現と、書き言葉による表現はともにきわめて重要な役割を有している。本科目は、このうち書き言葉による表現（文章表現）能力の養成と向上をはかることを目的とする。すなわち、大学におけるレポート・卒業論文等から、卒業後の社会生活における様々な性格の文章にいたるまで、多様な文章表現の基礎となる表現上の知識および論理的な文章の作成方法を、実際の執筆作業を通じて実践的に学ぶことが本授業の中核である。	
		古文基礎	本授業では古文・漢文を読むための基礎的な力を養成する。国語科の教員養成のための基礎科目であるとともに、日本史・中国史・日本文学等を学ぶにあたって必須の漢文を読むため古典文法の力を養うために、力が確実に身につくような実践的な内容とする。また、古典常識や基礎的な古典文学史も教員養成の観点からおさえることを目的とする。高校までの古文の学習のリメディアル的な要素を持ちながら、より発展的な力を養成する。	
		ギリシア語入門 1	西欧文明を支えた精神的支柱として古典古代、とりわけ古代ギリシアの哲学や文学は、過去に大きな役割を果たし、時代を超え、地域を越えて現在もなお私たちの文化に深い影響を与えている。この授業では、古典ギリシア語で記述された文献を直接読解するために必要となる基礎的な文法事項を修得することを目的としている。また学修の過程でギリシア語で書かれた古典の諸作品の一節や、古代ギリシアの文化的側面に触れるなどして、ギリシア語習得の一助とする。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
IV 主専攻科目	学部 教養科目	ギリシア語入門 2	この授業は、すでに「ギリシア語入門 1」を履修した者および同等の知識を有する者を対象とし、さらに古典ギリシア語で記述された文献を直接読解するために必要となる基礎的な文法事項を修得することを目的としている。授業は「ギリシア語入門 1」と同様に、あらかじめ決められたギリシア語の教科書に沿って進められ、各單元における文法事項の解説と練習問題の解答が中心となる。受講生は当該箇所に配された練習問題を事前学修として課せられるとともに、授業後の復習やテキスト読解を通じて、ギリシア語知識の定着を目指す。	
		ラテン語入門 1	ラテン語は古代ローマ人が使用していた言語であり、地中海世界における公用語の地位を長く得ていた。また古代ローマの滅亡後も、文学、行政、法律、学問、キリスト教会の共通語として使われ続けることによって、西洋文明の形成に大きな役割を果たした。この授業では、ラテン語の基礎的な初等文法を学ぶことを主な目的として、文法事項を解説し、練習問題をおこなう。また、ラテン語の歴史、ロマンス諸語との関係など、ラテン語に関する周辺の事項についても触れることで、その影響の深さについても考える。	
		ラテン語入門 2	ラテン語は、古代ローマ人の言語であり、ローマ帝国の広大な領土内の公用語として用いられ、また中世以降のヨーロッパ世界においても大きな影響力を持ち続けることによって、西洋文明の形成に重要な役割を果たした。この授業は、「ラテン語 1」を履修した者および同等の知識を有する者を対象とし、ラテン語で記述された文献を読解するために必要な基礎的文法をさらに習得することを目的としている。授業は文法事項の解説と練習問題の解答を中心として進められ、ラテン語知識の定着を目指す。	
		東欧諸語	東ヨーロッパには、スラヴ系に属す西スラヴ語（ポーランド語、チェコ語、スロヴァキア語など）と南スラヴ語（ブルガリア語、セルビア語、クロアチア語など）が存在する。また、東ヨーロッパ地域の民族的・言語的多様性を象徴するかのよう、スラヴ系とは異なるウラル系のハンガリー語が、西スラヴ語と南スラヴ語の空間の合間をぬって併存している。この授業では、東ヨーロッパの言語的多様性をカバーすることのできるポーランド語、ブルガリア語、ハンガリー語の履修を可能とする。授業は、基礎的な初級文法を学ぶことを主目的とする。	
	教職科目	日本史概説	現代日本は、長い歴史の背景の上に成り立っているものであり、日本社会を理解するには、日本歴史についての理解が不可欠である。また国際交流を進めるうえでも、日本と近隣諸国や欧米諸国との歴史的関係についての認識が必要である。授業では、基本的には受講生に日本史についての通史的知識を持たせることを目標とするが、日本史研究の方法や視点についても紹介する。これらによって、日本社会を歴史的に捉える力を養うように努めたい。	
		西洋史概説	西洋史概説は、世界史の発展の諸時期における西洋の政治・社会・経済・文化などの固有の特質を理解することを目的としている。授業では西洋世界の歴史を時代順に通観していくが、西洋史の対象とする地域と時代は広範であり、すべてを取り上げることはできない。そこで、西洋史研究の現代的意義を確認したうえで、単なる史実の説明ではなく、古代地中海世界の歴史的発展、古代から中世への移行、封建社会の発展と衰退、近代市民社会の成立、ヨーロッパの拡大、現代の西洋、といった重要な研究課題を中心に考察を深めていく。	
		自然地理学概論	人類をとりまく環境要素としての地形、陸水、気候・気象、動・植物などの自然現象は、相互にかかわり合いながら、全体としての体系をつくりあげている。近代以降の資源の開発利用や産業社会の発展など、人類による環境への一層の働きかけによって、これらの環境の諸要素と人類の関係は、環境問題という新しい局面を生みだし、人類の生存を脅かすものとなっている。授業では、取り上げられる自然現象の空間的な分布や変化の法則性を理解することで、われわれをとりまく環境について理解を深めることを目標とする。	

科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
IV 主 専 攻 科 目	教 職 科 目	人文地理学概論	人文地理学は多様な環境のもとにある地表空間に人類が形成する現象、すなわち居住、産業、交通、社会、文化などを対象とし、これらの現象相互間の有機的な関連性と、現象と環境の関わりに着目しつつ、現象の空間的な分布や立地のしくみを解明することを目的としている。講義では個別の地理的現象のみに目を奪われるのではなく、人文地理学の諸分野についての基礎知識を涵養し、現象を体系的に把握する視点と方法を理解することによって、地理学的な考え方を身につけることを目標とする。	
		地誌	人々は、相互にさまざまなつながりを持ちながら、農業や工業などの生産活動や、居住や消費などの生活活動を行っている。このような生産活動や生活活動の空間は、商品経済の発達や交通手段の発展とともに拡大してきたが、実際には限られた空間のなかで展開されている。この限られた空間を一般に地域と呼ぶ。「地誌」は特定の地域を対象とし、人類の諸活動はもとより、自然環境をも含めて総合的にとらえ、「地域性」を解明しようとする学問である。講義では地誌的なものの見方や考え方を身につけることを目標とする。	
		法学概論	私たちの日常生活は、さまざまな法によって生活が守られ、あるいは生活が規制されている。とりわけ価値観が多様化し、社会が急速に複雑化している今日においては、国家と人、人と人との相互関係を円滑にするルールが不可欠である。法は、社会秩序を維持する役割を担う一方で、個人の自由や権利を保障する機能も果たしていかなければならない。本講義では、単に法律知識を習得するのではなく、基本的な法的思考や法のあり方について、現実の社会生活と結びつけながら考察していくものである。	
		政治学原論	講義の進め方としては、まず、「政治と政治学」というタイトルのもとに、現代の社会科学の特色や、現代政治学の対象と方法など、政治学を学ぶに必要な予備的事項について解説する。次に、前半の講義では、「政治システム」、「政治文化」、「権力」、といった政治学の基礎的概念や、「政党」、「官僚組織」など政治の世界の行動主体が取り上げられる。そして後半では、前半で得た知識を基礎として、特に変貌する現代社会の問題を考えるために、現代の民主主義理論について考察する。	
		社会学概論	この授業の目標は、社会学を専門的に学ぶための基礎を身につけることにある。そのためにまず、社会学とはどのような学問であるか、その方法や歴史について、簡潔に説明する。そのうえで、「現代社会に生きる」とはどういうことなのか、家族・宗教・組織などいろいろな側面から考えなおすことをとおして、社会学がこれまで展開してきた主要な議論を紹介・解説する。その上で、現代社会が直面する様々な問題を社会的に分析した事例を学び、客観的に物事を分析する力を身につけることを目指す。	
		経済学概論	経済学概論は、経済学の二つの主要分野である「マクロ経済学」と「ミクロ経済学」の入門科目として位置づけられるものである。前者は、一国の生産や消費といった経済活動の水準がどのような仕組みで決まり、経済政策（財政・金融政策）が一国の経済水準にどのような影響を及ぼすかを取り扱う。後者は、市場経済がどのような特徴を持ち、その市場がどのように形成され、どういう働きをするかについて分析する。両分野の基礎的な理論や研究事例を学ぶことを通じて、現代社会が直面する様々な問題を経済学的に分析する力を身につけることを目標とする。	
		哲学概論	日本語の「哲学」は西欧の翻訳語であるので、字を見てもほとんど意味が分からず、ただ厳めしいイメージのみが先行してしまっているが、もともとギリシアに始まったとされる哲学はphilo（愛）-sophia（知）が語源であり、広く一般に知を愛する学問、いや知を求めずにはいられないあらゆる人間の営みを指していた。哲学においては何故生きるのか、知るとはそもそもどういうことか、幸福とは何かといった、根本的な問いが繰り返し問われ続け、これらの問いを巡る先人たちの苦悩が刻まれている。この授業を通じて、自ら考える力を培うことを目標とする。	
		宗教学概論	宗教は、おそらく人類の歴史と同じほどに長い歴史をもつといえるものであるが、それを学問的に研究するという姿勢が現れたのはそれほど古いことではない。とくに、現代宗教学はようやく19世紀以来、当時の実証主義的学問傾向に歩調をあわせて発展してきたが、その発生と発達が主としてキリスト教の文明圏で行われてきたために、他の文明圏でも妥当するかが文明の根底を探る比較文明論的な問題となっている。こうした問題に留意しながら現代宗教学の理論や用語を理解しその意味と発展過程を概観する。	

科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
IV 主 専 攻 科 目	教 職 科 目	社会科・地理歴史科教育法 1	「社会科・地理歴史科教育法 1」は、中学校・高等学校の教員免許状取得に必要な「教職に関する科目」のうち、「教育課程及び指導法に関する科目」における「各教科の指導法」に該当する授業科目である。したがって、授業の目標や内容は、中学校・高等学校の「学習指導要領」やその解説にもとづいて設定される。「社会科・地理歴史科教育法 1」では、特に、中学校社会科・高等学校地理歴史科の教員として必要な当該教科の狙いや内容を学び、指導計画の作成法、指導方法、指導上の配慮事項などについての具体的、実践的な知識、技能を身につけることを目指す。	
		社会科・地理歴史科教育法 2	「社会科・地理歴史科教育法 2」は、中学校・高等学校の教員免許状取得に必要な「教職に関する科目」のうち、「教育課程及び指導法に関する科目」における「各教科の指導法」に該当する授業科目である。「社会科・地理歴史科教育法 1」が当該教科の狙いや教育内容・方法の基本的知識、技能に関するものであるのに対し、「社会科・地理歴史科教育法 2」はより実践的・具体的に授業の方法を習得することを目標とする。したがってその主要課題は、授業の指導案作成、生徒に対する発問の工夫、教材・教具の効果的な活用方法などの検討が中心課題となる。	
		社会科教材論	「社会科教材論」は、中学校教員免許状取得に必要な「教職に関する科目」のうち、「教育課程及び指導法に関する科目」における「各教科の指導法」に該当する授業科目である。「社会科教材論」では、学習指導要領に基づき、社会科の教科目標と教育内容を効果的に実現できるような教材の活用や作成方法について考察することをめざす。授業では、生徒たちが学習内容を正確に理解し、関心・興味が喚起されるようにするには教材をどのように工夫すべきかを考える。とくに教科書として用意されている教材内容を吟味するだけでなく、生徒の実態に合わせて、教師自ら、メディアなどを利用した効果的な教材を作成することも重要な課題となる。	

授 業 科 目 の 概 要			
（文化社会学部 ヨーロッパ・アメリカ学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
I 現代 文明 論	現代文明論	この科目は東海大学に学ぶすべての学生が、建学の精神を理解し自らの思想を培うために開講される。すなわち歴史や世界への見識を高め、人類社会のあり方を見直すことを通じて、地球規模で深刻化する困難な事態にあっても、時代を開拓しようとする力強い思考や意欲を養うことを目的としている。理系、文系の枠を超えて、現代の課題の根源を探るために不可欠な歴史的・系譜的な認識を深め、それを多様な角度から読み解く思考法を身につけるとともに、人間的価値に基づいた倫理観によって未来を選択しうることを学ぶ。	
II 現代 教養 科目	基礎 教養 科目		
	人文科学	人間は長い歴史の中で多くのことを考え、様々なものを生み出してきた。哲学、宗教等の思想や、文学、音楽、絵画など、現代まで残されているものもあれば、過去のある時代、ある地域で途絶えたものもある。これらは、どの時代や社会においても生きるうえで不可欠な営みであり、これを通して人類の歴史は形成されている。この科目では、人間がどのような過去を歩み、どのようなことを考えてきたかを学び、現代社会から未来への思考や創造の可能性について考えていく。	
	社会科学	人間が生きて行くためには、集まり、秩序を作り、法やルールを持って、コミュニケーションや援助を行い、社会を形成していく。現代社会を見渡し、その問題点や未来を考える際には、その見方としての社会科学を学ぶ必要がある。この科目は、「法・政治」「経済・経営」「社会・福祉」「心理・教育」の分野において、それぞれの歴史、思想、メカニズム、理論、制度等について得た知識や考え方を、「社会を見るための道具として、使いこなすことが出来る力」として養うことを目的とする。	
	自然科学	17世紀頃に生まれた「科学的方法」は、現代社会の礎となっており、仮説を立て、結果を予測し、実験や観測で正しいかを検証するという方法の積み重ねにより、現在も科学技術は進歩し続け、私たちの豊かな生活に繋がっている。この科目は、長い年月をかけて発展した物理学、化学、生物等の各分野の基本的な知識を学習し、講義で身に付けた基本的な知識や思考法を、日常的・職業的な生活に役立て、科学的要素を持つ社会問題に対しても、根拠を持って判断が出来る力を養うことを目的としている。	
	発展 教養 科目		
	シティズンシップ	全ての人間は、基本的人権を持ち個人として尊重され、他者から不当な干渉を受けず、自分の人生を決める権利を持ち、この権利の下、人々は集い、社会を形成し、政治へ参加し、市民としての地位を持っている。現代社会においては、宗教、思想、人種、民族、文化、性別等が異なる、多くの人が生活しており、民主政治を形成しており、意見の相違を乗り越えて、お互いの陣形を尊重し合える社会を形成する必要がある。この科目では、シティズンシップの概念や歴史や、社会参加の方法等を、グループワークを交えて理解し、問題解決の方法を探っていく。	
	ボランティア	もともと、わが国においては、福祉分野を中心に地道なボランティア活動が根付いていたが、大規模な自然災害などを通じ、その関心は高まり、自らNPOを設立したり、市民活動に参加する人も増加している。この科目では、ボランティアの歴史や意味、ルールやマナーを学び、ボランティアを基盤として人の繋がりを広げていく活動や、問題解決型のボランティア活動等について、グループワークを交えて理解や興味を深めていくことを目的とする。	
	地域理解	人はみな特定の地域で生活し、豊かな生活を営むために、仲間を作り、議論し、協働して社会を作り上げていくことが求められている。この科目は、人口、自然、文化、産業、福祉、街づくり等の観点から、地域の課題を掘り起こす問題発見能力を身に付けることを目的とする。具体的には、校舎の所在地の周りの地域社会の実態や課題について探り、グループワークを交えてその解決策を考え、市民参加・参画の前提となる知識や観点を養っていく。	
	国際理解	地球上には70億人を超える人々が生活しており、様々な言語・文化・社会のもとに生活をしている。近年の情報や交通の発展により、遠く離れた地域、異なる文化や宗教、考えを持った人と緊密に触れ合うことが出来る社会になっている。この科目は、現代社会の現実を理解するため、時事問題の理解を深め、現在生じている諸問題を客観的に理解し、他者（異文化）との違いを容認する姿勢や態度、考え方、公平性を、グループワークを交えて養っていくことを目的とする。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Ⅱ 現代教養科目	健康スポーツ科目	健康・フィットネス理論実習	本授業では、生涯を通じて活力あるライフスタイルを形成するための理論と実践方法を講義と実習を通して学習する。また、健康・体力面だけでなく、仲間とともに身体活動を通しての「友達づくり」や「仲間との信頼関係づくり」を体験し、コミュニケーション能力の向上をねらいとする。具体的には、健康的な生活習慣を身につけることに重点を置き、健康に関する理論や重要性を理解するとともに、自己の体力に応じたフィットネスの実践能力を習得する。	
		生涯スポーツ理論実習	本授業では、生涯を通じて活力あるライフスタイルを形成するための理論と実践方法を講義と実習を通して学習する。また、健康・体力面だけでなく、仲間とともに身体活動を通しての「友達づくり」や「仲間との信頼関係づくり」を体験し、コミュニケーション能力の向上をねらいとする。具体的には、生涯を通じたスポーツライフスタイルの獲得に重点を置き、スポーツの”おもしろさ”や”大切さ”などを学び、ライフステージに応じたスポーツの楽しみ方と実践能力を習得する。	
Ⅲ 英語科目	英語コミュニケーション科目	英語リスニング&スピーキング	国際化時代の今日、日本国内外を問わず言語や価値観そして文化の異なる人々と英語を使って意思疎通をはかることの重要性がさらに高まっている。その中で課題に柔軟に対応し、問題を解決するための実践的英語コミュニケーション能力の基盤を作ることを目標とする。学習者の英語力に合わせて効率よく学習できる習熟度別クラス編成で、多様な種類の英語を理解するリスニング力と、自分の意志を適切に表現するためのスピーキング力を相互に関連させながら、総合的に英語力の向上を図る。	
		英語リーディング&ライティング	国際化時代の今日、日本国内外を問わず言語や価値観そして文化の異なる人々と英語を使って意思疎通をはかることの重要性がさらに高まっている。その中で課題に柔軟に対応し、問題を解決するための実践的英語コミュニケーション能力の基盤を作ることを目標とする。学習者の英語力に合わせて効率よく学習できる習熟度別クラス編成で、多様な種類の英語を理解するリーディング力と、自分の意志を適切に表現するためのライティング力を相互に関連させながら、総合的に英語力の向上を図る。	
	グローバル人材育成科目	グローバルスキル	「英語リスニング&スピーキング」、「英語リーディング&ライティング」で培った英語の4技能をさらに伸ばすことを目標とする。リスニングにおいては、聞く目的に合わせて全体像を把握したり、必要な情報を聞き取ることができ、またスピーキングにおいては、様々な文化的背景・状況・相手に合った適切な表現を使って、議論・意見発表を含めた自己表現ができる等、国際社会で通用することを目指したより実践的な英語の総合的運用能力を養成する。	
		アカデミック英語	「英語リスニング&スピーキング」、「英語リーディング&ライティング」で培った英語の4技能をさらに伸ばし、国内外で英語を使用して仕事ができる人材の育成を目標とする。具体的には、様々な文化的背景・状況・相手に合った適切な表現を使って、主専攻科目で学んでいる専門知識を英語でも理解し、伝えることができるように、読解力の向上、英語での議論・意見発表を含めた自己表現を含んだ総合的な英語の運用能力の養成を目指す。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
IV 主専攻科目	初年次科目	入門ゼミナール 1	ヨーロッパ・アメリカ学科の必修科目で、原則として第1セメスターの受講生を対象とする。ヨーロッパ・アメリカについて学ぶ上で必要な基礎知識や学修方法など、大学生活のスキルセットを身につけるための授業である。少人数のクラスで、ヨーロッパ・アメリカを理解する視点として「多様性」「独立・統合の過程」を設定し、資料の集め方や文献の読み方、レポートの書き方、発表の仕方、図書館の利用方法、コンピュータ活用方法など、学修の具体的なテクニックについて学ぶ。	
		入門ゼミナール 2	ヨーロッパ・アメリカ学科の必修科目で、原則として「入門ゼミナール 1」を履修した受講生を対象とする。ヨーロッパ・アメリカ地域について学ぶための基礎知識や方法を知った上で、当該地域に対するより具体的な取り組み方について学ぶ。クラスは少人数で、「入門ゼミナール 1」で学んだ「ヨーロッパ・アメリカの多様性」「独立・統合の過程」といった視点から具体的な問題点を設定し、レポート作成や発表の発展的なテクニックについて学ぶ。	
	基礎科目	ヨーロッパ・アメリカ概論	(概要) ヨーロッパとアメリカは、今日の世界において重要な位置づけにある。ヨーロッパでは、古代から現代にいたるまで、それぞれの地域や民族が独自の歴史を歩み、豊かな文化を育んできた。またアメリカも、ヨーロッパから大きな影響を受けながら、多様で特色ある文化を持ち、力強い社会を築き上げてきた。この授業では、ヨーロッパとアメリカの歴史や文化について基本的な研究の視座を修得することを目指している。 (オムニバス方式／全15回) (7 河島思朗／2回) 古代ギリシア・ローマについて。 (1 金沢百枝／2回) 中世・キリスト教美術について。 (8 原基晶／2回) ルネサンス文化について。 (4 石井泉美／2回) ネイティヴ・アメリカンについて。 (5 中澤達哉／2回) 近世の東ヨーロッパについて。 (9 柳原伸洋／2回) 現代ドイツ文化について。 (6 中島朋子／2回) 近現代のアメリカ文化について。 (3 中川久嗣／1回) フランス哲学について。	オムニバス方式
	地域	地中海地域研究 A	ヨーロッパ文化の形成過程において、地中海が果たした役割は大きい。オリエント世界からイベリア半島まで海を制したギリシア、地中海を包む広大なローマ帝国、その版図に誕生した中世社会は、古代世界を継承しつつ、独自の文化を生み出し、現在のヨーロッパの基盤となった。貿易、聖地巡礼、遠征や植民を通じた人的移動もあった。この授業では地中海地域と関連する古代から現代までの事象・事件・文化に関するさまざまなテーマのなかから、担当教員が適宜テーマを選び、講義を行う。	
		地中海地域研究 B	ヨーロッパ文化の形成過程において、地中海が果たした役割は大きい。オリエント世界からイベリア半島まで海を制したギリシア、地中海を包む広大なローマ帝国、その版図に誕生した中世社会は、古代世界を継承しつつ、独自の文化を生み出し、現在のヨーロッパの基盤となった。貿易、聖地巡礼、遠征や植民を通じた人的移動もあった。この授業では、こうした古代から現代まで続く「ヨーロッパと地中海」の繋がりに関連して、テキストの講読や、それぞれの受講生の問題関心に沿って設定されたテーマについての調査や発表、討論などを行う。	
		西ヨーロッパ地域研究 A	現在 EU 統合の中核をなす西ヨーロッパ地域の国々は、長い歴史を持ち豊かな文化的伝統を育んできた。この授業では、過去から現在に至る、多様でダイナミックな西ヨーロッパの姿を的確に捉え、理解することを主眼とする。この授業では、過去から現在にいたるヨーロッパの中のそれぞれの国や地域にそくした具体的なテーマのなかから、担当教員が自分の専門的知識を生かしつつ、適宜テーマを選び、講義を行うことで、西ヨーロッパを総合的に理解することを目指す。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
IV 主専攻科目	地域	西ヨーロッパ地域研究B	現在EU統合の中核をなす西ヨーロッパ地域の国々は、長い歴史を持ち豊かな文化的伝統を育んできた。この授業は、西ヨーロッパ地域の歴史的考察から現代的な諸問題の分析まで、さまざまなテーマを設けることで、西ヨーロッパ地域の持つ伝統や多様性を知るとともに、その固有で特色あるアイデンティティを把握することを目的とする。この授業では、日本語あるいは外国語で書かれた文献の読解、定められたテーマについての調査、発表、討論などを通じて、受講生が主体的に参加する授業を行う。	
		東ヨーロッパ地域研究A	東ヨーロッパは「文明の十字路」といわれる。歴史的にはハプスブルク帝国、ポーランド＝リトアニア共和国、ロシア帝国、オスマン帝国などの複数の巨大な大陸帝国が交錯した。20ほどの諸民族が共存・抗争を繰り返して、キリスト教の諸宗派（カトリック、ルター派、カルヴァン派、東方典礼カトリック、フス派、正教）がせめぎ合い、これらとユダヤ教・イスラム教とが接触する場でもあった。それゆえに東欧は、文化的な多様性を特色とするユニークな場なのである。この授業は、歴史・民族・宗教・文化の4つの側面から東欧を考察する。	
		東ヨーロッパ地域研究B	東ヨーロッパには、ロシア人、ウクライナ人などの東スラヴ族、ポーランド人、チェコ人、スロヴァキア人などの西スラヴ族、ブルガリア人、セルビア人、クロアチア人などの南スラヴ族、そして、異なる言語系統のハンガリー人が住んでいる。また、20世紀には二度の世界大戦が勃発し、東西対立の舞台にもなった。この授業では、近年EUに加盟した東ヨーロッパ地域について、過去から現在へと至るその歴史、習俗、宗教、文化、芸術に関する文献の講読や発表、討論などを通じて、受講生自身が主体的に参加する授業を行う。	
		アメリカ地域研究A	世界に対する影響力が多大であるにもかかわらず、アメリカを体系的に学び理解する機会はずしも多くない。この授業では、アメリカの歴史、文化、社会、政治、経済、外交、また大衆文化といったアメリカを構成するさまざまな要素についての理解を通して、アメリカに対する総合的な知識を構築することを目的とする。アメリカに関する基本的な事項を学修していくなかで、受講生それぞれが、アメリカに対する断片的な知識をつなぎ合わせ、体系化していくことを目指す。	
		アメリカ地域研究B	世界に対する影響力の大きさゆえに、アメリカに関する情報は日々、さまざまな、日本において配信されている。その一方で、アメリカという国を歴史や社会・文化的脈絡の中で理解する機会はずしも多くない。理念国家としてのアメリカの歴史、政治制度、社会問題、文化事象、人種間関係といったさまざまな観点からの考察を通して、アメリカに対する真の理解に努めることをこの授業の主眼とする。アメリカについての知識を蓄えることから生まれるアメリカに対する知的好奇心の高まりを、受講生自身が感じ取ることのできる場となることを目指す。	
	源流	ギリシア・ローマ思想	古代ギリシアの思想的伝統は古代ローマの受容をへて、中世、ルネサンス、近代、現代へと伝えられ、さまざまな角度から絶えずとらえなおされ、新たな意味を見いだされてきた。古代ギリシア・ローマの思想は、現在の日本にも多大な影響を与える西洋思想の源流であるとみなされる。この授業では、古代ギリシア・ローマ人の思想について、たとえば世界や人間、個人と社会の関係、生と死について、彼らがどのようにとらえていたかを多様な側面から概観するとともに、その思想が後代にどのように受け継がれていったのかを考える。	
		中世・ルネサンス論	ローマ帝国崩壊後、西ヨーロッパに形成された中世社会は、社会制度・宗教・生活文化・美術などさまざまな側面で、ヨーロッパ社会の揺籃期とされる。またローマ帝国の首都となったコンスタンティノポリスを中心に展開したビザンティン帝国の文化や政治的勢力もヨーロッパに大きな影響を及ぼした。古代世界を継承しつつ、中世の新たな文化はどのようにして育まれたのか。この授業では、中世からルネサンスにかけてのヨーロッパの歴史、文化、宗教、建築、美術、科学、食文化、服飾などの中から、担当教員が適宜テーマを選び、講義を行う。	

科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
IV 主 専 攻 科 目	源 流	キリスト教入門	ヨーロッパとアメリカの社会や文化を理解するうえで、キリスト教への理解は必須である。ローマ帝国がキリスト教を国教としたことによって、キリスト教は国家の基盤となり、その思想、祭り、習俗、文学、美術、建築、そして日々の暮らしにいたるまで、大きな影響を与えている。キリスト教への正しい理解は、西洋世界を学ぶために欠かせない。この授業は、キリスト教の成り立ちと展開に関する講義、あるいは聖書講読などを通じて、キリスト教についての基礎的な知識を修得することを目的とする。	
		西洋の現代思想	思想は古代以来、長い歴史的展開を見てきたが、とりわけ現代においては、人間や社会についてのダイナミックな省察を繰り返し、時には社会全体を大きく動かし変化させるようなインパクトをも生み出してきた。現代において、思想的営為は、人間、社会、宗教、芸術、政治、文化など、さまざまな事象に関わる重要な知的営みなのである。この授業では、ヨーロッパやアメリカにおける現代思想の展開をたどり、その内容を理解するとともに、人類の未来に対してそれが持つ大きな可能性を探ることを目的とする。	
		ヨーロッパの科学史	ヨーロッパの科学の歴史の源流は古代ギリシア文明にある。そこから古代ローマ文明や中世をへて、ルネサンス期以降急速に発展し、科学革命と呼ばれる時代に入る。これは近代において、新しいものの見方・考え方である科学的方法論が成立したことを意味する。この授業では、古代ギリシア、古代ローマ時代から中世におけるスコラ学、そして12世紀ルネサンスや科学革命にいたるヨーロッパにおける科学の発展の歴史とそれを支えた科学思想の変遷について扱う。	
		原典を読む	この授業は、人類史上で古典として評価の定まった文学者や哲学者、歴史家、科学者らの著作を読み進めることで、直接彼らの思想に触れることを目的としている。実際に日本語訳の原典や、ときには外国語の原文を丹念に細かく読み解くことによって、その魅力を味わいながら、知の巨人たちの知的営為に関する理解を深めることを目指す。担当教員が適宜テーマや原典を選び、講義を行う。受講生は積極的に授業に参加し、テキストの読解や討論を行う。	
	多 様 性	ヨーロッパの都市と文化A	古代ローマ、中世、ルネサンス、バロック、そして近現代にいたるまで、ヨーロッパの諸都市はそれぞれの時代に独自の発展をとげてきた。また、都市は文化の基盤を担う共同体として、ヨーロッパにおいて重要な役割を担ってきた。この授業では、ヨーロッパ諸都市の歴史的展開や、都市の政治的、経済的、宗教的な側面、あるいは都市が生み出した建築、芸術、文学、思想などを概観し、多角的に検討することを主眼とする。そのうえで、ヨーロッパにおける都市の位置づけについて考察することを目的とする。	
		ヨーロッパの都市と文化B	古代ローマ、中世、ルネサンス、バロック、そして近現代にいたるまで、ヨーロッパの諸都市はそれぞれの時代に独自の発展をとげてきた。また、都市は文化の基盤を担う共同体として、ヨーロッパにおいて重要な役割を担ってきた。この授業では、ヨーロッパ諸都市の歴史的展開や、都市の政治的、経済的、宗教的な側面、あるいは都市が生み出した建築、芸術、文学、思想などについて、関連するテキストの講読や、それぞれの受講生の問題関心に沿って設定されたテーマについての調査や発表、討論などを行う。	
		比較文化論A	この授業では、ヨーロッパやアメリカの文化を理解するために、「比較」という手法を導入する。これは、ヨーロッパとアメリカとの比較という意味に限定されず、それぞれの地域内そして日本などの他地域との比較も含意されている。文化を比較することは、文化の独自性・融合性の理解へとつながる。また、文化間の接触や軋轢を知ることで、マイノリティ文化にも目を向けながら多文化共生への視座を獲得してもらうことを目的としている。	
		比較文化論B	この授業では、ヨーロッパやアメリカの文化を理解するために、「比較」という手法を導入し、それを発展させることに目標が置かれる。複数の地域間の比較を、講義者からの材料提供や、ときには講読や受講生報告などを通じて、参加者同士でヨーロッパ・アメリカの文化事象を紹介しながら質疑応答することで進められる。このように、比較文化論Aに比べて、主体的な参加が要求される。それにより、「応用可能な知」としての比較文化を修得してもらう。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
IV 主専攻科目	多 様 性	ヨーロッパとアメリカ	大西洋を隔てて位置するヨーロッパとアメリカは、15世紀に始まる大航海時代以来、どのような関係を築いてきたのであろうか。ヨーロッパとアメリカにとって、異文化との最初の出会いはどのようなものであったのか、また本国と植民地、元宗主国と独立国といった関係性を経て、二大陸間の関係はこれまでどのように変化してきたのであろうか。この授業では、相互に影響しあい、また反発を繰り返しながら協調と緊張関係のいずれをも経験してきたヨーロッパとアメリカの関係性について、さまざまな視点から考察を深めることとする。	
		日本とヨーロッパ	日本とヨーロッパは長い歴史のなかで絶えず交流を持ち続けてきた。それは交易などによる物質的・経済的な交流、文物の輸出入などによる文化的・精神的な交流、そしてそれらに不可欠な人的な交流である。この授業では、日本とヨーロッパとがさまざまな局面で接触してきたことを、経済・文化・精神・人などの関連から、読み解くことを主眼とする。これはまた、グローバル化が進む日本社会における未来の文化交流像を模索する思考法とも関連づけることができる。	
		日本とアメリカ	戦後、世界の超大国となったアメリカ合衆国は、世界に多大な影響を与える存在であり続けている。日本にとってもアメリカの存在は極めて重要であり、日本の現在を正しく認識し、未来を展望するためには、二国間関係を理解することが肝要であろう。この授業では、日本とアメリカの相互影響について、経済・文化・政治・思想・人などの交流の観点から理解を深めていくことを主眼とする。二国間の比較や影響について深く考察することにより、グローバルな視点から自国について客観的に認識する力を育成する。	
		民俗文化研究A	文化学における民俗は、日常生活に近接した有形無形の文化を指し示す。それは、大文字の「政治」による上からの文化社会理解ではなく、生活者からみた文化社会研究は多様な社会理解の材料をもたらしてくれるだろう。この材料から、担当する教員が設定するテーマに沿って、ヨーロッパやアメリカの多様な生活世界を描き出すことがこの授業の目的である。受講生はヨーロッパ・アメリカ文化の深層を理解するとともに、多文化共生のヒントを得ることになるであろう。	
		民俗文化研究B	文化学における民俗は、日常生活に近接した有形無形の文化を指し示す。それは、大文字の「政治」による上からの文化社会理解ではなく、生活者からみた文化社会研究は多様な社会理解の材料をもたらしてくれるだろう。この授業では、異文化衝突の解決や多文化の共生のヒントを得るために、参加者による積極的な参加・議論によって、21世紀における民俗文化の意味を考えてもらう。それはまた、「生活者」である受講生自身の「ありよう」の問題とも直結している。	
		スポーツ文化研究	西洋のスポーツの起源は古代ギリシアにさかのぼる。オリンピックの起源は古代ギリシアのオリンピアでおこなわれた競技祭であり、最古の開催は紀元前776年であると伝えられている。その後、スポーツの伝統は古代から中世へと受け継がれ、現在まで続く。文化・社会・経済・政治など多様な側面に関して、ヨーロッパ・アメリカを理解するために、スポーツは欠かすことができない。この授業では、スポーツを文化的な営みととらえ、その源流や歴史、社会的な位置づけについてなど、多様な側面からスポーツ文化について考察する。	
	文学・芸術分野	ギリシア・ローマの世界A	西洋文化の起源はギリシア・ローマの世界にある。文学、哲学、自然科学、民主政など、現在のヨーロッパ文化の基盤となる諸要素がギリシアで誕生した。その知的遺産はヘレニズム時代を経て、ローマへと受け継がれる。ローマは地中海世界を統一し、政治システムや都市制度を整えながら、ヨーロッパの基礎となるラテン語による文化を発展させた。この授業は、西洋の古典であるギリシア・ローマ文化の形成と発展を多角的にとらえることを主眼とし、西洋の源流を考察する。	
		ギリシア・ローマの世界B	西洋文化の起源はギリシア・ローマの世界にある。現在のヨーロッパの基盤となる諸要素は、人間中心的・合理主義精神を特徴とするギリシアで誕生し、地中海を統一したローマで新たな展開を迎える。この授業は、ギリシアとローマに関する文献資料の読解を行いながら、西洋の源流を理解することを主眼とする。そして、受講生の積極的な参加と議論を通じて、ギリシア・ローマの世界について考察し、現在の日本にも多大な影響を与えてきた西洋の古典が持つ意義を考える。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
IV 主専攻科目	文学・芸術分野	ヨーロッパ芸術論 A	西洋世界の理解にとって、芸術の理解は欠かせない。古代世界から継承され、キリスト教の影響を受けながら独自の世界を育み発展したのち、宗教革命を契機として、注文主が世俗領主と教会から市民へと変化すると、絵画の主題も大きく変化する。社会の変遷を映す鏡なのである。この授業では、絵画や彫刻といった視覚芸術や、音楽、演劇、映画、芸術理論などの多様な対象のなかから、担当教員がテーマを選び、ヨーロッパ的芸術の特質と問題を論じる講義形式の授業である。	
		ヨーロッパ芸術論 B	西洋世界の理解にとって、芸術の理解は欠かせない。古代世界から継承され、キリスト教の影響を受けながら独自の世界を育み発展したのち、宗教革命を契機として、注文主が世俗領主と教会から市民へと変化すると、絵画の主題も大きく変化する。社会の変遷を映す鏡なのである。この授業では、担当教員が特定のテーマを設定し、具体的な作品に接することで、それぞれの受講生に芸術とはなにかを考察してもらう。関連文献の講読、作品鑑賞と批評、実習、発表やディスカッションなど、受講生が積極的に参加する授業を目指す。	
		西洋文学の世界 A	古代ギリシア・ローマの時代から、中世、ルネサンス、近現代にいたるまで、西洋における文学は文化の中心に位置づけられてきた。また、文学作品は多様な文化を構築するのみならず、社会や政治、歴史的な動向にまで大きな影響を与えた。この授業では、ヨーロッパを理解するために不可欠な西洋文学を概観することを主眼とする。そして、社会的、文化的、歴史的側面など、多様な観点から文学の持つ意義を考察することを目的とする。また、外国文学を翻訳することや翻訳の持つ役割についての検討なども考察の対象となる。	
		西洋文学の世界 B	古代ギリシア・ローマの時代から、中世、ルネサンス、近現代にいたるまで、西洋における文学は文化の中心に位置づけられてきた。また、文学作品は多様な文化を構築するのみならず、社会や政治、歴史的な動向にまで大きな影響を与えた。この授業では、担当教員が設定するテーマに従って、実際に日本語訳の原典やときには外国語の原文を精読することで、それぞれの文学作品の持つ意味を受講生に考察してもらう。受講生は積極的に授業に参加し、テキストを読解するほか、発表や討論などを通じて、西洋文学の持つ意義について検討する。	
	宗教・思想分野	ギリシア・ローマの神話	神話はたんなる古いおとぎ話ではなく、西洋の源流であるギリシア・ローマの人々にとって、文化の中核をなす要素であった。文学は神話と密接なかわりを持つ。神々のために神殿や彫刻が造られ、各種の芸術の発展を促してきた。神話に裏付けられた儀礼は日常の生活のなかに浸透し、国政にも欠かすことのできない営みであった。学問の展開と発展にも、神話は影響を与えた。この授業では、ギリシア・ローマ神話を深く理解するとともに、神話の読み方や解釈、地域や時代を越えて与える影響について考察する。	
		キリスト教文化	ヨーロッパとアメリカの社会の根底には、キリスト教の思想や文化がある。この授業では、キリスト教とはどのような宗教なのか、またどのような影響を西洋社会に与えているのか、古代から現代までのキリスト教に関連したさまざまな歴史・文化・事象・事件のなかから、担当教員の専門領域に沿ってテーマを選び、授業を行う。講義形式をとるが、受講生に考察を促すため、場合によっては発表やディスカッションなどの課題を課す場合もある。	
		ヨーロッパ近代哲学	(概要) 哲学は人間や世界の本質について考える学問である。とりわけヨーロッパの近代哲学は、人間や世界、社会や自然といった問題を、主体性や理性といった要素を中心に展開してきた。そして一見抽象的な問題を扱う営みであるにもかかわらず、近代哲学は、ヨーロッパ近代文明の出現と展開にとって本質的な基盤と独自の力を与えてきたのである。この授業では、もっぱら17世紀から今日までの哲学の流れの中からいくつかの哲学者や哲学的なテーマをとりあげる。そして同時に、哲学的に考えるということの大切さを学んでいきたい。 (オムニバス方式／全30回) (3 中川久嗣／15回) フランス哲学・思想を中心に講義を行う。 (37 浅見聡／15回) ドイツ哲学・思想を中心に講義を行う。	オムニバス方式

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
IV 主専攻科目	歴史・社会分野	ヨーロッパ民族問題	現代のヨーロッパの国々は根深い問題を抱えている。最近では、イギリスのEU離脱問題、ウクライナ・クリミア問題、テロなどがその典型例である。こうした問題の背後には、ナショナリズム、マイノリティ、エスニシティ、宗教、難民、移民、外国人労働者といった複雑に絡み合った複数の問題がある。安定した社会秩序を作り上げてきたヨーロッパで、なぜ今、こうした問題が起こるのか、民族問題を切り口にこの理由を解明する。現在のヨーロッパを理解するためには、近現代の複雑な民族問題の根源を正確に把握することが不可欠である。	
		西洋世界の形成	ヨーロッパ諸国は現在、17世紀以来慣れ親しんできた国家システムから脱皮して、グローバル化時代に対応した新しい形態の国家へと変貌しようとしている。EUという超国家システムの出現は、まさに、そうしたヨーロッパ人の歴史的挑戦を端的に表している。近現代のヨーロッパとアメリカの世界的発展は周知の通りである。ではなぜ、西洋世界が先陣を切って、従来の国家の枠組みを超える動きを展開しているのか。その問題点はなにか。この授業は西洋世界の形成と発展を分析し、西洋世界が背負い続けている歴史的課題を明らかにする。	
		ヨーロッパの戦争と文明	(概要) 戦争は、人間の文明の歴史の中で、つねにその生々しい裏面を形作ってきた。文明の歴史や現実を理解するためには、華やかな表舞台を見ていだけでは不十分である。例えばその時々の科学技術は常に戦争に利用されてきたし、表舞台の文化や芸術さえもが、しばしば戦争と深く関わってきたのである。文明の真の姿をとらえるためには、人間が繰り返してきた戦争についての考察も必要不可欠である。この授業ではヨーロッパの戦争の歴史を振り返り、それがヨーロッパ文明の発展・展開においてどのような意味を持つものであったのかを考える。 (オムニバス方式／全30回) (3 中川久嗣／15回) 古代から中世にいたる時代に焦点をあてる。 (9 柳原伸洋／15回) 近世から現代にいたる時代に焦点をあてる。	オムニバス方式
		現代文化論	ヨーロッパ及びアメリカは、近代を中心に、世界の中でも高度に発達した文化を生みだし、周辺へと発信してきた。しかし現代では、ヨーロッパ・アメリカ以外の文化からも大きな影響を受けて、みずからの文化の内容をさらに変化させている。例えば映画や音楽、演劇や美術などではそれが顕著である。そうした現代ヨーロッパ・アメリカのさまざまな文化的展開の様子を解説し、今なお変容を遂げているヨーロッパ・アメリカの現在の姿に触れてもらう。	
		マイノリティと社会	ヨーロッパ社会を理解するためにも、アメリカ社会を理解するためにも、マイノリティという存在への視座なくしての理解は難しい。マイノリティの存在が誕生する過程はヨーロッパ、アメリカそれぞれに違い、マイノリティを構成する人々も、抱える問題もまたそれぞれに異なるが、マイノリティに主眼を置いてヨーロッパ・アメリカ社会を見ることがこの授業の目的である。両社会のマイノリティに目を向けることは、人種的、民族的多様さの理解へとつながる。また、異文化間の軋轢や衝突を普遍的な事象として捉えることができるようになろう。	
		アメリカ文化の諸相	アメリカの文化は、イギリスの文化を源流としながら、多様な移民を受け入れるなかで、アメリカ固有のものとして形成されていった。それは、民主主義、資本主義の思想を基盤としながら、プロテスタンティズム、近代科学、合理性、大衆文化、消費文化などと緊密に結びついたアメリカ独自の特徴を持つものである。この授業では、このような多様な側面をもつアメリカの文化について、歴史的、思想的、物質的、経済的、政治的、宗教的な側面から読み解いていく。これらの学びを通じて、アメリカに関する総合的な理解を深めていく。	
	特殊講義	ヨーロッパ・アメリカ特殊講義A	この授業は、ヨーロッパ・アメリカ学科の教員が専門とするテーマを取り上げながら、それらについて深く探求する授業である。この授業の目的は、各教員の専門分野・テーマについて詳細な論説に接し、あるいは教員と受講生が議論を重ねることにより、より専門的な知識を修得することである。また、卒業研究のための指針としたり、現代社会の抱える複雑な問題に対する解決の糸口を追求することと結びつく。この授業では、ヨーロッパやアメリカに関して、「多様な文化」という観点から考察することを主眼とする。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
IV 主専攻科目	特殊講義	ヨーロッパ・アメリカ特殊講義 B	この授業は、ヨーロッパ・アメリカ学科の教員が専門とするテーマを取り上げながら、それらについて深く探求する授業である。この授業の目的は、各教員の専門分野・テーマについて詳細な論説に接し、あるいは教員と受講生が議論を重ねることにより、より専門的な知識を修得することである。また、卒業研究のための指針としたり、現代社会の抱える複雑な問題に対する解決の糸口を追求することと結びつく。この授業では、ヨーロッパやアメリカについて、文献学的な観点から考察することを主眼とする。	
		ヨーロッパ・アメリカ特殊講義 C	この授業は、ヨーロッパ・アメリカ学科の教員が専門とするテーマを取り上げながら、それらについて深く探求する授業である。この授業の目的は、各教員の専門分野・テーマについて詳細な論説に接し、あるいは教員と受講生が議論を重ねることにより、より専門的な知識を修得することである。また、卒業研究のための指針としたり、現代社会の抱える複雑な問題に対する解決の糸口を追求することと結びつく。この授業では、ヨーロッパやアメリカ地域研究において、歴史学的な観点から考察することを主眼とする。	
		ヨーロッパ・アメリカ特殊講義 D	この授業は、ヨーロッパ・アメリカ学科の教員が専門とするテーマを取り上げながら、それらについて深く探求する授業である。この授業の目的は、各教員の専門分野・テーマについて詳細な論説に接し、あるいは教員と受講生が議論を重ねることにより、より専門的な知識を修得することである。また、卒業研究のための指針としたり、現代社会の抱える複雑な問題に対する解決の糸口を追求することと結びつく。この授業では、ヨーロッパやアメリカ地域研究において、文化史的な観点から考察することを主眼とする。	
	卒業論文	基礎ゼミナール 1	「基礎ゼミナール 1」は、これまでの大学での学修を基礎に、受講生自身の興味や関心に沿ってテーマを定め、研究の第一歩を踏み出すための授業である。研究の設定、進め方、手続きのほか、プレゼンテーションの仕方、レポートや論文の作成方法、各種文献・学術論文・図表などの扱い方や読解方法など、少人数編成のクラスで担当教員から具体的かつ詳細に手ほどきを受ける。特に「基礎ゼミナール 1」では、以上の手続きのほか、卒業論文に向けての導入となるオリエンテーションも行う。	
		基礎ゼミナール 2	「基礎ゼミナール 1」の成果をふまえ、各自の関心に基づき、卒業論文の執筆にそなえて自分の研究テーマを絞り込み、より深い研究を行うことがこの授業の目的である。「ゼミナール 2」では、より専門的なテーマを設定し、その詳細な分析を行なう。そのために著書や研究論文の調査をし、これらを読解しなければならない。こうして学説史の整理が可能となる。その後は、各自の発表をもとに、ディスカッションが繰り返される。学期末には、卒業論文につながる比較的長いレポートの提出が課される。	
		卒業論文 1	4 年間の学修の集大成として卒業論文の作成に取り組む。「基礎ゼミナール 1・2」において整理し、まとめた土台の上に独自の視点と考察を加え、客観的な論証と論理的な思考能力をもとに、適宜、指導教員のアドバイスを受けながら、テーマに沿った必要な文献資料を集め、それらの読解・分析を行う。先行研究の方法や視点を改めて批判的に検討したうえで、自分の考えを整理し、方向づけ、何を議論の対象とするかを明確にすることを目指す。以上を踏まえつつ、受講生が実証的な卒業論文を執筆するための補助をする。	
		卒業論文 2	「卒業論文 2」は「卒業論文 1」の成果をふまえ、卒業論文の具体的構想（タイトル、章立て、あらすじ、結論の方向など）を練り、実際に執筆をする。つねに事実即した分析と客観的な資料読解が必要であること、論証作業は客観的で説得的でなければならないことを重視する。こうして執筆した論文は、その一部あるいは大まかな要旨を、授業の中間発表会で報告し、指導教員や他の受講生の助言や批判をうける。最終的に、オリジナリティのある論文になるように仕上げ、内容と形式の整った卒業論文を完成させる。	
	実地研修	ヨーロッパ・アメリカ実地研修	この授業は、ヨーロッパやアメリカの諸地域について、机上の勉強だけでなく、実際に現地に赴いて、その社会・歴史・文化などを直接学修することを目的とする。研修先としては、西ヨーロッパ、東ヨーロッパ、ロシア、地中海地域、北アメリカの国々が予定される。春学期に講義形式での事前学修を行った後、引率教員とともにサマーセッションとして現地研修を実施する。各地の遺跡、歴史的建造物、博物館、美術館などでの学修のほか、自由研修日を活用して現地の生活を直接体験することも試みてもらいたい。	

科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
IV 主 専 攻 科 目	言 語 科 目	イタリア語とイタリア文化 1	イタリア語はロマンス語に属し、起源は古代ローマ人の用いた口語ラテン語（俗ラテン語）にさかのぼる。現在はイタリア共和国とスイス連邦の公用語である。この授業では、そのイタリア語の発音と初歩的な文法を学び、簡単な文章を読んだり、やさしい会話の練習をする。また、イタリアの料理、ファッション、デザイン、サッカー、自動車、遺跡、そしてルネサンス文化、芸術家ダ・ヴィンチやミケランジェロ、科学者ガリレオといった天才たちなど、イタリアの文化についても触れながら、楽しくイタリア語を学んでいくことを目指す。	
		イタリア語とイタリア文化 2	「イタリア語とイタリア文化 2」では、「イタリア語とイタリア文化 1」で学んだ文法の知識を確実なものとし、さらに進んだ知識を身につけ、ある程度の内容のある文章を読めるようになることを目指す。また平易なイタリア語作文、会話の初歩なども学ぶ。さらに語学の修得と同時に、イタリアについてよりいっそう造詣を深めてもらうため、さまざまな分野の文化的トピックについても触れ、楽しくイタリア語を学んでいくことを目指す。	
		ギリシア語入門 1	西欧文明を支えた精神的支柱として古典古代、とりわけ古代ギリシアの哲学や文学は、過去に大きな役割を果たし、時代を超え、地域を越えて現在もなお私たちの文化に深い影響を与えている。この授業では、古典ギリシア語で記述された文献を直接読解するために必要となる基礎的な文法事項を修得することを目的としている。また学修の過程でギリシア語で書かれた古典の諸作品の一節や、古代ギリシアの文化的側面に触れるなどして、ギリシア語修得の一助とする。	
		ギリシア語入門 2	この授業は、すでに「ギリシア語入門 1」を履修した者および同等の知識を有する者を対象とし、さらに古典ギリシア語で記述された文献を直接読解するために必要となる基礎的な文法事項を修得することを目的としている。授業は「ギリシア語入門 1」と同様に、あらかじめ決められたギリシア語の教科書に沿って進められ、各單元における文法事項の解説と練習問題の解答が中心となる。受講生は当該箇所に配された練習問題を事前学修として課せられるとともに、授業後の復習やテキスト読解を通じて、ギリシア語知識の定着を目指す。	
		ラテン語入門 1	ラテン語は古代ローマ人が使用していた言語であり、地中海世界における公用語の地位を長く得ていた。また古代ローマの滅亡後も、文学、行政、法律、学問、キリスト教会の共通語として使われ続けることによって、西洋文明の形成に大きな役割を果たした。この授業では、ラテン語の基礎的な初等文法を学ぶことを主な目的として、文法事項を解説し、練習問題を行う。また、ラテン語の歴史、ロマンス諸語との関係など、ラテン語に関する周辺的な事項についても触れることで、その影響の深さについても考える。	
		ラテン語入門 2	ラテン語は、古代ローマ人の言語であり、ローマ帝国の広大な領土内の公用語として用いられ、また中世以降のヨーロッパ世界においても大きな影響力を持ち続けることによって、西洋文明の形成に重要な役割を果たした。この授業は、「ラテン語 1」を履修した者および同等の知識を有する者を対象とし、ラテン語で記述された文献を読解するために必要な基礎的な文法をさらに修得することを目的としている。授業は文法事項の解説と練習問題の解答を中心として進められ、ラテン語知識の定着を目指す。	
		東欧諸語	東ヨーロッパには、スラヴ系に属す西スラヴ語（ポーランド語、チェコ語、スロヴァキア語など）と南スラヴ語（ブルガリア語、セルビア語、クロアチア語など）が存在する。また、東ヨーロッパ地域の民族的・言語的多様性を象徴するかのように、スラヴ系とは異なるウラル系のハンガリー語が、西スラヴ語と南スラヴ語の空間の合間をぬって併存している。この授業では、東ヨーロッパの言語的多様性をカバーすることのできるポーランド語、ブルガリア語、ハンガリー語の履修を可能とする。授業は、基礎的な初級文法を学ぶことを主目的とする。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
IV 主専攻科目	学部 教養科目	ことばの世界	「ことば」は人間を人間たらしめている大切なツールであり、人間は「ことば」によって生活し、歴史を刻み、世界を発展させてきた。「ことば」と「コミュニケーション」は文化・社会系の学部が特に大切にしている分野である。この講義は文化社会学部の基礎的な科目として設置されており、特に新入生に「ことば」や「表現」や「コミュニケーション」の面白さ、大切さ、奥深さを知ってもらうことを通して、文章を読み解く力を磨くことを目標とする。	
		知のフロンティア	グローバル化が進み、技術や組織あるいは社会を構成する人々の意識や価値観など、現代社会のさまざまな分野で急速な変化が進み、さらにそのスピードはますます高まっている。しかも各分野の様々な事象は加速度的にかつ複雑に交差しつつあり、社会では特定の分野や考え方にとらわれない広い視野と柔軟な発想が求められている。本授業では、現代のさきがけとなる学問研究上の諸成果の中から学科の枠にとらわれない知的刺激に富んだテーマを取り上げ、学部横断的視点から知の最前線について平易に学んでもらうことを目的とする。	
		基礎情報処理 1	現代は高度情報化社会となり、あらゆる分野で自ら考える力を育成するためにも、コンピュータの操作技術と知識が必要とされる。本科目は、そのような社会的要請に答えて、基本的なコンピュータ活用能力を養うと共にコンピュータや高度情報化社会に関する基礎知識の習得を目標としている。具体的には、コンピュータの基本操作から始まり、ワードプロセッサによる日本語文書処理、表計算ソフトによるデータ整理とグラフ作成、マルチメディア・プレゼンテーション、さらにインターネットの活用(電子メールによる情報交換、Web情報検索)などの実習を行う。	
		文章表現法	現代社会のコミュニケーションにおいて、話し言葉による表現と、書き言葉による表現はともにきわめて重要な役割を有している。本科目は、このうち書き言葉による表現(文章表現)能力の養成と向上をはかることを目的とする。すなわち、大学におけるレポート・卒業論文等から、卒業後の社会生活における様々な性格の文章にいたるまで、多様な文章表現の基礎となる表現上の知識および論理的な文章の作成方法を、実際の執筆作業を通じて実践的に学ぶことが本授業の中核である。	
		古文基礎	本授業では古文・漢文を読むための基礎的な力を養成する。国語科の教員養成のための基礎科目であるとともに、日本史・中国史・日本文学等を学ぶにあたって必須の漢文を読むため古典文法の力を養うために、力が確実に身につくような実践的な内容とする。また、古典常識や基礎的な古典文学史も教員養成の観点からおさえることを目的とする。高校までの古文の学習のリメディアル的な要素を持ちながら、より発展的な力を養成する。	
		アラビア語入門 1	アラビア語は、東はイラクから西はモロッコにいたるアラブ諸国の共通語であるばかりでなく、国連の公用語のひとつでもある。さらにはコーランの言葉として、アラブ以外の全世界のイスラム教徒にとっての意義も大きい。ただし、アラビア語は、日本語とは大きく異なるセム系の言語で、文字表記も子音文字中心で短母音も一般の文章では原則として表記されない。このような言語であるため、最初の入門科目である本科目では、アラビア文字の発音、書き方、読み方、初歩的文法の習得を目標とする。	
		トルコ語入門 1	トルコ語は、西アジア・中央アジアを代表する民族のひとつであり、同地域の文明の形成に大きな役割をはたしてきたトルコ人の言語である。トルコ語の学習は中央ユーラシアに広がるトルコ系諸文化を理解することにも繋がっている。本科目では、現在のトルコ共和国で用いられている現代トルコ語を学習する。現代トルコ語の表記はローマ字であり、文法構造も日本語と類似しているので、マスターしやすい。本科目では、文法の基礎を習得して、平易な文章を読めるようになることを目標にするとともに、簡単な日常会話の練習も行なう。	
		ヒンディー語入門 1	ヒンディー語はインドの連邦公用語であり、人口10億をこえるインド国民の過半数が理解する、世界第三位の話者人口をもつ大言語である。インドに興味をもつ人は、その文明を根底から把握するために、ぜひとも理解しておきたい言語である。インド・ヨーロッパ系の言語であるヒンディー語は、文字表記は独特とはいえ明快な言語である。本科目は、インド理解の前提として、ヒンディー語の基礎、すなわち、発音・文字・初級文法の把握を目標とする。	
		ペルシア語入門 1	イランの国語であるペルシア語は、アラビア語と並んで、西アジアを代表する大言語のひとつである。また前近代におけるペルシア語文化圏の広がり、西アジアばかりでなく、中央アジアや北インドをも覆い、これらの地域の文明を支えてきた。ペルシア語はインド・ヨーロッパ系の言語であるが、動詞が文末にくるなど日本語との類似点もある。文字は子音中心の表記である。本科目は、このようなペルシア語の基礎、すなわち、ペルシア文字の発音、書き方、読み方、初歩的文法の習得を目標とする。	

科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
IV 主 専 攻 科 目	教 職 科 目	東洋史概説	日本では、明治になって近代的学問が導入されて以来、東洋史学は中国史を中心に発展してきた。その伝統を基本的に維持しつつも、現在では、その研究分野はアジア全域にまで拡大している。こうした歴史的経緯を踏まえ、この授業では、中国を中心とした東アジアをはじめ、それに隣接する諸地域との関連も含めながら、その歴史的状況とその文化的な多様性とを広く学び、それらに関する基礎的知識を習得することを主な目的とする。	
		日本史概説	現代日本は、長い歴史の背景の上に成り立っているものであり、日本社会を理解するには、日本歴史についての理解が不可欠である。また国際交流を進めるうえでも、日本と近隣諸国や欧米諸国との歴史的関係についての認識が必要である。授業では、基本的には受講生に日本史についての通史的知識を持たせることを目標とするが、日本史研究の方法や視点についても紹介する。これらによって、日本社会を歴史的に捉える力を養うように努めたい。	
		西洋史概説	西洋史概説は、世界史の発展の諸時期における西洋の政治・社会・経済・文化などの固有の特質を理解することを目的としている。授業では西洋世界の歴史を時代順に通観していくが、西洋史の対象とする地域と時代は広範であり、すべてを取り上げることはできない。そこで、西洋史研究の現代的意義を確認したうえで、単なる史実の説明ではなく、古代地中海世界の歴史的発展、古代から中世への移行、封建社会の発展と衰退、近代市民社会の成立、ヨーロッパの拡大、現代の西洋、といった重要な研究課題を中心に考察を深めていく。	
		自然地理学概論	人類をとりまく環境要素としての地形、陸水、気候・気象、動・植物などの自然現象は、相互にかかわり合いながら、全体としての体系をつくりあげている。近代以降の資源の開発利用や産業社会の発展など、人類による環境への一層の働きかけによって、これらの環境の諸要素と人類の関係は、環境問題という新しい局面を生みだし、人類の生存を脅かすものとなっている。授業では、取り上げられる自然現象の空間的な分布や変化の法則性を理解することで、われわれをとりまく環境について理解を深めることを目標とする。	
		人文地理学概論	人文地理学は多様な環境のもとにある地表空間に人類が形成する現象、すなわち居住、産業、交通、社会、文化などを対象とし、これらの現象相互間の有機的な関連性と、現象と環境の関わりに着目しつつ、現象の空間的な分布や立地のしくみを解明することを目的としている。講義では個別の地理的現象のみに目を奪われるのではなく、人文地理学の諸分野についての基礎知識を涵養し、現象を体系的に把握する視点と方法を理解することによって、地理学的な考え方を身につけることを目標とする。	
		地誌	人々は、相互にさまざまなつながりを持ちながら、農業や工業などの生産活動や、居住や消費などの生活活動を行っている。このような生産活動や生活活動の空間は、商品経済の発達や交通手段の発展とともに拡大してきたが、実際には限られた空間のなかで展開されている。この限られた空間を一般に地域と呼ぶ。「地誌」は特定の地域を対象とし、人類の諸活動はもとより、自然環境をも含めて総合的にとらえ、「地域性」を解明しようとする学問である。講義では地誌的なものの見方や考え方を身につけることを目標とする。	
		法学概論	私たちの日常生活は、さまざまな法によって生活が守られ、あるいは生活が規制されている。とりわけ価値観が多様化し、社会が急速に複雑化している今日においては、国家と人、人と人との相互関係を円滑にするルールが不可欠である。法は、社会秩序を維持する役割を担う一方で、個人の自由や権利を保障する機能も果たしていかなければならない。本講義では、単に法律知識を習得するのではなく、基本的な法的思考や法のあり方について、現実の社会生活と結びつけながら考察していくものである。	
		政治学原論	講義の進め方としては、まず、「政治と政治学」というタイトルのもとに、現代の社会科学の特色や、現代政治学の対象と方法など、政治学を学ぶに必要な予備的事項について解説する。次に、前半の講義では、「政治システム」、「政治文化」、「権力」、といった政治学の基礎的概念や、「政党」、「官僚組織」など政治の世界の行動主体が取り上げられる。そして後半では、前半で得た知識を基礎として、特に変貌する現代社会の問題を考えるために、現代の民主主義理論について考察する。	

科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
IV 主 専 攻 科 目	教 職 科 目	社会学概論	この授業の目標は、社会学を専門的に学ぶための基礎を身につけることにある。そのためにまず、社会学とはどのような学問であるか、その方法や歴史について、簡潔に説明する。そのうえで、「現代社会に生きる」とはどういうことなのか、家族・宗教・組織などいろいろな側面から考えなおすことをとおして、社会学がこれまで展開してきた主要な議論を紹介・解説する。その上で、現代社会が直面する様々な問題を社会的に分析した事例を学び、客観的に物事を分析する力を身につけることを目指す。	
		経済学概論	経済学概論は、経済学の二つの主要分野である「マクロ経済学」と「ミクロ経済学」の入門科目として位置づけられるものである。前者は、一国の生産や消費といった経済活動の水準がどのような仕組みで決まり、経済政策（財政・金融政策）が一国の経済水準にどのような影響を及ぼすかを扱う。後者は、市場経済がどのような特徴を持ち、その市場がどのように形成され、どう働くかを考えることについて分析する。両分野の基礎的な理論や研究事例を学ぶことを通じて、現代社会が直面する様々な問題を経済学的に分析する力を身につけることを目標とする。	
		哲学概論	日本語の「哲学」は西欧の翻訳語であるので、字を見てもほとんど意味が分からず、ただ厳めしいイメージのみが先行してしまっているが、もともとギリシアに始まったとされる哲学はphilo（愛）-sophia（知）が語源であり、広く一般に知を愛する学問、いや知を求めずにはいられないあらゆる人間の営みを指していた。哲学においては何故生きるのか、知るとはそもそもどういうことか、幸福とは何かといった、根本的な問いが繰り返し問われ続け、これらの問いを巡る先人たちの苦悩が刻まれている。この授業を通じて、自ら考える力を培うことを目標とする。	
		宗教学概論	宗教は、おそらく人類の歴史と同じほどに長い歴史をもつといえるものであるが、それを学問的に研究するという姿勢が現れたのはそれほど古いことではない。とくに、現代宗教学はようやく19世紀以来、当時の実証主義的学問傾向に歩調をあわせて発展してきたが、その発生と発達が主としてキリスト教の文明圏で行われてきたために、他の文明圏でも妥当するかが文明の根底を探る比較文明論的な問題となっている。こうした問題に留意しながら現代宗教学の理論や用語を理解しその意味と発展過程を概観する。	
		社会科・地理歴史科教育法 1	「社会科・地理歴史科教育法 1」は、中学校・高等学校の教員免許状取得に必要な「教職に関する科目」のうち、「教育課程及び指導法に関する科目」における「各教科の指導法」に該当する授業科目である。したがって、授業の目標や内容は、中学校・高等学校の「学習指導要領」やその解説にもとづいて設定される。「社会科・地理歴史科教育法 1」では、特に、中学校社会科・高等学校地理歴史科の教員として必要な当該教科の狙いや内容を学び、指導計画の作成法、指導方法、指導上の配慮事項などについての具体的、実践的な知識、技能を身につけることを目指す。	
		社会科・地理歴史科教育法 2	「社会科・地理歴史科教育法 2」は、中学校・高等学校の教員免許状取得に必要な「教職に関する科目」のうち、「教育課程及び指導法に関する科目」における「各教科の指導法」に該当する授業科目である。「社会科・地理歴史科教育法 1」が当該教科の狙いや教育内容・方法の基本的知識、技能に関するものであるのに対し、「社会科・地理歴史科教育法 2」はより実践的・具体的に授業の方法を習得することを目標とする。したがってその主要課題は、授業の指導案作成、生徒に対する発問の工夫、教材・教具の効果的な活用方法などの検討が中心課題となる。	
		社会科教材論	「社会科教材論」は、中学校教員免許状取得に必要な「教職に関する科目」のうち、「教育課程及び指導法に関する科目」における「各教科の指導法」に該当する授業科目である。「社会科教材論」では、学習指導要領に基づき、社会科の教科目標と教育内容を効果的に実現できるような教材の活用や作成方法について考察することをめざす。授業では、生徒たちが学習内容を正確に理解し、関心・興味が喚起されるようにするには教材をどのように工夫すべきかを考える。とくに教科書として用意されている教材内容を吟味するだけでなく、生徒の実態に合わせて、教師自ら、メディアなどを利用した効果的な教材を作成することも重要な課題となる。	

授 業 科 目 の 概 要					
(文化社会学部 北欧学科)					
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考		
Ⅰ 現代 文明 論	現代文明論	この科目は東海大学に学ぶすべての学生が、建学の精神を理解し自らの思想を培うために開講される。すなわち歴史や世界への見識を高め、人類社会のあり方を見直すことを通じて、地球規模で深刻化する困難な事態にあっても、時代を開拓しようとする力強い思考や意欲を養うことを目的としている。理系、文系の枠を超えて、現代の課題の根源を探るために不可欠な歴史的・系譜的な認識を深め、それを多様な角度から読み解く思考法を身につけるとともに、人間的価値に基づいた倫理観によって未来を選択しうることを学ぶ。			
	Ⅱ 現代 教養 科目	基礎 教養 科目	人文科学	人間は長い歴史の中で多くのことを考え、様々なものを生み出してきた。哲学、宗教等の思想や、文学、音楽、絵画など、現代まで残されているものもあれば、過去のある時代、ある地域で途絶えたものもある。これらは、どの時代や社会においても生きるうえで不可欠な営みであり、これを通じて人類の歴史は形成されている。この科目では、人間がどのような過去を歩み、どのようなことを考えてきたかを学び、現代社会から未来への思考や創造の可能性について考えていく。	
		社会科学	人間が生きて行くためには、集まり、秩序を作り、法やルールを持って、コミュニケーションや援助を行い、社会を形成していく。現代社会を見渡し、その問題点や未来を考える際には、その見方としての社会科学を学ぶ必要がある。この科目は、「法・政治」「経済・経営」「社会・福祉」「心理・教育」の分野において、それぞれの歴史、思想、メカニズム、理論、制度等について得た知識や考え方を、「社会を見るための道具として、使いこなすことが出来る力」として養うことを目的とする。		
自然科学		17世紀頃に生まれた「科学的方法」は、現代社会の礎となっており、仮説を立て、結果を予測し、実験や観測で正しいかを検証するという方法の積み重ねにより、現在も科学技術は進歩し続け、私たちの豊かな生活に繋がっている。この科目は、長い年月をかけて発展した物理学、化学、生物等の各分野の基本的な知識を学習し、講義で身に付けた基本的な知識や思考法を、日常的・職業的な生活に役立て、科学的要素を持つ社会問題に対しても、根拠を持って判断が出来る力を養うことを目的としている。			
発展 教養 科目	シティズンシップ	全ての人間は、基本的人権を持ち個人として尊重され、他者から不当な干渉を受けず、自分の人生を決める権利を持ち、この権利の下、人々は集い、社会を形成し、政治へ参加し、市民としての地位を持っている。現代社会においては、宗教、思想、人種、民族、文化、性別等が異なる、多くの人が生活しており、民主政治を形成しており、意見の相違を乗り越えて、お互いの陣形を尊重し合える社会を形成する必要がある。この科目では、シティズンシップの概念や歴史や、社会参加の方法等を、グループワークを交えて理解し、問題解決の方法を探っていく。			
	ボランティア	もともと、わが国においては、福祉分野を中心に地道なボランティア活動が根付いていたが、大規模な自然災害などを通じ、その関心は高まり、自らNPOを設立したり、市民活動に参加する人も増加している。この科目では、ボランティアの歴史や意味、ルールやマナーを学び、ボランティアを基盤として人の繋がりを広げていく活動や、問題解決型のボランティア活動等について、グループワークを交えて理解や興味を深めていくことを目的とする。			
	地域理解	人はみな特定の地域で生活し、豊かな生活を営むために、仲間を作り、議論し、協働して社会を作り上げていくことが求められている。この科目は、人口、自然、文化、産業、福祉、街づくり等の観点から、地域の課題を掘り起こす問題発見能力を身に付けることを目的とする。具体的には、校舎の所在地の周りの地域社会の実態や課題について探り、グループワークを交えてその解決策を考え、市民参加・参画の前提となる知識や観点を養っていく。			
	国際理解	地球上には70億人を超える人々が生活しており、様々な言語・文化・社会のもとに生活をしている。近年の情報や交通の発展により、遠く離れた地域、異なる文化や宗教、考えを持った人と緊密に触れ合うことが出来る社会になっている。この科目は、現代社会の現実を理解するため、時事問題の理解を深め、現在生じている諸問題を客観的に理解し、他者（異文化）との違いを容認する姿勢や態度、考え方、公平性を、グループワークを交えて養っていくことを目的とする。			

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
II 現代教養科目	健康スポーツ科目	健康・フィットネス理論実習	本授業では、生涯を通じて活力あるライフスタイルを形成するための理論と実践方法を講義と実習を通して学習する。また、健康・体力面だけでなく、仲間とともに身体活動を通しての「友達づくり」や「仲間との信頼関係づくり」を体験し、コミュニケーション能力の向上をねらいとする。具体的には、健康的な生活習慣を身につけることに重点を置き、健康に関する理論や重要性を理解するとともに、自己の体力に応じたフィットネスの実践能力を習得する。	
		生涯スポーツ理論実習	本授業では、生涯を通じて活力あるライフスタイルを形成するための理論と実践方法を講義と実習を通して学習する。また、健康・体力面だけでなく、仲間とともに身体活動を通しての「友達づくり」や「仲間との信頼関係づくり」を体験し、コミュニケーション能力の向上をねらいとする。具体的には、生涯を通じたスポーツライフスタイルの獲得に重点を置き、スポーツの”おもしろさ”や”大切さ”などを学び、ライフステージに応じたスポーツの楽しみ方と実践能力を習得する。	
III 英語科目	英語コミュニケーション科目	英語リスニング&スピーキング	国際化時代の今日、日本国内外を問わず言語や価値観そして文化の異なる人々と英語を使って意思疎通をはかることの重要性がさらに高まっている。その中での課題に柔軟に対応し、問題を解決するための実践的英語コミュニケーション能力の基盤を作ることを目標とする。学習者の英語力に合わせて効率よく学習できる習熟度別クラス編成で、多様な種類の英語を理解するリスニング力と、自分の意志を適切に表現するためのスピーキング力を相互に関連させながら、総合的に英語力の向上を図る。	
		英語リーディング&ライティング	国際化時代の今日、日本国内外を問わず言語や価値観そして文化の異なる人々と英語を使って意思疎通をはかることの重要性がさらに高まっている。その中での課題に柔軟に対応し、問題を解決するための実践的英語コミュニケーション能力の基盤を作ることを目標とする。学習者の英語力に合わせて効率よく学習できる習熟度別クラス編成で、多様な種類の英語を理解するリーディング力と、自分の意志を適切に表現するためのライティング力を相互に関連させながら、総合的に英語力の向上を図る。	
	グローバル人材育成科目	グローバルスキル	「英語リスニング&スピーキング」、「英語リーディング&ライティング」で培った英語の4技能をさらに伸ばすことを目標とする。リスニングにおいては、聞く目的に合わせて全体像を把握したり、必要な情報を聞き取ることができ、またスピーキングにおいては、様々な文化的背景・状況・相手に合った適切な表現を使って、議論・意見発表を含めた自己表現ができる等、国際社会で通用することを目指したより実践的な英語の総合的運用能力を養成する。	
		アカデミック英語	「英語リスニング&スピーキング」、「英語リーディング&ライティング」で培った英語の4技能をさらに伸ばし、国内外で英語を使用して仕事ができる人材の育成を目標とする。具体的には、様々な文化的背景・状況・相手に合った適切な表現を使って、主専攻科目で学んでいる専門知識を英語でも理解し、伝えることができるように、読解力の向上、英語での議論・意見発表を含めた自己表現を含んだ総合的な英語の運用能力の養成を目指す。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
IV 主専攻科目	初年次科目	北欧入門セミナー	本講座は新入生に対して今後4年間北欧学科で学ぶための入門教育を実施することを目的としている。大学で必要となる情報収集のための図書館利用法やコンピュータを使った図書・論文検索の方法、文章の読み解き方やレジュメの書き方、論理的な思考法、レポート・論文を書くための実践的な知識、そして自らの考えを他者に伝える技能などを演習形式の授業を通して学習していく。さらに、北欧の地理・自然環境および歴史に関する講義を通じて、北欧への理解を深めていく。 (オムニバス方式／全15回) (13 森信嘉／1回) 「図書館ガイダンス1(書籍・雑誌等の検索が中心)」の授業を担当する。 (11 福井信子／1回) 「自己を見つめる」(学修の目標設定、人生・キャリア設計)の授業を担当する。 (1 池上佳助／2回) 地理・自然環境を中心とした「北欧基礎講座1」、及び手紙・葉書を中心とした「文章の書き方」に関する授業を担当する。 (2 佐保吉一／3回) 「授業の受け方やノートの取り方の基本」、「パソコンを使用してのレジュメ作成」、及び歴史を中心とした「北欧基礎講座2」を担当する。 (3 吉田欣吾／2回) 「図書館ガイダンス2(データベースの活用・論文検索が中心)」及び「レポートにおける表現」の授業を担当する。 (4 上倉あゆ子／3回) 「ガイダンス(授業の説明・履修の注意等)」、「中間の振り返り(アンケート調査、個別面談他)」、及び「次のセメスターへ向けて(授業科目紹介、仮時間割作成等)」の授業を担当する。 (5 浅井亜希／2回) 「レポートの構成」、及び最終回に提出する課題レポートの「中間報告会」の授業を担当する。 (6 柴山由理子／1回) 「北欧学科に必要なコンピュータ操作」の授業を担当する。	オムニバス方式
		デンマーク概論	本講座は北欧学科の初年次科目であり、デンマークの国土、社会、文化に関する基礎知識を習得することを目的としている。具体的にはデンマークの地理・自然、政治、経済・産業、歴史、文化・芸術、生活、福祉、日本との関係などの項目ごとに解説し、今後の専門分野の決定に参考となる知識・情報を提供していく。また、デンマークの社会や文化を日本のそれらと比較することで、デンマークの特徴をより深く理解することをめざしていく。	
		スウェーデン概論	本講座は北欧学科の初年次科目であり、スウェーデンの国土、社会、文化に関する基礎知識を習得することを目的としている。具体的にはスウェーデンの地理・自然、政治、経済・産業、歴史、文化・芸術、生活、福祉、日本との関係などの項目ごとに解説し、今後の専門分野の決定に参考となる知識・情報を提供していく。また、スウェーデンの社会や文化を日本のそれらと比較することで、スウェーデンの特徴をより深く理解することをめざしていく。	
		ノルウェー概論	本講座は北欧学科の初年次科目であり、ノルウェーの国土、社会、文化に関する基礎知識を習得することを目的としている。具体的にはノルウェーの地理・自然、政治、経済・産業、歴史、文化・芸術、生活、福祉、日本との関係などの項目ごとに解説し、今後の専門分野の決定に参考となる知識・情報を提供していく。また、ノルウェーの社会や文化を日本のそれらと比較することで、ノルウェーの特徴をより深く理解することをめざしていく。	
		フィンランド概論	本講座は北欧学科の初年次科目であり、フィンランドの国土、社会、文化に関する基礎知識を習得することを目的としている。具体的にはフィンランドの地理・自然、政治、経済・産業、歴史、文化・芸術、生活、福祉、日本との関係などの項目ごとに解説し、今後の専門分野の決定に参考となる知識・情報を提供していく。また、フィンランドの社会や文化を日本のそれらと比較することで、フィンランドの特徴をより深く理解することをめざしていく。	
	北欧歴史科目	北欧史概説	本講座では、「北欧」の古代から現代までの歴史を概観し、基礎的な歴史の知識を習得するとともに、現代北欧の特色である社会の同質性や文化的アイデンティティーの共通性の基盤を理解することを目的としている。このため、本講座では北欧各国の一国縦断的な歴史の見方ではなく、地域全体の横断的な歴史の流れを捉えることに重点を置く。北欧各国の社会・文化史については「デンマーク史」「スウェーデン史」「ノルウェー史」「フィンランド史」から個別に選択し、その独自性や相違性を学ぶ。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
IV 主専攻科目	北欧歴史科目	デンマーク史	本講座は「北欧史概説」の発展科目として位置づけられており、現在のデンマークが形成されてきた過程を通時的に追うのではなく、教員が設定したテーマをもとに、デンマーク史のもつ独自性を考察することを目的にしている。具体的なテーマとして考えられるのは、例えば「女性史」「文学史」「産業史」「社会史」「教育史」「文化史」「戦争史」等であり、「北欧史概説」で得た基本的な知識を縦横に利用し、デンマーク社会・文化における特質・独自性を考察する。	
		スウェーデン史	本講座は「北欧史概説」の発展科目として位置づけられており、現在のスウェーデンが形成されてきた過程を通時的に追うのではなく、教員が設定したテーマをもとに、スウェーデン史のもつ独自性を考察することを目的にしている。具体的なテーマとして考えられるのは、例えば「女性史」「文学史」「産業史」「社会史」「教育史」「文化史」「戦争史」等であり、「北欧史概説」で得た基本的な知識を縦横に利用し、スウェーデン社会・文化における特質・独自性を考察する。	
		ノルウェー史	本講座は「北欧史概説」の発展科目として位置づけられており、現在のノルウェーが形成されてきた過程を通時的に追うのではなく、教員が設定したテーマをもとに、ノルウェー史のもつ独自性を考察することを目的にしている。具体的なテーマとして考えられるのは、例えば「女性史」「文学史」「産業史」「社会史」「教育史」「文化史」「戦争史」等であり、「北欧史概説」で得た基本的な知識を縦横に利用し、ノルウェー社会・文化における特質・独自性を考察する。	
		フィンランド史	本講座は「北欧史概説」の発展科目として位置づけられており、現在のフィンランドが形成されてきた過程を通時的に追うのではなく、教員が設定したテーマをもとに、フィンランド史のもつ独自性を考察することを目的にしている。具体的なテーマとして考えられるのは、例えば「女性史」「文学史」「産業史」「社会史」「教育史」「文化史」「戦争史」等であり、「北欧史概説」で得た基本的な知識を縦横に利用し、フィンランド社会・文化における特質・独自性を考察する。	
	北欧社会基盤科目	北欧ジェンダー論入門	本講座は社会生活を送る上での男女間の性差の問題を考えるジェンダー論の入門科目であり、その発展科目として「北欧の女性と社会」が設置されている。このため本講座ではまずジェンダーの問題を理解する上で必要な用語や概念などの基礎知識、分析方法などを学び、次に具体的なデータに基づく北欧の女性の就労状況、労働時間・賃金・雇用形態面での男性との相違、出産や育児休暇に関わる施策などを日本のそれと比較しながら考察する。	
		北欧の思想とアイデンティティ	本講座は、北欧の思想家たちの思索の足跡をたどることで、北欧の人々の価値観や教育の理念について考え、「北欧人」としてのアイデンティティの中核となるものを探ることを目的としている。さまざまな政策の基盤となるものが北欧の人々の価値観であり、その価値観の形成・継承・変化を支えているのが広い意味での教育である。本講座では、北欧の思想家たちが何を思い、それにより培われた北欧教育の理念とはどのようなものなのかを探っていく。	
		多文化社会としての北欧	本講座は「北欧」を多文化社会という視点からとらえ、北欧の多様性を理解することを目的としている。ここでの「文化」とは広い意味をもつものであり、多面的な文化を共有する集団は民族、言語、性、「障害」、年齢、宗教などさまざまな基準にもとづいて形成される。講義では「文化」とは何かという基本的な問いから始まり、どのような文化集団が北欧社会を構成しているのかを整理していく。そのうえで、それら多様な文化集団の共存のあり方についても検討していく。	
		北欧の福祉概説	第2次世界大戦後、北欧は「社会的平等」をめざした社会保障制度を整備し、高齢者等の社会的弱者に対する福祉を発展させてきた。現在、それは世界におけるひとつの模範として「北欧モデル」と呼ばれている。本講座ではこのような北欧の福祉における理念や制度について概観することを目的としている。まず、福祉に関する重要な用語や概念などの基礎知識を学び、具体的なデータを通して北欧の福祉の現状を日本の状況と比較しながら考察する。このようにして北欧型福祉の全体像を理解することをめざしていく。	
		北欧の自然と環境	本講座の目的は北欧の豊かで特徴ある自然環境を理解し、それに影響を及ぼす環境問題に対する北欧諸国の取り組みを考察することである。北欧の自然について資料を使いながら国・地域ごとの特徴を理解し、そこから形成される社会や文化についても検討する。北欧諸国は環境問題に対して早くから真剣に向き合い解決策を模索し、今日では環境先進国として知られる。授業では主要な環境問題を取り上げ、日本の現状と比較しながら、北欧の取り組みの具体的内容および特徴を検討するが、背景にある環境意識についても探っていく。	

科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
IV 主専攻科目	北欧社会基盤科目	北欧文化論	北欧諸国はヨーロッパの中央から離れたところで自然と深く関わりながら、独特の感性を磨き育ててきた国々である。本講座は、北欧の歴史と風土の中で生み出され育まれてきたものを広く文化ととらえ、伝統と芸術の両面から北欧文化を考察することを目的とする。暮らしに密着した伝統的な文化では、料理、住宅、家具、食器などの衣食住全般に関わる生活用品を具体的に取り上げ、芸術性の高い分野では音楽、美術、映画、演劇などさまざまなジャンルの作品を扱う。	
		北欧のこどもと文化	本講座では、「こども」を軸にすえ北欧社会の特徴を探り、「こども」と関わりのある様々な文化・芸術に対する理解を深めることを目的とする。北欧諸国はこどものための文化・芸術を重視しているが、授業では文学や舞台芸術に加え、様々な文化施設やメディアなど、こどもと文化に関わる事柄を幅広く取り上げる。こどもに関わる質の高い文化活動の背景には、どのような社会の取り組みや考え方があるのかを見ていく中で、北欧の人々が「こども」、そして「こどもの権利」をどのようにとらえているのかについても検討していく。	
		北欧文学の世界	本講座では、北欧諸国の文学に触れ、その大まかな流れや特徴を理解することを目的とする。北欧各国の文学における大きな流れを、それぞれの国の歴史の流れと結びつけ、その時代に顕著に現れた文学的傾向や特徴を要約し、その時代を代表する詩人や作家を代表作とともに取り上げる。そして、キリスト教以前の古代から現代までの文学を概観することで、北欧社会の変遷とそこに生きる人々の考えがどのように文学として表現されてきたのかを検討する。	
		北欧児童文学入門	アンデルセン童話や「ムーミン」シリーズを生み出している北欧は、児童文学の宝庫と言われている。本講座では、北欧諸国における児童文学の歴史をたどり、現在の状況を理解することを目的とする。北欧各国におけるこどもの本の歴史をたどることにより、こどもの本の役割や「こども観」がどのように変遷し、現在どのような状況にあるのかを考察する。乳幼児向けの絵本から10代の読者を対象とする作品まで、様々な形式・ジャンルおよびテーマに触れることで、北欧における児童文学の特徴について検討していく。	
		北欧の神話	世界の始まりから世界の終わり、そして世界の再生へと連なる北欧神話の流れの中で、神々がどのように振舞うのかについて検討し、ある出来事の発生・展開・結末などの相互関連とその意味を考えていくことを目的とする。さらに、神々の名称、地名、持ち物を表す語彙などの語源を考察し、それらの背後に秘められた意味を探ることも本講座の目的である。文化人類学や比較言語学等、他の分野にも目を向けつつ「北欧神話」の理解に努めると同時に得られた情報を読み解くことをめざしていく。	
	北欧文化発展科目	北欧の女性と社会	本講座は「北欧ジェンダー論入門」の発展科目として位置づけられており、ジェンダーに関する基礎知識を踏まえた上で、北欧の女性が自立するにあたり、どのような権利を獲得し、女性が生涯働き続けるためにどのような制度改革や環境整備が図られてきたかを考察する。さらに、近年日本で盛んに議論される女性の労働をめぐる問題を北欧での取り組みと比較しながら、女性の出産・育児と仕事の両立を持続可能なものとする制度設計や男性の意識改革の必要性等について検討していく。	
		北欧の教育と学び	本講座は「北欧の思想とアイデンティティ」に続く科目として設置されており、北欧における教育と学びに焦点を当て、その教育政策の実態に迫っていくことを目的としている。北欧の教育を形作ってきたのは、社会福祉国家としての経済基盤や積極的な教育改革、充実した教員養成制度の構築、あるいは、地方自治にもとづく教育政策の充実などである。これらの問題を検討することで、世界的にも評価の高い北欧の教育の実態に迫り、北欧における「学び」のもつ意味を探っていく。	
		北欧における多文化共生	本講座は「多文化社会としての北欧」に続く科目として設置されており、北欧における文化集団どうしの共生、つまり多文化共生の実態を検討していくことを目的としている。先住民族、少数派の言語を話す人々、性的少数者、「障害」者、外国人や移民などについて、その置かれてきた状況を理解し、現在どのような政策や権利保障が行われているのかを検討していく。そして、それら政策や権利保障の背景にある思想・価値観がどのようなものであるのかということを探ることで、多文化社会としての「北欧」に対する理解を深めていく。	
		北欧の福祉政策	本講座は「北欧の福祉概説」に続く科目として位置づけられ、北欧諸国における福祉政策の概要と特徴を明らかにすることを目的にしている。北欧型福祉国家モデルと表現される北欧諸国の社会福祉は19世紀後半から本格的に始まり、20世紀の戦間期を経て、戦後に大きな発展を遂げている。このような歴史的経緯や他の欧米諸国との差異も踏まえながら、北欧諸国における高齢者、児童、障がい者等を対象とする福祉政策の内容を検討していく。さらに現在の課題や今後の展望についても考察し、北欧における「共生」の意味を探っていく。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
IV 主専攻科目	北欧文化発展科目	北欧の環境政策	本授業は「北欧の自然と環境」に続く科目として設置されており、北欧諸国の環境政策を概観し、その特徴を明らかにすることを目的にしている。環境問題は、現在国境を越えたグローバルな問題であると同時に身近な問題でもあるが、北欧はこの環境問題に対して「持続可能な発展」という観点から積極的に取り組んでいる。北欧諸国の特徴ある自然環境を念頭に入れた上で、環境政策を歴史的に概観し、その内容に「持続可能な発展」がどのように関わっているのかを考察する。さらにその政策の背景にある価値観を探っていく。	
		現代北欧社会論	本講座は、近年国際社会から北欧の独自性や先進性を示すモデルとして注目を集める政治、福祉、男女平等、教育、環境、国際関係等の分野からテーマを絞って深く考察していく。現代北欧社会が抱える課題やその解決に向けた取り組みを分析していくことにより、今後の日本社会のありうべき姿、さらには自立した「個」の生き方を自ら構想する力を養う。担当教員の専門分野に応じて授業で扱う項目内容は変化するが、相互に関連する「北欧社会基盤科目」の発展科目に位置づけられており、系統だった科目履修が求められる。	
		北欧文学の探究	本講座は「北欧文学の世界」に続く科目として設置されており、北欧諸国の文学作品により深く触れることで、北欧の人々の創造性と価値観について検討していくことを目的としている。北欧諸国の文学に関しては、古代アイスランドの文芸から現代の北欧ミステリーに至るまで、様々な作品が日本にも紹介されている。複数の文学作品の精読を通して、作家や作品の背景、テーマに対する理解を深め、そこから北欧の人々の価値観の基盤となるものは何かを探っていく。	
		北欧児童文学研究	本講座は「北欧児童文学入門」に続く科目として設置されており、北欧諸国の児童文学作品により深く触れることで、北欧の人々の創造性や、こどもを「個」として尊重する考え方について検討することを目的とする。北欧の児童文学は、“タブーはない”とされるテーマの幅広さと、豊かな絵本文化などで知られている。一般的には難しいとされるテーマをどのように描いているのか、絵本においてどのような手法が用いられているのかを考察しながら、児童文学がどのような役割を果たすのかについても検討していく。	
		アイスランドのことばと文化	北ゲルマン語圏（デンマーク・スウェーデン・ノルウェー）の精神文化の故郷とも言えるアイスランドのことばと文化を学ぶことにより、これらの国々の言語・社会・歴史・文化を総合的により深く理解することを目的とする。現代アイスランド語の基礎を習得することをめざして言語を中心として学びつつも、アイスランドの歴史・文化・文学・社会にも目を向け、言語文化とのかかわりを広く考察する。アイスランド語の知識は「北欧の神話」を理解する上でも重要である。	
	北欧語導入科目	デンマーク語入門	デンマーク語学習の導入科目であり、基礎的な知識を積み上げていく上で必要不可欠な基盤を作ることを目標とする。文字と発音、初歩的な文法事項等を学習しながら、今後のデンマーク語学習の基盤となる表現・語彙を習得することをめざす。さらに、言語学習を通してデンマークの社会や文化について基本的な知識を習得する。外国語を学ぶ際にどのような学習が必要かについて自ら考え実行した上で、デンマーク語で書かれたテキストからの確に情報を読み取り、入門初期段階のデンマーク語を活用する能力を身につける。	
		スウェーデン語入門	スウェーデン語学習の導入科目であり、基礎的な知識を積み上げていく上で必要不可欠な基盤を作ることを目標とする。文字と発音、初歩的な文法事項等を学習しながら、今後のスウェーデン語学習の基盤となる表現・語彙を習得することをめざす。さらに、言語学習を通してスウェーデンの社会や文化について基本的な知識を習得する。外国語を学ぶ際にどのような学習が必要かについて自ら考え実行した上で、スウェーデン語で書かれたテキストからの確に情報を読み取り、入門初期段階のスウェーデン語を活用する能力を身につける。	
		ノルウェー語入門	ノルウェー語学習の導入科目であり、基礎的な知識を積み上げていく上で必要不可欠な基盤を作ることを目標とする。文字と発音、初歩的な文法事項等を学習しながら、今後のノルウェー語学習の基盤となる表現・語彙を習得することをめざす。さらに、言語学習を通してノルウェーの社会や文化について基本的な知識を習得する。外国語を学ぶ際にどのような学習が必要かについて自ら考え実行した上で、ノルウェー語で書かれたテキストからの確に情報を読み取り、入門初期段階のノルウェー語を活用する能力を身につける。	
		フィンランド語入門	フィンランド語学習の導入科目であり、基礎的な知識を積み上げていく上で必要不可欠な基盤を作ることを目標とする。文字と発音、初歩的な文法事項等を学習しながら、今後のフィンランド語学習の基盤となる表現・語彙を習得することをめざす。さらに、言語学習を通してフィンランドの社会や文化について基本的な知識を習得する。外国語を学ぶ際にどのような学習が必要かについて自ら考え実行した上で、フィンランド語で書かれたテキストからの確に情報を読み取り、入門初期段階のフィンランド語を活用する能力を身につける。	

科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
IV 主 専 攻 科 目	北 欧 語 基 礎 科 目	デンマーク語講読 1	「デンマーク語入門」で身につけたデンマーク語学習の基盤のもとにデンマーク語読解能力を高めることを目的とする。言語運用能力にかかわる総合的な知識を身につけるための入門中期段階の科目と位置づけられ、初級文法を学びながら実際にデンマーク語のテキストを読んでいく。まだ語彙も少なく文法も限られた範囲のみ理解している段階であるため、平易に書かれたテキストを使うことになる。内容的にはデンマークの日常生活、社会、文化、歴史などに関する情報をデンマーク語のテキストから直接得るように努める。	
		デンマーク語講読 2	「デンマーク語講読 1」により習得したデンマーク語読解能力をさらに高めると同時に、これまでの言語学習で身につけたデンマーク語の運用能力にかかわる総合的な知識を発展させることをめざす。全体としてデンマーク語基礎文法、基礎表現、基礎語彙などを継続的に学ぶデンマーク語学習の入門後期段階と位置づけられる科目である。継続して中級文法を学びながら比較的平易なデンマーク語のテキストを読み進め、現地情報をデンマーク語のテキストから直接得るように努める。	
		スウェーデン語講読 1	「スウェーデン語入門」で身につけたスウェーデン語学習の基盤のもとにスウェーデン語読解能力を高めることを目的とする。言語運用能力にかかわる総合的な知識を身につけるための入門中期段階の科目と位置づけられ、初級文法を学びながら実際にスウェーデン語のテキストを読んでいく。まだ語彙も少なく文法も限られた範囲のみ理解している段階であるため、平易に書かれたテキストを使うことになる。内容的にはスウェーデンの日常生活、社会、文化、歴史などに関する情報をスウェーデン語のテキストから直接得るように努める。	
		スウェーデン語講読 2	「スウェーデン語講読 1」により習得したスウェーデン語読解能力をさらに高めると同時に、これまでの言語学習で身につけたスウェーデン語の運用能力にかかわる総合的な知識を発展させることをめざす。全体としてスウェーデン語基礎文法、基礎表現、基礎語彙などを継続的に学ぶスウェーデン語学習の入門後期段階と位置づけられる科目である。継続して中級文法を学びながら比較的平易なスウェーデン語のテキストを読み進め、現地情報をスウェーデン語のテキストから直接得るように努める。	
		ノルウェー語講読 1	「ノルウェー語入門」で身につけたノルウェー語学習の基盤のもとにノルウェー語読解能力を高めることを目的とする。言語運用能力にかかわる総合的な知識を身につけるための入門中期段階の科目と位置づけられ、初級文法を学びながら実際にノルウェー語のテキストを読んでいく。まだ語彙も少なく文法も限られた範囲のみ理解している段階であるため、平易に書かれたテキストを使うことになる。内容的にはノルウェーの日常生活、社会、文化、歴史などに関する情報をノルウェー語のテキストから直接得るように努める。	
		ノルウェー語講読 2	「ノルウェー語講読 1」により習得したノルウェー語読解能力をさらに高めると同時に、これまでの言語学習で身につけたノルウェー語の運用能力にかかわる総合的な知識を発展させることをめざす。全体としてノルウェー語基礎文法、基礎表現、基礎語彙などを継続的に学ぶノルウェー語学習の入門後期段階と位置づけられる科目である。継続して中級文法を学びながら比較的平易なノルウェー語のテキストを読み進め、現地情報をノルウェー語のテキストから直接得るように努める。	
		フィンランド語講読 1	「フィンランド語入門」で身につけたフィンランド語学習の基盤のもとにフィンランド語読解能力を高めることを目的とする。言語運用能力にかかわる総合的な知識を身につけるための入門中期段階の科目と位置づけられ、初級文法を学びながら実際にフィンランド語のテキストを読んでいく。まだ語彙も少なく文法も限られた範囲のみ理解している段階であるため、平易に書かれたテキストを使うことになる。内容的にはフィンランドの日常生活、社会、文化、歴史などに関する情報をフィンランド語のテキストから直接得るように努める。	
		フィンランド語講読 2	「フィンランド語講読 1」により習得したフィンランド語読解能力をさらに高めると同時に、これまでの言語学習で身につけたフィンランド語の運用能力にかかわる総合的な知識を発展させることをめざす。全体としてフィンランド語基礎文法、基礎表現、基礎語彙などを継続的に学ぶフィンランド語学習の入門後期段階と位置づけられる科目である。継続して中級文法を学びながら比較的平易なフィンランド語のテキストを読み進め、現地情報をフィンランド語のテキストから直接得るように努める。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
IV 主専攻科目	北欧語中級科目	デンマーク語表現演習	本講座は「デンマーク語入門」「デンマーク語講読1」「デンマーク語講読2」に続くレベルの科目であり、これまでに学んできた文法や単語を能動的に使い、デンマーク語を話し作文するという基礎的な表現力習得を目的とする。文法的知識を反復練習によって確実なものとし、基本的な会話表現や表現法を口頭練習を通じて体得し、語彙力の拡充に努め、自らの考えを発信することの初歩を学ぶ。同時に、デンマーク語話者とのコミュニケーションに活かせるよう、デンマーク社会・文化についての理解も深める。	
		スウェーデン語表現演習	本講座は「スウェーデン語入門」「スウェーデン語講読1」「スウェーデン語講読2」に続くレベルの科目であり、これまでに学んできた文法や単語を能動的に使い、スウェーデン語を話し作文するという基礎的な表現力習得を目的とする。文法的知識を反復練習によって確実なものとし、基本的な会話表現や表現法を口頭練習を通じて体得し、語彙力の拡充に努め、自らの考えを発信することの初歩を学ぶ。同時に、スウェーデン語話者とのコミュニケーションに活かせるよう、スウェーデン社会・文化についての理解も深める。	
		ノルウェー語表現演習	本講座は「ノルウェー語入門」「ノルウェー語講読1」「ノルウェー語講読2」に続くレベルの科目であり、これまでに学んできた文法や単語を能動的に使い、ノルウェー語を話し作文するという基礎的な表現力習得を目的とする。文法的知識を反復練習によって確実なものとし、基本的な会話表現や表現法を口頭練習を通じて体得し、語彙力の拡充に努め、自らの考えを発信することの初歩を学ぶ。同時に、ノルウェー語話者とのコミュニケーションに活かせるよう、ノルウェー社会・文化についての理解も深める。	
		フィンランド語表現演習	本講座は「フィンランド語入門」「フィンランド語講読1」「フィンランド語講読2」に続くレベルの科目であり、これまでに学んできた文法や単語を能動的に使い、フィンランド語を話し作文するという基礎的な表現力習得を目的とする。文法的知識を反復練習によって確実なものとし、基本的な会話表現や表現法を口頭練習を通じて体得し、語彙力の拡充に努め、自らの考えを発信することの初歩を学ぶ。同時に、フィンランド語話者とのコミュニケーションに活かせるよう、フィンランド社会・文化についての理解も深める。	
	北欧語上級科目	北欧語特講 A	本講座は北欧言語の習得を目標とする科目の中では上位に位置する科目である。これまでに「入門」「講読1」「講読2」「表現演習」で習得した知識をもとにして、一般的な北欧語の文章を読み解き、その内容に関して自らの考えを表現する力を身につけることを目標とする。書き言葉に特有な文法事項や構文など上級の文法事項を学習しながら、新聞記事や論説文などの多様な文章に対する読解力を養う。また、それらの題材を通して北欧社会の実態について考え、自らの意見を北欧の言語あるいは日本語によって表現することをめざす。	
		北欧語特講 B	本講座は北欧言語の習得を目標とする科目の中では上位に位置する科目である。これまでに「入門」「講読1」「講読2」「表現演習」で習得した知識をもとにして、文学的な香り高い文章を読み解くことと、その内容に関して自らの考えを表現することを目標とする。詩・小説・演劇・エッセーなどの文学作品を取り上げ、文体や言語表現を味わうとともに、作品を通じて北欧の人々の感性や価値観にふれ、北欧社会についての理解を掘り下げていく。さらに、そこで得た知見を北欧の言語あるいは日本語によって表現することをめざす。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
IV 主専攻科目	卒業研究科目	北欧語研究セミナーA	各言語科目および「北欧語特講A」「北欧語特講B」を履修した学生がさらに言語能力を高めることを目的に、セミナー形式で行う授業とする。テーマとしては、言語学的視点から見た北欧諸語の特徴、日本語と北欧諸言語との対照研究、あるいは文学作品を通じての創造的表現の研究などが考えられる。授業は学生自らの発表を中心とし、教員による講義は学生の研究・発表を補うものとして位置づけられる。本講座においては、履修者全員が共通のテーマを設定し、テキスト等の内容に関する議論を重ねながら言語力の向上をめざしていく。	
		北欧語研究セミナーB	各言語科目および「北欧語特講A」「北欧語特講B」を履修した学生がさらに言語能力を高めることを目的に、セミナー形式で行う授業とする。テーマとしては、言語学的視点から見た北欧諸語の特徴、日本語と北欧諸言語との対照研究、あるいは文学作品を通じての創造的表現の研究などが考えられる。授業は学生自らの発表を中心とし、教員による講義は学生の研究・発表を補うものとして位置づけられる。本講座では個々の学生が自らテーマと課題を設定し、他の学生の意見や教員の助言を生かしながら作業を進め、何らかの作品を完成させる。	
		北欧セミナーA	本科目は、学生各自がこれまで学んできた知識をもとにして、自らが「研究する」方法を学ぶことを目的とする。後に続く科目である「北欧セミナーB」「卒業研究A」「卒業研究B」を通して、最終的には学生自らが資料を集め分析・考察し、研究を仕上げる、あるいは、言語関連科目等での学習成果を翻訳や教材開発といった形でまとめることをめざす。本科目では、論文やレジュメの構成、研究テーマの設定、資料の収集、資料の分析と考察、論文における文章表現やルールなど、論文執筆に必要な基礎的知識の学習を進める。	
		北欧セミナーB	本科目は、「北欧セミナーA」に続く科目として設置されており、学生各自がこれまで学んできた知識をもとにして、自らが「研究する」方法を学ぶことを目的とする。後に続く科目である「卒業研究A」「卒業研究B」を通して、最終的には学生自らが資料を集め分析・考察し、研究を仕上げる、あるいは、言語関連科目等での学習成果を翻訳や教材開発といった形でまとめることをめざす。本科目では、「北欧セミナーA」に引き続き、論文執筆に必要な基礎的知識を習得していくとともに、自らの研究を発展させていく。	
		卒業研究A	本科目は、「北欧セミナーA」「北欧セミナーB」に続く科目として設置されており、大学生生活の集大成となる「卒業論文」もしくは「卒業研究」の完成をめざして総合的学習を進めることを目的とする。学生自らが設定したテーマに沿って資料の収集、分析・考察を行い、「北欧セミナーA」「北欧セミナーB」で取り組んだ研究をさらに深めるとともに、研究を的確な文章・形式でまとめるために必要な事柄を学んでいく。あるいは、言語関連科目等での学習成果を、翻訳や教材開発といった形でまとめることも可能である。	
		卒業研究B	本科目は、「北欧セミナーA」「北欧セミナーB」「卒業研究A」に続く科目として設置されており、大学生生活の集大成となる「卒業論文」もしくは「卒業研究」の完成を目的とする。学生自らが設定したテーマに沿って資料の収集、分析・考察を行い、「北欧セミナーA」「北欧セミナーB」「卒業研究A」で取り組んだ研究をさらに深め、それを的確な文章・形式でまとめる。あるいは、言語関連科目等での学習成果を、翻訳や教材開発といった形でまとめることも可能である。	
	現地研修科目	北欧現地研修	本講座は夏期に約2週間の日程で実施され、学生たちは実際に北欧の地を踏み、入学以来学んできた北欧語を使いながら現地での生活を体験することを目的とする。各研修では、北欧4か国のうち少なくとも2か国を訪れ、北欧の共通性・多様性を実感する。授業で学んできたことを自分で目の当たりにし、また言葉を学んできたという点を生かしてできるだけ現地の人々との交流に努める。履修者は研修を通じて主体的な思考・行動の重要性を体験し、その後の大学生活・社会人としての生活に豊かな益がもたらされることが期待される。	
		北欧現地研修事前演習	本講座は「北欧現地研修」の準備のための科目である。「北欧現地研修」に備えて、滞在地や訪問先について十分な情報と知識を得ると同時に、「北欧現地研修」に参加する学生たちの意識を高め、参加学生たちの間に連帯感を高めることを目的としている。授業では研修日程表に基づき、学生たちが分担して研修地を文化的・歴史的な視点から調べ発表し、現地の人たちとの交流に役立つよう、日本の事象について北欧語で表現することも学び、生活に必要な日常表現の習得にも力を入れる。	

科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
IV 主 専 攻 科 目	学 部 教 養 科 目	ことばの世界	「ことば」は人間を人間たらしめている大切なツールであり、人間は「ことば」によって生活し、歴史を刻み、世界を発展させてきた。「ことば」と「コミュニケーション」は文化・社会系の学部が特に大切にしている分野である。この講義は文化社会学部の基礎的な科目として設置されており、特に新入生に「ことば」や「表現」や「コミュニケーション」の面白さ、大切さ、奥深さを知ってもらうことを通して、文章を読み解く力を磨くことを目標とする。	
		知のフロンティア	グローバル化が進み、技術や組織あるいは社会を構成する人々の意識や価値観など、現代社会のさまざまな分野で急速な変化が進み、さらにそのスピードはますます高まっている。しかも各分野の様々な事象は加速度的にかつ複雑に交差しつつあり、社会では特定の分野や考え方にとらわれない広い視野と柔軟な発想が求められている。本授業では、現代のさきがけとなる学問研究上の諸成果の中から学科の枠にとらわれない知的刺激に富んだテーマを取り上げ、学部横断的視点から知の最前線について平易に学んでもらうことを目的とする。	
		基礎情報処理 1	現代は高度情報化社会となり、あらゆる分野で自ら考える力を育成するためにも、コンピュータの操作技術と知識が必要とされる。本科目は、そのような社会的要請に答えて、基本的なコンピュータ活用能力を養うと共にコンピュータや高度情報化社会に関する基礎知識の習得を目標としている。具体的には、コンピュータの基本操作から始まり、ワードプロセッサによる日本語文書処理、表計算ソフトによるデータ整理とグラフ作成、マルチメディア・プレゼンテーション、さらにインターネットの活用(電子メールによる情報交換、Web情報検索)などの実習を行う。	
		文章表現法	現代社会のコミュニケーションにおいて、話し言葉による表現と、書き言葉による表現はともにきわめて重要な役割を有している。本科目は、このうち書き言葉による表現(文章表現)能力の養成と向上をはかることを目的とする。すなわち、大学におけるレポート・卒業論文等から、卒業後の社会生活における様々な性格の文章にいたるまで、多様な文章表現の基礎となる表現上の知識および論理的な文章の作成方法を、実際の執筆作業を通じて実践的に学ぶことが本授業の中核である。	
		古文基礎	本授業では古文・漢文を読むための基礎的な力を養成する。国語科の教員養成のための基礎科目であるとともに、日本史・中国史・日本文学等を学ぶにあたって必須の漢文を読むため古典文法の力を養うために、力が確実に身につくような実践的な内容とする。また、古典常識や基礎的な古典文学史も教員養成の観点からおさえることを目的とする。高校までの古文の学習のリメディアル的な要素を持ちながら、より発展的な力を養成する。	
		アラビア語入門 1	アラビア語は、東はイラクから西はモロッコにいたるアラブ諸国の共通語であるばかりでなく、国連の公用語のひとつでもある。さらにはコーランの言葉として、アラブ以外の全世界のイスラム教徒にとっての意義も大きい。ただし、アラビア語は、日本語とは大きく異なるセム系の言語で、文字表記も子音文字中心で短母音も一般の文章では原則として表記されない。このような言語であるため、最初の入門科目である本科目では、アラビア文字の発音、書き方、読み方、初歩的文法の習得を目標とする。	
		トルコ語入門 1	トルコ語は、西アジア・中央アジアを代表する民族のひとつであり、同地域の文明の形成に大きな役割をはたしてきたトルコ人の言語である。トルコ語の学習は中央ユーラシアに広がるトルコ系諸文化を理解することにも繋がっている。本科目では、現在のトルコ共和国で用いられている現代トルコ語を学習する。現代トルコ語の表記はローマ字であり、文法構造も日本語と類似しているため、マスターしやすい。本科目では、文法の基礎を習得して、平易な文章を読めるようになることを目標にするとともに、簡単な日常会話の練習も行なう。	
		ヒンディー語入門 1	ヒンディー語はインドの連邦公用語であり、人口10億をこえるインド国民の過半数が理解する、世界第三位の話者人口をもつ大言語である。インドに興味をもつ人は、その文明を根底から把握するために、ぜひとも理解しておきたい言語である。インド・ヨーロッパ系の言語であるヒンディー語は、文字表記は独特とはいえ明快な言語である。本科目は、インド理解の前提として、ヒンディー語の基礎、すなわち、発音・文字・初級文法の把握を目標とする。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
IV 主専攻科目	学部 教養科目	ペルシア語入門 1	イランの国語であるペルシア語は、アラビア語と並んで、西アジアを代表する大言語のひとつである。また前近代におけるペルシア語文化圏の広がりには、西アジアばかりでなく、中央アジアや北インドをも覆い、これらの地域の文明を支えてきた。ペルシア語はインド・ヨーロッパ系の言語であるが、動詞が文末にくるなど日本語との類似点もある。文字は子音中心の表記である。本科目は、このようなペルシア語の基礎、すなわち、ペルシア文字の発音、書き方、読み方、初歩的文法の習得を目標とする。	
		ギリシア語入門 1	西欧文明を支えた精神的支柱として古典古代、とりわけ古代ギリシアの哲学や文学は、過去に大きな役割を果たし、時代を超え、地域を越えて現在もお私たちの文化に深い影響を与えている。この授業では、古典ギリシア語で記述された文献を直接読解するために必要となる基礎的な文法事項を修得することを目的としている。また学修の過程でギリシア語で書かれた古典の諸作品の一節や、古代ギリシアの文化的側面に触れるなどして、ギリシア語習得の一助とする。	
		ギリシア語入門 2	この授業は、すでに「ギリシア語入門 1」を履修した者および同等の知識を有する者を対象とし、さらに古典ギリシア語で記述された文献を直接読解するために必要となる基礎的な文法事項を修得することを目的としている。授業は「ギリシア語入門 1」と同様に、あらかじめ決められたギリシア語の教科書に沿って進められ、各單元における文法事項の解説と練習問題の解答が中心となる。受講生は当該箇所配された練習問題を事前学修として課せられるとともに、授業後の復習やテキスト読解を通じて、ギリシア語知識の定着を目指す。	
		ラテン語入門 1	ラテン語は古代ローマ人が使用していた言語であり、地中海世界における公用語の地位を長く得ていた。また古代ローマの滅亡後も、文学、行政、法律、学問、キリスト教会の共通語として使われ続けることによって、西洋文明の形成に大きな役割を果たした。この授業では、ラテン語の基礎的な初等文法を学ぶことを主な目的として、文法事項を解説し、練習問題をおこなう。また、ラテン語の歴史、ロマンス諸語との関係など、ラテン語に関する周辺の事項についても触れることで、その影響の深さについても考える。	
		ラテン語入門 2	ラテン語は、古代ローマ人の言語であり、ローマ帝国の広大な領土内の公用語として用いられ、また中世以降のヨーロッパ世界においても大きな影響力を持ち続けることによって、西洋文明の形成に重要な役割を果たした。この授業は、「ラテン語 1」を履修した者および同等の知識を有する者を対象とし、ラテン語で記述された文献を読解するために必要な基礎的な文法をさらに習得することを目的としている。授業は文法事項の解説と練習問題の解答を中心として進められ、ラテン語知識の定着を目指す。	
		東欧諸語	東ヨーロッパには、スラヴ系に属す西スラヴ語（ポーランド語、チェコ語、スロヴァキア語など）と南スラヴ語（ブルガリア語、セルビア語、クロアチア語など）が存在する。また、東ヨーロッパ地域の民族的・言語的多様性を象徴するかのように、スラヴ系とは異なるウラル系のハンガリー語が、西スラヴ語と南スラヴ語の空間の合間をぬって併存している。この授業では、東ヨーロッパの言語的多様性をカバーすることのできるポーランド語、ブルガリア語、ハンガリー語の履修を可能とする。授業は、基礎的な初級文法を学ぶことを主目的とする。	

授 業 科 目 の 概 要				
(文化社会学部 文芸創作学科)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
I 現代 文明 論	現代文明論	この科目は東海大学に学ぶすべての学生が、建学の精神を理解し自らの思想を培うために開講される。すなわち歴史や世界への見識を高め、人類社会のあり方を見直すことを通じて、地球規模で深刻化する困難な事態にあっても、時代を開拓しようとする力強い思考や意欲を養うことを目的としている。理系、文系の枠を超えて、現代の課題の根源を探るために不可欠な歴史的・系譜的な認識を深め、それを多様な角度から読み解く思考法を身につけるとともに、人間的価値に基づいた倫理観によって未来を選択しうることを学ぶ。		
II 現代 教養 科目	基礎 教養 科目	人文科学	人間は長い歴史の中で多くのことを考え、様々なものを生み出してきた。哲学、宗教等の思想や、文学、音楽、絵画など、現代まで残されているものもあれば、過去のある時代、ある地域で途絶えたものもある。これらは、どの時代や社会においても生きるうえで不可欠な営みであり、これを通して人類の歴史は形成されている。この科目では、人間がどのような過去を歩み、どのようなことを考えてきたかを学び、現代社会から未来への思考や創造の可能性について考えていく。	
		社会科学	人間が生きて行くためには、集まり、秩序を作り、法やルールを持って、コミュニケーションや援助を行い、社会を形成していく。現代社会を見渡し、その問題点や未来を考える際には、その見方としての社会科学を学ぶ必要がある。この科目は、「法・政治」「経済・経営」「社会・福祉」「心理・教育」の分野において、それぞれの歴史、思想、メカニズム、理論、制度等について得た知識や考え方を、「社会を見るための道具として、使いこなすことが出来る力」として養うことを目的とする。	
		自然科学	17世紀頃に生まれた「科学的方法」は、現代社会の礎となっており、仮説を立て、結果を予測し、実験や観測で正しいかを検証するという方法の積み重ねにより、現在も科学技術は進歩し続け、私たちの豊かな生活に繋がっている。この科目は、長い年月をかけて発展した物理学、化学、生物等の各分野の基本的な知識を学習し、講義で身に付けた基本的な知識や思考法を、日常的・職業的な生活に役立て、科学的要素を持つ社会問題に対しても、根拠を持って判断が出来る力を養うことを目的としている。	
	発展 教養 科目	シティズンシップ	全ての人間は、基本的人権を持ち個人として尊重され、他者から不当な干渉を受けず、自分の人生を決める権利を持ち、この権利の下、人々は集い、社会を形成し、政治へ参加し、市民としての地位を持っている。現代社会においては、宗教、思想、人種、民族、文化、性別等が異なる、多くの人が生活しており、民主政治を形成しており、意見の相違を乗り越えて、お互いの陣形を尊重し合える社会を形成する必要がある。この科目では、シティズンシップの概念や歴史や、社会参加の方法等を、グループワークを交えて理解し、問題解決の方法を探っていく。	
		ボランティア	もともと、わが国においては、福祉分野を中心に地道なボランティア活動が根付いていたが、大規模な自然災害などを通じ、その関心は高まり、自らNPOを設立したり、市民活動に参加する人も増加している。この科目では、ボランティアの歴史や意味、ルールやマナーを学び、ボランティアを基盤として人の繋がりを広げていく活動や、問題解決型のボランティア活動等について、グループワークを交えて理解や興味を深めていくことを目的とする。	
		地域理解	人はみな特定の地域で生活し、豊かな生活を営むために、仲間を作り、議論し、協働して社会を作り上げていくことが求められている。この科目は、人口、自然、文化、産業、福祉、街づくり等の観点から、地域の課題を掘り起こす問題発見能力を身に付けることを目的とする。具体的には、校舎の所在地の周りの地域社会の実態や課題について探り、グループワークを交えてその解決策を考え、市民参加・参画の前提となる知識や観点を養っていく。	
		国際理解	地球上には70億人を超える人々が生活しており、様々な言語・文化・社会のもとに生活をしている。近年の情報や交通の発展により、遠く離れた地域、異なる文化や宗教、考えを持った人と緊密に触れ合うことが出来る社会になっている。この科目は、現代社会の現実を理解するため、時事問題の理解を深め、現在生じている諸問題を客観的に理解し、他者（異文化）との違いを容認する姿勢や態度、考え方、公平性を、グループワークを交えて養っていくことを目的とする。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
II 現代教養科目	健康スポーツ科目	健康・フィットネス理論実習	本授業では、生涯を通じて活力あるライフスタイルを形成するための理論と実践方法を講義と実習を通して学習する。また、健康・体力面だけでなく、仲間とともに身体活動を通しての「友達づくり」や「仲間との信頼関係づくり」を体験し、コミュニケーション能力の向上をねらいとする。具体的には、健康的な生活習慣を身につけることに重点を置き、健康に関する理論や重要性を理解するとともに、自己の体力に応じたフィットネスの実践能力を習得する。	
		生涯スポーツ理論実習	本授業では、生涯を通じて活力あるライフスタイルを形成するための理論と実践方法を講義と実習を通して学習する。また、健康・体力面だけでなく、仲間とともに身体活動を通しての「友達づくり」や「仲間との信頼関係づくり」を体験し、コミュニケーション能力の向上をねらいとする。具体的には、生涯を通じたスポーツライフスタイルの獲得に重点を置き、スポーツの”おもしろさ”や”大切さ”などを学び、ライフステージに応じたスポーツの楽しみ方と実践能力を習得する。	
III 英語科目	英語コミュニケーション科目	英語リスニング&スピーキング	国際化時代の今日、日本国内外を問わず言語や価値観そして文化の異なる人々と英語を使って意思疎通をはかることの重要性がさらに高まっている。その中で課題に柔軟に対応し、問題を解決するための実践的英語コミュニケーション能力の基盤を作ることを目標とする。学習者の英語力に合わせて効率よく学習できる習熟度別クラス編成で、多様な種類の英語を理解するリスニング力と、自分の意志を適切に表現するためのスピーキング力を相互に関連させながら、総合的に英語力の向上を図る。	
		英語リーディング&ライティング	国際化時代の今日、日本国内外を問わず言語や価値観そして文化の異なる人々と英語を使って意思疎通をはかることの重要性がさらに高まっている。その中で課題に柔軟に対応し、問題を解決するための実践的英語コミュニケーション能力の基盤を作ることを目標とする。学習者の英語力に合わせて効率よく学習できる習熟度別クラス編成で、多様な種類の英語を理解するリーディング力と、自分の意志を適切に表現するためのライティング力を相互に関連させながら、総合的に英語力の向上を図る。	
	グローバル人材育成科目	グローバルスキル	「英語リスニング&スピーキング」、「英語リーディング&ライティング」で培った英語の4技能をさらに伸ばすことを目標とする。リスニングにおいては、聞く目的に合わせて全体像を把握したり、必要な情報を聞き取ることができ、またスピーキングにおいては、様々な文化的背景・状況・相手に合った適切な表現を使って、議論・意見発表を含めた自己表現ができる等、国際社会で通用することを目指したより実践的な英語の総合的運用能力を養成する。	
		アカデミック英語	「英語リスニング&スピーキング」、「英語リーディング&ライティング」で培った英語の4技能をさらに伸ばし、国内外で英語を使用して仕事ができる人材の育成を目標とする。具体的には、様々な文化的背景・状況・相手に合った適切な表現を使って、主専攻科目で学んでいる専門知識を英語でも理解し、伝えることができるように、読解力の向上、英語での議論・意見発表を含めた自己表現を含んだ総合的な英語の運用能力の養成を目指す。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
IV 主専攻科目	学科導入科目	ストーリーを発見する	人間は、自己や世界を理解するにあたって「物語」の枠組みを使用するという特性を持っている。本授業では、人間にとって「物語」が何かを問うと同時に、すぐれた文学・映像作品がどのような「ストーリー（物語）」を有しているのか探ることで、物語の持つ力と構造を確認する。神話や伝説の時代から人間を動かしてきた物語について学び、さらに具体的な作品をとりあげて、今現在も機能している物語について考えることで、自分自身の「物語」を作り上げていく能力を養う。	
		文芸創作入門ワークショップ	「文学創作入門ワークショップ」は「ストーリーを発見する」と対になして、文芸創作学科の入門科目を構成する。そして、他のすべての科目の導入的意味合いを持つ必修授業である。この科目では、学生は15名ほどのサイズでグループ分けされ、各担当教員のもとで週に一度、文学はもちろん、大学での学問全般に通ずる基礎を学ぶ。少人数の授業であるため、発言やレポートの提出もたびたび求められる。まずはレポートの書き方や原稿用紙の使い方など基本的な手続きから、授業は始まるであろう。	
	基礎科目	文学の遠近法（創作のための文学史）	古代から現代にいたる知的遺産として重要なテキストをとりあげて、人間が何を考えどのように表現してきたかをたどりながら、基礎的な文学史と世界史を学ぶ。人間が固有の「ことば」の力と「想像力」によって、何を生み出してきたのか、それがどのように社会とつながっていったのかを、自分なりに考察することを目指す。具体的なテキストとしては、諸民族の神話や、『聖書』などの宗教書、騎士道物語などのほか、シェイクスピア、デカルト、フロベールといった文学者・哲学者の作品を使用する。	
		日本の古典を読む	この科目では、古代の文学に登場する出来事から現代との接点を考え、そこから徐々に古代の文学を読む喜びを知り、生涯の糧となすべく、発展させる。読解に必要な知識は伝授するが、単なる文章理解にとどまらず、そこから思考を拡げ、個々の作品を読み解いていく。「古事記」をはじめとする記紀万葉の世界にふれ、上代から古代の静寂の中で人々が自然について語る声を聞き、そこから平安期へとつながる日本文学の変遷について、幾つかの具体的な作品を通して学ぶ。	
		文芸批評入門	文芸には、詩や小説と並んで批評というジャンルがある。批評とは、いったいどういうジャンルなのか。批評は、読むことと書くことの基本にかかわる人間の知性の営みである。この授業では、読み書きの原点に帰って批評とは何かについて考える。授業の目標は、文芸批評に関する基本的な知識・情報を系統的に習得し、文芸批評とは何であるのかを概念的に把握することにある。授業では、主として日本の近代文学史における代表的な批評家とその代表的なテキストをとりあげて読み、その意義を考える。	
		世界の文学を読むA	古今東西の名作短編小説を読み、作品ごとの違いを感じ、味わい分けることで、現代の文学の多様性を理解する。短編という小さな器にこめられたさまざまな表現技法、作家たちの意図、さらにくりかえしあらわれてくるテーマを理解し、それらがどのように結実しているのかを、テキストに即して検討する。一回ごとに一編の短編小説をとりあげるので、参加者は授業までに必ずそれを読了しておくことが前提となる。教室では各人が、自分の感想と解釈を披露しあって、相互に読みを深めていく。	
		世界の文学を読むB	この授業は、「世界の文学を読むA」と同じく、世界におびただしく存在する優れた文学作品を俯瞰して、文芸ジャンルの幅広さや可能性に気づいてもらうことを目標とする。そして、最終的には、文芸が歴史的にどのように形成されてきたかという意識、「小説の自意識」を身につけてもらいたい。ただし、アプローチの仕方は「A」とは異なる。19世紀西欧小説の代表作を読んだ上で、その源流をなす①古代ギリシャ悲劇、②聖書、③古代牧歌物語、④中世騎士道物語、⑤近世悪漢小説に焦点を絞って、文芸の変化を辿ってゆく。	
		人間とは何か（哲学入門）	文芸の根底には「人間とは何か」という哲学的な問いがある。人間は矛盾のかたまりである。文学は、その矛盾する両極の一方を簡単に手放さず、矛盾のままに抱えて問い詰めていく。両極の一方を手放せば、答えが出るとしても、考えるとは、答えが出るように問いを立てて答えを出すことではない。大事なことは、答えを発見することではなく、問いを発明することなのだ。この授業では、人間とは何かを問う哲学的テキストを取り上げ、著者が矛盾の塊である人間の矛盾の両極を手放さずにいかに人間に関する新しい問いを発明しているかを追う。	
		映画史入門	映画の歴史は約100年。文学にくらべてはるかに短い。だが、20世紀における科学技術の急速な進展とともに加速度的に豊かな変容を遂げてきた。その変遷を具体的に辿ることを通して、偉大な才能たちがどのような試行錯誤を闊ってきたかを世界的な視野で追跡しつつ、映画の魅惑の原点を探るのがこの授業の目標である。映画史とは、映画をめぐる言語活動の足跡でもある。映画の魅惑の原点を探ることは、言語表現について実践的に考えようとしている学生にとって切実な行為となるはずである。	

科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
IV 主 専 攻 科 目	基 礎 科 目	編集と出版	この授業の目的は、雑誌や単行本の制作に関わる出版編集の仕事の内容について学ぶこと、そして、出版業界の現状と未来について考察することである。出版編集者は、基本的には著者の陰に隠れた「裏方」であり、その仕事の実像が見えにくい面がある。また同じ編集者という職名であっても、その仕事の実態は出版物の性質によって実に多様である。この授業では、千変万化ともいえる編集者の仕事の最も基幹的な部分を、わかりやすく解説する。	
		日本の古典ワークショップ	この授業の目的は、日本の古典を外側から触れるのではなく、内側から体感してもらうことである。そのために、いくつかの作業課題を出す。たとえば、『古事記』に倣って、自分流に神話を創ってみるとどうなるか、また、物の怪が登場する『源氏物語』の「葵」の帖を正確に読みとったうえで、舞台や人物を現代に変えて、つまり、物語の構造は変えずに要素を変えて、自分なりの翻案小説を創るとどうなるか。創作物は添削し、製本して、最後に本人に返却する。	
		文章と表現	現在私たちが使っている日本語には、文章の書き方の正式な規則がない。また、音として発せられる言葉と、文章に用いる言葉とが明確には区別されていない。ところで、言葉は単に伝達を目的に使った場合でさえ、しばしば誤って伝わる。それでは、そのような不安定な言葉を使って行う「文章表現」とは、どのようなものなのか。この授業では、表現を目的として書かれる文章の特質が何なのかを理解することを目的とする。また文章表現の背後にある文化的な背景にも目を向ける。	
		演劇ワークショップ	「演劇」の成り立ちの歴史を具体例に即してたどり、人類と共に常に存在し続けてきた「演劇」のもつ情動の内実に迫ることを第一の目的とする科目である。古代ギリシャ悲喜劇に端を発しリアリズム思想の根強い西洋演劇の歴史を東洋演劇との対比において把握し、更に明治以降西洋思想の影響下に育まれた日本の近代演劇と第二次世界大戦後から今日までの現代演劇を通覧する。「演劇」の本質を理論と実践の両面から掌握するための授業である。	
		民俗学入門	柳田國男が創始した特異な学問である民俗学について、基礎的な理解を身につける。まず民俗学の歴史的な成り立ちと方法論について学び、固有信仰や風習について一定の知識を持ち、そのうえで、カミ、まれびと、山人といった代表的な民俗学のトピックを理解していく。それらを通じて、前近代的な社会における常民の日常世界、具体的には村の人的構造や流れている時間、宗教意識、生活に溶け込んだ異界のありかたなどについて考える。	
	創 作 系 科 目	詩の技法	詩とは何か、を理解するためには、まずテキスト自身に徹するというテキストクリニックの方法論を身につける必要がある。その上で、馴染のある作品から、文学史上の名作までを俯瞰する。自ら選んだ詩作品について、権威や思い込みにとらわれない自由で正確な読解の方法を身につけつつ、文学における詩の位置づけについて、自分なりのイメージや概念を獲得する。また俳句・短歌の伝統と近代の問題、現代詩との比較などを通して、詩の本質について理解を深める。	
		思春期文学とファンタジー	本授業では二つのジャンルを扱う。ひとつめはアイデンティティ形成の途上であって、戸惑いさまよう「若者」を主人公とした物語「思春期文学」であり、テキストに即してその諸相を確認すると同時に、若者にとっての課題は何かを問う。もうひとつは、1980年代以降世界的に流行しているファンタジーであり、これもその歴史をたどりつつ、具体的に作品を読むことで、ファンタジーの特性と魅力を探る。またこのふたつのジャンルは時に重なり合うので、その点も考察する。	
		現代文学のフロンティア	今まで誰も書いていないことを、今まで誰も書いていない書き方で書く。それが現代文学の創作者が日々鏝を削る課題である。この授業では直近30年間、1980年代から2000年代にかけての日本文芸の代表的作家（主に戦後生まれの作家）の主要作品を、長編、短編、歴史小説、SF小説、私小説、純文学、読み物、ジャンルを問わず、取り上げ、熟読して、その実験性を汲み取っていく。この中から一人、現在の自分にスパークする作家を見出してもらって、卒論卒制につないでもらうことも、授業の目的である。	
		小説で読む現代社会	小説は社会のなかで創造される。真空の実験室で創造されるのではない。したがって、小説のなかには社会がコンパクトに圧縮されている。この授業では、小説の表面たる物語ではなく、小説の背景である社会に注意を向けて、私たちの生きる社会とはいかなる特性や歪みを持った社会か、考察する。そして、現在の社会にふさわしい文芸の形とは何か、あらためて考え直したい。取り上げる作品は、戦後の作品に絞る。必要に応じて評論・エッセイ・映画も取り上げる。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
IV 主専攻科目	創作系科目	クリエイティブ・ライティング 1	創作と合評の実践授業である。履修者は各自作品を制作して提出し、他者の作品を読み、相互に批評する。文芸は読者あつての文芸である。ひとりよがりの文芸に陥っては、文芸の自己否定になる。創作は孤独なモノローグの世界ととらえられがちであるが、現実には絶えざる他者との対話である。ひとりよがりを排し、他者の声に耳を傾け、自己を他者に開いていく過程が、創作の過程であるといってもよい。授業の性格上、15人ほどのサイズが望ましい。人数が超過する場合は、履修制限をかける。	
		エッセイを読む／書く	エッセイ、すなわち随想とは、読んで字の如く、自由に綴られた一見気ままそうに思える散文である。しかし、随想は、それと同時に、その源流がキケロやモンテーニュ、蘇軾（そしよく）や吉田兼好などの先達に見出される、散文芸術の重要なジャンルのひとつでもある。この科目では、エッセイの伝統を踏まえつつ、近現代を代表するいくつかの作品を読み、エッセイが創作と批評の双方に栄養を供給しつづけていることを確認する。そして、学生みずから、エッセイというスタイルで森羅万象人生諸般にわたって思考し、実作を試みる。	
		クリエイティブ・ライティング 2	本授業は、「クリエイティブ・ライティング 1」を受講した学生のみを対象とする。「1」と同じく、履修者は各自作品を制作して提出し、互いに作品を読みあつて、批評する。「1」と比べて「合評」の質があがるように、参加者にはより高度な批評眼を要求する。意見を出せない者は、退場してもらおう。他者への配慮を周到にめぐらしたうえで、いかに語りにくいことを語り伝えるか、厳しい訓練の場になるだろう。「1」のように15人ほどのサイズが効果的であるので、人数が超過した場合は履修制限をかける。	
		俳句ワークショップ	およそ四百年前に誕生した俳句は、今では世界各地で多くの人々を魅了する文芸となっている。授業では、古今の名句を鑑賞し、自分たちで俳句を詠むことを通して俳句のもつ魅力の源を探る。なぜこの日本で俳句が生まれたのか、俳句が成り立つために必要な条件とは何なのか、俳句を成り立たせていた条件が、明治維新以降の日本の近代化によってどう変わったのか、それとともに俳句がどう変わらなければならなかったか、近代化によって俳句がこう変わった変容を通じて、日本にとって近代とは何だったのか。こうした諸問題を考察する。	
		詩をつくる／読む	ポエジーが感性的なものであればあるほど、逆にそこには言語的理性、すなわち作品を貫く詩の理論が必要になる。この授業では、学生それぞれが詩の技法を研究し、実作品もしくは詩論を発表する。作品、詩論のテーマはまさしく「自由」。また発表された作品・詩論をもとに教室で討議を行い、作者自身も気づかない資質の指摘を行えるよう、批評能力を高める。実作品、詩論の完成、発表、それへの建設的コメントという経験を通じ、書くことの本質の把握を目指す。	
	批評系科目	ノンフィクションを読む	文芸にはフィクションだけではなく、ノンフィクションというジャンルもある。ノンフィクション作品は、社会の多様な変化とともに熟成しつつある。フィクションでなければ伝わらない真実もあれば、ノンフィクションでなければ伝わらない真実もある。この授業では、直近30年間の日本の代表的ノンフィクション作品を10作ほど選んで、読み進める。取り上げる予定の作家は、猪瀬直樹、辺見庸、沢木耕太郎、立花隆、大泉実成、高木徹、山崎朋子らである。	
		現代映画論	映画は1895年に生まれた。現在、それまでの映画文法と現代人の欲求のあいだにズレが起こり、既成の映画イメージをはみ出す果敢な試みが、日本はもとより世界各国で多彩に行なわれている。豊穣な混沌と呼ぶことのできるその現状には、映画のみならず、およそ表現と名のつく営為を志向する者に密接に関わってくる問題がさまざまに見られる。この授業では、その実情に具体的に触れることを通して、現代の先端的な映画表現がどんな域にあり、どこへ向かいつつあるかを探る。	
		近現代文学～他者のゆくえ	江戸期の文学が、明治になって現在の文芸へと移り変わり、近現代の文学が誕生した。そこには、西洋文学からの影響があり、〈他者〉を意識しつつ新しい時代の文学をつくり上げていった明治の文学者たちの努力がある。この科目は、江戸から明治、大正、昭和以降へと移り変わる時代を反映する日本の文学の変遷を、具体的な作品を読むことで感じ取ることを目的としている。豊かな“混沌”から、自らの表現の糧となるようなものを見つけ出して欲しい。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
IV 主専攻科目	批評系科目	明治の文学～私の誕生	明治時代は〈個〉が誕生し、文学の中にも自分自身を見つめなおす意識が生まれた時代である。そのため、江戸時代の戯作とは根本的に異なる文学意識が登場し、数々の画期的な作品がうみだされた。そしてその潮流は、その後の日本特有の〈私小説〉の成立も促していく。この授業では、明治時代に活躍した代表的な作品を取り上げて読み、そうした作品の作者や成立背景に関する基本的な知識を習得する。そのうえで各自が自分自身の読みを施し、そこに創造の契機をつかみとることを目標とする。	
		文学とセクシュアリティ	この授業は、詩・小説さらにサブカルチャーである映画などを題材として、各作品におけるセクシュアリティのあり方が作品の本質と根深く関わっていることを分析する。パターン化された性差認識を脱構築することによって、従来のなアプローチでは把握しきれなかったテーマや表現方法についてより根源的に構造的な理解が可能になる。さらに評論などに示される性差認識の歴史の変遷をたどり、現在のパラダイムがいかなる様相に辿り着いたのか、現実の性意識とも合致するような文学的性差認識を確立し、そこに至る必然性を共に確認しあう。	
		読み換えの技法	批評は、つねに何かの領域と何かの領域とのあいだの思考である。言い換えれば、境界こそが批評の場所である。たとえば批評は、①創作（文芸ジャーナリズム）②文学研究（アカデミズム）③文学以外のジャンル（政治・哲学・宗教・美術など）および④一般の読者、のそれぞれの境界に位置している。批評は、それぞれの領域に対して緊張した関係を保持することによって成立している。授業では、諸領域間のこのような緊張を場所とする批評がどのような機能を果たしているかを、具体例を参照しつつ考える。	
		文学精読	「神は細部に宿る」という言葉がある。文芸作品の精髓は、ストーリーや世界観ではなく、テキストの些細なディテールにこそ宿る。優れた作者はみな、そのような細部を創り出すことに心血を注いでいる。ゆえに、文学の学習を深めるためには、一言一句もゆるがせにせず、ゆっくりと丹念に読む精読が必要となる。この授業では、テキストの中にそのような細部をいかに見出すか、また見出した細部を全体との関連においていかに解釈するかを精読の実習を通じて学習する。	
		リーディング・ワークショップ	古典的な名作は、人生の節々においてそれを読み返すたびに以前とは全く違った顔を見せる。この授業では、古今東西の文学からテキストを選んで「読む」こと、熟読し愛読することが、生きることににおいてどういう意味を持ちうるのかを実習を通して学ぶ。読むとはたんに情報を収集することではない。何かの目的のための手段として読むのではなく、読むために読む読み方がある。十年、二十年という長い目で見た場合、読むこと、熟読し、愛読することが生きることに直結するのは、そのような読み方である。	
	編集系科目	サブカルチャーと文学	20世紀の後半にサブカルチャーは爆発的に拡大し、ほぼ文化の全面を覆うにいたった。現在では、文学とゲーム・アニメ・マンガといったサブカルチャーは相互浸透し、複雑な影響関係を結んでいると言える。そこであらためて文学とサブカルチャー諸ジャンルのあいだの関係を歴史的な経緯をふまえつつ確認し、大衆情報化社会におけるカルチャーのありかたを考察する。そして魅力的で生産的なコンテンツ創造のありかたについて主体的に考える。	
		編集ワークショップ	デスクトップ・パブリッシングなど、編集の見かけはどんどん進化しているが、編集作業の本質は実は何も変化していない。文章をきちんと校正すること、著者と読者とのあいだに立つて、ニーズと作品との調整をすること、少しでも魅力的な目次やタイトルをつけること、適確な取材やインタビューをおこなうこと、これらのイロハは今も昔も同じである。この授業は、理論ではなく実践によって、これらのイロハを伝えることである。これらの実践は、いずれどのような分野に学生がすすんでも、役に立つだろう。	
		童話の世界	この授業は、自分の手で絵本を一冊丸ごと、最初から最後までつくりあげることを目指す。理論ではなく、実践本位の構成である。子どもむけの世界だからといって気を抜いてはいけない。子どもむけだからこそ、より賢明で慎重な配慮が要る。授業を通して、絵と文章を構築していくことのむずかしさを実感してほしい。さりげない一文やカットの裏にどれほどの苦労が隠れているか、身体に刻み込んでもらいたい。授業の性格上、10人程度のサイズが望まれる。	
		比較文学の楽しみ	現代、比較文学といえ、さまざまなジャンルの文学作品を比較することを意味する。なかでも翻訳文学を原作と比較することは重要な位置付けとなっている。この科目では、外国からもたらされ、日本語に翻訳された作品を初め、さまざまな異なる領域の文学作品を比較するが、単に言語の相違のみに着目して外国の文学と日本の文学を比較するにとどまらず、個々の文学作品から発信される情報を受容する読者の背景にも意識を向けつつ、個々の作品を読み解き理解を深めていく。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
IV 主専攻科目	編集系科目	空想の美術館	芸術作品とはある素材を用いて創作された作品が、時代の流れを超えて変遷し、今日我々の眼前に在るものだ。作品は、色と形であらわされるが、通常、色は褪せし、形は変化する。ある時代、ある民族にとって、ある機能のために重要な建物があったとしても、時代が移り、支配層が変化すれば、そうした建造物は建て替えられ、あるいは、再利用される。作品は時代に応じてその意味を変える。この授業では、西洋美術史上の代表作を中心に、建築、彫刻、絵画、工芸などの諸ジャンルを取り上げて変遷のなかで芸術作品がもつ意味を考える。	
		デジタルメディアと文学A	インターネットは私たちの生活の隅々に侵入し、ついに文芸のあり方そのものに影響を与えるようになった。この授業では、今日に至るコンピュータとインターネットの歴史を考察しつつ、21世紀を生きる表現者として、ネット時代を生きるのに必要な知恵を身につけることを目指す。授業では、コンピュータを用いた実習を行うが、これは操作技術を教えることが目的ではなく、情報技術的な考え方を理解するための補助的な手段としてということになる。	
		デジタルメディアと文学B	電子出版が普及しつつある。しかし、電子出版の基盤であるコンピュータもインターネットも、紙の出版に較べれば、いまだ短い歴史しか持たない。したがって、電子出版が紙媒体に取って替わるには、様々な問題がある。例えば、漢字をどう表記するかといったことも、万人が納得するような解決を得ることは難しい。この授業では、上記の問題点を考察するため、文字と漢字の基礎について考察する。また、電子の文字と、手書きあるいは印刷された文字の相違について理解を深め、電子出版の可能性について考える。	
	卒業制作科目	卒業制作ワークショップ 1	「卒業制作」完成に向けての第一ステージの科目である。これまでの学習による蓄積を元に、小説・評論・詩歌・戯曲・シナリオ・映像作品などの創作および研究を行う。文芸創作学科で学んで来た成果を問う「卒業制作」は、学科の教員や授業科目が多岐にわたるように、上記のような様々な表現の分野において行うことが可能である。この授業は、学生が相互批評や共同研究やプレゼンテーションなどをおこない、切磋琢磨しながら、自分が「卒業制作」において何をしたいのかを見出してゆくためのプロセスでもある。	
		卒業制作ワークショップ 2	「卒業制作」完成に向けての第二ステージの科目である。「卒業制作ワークショップ 1」で学んで来たことを元に、自分が何をやりたいのかを具体的に決定し、その目的に向かって前進する。たとえば、小説・評論・詩歌・戯曲・シナリオ・映像作品・研究に必要な取材、調査を行う。また、ノートやカードなどを作成し、具体的な執筆のための計画を立てる。また、取材、調査、計画にしたがって、卒業制作のドラフト（草稿、草案）を作成する。	
		卒業制作ワークショップ 3	「卒業制作」完成に向けての最終ステージの科目である。それは、文芸創作学科における学修の総仕上げとして「卒業制作」作品をつくりあげることをも意味する。「卒業制作ワークショップ 2」で作成した卒業制作のドラフト（草稿、草案）を他者に読んでもらい、他者の意見を聞くことを通して、ドラフトを自ら再編集し（テキストに加筆し、配列を変え、テキストを削除し）、文章や語句を綿密に推敲し、ブラッシュアップしてゆく。最終的には、誤字・脱字・誤記のない小説・評論・詩歌・戯曲・シナリオ・映像作品・研究論文を完成する。	
	学部教養科目	ことばの世界	「ことば」は人間を人間たらしめている大切なツールであり、人間は「ことば」によって生活し、歴史を刻み、世界を発展させてきた。「ことば」と「コミュニケーション」は文化・社会系の学部が特に大切にしている分野である。この講義は文化社会学部の基礎的な科目として設置されており、特に新入生に「ことば」や「表現」や「コミュニケーション」の面白さ、大切さ、奥深さを知ってもらうことを通して、文章を読み解く力を磨くことを目標とする。	
		知のフロンティア	グローバル化が進み、技術や組織あるいは社会を構成する人々の意識や価値観など、現代社会のさまざまな分野で急速な変化が進み、さらにそのスピードはますます高まっている。しかも各分野の様々な事象は加速度的にかつ複雑に交差しつつあり、社会では特定の分野や考え方にとらわれない広い視野と柔軟な発想が求められている。本授業では、現代のさきがけとなる学問研究上の諸成果の中から学科の枠にとらわれない知的刺激に富んだテーマを取り上げ、学部横断的視点から知の最前線について平易に学んでもらうことを目的とする。	

科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
IV 主 専 攻 科 目	学 部 教 養 科 目	基礎情報処理 1	現代は高度情報化社会となり、あらゆる分野で自ら考える力を育成するためにも、コンピュータの操作技術と知識が必要とされる。本科目は、そのような社会的要請に答えて、基本的なコンピュータ活用能力を養うと共にコンピュータや高度情報化社会に関する基礎知識の習得を目標としている。具体的には、コンピュータの基本操作から始まり、ワードプロセッサによる日本語文書処理、表計算ソフトによるデータ整理とグラフ作成、マルチメディア・プレゼンテーション、さらにインターネットの活用（電子メールによる情報交換、Web情報検索）などの実習を行う。	
		文章表現法	現代社会のコミュニケーションにおいて、話し言葉による表現と、書き言葉による表現はともにきわめて重要な役割を有している。本科目は、このうち書き言葉による表現（文章表現）能力の養成と向上をはかることを目的とする。すなわち、大学におけるレポート・卒業論文等から、卒業後の社会生活における様々な性格の文章にいたるまで、多様な文章表現の基礎となる表現上の知識および論理的な文章の作成方法を、実際の執筆作業を通じて実践的に学ぶことが本授業の中核である。	
		古文基礎	本授業では古文・漢文を読むための基礎的な力を養成する。国語科の教員養成のための基礎科目であるとともに、日本史・中国史・日本文学等を学ぶにあたって必須の漢文を読むため古典文法の力を養うために、力が確実に身につくような実践的な内容とする。また、古典常識や基礎的な古典文学史も教員養成の観点からおさえることを目的とする。高校までの古文の学習のリメディアル的な要素を持ちながら、より発展的な力を養成する。	
		アラビア語入門 1	アラビア語は、東はイラクから西はモロッコにいたるアラブ諸国の共通語であるばかりでなく、国連の公用語のひとつでもある。さらにはコーランの言葉として、アラブ以外の全世界のイスラム教徒にとっての意義も大きい。ただし、アラビア語は、日本語とは大きく異なるセム系の言語で、文字表記も子音文字中心で短母音も一般の文章では原則として表記されない。このような言語であるため、最初の入門科目である本科目では、アラビア文字の発音、書き方、読み方、初歩的文法の習得を目標とする。	
		トルコ語入門 1	トルコ語は、西アジア・中央アジアを代表する民族のひとつであり、同地域の文明の形成に大きな役割をはたしてきたトルコ人の言語である。トルコ語の学習は中央ユーラシアに広がるトルコ系諸文化を理解することにも繋がっている。本科目では、現在のトルコ共和国で用いられている現代トルコ語を学習する。現代トルコ語の表記はローマ字であり、文法構造も日本語と類似しているため、マスターしやすい。本科目では、文法の基礎を習得して、平易な文章を読めるようになることを目標にするとともに、簡単な日常会話の練習も行なう。	
		ヒンディー語入門 1	ヒンディー語はインドの連邦公用語であり、人口10億をこえるインド国民の過半数が理解する、世界第三位の話者人口をもつ大言語である。インドに興味をもつ人は、その文明を根底から把握するために、ぜひとも理解しておきたい言語である。インド・ヨーロッパ系の言語であるヒンディー語は、文字表記は独特とはいえ明快な言語である。本科目は、インド理解の前提として、ヒンディー語の基礎、すなわち、発音・文字・初級文法の把握を目標とする。	
		ペルシア語入門 1	イランの国語であるペルシア語は、アラビア語と並んで、西アジアを代表する大言語のひとつである。また前近代におけるペルシア語文化圏の広がりには、西アジアばかりでなく、中央アジアや北インドをも覆い、これらの地域の文明を支えてきた。ペルシア語はインド・ヨーロッパ系の言語であるが、動詞が文末にくるなど日本語との類似点もある。文字は子音中心の表記である。本科目は、このようなペルシア語の基礎、すなわち、ペルシア文字の発音、書き方、読み方、初歩的文法の習得を目標とする。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
IV 主専攻科目	学部 教養科目	ギリシア語入門 1	西欧文明を支えた精神的支柱として古典古代、とりわけ古代ギリシアの哲学や文学は、過去に大きな役割を果たし、時代を超え、地域を越えて現在もなお私たちの文化に深い影響を与えている。この授業では、古典ギリシア語で記述された文献を直接読解するために必要となる基礎的な文法事項を修得することを目的としている。また学修の過程でギリシア語で書かれた古典の諸作品の一節や、古代ギリシアの文化的側面に触れるなどして、ギリシア語習得の一助とする。	
		ギリシア語入門 2	この授業は、すでに「ギリシア語入門 1」を履修した者および同等の知識を有する者を対象とし、さらに古典ギリシア語で記述された文献を直接読解するために必要となる基礎的な文法事項を修得することを目的としている。授業は「ギリシア語入門 1」と同様に、あらかじめ決められたギリシア語の教科書に沿って進められ、各単元における文法事項の解説と練習問題の解答が中心となる。受講生は当該箇所配された練習問題を事前学修として課せられるとともに、授業後の復習やテキスト読解を通じて、ギリシア語知識の定着を目指す。	
		ラテン語入門 1	ラテン語は古代ローマ人が使用していた言語であり、地中海世界における公用語の地位を長く得ていた。また古代ローマの滅亡後も、文学、行政、法律、学問、キリスト教会の共通語として使われ続けることによって、西洋文明の形成に大きな役割を果たした。この授業では、ラテン語の基礎的な初等文法を学ぶことを主な目的として、文法事項を解説し、練習問題をおこなう。また、ラテン語の歴史、ロマンス諸語との関係など、ラテン語に関する周辺的な事項についても触れることで、その影響の深さについても考える。	
		ラテン語入門 2	ラテン語は、古代ローマ人の言語であり、ローマ帝国の広大な領土内の公用語として用いられ、また中世以降のヨーロッパ世界においても大きな影響力を持ち続けることによって、西洋文明の形成に重要な役割を果たした。この授業は、「ラテン語 1」を履修した者および同等の知識を有する者を対象とし、ラテン語で記述された文献を読解するために必要な基礎的な文法をさらに習得することを目的としている。授業は文法事項の解説と練習問題の解答を中心として進められ、ラテン語知識の定着を目指す。	
		東欧諸語	東ヨーロッパには、スラヴ系に属す西スラヴ語（ポーランド語、チェコ語、スロヴァキア語など）と南スラヴ語（ブルガリア語、セルビア語、クロアチア語など）が存在する。また、東ヨーロッパ地域の民族的・言語的多様性を象徴するかのよう、スラヴ系とは異なるウラル系のハンガリー語が、西スラヴ語と南スラヴ語の空間の合間をぬって併存している。この授業では、東ヨーロッパの言語的多様性をカバーすることのできるポーランド語、ブルガリア語、ハンガリー語の履修を可能とする。授業は、基礎的な初級文法を学ぶことを主目的とする。	

授 業 科 目 の 概 要			
（文化社会学部 広報メディア学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
I 現代 文明 論	現代文明論	この科目は東海大学に学ぶすべての学生が、建学の精神を理解し自らの思想を培うために開講される。すなわち歴史や世界への見識を高め、人類社会のあり方を見直すことを通じて、地球規模で深刻化する困難な事態にあっても、時代を開拓しようとする力強い思考や意欲を養うことを目的としている。理系、文系の枠を超えて、現代の課題の根源を探るために不可欠な歴史的・系譜的な認識を深め、それを多様な角度から読み解く思考法を身につけるとともに、人間的価値に基づいた倫理観によって未来を選択しうることを学ぶ。	
II 現代 教養 科目	基礎 教養 科目		
	人文科学	人間は長い歴史の中で多くのことを考え、様々なものを生み出してきた。哲学、宗教等の思想や、文学、音楽、絵画など、現代まで残されているものもあれば、過去のある時代、ある地域で途絶えたものもある。これらは、どの時代や社会においても生きるうえで不可欠な営みであり、これを通して人類の歴史は形成されている。この科目では、人間がどのような過去を歩み、どのようなことを考えてきたかを学び、現代社会から未来への思考や創造の可能性について考えていく。	
	社会科学	人間が生きて行くためには、集まり、秩序を作り、法やルールを持って、コミュニケーションや援助を行い、社会を形成していく。現代社会を見渡し、その問題点や未来を考える際には、その見方としての社会科学を学ぶ必要がある。この科目は、「法・政治」「経済・経営」「社会・福祉」「心理・教育」の分野において、それぞれの歴史、思想、メカニズム、理論、制度等について得た知識や考え方を、「社会を見るための道具として、使いこなすことが出来る力」として養うことを目的とする。	
	自然科学	17世紀頃に生まれた「科学的方法」は、現代社会の礎となっており、仮説を立て、結果を予測し、実験や観測で正しいかを検証するという方法の積み重ねにより、現在も科学技術は進歩し続け、私たちの豊かな生活に繋がっている。この科目は、長い年月をかけて発展した物理学、化学、生物等の各分野の基本的な知識を学習し、講義で身に付けた基本的な知識や思考法を、日常的・職業的な生活に役立て、科学的要素を持つ社会問題に対しても、根拠を持って判断が出来る力を養うことを目的としている。	
	発展 教養 科目		
	シティズンシップ	全ての人間は、基本的人権を持ち個人として尊重され、他者から不当な干渉を受けず、自分の人生を決める権利を持ち、この権利の下、人々は集い、社会を形成し、政治へ参加し、市民としての地位を持っている。現代社会においては、宗教、思想、人種、民族、文化、性別等が異なる、多くの人が生活しており、民主政治を形成しており、意見の相違を乗り越えて、お互いの陣形を尊重し合える社会を形成する必要がある。この科目では、シティズンシップの概念や歴史や、社会参加の方法等を、グループワークを交えて理解し、問題解決の方法を探っていく。	
	ボランティア	もともと、わが国においては、福祉分野を中心に地道なボランティア活動が根付いていたが、大規模な自然災害などを通じ、その関心は高まり、自らNPOを設立したり、市民活動に参加する人も増加している。この科目では、ボランティアの歴史や意味、ルールやマナーを学び、ボランティアを基盤として人の繋がりを広げていく活動や、問題解決型のボランティア活動等について、グループワークを交えて理解や興味を深めていくことを目的とする。	
	地域理解	人はみな特定の地域で生活し、豊かな生活を営むために、仲間を作り、議論し、協働して社会を作り上げていくことが求められている。この科目は、人口、自然、文化、産業、福祉、街づくり等の観点から、地域の課題を掘り起こす問題発見能力を身に付けることを目的とする。具体的には、校舎の所在地の周りの地域社会の実態や課題について探り、グループワークを交えてその解決策を考え、市民参加・参画の前提となる知識や観点を養っていく。	
	国際理解	地球上には70億人を超える人々が生活しており、様々な言語・文化・社会のもとに生活をしている。近年の情報や交通の発展により、遠く離れた地域、異なる文化や宗教、考えを持った人と緊密に触れ合うことが出来る社会になっている。この科目は、現代社会の現実を理解するため、時事問題の理解を深め、現在生じている諸問題を客観的に理解し、他者（異文化）との違いを容認する姿勢や態度、考え方、公平性を、グループワークを交えて養っていくことを目的とする。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
II 現代教養科目	健康スポーツ科目	健康・フィットネス理論実習	本授業では、生涯を通じて活力あるライフスタイルを形成するための理論と実践方法を講義と実習を通して学習する。また、健康・体力面だけでなく、仲間とともに身体活動を通しての「友達づくり」や「仲間との信頼関係づくり」を体験し、コミュニケーション能力の向上をねらいとする。具体的には、健康的な生活習慣を身につけることに重点を置き、健康に関する理論や重要性を理解するとともに、自己の体力に応じたフィットネスの実践能力を習得する。	
		生涯スポーツ理論実習	本授業では、生涯を通じて活力あるライフスタイルを形成するための理論と実践方法を講義と実習を通して学習する。また、健康・体力面だけでなく、仲間とともに身体活動を通しての「友達づくり」や「仲間との信頼関係づくり」を体験し、コミュニケーション能力の向上をねらいとする。具体的には、生涯を通じたスポーツライフスタイルの獲得に重点を置き、スポーツの”おもしろさ”や”大切さ”などを学び、ライフステージに応じたスポーツの楽しみ方と実践能力を習得する。	
III 英語科目	英語コミュニケーション科目	英語リスニング&スピーキング	国際化時代の今日、日本国内外を問わず言語や価値観そして文化の異なる人々と英語を使って意思疎通をはかることの重要性がさらに高まっている。その中で課題に柔軟に対応し、問題を解決するための実践的英語コミュニケーション能力の基盤を作ることを目標とする。学習者の英語力に合わせて効率よく学習できる習熟度別クラス編成で、多様な種類の英語を理解するリスニング力と、自分の意志を適切に表現するためのスピーキング力を相互に関連させながら、総合的に英語力の向上を図る。	
		英語リーディング&ライティング	国際化時代の今日、日本国内外を問わず言語や価値観そして文化の異なる人々と英語を使って意思疎通をはかることの重要性がさらに高まっている。その中で課題に柔軟に対応し、問題を解決するための実践的英語コミュニケーション能力の基盤を作ることを目標とする。学習者の英語力に合わせて効率よく学習できる習熟度別クラス編成で、多様な種類の英語を理解するリーディング力と、自分の意志を適切に表現するためのライティング力を相互に関連させながら、総合的に英語力の向上を図る。	
	グローバル人材育成科目	グローバルスキル	「英語リスニング&スピーキング」、「英語リーディング&ライティング」で培った英語の4技能をさらに伸ばすことを目標とする。リスニングにおいては、聞く目的に合わせて全体像を把握したり、必要な情報を聞き取ることができ、またスピーキングにおいては、様々な文化的背景・状況・相手に合った適切な表現を使って、議論・意見発表を含めた自己表現ができる等、国際社会で通用することを目指したより実践的な英語の総合的運用能力を養成する。	
		アカデミック英語	「英語リスニング&スピーキング」、「英語リーディング&ライティング」で培った英語の4技能をさらに伸ばし、国内外で英語を使用して仕事ができる人材の育成を目標とする。具体的には、様々な文化的背景・状況・相手に合った適切な表現を使って、主専攻科目で学んでいる専門知識を英語でも理解し、伝えることができるように、読解力の向上、英語での議論・意見発表を含めた自己表現を含んだ総合的な英語の運用能力の養成を目指す。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
IV 主専攻科目	広報メディア基礎	広報メディア基礎演習	本学科では第1セメスターにおいて全員が「広報メディア基礎演習」（必修2単位）を履修し本学科で学んでいくための基礎的なトレーニングを受ける。授業では主専攻科目を履修する場合の基礎となる情報が提供されると共に資料や文献の収集・分析の仕方、プレゼンテーションやレポート作成の仕方などを学ぶ。この科目の履修を通じて新入生がこれから先、自らの関心に応じてどのような科目を履修していくかを決めていくことが望まれる。 （オムニバス方式／全15回） (1 飯塚浩一／1回) 新聞の基本的な役割や機能について、その歴史・仕組み・ルールについて解説する。 (9 岡田章子／1回) 雑誌メディアについて、その成り立ちと現状について概観する。 (10 加島卓／6回) 本科目の担当責任者として、全体を統括するとともに、メディアと社会の関係性について考える。 (2 河井孝仁／1回) ウェブメディアならびに行政広報の現状と課題について、事例を用いて解説する。 (3 小泉真人／1回) 企業における広報・広告コミュニケーションについて解説する。 (4 五嶋正治／1回) 映像や動画を、メディアリテラシーの視点から考察する。 (8 水島久光／1回) メディアとは何か、という根源的な問いから、現代社会におけるメディアの在り方を考える。 (6 谷岡理香／1回) 音声表現を通して、ラジオメディアが果たす役割とその機能について概説する。 (7 羽生浩一／1回) ジャーナリズムについて、グローバルな視点から現在の映像メディアについて考える。 (5 末延吉正／1回) テレビメディアが社会に与えてきた影響について、政治・経済の視点から具体的に考える。	オムニバス方式
		新聞・出版論	新聞は私たちに替わって社会を監視し、解釈し、その結果を情報として伝達するという「ジャーナリズム機能」を果たしている。本授業では新聞産業の制度や機構（仕組み）、歴史や諸問題（ルール）、報道の仕事（技術的側面）についての基礎知識を学ぶことを目的とする。一方、出版産業は今日、未曾有の構造変革期を迎えている。本授業では、出版社の具体的な仕事や「出版物」の多様性、読者の手に渡るまでの流通経路などの基礎知識と共に、書籍、雑誌、流通においてどのような変化が起こっているのか、現状と問題点について把握する。	
		放送論	本授業では「放送」の今日のあり方を俯瞰するための基本的な知識と考え方を学ぶことを目標とする。21世紀の今日、デジタル時代の到来とともに、グローバル（世界化）とローカル（地域化）の両方向へ発展しつつ、社会や個人の生活に変化をもたらし続けている。本授業では、今日そしてこれからの「放送」というメディアのあり方を考えていくために、「放送のはじまり」「放送制度」「事業としての放送、その構造」「放送コンテンツと編成」「グローバル時代における放送と未来」という五つの角度から放送の現在を捉え直していく。	
		広報・広告論	本授業では、広報活動および広告活動の基礎的な理論と概念、さらにはその実際（現状と課題）について学んでいくことを目的とする。特に、広報および広告をはじめて学ぶために必要な基礎理論とその事例紹介を中心に授業が進められる。すなわち、広報活動および広告活動の知識の習得のための入門的役割を担っている科目である。今日における広報活動および広告活動の今日的な意義とその重要性とともに、現在の新しい課題や問題点などについて、積極的に紹介していきながら、具体的事例を踏まえて講義が進められていく。	
		マス・コミュニケーション史	私たちの政治的・社会的・文化的意識の多くは情報の送り手であるマス・メディア、マス・メディアによって発信されるメッセージ、そして情報の受け手である読者や視聴者によって構成される「マス・コミュニケーション過程」の中で形成されている。本授業では、どんな情報が、どんな形で、どんなメディアを通じて人びとに伝達され、そのメッセージが人びとにどのように受け取られてきたのかを歴史的に見ていくことで、現代のマス・コミュニケーション過程が私たちの「ものの見方・考え方」にどのような影響を与えているのかについて概説する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
IV 主専攻科目	広報メディア基礎	メディア社会学	広報やメディアを学ぶ際に「社会」がいかなる状態であるのかを適切に認識することは極めて重要である。一方「当たりまえ」とつい感じてしまう日常的な無自覚を与えるのもまた社会である。それに気づき、流されずにメディアを成立させるためには、いかなる仕組みと理論が必要か。このような社会的意識はメディアを学ぶ者には欠かせない。本授業では社会学及びメディア論の基本的な考え方を知り、社会の偶然性、多元性に囚われることなく、新しい事象を見極め、問題を発見すると共に自分の意見を他者に伝達できるようになることを目標とする。	
		メディア産業と倫理	近年における地上デジタル放送の完成とデジタルネットワークの普及は絶対的に思えた放送メディアの覇権を切り崩し、新たなメディア環境デザインの必要性を我々に突きつけている。単にメッセージを送る方法だけでなく、個々のメディア、それ自体の機能を見極めた上で、その持続性を支える経済的・制度的基盤を積極的に構想していく必要がある。本授業では、放送やデジタルメディアの最新動向を踏まえながらこの重大な時代の本質を見定め、そこから新たなメディアと社会との関係性を積極的に構築するための方法とビジョンについて考える。	
		コンテンツ分析論	本授業におけるコンテンツの対象は、主にニュース番組をとりあげ、ある一定期間の各局のニュース番組の内容の比較を行う。必要となれば、外国の報道番組も対象とする。授業内では質、量の両側面からの分析を行うことにより、感覚的な印象を客観的な数値でどこまで捉えることが可能かを追求する。授業を通して分析の手法、発表の方法を学ぶと共に、番組やCMの送り手側の意図や、その意図を達成するための各種技術を探り、加えて、送り手自身すら気づいていない社会的、政治的、文化的な特性などについても迫っていくことを目指す。	
		プレゼンテーション実践	ICT化の進捗の中で、実社会では多様なコンテンツが数多く作られている。併せて文字中心の表現から画像や動画などを適切に利用したプレゼンテーションがさまざまな場面で求められる状況がある。本授業ではこうした状況に対応し、それらに必要な企画提案力を鍛えながら、より高度なプレゼンテーション技術を身につけることを目標とする。単にパソコンを使ってプレゼンテーション用のコンテンツを作成する技術を修得するだけでなく、むしろその前提となる思考力と、実際にプレゼンテーションを行う言語表現力などの能力を高めていく。	
		メディア英語演習	英語の読解力、調査力がつけば、世界中からあらゆる情報を入手することが出来る。テレビのニュース原稿や新聞・雑誌で使われている英語は、受け手が理解しやすいよう簡潔に表現されており、実用的な英語読解力を養うために役立つ。一方、英語で書かれたニュースを読むことは国内中心主義的な視点を相対化し、国内メディアが扱わない地域の出来事や論点などに出会い、グローバルな視点を養うことに役立つ。本講義では文法の基礎をおさらいしつつ記事を読み進め、語彙力をつけ、国際的なジャーナリズムの素養を身につけていくことを目指す。	
		映像制作	映像制作には3つのステップが一般的には考えられる。第1ステップが「プリ・プロダクション」で、企画・構成や撮影台本の作成である。第2ステップが「プロダクション」で、撮影許可申請や撮影、さらにラッシュ試写等が含まれる。そして、第3ステップが「ポスト・プロダクション」で、映像編集や音声編集さらに作品の仕上げのステップである。その後、完成試写会となる。本授業では、「映像」という表現方法を学びながら、映像作品を企画、撮影、編集することによってメッセージ性の高いコンテンツ制作力を身につけることを目指す。	
	メディアと社会	新聞報道論	本授業では、新聞が社会において果たしているジャーナリズム機能や、それに関わる様々な問題について、理論的な分析枠組みを提示するとともに、事例を取り上げつつ解説していく。授業を通じて、新聞報道が今日の社会でどのような役割を果たし、どのような問題を抱えているのかを、自分なりに考察してほしい。そのためには、新聞を読む時、報道されていることが本当に正しいのか、その報道の仕方は適切なのか、といった批判的な視点を持つて接することが望まれる。	
		メディアと市民	21世紀の現代社会において、メディアは大きな転換点を向かえている。いままでのようなマス・メディア（新聞・雑誌・ラジオ・テレビ）だけが影響力のあるメディアという時代ではない。インターネットの登場は、私たちの生活や社会・経済に大きな影響を与えている。そのような中で、私たちは“一市民”としてどのようにメディアと向き合っていくべきであろうか。本授業では、メディアと、さまざまな関わり方をしている人びと（市民）について、具体的な事例を踏まえながら議論や討議を進めていくことを目指す。	

科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
IV 主 専 攻 科 目	メ デ ィ ア と 社 会	メディア・コミュニケーション論	メディアという抽象概念を論じる時、そこには新聞、テレビ、インターネットといった具体物があり、それらがその社会的機能の理解に手掛かりを与えてくれることはいうまでもない。しかし、高度情報化社会の進展により、役割の変化、利用方法やモラルの問題を含めて、運ばれるメッセージやコミュニケーションそのものについては、実態をつかむことは困難である。デジタル化が進むメディアの転換期である現在において、この問いがもつ意味は大きい。本授業では、情報化社会の進展とそこから生じる問題や、リテラシーの重要性に加え、哲学・言語学・認識論・精神分析などの知見を踏まえた新しいメディア理論「メディアロジー」の視座から、この難問にアプローチしていく。	
		女性とメディア	マスメディアは女性及び女性問題をどのように捉えてきたのだろうか。人は社会や文化、歴史や伝統など、さまざまな要因によって「女性」となり「男性」となっていく。女性も男性もそれぞれ担われてきた社会的な「性」による束縛が時に女性にとっては大きな障害となってきた。メディアの存在がジェンダーとして社会的・文化的な意識構造を生み出し、固定化した意味は大きい。本講義ではジェンダーという視点からメディアと、女性という「性」が受けてきたさまざまな社会的影響について、歴史的背景から今日までを概説していく。	
		メディア文化と歴史	本授業ではメディアを文化として捉え、その歴史的背景から今日のメディアの在り方まで、メディアを文化的・社会的・歴史的に考察していくことを目指す。例えば「笑い」とテレビの総バラエティ化、デジタル機器の普及と「身体性」、ゲームやソーシャルメディアに「はまる」空間感覚などの事例を通じて、どのようにメディアが社会的に生産されているのか、その様相を捉える視点の獲得を目指す。本授業では、メディア論やコミュニケーション理論、あるいは哲学や社会心理学の分野で語られてきたさまざまな諸理論を用いて授業を進めていく。	
		出版文化史演習	私たちの多くは書籍や雑誌から大きな影響を受けてきたといえるだろう。これは単に個人だけの話ではなく、社会全体が出版を文化として捉えてきたからである。本授業では、出版を文化的かつ歴史的な視点から捉え、出版が社会に与えてきた影響について、演習形式で学んでいくことを目指す。演習形式を取るため、少人数での講義となる。各受講生は、授業の課題について、毎回事前学習をすることが求められる。毎回の授業では、各自のプレゼンテーションがあったり、時にグループワーク等を行うことによって議論を深めていくことになる。	
		グローバル化とメディア	グローバル化する時代の中で、放送は映像・音声による圧倒的な情報量であるがゆえに、インパクトがあり、広く周知しやすく、かつ社会的に大きな影響力がある。しかし今日、放送ジャーナリズムの現場では、視聴者を誘導する演出や人権を蹂躪した報道の行き過ぎが指摘、批判されることも珍しくない。放送における「報道の自由」「公正な報道」を護っていくために私たちは何を学び、考えていくべきであろうか。本講義では、放送ジャーナリズムのはじまりから今日に至るまでの歴史的経緯を踏まえ、諸問題について事例とともに考えていく。	
		スポーツとメディア	今日スポーツはメディアが伝達する中でも社会的な注目度が極めて高いといえる。大きなスポーツ・イベントはメディアによって大きく報道され、スポーツ関連のドラマ、アニメ、コミックは常に人気がある。こうした「メディア化されたスポーツ」＝「メディアスポーツ」は大きな文化的・政治的・経済的影響を及ぼしている。本授業ではスポーツのどんな側面がどんな形でメディア化されてきたのかを歴史的経緯、具体的事例、今日的な課題を通じて検討した上で社会的に価値のある「メディアスポーツ」とはどのようなものかについて論じていく。	
	広 報 の 企 画 ・ 戦 略	P R ・ 広告戦略演習	本授業では、広報戦略および広告戦略をはじめて学ぶために必要な基礎理論とその事例紹介を中心に授業が進められる。特に企業のコミュニケーション戦略について学ぶことを目的としている。本授業は2つの大きなテーマから構成されている。第1のテーマが広報戦略の基礎概念の整理と戦略事例の分析と討議であり、第2のテーマが広告戦略の基礎概念の整理と戦略事例の分析と討議である。本授業では、演習形式で進められるので少人数による討議とグループワークによってプレゼンテーションが毎回行われ、より深い学びを目指すしていく。	
		W e b メディア論	今日におけるデジタル技術の進化とコンピュータ・ネットワークの普及には、目を見はるものがある。しかし、その変化は単純ではなく、私たちの生活やコミュニケーションの仕方を、根幹から揺さぶりつつある。本授業では、情報技術のもつ意味を社会の表層に現れた出来事に惑わされず、その本質から捉えることを目標とする。具体的な事例を中心に激しく進展しているインターネットに関わる意味をとらえていくように授業を進めていく。これにより「デジタル」という技術に対する理解が今まで以上に深まることを期待する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
IV 主専攻科目	広報の企画・戦略	企業広報論	本授業では、企業広報を中心テーマとして授業が進められる。特に企業広報の基礎理論とその実際、及びさまざまな今日的課題について学んでいくことに主眼が置かれている。広報活動は一言でいえば社会との良好な関係を構築していくための全社的なコミュニケーション活動である。本授業ではこのような広報活動の重要性と今日の諸課題を具体的な事例を中心に授業が進められる。毎回の授業の中では、さまざまな企業の具体的な広報事例を紹介していくと同時に、多面的な分析を加えていくことで企業広報の多面的な側面を学んでいくことを目指す。	
		地域メディア論	地域メディアを単に「地域の情報を伝えるメディア」としてとらえるのではなく、「地域を築く」「コミュニティを創る」ためのメディアとして考える。そのため、本授業では、ミニコミ・CATV・コミュニティFMについて触れつつ、近年、著しい進歩・普及を見せるICT (Information & Communication Technology) を利用したメディア、具体的には地域ポータル、ブログなどを含めて、地域メディアが地域にとって複合的に「はたらく」様子を見極める授業を、具体的な事例を用いながら論じていく。	
		行政広報論	行政広報を学ぶには、現在の行政がどのように経営されているのかをNPM (新公共経営) 等の考え方から理解する必要がある。それによって地域の課題を解決することを目的とする行政にとって必要な機能とは何かについて確認し、その機能の一つである「広報」を単なる「お知らせ」としてではなく、さまざまな地域のステークホルダーとの情報交換と位置づけ、分析を行う。さらに上記の検討にあたっては、電子的手段を含めたさまざまな情報ツールが存在することを確認し、その活用方法について事例をあげつつ理解を深めることを目指す。	
		広告デザイン企画	企業や行政、学校やミュージアムなどにおいて、広告は欠かせない活動である。しかし、これらに完璧な方法や法則はない。いや、むしろそうだからこそ、広告は時に面白い効果を生んだり、また時には哀しい結果になったりするのである。本授業では、情報伝達におけるこうした偶然性を踏まえ、広告の基礎知識を学びつつ、広告のアイデアにおける発想・計画・実施・評価までを具体的に実践し、様々なクライアントに応じた広告を企画できるように実践力を身につけることを目指す。	
	メディアの制作・実践	マスコミ文章表現	マスコミの文章には、正しい日本語表現が求められることはもちろんであるが、誰に何を読ませるのか、によって文章のスタイルは変わる。例えば、広報・広告活動において文章表現は欠かすことのできない要素である。しかし、文章表現によって効果が劇的に上昇するほど社会は単純ではなく、確実な文章表現があるとは言えない。本授業ではこうした前提を踏まえ、マスコミュニケーションにおける現代的な事例への理解も深めつつ、文章表現において何ができるのか、あるいは何ができないのかを見極めていく能力を身に付けることを目指す。	
		映像表現論	本授業では、授業中に映像作品を視聴しながら、そこに込められた作者のメッセージや表現方法、さらには時代を切り取った優れた感性などについて、学んでいく。作品が制作されるに当たって、企画、台本、絵コンテ、シナリオ等、文字情報を視覚的な観点で読み解き、理解するというプロセスではどのような変換作業が行われているのだろうか。本授業では「アニメーション」「ドキュメンタリー」「ドラマ」の異なった作品の原作と映像作品を比較読み解きながら、その文字から映像への変換を実践的に学び、映像表現の基礎を学んでいく。	
		雑誌編集技術	今日、雑誌というメディアは大きな転換点を向かえている。その中で、雑誌の編集という技術にいま注目が集まっている。雑誌は、情報パッケージの形式の一つに過ぎないが、雑誌を例に、情報をパッケージングする方法、すなわち「編集」を身につけることによって、魅力的なメディア・コンテンツとはどのようなものか、また情報を発信することの意義や楽しさについて学ぶ。本授業では、少人数の演習形式によって、各受講生が積極的に課題に取り組むことによって、雑誌の編集とは何か、について深く学んでもらうことを目指す。	
		マスコミ音声表現	日本の教育では「読む」「書く」学びは恒常的に行なわれているが、「話す」「伝える」「表現する」学習は十分とはいえない現状がある。本授業では音声表現に関する基礎的な訓練から始めて、社会的な発話行為を行うための能力を身につける。音声表現一声のトーン、速度、抑揚、間などで相手への伝わり方は大きく変わる。更に、表情、姿勢、態度も重要なコミュニケーション要素である。コミュニケーションの基本をなすこれらのことを実践的に学び、就職活動の面接時、社会の様々な場面で求められるコミュニケーション能力を高めていく。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
IV 主専攻科目	メディアの制作・実践	ラジオ番組制作	インターネットの登場によって、メディアが多様化する時代となり、インターネット等を利用して個人でもラジオ番組を作り、「放送」することが可能になったが、そこには制作者としての責任が生じることを忘れてならない。私たちは、メディアに載った言葉が人を救うこともできれば、傷つけることもあることを知らなければならない。本授業では、放送に携わる者としての基礎知識や心得を身につけるとともに、取材、編集などの番組作りを通して、受講生の自分自身で考える力、表現する力をつけることを目的とする。	
		プロデューサー実践	本授業では、映像メディアの「プロデューサー」という職業を実践的に学びながら、映像における創造のプロセスを学び、結果として様々なクリエイティブな職業に共通する推進力（プロデュース力）を体験的に学修することを目指す。講義内容としては、大きく2つのステップから成る。第1ステップは、プロデューサー業務の基礎知識を学ぶステップである。第2ステップは、プロデュース実務の流れを身に着けるステップである。本授業では、これらの実践的な学びを通して、プロデューサーとしての実践知を身に着けることを学ぶ。	
	卒業制作・研究	ゼミナールA	本学科では各教員の専門分野に応じて、新聞、出版、放送、広報・広告、マス・コミュニケーション、ジャーナリズム、マルチメディア、国際報道などをテーマとして掲げる「ゼミナールA・B・C・D」がそれぞれ複数クラス開講され、学生は第5セメスターから履修することができる。これらの授業は、履修者が自らの問題意識に基づいて資料の収集・分析、調査、研究発表、討論、研究作品の制作などを行い、専門的な能力を磨くと同時に、自己表現のためのプレゼンテーション能力を向上させることを目的としている。なお、本科目ではメディアやジャーナリズムの歴史に焦点を当てて学ぶものとする。	
		ゼミナールB	本学科では各教員の専門分野に応じて、新聞、出版、放送、広報・広告、マス・コミュニケーション、ジャーナリズム、マルチメディア、国際報道などをテーマとして掲げる「ゼミナールA・B・C・D」がそれぞれ複数クラス開講され、学生は第5セメスターから履修することができる。これらの授業は、履修者が自らの問題意識に基づいて資料の収集・分析、調査、研究発表、討論、研究作品の制作などを行い、専門的な能力を磨くと同時に、自己表現のためのプレゼンテーション能力を向上させることを目的としている。なお、本科目ではメディアを取り巻く文化的・社会的な諸要因に焦点を当てて学ぶものとする。	
		ゼミナールC	本学科では各教員の専門分野に応じて、新聞、出版、放送、広報・広告、マス・コミュニケーション、ジャーナリズム、マルチメディア、国際報道などをテーマとして掲げる「ゼミナールA・B・C・D」がそれぞれ複数クラス開講され、学生は第5セメスターから履修することができる。これらの授業は、履修者が自らの問題意識に基づいて資料の収集・分析、調査、研究発表、討論、研究作品の制作などを行い、専門的な能力を磨くと同時に、自己表現のためのプレゼンテーション能力を向上させることを目的としている。なお、本科目ではメディア産業の構造変化とデジタル化の影響に焦点を当てて学ぶものとする。	
		ゼミナールD	本学科では各教員の専門分野に応じて、新聞、出版、放送、広報・広告、マス・コミュニケーション、ジャーナリズム、マルチメディア、国際報道などをテーマとして掲げる「ゼミナールA・B・C・D」がそれぞれ複数クラス開講され、学生は第5セメスターから履修することができる。これらの授業は、履修者が自らの問題意識に基づいて資料の収集・分析、調査、研究発表、討論、研究作品の制作などを行い、専門的な能力を磨くと同時に、自己表現のためのプレゼンテーション能力を向上させることを目的としている。なお、本科目では広報・広告コミュニケーションが社会の中でメディアとどのような関係性を有しているのかに焦点を当てて学ぶものとする。	
		アドバンスゼミナール	本授業は、ゼミナール「A・B・C・D」のさらに高度な専門的知識の修得をめざす上級クラスとなっている。ゼミナールで学んだ研究テーマを、さらに深く研究していくための分析・調査・研究の方法から、研究発表、討論、研究成果の達成など、より高い次元で研究指導が進められる。学生は第7セメスターから履修することができる。これらの研究活動を通して、専門的な能力をいっそう磨くと同時に、自己表現のためのより高度なプレゼンテーション能力を高めることが期待できる。本学科の学修の集大成としての専門性の高い科目である。	
	学部教養科目	ことばの世界	「ことば」は人間を人間たらしめている大切なツールであり、人間は「ことば」によって生活し、歴史を刻み、世界を発展させてきた。「ことば」と「コミュニケーション」は文化・社会系の学部が特に大切にしている分野である。この講義は文化社会学部の基礎的な科目として設置されており、特に新入生に「ことば」や「表現」や「コミュニケーション」の面白さ、大切さ、奥深さを知ってもらうことを通して、文章を読み解く力を磨くことを目標とする。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
IV 主専攻科目	学部 教養科目	知のフロンティア	グローバル化が進み、技術や組織あるいは社会を構成する人々の意識や価値観など、現代社会のさまざまな分野で急速な変化が進み、さらにそのスピードはますます高まっている。しかも各分野の様々な事象は加速度的にかつ複雑に交差しつつあり、社会では特定の分野や考え方にとらわれない広い視野と柔軟な発想が求められている。本授業では、現代のさきがけとなる学問研究上の諸成果の中から学科の枠にとらわれない知的刺激に富んだテーマを取り上げ、学部横断的視点から知の最前線について平易に学んでもらうことを目的とする。	
		基礎情報処理 1	現代は高度情報化社会となり、あらゆる分野で自ら考える力を育成するためにも、コンピュータの操作技術と知識が必要とされる。本科目は、そのような社会的要請に答えて、基本的なコンピュータ活用能力を養うと共にコンピュータや高度情報化社会に関する基礎知識の習得を目標としている。具体的には、コンピュータの基本操作から始まり、ワードプロセッサによる日本語文書処理、表計算ソフトによるデータ整理とグラフ作成、マルチメディア・プレゼンテーション、さらにインターネットの活用(電子メールによる情報交換、Web情報検索)などの実習を行う。	
		文章表現法	現代社会のコミュニケーションにおいて、話し言葉による表現と、書き言葉による表現はともにきわめて重要な役割を有している。本科目は、このうち書き言葉による表現(文章表現)能力の養成と向上をはかることを目的とする。すなわち、大学におけるレポート・卒業論文等から、卒業後の社会生活における様々な性格の文章にいたるまで、多様な文章表現の基礎となる表現上の知識および論理的な文章の作成方法を、実際の執筆作業を通じて実践的に学ぶことが本授業の中核である。	
		古文基礎	本授業では古文・漢文を読むための基礎的な力を養成する。国語科の教員養成のための基礎科目であるとともに、日本史・中国史・日本文学等を学ぶにあたって必須の漢文を読むため古典文法の力を養うために、力が確実に身につくような実践的な内容とする。また、古典常識や基礎的な古典文学史も教員養成の観点からおさえることを目的とする。高校までの古文の学習のリメディアル的な要素を持ちながら、より発展的な力を養成する。	
		アラビア語入門 1	アラビア語は、東はイラクから西はモロッコにいたるアラブ諸国の共通語であるばかりでなく、国連の公用語のひとつでもある。さらにはコーランの言葉として、アラブ以外の全世界のイスラム教徒にとつての意義も大きい。ただし、アラビア語は、日本語とは大きく異なるセム系の言語で、文字表記も子音文字中心で短母音も一般の文章では原則として表記されない。このような言語であるため、最初の入門科目である本科目では、アラビア文字の発音、書き方、読み方、初歩的文法の習得を目標とする。	
		トルコ語入門 1	トルコ語は、西アジア・中央アジアを代表する民族のひとつであり、同地域の文明の形成に大きな役割をはたしてきたトルコ人の言語である。トルコ語の学習は中央ユーラシアに広がるトルコ系諸文化を理解することにも繋がっている。本科目では、現在のトルコ共和国で用いられている現代トルコ語を学習する。現代トルコ語の表記はローマ字であり、文法構造も日本語と類似しているため、マスターしやすい。本科目では、文法の基礎を習得して、平易な文章を読めるようになることを目標にするとともに、簡単な日常会話の練習も行なう。	
		ヒンディー語入門 1	ヒンディー語はインドの連邦公用語であり、人口10億をこえるインド国民の過半数が理解する、世界第三位の話者人口をもつ大言語である。インドに興味をもつ人は、その文明を根底から把握するために、ぜひとも理解しておきたい言語である。インド・ヨーロッパ系の言語であるヒンディー語は、文字表記は独特とはいえ明快な言語である。本科目は、インド理解の前提として、ヒンディー語の基礎、すなわち、発音・文字・初級文法の把握を目標とする。	
		ペルシア語入門 1	イランの国語であるペルシア語は、アラビア語と並んで、西アジアを代表する大言語のひとつである。また前近代におけるペルシア語文化圏の広がり、西アジアばかりでなく、中央アジアや北インドをも覆い、これらの地域の文明を支えてきた。ペルシア語はインド・ヨーロッパ系の言語であるが、動詞が文末にくるなど日本語との類似点もある。文字は子音中心の表記である。本科目は、このようなペルシア語の基礎、すなわち、ペルシア文字の発音、書き方、読み方、初歩的文法の習得を目標とする。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
IV 主専攻科目	学部 教養科目	ギリシア語入門 1	西欧文明を支えた精神的支柱として古典古代、とりわけ古代ギリシアの哲学や文学は、過去に大きな役割を果たし、時代を超え、地域を越えて現在もなお私たちの文化に深い影響を与えている。この授業では、古典ギリシア語で記述された文献を直接読解するために必要となる基礎的な文法事項を修得することを目的としている。また学修の過程でギリシア語で書かれた古典の諸作品の一節や、古代ギリシアの文化的側面に触れるなどして、ギリシア語習得の一助とする。	
		ギリシア語入門 2	この授業は、すでに「ギリシア語入門 1」を履修した者および同等の知識を有する者を対象とし、さらに古典ギリシア語で記述された文献を直接読解するために必要となる基礎的な文法事項を修得することを目的としている。授業は「ギリシア語入門 1」と同様に、あらかじめ決められたギリシア語の教科書に沿って進められ、各単元における文法事項の解説と練習問題の解答が中心となる。受講生は当該箇所配された練習問題を事前学修として課せられるとともに、授業後の復習やテキスト読解を通じて、ギリシア語知識の定着を目指す。	
		ラテン語入門 1	ラテン語は古代ローマ人が使用していた言語であり、地中海世界における公用語の地位を長く得ていた。また古代ローマの滅亡後も、文学、行政、法律、学問、キリスト教会の共通語として使われ続けることによって、西洋文明の形成に大きな役割を果たした。この授業では、ラテン語の基礎的な初等文法を学ぶことを主な目的として、文法事項を解説し、練習問題をおこなう。また、ラテン語の歴史、ロマンス諸語との関係など、ラテン語に関する周辺の事項についても触れることで、その影響の深さについても考える。	
		ラテン語入門 2	ラテン語は、古代ローマ人の言語であり、ローマ帝国の広大な領土内の公用語として用いられ、また中世以降のヨーロッパ世界においても大きな影響力を持ち続けることによって、西洋文明の形成に重要な役割を果たした。この授業は、「ラテン語 1」を履修した者および同等の知識を有する者を対象とし、ラテン語で記述された文献を読解するために必要な基礎的な文法をさらに習得することを目的としている。授業は文法事項の解説と練習問題の解答を中心として進められ、ラテン語知識の定着を目指す。	
		東欧諸語	東ヨーロッパには、スラヴ系に属す西スラヴ語（ポーランド語、チェコ語、スロヴァキア語など）と南スラヴ語（ブルガリア語、セルビア語、クロアチア語など）が存在する。また、東ヨーロッパ地域の民族的・言語的多様性を象徴するかのよう、スラヴ系とは異なるウラル系のハンガリー語が、西スラヴ語と南スラヴ語の空間の合間をぬって併存している。この授業では、東ヨーロッパの言語的多様性をカバーすることのできるポーランド語、ブルガリア語、ハンガリー語の履修を可能とする。授業は、基礎的な初級文法を学ぶことを主目的とする。	
	教職科目	東洋史概説	日本では、明治になって近代的学問が導入されて以来、東洋史学は中国史を中心に発展してきた。その伝統を基本的に維持しつつも、現在では、その研究分野はアジア全域にまで拡大している。こうした歴史的経緯を踏まえ、この授業では、中国を中心とした東アジアをはじめ、それに隣接する諸地域との関連も含めながら、その歴史的状況とその文化的な多様性を広く学び、それらに関する基礎的な知識を習得することを主な目的とする。	
		日本史概説	現代日本は、長い歴史の背景の上に成り立っているものであり、日本社会を理解するには、日本歴史についての理解が不可欠である。また国際交流を進めるうえでも、日本と近隣諸国や欧米諸国との歴史的関係についての認識が必要である。授業では、基本的には受講生に日本史についての通史的知識を持たせることを目標とするが、日本史研究の方法や視点についても紹介する。これらによって、日本社会を歴史的に捉える力を養うように努めたい。	
		西洋史概説	西洋史概説は、世界史の発展の諸時期における西洋の政治・社会・経済・文化などの固有の特質を理解することを目的としている。授業では西洋世界の歴史を時代順に通観していくが、西洋史の対象とする地域と時代は広範であり、すべてを取り上げることとはできない。そこで、西洋史研究の現代的意義を確認したうえで、単なる史実の説明ではなく、古代地中海世界の歴史的発展、古代から中世への移行、封建社会の発展と衰退、近代市民社会の成立、ヨーロッパの拡大、現代の西洋、といった重要な研究課題を中心に考察を深めていく。	
		自然地理学概論	人類をとりまく環境要素としての地形、陸水、気候・気象、動・植物などの自然現象は、相互にかかわり合いながら、全体としての体系をつくりあげている。近代以降の資源の開発利用や産業社会の発展など、人類による環境への一層の働きかけによって、これらの環境の諸要素と人類の関係は、環境問題という新しい局面を生みだし、人類の生存を脅かすものとなっている。授業では、取り上げられる自然現象の空間的な分布や変化の法則性を理解することで、われわれをとりまく環境について理解を深めることを目標とする。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
IV 主専攻科目	教職科目	人文地理学概論	人文地理学は多様な環境のもとにある地表空間に人類が形成する現象、すなわち居住、産業、交通、社会、文化などを対象とし、これらの現象相互間の有機的な関連性と、現象と環境の関わりに着目しつつ、現象の空間的な分布や立地のしくみを解明することを目的としている。講義では個別の地理的現象のみに目を奪われるのではなく、人文地理学の諸分野についての基礎知識を涵養し、現象を体系的に把握する視点と方法を理解することによって、地理学的な考え方を身につけることを目標とする。	
		地誌	人々は、相互にさまざまなつながりを持ちながら、農業や工業などの生産活動や、居住や消費などの生活活動を行っている。このような生産活動や生活活動の空間は、商品経済の発達や交通手段の発展とともに拡大してきたが、実際には限られた空間のなかで展開されている。この限られた空間を一般に地域と呼ぶ。「地誌」は特定の地域を対象とし、人類の諸活動はもとより、自然環境をも含めて総合的にとらえ、「地域性」を解明しようとする学問である。講義では地誌的なものの見方や考え方を身につけることを目標とする。	
		法律学概論	私たちの日常生活は、さまざまな法によって生活が守られ、あるいは生活が規制されている。とりわけ価値観が多様化し、社会が急速に複雑化している今日においては、国家と人、人と人との相互関係を円滑にするルールが不可欠である。法は、社会秩序を維持する役割を担う一方で、個人の自由や権利を保障する機能も果たしていかなければならない。本講義では、単に法律知識を習得するのではなく、基本的な法的思考や法のあり方について、現実の社会生活と結びつけながら考察していくものである。	
		政治学原論	講義の進め方としては、まず、「政治と政治学」というタイトルのもとに、現代の社会科学の特色や、現代政治学の対象と方法など、政治学を学ぶに必要な予備的事項について解説する。次に、前半の講義では、「政治システム」、「政治文化」、「権力」、といった政治学の基礎的概念や、「政党」、「官僚組織」など政治の世界の行動主体が取り上げられる。そして後半では、前半で得た知識を基礎として、特に変貌する現代社会の問題を考えるために、現代の民主主義理論について考察する。	
		国際政治学	この授業の目的は近代国際社会の形成から二つの世界戦争を経て今日に至った国際政治の展開について、史実の整理をおこない、平行して国際政治理論も紹介しつつ現今の諸動向を認識することである。力点は第二次世界大戦以後におくが、ウェストファリア体制から始め、この戦後に急速に進行した国際社会の構造的変化（国際連合を中心とする各種の政府間組織の増加、植民地の消滅、地域別の国際統合機構の発達、経済のボーダレス化等）に注目し、ますます複雑化する国際政治へのアプローチとして、問題領域論、レジーム論の出発点となった国際機能主義の観点を重視する。	
		社会学概論	この授業の目標は、社会学を専門的に学ぶための基礎を身につけることにある。そのためにまず、社会学とはどのような学問であるか、その方法や歴史について、簡潔に説明する。そのうえで、「現代社会に生きる」とはどういうことなのか、家族・宗教・組織などいろいろな側面から考えなおすことをとおして、社会学がこれまで展開してきた主要な議論を紹介・解説する。その上で、現代社会が直面する様々な問題を社会的に分析した事例を学び、客観的に物事を分析する力を身につけることを目指す。	
		経済学概論	経済学概論は、経済学の二つの主要分野である「マクロ経済学」と「ミクロ経済学」の入門科目として位置づけられるものである。前者は、一国の生産や消費といった経済活動の水準がどのような仕組みで決まり、経済政策（財政・金融政策）が一国の経済水準にどのような影響を及ぼすかを扱う。後者は、市場経済がどのような特徴を持ち、その市場がどのように形成され、どういう働きをするかについて分析する。両分野の基礎的な理論や研究事例を学ぶことを通じて、現代社会が直面する様々な問題を経済学的に分析する力を身につけることを目標とする。	
		国際経済学	GATT・WTO体制の下、世界の貿易量は飛躍的に増加し、日本を含む多くの国々が貿易の利益を享受している。一方で、貿易を行う国々の間で貿易摩擦が生じたり、政府による自由貿易に対する介入（保護貿易）が行われたりしている。また、自由貿易協定（FTA）の締結や地域経済統合に関する取り組み、企業や労働の国際移動なども活発化している。本講義では、このような国際経済の基本的な問題を理解する上で必要となる基本的な知識や理論を学ぶことで、国際的なモノ・サービスの取引に関する問題を経済学的な観点から分析できるようになることを目標とする。	
		哲学概論	日本語の「哲学」は西欧の翻訳語であるので、字を見てもほとんど意味が分からず、ただ厳めしいイメージのみが先行してしまっているが、もともとギリシアに始まったとされる哲学はphilo（愛）-sophia（知）が語源であり、広く一般に知を愛する学問、いや知を求めずにはいられないあらゆる人間の営みを指していた。哲学においては何故生きるのか、知るとはそもそもどういうことか、幸福とは何かといった、根本的な問いが繰り返し問われ続け、これらの問いを巡る先人たちの苦悩が刻まれている。この授業を通じて、自ら考える力を培うことを目標とする。	

科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
IV 主 専 攻 科 目	教 職 科 目	宗教学概論	宗教は、おそらく人類の歴史と同じほどに長い歴史をもつといえるものであるが、それを学問的に研究するという姿勢が現れたのはそれほど古いことではない。とくに、現代宗教学はようやく19世紀以来、当時の実証主義的学問傾向に歩調をあわせて発展してきたが、その発生と発達が主としてキリスト教の文明圏で行われてきたために、他の文明圏でも妥当するかが文明の根底を探る比較文明論的な問題となっている。こうした問題に留意しながら現代宗教学の理論や用語を理解しその意味と発展過程を概観する。	
		国際法	国際法は、国際社会の構成単位である国家や国際組織の間の関係を規律するが、いくつかの点で国内法と性格を異にする。本授業ではそのような国際法の基本的性質を理解し、その対象分野全般にわたる基礎的知識を得ることを目的とする。また、現在の国際社会の諸問題を取り上げ、国際法の観点から見ることも重要な要素である。さらに国際法の基本的原則・規則が現実の問題にいかにかに適用され、解決されるかについての専門的知識と思考力を養うことも目標である。	
		社会科・公民科教育法 1	「社会科・公民科教育法 1」は、中学校・高等学校の教員免許状取得に必要な「教職に関する科目」のうち、「教育課程及び指導法に関する科目」における「各教科の指導法」に該当する授業科目である。したがって、授業の目標や内容は、中学校・高等学校の「学習指導要領」やその解説にもとづいて設定される。「社会科・公民科教育法 1」では、特に、中学校社会科・高等学校公民科の教員として必要な当該教科の狙いや内容を学び、指導計画の作成法、指導方法、指導上の配慮事項などについての具体的、実践的な知識、技能を身につけることを目指す。	
		社会科・公民科教育法 2	「社会科・公民科教育法 2」は、中学校・高等学校の教員免許状取得に必要な「教職に関する科目」のうち、「教育課程及び指導法に関する科目」における「各教科の指導法」に該当する授業科目である。「社会科・公民科教育法 1」が当該教科の狙いや教育内容・方法の基本的知識、技能に関するものであるのに対し、「社会科・公民科教育法 2」はより実践的・具体的に授業の方法を習得することを目指す。したがってその主要課題は、授業の指導案作成、生徒に対する発問の工夫、教材・教具の効果的な活用方法などの検討が中心課題となる。	
		社会科教材論	「社会科教材論」は、中学校教員免許状取得に必要な「教職に関する科目」のうち、「教育課程及び指導法に関する科目」における「各教科の指導法」に該当する授業科目である。「社会科教材論」では、学習指導要領に基づき、社会科の教科目標と教育内容を効果的に実現できるような教材の活用や作成方法について考察することをめざす。授業では、生徒たちが学習内容を正確に理解し、関心・興味が喚起されるようにするには教材をどのように工夫すべきかを考える。とくに教科書として用意されている教材内容を吟味するだけでなく、生徒の実態に合わせて、教師自ら、メディアなどを利用した効果的な教材を作成することも重要な課題となる。	

授 業 科 目 の 概 要			
（文化社会学部 心理・社会学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
I 現代 文明 論	現代文明論	この科目は東海大学に学ぶすべての学生が、建学の精神を理解し自らの思想を培うために開講される。すなわち歴史や世界への見識を高め、人類社会のあり方を見直すことを通じて、地球規模で深刻化する困難な事態にあっても、時代を開拓しようとする力強い思考や意欲を養うことを目的としている。理系、文系の枠を超えて、現代の課題の根源を探るために不可欠な歴史的・系譜的な認識を深め、それを多様な角度から読み解く思考法を身につけるとともに、人間的価値に基づいた倫理観によって未来を選択しうることを学ぶ。	
II 現代 教養 科目	基礎 教養 科目		
	人文科学	人間は長い歴史の中で多くのことを考え、様々なものを生み出してきた。哲学、宗教等の思想や、文学、音楽、絵画など、現代まで残されているものもあれば、過去のある時代、ある地域で途絶えたものもある。これらは、どの時代や社会においても生きるうえで不可欠な営みであり、これを通じて人類の歴史は形成されている。この科目では、人間がどのような過去を歩み、どのようなことを考えてきたかを学び、現代社会から未来への思考や創造の可能性について考えていく。	
	社会科学	人間が生きて行くためには、集まり、秩序を作り、法やルールを持って、コミュニケーションや援助を行い、社会を形成していく。現代社会を見渡し、その問題点や未来を考える際には、その見方としての社会科学を学ぶ必要がある。この科目は、「法・政治」「経済・経営」「社会・福祉」「心理・教育」の分野において、それぞれの歴史、思想、メカニズム、理論、制度等について得た知識や考え方を、「社会を見るための道具として、使いこなすことが出来る力」として養うことを目的とする。	
	自然科学	17世紀頃に生まれた「科学的方法」は、現代社会の礎となっており、仮説を立て、結果を予測し、実験や観測で正しいかを検証するという方法の積み重ねにより、現在も科学技術は進歩し続け、私たちの豊かな生活に繋がっている。この科目は、長い年月をかけて発展した物理学、化学、生物等の各分野の基本的な知識を学習し、講義で身に付けた基本的な知識や思考法を、日常的・職業的な生活に役立て、科学的要素を持つ社会問題に対しても、根拠を持って判断が出来る力を養うことを目的としている。	
	発展 教養 科目		
	シティズンシップ	全ての人間は、基本的人権を持ち個人として尊重され、他者から不当な干渉を受けず、自分の人生を決める権利を持ち、この権利の下、人々は集い、社会を形成し、政治へ参加し、市民としての地位を持っている。現代社会においては、宗教、思想、人種、民族、文化、性別等が異なる、多くの人が生活しており、民主政治を形成しており、意見の相違を乗り越えて、お互いの陣形を尊重し合える社会を形成する必要がある。この科目では、シティズンシップの概念や歴史や、社会参加の方法等を、グループワークを交えて理解し、問題解決の方法を探っていく。	
	ボランティア	もともと、わが国においては、福祉分野を中心に地道なボランティア活動が根付いていたが、大規模な自然災害などを通じ、その関心は高まり、自らNPOを設立したり、市民活動に参加する人も増加している。この科目では、ボランティアの歴史や意味、ルールやマナーを学び、ボランティアを基盤として人の繋がりを広げていく活動や、問題解決型のボランティア活動等について、グループワークを交えて理解や興味を深めていくことを目的とする。	
	地域理解	人はみな特定の地域で生活し、豊かな生活を営むために、仲間を作り、議論し、協働して社会を作り上げていくことが求められている。この科目は、人口、自然、文化、産業、福祉、街づくり等の観点から、地域の課題を掘り起こす問題発見能力を身に付けることを目的とする。具体的には、校舎の所在地の周りの地域社会の実態や課題について探り、グループワークを交えてその解決策を考え、市民参加・参画の前提となる知識や観点を養っていく。	
	国際理解	地球上には70億人を超える人々が生活しており、様々な言語・文化・社会のもとに生活をしている。近年の情報や交通の発展により、遠く離れた地域、異なる文化や宗教、考えを持った人と緊密に触れ合うことが出来る社会になっている。この科目は、現代社会の現実を理解するため、時事問題の理解を深め、現在生じている諸問題を客観的に理解し、他者（異文化）との違いを容認する姿勢や態度、考え方、公平性を、グループワークを交えて養っていくことを目的とする。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Ⅱ 現代教養科目	健康スポーツ科目	健康・フィットネス理論実習	本授業では、生涯を通じて活力あるライフスタイルを形成するための理論と実践方法を講義と実習を通して学習する。また、健康・体力面だけでなく、仲間とともに身体活動を通しての「友達づくり」や「仲間との信頼関係づくり」を体験し、コミュニケーション能力の向上をねらいとする。具体的には、健康的な生活習慣を身につけることに重点を置き、健康に関する理論や重要性を理解するとともに、自己の体力に応じたフィットネスの実践能力を習得する。	
		生涯スポーツ理論実習	本授業では、生涯を通じて活力あるライフスタイルを形成するための理論と実践方法を講義と実習を通して学習する。また、健康・体力面だけでなく、仲間とともに身体活動を通しての「友達づくり」や「仲間との信頼関係づくり」を体験し、コミュニケーション能力の向上をねらいとする。具体的には、生涯を通じたスポーツライフスタイルの獲得に重点を置き、スポーツの”おもしろさ”や”大切さ”などを学び、ライフステージに応じたスポーツの楽しみ方と実践能力を習得する。	
Ⅲ 英語科目	英語コミュニケーション科目	英語リスニング&スピーキング	国際化時代の今日、日本国内外を問わず言語や価値観そして文化の異なる人々と英語を使って意思疎通をはかることの重要性がさらに高まっている。その中での課題に柔軟に対応し、問題を解決するための実践的英語コミュニケーション能力の基盤を作ることを目標とする。学習者の英語力に合わせて効率よく学習できる習熟度別クラス編成で、多様な種類の英語を理解するリスニング力と、自分の意志を適切に表現するためのスピーキング力を相互に関連させながら、総合的に英語力の向上を図る。	
		英語リーディング&ライティング	国際化時代の今日、日本国内外を問わず言語や価値観そして文化の異なる人々と英語を使って意思疎通をはかることの重要性がさらに高まっている。その中での課題に柔軟に対応し、問題を解決するための実践的英語コミュニケーション能力の基盤を作ることを目標とする。学習者の英語力に合わせて効率よく学習できる習熟度別クラス編成で、多様な種類の英語を理解するリーディング力と、自分の意志を適切に表現するためのライティング力を相互に関連させながら、総合的に英語力の向上を図る。	
	グローバル人材育成科目	グローバルスキル	「英語リスニング&スピーキング」、「英語リーディング&ライティング」で培った英語の4技能をさらに伸ばすことを目標とする。リスニングにおいては、聞く目的に合わせて全体像を把握したり、必要な情報を聞き取ることができ、またスピーキングにおいては、様々な文化的背景・状況・相手に合った適切な表現を使って、議論・意見発表を含めた自己表現ができる等、国際社会で通用することを目指したより実践的な英語の総合的運用能力を養成する。	
		アカデミック英語	「英語リスニング&スピーキング」、「英語リーディング&ライティング」で培った英語の4技能をさらに伸ばし、国内外で英語を使用して仕事ができる人材の育成を目標とする。具体的には、様々な文化的背景・状況・相手に合った適切な表現を使って、主専攻科目で学んでいる専門知識を英語でも理解し、伝えることができるように、読解力の向上、英語での議論・意見発表を含めた自己表現を含んだ総合的な英語の運用能力の養成を目指す。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
IV 主専攻科目	心理・社会学基礎科目	基礎ゼミナール 1	本科目は、フレッシュマン・ゼミナールとして位置づけられており、4年間の大学での勉学を始めるにあたって、大学での学び方についての最低限の知識と技術を習得することを目的としている。口頭発表や議論の進め方、レポートの執筆の仕方など、特に専門科目で求められるスキルを経験的に習得していく。同時に、心理学・社会学科目の内容や方法のアウトラインを学び、心理学・社会的諸問題に対する関心を喚起して問題意識を高めていく。	
		心理学概論	この授業は心理学を初めて学ぶ学生を対象とし、心理学の基礎的な概念や理論、研究法を学び、心理学とはいかなる学問であるかを正しく理解することを目的とする。心理学の歴史や代表的な理論、研究者を紹介し、心理学の諸領域を基礎から応用まで広く概観していく。知覚、認知、学習、発達、社会、臨床、パーソナリティなど心理学の諸領域の代表的研究を紹介することを通して、心理学の全体像をつかんでいく。	
		社会学概論	この授業では、本学科の基本目標である「自律と共生」を、社会という視点から具体的に捉え、考えるために必要な道具である「社会学」の用語や概念を身につけることを目指している。私たちが生きている現在の社会で起きている様々な「社会現象」を分析し、考察していくためには、十分な道具を備え、利用方法を身につけておかなければ何もできない。今後益々変化する社会の様子とそこでの人間の生き方を分析し考察するために、その入門授業から、それを可能にする道具を持つこととその道具の使い方を身に付ける準備を始めたい。	
		基礎ゼミナール 2	本科目は、2年次生対象の必修のゼミナールである。「基礎ゼミナール 1」で学んだ学習法や発表等のスキルを前提に、具体的な教材を用いて思考方法を経験的に習得していく。心理学・社会的諸問題に対する関心を喚起して問題意識を高めていくだけでなく、少人数クラスという特徴を生かして教員も交えた討論を反復し、社会科学的な多面的な思考ができるようになることを目標にする。	
		統計学	本学科での経験的な研究を理解し、実施するために必要な統計について学ぶ。たとえば、初学者にとっては、「心理学でなぜ統計（数学）が必要なのか」と思うかもしれないが、科学としての心理学研究においては、統計学の比重は大きい。本講義では、本学科の学問分野と統計学の関係、なぜ研究する上で統計が必要なのかを学ぶとともに、記述統計と推測統計学などの基礎を身につけることを目標とする。	
		心理・社会学研究法	(概要) この授業では、基礎ゼミナール 1 や基礎ゼミナール 2 で培った人間理解・社会理解の視点や考察力に基づいて、心理学や社会学の先端的な観点で研究対象をとらえ、実証的にアプローチする研究方法の習得を目指す。心理学・社会学の分野で開発される研究方法を消化し活用することは、学問世界だけでなく、社会の様々なシーンでの課題の探求や解決に有用である。同一テーマに対する心理学と社会学双方教員の講義を聴くことで、研究対象を複眼的にとらえる力の向上を目指す。 (オムニバス方式／全15回) (3 田中康夫／1回) 投票行動から見る日本文化と心理構造 (5 芳川玲子／2回) 学校メンタルヘルスから見る日本文化と心理構造 (4 元田州彦／2回) 日本文化と心理構造からマイノリティー対策を考える (2 小川恒夫／2回) 日本文化と心理構造から地域社会の新しいネットワークを考える (1 浅井千秋／1回) 日本文化と心理構造から会社のストレス要因を考える (6 有沢孝治／1回) 大学生のメンタルヘルスを日本文化と心理構造から考える (10 山田幸恵／1回) 被災地のメンタルヘルスを日本文化と心理構造から考える (9 菅沼真樹／2回) 病院不妊治療の新たな可能性を日本文化と心理構造から考える (8 石垣尚志／2回) 地域と映画産業の連携を日本文化と心理構造から考える (7 飯島裕介／1回) 国際社会との相違を日本文化と心理構造から考える	オムニバス方式

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
IV 主専攻科目	心理・社会学共通科目	社会心理学概論	本科目は、友人や家族など身近な人間関係から、都市化や情報化の進んだ現代社会までを含む様々な社会的状況の中で生活する人々の日常的な心理や行動について理解することを目的として、講義形式で行われる。授業で取り上げられるテーマは、自己や他者に対する認知や感情、対人関係や集団が個人に与える影響、課題への動機づけや無力感、反社会的行動と向社会的行動、説得的コミュニケーションと態度変化などである。	
		犯罪と非行の心理学	本科目は、犯罪や非行と呼ばれる反社会的行動が生まれる背景にある社会や家庭などの環境要因、犯罪・非行を行う個人の人格やその病理などの精神的要因について講義形式で理解することを中心として、目撃者や陪審員の心理のような裁判に関する心理学的研究、犯罪者の更生のための心理的技法、犯罪被害者のメンタルケアやその従事者のストレスなど、犯罪と非行に関連する心理学的問題についても取り上げていく。	
		身体論	この科目では、心身の健康管理に関する先行知識を座学だけでなく、整体や理学療法・作業療法、薬学や栄養学・医学の専門家からの実践的講義も交えて学習する。身体健康促進の各種方法から、内面のメンタル・ヘルスの安定を維持する方法を模索しながら、実践的に学ぶ授業である。その過程では、このような個人レベルでの心身の健康管理に、公的制度や行政といった公共機関がどのように関係しているか、今後どのようにしていくべきかについても学習し検討する。	
		ジェンダー論	人々のアイデンティティや生き方に深く関わる性別は、生得的な特徴と獲得的な要素が複雑に組み合わさって成り立つ。男女二型というシンプルな性別観は、現実には個人が出会う他者との信頼関係や共生の持続を図るうえで大きな壁にさえなっている。授業では「性別とは何か」という問いを起点に、セックスとジェンダーという二つの性別とその交互作用が個人の意識や行動に及ぼす影響を捉え、性別の多様性への理解と対応を検討する。	
		コミュニティと社会支援	歴史や構造変動、あるいは災害によって絶えず変容するコミュニティのあり方。その質的な変化がいかなるものであっても重要な社会課題になるのは、そうしたコミュニティへの人々の参加を阻む様々な障壁をどのように克服するかである。授業では、自己の意思に基づいて自らを変えていく個人々の権能を支えるエンパワーメントの過程を社会支援として位置づけ、コミュニティの多様化に対応した自律的な生活編成の具体化を検討する。	
		組織心理学	本科目は、産業組織で働く人々の心理と行動について理解すると同時に、受講者が将来のキャリアについて考察することを目的とする。授業は主に講義形式で行われるが、職業やリーダーシップなどのテーマでグループ実習も行う。講義の内容は、職務への動機づけやストレスと就業環境の要因、職業への適性とキャリア選択、職場集団やリーダーシップの特性とメンバーの生産性、組織の構造や管理スタイルとその変革などである。	
		コミュニティ心理学	「コミュニティ」の重要性は、様々な語られる。それでは「コミュニティ」とはなんだろうか？心理学においてもコミュニティの重要性は示されており、臨床心理学的地域援助の基本としてコミュニティ心理学がおかれている。本講義では、コミュニティ心理学の基礎となる考えを理解し、その実践について学び、コミュニティ心理学への理解を深め、その意義や、それらが自分たちの生活にどのように結びついているのかを考えていく。	

科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
IV 主 専 攻 科 目	社会学講義科目	現代社会とマスメディア	現代社会は、情報社会とも呼ばれる。情報・メディア・コミュニケーションという言葉や概念が社会で頻繁に用いられている。本講義では、情報・メディア・コミュニケーションの変化が社会にどのような影響を及ぼしてきたか、という問題について考える。また、高度情報化社会の中での市民生活に関する諸問題、すなわち、知る権利・プライバシー・情報公開・危機管理と情報などの社会的意味を学習し、情報依存に伴うシステムの脆弱性が存在することなど、社会におけるマスメディア情報のあり方と社会生活との関連を理解する。	
		現代文化論	この授業の目的は、私たちの身の回りに当たり前のように存在している「文化」とは何か、私たちの社会や日常生活と「文化」がどのような関係を形成しているのかを考えることである。「文化」を考えることを通して、現代社会のあり方（その歴史）や私たちの考え方・価値観を考えることも目的とする。講義形式の授業であり、具体的な事例を取り上げて、現代社会と文化についての理解を深めていく。	
		大衆行動論	この授業の目的は、現代社会を「大衆」という視点から考えることである。大衆社会の基本的事項（歴史、特徴、批判）を学び、個々人の集合である大衆と都市という空間との関係や情報社会における大衆（その課題と可能性）へと理解を深めていく。講義形式の授業であり、大衆・大衆社会・集合行動という視点から、多種多様な具体例を取り上げて、現代社会の個人の関係についての理解を深めていく。	
		セクシュアリティと社会	男女二型の性別観に縛られた社会でセクシュアル・マイノリティが自らの性的アイデンティティに基づくセクシャリティを表現することは困難である。しかし彼らが提起するセクシャリティの問いや身体・ライフスタイルへの洞察は、ストレートを自認する人々のアイデンティティやセクシャリティを問い直し、多様な性別に生きる人々の共生を考える鍵となる。授業では、セクシャリティを手掛かりにインクルーシブ社会の可能性を考える。	
		社会意識論	この授業では、さまざまなデータや記録を用いて、戦後日本社会における社会意識の変遷を学び、社会意識と社会の変化との関係性について理解を深める。私たちは比較的狭い体験や日常生活での実感から社会的現実を認識しがちである。これまでの社会意識の変遷、そして社会の変化との関係性を学び、現代社会と個人の関係に対して複眼的に考えることができる視点を身につけることが目的である。	
		地域社会論	心理・社会学科の一つの目的は「現代人の心の揺らぎ」を心理学と社会学の両面から分析考察して、その原因と対策を考えていくことである。本授業では、この課題を現代日本社会の地域構造の側面から分析し考察していく。特に、この授業では、わが国の大都市部と地方都市が抱えている諸問題を遡上に上げ、基礎的な数値データをもとにしながら、2040年ごろの日本社会を想定した現在の問題原因と、将来に向けた解決の方向性を探っていく。	
		社会変動論	この授業の目標は、雇用の不安定化や少子高齢化など現代社会が直面している諸問題を、社会構造の揺らぎという観点からとらえ直し、その解決の方向性を考えることにある。おもに社会学で蓄積されてきた社会変動に関する諸議論に依拠しながら、結婚・家族・企業組織・国家などさまざまな側面にわたって顕在化する社会の構造変動を分析しつつ、現代社会が抱える喫緊の問題への対処方法を検討する。	
		国際社会学	国際化は、日本社会にとってもはや後戻りも回避もできない過程である。しかし、国際化は、否定的に捉えられる必要はない。それはむしろ、多様性に開かれた豊かで寛容な社会へと日本社会が発展するチャンスとして捉えることができる。しかし、そのチャンスを活かすためにも、現実の国際化がもたらしている、さまざまな社会問題の解決が求められる。授業では、日本社会における国際化の現状とそれがもたらしている社会問題について諸外国と比較対照しながら学んだうえで、望ましい国際化について考える。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
IV 主専攻科目	心理学講義科目	学習心理学	この授業では、学校教育における児童・生徒の抱える様々な問題点について概観する。それと同時に、現代社会において学校教育が持つ役割や、児童・生徒に対する影響、学校教育の制度の持つ構造的な問題なども検討していく。さらに、不登校などの形であらわれている不適応と呼ばれる行動について、より中立的な視点から考察する。本講義を聴講することを通して、学校教育の中で働くスクールカウンセラーの役割等についても明らかにする。	
		認知心理学	認知心理学は、研究対象とされてきた感覚、知覚、言語、学習、記憶、思考に注意、情動、行為を加え、人間を一種の高次情報システムと仮定し、そこにおいて実現される情報処理過程の解明によって、心的活動を理解しようとする分野である。心理学を支えている基礎理論である認知心理学を学ぶことは、他の心理学分野で扱われているテーマを理解するためにも重要である。本講義は以上のことを中心に、視覚的な教材を適宜に取り入れながら講義を行う。	
		学校心理学	この授業では、学校教育における児童・生徒の抱える様々な問題点について概観する。それと同時に、現代社会において学校教育が持つ役割や、児童・生徒に対する影響、学校教育の制度の持つ構造的な問題なども検討していく。さらに、不登校などの形であらわれている不適応と呼ばれる行動について、より中立的な視点から考察する。本講義を聴講することを通して、学校教育の中で働くスクールカウンセラーの役割等についても明らかにする。	
		パーソナリティ論	パーソナリティに関する研究には長い歴史があり、心理学はもちろんのこと、社会学、精神医学、文化人類学、民俗学、教育学や社会福祉学など、様々な分野からのアプローチがなされてきた。パーソナリティ研究の歴史や、諸理論などの総論から、ライフステージの各時期の諸問題、障害や問題行動、健康、社会と文化、測定法など多角的に学ぶ。そして、人間の理解を深め、自分自身の人間観、相互理解、個人差の受容などを旨とする。	
		人間関係の心理	本科目は、講義と実習を通して、受講者が人間関係における個人の心理と行動を理解すると共に、対人的能力を向上させることを目的としている。講義では、対人認知と対人感情、対人的行動とコミュニケーション、自己呈示と自己開示、対人葛藤と対処行動、アサーションとカウンセリングのコミュニケーションなどを取り上げ、実習では、人間関係における自己の心理や行動傾向の理解、有効なコミュニケーション行動の練習などを行う。	
		ストレス心理学	元来物理学の用語であったストレスが日常用語として定着し、心理学の研究テーマとなって久しい。ストレスが原因でさまざまな身体的、精神的な機能異常や病気が発生するのは誰もが了解している事実といえよう。ただ、ストレスの感じ方、捉え方、対処の仕方にはそれぞれ個人差があるのも事実である。そこに心理学研究の意義が見えてくる。ストレス発生機序を巡る心理学モデル、ストレス耐性、ストレスコーピング等、ストレスを巡るさまざまなテーマについて学んでゆく。	
		発達心理学	人の誕生から死までの心理的变化について、心理学の研究知見に基づいて正しく理解することを目的とする。乳児期、幼児期、児童期、青年期、成人期、老年期という各発達段階を順に追うことで、生涯発達のプロセスをとらえていく。社会情緒的な発達と認知的な発達の両面について、代表的な理論や研究知見の解説を行う。概念的理解にとどまらず、自身や周囲の人々の生活場面と結びつけながら、さらに理解を深めていってほしい。	
		カウンセリング	現代社会は心の時代といわれて久しい。多くの人々が、日常のコミュニケーションや対人関係の問題に関心を持たざるを得ない状況がある。そうした中で、カウンセリングの理論と技法が、重要な位置を占めるに至っている。基本的な理論と技法を学んだ上で家庭生活、地域生活、学校生活など、身近な社会生活におけるカウンセリングの意義と具体的な方法についても学修し、実生活にも役立てられるようにすることがこの授業の目標である。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
IV 主専攻科目	心理学講義科目	心理学研究法	心理学は人を知る学問である。その分野は多岐にわたるが、広範な研究分野を持つ心理学が共通の基盤としている実証科学的な研究方法について学ぶ。人間の心のはたらきと反応の間の関係を確認し、そのこころの法則を見出すために必要な知識とその手法について具体例を提示しながら解説する。研究計画の立て方や仮説の導出、要因計画法など、心について科学的な研究法を学ぶことで、人や社会現象を分析的に見る力を養うことを期待する。	
		家族関係論	現代家族を夫婦関係や親子関係を中心に、発達心理学、臨床心理学、家族心理学の観点からとらえていく。家族全体としての発達過程と家族を構成する個人の発達過程について、相互の関連性も含めて理解を深める。現代では、価値観の多様化や医療技術の発達により、家族や個人のあり方も多様化している。これまでにはなかった「新たな家族」の出現に伴うさまざまな臨床的課題にも触れながら、家族と個人の関係性について考えていく。	
		行動分析学	行動分析学は「人はなぜそのように行動するのか」という問いを、実験的に解明していく心理学である。心理学は行動の科学として、行動の予測と制御に関わる法則を見出してきた。人の心の問題を行動の問題としてとらえ、環境を整備しながら問題を解決していく行動分析学の考え方を学んでいく。また、応用行動分析学等で得られた知見を用いて、人の複雑な行動を理解し、社会的な問題の解決に応用する力を養うことを目標とする。	
		教育心理学特講	教育心理学とは、教育過程の諸現象を心理学的に解明し、教育を効果的に行うための方法を見つけ出すことを目的とする学問である。本講義は、子どもの発達過程、適応と障害の関連、学習過程、教育の測定や評価、学校における教師と児童との関係を中心にして講義を進める。	
		社会福祉学	この授業では、現代の多様な社会問題が社会福祉政策にどのように関連しているかについて理解を深めることを目標とする。そのために、社会福祉の考え方や福祉サービス・制度等について学び、身近な社会福祉の課題や生活問題について考える。さらに、社会福祉における現代の多様な生活課題（ニーズ）を知ることによって、「社会福祉とはなにか」について生活の質の向上の観点から最終的に各自が主体的に考えることを目標とする。	
		精神医学	心理臨床の現場で対応する様々な精神医学的問題をその病理と治療を中心に、心理師の関わり方の視点から学ぶ。精神医学における診断学は他の医学分野と異なり、診断名の時代文化を反映した変遷の上にある。心理学がパーソナリティの理論構築の拠り所とした神経症という名称はすでにない。今後、心理師が医療チームの一員として活躍して行くためには共通言語に習熟しておく必要がある。精神医学が対象とする疾患、その治療介入の基礎を学ぶ機会とする。	
		脳と心	21世紀は「脳の世紀」、今、人類は自らの進化し過ぎた脳を使って自分たちの脳を研究する時代を迎えていることになる。これまで、ブラックボックスとして内的過程を封じ込め理論的、現象的に心を扱ってきた心理学も大きな転換を迫られることになった。それでは、「脳がわかれば心もわかる」といえるのであろうか。脳を知ることで心理学の抱えている学としての課題も見えてくる。改めて、「心とは何か」を考える機会としたい。	
		心理実践職能論	「公認心理師」という国家資格が誕生したことにより、これまで心理臨床家が活躍してきたさまざまな職域において、その職能が厳しく問われる時代が来ることとなった。心理師の活躍が期待される領域は、医療、教育、福祉、司法、産業、等広範囲に亘るが、そこで求められる職能の基本は変わらない。アセスメント、介入技法、そして職業倫理まで、臨床で活躍できる実践家となるために必要な理論を学ぶ機会とする。	
		臨床心理学 1	臨床心理学は、人のこころを理解しようとする心理学を基礎として、人のこころの問題にアプローチする学問である。臨床心理学1では、臨床心理学の構造、実践活動、研究活動、専門活動、歴史の観点から学び、臨床心理学とは何かについて知る。その上で、臨床心理学を支えている基礎理論、アセスメントの基礎理論、発達と心理的問題など、他の心理学の分野と臨床心理学の関連性について学び、学問としての臨床心理学をつかむ。	
		臨床心理学 2	「臨床心理学 2」では、「臨床心理学 1」で学んだ内容を踏まえ、臨床心理学の実践活動を中心に学びを進める。臨床心理学の実践対象（さまざまな疾患、現象、領域）、臨床の場で必要とされる方法や技法を整理しながら、臨床心理学の実践活動であるアセスメント、そして様々な心理検査について学ぶ。また、臨床心理学の様々な理論に基づく介入技法や、様々な対象に対する介入技法、コンサルテーションの実際についても学びを深めていく。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
IV 主専攻科目	心理・社会学研究法科目	心理・社会学文章表現法	文書コミュニケーションの重要目標は、記録や連絡という系統的な作業だけではなく、読み手の意識や行動にインパクトを与え、「その気にさせる」ことにある。この点は、学術的な論文の場においてであれ、ビジネス・シーンにおいてであれ変わりはない。この授業では、ロジカル・シンキングを身に付けて情報収集や知識創造の能力、さらには「聞き分ける能力」を高め、説得力を持つ論文やメッセージを作成するスキルを鍛えていく。	
		英文読解 1	この授業では、心理学あるいは社会学の英語文献を読んでいく。平易なエッセイ、英字新聞、雑誌記事といったものから、学術論文、学術書まで、受講者のニーズを加味しながら専門的な英語に親しんでいく。これまで心理学、社会学領域の科目で学んできた術語や事象は、英語ではどのように表現されるのだろうか。日本語で習得してきた知識をもとに、英語でもう一度学んでみよう。大学院進学希望者や、就職にあたって専門的な英語を学びたいという学生には、特に履修を勧める。	
		英文読解 2	この授業でも、心理学あるいは社会学の英語文献を読んでいくが、ここでは特に、学術論文、学術書を中心読み込んでいく。大学院に進学すると、必要な文献の何割かは英語文献になる。早いうちから英語で専門に近い領域の文献に接しておくことは、院での学習を効率的に進める上で必要なことである。大学院進学希望者や、就職にあたって専門的な英語を学びたいという学生には、履修を勧める。	
		社会調査入門	この授業では、初学者を対象として社会調査の意義や目的、そして基本的な技法について解説する。実証的な社会調査の意義と目的、社会調査の歴史、質的研究法、統計的研究法についての理解を深める。実証的な研究方法についての基礎的な知識を習得することで、調査関連の演習科目へと学習意欲をつなげていくことを目的とする。	
		インタビュー調査演習	この授業の目的は、社会調査の一方法としてのインタビュー調査を企画、実施し、結果を分析して成果をまとめるという一連の作業を通じて、インタビュー調査の特徴とその意義を学び、その技法を身に付けることである。演習形式の授業である。インタビュー調査の基本的な方法を学び、インタビューを用いた学術論文を読み、自らインタビュー調査を実施して報告書にまとめていく。	
		心理学測定演習	心理学測定とは何かを理解し、人のこころを測定する方法について実践的に学んでいく。心理学や隣接領域の分野では心理尺度と呼ばれるものがよく使われている。その尺度の成り立ちを理解した上で、心理尺度を利用できるように学びを深める。また、実際に自分自身でデータを収集し、統計解析を行うことにより、表計算および統計ソフトを用いたデータ処理の基礎的な知識を身に付けていく。	
		心理学実験演習	(概要) 心理学は実証科学であり、その代表的な研究方法として実験法が挙げられる。実験法は、実験条件を統制できることから、因果関係を明らかにしようとするときに適した研究方法であるとされる。実験法は、基礎心理学は勿論、社会心理学や発達心理学などの領域においても主要な研究方法として位置づけられている。この授業では、さまざまな心理学実験を実習することを通して、実験法の面白さ、緻密な条件統制の重要性などを、体験的に学んでいく。5名の教員が心理学実験を3種目ずつ担当する演習形式の15回授業であるため、履修者は6名程度の班を編成し、全15種目の心理学実験を演習形式で学ぶ。全種目において、履修者は実験者役割と被験者役割を経験し、そこで得られたデータをもとに実験レポートを執筆する。各教員の担当種目は、以下のとおりである。 (オムニバス方式／全30回) (9 菅沼真樹／6回) ミュラー・リヤー錯視、記憶 (47 坂田成輝／8回) 鏡映描写、重さの弁別閾 (48 佐藤典子／8回) パーソナル・スペース、印象形成 (58 西田季里／8回) 自然観察法、実験観察法	オムニバス方式

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
IV 主 専 攻 科 目	心 理 ・ 社 会 学 研 究 法 科 目	心理アセスメント	心理臨床場面において問題原因を探り解決の糸口を探る一連の過程の中で重要な役割を果たしているのが心理アセスメントであり、一般的に「面接」、「観察」、「心理検査」などの方法において行われる。この授業では、特に「心理検査」を中心に学習をすすめ、アセスメントの意義から具体的な心理検査方法を含み、小グループに分かれた演習スタイルによる学習を行う。本授業を通して、心理検査に関する心理師としての基礎的な知識を得ることを目的とする。	
		プロジェクト演習 1	この授業では、心理学や社会学の先端的な観点から大学内外の現場に潜む解決すべき問題を取り上げる。そして問題状況におかれた当事者の声や意欲を積極的に尊重する開放的な解決過程を通じて、人間理解・社会理解の視点や考察力を高め、現場の当事者の能動性に応答する有用なアクションプランの設計・提示を目指す。	
		プロジェクト演習 2	この授業は、「プロジェクト演習 1」で提起したアクションプランを現場の当事者との相互作用を通じて実践し、その過程を臨床的観点から捕捉しながら、具体的成果の実現とそのアセスメントを図っていく。チーム編成で具体的な現場体験に取り組み、学期末に公開を前提にして質の高い実践の集成的成果を目指す。	
		臨床ボランティア実習 1	ボランティアは、社会生活上の困難さや災害時などに発生する生活上の諸問題に触発されて、報酬なしで自由意志により自発的、自主的に援助活動に従事する人々を指す。欧米で展開してきたこの考え方は近年、日本においても意義ある社会活動として注目されている。臨床ボランティア実習 1 では、ボランティアの歴史や方法などについて学んだ後、実際にボランティア活動に参加し、社会システムや人間関係のあり方を、体験を通して学び、社会参加の意義と理解を深める。	
		臨床ボランティア実習 2	「臨床ボランティア実習 1」に引き続き、「臨床ボランティア実習 2」は、受講生が実際にボランティア活動に参加し、さらに深い体験を通じて、社会システムや人間関係のあり方を探索していく。本授業の目的は、最終的に実習と大学の学習と結びつけ、自分自身の成長を確認することにある。	
		質問紙調査演習	心理学、社会学における主要な研究方法である質問紙調査法について、演習形式で学んでいく。質問紙調査法は、本学科において卒業論文やゼミナール研究において多くの学生が用いる研究方法である。実際の研究に取り組む前に、研究方法について正しく理解し、その方法を習得することは、極めて重要である。本科目では、質問紙の作成方法、基礎的な分析方法を習得し、各種調査結果を正しく読み取ることができるようになることを目指す。	
		多変量解析	「質問紙調査演習」で習得した知識や技術をもとに、多変量解析を用いてデータ分析を行えるようになることを目指す。因子分析、重回帰分析、クラスター分析など、卒業論文で用いる可能性のある分析方法について、実際のデータを用いながら演習形式で学んでいく。また、これらの分析方法を用いた心理学論文、社会学論文をはじめとするさまざまな研究論文の結果を正しく読み取れるようになることも目的とする。	
		心理面接実習 1	この授業では、臨床心理学、カウンセリング、心理療法の基礎理論を踏まえ、援助技法の基本を学ぶ。授業目標は、①人間の捉え方により援助の目標や技法が異なる点から問題や状況に応じて柔軟に対応する必要性を学ぶこと、②カウンセラーの態度や技法について事例を通して学ぶこと、である。心理面接は人間の内奥、態度や行動の変容に及ぶ深いコミュニケーションであることから、授業ではグループ討議を交えて進めていく。	
		心理面接実習 2	この授業では、既に学習した「心理面接実習 1」をふまえて心理臨床（心理カウンセリング）の多様な展開を学んでいく。授業では、①異なる療法や事例を検討して人間とは何かを考えること、②心理面接の事例検討を重ねてその実際を学ぶと共に、基本技法のいくつかを活用できるようになることを目指す。人間の変容過程、対応技法の拡張、逐語記録による心理面接の検討など体験を通じて、心理面接の実際について学びを深めていく。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
IV 主専攻科目	心理・社会学演習科目	心理・社会学研究A	少人数ゼミナール形式で開講するこの授業では、心理学あるいは社会学を専門とする教員が設定した特定テーマのもとで、著書、論文、信ぴょう性の高い情報など多岐にわたる資料を用いて事実や現象を解明し、現代の人間と社会への見方・考え方を編み直していく。そして、事例研究・フィールド観察・活発な議論などを通じて人間社会で惹起している具体的な諸事件を分析、考察できる力を培っていく。	
		心理・社会学研究B	この授業では、心理・社会学研究Aで培った人間理解・社会理解の視点や考察力に基づいて、心理学や社会学の先端的な観点で研究対象をとらえ、経験的にアプローチする研究方法の習得を目指す。心理学・社会学の分野で開発される研究方法を消化し活用することは、学問世界だけでなく、社会の様々なシーンでの課題の探求や解決に有用である。少人数ゼミナール形式で進めるなかで、各参加者の現場対応の実践力向上を目指す。	
		ゼミナール1	この授業は演習形式であり、これまで修得してきた心理学や社会学に関する知識と方法をもとにして、履修生各自が「研究する」ということを学んでいく。担当教員が取り上げる特定領域の研究テーマについて、先行研究の検討、事例やデータの収集、研究計画の作成、研究発表の方法、学術論文の書き方など、研究の初歩を学び、実践する。	
		ゼミナール2	この授業では、「ゼミナール1」で学んだ研究の方法をもとに、独自のテーマを設定し、研究を進めていくことが目的である。少人数クラスの演習であることを生かし、相互の報告、発表、討論を重ね、「良い」研究について学び、体得していく。また、研究結果をいかにまとめるか、研究報告書や論文、口頭発表としていかに表現するかについて学ぶことも目的である。	
	心理・社会学専門研究科目	ゼミナール3	この授業では、「ゼミナール1」と「ゼミナール2」での学習と実践をもとにして、卒業論文の作成へと進めていくための十分な準備を整えることを目的とする。これまで学んできた心理学や社会学の知識をもとにして、先行研究の検討、事例やデータの収集、インタビュー調査や質問紙調査の実施などを行いながら、卒業論文の研究計画を立てていく。	
		卒業演習	この科目は「卒業論文」と並び、大学4年間の学習・研究の集大成を各自で行う科目である。「卒業論文」が文章表現を通じて各自の論理的思考を表現するのに対して、この科目では具体的な社会的貢献につながる実際の活動を通じて得たものを、周囲の人々から与えられた客観的な反応を含めて詳細にレポートすることでその社会的意義を自己点検することが求められる。その意味で、2・3年次に開講される「プロジェクト演習1・2」で学んだことの延長線上にある科目としても位置付けられる。	
		卒業論文	卒業論文は大学での学習の集大成であり、これまで学んできたことを生かして独自の「研究論文」に取り組むことをサポートする授業である。自分が取り組みたい問題やテーマを明確にし、関連文献や資料を収集する。また、テーマに即した研究方法を検討し、時間や労力等を考慮しながら研究スケジュールを予め立てた上で研究に取りかかり、決められた期限内に成果を出すことが求められる。最後には、学科全体での卒業論文発表会において研究成果を発表し、学科教員、学生全体と討論を行うことになる。	

科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
IV 主 専 攻 科 目	学 部 教 養 科 目	ことばの世界	「ことば」は人間を人間たらしめている大切なツールであり、人間は「ことば」によって生活し、歴史を刻み、世界を発展させてきた。「ことば」と「コミュニケーション」は文化・社会系の学部が特に大切にしている分野である。この講義は文化社会学部の基礎的な科目として設置されており、特に新入生に「ことば」や「表現」や「コミュニケーション」の面白さ、大切さ、奥深さを知ってもらうことを通して、文章を読み解く力を磨くことを目標とする。	
		知のフロンティア	グローバル化が進み、技術や組織あるいは社会を構成する人々の意識や価値観など、現代社会のさまざまな分野で急速な変化が進み、さらにそのスピードはますます高まっている。しかも各分野の様々な事象は加速度的にかつ複雑に交差しつつあり、社会では特定の分野や考え方にとらわれない広い視野と柔軟な発想が求められている。本授業では、現代のさきがけとなる学問研究上の諸成果の中から学科の枠にとらわれない知的刺激に富んだテーマを取り上げ、学部横断的視点から知の最前線について平易に学んでもらうことを目的とする。	
		基礎情報処理 1	現代は高度情報化社会となり、あらゆる分野で自ら考える力を育成するためにも、コンピュータの操作技術と知識が必要とされる。本科目は、そのような社会的要請に答えて、基本的なコンピュータ活用能力を養うと共にコンピュータや高度情報化社会に関する基礎知識の習得を目標としている。具体的には、コンピュータの基本操作から始まり、ワードプロセッサによる日本語文書処理、表計算ソフトによるデータ整理とグラフ作成、マルチメディア・プレゼンテーション、さらにインターネットの活用(電子メールによる情報交換、Web情報検索)などの実習を行う。	
		文章表現法	現代社会のコミュニケーションにおいて、話し言葉による表現と、書き言葉による表現はともにきわめて重要な役割を有している。本科目は、このうち書き言葉による表現(文章表現)能力の養成と向上をはかることを目的とする。すなわち、大学におけるレポート・卒業論文等から、卒業後の社会生活における様々な性格の文章にいたるまで、多様な文章表現の基礎となる表現上の知識および論理的な文章の作成方法を、実際の執筆作業を通じて実践的に学ぶことが本授業の中核である。	
		古文基礎	本授業では古文・漢文を読むための基礎的な力を養成する。国語科の教員養成のための基礎科目であるとともに、日本史・中国史・日本文学等を学ぶにあたって必須の漢文を読むため古典文法の力を養うために、力が確実に身につくような実践的な内容とする。また、古典常識や基礎的な古典文学史も教員養成の観点からおさえることを目的とする。高校までの古文の学習のリメディアル的な要素を持ちながら、より発展的な力を養成する。	
		アラビア語入門 1	アラビア語は、東はイラクから西はモロッコにいたるアラブ諸国の共通語であるばかりでなく、国連の公用語のひとつでもある。さらにはコーランの言葉として、アラブ以外の全世界のイスラム教徒にとつての意義も大きい。ただし、アラビア語は、日本語とは大きく異なるセム系の言語で、文字表記も子音文字中心で短母音も一般の文章では原則として表記されない。このような言語であるため、最初の入門科目である本科目では、アラビア文字の発音、書き方、読み方、初歩的文法の習得を目標とする。	
		トルコ語入門 1	トルコ語は、西アジア・中央アジアを代表する民族のひとつであり、同地域の文明の形成に大きな役割をはたしてきたトルコ人の言語である。トルコ語の学習は中央ユーラシアに広がるトルコ系諸文化を理解することにも繋がっている。本科目では、現在のトルコ共和国で用いられている現代トルコ語を学習する。現代トルコ語の表記はローマ字であり、文法構造も日本語と類似しているので、マスターしやすい。本科目では、文法の基礎を習得して、平易な文章を読めるようになることを目標にするとともに、簡単な日常会話の練習も行なう。	
		ヒンディー語入門 1	ヒンディー語はインドの連邦公用語であり、人口10億をこえるインド国民の過半数が理解する、世界第三位の話者人口をもつ大言語である。インドに興味をもつ人は、その文明を根底から把握するために、ぜひとも理解しておきたい言語である。インド・ヨーロッパ系の言語であるヒンディー語は、文字表記は独特とはいえ明快な言語である。本科目は、インド理解の前提として、ヒンディー語の基礎、すなわち、発音・文字・初級文法の把握を目標とする。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
IV 主専攻科目	学部 教養科目	ペルシア語入門 1	イランの国語であるペルシア語は、アラビア語と並んで、西アジアを代表する大言語のひとつである。また前近代におけるペルシア語文化圏の広がり、西アジアばかりでなく、中央アジアや北インドをも覆い、これらの地域の文明を支えてきた。ペルシア語はインド・ヨーロッパ系の言語であるが、動詞が文末にくるなど日本語との類似点もある。文字は子音中心の表記である。本科目は、このようなペルシア語の基礎、すなわち、ペルシア文字の発音、書き方、読み方、初歩的文法の習得を目標とする。	
		ギリシア語入門 1	西欧文明を支えた精神的支柱として古典古代、とりわけ古代ギリシアの哲学や文学は、過去に大きな役割を果たし、時代を超え、地域を越えて現在もなお私たちの文化に深い影響を与えている。この授業では、古典ギリシア語で記述された文献を直接読解するために必要となる基礎的な文法事項を修得することを目的としている。また学修の過程でギリシア語で書かれた古典の諸作品の一節や、古代ギリシアの文化的側面に触れるなどして、ギリシア語習得の一助とする。	
		ギリシア語入門 2	この授業は、すでに「ギリシア語入門 1」を履修した者および同等の知識を有する者を対象とし、さらに古典ギリシア語で記述された文献を直接読解するために必要となる基礎的な文法事項を修得することを目的としている。授業は「ギリシア語入門 1」と同様に、あらかじめ決められたギリシア語の教科書に沿って進められ、各単元における文法事項の解説と練習問題の解答が中心となる。受講生は当該箇所に配された練習問題を事前学修として課せられるとともに、授業後の復習やテキスト読解を通じて、ギリシア語知識の定着を目指す。	
		ラテン語入門 1	ラテン語は古代ローマ人が使用していた言語であり、地中海世界における公用語の地位を長く得ていた。また古代ローマの滅亡後も、文学、行政、法律、学問、キリスト教会の共通語として使われ続けることによって、西洋文明の形成に大きな役割を果たした。この授業では、ラテン語の基礎的な初等文法を学ぶことを主な目的として、文法事項を解説し、練習問題をおこなう。また、ラテン語の歴史、ロマンス諸語との関係など、ラテン語に関する周辺の事項についても触れることで、その影響の深さについても考える。	
		ラテン語入門 2	ラテン語は、古代ローマ人の言語であり、ローマ帝国の広大な領土内の公用語として用いられ、また中世以降のヨーロッパ世界においても大きな影響力を持ち続けることによって、西洋文明の形成に重要な役割を果たした。この授業は、「ラテン語 1」を履修した者および同等の知識を有する者を対象とし、ラテン語で記述された文献を読解するために必要な基礎的文法をさらに習得することを目的としている。授業は文法事項の解説と練習問題の解答を中心として進められ、ラテン語知識の定着を目指す。	
		東欧諸語	東ヨーロッパには、スラヴ系に属す西スラヴ語（ポーランド語、チェコ語、スロヴァキア語など）と南スラヴ語（ブルガリア語、セルビア語、クロアチア語など）が存在する。また、東ヨーロッパ地域の民族的・言語的多様性を象徴するかのように、スラヴ系とは異なるウラル系のハンガリー語が、西スラヴ語と南スラヴ語の空間の合間をぬって併存している。この授業では、東ヨーロッパの言語的多様性をカバーすることのできるポーランド語、ブルガリア語、ハンガリー語の履修を可能とする。授業は、基礎的な初級文法を学ぶことを主目的とする。	
	教職科目	東洋史概説	日本では、明治になって近代的学問が導入されて以来、東洋史学は中国史を中心に発展してきた。その伝統を基本的に維持しつつも、現在では、その研究分野はアジア全域にまで拡大している。こうした歴史的経緯を踏まえ、この授業では、中国を中心とした東アジアをはじめ、それに隣接する諸地域との関連も含めながら、その歴史的状況とその文化的な多様性とを広く学び、それらに基盤する基礎的知識を習得することを主な目的とする。	
		日本史概説	現代日本は、長い歴史の背景の上に成り立っているものであり、日本社会を理解するには、日本歴史についての理解が不可欠である。また国際交流を進めるうえでも、日本と近隣諸国や欧米諸国との歴史的関係についての認識が必要である。授業では、基本的には受講生に日本史についての通史的知識を持たせることを目標とするが、日本史研究の方法や視点についても紹介する。これらによって、日本社会を歴史的に捉える力を養うように努めたい。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
IV 主専攻科目	教職科目	西洋史概説	西洋史概説は、世界史の発展の諸時期における西洋の政治・社会・経済・文化などの固有の特質を理解することを目的としている。授業では西洋世界の歴史を時代順に通観していくが、西洋史の対象とする地域と時代は広範であり、すべてを取り上げることはできない。そこで、西洋史研究の現代的意義を確認したうえで、単なる史実の説明ではなく、古代地中海世界の歴史的発展、古代から中世への移行、封建社会の発展と衰退、近代市民社会の成立、ヨーロッパの拡大、現代の西洋、といった重要な研究課題を中心に考察を深めていく。	
		自然地理学概論	人類をとりまく環境要素としての地形、陸水、気候・気象、動・植物などの自然現象は、相互にかかわり合いながら、全体としての体系をつくりあげている。近代以降の資源の開発利用や産業社会の発展など、人類による環境への一層の働きかけによって、これらの環境の諸要素と人類の関係は、環境問題という新しい局面を生みだし、人類の生存を脅かすものとなっている。授業では、取り上げられる自然現象の空間的な分布や変化の法則性を理解することで、われわれをとりまく環境について理解を深めることを目標とする。	
		人文地理学概論	人文地理学は多様な環境のもとにある地表空間に人類が形成する現象、すなわち居住、産業、交通、社会、文化などを対象とし、これらの現象相互間の有機的な関連性と、現象と環境の関わりに着目しつつ、現象の空間的な分布や立地のしくみを解明することを目的としている。講義では個別の地理的現象のみに目を奪われるのではなく、人文地理学の諸分野についての基礎知識を涵養し、現象を体系的に把握する視点と方法を理解することによって、地理学的な考え方を身につけることを目標とする。	
		地誌	人々は、相互にさまざまなつながりを持ちながら、農業や工業などの生産活動や、居住や消費などの生活活動を行っている。このような生産活動や生活活動の空間は、商品経済の発達や交通手段の発展とともに拡大してきたが、実際には限られた空間のなかで展開されている。この限られた空間を一般に地域と呼ぶ。「地誌」は特定の地域を対象とし、人類の諸活動はもとより、自然環境をも含めて総合的にとらえ、「地域性」を解明しようとする学問である。講義では地誌的なものの見方や考え方を身につけることを目標とする。	
		法学概論	私たちの日常生活は、さまざまな法によって生活が守られ、あるいは生活が規制されている。とりわけ価値観が多様化し、社会が急速に複雑化している今日においては、国家と人、人と人との相互関係を円滑にするルールが不可欠である。法は、社会秩序を維持する役割を担う一方で、個人の自由や権利を保障する機能も果たしていかなければならない。本講義では、単に法律知識を習得するのではなく、基本的な法的思考や法のあり方について、現実の社会生活と結びつけながら考察していくものである。	
		政治学原論	講義の進め方としては、まず、「政治と政治学」というタイトルのもとに、現代の社会科学の特色や、現代政治学の対象と方法など、政治学を学ぶに必要な予備的事項について解説する。次に、前半の講義では、「政治システム」、「政治文化」、「権力」、といった政治学の基礎的概念や、「政党」、「官僚組織」など政治の世界の行動主体が取り上げられる。そして後半では、前半で得た知識を基礎として、特に変貌する現代社会の問題を考えるために、現代の民主主義理論について考察する。	
		国際政治学	この授業の目的は近代国際社会の形成から二つの世界戦争を経て今日に至った国際政治の展開について、史実の整理をおこない、平行して国際政治理論も紹介しつつ現今の諸動向を認識することである。力点は第二次世界大戦以後におくが、ウェストファリア体制から始め、この戦後に急速に進行した国際社会の構造的変化（国際連合を中心とする各種の政府間組織の増加、植民地の消滅、地域別の国際統合機構の発達、経済のボーダレス化等）に注目し、ますます複雑化する国際政治へのアプローチとして、問題領域論、レジーム論の出発点となった国際機能主義の観点を重視する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
IV 主 専 攻 科 目	教 職 科 目	経済学概論	経済学概論は、経済学の二つの主要分野である「マクロ経済学」と「ミクロ経済学」の入門科目として位置づけられるものである。前者は、一国の生産や消費といった経済活動の水準がどのような仕組みで決まり、経済政策（財政・金融政策）が一国の経済水準にどのような影響を及ぼすかを取り扱う。後者は、市場経済がどのような特徴を持ち、その市場がどのように形成され、どのような働きをするかについて分析する。両分野の基礎的な理論や研究事例を学ぶことを通じて、現代社会が直面する様々な問題を経済学的に分析する力を身につけることを目標とする。	
		国際経済学	GATT・WTO体制の下、世界の貿易量は飛躍的に増加し、日本を含む多くの国々が貿易の利益を享受している。一方で、貿易を行う国々の間で貿易摩擦が生じたり、政府による自由貿易に対する介入（保護貿易）が行われたりしている。また、自由貿易協定（FTA）の締結や地域経済統合に関する取り組み、企業や労働の国際移動なども活発化している。本講義では、このような国際経済の基本的な問題を理解する上で必要となる基本的な知識や理論を学ぶことで、国際的なモノ・サービスの取引に関する問題を経済学的な観点から分析できるようになることを目標とする。	
		哲学概論	日本語の「哲学」は西欧の翻訳語であるので、字を見てもほとんど意味が分からず、ただ厳めしいイメージのみが先行してしまっているが、もともとギリシアに始まったとされる哲学はphilo（愛）-sophia（知）が語源であり、広く一般に知を愛する学問、いや知を求めずにはいられないあらゆる人間の営みを指していた。哲学においては何故生きるのか、知るとはそもそもどういうことか、幸福とは何かといった、根本的な問いが繰り返し問われ続け、これらの問いを巡る先人たちの苦悩が刻まれている。この授業を通じて、自ら考える力を培うことを目標とする。	
		宗教学概論	宗教は、おそらく人類の歴史と同じほどに長い歴史をもつといえるものであるが、それを学問的に研究するという姿勢が現れたのはそれほど古いことではない。とくに、現代宗教学はようやく19世紀以来、当時の実証主義的学問傾向に歩調をあわせて発展してきたが、その発生と発達が主としてキリスト教の文明圏で行われてきたために、他の文明圏でも妥当するかが文明の根底を探る比較文明論的な問題となっている。こうした問題に留意しながら現代宗教学の理論や用語を理解しその意味と発展過程を概観する。	
		国際法	国際法は、国際社会の構成単位である国家や国際組織の間の関係を規律するが、いくつかの点で国内法と性格を異にする。本授業ではそのような国際法の基本的性質を理解し、その対象分野全般にわたる基礎的知識を得ることを目的とする。また、現在の国際社会の諸問題を取り上げ、国際法の観点から見ることも重要な要素である。さらに国際法の基本的原則・規則が現実の問題にいかに関与され、解決されるかについての専門的知識と思考力を養うことも目標である。	
		社会科・公民科教育法1	「社会科・公民科教育法1」は、中学校・高等学校の教員免許状取得に必要な「教職に関する科目」のうち、「教育課程及び指導法に関する科目」における「各教科の指導法」に該当する授業科目である。したがって、授業の目標や内容は、中学校・高等学校の「学習指導要領」やその解説にもとづいて設定される。「社会科・公民科教育法1」では、特に、中学校社会科・高等学校公民科の教員として必要な当該教科の狙いや内容を学び、指導計画の作成法、指導方法、指導上の配慮事項などについての具体的、実践的な知識、技能を身につけることを目指す。	
		社会科・公民科教育法2	「社会科・公民科教育法2」は、中学校・高等学校の教員免許状取得に必要な「教職に関する科目」のうち、「教育課程及び指導法に関する科目」における「各教科の指導法」に該当する授業科目である。「社会科・公民科教育法1」が当該教科の狙いや教育内容・方法の基本的知識、技能に関するものであるのに対し、「社会科・公民科教育法2」はより実践的・具体的に授業の方法を習得することを目指す。したがってその主要課題は、授業の指導案作成、生徒に対する発問の工夫、教材・教具の効果的な活用方法などの検討が中心課題となる。	
		社会科教材論	「社会科教材論」は、中学校教員免許状取得に必要な「教職に関する科目」のうち、「教育課程及び指導法に関する科目」における「各教科の指導法」に該当する授業科目である。「社会科教材論」では、学習指導要領に基づき、社会科の教科目標と教育内容を効果的に実現できるような教材の活用や作成方法について考察することをめざす。授業では、生徒たちが学習内容を正確に理解し、関心・興味が喚起されるようにするには教材をどのように工夫すべきかを考える。とくに教科書として用意されている教材内容を吟味するだけでなく、生徒の実態に合わせて、教師自ら、メディアなどを利用した効果的な教材を作成することも重要な課題となる。	

学校法人東海大学 設置届出等に関わる組織の移行表

平成29年度

東海大学

学 部	学科・専攻・課程		入学定員	編入学定員	収容定員	備考
文学部	文明学科		60	—	240	
	アジア文明学科		60	—	240	
	ヨーロッパ文明学科		70	—	280	
	アメリカ文明学科		60	—	240	
	北欧学科		60	—	240	
	歴史学科	日本史専攻	55	—	220	
		東洋史専攻	40	—	160	
		西洋史専攻	50	—	200	
		考古学専攻	30	—	120	
	日本文学科		90	—	360	
	文芸創作学科		55	—	220	
	英語文化コミュニケーション学科		90	—	360	
	広報メディア学科		110	—	440	
心理・社会学科		100	—	400		
政治経済学部	政治学科		150	—	600	
	経済学科		150	—	600	
	経営学科		150	—	600	
法学部	法律学科		300	—	1200	
教養学部	人間環境学科	自然環境課程	160	—	640	
		社会環境課程				
	芸術学科	音楽学課程	90	—	360	
		美術学課程				
		デザイン学課程				
国際学科		80	—	320		
体育学部	体育学科		100	—	400	
	競技スポーツ学科		130	—	520	
	武道学科		55	—	220	
	生涯スポーツ学科		100	—	400	
	スポーツ・レジャーマネジメント学科		55	—	220	
理学部	数学科		80	—	320	
	情報数理学科		80	—	320	
	物理学科		80	—	320	
	化学科		80	—	320	
情報理工学部	情報科学科		100	—	400	
	コンピュータ応用工学科		100	—	400	
工学部	生命化学科		100	—	400	
	応用化学科		80	—	320	
	光・画像工学科		60	—	240	
	原子力工学科		40	—	160	
	電気電子工学科		140	—	560	
	材料科学科		80	—	320	
	建築学科		200	—	800	
	土木工学科		120	—	480	
	精密工学科		80	—	320	
	機械工学科		150	—	600	
	動力機械工学科		200	—	800	
	航空宇宙学科	航空宇宙学専攻	100	—	400	
		航空操縦学専攻	50	—	200	
	医用生体工学科		60	—	240	
観光学部	観光学科		200	—	800	
情報通信学部	情報メディア学科		80	—	320	
	組込みソフトウェア工学科		80	—	320	
	経営システム工学科		80	—	320	
	通信ネットワーク工学科		80	—	320	
海洋学部	海洋文明学科		80	—	320	
	環境社会学科		80	—	320	
	海洋地球科学科		80	—	320	
	水産学科		120	—	480	
	海洋生物学科		90	—	360	
	航海工学科	航海学専攻	20	—	80	
		海洋機械工学専攻	60	—	240	
医学部	医学科		118	—	708	118名は平成31年度入学生まで
健康科学部	看護学科		75	3年次：20	340	
	社会福祉学科		85	3年次：10	360	
経営学部	経営学科		150	—	600	
	観光ビジネス学科		80	—	320	
基盤工学部	電気電子情報工学科		80	—	320	
	医療福祉工学科		60	—	240	
農学部	応用植物科学科		80	—	320	
	応用動物科学科		80	—	320	
	バイオサイエンス学科		70	—	280	
国際文化学部	地域創造学科		110	—	440	
	国際コミュニケーション学科		80	—	320	
	デザイン文化学科		70	—	280	
生物学部	生物学科		70	—	280	
	海洋生物科学科		70	—	280	
計			6,758	30	27,328	

平成30年度

東海大学

学 部	学科・専攻・課程		入学定員	編入学定員	収容定員	備考	変更の事由
文学部	文明学科		60	—	240		
			<u>0</u>	—	<u>0</u>		平成30年4月学生募集停止
			<u>0</u>	—	<u>0</u>		平成30年4月学生募集停止
			<u>0</u>	—	<u>0</u>		平成30年4月学生募集停止
			<u>0</u>	—	<u>0</u>		平成30年4月学生募集停止
	歴史学科	日本史専攻	<u>50</u>	—	<u>200</u>		定員変更(Δ5)
			<u>0</u>	—	<u>0</u>		平成30年4月学生募集停止
		西洋史専攻	50	—	200		
		考古学専攻	30	—	120		
	日本文学科		90	—	360		
		<u>0</u>	—	<u>0</u>		平成30年4月学生募集停止	
英語文化コミュニケーション学科		90	—	360			
		<u>0</u>	—	<u>0</u>		平成30年4月学生募集停止	
		<u>0</u>	—	<u>0</u>		平成30年4月学生募集停止	
文化社会学部	アジア学科		<u>70</u>	—	<u>280</u>		学部の設置(届出)
	ヨーロッパ・アメリカ学科		<u>70</u>	—	<u>280</u>		
	北欧学科		<u>60</u>	—	<u>240</u>		
	文芸創作学科		<u>60</u>	—	<u>240</u>		
	広報メディア学科		<u>100</u>	—	<u>400</u>		
	心理・社会学科		<u>90</u>	—	<u>360</u>		
政治経済学部	政治学科		<u>160</u>	—	<u>640</u>		定員変更(10)
	経済学科		<u>160</u>	—	<u>640</u>		定員変更(10)
	経営学科		<u>160</u>	—	<u>640</u>		定員変更(10)
法学部	法律学科		300	—	1200		
教養学部	人間環境学科	自然環境課程	160	—	640		
		社会環境課程					
	芸術学科	音楽学課程	90	—	360		
		美術学課程					
		デザイン学課程					
国際学科		80	—	320			
体育学部	体育学科		<u>110</u>	—	<u>440</u>		定員変更(10)
	競技スポーツ学科		<u>140</u>	—	<u>560</u>		定員変更(10)
	武道学科		<u>60</u>	—	<u>240</u>		定員変更(5)
	生涯スポーツ学科		<u>110</u>	—	<u>440</u>		定員変更(10)
	スポーツ・レジャーマネジメント学科		<u>60</u>	—	<u>240</u>		定員変更(5)
健康学部	健康マネジメント学科		<u>200</u>	—	<u>800</u>		学部の設置(届出)
理学部	数学科		80	—	320		
	情報数理学科		80	—	320		
	物理学科		80	—	320		
	化学科		80	—	320		
情報理工学部	情報科学科		100	—	400		
	コンピュータ応用工学科		100	—	400		
工学部	生命化学科		100	—	400		
	応用化学科		80	—	320		
	光・画像工学科		60	—	240		
	原子力工学科		40	—	160		
	電気電子工学科		140	—	560		
	材料科学科		80	—	320		
	建築学科		200	—	800		
	土木工学科		120	—	480		
	精密工学科		80	—	320		
	機械工学科		<u>140</u>	—	<u>560</u>		定員変更(Δ10)
	動力機械工学科		<u>150</u>	—	<u>600</u>		定員変更(Δ50)
	航空宇宙学科	航空宇宙学専攻	<u>90</u>	—	<u>360</u>		定員変更(Δ10)
		航空操縦学専攻	50	—	200		
	医用生体工学科		60	—	240		
観光学部	観光学科		200	—	800		
情報通信学部	情報メディア学科		80	—	320		
	組込みソフトウェア工学科		80	—	320		
	経営システム工学科		80	—	320		
	通信ネットワーク工学科		80	—	320		
海洋学部	海洋文明学科		80	—	320		
	環境社会学科		80	—	320		
	海洋地球科学科		80	—	320		
	水産学科		120	—	480		
	海洋生物学科		90	—	360		
	航海工学科	航海学専攻	20	—	80		
		海洋機械工学専攻	60	—	240		
医学部	医学科		118	—	708	118名は平成31年度入学生まで	
	看護学科		<u>85</u>	—	<u>340</u>		学科の設置(届出)
			<u>0</u>	<u>0</u>	<u>0</u>		平成30年4月学生募集停止
			<u>0</u>	<u>0</u>	<u>0</u>		平成30年4月学生募集停止
経営学部	経営学科		150	—	600		
	観光ビジネス学科		80	—	320		
基盤工学部	電気電子情報工学科		80	—	320		
	医療福祉工学科		60	—	240		
農学部	応用植物科学科		80	—	320		
	応用動物科学科		80	—	320		
	バイオサイエンス学科		70	—	280		
国際文化学部	地域創造学科		110	—	440		
	国際コミュニケーション学科		80	—	320		
	デザイン文化学科		70	—	280		
生物学部	生物学科		70	—	280		
	海洋生物科学科		70	—	280		
計			6,773	0	27,328		

学校法人東海大学 設置届出等に関わる組織の移行表

平成29年度

東海大学大学院

研究科	専攻		入学定員	編入学定員	収容定員	備考
総合理工学研究科	総合理工学専攻	(D)	35	—	105	
地球環境科学研究科	地球環境科学専攻	(D)	10	—	30	
生物科学研究科	生物科学専攻	(D)	10	—	30	
文学研究科	文明研究専攻	(M)	8	—	16	
		(D)	4	—	12	
	史学専攻	(M)	8	—	16	
		(D)	4	—	12	
	日本文学専攻	(M)	8	—	16	
		(D)	4	—	12	
	英文学専攻	(M)	4	—	8	
		(D)	2	—	6	
	コミュニケーション学専攻	(M)	8	—	16	
		(D)	4	—	12	
政治学研究科	政治学専攻	(M)	8	—	16	
		(D)	4	—	12	
政治学研究科	政治学専攻	(M)	10	—	20	
		(D)	5	—	15	
経済学研究科	応用経済学専攻	(M)	10	—	20	
		(D)	5	—	15	
法学研究科	法律学専攻	(M)	10	—	20	
		(D)	5	—	15	
人間環境学研究科	人間環境学専攻	(M)	10	—	20	
芸術学研究科	音響芸術専攻	(M)	4	—	8	
	造型芸術専攻	(M)	4	—	8	
体育学研究科	体育学専攻	(M)	15	—	30	
理学研究科	数理学専攻	(M)	8	—	16	
	物理学専攻	(M)	12	—	24	
	化学専攻	(M)	12	—	24	
工学研究科	電気電子工学専攻	(M)	50	—	100	
	機械工学専攻	(M)	75	—	150	
	建築土木工学専攻	(M)	25	—	50	
	応用理化学専攻	(M)	45	—	90	
	医用生体工学専攻	(M)	8	—	16	
情報通信学研究科	情報通信学専攻	(M)	30	—	60	
海洋学研究科	海洋学専攻	(M)	20	—	40	
医学研究科	医科学専攻	(M)	10	—	20	
	先端医科学専攻(4年制D)	(D)	35	—	140	
健康科学研究科	看護学専攻	(M)	10	—	20	
	保健福祉学専攻	(M)	10	—	20	
農学研究科	農学専攻	(M)	12	—	24	
計			557	—	1,272	

東海大学短期大学部

学科	入学定員	編入学定員	収容定員	備考
食物栄養学科	100	—	200	
児童教育学科	100	—	200	
計	200	—	400	

東海大学医療技術短期大学

学科	入学定員	編入学定員	収容定員	備考
看護学科(3年制)	80	—	240	
計	80	—	240	

平成30年度

東海大学大学院

研究科	専攻		入学定員	編入学定員	収容定員	備考	変更の事由
総合理工学研究科	総合理工学専攻	(D)	35	—	105		
地球環境科学研究科	地球環境科学専攻	(D)	10	—	30		
生物科学研究科	生物科学専攻	(D)	10	—	30		
文学研究科	文明研究専攻	(M)	8	—	16		
		(D)	4	—	12		
	史学専攻	(M)	8	—	16		
		(D)	4	—	12		
	日本文学専攻	(M)	8	—	16		
		(D)	4	—	12		
	英文学専攻	(M)	4	—	8		
		(D)	2	—	6		
	コミュニケーション学専攻	(M)	8	—	16		
		(D)	4	—	12		
政治学研究科	政治学専攻	(M)	8	—	16		
		(D)	4	—	12		
政治学研究科	政治学専攻	(M)	10	—	20		
		(D)	5	—	15		
経済学研究科	応用経済学専攻	(M)	10	—	20		
		(D)	5	—	15		
法学研究科	法律学専攻	(M)	10	—	20		
		(D)	5	—	15		
人間環境学研究科	人間環境学専攻	(M)	10	—	20		
芸術学研究科	音響芸術専攻	(M)	4	—	8		
	造型芸術専攻	(M)	4	—	8		
体育学研究科	体育学専攻	(M)	15	—	30		
理学研究科	数理学専攻	(M)	8	—	16		
	物理学専攻	(M)	12	—	24		
	化学専攻	(M)	12	—	24		
工学研究科	電気電子工学専攻	(M)	50	—	100		
	機械工学専攻	(M)	75	—	150		
	建築土木工学専攻	(M)	25	—	50		
	応用理化学専攻	(M)	45	—	90		
	医用生体工学専攻	(M)	8	—	16		
情報通信学研究科	情報通信学専攻	(M)	30	—	60		
海洋学研究科	海洋学専攻	(M)	20	—	40		
医学研究科	医科学専攻	(M)	10	—	20		
	先端医科学専攻(4年制D)	(D)	35	—	140		
健康科学研究科	看護学専攻	(M)	10	—	20		
	保健福祉学専攻	(M)	10	—	20		
農学研究科	農学専攻	(M)	12	—	24		
計			557	—	1,272		

東海大学短期大学部

学科	入学定員	編入学定員	収容定員	備考	変更の事由
食物栄養学科	100	—	200		
児童教育学科	100	—	200		
計	200	—	400		

東海大学医療技術短期大学

学科	入学定員	編入学定員	収容定員	備考	変更の事由
看護学科(3年制)	80	—	240		
計	80	—	240		

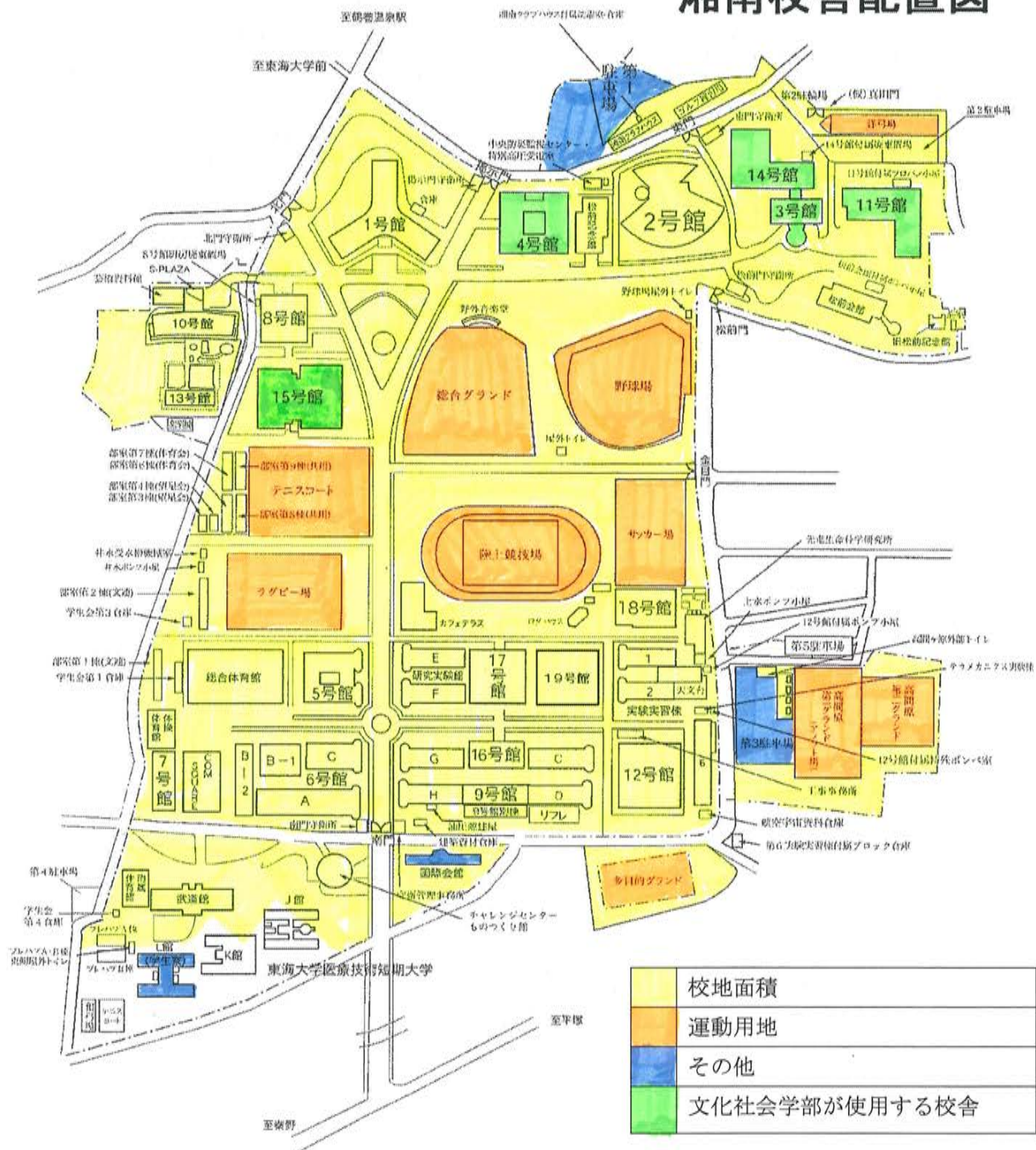
東海大学 湘南校舎
(位置関係図)



東海大学 湘南校舎
(最寄の駅 経路図)



湘南校舍配置図



湘南校舍 校地・校舍面積

校地等	区 分	専 用	共 用	共有する他の 学校の専用	計
	校 舎 敷 地	364,255.50 ㎡	0.00 ㎡	0.00 ㎡	364,255.50 ㎡
	運 動 場 用 地	183,505.70 ㎡	0.00 ㎡	0.00 ㎡	183,505.70 ㎡
	小 計	532,761.20 ㎡	0.00 ㎡	0.00 ㎡	532,761.20 ㎡
	そ の 他	14,699.03 ㎡	0.00 ㎡	0.00 ㎡	14,699.03 ㎡
	合 計	547,460.23 ㎡	0.00 ㎡	0.00 ㎡	547,460.23 ㎡
校 舎		専 用	共 用	共有する他の 学校の専用	計
		302,482.41 ㎡	0.00 ㎡	0.00 ㎡	302,482.41 ㎡
		(302482.41 ㎡)	(0.00 ㎡)	(0.00 ㎡)	(302482.41 ㎡)

設置の趣旨等を記載した書類
文化社会学部

【本文目次】

- ① 設置の趣旨及び必要性…p.2
- ② 学部・学科等の特色…p. 5
- ③ 学部・学科等の名称及び学位の名称…p.5
- ④ 教育課程の編成の考え方及び特色…p.7
- ⑤ 教員組織の編成の考え方及び特色…p.14
- ⑥ 教育方法，履修指導方法及び卒業要件…p.18
- ⑦ 施設・設備等の整備計画…p.26
- ⑧ 入学者選抜の概要…p.28
- ⑨ 取得可能な資格…p.30
- ⑩ 実習の具体的計画…p.30
- ⑪ 管理運営…p.31
- ⑫ 自己点検・評価…p.32
- ⑬ 情報の公表…p.33
- ⑭ 教育内容等の改善のための組織的な研修等…p.36
- ⑮ 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制…p.37

① 設置の趣旨及び必要性

1) 文化社会学部設置の社会的背景と養成する人材

本学の創設者は、「科学技術を人類の未来にとってどのように発展させていくべきか、ということに関する歴史観を教育を通じて青年に授けることで、日本社会の平和をもたらし、それがひいては国際社会の平和につながる」という理想を達成しようとした。その後、1970年代後半から進んだ情報化、国際化、科学技術の高度化、グローバル化といった社会変動によって本学を取り巻く社会状況は大きく変化した。しかしながら、社会状況が変わっても、本学の「建学の精神」は不変である。

人文社会系の大学教育は、人間と社会を省察し、人類が蓄積してきた叢智を学ぶことを通じて、現代社会を生き抜く力を培うことを使命としてきた。他方で、グローバル化とデジタル化の進展は、世界中の人々が互いに交流し、平和で豊かな社会をともに築くことを可能にすると同時に、様々な紛争、格差、環境問題などの課題を世界的規模で拡大させている。これらの課題は、従来の人文社会系の学問分野だけでは解決しきれない複雑な要因を含んでおり、その解決のためには、学部・学科の専門性によるみ偏することのない、より学際的視野に立つ研究・教育が必要とされている。

新たに設置される文化社会学部は、これまで本学に蓄積されてきた人文社会系の研究・教育の成果を土台としつつ、「人類の幸福と恒久平和の実現を目指した精神文明と物質文明の融合による総合文明社会の構築」という東海大学の理念に基づき、(1)多文化理解の促進、(2)高度な言語表現力の育成、(3)メディアの理解・利用・創造、(4)自立と共生を実現する知識と力、を柱とする研究教育を通じて、人・社会・自然の共生に立脚した社会生活の基盤の構築に寄与できる人材を育成することを目的とする。そして、所定の課程を修め、以下の能力を備えたと認められる者に学位を授与することとする。

(知識・理解)

自立と共生を実現するための知識を学び、多文化を理解するための基礎的能力

(汎用的技能)

様々なコミュニケーション手段を活用して、自らの見解を発信する能力

(態度・志向性)

人・社会・自然の共生に立脚した社会生活の基盤の構築に寄与しようとする姿勢
上記の教育上の目的及び学位授与の方針を実現するため、本学部は、以下の6学科を設置する。

【文化社会学部アジア学科】

中長期的な展望に立つてものごとを考え、異文化と向き合っていくための基礎的な能力、情報を的確に収集し理解を深めていく〈知る力〉、複雑にして困難な状況に対しても深い思考をめぐらせることのできる力、グローバル化が進展するなか多様性に満ちあふれたアジアを舞台に〈行動していく力〉、豊かな言語能力で国際的な相互理解を深められる力を身に付け、現代の課題に自ら取り組み、自分自身の意見をしっかりと持つとともに、多様な人々と協力して世界に貢献しようとする姿勢を

習得させることを教育研究上の目的とする。

この目的を踏まえ、多様性に満ち、グローバル化のなか急速な変化を遂げているアジアについて学識を深めることで、異文化に向き合い中長期的な展望をもって現代のさまざまな課題に取り組み、国際社会、地域社会に貢献できる人材を養成する。

【文化社会学部ヨーロッパ・アメリカ学科】

ヨーロッパとアメリカの社会的・文化的・歴史的な知識を身につけ、その知的伝統を読み解き、分析するための基本的な力、異なった価値観をもつ他者の意見に耳をかたむけ、考察すべき問題の所在を的確に掴み、解決までのプロセスを実践する能力、さまざまな情報やものごとを批判的にまなざし、何よりも自分自身の思考によって問題の解決を模索し、共存や共生の道を探る姿勢を習得させることを教育研究上の目的とする。

この目的を踏まえ、西洋世界について古代から現代までの包括的な理解を深め、さらに「文学・芸術」「宗教・思想」「歴史・社会」という多角的な視点からの学びを通じて、第一に、変動する世界情勢のなかでも揺るがない洞察力を持ち、新たな文明を創成するエネルギーに溢れた人材を養成する。第二に、多様性を尊び、共生を志向する精神をもって未来を切り開き、暮らしを豊かにする知恵をもつ人材を養成する。

【文化社会学部北欧学科】

北欧社会の先進的な取り組みや文化の特質を学び、その根幹にある多様な価値観や独自の理念を体系的に理解する力、北欧言語の学習や留学・海外研修などの現地体験を通じて習得したコミュニケーション能力を活用し、自らの考えを積極的に発信していく力、社会的責任を自覚しつつ個人として自立した生き方を構想し、さらに日本社会が抱える課題の克服に向け積極的に取り組もうとする姿勢を習得させることを教育研究上の目的とする。

この目的を踏まえ、「共生社会の構築に貢献できる自立した人材の育成」という目的へ向け、(1)北欧社会の先進的な取り組みや文化について学ぶことで広い視野と柔軟な発想力を備え、多様な価値観を受容することのできる人材、(2)言語学習や留学・海外研修などを通じて自らの考えを発信する力を高めた人材、(3)日本という視点から北欧を研究することで批判的考察力を身につけた人材、(4)自己と社会との関わり方や自立した生き方を主体的に構想し、日本社会が抱える課題の克服に積極的に取り組むことのできる人材を養成する。

【文化社会学部文芸創作学科】

文芸の創作と批評を通じ、人間と世界に関する事象や情報を柔軟に、またクリティカルに読み取り、分析し、問いを立てる力、文芸の創作と批評を通じ、現代社会に通用する正確な言葉によって自分の思考や感性を論理的かつクリエイティブに表現する力、広く諸芸術を鑑賞し、文芸の創作と批評を通じて培った教養を未来に向かって総合的に生かしてゆく姿勢を習得させることを教育研究上の目的とする。

この目的を踏まえ、文芸の創作と批評を通じて、(1)現代社会で通用する正確な言葉によって論理的かつクリエイティブに個々の感性と経験を表現する力、(2)人間と世界に関する情報や事象を柔軟かつクリティカルに読み取り、的確に分析し、本質を洞察する力、(3)広く諸芸術を鑑賞して培った教養を未来に向かって総合的に生かしてゆく力、という三つの力を備えた人材を養成する。

【文化社会学部広報メディア学科】

メディアに関する理論的・歴史的・制度的な研究成果を土台として、メッセージの社会的価値（政治的・経済的・文化的価値など）とは何かを理解する力、各メディアに関する基本的なルールと実践的技術を身につけ、「情報」を付加価値の高い「メッセージ」に変える能力、現代社会を構成する人々の多様性を理解し、明日のメディアやコミュニケーションの仕事を開拓していこうとする姿勢を習得させることを教育研究上の目的とする。

この目的を踏まえ、単なる技術の習得にとどまらず、メディアに関する理論的・歴史的・制度的な研究成果を土台としつつ、混沌としたメディアシーンに対応できる人材、社会的価値のあるメッセージを創造・発信できる人材、メディアや企業・行政の広報・広告部門で活躍できる人材を養成する。

【文化社会学部心理・社会学科】

現代社会の課題の解決に向けて、社会学はこれまで、現代社会の構造と機能の実態と問題点を、組織間及び組織と人間、人間同士の関係などを実証的に調査・分析することで明らかにしてきた。さらに、社会集団としての心理状態を社会心理として捉え、マス・メディアの発展によってそれがどのように変化するのかを描き出してきた。他方で、地球的規模でのグローバル化やデジタル化の進展は、従来のような社会集団を基盤とする人と人とのつながりの性格を変化させ、個々人の多様な価値観や考え方が社会の構造と機能にもたらす影響が飛躍的に拡大している。このように急激に変化しつつある現代社会の仕組みやそこに生きる人々の意識や行動を分析するためには、従来の社会学の問題意識と方法に加えて、より個々人の心理状況をきめ細かく把握するアプローチを導入する必要がある。そこで、主として社会学の学問分野を学ぶことで、現代社会の構造と機能における基本的な問題点を自らの問題意識に即して理解する能力を習得させるとともに、心理学のアプローチも学ぶことで、変化しつつある社会集団と人と人とのつながりを豊かな感受性と論理的な思考にもとづいて考察できる能力を習得させることを教育研究上の目的とする。なお、この目的に基づき、心理・社会学科の学位又は学科の分野は、「社会学・社会福祉学関係」として教育研究を展開する。

上記の教育研究上の目的を踏まえ、社会的な課題や問題に対して具体的な解決策や行動計画を提案できる“社会的構想力”と、人間関係の充実に必要な社会的スキルである“コミュニケーション能力”を育成する。加えて、実社会において、社会と人・集団、そしてそれらの関係性についての知識と情報を持ち、現代社会の諸問題と現代に生きる人間を多角的・複合的に考察できる力を育成し、“自立と共生を目

指した社会の実現”に参画し貢献できる人材を養成する。

2) 文化社会学部の研究分野

文化社会学部の研究分野について、学際的視野に立つ分野もあり、基盤となる学問分野は多様である。アジア学科、ヨーロッパ・アメリカ学科、北欧学科では、歴史学、地理学、国際関係論、思想史、芸術学、民俗学等を基盤とし、文芸創作学科では、文学が基盤となっている。また、広報メディア学科、心理・社会学科では、社会学、メディア論、コミュニケーション学、心理学等が基盤となり、教育研究の目的の実現を図る。

② 学部・学科等の特色

文化社会学部は、文学、政治学、経済学のような既存の学問分野そのものを教育・研究するのではなく、“グローバル化やデジタル化の進展がもたらす様々な課題”や“紛争や格差の拡大、環境悪化、高齢化等の課題”等、現代社会に生じている問題に対して、学際的な視点から取り組むことを特色とする。すなわち、政治・法律・経済のような社会の骨組みに対して、文化、すなわち骨組みの中で生活している人々のものの見方や考え方をつくりあげる生活様式等に焦点を当てる学部として、異なる文化の地域から共生の精神を学ぶ地域研究系の3学科（アジア学科、ヨーロッパ・アメリカ学科、北欧学科）、文芸の創作と批評を通じて表現について教育研究する文芸創作学科、メディア・コミュニケーションを学ぶ現代社会系の2学科（広報メディア学科、心理・社会学科）を配置する。

各学科はそれぞれ、グローバルな視点を修得し多文化理解を促進する教育研究（アジア学科、ヨーロッパ・アメリカ学科、北欧学科）、発信力のある高度な言葉のスキルを磨くための教育研究（文芸創作学科）、デジタル時代のメッセージ発信力を磨くための教育研究（広報メディア学科）、心理・社会面からコミュニケーションを学び、人と人をつなぐ力を培う教育研究（心理・社会学科）の機能を重点的に担うことで、“幅広い職業人養成”を行い、学部が目的とする人と平和の未来を描き、発言し行動できる人材を育成する機能を果たす。

③ 学部・学科等の名称及び学位の名称

1) 学部の名称

本学部の特色は、既存の学問分野そのものの教育研究ではなく、学際的な視点から、グローバル化とデジタル化がもたらす現代社会における様々な課題に対して、文化、すなわち人々のものの見方や考え方をつくりあげる生活様式に焦点を当てた教育研究を行う点にある。

そのために、本学部は大きく2つの分野により構成されている。第一に、異文化を教育研究する地域研究系の3学科（アジア学科、ヨーロッパ・アメリカ学科、北欧学科）と、文芸の創作と批評を通じて表現について教育研究する文芸創作学科、

第二に、メディア・コミュニケーションを教育研究する現代社会系の2学科（広報メディア学科、心理・社会学科）を配置している。

以上の理由から、学位又は学科の分野は、「文学関係」と「社会学・社会福祉学関係」が複合した分野構成の学部編成となっており、この教育研究の特色及び学科編成の性格を踏まえて、学部名を「文化社会学部」とし、学位に付記する学位も「学士（文化社会学）」としている。

2) 学科の名称

各学科の名称としては、それぞれ、アジア、ヨーロッパ・アメリカ、北欧の地域名と、文芸作品の創作活動を主眼として言語表現力を育成する目的、広報やメディア活動を実践する能力を育成する目的、心理学と社会学の学びやフィールドワークなどを通じたコミュニケーション能力と社会的構想力を育成する目的を具体的に反映した学科名称とした。

3) 学科の名称

学部名の英訳名称としては、海外の大学で、本学部のように現代社会の様々な課題に対する学際的研究を目的とする組織に Social Studies や Cultural Studies の名称を冠することが多いことから、学部名及び学位に Cultural and Social Studies の名称を用いることとした。各学科の英訳名称についても、海外の大学で通常用いられることが多い名称を用いることとした。

【日本語名称】

学部名称 : 文化社会学部

学科名称 : アジア学科

ヨーロッパ・アメリカ学科

北欧学科

文芸創作学科

広報メディア学科

心理・社会学科

学位名称 : 学士（文化社会学）

【英訳名称】

文化社会学部 : Undergraduate School of Cultural and Social Studies

アジア学科 : Department of Asian Studies

ヨーロッパ・アメリカ学科 : Department of European and American Studies

北欧学科 : Department of Nordic Studies

文芸創作学科 : Department of Creative Writing

広報メディア学科 : Department of Media Studies

心理・社会学科 : Department of Psychological and Sociological Studies

学士（文化社会学） : Bachelor of Cultural and Social Studies

④ 教育課程の編成の考え方及び特色

本学においては、現代市民として身に付けるべき教養を修得するための方策として「パブリック・アチーブメント型教育」の導入を掲げている。「パブリック・アチーブメント」とは、米国では、立場や状況の異なる市民が社会で共存するためのルールを作り、環境整備を行う中で、若者が社会活動を通して民主社会における市民性を獲得していくための実践及びそのための組織と学習プログラムを意味している。本学では、日本という成熟した社会における若者の自己中心主義・政治的無関心・無気力感を克服し、「教育による政治革命—教育の力によって、長い時間をかけて平和と理解の中に革命を進行させ、それを通じて新しい理想に向かって歩む」（本学創設者松前重義の言葉）を実現するための取り組みとして、「地域」の課題への取り組みをテーマとする科目を教養科目に開設し、ここで育てた問題意識や目的意識のもと専門教育へと展開し、教養教育と専門教育の融合・発展と、その相乗効果による教育効果の向上を行う。

本学部では、上記のパブリック・アチーブメント型教育を中心とする教養科目を「人・社会・自然の共生に立脚した社会生活の基盤の構築に寄与できる人材」育成の基礎にあたる教育と位置づけ、主専攻科目（専門科目）において、学際的な視点から、グローバル化とデジタル化がもたらす現代社会における様々な課題に対して、文化、すなわち人々のものの見方や考え方をつくりあげる生活様式に焦点を当てた教育研究を展開することで、知識・考える力・実践力を身につけていく。

1) 現代文明論

「現代文明論」は、社会や文化の変容や流動化にともないこれまでの制度や思考様式では解決法の探求が難しくなっている現代的な課題、科学やテクノロジーが発展し浸透する時代にこそ問い直される倫理の問題などについて、講義をとおして、学生一人ひとりが、現代社会の問題を歴史的な文脈、世界的な文脈に位置づけて、これからの自分の生きかた、社会への貢献のしかたを考えていく、本学の基幹となる科目である。

この現代文明論は、現代教養科目と学科の専門科目の基礎を学んだ2年次に関講される必修科目であり、各学問の基本的な知識と考え方の統合、文理融合的な視野の育成、自ら考える力の礎を気づくことを目的としており、教養科目と専門科目の融合を図る意味でもカリキュラム上の基幹となる科目である。

2) 現代教養科目

現代教養科目は、現代に必要とされる“教養”を基礎教養、発展教養、健康スポーツの3分野に分け、学問ごとの基本的な知識と考え方を学び、文理融合的な視野など、大学生活だけでなく、大学卒業後に必要な力の礎を養う科目区分である。

具体的には、基礎教養科目（「人文科学」「社会科学」「自然科学」と発展教養科目（「シティズンシップ」「ボランティア」「地域理解」「国際理解」）健康スポーツ科目（「健康・フィットネス理論実習」と「生涯スポーツ理論実習」）により構成される必修科目であり、基礎教養科目では、知の力の修得を念頭に置き、発展教養科目では、実践力の修得を念頭に置いて、いずれも市民としての教養につながる導入的

な授業を展開していく。この基礎教養科目を基に、さらに現代文明論、学部学科の主専攻科目や他の教養科目などを学び、本学で実施しているチャレンジプロジェクト活動などとも連携することにより、東海大学の教育目標の達成に向かっていく基盤となる科目である。

健康スポーツ科目は、単に運動を身に付けることを目的とするのではなく、健康・体力の保持増進を図るための能力を養い、好ましい人間関係や社会的な行動を認識させるスポーツ活動を“生活化”し、「学生に将来の人生を豊かにできるようなライフスタイルを身につける」ことから「広く自らの歴史観、世界観、人生観を培い、社会に対する強い使命感と豊かな人間性を備えた人材を育成する」ことにつなげていく。

3) 英語科目

英語科目は、発展する国際化への対応という意味だけでなく、その文化や風習の違いを理解し、専門教育の教育効果をより高めることを目指した科目区分である。

具体的には、英語コミュニケーション科目（「英語リスニング&スピーキング」「英語リーディング&ライティング」）とグローバル人材育成科目（「グローバルスキル」「アカデミック英語」）により構成される必修科目であり、英語コミュニケーション科目は4種類の技能を受信と発信の能力（リスニングとスピーキング、リーディングとライティング）として組み合わせ、受信した情報を発信へと繋げる英語力を養っていく。グローバル人材育成科目は、学部教育と連動し、主専攻科目（専門科目）で必要な能力や知識を加え、専門教育との連動をより意識した英語教育を実践する。

4) 主専攻科目（専門科目）

文化社会学部は、(1)多文化理解の促進、(2)高度な言語表現力の育成、(3)メディアの理解・利用・創造、(4)自立と共生を実現する知識と力、を柱とする研究教育を通じて、自立と共生を実現するための知識を学び、多文化を理解するための基礎的能力を培い、様々なコミュニケーション手段を活用して自らの見解を発信する能力を持って、人・社会・自然の共生に立脚した社会生活の基盤の構築に寄与できる人材を育成することを教育目標としている。

この目標を実現するため、全学科で導入・基礎教育を目的としたゼミナール形式の必修科目を1年次に開講し、人文社会系の基礎的な教養を学ぶための「学部教養科目」を文学部と共同で開設するとともに、学科ごとに、それぞれの特色を生かした教育目標を設定し、その目標を達成するためのカリキュラムを編成している。また、主専攻科目の必修科目・選択必修科目・選択科目の割合は、それぞれの学科のカリキュラム編成の方針に応じて柔軟に設定されている。

各学科の教育目標とカリキュラムの編成方針は次のとおりである。

【アジア学科】

1) 教育目標

アジア学科は、多様性に満ち、グローバル化のなか急速な変化を遂げて

いるアジアについて学識を深めることで、異文化に向き合い中長期的な展望をもって現代のさまざまな課題に取り組み、国際社会、地域社会に貢献できる人材を養成する。歴史、文化、社会など多角的な視点によるアジアへのアプローチと言語を中心としたコミュニケーションを基礎とし、異なる価値観の人びととの相互理解と共生に積極的に寄与していく力の育成を教育目標とする。

2) 教育課程編成の方針

アジア学科は、アジアに関する知識を確実に身につけ、応用していく力を養う教育を実現するため、段階的に学んでいけるカリキュラム体系を構築している。具体的には、1・2年次にかけて「基礎科目」学科目として配置された必修科目「アジア研究入門」「アジアの学び方 1・2・3」で学科での学びの基礎を修得するとともに、「東アジア概論」など6つの選択科目を配置して、その後の専門的な知識を深めていくための基礎的な力を培う。また、2年次を中心として「アジアの歴史と文明」学科目に配置された16の選択科目でアジアに関する情報を的確に収集し理解を深めていく＜知る力＞を喚起し、2・3年次を中心として「アジアの文化と社会」学科目に配置された20の選択科目によって＜考える力＞を養っていく。

アジアの文化と社会を現地の言葉で学ぶことを目的として、1年次から4年次にかけて配置された12科目から成る「アジアの言語」学科目のうち、8つの選択必修科目から1科目以上を履修する。2年次からは卒業後を展望し、「演習・プロジェクト」学科目に配置された7つの選択必修科目から1科目以上を履修して、グローバル化が進展するなか多様性に満ちあふれたアジアを舞台に＜行動していく力＞を養う。そして「卒業研究」学科目では、必修科目である「アジア研究セミナー1・2」(3年次)と「卒業論文1・2」(4年次)を履修して、4年間の学びの集大成として＜成し遂げ力＞の涵養を図る。

本学科は、以上の方法で、体系的な学科目(科目区分)や必修・選択科目等の構成と、これに基づいた配当年次を設定し、カリキュラム・ポリシーの実現を図る。

【ヨーロッパ・アメリカ学科】

1) 教育目標

ヨーロッパ・アメリカ学科は、西洋世界について古代から現代までの包括的な理解を深め、さらに「文学・芸術」「宗教・思想」「歴史・社会」という多角的な視点からの学びを通じて、変動する世界情勢のなかでも揺るがない洞察力を持ち、新たな文明を創成するエネルギーに溢れた人材を養成する。

2) 教育課程編成の方針

多彩な学問領域の学びを通じて、複数の観点から世界の多様性に触れることができるように、大きく分けて 3 つの分野から成る基礎学科目と、専門性の高い発展学科目を経て、学びの集大成である「卒業論文」学科目へと進む構成となっている。まず 1 年次には「初年次科目」学科目として必修科目「入門ゼミナール 1・2」と選択科目「ヨーロッパ・アメリカ概論」を履修し、その後の専門的な知識を深めていくための基礎的な力を培う。さらに 1・2 年次に基礎学科目として、ヨーロッパやアメリカの各地域について学ぶ「地域」、考え方の基礎を学ぶ「源流」、多様な文化を比較する「多様性」の 3 つの学科目に 24 の選択科目が配置されている。

2・3 年次を中心に学ぶ発展学科目では「文学・芸術分野」「宗教・思想分野」「歴史・社会分野」の 3 つの学科目に 15 の選択科目が配置され、学生が自ら学びの道を選択し、自立した個人としてそれぞれの興味を深めていく。そして 3・4 年次に「特殊講義」学科目として配置された選択科目「ヨーロッパ・アメリカ特殊講義 A・B・C・D」と、「卒業論文」学科目に配置する必修科目「基礎ゼミナール 1・2」「卒業論文 1・2」において、自分なりに高めた学知を他者に伝える能力を磨く。言い換えれば、基礎科目での水平方向の学びと、発展科目での垂直方向の学びが、卒業論文完成に必要な、学びの深度へと繋げていく。

本学科は、以上の方法で、体系的な学科目（科目区分）や必修・選択科目等の構成と、これに基づいた配当年次を設定し、カリキュラム・ポリシーの実現を図る。

【北欧学科】

1) 教育目標

北欧学科は、「共生社会の構築に貢献できる自立した人材の育成」という目的へ向け、(1) 北欧社会の先進的な取り組みや文化について学ぶことで広い視野と柔軟な発想力を備え、多様な価値観を受容することのできる人材、(2) 言語学習や留学・海外研修などを通じて自らの考えを発信する力を高めた人材、(3) 日本という視点から北欧を研究することで批判的考察力を身につけた人材、(4) 自己と社会との関わり方や自立した生き方を主体的に構想し、日本社会が抱える課題の克服に積極的に取り組むことのできる人材を育成することを教育目標とする。

2) 教育課程編成の方針

北欧社会の取り組みや文化の特質を多面的かつ段階的に学ぶために、「初年次科目」「北欧歴史科目」「北欧社会基盤科目」「北欧社会発展科目」「北欧語導入・基礎・中級・上級科目」「現地研修科目」「卒業研究科目」の学科目から構成される教育課程を編成している。1 年次には、「初年次科目」学科目として大学生活に必須と思われる技能を身につける必修科目「北欧

入門セミナー」と、北欧について基礎的知識を修得するための選択必修科目として北欧各国の概論4科目から2科目以上を履修する。また、1・2年次に学科での学習の基盤となる「北欧歴史科目」学科目として、「北欧史概説」と各国史4科目が選択科目を配置し、北欧に対する歴史的な理解を深める。

主専攻科目の中心となるのが2・3年次を中心に履修する「北欧社会基盤科目」と「北欧社会発展科目」学科目であり、男女平等、教育・思想、福祉、環境政策、多文化共生、文化論、文学、児童文学、こども文化、アイスランド（語）研究、北欧神話などをテーマとする19の科目が配置されている。このうち、「北欧社会基盤科目」学科目に配置されている「北欧ジェンダー論入門」など10の選択必修科目から4科目以上を履修する。

1～3年次にかけて履修する「北欧語導入・基礎・中級・上級科目」では体系だった北欧言語の学習を可能にするために入門から上級までの18科目を配置しており、うち「北欧語導入科目」学科目として配置されている「デンマーク語入門」など4つの選択必修科目から1科目以上を履修する。さらに2・3年次の履修を想定している「現地研修科目」学科目では、自ら北欧を訪問し体験することで、教室では学べない多くのことを吸収する。そして、「卒業研究科目」として3年次に「北欧セミナーA・B」、4年次に「北欧語研究セミナーA・B」「卒業研究A・B」の6つの選択科目を配置している。

本学科は、以上の方法で、体系的な学科目（科目区分）や必修・選択科目等の構成と、これに基づいた配当年次を設定し、カリキュラム・ポリシーの実現を図る。

【文芸創作学科】

1) 教育目標

文芸創作学科は、文芸の創作と批評を通じ、(1)現代社会で通用する正確な言葉によって論理的かつクリエイティブに個々の感性と経験を表現する力、(2)人間と世界に関する情報や事象を柔軟かつクリティカルに読み取り、的確に分析し、本質を洞察する力、(3)広く諸芸術を鑑賞して培った教養を未来に向かって総合的に生かしてゆく力、という三つの力を備えた人材を養成することを教育目標としている。

2) 教育課程編成の方針

文芸創作学科は、基本から応用へと段階を踏んで「読む」ことと「書く」ことを学修出来るようにカリキュラムを編成している。1年次に「学科導入科目」学科目として必修科目「ストーリーを発見する」および「文芸創作入門ワークショップ」を配置し、高校教育と大学教育との間のギャップを埋めると同時に、4年間の学習の展望を開く。また、1・2年次を中心に「基礎科目」学科目として、「読む」ことから「書く」ことへと重心をシフトす

るため、「文学の遠近法（創作のための文学史）」をはじめとする、アジアから欧米まで、また古代から近代まで、広く古今東西の作品を読み、また映画や演劇の基礎も学ぶ12の選択科目を配置している。

学生はこれらの科目の学修を踏まえて、2・3年次に「書く」ことを中心とした「創作系科目」「批評系科目」「編集系科目」学科目へと移行していく。「創作系科目」学科目には「詩の技法」など9の選択科目、「批評系科目」学科目には「ノンフィクションを読む」など8つの選択科目、「編集系科目」学科目には「サブカルチャーと文学」など7つの選択科目が配置されている。そして3年次から4年次にかけては、少人数によるディスカッションや対話を中心とする選択科目「卒業制作ワークショップ1・2・3」において、学修の総仕上げとして卒業制作作品を執筆する。

本学科は、以上の方法で、体系的な学科目（科目区分）や必修・選択科目等の構成と、これに基づいた配当年次を設定し、カリキュラム・ポリシーの実現を図る。

【広報メディア学科】

1) 教育目標

広報メディア学科は、単なる技術の習得にとどまらず、メディアに関する理論的・歴史的・制度的な研究成果を土台としつつ、混沌としたメディアシーンに対応できる人材、社会的価値のあるメッセージを創造・発信できる人材、メディアや企業・行政の広報・広告部門で活躍できる人材を育成することを教育目標としている。そのために、多様な人々に向けて、適切なメッセージを送り、良好な関係を築きながら目的に応じてメディアを利用・活用し、メッセージの社会的価値を高める力を養う。

2) 教育課程編成の方針

広報メディア学科は、カリキュラムを、基礎科目である「広報メディア基礎」学科目（11科目）と4つの応用科目の学科目（25科目）を中心に構成している。まず「広報メディア基礎」学科目に、広報とメディア分野への導入科目として、必修科目「広報メディア基礎演習」と、「新聞・出版論」など広報やメディアの基礎知識を学ぶ6つの選択科目を1年次に配置し、データの分析方法やプレゼンテーション技術、映像制作法などを学ぶ4つの選択科目を2年次に配置して、基礎的な知識や考える礎を築いていく。

応用・発展系科目は4つの学科目で構成され、2・3年次を中心に配置されている。「メディアと社会」学科目として「新聞報道論」など8つの選択科目、「広報の企画・戦略」学科目として「PR・広告戦略演習」など6つの選択科目、「メディアの制作・実践」学科目として「マスコミ文章表現」など6つの選択科目、「卒業制作・研究」学科目として「ゼミナールA・B・C・D」と「アドバンスゼミナール」の5つの選択科目で構成されている。

まずは応用学科目の入口として設定している「メディアと社会」学科目

の 8 科目を中心に履修し、これら科目の修得状況及び学生自身のニーズに合わせ、広報や広告の企画や戦略の立案方法を修得していく「広報の企画・戦略」学科目、あるいはメディアを制作・実践するための仕組み・ルール・実践的技術を修得する「メディアの制作・実践」学科目のいずれかを主として選択していく。そして、本学科での学修の集大成となる「卒業制作・研究」学科目において、最終段階として自らの学びの成果を論文や作品の形で完成させることを目的とする。

本学科は、以上の方法で、体系的な学科目（科目区分）や必修・選択科目等の構成と、これに基づいた配当年次を設定し、カリキュラム・ポリシーの実現を図る。

【心理・社会学科】

1) 教育目標

社会学に加えて、社会心理学・心理学の学び、そして組織された実験やフィールド実習を通じて、社会的な課題や問題に対して具体的な解決策や行動計画を提案できる“社会的構想力”と、人間関係の充実に必要な社会的スキルである“コミュニケーション能力”を育てることを教育目標にしている。この 2 つの能力を基礎にして、人と人または人と地域をつなぐ主導性と、人の心を安定に導く技法を養成する。

2) 教育課程編成の方針

心理・社会学科は 2 つの能力の基礎を育成するため、「心理・社会学基礎科目」学科目に、大学での学修技法を学ぶ必修科目「基礎ゼミナール 1」を 1 年次に、そして「基礎ゼミナール 2」を 2 年次に配置し、必修科目の「社会学概論」「心理学概論」を 1 年次に開講して、基礎的な学修を開始する。次に、“研究方法の基礎を身につける”ために、選択科目として「統計学」や「心理・社会学研究法」を 2 年次に開講する。2 年次及び 3 年次の前期には、「心理・社会学共通科目」学科目として、「社会心理学概論」など 7 つの選択科目を配置し、社会学と心理学の知識や考えを融合させつつ専門知識を身につけていく。

また、実践力の修得を目的として、「心理・社会学研究法科目」学科目として「心理・社会学文章表現法」など 16 の選択科目、「心理・社会学演習科目」学科目として「心理・社会学研究 A・B」と「ゼミナール 1・2」の 4 つの選択科目を、2・3 年次を中心に配置している。

社会学、心理学各分野の専門知識を深める科目として、2・3 年次を中心に「社会学講義科目」学科目に「現代社会とマスメディア」など 8 つの選択科目、「心理学講義科目」学科目に 18 の選択科目を配置している。そして「心理・社会学専門研究科目」学科目において、本学科における学修の集大成となる「ゼミナール 3」「卒業演習」「卒業論文」の 3 つの選択科目を 4 年次に配置して、研究成果を卒業論文として制作する。

本学科は、以上の方法で、体系的な学科目（科目区分）や必修・選択科目等の構成と、これに基づいた配当年次を設定し、カリキュラム・ポリシーの実現を図る。

⑤ 教員組織の編成の考え方及び特色

1) 教養系科目の考え方と特色

本学においては、総合大学の強みを生かした文理融合の教育を進めており、教養系の科目については、各学部において運営するのではなく、センター等により行い、学部とは別の組織により運営を行っている。教養系科目を構成する各科目については、学部の特色等にあわせて授業科目に教員を配置し、学生同士も学部や分野を越えてお互いに交わりながら、全学的に同一の授業形態にて授業を行う方法を実践する。

現代文明論、現代教養科目（基礎教養科目、発展教養科目）については、「現代教養センター」、現代教養科目（健康スポーツ科目）については、「一般体育」、英語科目については、「国際教育センター」が行っている。

2) 専門科目の教員の配置状況

以下のとおり、専任教員を配置する。

【文化社会学部アジア学科】

アジア学科の専任教員は、教授 5 名、准教授 3 名、講師 1 名の計 9 名で編成する。教員の年齢構成は、40～49 歳が 3 名、50～59 歳が 4 名、60～64 歳が 2 名となっている。

【文化社会学部ヨーロッパ・アメリカ学科】

ヨーロッパ・アメリカ学科の専任教員は、教授 3 名、准教授 3 名、講師 3 名の計 9 名で編成する。教員の年齢構成は、40～49 歳が 4 名、50～59 歳が 4 名、65～69 歳が 1 名となっている。

なお、完成年度までに定年齢を超える教員が 1 名いるが、教育研究上の業績により、本学の学校法人東海大学教職員定年規程（資料 1）の第 4 条「教育上又は経営上必要と認めた者については、第 1 条の規定を適用しない。」に基づいて定年を延長する計画である。この 1 名については、完成年度以降に退職となった際に、その後任人事により対応し、継続して研究・教育活動ができる体制を維持していく。

【文化社会学部北欧学科】

北欧学科の専任教員は、教授 3 名、講師 3 名の計 6 名で編成する。教員の年齢構成は、30～39 歳が 2 名、40～49 歳が 1 名、50～59 歳が 2 名、60～64 歳が 1 名となっている。

【文化社会学部文芸創作学科】

文芸創作学科の専任教員は、教授 5 名、准教授 1 名、講師 1 名の計 7 名で編成する。教員の年齢構成は、40～49 歳が 3 名、50～59 歳が 2 名、60～64 歳が 2 名となっている。完成年度までに定年齢を超える教員が 2 名いるが、教育上の業績により、本学の学校法人東海大学教職員定年規程（資料 1）の第 4 条「教育上又は経営上必要と認めた者については、第 1 条の規定を適用しない。」に基づいて定年を延長する計画である。この 2 名については、完成年度以降に退職となった際に、その後任人事により対応し、継続して研究・教育活動ができる体制を維持していくが、採用にあたっては、30 代～40 代であること、可能な限り修士号・博士号取得者であることを採用計画における要件とする。これにより、現在、比較的高年齢に偏っている教員組織をバランスの取れた構成とする計画である。

なお、文芸創作学科は、文学を小説、詩、戯曲、映画、演劇、美術などの広い視野でとらえて教育研究を展開する学科であるため、創作経験が豊富な教員を積極的に活用している。このため、修士相当以上の学位を保有しない専任教員の比率が高い状況となっているが、文芸創作学科の主任（学科長）には、博士号を保有する専任教員が就任して学科全体の教育研究活動の推進を担うこと、また、文芸創作学科の必修科目については、博士号を保有する専任教員が中心となって担当し教育を展開することにより、教育研究の質の担保を図る。

文化社会学部として、3 年間に 2 本の原著論文（単著）を発表することを研究活動の標準として定める予定である。文芸創作学科の専任教員がこの基準にしたがって研究業績を積むことにより、研究活動及び学位取得を推進する。また、先に述べた通り、専任教員の採用人事計画において、修士号・博士号取得者を採用の要件とすることで、教員組織の一層の充実を図る計画である。

【文化社会学部広報メディア学科】

広報メディア学科の専任教員は、教授 8 名、准教授 2 名の計 10 名で編成する。教員の年齢構成は、40～49 歳が 1 名、50～59 歳が 6 名、60～64 歳が 3 名となっている。

完成年度までに定年齢を超える教員が 2 名いるが、教育研究上の業績により、本学の学校法人東海大学教職員定年規程（資料 1）の第 4 条「教育上又は経営上必要と認めた者については、第 1 条の規定を適用しない。」に基づいて定年を延長する計画である。この 2 名については、完成年度以降に退職となった際に、その後任人事により対応し、継続して研究・教育活動ができる体制を維持していくが、採用にあたっては、30 代～40 代であること採用計画における要件とする。これにより、バランスの取れた専任教員年齢構成とする。

【文化社会学部心理・社会学科】

心理・社会学科の専任教員は、教授 5 名、准教授 5 名の計 10 名で編成する。教員の年齢構成は、40～49 歳が 5 名、50～59 歳が 4 名、65 歳以上が 1 名となっている。定年齢を超える教員が 1 名いるが、教育研究上の業績により、本学の学校法人東海

大学教職員定年規程（資料 1）の第 4 条「教育上又は経営上必要と認めた者については、第 1 条の規定を適用しない。」に基づいて定年を延長する計画である。この 1 名については、完成年度以降に退職となった際に、その後任人事により対応し、継続して研究・教育活動ができる体制を維持していく。

3) 専門科目の教員配置の考え方と特色

専門科目についての考え方は、授業を行うにあたり最も適した研究や教育の実績がある教員が授業を行うことである。実習や演習科目、ゼミナール・卒業論文科目など、繊細かつ継続的な指導が必要な科目については、原則として専任教員が授業を実施し、履修者数を適切な人数で行うことにより対応していく。基礎系の科目や幅広い視点を養うための科目等については、その分野で豊富な教育経験と研究の実績がある教員を優先して配置する。

この考え方から、「学部教養科目」については、その分野に精通する教員を配置し、学科開講科目については、以下のとおり教員を配置する。

【文化社会学部アジア学科】

広い世界を理解していくうえで重要なことは、その地域や国の特色をまず把握することである。その意味で“基礎科目（学科目）”は重要であり、「アジア研究入門」、「アジアの学び方 1」、「アジアの学び方 2」、「アジアの学び方 3」、「東アジア概論」、「東南アジア概論」、「南アジア概論」、「西アジア概論」、「アジアの文化と社会（学科目）」の「イスラム文明概論」については、その地域に精通し、多くの教育・研究の実績を持つ専任教員が担当する。

加えて、本学科における学修の集大成として行う“卒業研究（学科目）”の「アジア研究セミナー 1」、「アジア研究セミナー 2」、「卒業論文 1」、「卒業論文 2」は全専任教員が担当し、他の科目については、科目ごとに教育的、研究面での実績がある教員を配置することにより教育効果を高めている。

【ヨーロッパ・アメリカ学科】

広い世界を理解していくうえで重要なことは、その地域や国の特色をまず把握することである。したがって、低年次で幅広い視点を養うことが重要であり、“初年次科目（学科目）”の「入門ゼミナール 1」、「入門ゼミナール 2」、「基礎科目（学科目）」の「ヨーロッパ・アメリカ概論」を始め、世界と地域の多様性を学ぶ、“多様性（学科目）”の「ヨーロッパの都市と文化 A」、「ヨーロッパの都市と文化 B」、「文学・芸術分野（学科目）」の「西洋文学の世界 A」、「西洋文学の世界 B」については、その分野に精通し、多くの教育・研究の実績を持つ専任教員を配置する。

加えて、本学科における学修の集大成として行う“卒業研究（学科目）”を専任教員が担当し、他の科目については、科目ごとに教育的、研究面での実績がある教員を配置することにより教育効果を高めている。

【北欧学科】

北欧各国の独特の世界を理解していくうえで重要なことは、まず、国々の文化や歴史等の特色の基礎を把握することである。したがって、“初年次科目（学科目）”、“北欧歴史科目（学科目）”、“北欧社会基盤科目（学科目）”で開講される、入門・概論・概説系の科目（「デンマーク概論」、「スウェーデン概論」、「ノルウェー概論」、「フィンランド概論」、「北欧史概説」、「北欧ジェンダー論入門」、「北欧の福祉概説」）については、その分野に精通し、多くの教育・研究の実績を持つ専任教員が担当する。「北欧入門セミナー」、「北欧児童文学入門」も同様に入門系の科目であるが、これらの科目の特殊性から、教育・研究等の実績と教育効果を重視し、その分野に精通した兼任教員を加えて配置していく。本学科での学びの集大成といえる“卒業研究科目（学科目）”については専任教員により担当し、他の科目については、科目ごとに教育的、研究面での実績がある教員を配置して教育効果を高めている。

【文芸創作学科】

本学科が養成する人材を育成するためには、本学科を構成する各分野の“基礎”を理解して、技術の向上や自ら考える力を付けていくことが重要である。したがって、これらの育成すべき力を、学生が効果的に身に付けていくために必要な、適切な研究内容や実績を重視し、“学科導入科目（学科目）”の「ストーリーを発見する」、「文芸創作入門ワークショップ」をはじめ、特に低年次向けの科目については、博士号を有する専任教員を含めて配置している。また、“基礎科目（学科目）”については、「映画史入門」と「演劇ワークショップ」には、その分野で実績と豊かな教育経験を持つ兼任教員を配置し、他の科目については専任教員を配置することにより教育効果を高めている。

本学科での学びの集大成といえる“卒業制作科目（学科目）”の「卒業制作ワークショップ1」、「卒業制作ワークショップ2」、「卒業制作ワークショップ3」については、幅広い分野に適応することを目的に、専門的な知識と教育経験を持つ兼任教員を専任教員に加えて、高い教育効果が得られる体制としている。

【広報メディア学科】

メディアの理解を進め、メッセージの価値や現代社会を構成する人々の多様性を追求していく本学科においては、社会との関連を本学科の教育研究上の目的、養成する人材像を具現化するため、多くの演習科目を設定している。したがって、基礎系の演習科目である“広報メディア基礎（学科目）”の「広報メディア基礎演習」、「プレゼンテーション実践」、「メディア英語演習」、「映像制作」については、その分野に精通し、豊かな研究実績と教育実績を持つ専任教員が担当する。同様に、“メディアと社会（学科目）”、“広報の企画・戦略（学科目）”、“メディアの制作・実践（学科目）”における演習科目についても、専任教員が担当する。

本学科の学びの集大成である“卒業制作・研究（学科目）”に設定された「ゼミナールA」、「ゼミナールB」、「ゼミナールC」、「ゼミナールD」については全専任教員にて担当し、教育の幅と質の確保を行い、他の科目については、科目ごとに教育

的、研究面での実績がある教員を配置して教育効果を高めている。

【心理・社会学科】

本学科での学修は、従来の社会学の問題意識と方法に加えて、より個々人の心理状況をきめ細かく把握するアプローチを導入する必要があることから、心理学と社会学の基礎の学び方が非常に重要である。したがって、“心理・社会学基礎科目（学科目）”に開講される6科目（「基礎ゼミナール1」、「心理学概論」、「社会学概論」、「基礎ゼミナール2」、「統計学」、「心理・社会学研究法」）については、各分野に精通し教育研究面での実績のある担当教員を配置し、科目間の連携をとりながら、基礎的な学修を進めていく。

本学科の集大成となる“心理・社会学演習科目（学科目）”と“心理・社会学専門研究科目（学科目）”については、全専任教員を配置し教育効果を高めると同時に、その他の科目についても、科目ごとに教育的、研究面での実績がある教員を配置して教育効果を高めている。

⑥ 教育方法、履修指導方法及び卒業要件

1) 教養科目と主専攻科目（専門科目）の計画的な融合

本学においては、平成30年度より教養科目を刷新し、パブリック・アチーブメント型教育による教養系科目と専門科目の融合の実現を目指す。Semester制度により、学生の選択の自由度を高めているが、特に1年次から2年次の学修については、順序性を定め、教育効果を高めていく計画である。

具体的には、第1Semesterから第2Semesterにおいては、現代教養科目の基礎教養科目（「人文科学」、「社会科学」、「自然科学」）において学問ごとの基本的な知識と考え方を学び、文理融合的な視野の礎を育成する。同時に発展教養科目において「全人的な教育」と「社会的実践力」を効果的に養っていく。これを具現化する科目が、米国で開発されてきた「パブリック・アチーブメント型教育」を実践する、現代教養科目の発展教養科目（「シティズンシップ」、「ボランティア」、「地域理解」、「国際理解」）である。これらの科目により学生が社会の構成員であることを自覚し、社会と関わろうとする自発的な意識を高め、公共に資する判断と行動の必要性を認識することにより、社会の持続的な発展に向けた取り組みを促進する。これを礎に、2年次に学修する本学の基幹科目である「現代文明論」と、学科での専門科目の学修について、より実践的に知識を吸収し、社会への展開を自ら考えて、積極的に学びを深めていく実践的な学修へとつなげていく。

また、英語科目については、従来、4技能（リスニングとスピーキング、リーディングとライティング）を段階的に学修していく方式であったが、平成30年度からは、基礎的な4技能を1年次に行い、2年次には、学部・学科での専門教育と融合して連動性を深めて展開していく。

以上の教養科目は全て必修科目であり、現代文明論科目、現代教養科目については、科目ごとに定める適切な人数（現代教養科目は約80名）で履修登録前には学生

のクラスを確定し、英語科目については、授業開始前のガイダンス期間に行う基礎学力テストにより、能力別のクラス編成を行い、適切な人数（約 35 名）で学生のクラスを確定していく。

また、これらの教養科目の授業については、グループワーク等も取り入れ、初回の授業でシラバスの説明をし、授業の進行方法等を学生と教員が共有することで、より効果的な学修を行っていく。

2) 主専攻科目（専門科目）の展開

文化社会学部では、全学科で導入・基礎教育を目的としたゼミナール形式の必修科目を 1 年次に開講している。1・2 年次においては、学科の教育研究にとっての基礎的知識を身につけるための科目を、各学科の学生数および学びの内容に応じて、講義または演習形式で開講している。2・3 年次には、専門的な知識や技法を身につけるための科目が講義・演習形式で開講され、3・4 年次においては、4 年間の学びの成果を卒業論文や作品として制作するための少人数のゼミナール形式あるいはワークショップ形式の科目が開講されている。また、地域研究系の学科においては、それぞれの専門とする外国語を学ぶ科目を少人数で開講している。なお、教員免許状を希望する学生については、「教職科目」科目群において開講される科目について、ガイダンスや個別指導のもと単位を計画的に修得できるように科目を配置している。

履修者数等の設定については、必修科目は適切な人数で科目ごとにクラスを編成し履修者を指定し、選択科目については、特に低年次で行うゼミナール科目での調査や指導や基礎系の科目の受講状況により、次学期・次年度の学科科目ごとの受講人数を予め想定し、開講クラス数等の増加等によって、科目ごとに適切に管理を行う。

【アジア学科】

1・2 年次に「基礎科目」学科目において「アジア研究入門」を講義形式で開講し、さらに、「アジアの学び方 1・2・3」を少人数の演習形式で開講することで、学科での学びの基礎を修得する。また、「文物に学ぶアジア」、「東アジア概論」など 6 科目を講義形式で開講し、その後の専門的な知識を深めていくための基礎的な力を培う。

「アジアの歴史と文明」学科目に配置された 16 科目は、2 年次を中心として講義形式で開講され、アジアに関する情報を的確に収集し理解を深めていくことを目的にしている。2・3 年次を中心として「アジアの文化と社会」学科目に配置された 20 科目のうち、18 科目は比較的少人数の講義形式で開講され、アジア各国の文化と社会について専門的な知識を身につけるとともに、「現代アジアの課題 A・B」を少人数の演習形式で開講し、現代アジアに関する様々な課題を取り上げて議論することで＜考える力＞を養っていく。

アジアの文化と社会を現地の言葉で学ぶことを目的として、1 年次から 4 年次にかけて配置された「アジアの言語」学科目の 12 科目は、少人数クラスで開講される。

「演習・プロジェクト」学科目に配置された 7 科目は演習形式及び海外での実習として 2 年次から開講され、グローバル化が進展するなか多様性に満ちあふれたアジアを舞台に＜行動していく力＞を養う。そして「卒業研究」学科目では、必修科目

である「アジア研究セミナー1・2」(3年次)と「卒業論文1・2」(4年次)をゼミナール形式で開講し、4年間の学びの集大成として<成し遂げ力>の涵養を図る。

【ヨーロッパ・アメリカ学科】

1年次には「初年次科目」学科目において「入門ゼミナール1・2」を少人数のゼミナール形式で開講するとともに、「基礎科目」学科目において「ヨーロッパ・アメリカ概論」をオムニバス形式で開講し、その後の専門的な知識を深めていくための基礎的な力を培う。さらに1・2年次に基礎的な学科目として、ヨーロッパやアメリカの各地域について学ぶ「地域」、考え方の基礎を学ぶ「源流」、多様な文化を比較する「多様性」の3つの科目区分に配置された24科目を比較的少人数の講義形式で開講する。

主に2・3年次を中心にして学ぶ発展的な学科目では「文学・芸術分野」「宗教・思想分野」「歴史・社会分野」の3つの学科目に配置された15科目を比較的少人数の講義形式で開講し、学生が自ら学びの道を選択し、自立した個人としてそれぞれの興味を深めていく。そして基礎を身に付けた3・4年次を主体にしている「特殊講義」学科目に配置された「ヨーロッパ・アメリカ特殊講義A・B・C・D」と「基礎ゼミナール1・2」「卒業論文1・2」はすべて少人数のゼミナール形式で開講され、自分なりに高めた学知を他者に伝える能力を磨く。

【北欧学科】

1年次には、「初年次科目」学科目において、大学生活に必須と思われる技能を身につける「北欧入門セミナー」をオムニバス形式で開講するとともに、北欧について基礎的知識を修得するための北欧各国の“概論系の4科目”を講義形式で開講する。また、1・2年次に学科での学習の基盤となる「北欧歴史科目」学科目として、「北欧史概説」と各国史4科目を講義形式で開講し、北欧に対する歴史的な理解を深める。

主専攻科目の中心となるのが、主に1・2年次を中心に配置する「北欧社会基盤科目」と2・3年次を中心に配置する「北欧社会発展科目」であり、男女平等、教育・思想、福祉、環境政策、多文化共生、文化論、文学、児童文学、こども文化、アイスランド(語)研究、北欧神話などをテーマとする19科目を比較的少人数の講義形式で開講する。

1～3年次にかけて段階的に履修する「北欧語導入・基礎・中級・上級科目」学科目では、体系だった北欧言語の学習を可能にするために入門から上級までの18科目を少人数クラスで開講する。さらに2・3年次の履修を想定している「現地研修科目」では、低年次で培った知識や語学の技能を、自らが“北欧を訪問し体験する”ことで、教室では学べない多くのことを吸収する。そして、「卒業研究科目」学科目に繋がっていき、3年次に「北欧セミナーA・B」、4年次に「北欧語研究セミナーA・B」「卒業研究A・B」の6科目をゼミナール形式で開講する。

【文芸創作学科】

1 年次に「学科導入科目」学科目において、「ストーリーを発見する」と「文芸創作入門ワークショップ」を比較的少人数の演習形式で開講し、大学での学び方、本学科での学修方法を学ぶことと同時に、4 年間の学修の展望を具体化していく。また、1・2 年次を中心に「基礎科目」学科目において、「読む」ことから「書く」ことへと重心をシフトするため、「文学の遠近法（創作のための文学史）」1 年次に配置することから始まり、アジアから欧米まで、また古代から近代まで、広く古今東西の作品を読み、また映画や演劇の基礎も学ぶ 12 科目を、3 年次まで比較的少人数の講義または演習形式で開講する。

学生は上記の科目の履修を踏まえながら、2・3 年次に「書く」ことを中心とした「創作系科目」「批評系科目」「編集系科目」学科目へと学びの場を展開していく。「創作系科目」学科目では「詩の技法」など 9 科目、「批評系科目」学科目として「ノンフィクションを読む」など 8 科目、「編集系科目」学科目として「サブカルチャーと文学」など 7 科目を、比較的少人数の講義で開講し、実際に「書く」作業を中核とする科目は、実習・ワークショップ形式で開講する。

そして、3 年次から 4 年次にかけてディスカッションや対話を中心とする「卒業制作ワークショップ 1・2・3」をワークショップ形式で開講し、学修の総仕上げとして卒業制作作品を執筆する。

【広報メディア学科】

1 年次に「広報メディア基礎」学科目として、広報とメディア分野への導入科目である「広報メディア基礎演習」をオムニバス形式で開講し、「新聞・出版論」、「放送論」、「広報・広告論」、「マス・コミュニケーション史」、「メディア社会学」、「メディア産業と倫理」など広報やメディアの基礎知識を学ぶ 6 科目を講義形式で開講する。2 年次にはデータの分析方法やプレゼンテーション技術、映像制作法などの実践的技術を学ぶ 4 科目を少人数クラスで開講する。

4 つの応用科目群は 2・3 年次を中心に配置されており、「メディアと社会」学科目では「新聞報道論」など 7 科目を講義形式で、「出版文化史演習」を少人数の演習形式で開講する。「広報の企画・戦略」学科目では「PR・広告戦略演習」を企画立案・討論などを中心とする演習形式で、「Web メディア論」など 5 科目を比較的少人数の講義形式で開講する。「メディアの制作・実践」学科目では、「マスコミ文章表現」など実習・制作系の 5 科目を少人数クラスで、「映像表現論」を講義形式で開講する。そして「卒業制作・研究」学科目においては、「ゼミナール A・B・C・D」と「アドバンスゼミナール」を少人数のゼミナール形式で 3 年次に開講し、低年次から積み重ねてきた知識や技能をまとめあげていく。

【心理・社会学科】

「心理・社会学基礎科目」学科目として、大学での学修技法を学ぶ「基礎ゼミナール 1」を 1 年次に、「基礎ゼミナール 2」を 2 年次に少人数のゼミナール形式で開講し、また、1 年次に学科の学問分野の基礎知識を修得するための「社会学概論」と

「心理学概論」を講義形式で開講する。さらに、研究方法の基礎を身につけるため 2 年次に「統計学」と「心理・社会学研究法」を講義形式で開講する。2 年次及び 3 年次の前期には、「心理・社会学共通科目」学科目として、「社会心理学概論」など 7 科目を講義形式で開講し、「社会学講義科目」学科目、「心理学講義科目」学科目において専門的な科目を配置し学びを深め、社会学と心理学の融合を図っていく。同時に、“実践力の修得”を目的とする「心理・社会学研究法科目」学科目において「心理・社会学文章表現法」など 16 科目を配置し、「心理・社会学演習科目」学科目において「心理・社会学研究 A・B」と「ゼミナール 1・2」の 4 科目を少人数クラスで開講して、自ら考える力、成し遂げていく力を養っていく。そして本学科の学修の集大成として、4 年次に「心理・社会学専門研究科目」学科目に「ゼミナール 3」「卒業演習」「卒業論文」の 3 科目をゼミナール形式で開講し、研究成果を卒業論文として制作する。

3) 卒業要件について

教養科目（科目区分Ⅰ～Ⅲ）の卒業要件は他学部と同じ単位数を設定し、パブリック・アチーブメント型教育を主専攻科目（専門科目）へと展開していく。

科目区分Ⅰ 現代文明論（必修）：2 単位

科目区分Ⅱ 現代教養科目

基礎教養科目（必修）：6 単位

発展教養科目（必修）：4 単位

健康スポーツ科目（必修）：2 単位

科目区分Ⅲ 英語科目

英語コミュニケーション科目（必修）：4 単位

グローバル人材育成科目（必修）：4 単位

主専攻科目(専門科目)の卒業要件は、各学科の要件に沿って 72 単位以上を修得するものとする。

【アジア学科】

学科での学びの基礎を修得する「基礎科目」学科目のうちの「アジア研究入門」「アジアの学び方 1・2・3」と、4 年間の学びの集大成として＜成し遂げ力＞の涵養を図る「卒業研究」学科目の「アジア研究セミナー 1・2」「卒業論文 1・2」については必修科目として設定する。「基礎科目」学科目のうち、アジアに関する基礎的な力を培う 6 科目については選択科目として設定する。アジアの文化と社会を現地の言葉で学ぶことを目的とする「アジアの言語」学科目のうち、8 つの選択必修科目から 1 科目以上を履修する。「演習・プロジェクト」学科目に配置された 7 つの選択必修科目から 1 科目以上を履修して、グローバル化が進展するなか多様性に満ちあふれたアジアを舞台に＜行動していく力＞を養う。アジアに関する情報を的確に収集し理解を深めていく「アジアの歴史と文明」学科目（16 科目）、アジア各国の文化と社会に

ついて専門的な知識を身につけるとともに、＜考える力＞を養っていく「アジアの文化と社会」学科目（20 科目）については選択科目とし、学生自身が問題意識を深め、解決策を考え、実践する力を養う。

科目区分 IV 主専攻科目

必修科目

基礎科目：8 単位

卒業研究：12 単位

選択必修科目

アジアの言語：2 単位

演習・プロジェクト：2 単位

選択科目

基礎科目、アジアの歴史と文明、アジアの言語、学部教養科目、教職科目、または選択必修科目の余剰単位：48 単位

科目区分IVの余剰、他学部・他学科科目を修得した単位 30 単位

【ヨーロッパ・アメリカ学科】

「初年次科目」学科目である「入門ゼミナール 1・2」と自分なりに高めた学知を他者に伝える能力を磨く「卒業論文」学科目としての「基礎ゼミナール 1・2」「卒業論文 1・2」は必修科目として設定する。「基礎科目」学科目（1 科目）、ヨーロッパやアメリカの各地域について学ぶ「地域」学科目（8 科目）、考え方の基礎を学ぶ「源流」学科目（6 科目）、多様な文化を比較する「多様性」学科目（10 科目）、学生が自ら学びの道を選択し、自立した個人としてそれぞれの興味を深めていく「文学・芸術分野」学科目（6 科目）、「宗教・思想分野」学科目（3 科目）、「歴史・社会分野」学科目（6 科目）、「特殊講義」として配置された「ヨーロッパ・アメリカ特殊講義 A・B・C・D」については選択科目とし、学生自身が問題意識を深め、解決策を考え、実践する力を養う。

科目区分 IV 主専攻科目

必修科目

初年次科目：4 単位

卒業論文：12 単位

選択科目

基礎科目、地域、源流、多様性、文学・芸術分野、宗教・思想分野、歴史・社会分野、特殊講義、実地研修、言語科目、学部教養科目、教職科目：56 単位

科目区分IVの余剰、他学部・他学科科目を修得した単位 30 単位

【北欧学科】

「初年次科目」学科目として大学生活に必須と思われる技能を身につける「北欧入門セミナー」は必修科目として設定し、北欧について基礎的知識を修得するための選択必修科目として北欧各国の概論 4 科目から 2 科目以上を履修する。主専攻科目の中心となる「北欧社会基盤科目」学科目に配置されている「北欧ジェンダー論入門」など 10 の選択必修科目から 4 科目以上を履修する。1～3 年次にかけて履修する「北欧語導入・基礎・中級・上級科目」の各学科目では、体系だった北欧言語の学習を可能にするため、「北欧語導入科目」学科目として配置されている「デンマーク語入門」など 4 つの選択必修科目から 1 科目以上を履修する。

北欧に対する歴史的・社会的理解を深める「北欧歴史科目」学科目（5 科目）と「北欧社会発展科目」学科目（9 科目）、体系だった北欧言語の学習を可能にするための「北欧語基礎科目」学科目（8 科目）、「北欧語中級科目」学科目（4 科目）、「北欧語上級科目」学科目（2 科目）、自ら北欧を訪問し体験することで、教室では学べない多くのことを吸収する「現地研修科目」学科目（2 科目）、4 年間の集大成を卒業研究としてまとめる「卒業研究科目」学科目（6 科目）については選択科目とし、学生自身が問題意識を深め、解決策を考え、実践する力を養う。

科目区分 IV 主専攻科目

必修科目

初年次科目：2 単位

選択必修科目

初年次科目：4 単位

北欧社会基盤科目：8 単位

北欧語導入科目：2 単位

選択科目

初年次科目、北欧歴史科目、北欧社会発展科目、北欧語基礎科目、北欧語中級科目、北欧語上級科目、卒業研究科目、現地研修科目、学部教養科目、または選択必修科目の余剰単位：56 単位

科目区分Ⅳの余剰、他学部・他学科科目を修得した単位 30 単位

【文芸創作学科】

「学科導入科目」学科目として高校教育と大学教育との間のギャップを埋めると同時に、4 年間の学習の展望を開く「ストーリーを発見する」および「文芸創作入門ワークショップ」は必修科目として設定する。1・2 年次を中心に「読む」ことから「書く」ことへと重心をシフトするための「基礎科目」学科目（12 科目）、2・3 年次に「書く」ことを中心とした「創作系科目」学科目（9 科目）、「批評系科目」学科目（8 科目）、「編集系科目」学科目（7 科目）、3 年次から 4 年次にかけて少人数によるディスカッションや対話を通して学習の総仕上げとして卒業制作作品を執筆する「卒業制作ワークショップ 1・2・3」については選択科目とし、学生自身が問題意

識を深め、解決策を考え、実践する力を養う。

科目区分 IV 主専攻科目

必修科目

学科導入科目：4 単位

選択科目

基礎科目、創作系科目、批評系科目、編集系科目、卒業制作科目、学部教養科目：68 単位

科目区分IVの余剰、他学部・他学科科目を修得した単位 30 単位

【広報メディア学科】

「広報メディア基礎」学科目として、広報とメディア分野への導入科目である「広報メディア基礎演習」は必修科目として設定し、「新聞・出版論」など広報やメディアの基礎知識を学ぶ 6 科目と、データの分析方法やプレゼンテーション技術、映像制作法などを学ぶ 4 科目は選択科目として設定する。また、応用科目群の入口である「メディアと社会」学科目（8 科目）、広報や広告の企画や戦略の立案方法を修得していく「広報の企画・戦略」学科目（6 科目）、メディアを制作・実践するための仕組み・ルール・実践的技術を修得する「メディアの制作・実践」学科目（6 科目）、学習の最終段階として自らの学びの成果を論文や作品の形で完成させる「卒業制作・研究」学科目（5 科目）については選択科目とし、学生自身が問題意識を深め、解決策を考え、実践する力を養う。

科目区分 IV 主専攻科目

必修科目

広報メディア基礎：2 単位

選択科目

広報メディア基礎、メディアと社会、広報の企画・戦略、メディアの制作・実践、卒業制作・研究、学部教養科目、教職科目：70 単位

科目区分IVの余剰、他学部・他学科科目を修得した単位 30 単位

【心理・社会学科】

「心理・社会学基礎科目」学科目として、大学での学習技法を学ぶ「基礎ゼミナール 1・2」、学科の学問分野の基礎知識を修得するための「社会学概論」「心理学概論」は必修科目として設定し、研究方法の基礎を身につけるための「統計学」と「心理・社会学研究法」は選択科目として設定する。心理学・社会学に共通する考え方を身につけるための「心理・社会学共通科目」学科目（7 科目）、実践力の修得を目的とする「心理・社会学研究法科目」学科目（16 科目）と「心理・社会学演習科目」学科目（4 科目）、各分野の専門知識を深めるための「社会学講義科目」学科目（8

科目)と「心理学講義科目」学科目(18科目)、そして研究成果を卒業論文として制作する「心理・社会学専門研究科目」学科目(3科目)については選択科目とし、学生自身が問題意識を深め、解決策を考え、実践する力を養う。

科目区分 IV 主専攻科目

必修科目

心理・社会学基礎科目：12単位

選択科目

心理・社会学基礎科目、心理・社会学共通科目、社会学講義科目、心理学講義科目、心理・社会学研究法科目、心理・社会学演習科目、心理・社会学専門研究科目、学部教養科目、教職科目：60単位

科目区分IVの余剰、他学部・他学科科目を修得した単位 30単位

4) 履修モデルについて

各学科の履修モデルを(資料2)として添付した。

5) 履修科目の登録上限について

履修科目の上限単位は、予習時間・復習時間を考慮し、1日2科目(4単位)×週6日として、1セメスターあたり24単位としている。但し、卒業要件には含まれない自由履修科目については、24単位には含めてはいない。この自由履修科目は、教員免許状取得に関わる科目の“高年次”に開講される科目であり、低年次から継続する計画的な学修により、卒業要件と資格取得に必要な科目は段階的に満たしていく。したがって、24単位を超える単位の履修は可能ではあるが、履修モデルや個別指導により、予習時間・復習時間を含めた学修時間の確保を行うことが可能である。

6) 他大学における授業科目の履修について

他大学における授業科目の履修については、予習時間・授業時間・復習時間を考慮して事前申請を行い、在学、休学にかかわらず、許可した場合についてのみ、その学習成果を確認した後、本学の科目として単位を認定している。なお、単位認定の上限については、本学の1セメスターあたりの上限である24単位とし、入学前・入学後の単位認定を含めて60単位を上限としている。

⑦ 施設・設備等の整備計画

ア 校地、運動場の整備計画

文化社会学部は、神奈川県平塚市に所在する湘南校舎に設置される。

湘南校舎の校地面積は532,761.20㎡、完成年度における湘南校舎の学部の最大受入定員は18,363人であり、大学設置基準の必要校地面積を十分満たしている。また、総合グラウンドをはじめ複数の運動場やカフェテラスなどの学生厚生施設が既に整

えられているため、新たな校地、運動場の整備計画はない。

イ 校舎等施設の整備計画

文化社会学部は、既設の文学部の一部学科を基礎に設置される。

既設の文学部は、現在、湘南校舎の 3 号館において専任教員研究室やコンピュータ室、14 号館において授業を実施する教室、4 号館及び 11 号館において図書館を専用・共用として確保・利用している。

校地・校舎等の図面が示す通り、文化社会学部開設後も、引き続き現状の施設・設備を確保・利用することから、教育研究上の必要性を満たすものである。したがって、校舎等施設の新たな整備計画はない。

ウ 図書等の資料及び図書館の整備計画

1) 図書等の整備について

文化社会学部が設置される湘南校舎には、複数の図書館分館があり、文化社会学部の学生は、文系の専門図書を有する 4 号館及び 11 号館図書館分館を主に利用する。

文化社会学部の学問領域に関わる図書資料として、図書 1,387,400 冊を所蔵しており、文化社会学部設置後も、引き続き開講科目及び周辺学問領域に関わる図書資料を幅広く収集し、充実させる予定である。

2) 学術雑誌の整備について

学術雑誌については、プリント版ジャーナルと電子ジャーナルの 2 形態を整備する。「学術雑誌一覧」(資料 3) の通り、文化社会学部の各学科に関して、多数の学術雑誌を所蔵しており教育研究に支障はない。

3) オンライン・文献データベース及びその他の電子媒体の整備について

オンライン・文献データベースは既に整備されており、学内の図書館をはじめ各施設、研究室、一部は学外から“SSL-VPN”を利用して 24 時間検索を実現している。

4) 図書館の施設整備について

文化社会学部の学生が主に利用する図書館分館について、4 号館図書館分館の面積は 3,816 m²、席数は 931 席、11 号館図書館分館の面積は 3,535 m²、席数は 509 席であり、教育研究に支障はないため、新たな整備計画はない。

5) 他大学図書館との協力について

他大学図書館との連携について、本学は、私立大学図書館協会に加盟し、図書の相互貸借・文献の複写依頼のやり取りを中心に相互利用を積極的に展開している。

また、国・公立大学並びに外部機関とも私立大学と変わらない連携・交流関係

を確立している。その実績を生かし国立情報学研究所 NACSIS - ILL の ILL 文献複写等料金相殺サービスにも参画し、充実した相互協力を展開している。

神奈川県内では神奈川県図書館協会に加盟し、その下部組織である大学図書館協力委員会に参画し、県内の大学・短期大学図書館と共通閲覧証による館内における閲覧及び文献複写を原則とする相互利用により、活発な協力活動を展開している。今後は、同協会加盟の公共図書館、専門図書館と館種を超えた幅広い相互協力活動の展開への可能性も高まり、活発な協力活動を展開する計画である。

⑧ 入学者選抜の概要

1) アドミッション・ポリシーについて

文化社会学部では、以下のアドミッション・ポリシーを定めている。

【文化社会学部アジア学科】

多様性に満ち、グローバル化のなか急速な変化を遂げているアジアについて学識を深めることで、異文化に向き合い中長期的な展望をもって現代のさまざまな課題に取り組み 国際社会、地域社会に貢献できる人材を養成します。歴史、文化、社会など多角的な視点 によるアジアへのアプローチと言語を中心としたコミュニケーションを基礎とし、異なる価値観の人びととの相互理解と共生に積極的に寄与していく力の育成を教育目標としている。

この教育目標を理解し、その目標を達成するために自ら学ぶ意欲を持った人材を求める。

【文化社会学部ヨーロッパ・アメリカ学科】

西洋世界について古代から現代までの包括的な理解を深め、さらに「文学・芸術」「宗教・思想」「歴史・社会」という多角的な視点からの学びを通じて、第一に、変動する世界情勢のなかでも揺るがない洞察力を持ち、新たな文明を創成するエネルギーに溢れた人材を養成します。第二に、多様性を尊び、共生を志向する精神をもって未来を切り開き、暮らしを豊かにする知恵をもつ人材を養成することを教育目標としている。この教育目標を理解し、その目標を達成するために自ら学ぶ意欲を持った人材を求める。

【文化社会学部北欧学科】

「共生社会の構築に貢献できる自立した人材の育成」という目的へ向け、(1) 北欧社会の先進的な取り組みや文化について学ぶことで広い視野と柔軟な発想力を備え、多様な価値観を受容することのできる人材、(2) 言語学習や留学・海外研修などを通じて自らの考えを発信する力を高めた人材、(3) 日本という視点から北欧を研究することで批判的考察力を身につけた人材、(4) 自己と社会との関わり方や自立した生き方を主体的に構想し、日本社会が抱える課題の克服に積極的に取り組むことのできる人材を育成することを教育目標としている。この教育

目標を理解し、その目標を達成するために自ら学ぶ意欲を持った人材を求める。

【文化社会学部文芸創作学科】

文芸の創作と批評を通じ、(1) 現代社会で通用する正確な言葉によって論理的かつクリエイティブに個々の感性と経験を表現する力、(2) 人間と世界に関する情報や事象を柔軟かつクリティカルに読み取り、的確に分析し、本質を洞察する力、(3) 広く諸芸術を鑑賞して培った教養を未来に向かって総合的に生かしてゆく力、という三つの力を備えた人材を養成することを教育目標としている。この教育目標を理解し、その目標を達成するために自ら学ぶ意欲を持った人を求める。

【文化社会学部広報メディア学科】

単なる技術の習得にとどまらず、メディアに関する理論的・歴史的・制度的な研究成果を土台としつつ、混沌としたメディアシーンに対応できる人材、社会的価値のあるメッセージを創造・発信できる人材、メディアや企業・行政の広報・広告部門で活躍できる人材を育成することです。そのために、多様な人々に向けて、適切なメッセージを送り、良好な関係を築きながら目的に応じてメディアを利用・活用し、メッセージの社会的価値を高める力を養うことを教育目標としている。この教育目標を理解し、その目標を達成するために自ら学ぶ意欲を持った人を求める。

【文化社会学部心理・社会学科】

心理学・社会心理学・社会学の学び、そして組織された実験やフィールド実習を通じて、人間関係の充実に必要な社会的スキルである“コミュニケーション能力”と社会的な課題や問題に対して具体的な解決策や行動計画を提案できる“社会的構想力”を育成する。この2つの能力を基礎にして、人の心を安定に導く技法と、人と人または人と地域をつなぐ主導性を養成することを教育目標とする。この教育目標を理解し、その目標を達成するために自ら学ぶ意欲を持った人材を求める。

2) 入試選抜の方法・体制について

選抜方法として、以下の入学試験を実施する予定である。

- ・アドミッションズオフィス入学試験として、学科課題型（学科が課題を課した内容を課題発表と面接（口述試験を含む）及び書類審査によって選考）等を実施する。
- ・附属推薦入学試験（対象：全国の東海大学附属高等学校）を実施する。
- ・指定校推薦入学試験（大学が高等学校を指定し一定の枠内で入学試験を行う）を実施する。
- ・公募制推薦入学試験（学校長が推薦した者）を実施する。
- ・大学入試センター試験利用入学試験（前期と後期）を実施する。なお、実施については、別途、文部科学省及び大学入試センターへの手続きを行う予定である。

る。

- ・一般入学試験として、一般入学試験A方式（受験日自由選択）と一般入学試験B方式（複数学科併願可能）を実施する。
- ・留学生入学試験は一般入学試験と推薦入学試験を実施する。

なお、募集定員の割合は、概ね、推薦入学試験系 30%、一般入学試験系 70%とする予定である。

入学試験における判定は、入試判定委員会によって実施される。入試判定委員会は、学長を委員長、副学長、当該学部長、入学センター所長を副委員長とし、該当する学部等の主任、教学部長、事務部長等により構成される。

⑨ 取得可能な資格

文化社会学部では、以下の学科において、卒業要件に含まれる科目に加え、教職関連科目を修得することで、国家資格である教育職員免許状の取得が可能となる予定である。

【文化社会学部アジア学科】【文化社会学部ヨーロッパ・アメリカ学科】

中学校教諭一種免許状（社会）

高等学校教諭一種免許状（地理歴史）

【文化社会学部広報メディア学科】【文化社会学部心理・社会学科】

中学校教諭一種免許状（社会）

高等学校教諭一種免許状（公民）

⑩ 実習の具体的計画

教育職員免許状の取得に係る「教育実習」の計画は以下の通りである。

ア 実習先の確保の状況

文化社会学部が設置される東海大学湘南校舎（神奈川県平塚市）の近隣の平塚市教育委員会及び秦野市教育委員会より、教育実習の受入れ承諾をいただいている（資料 4）。

イ 実習先との契約内容

実習の契約が必要な場合は単年度ごとに交わすこととし、契約に際しては、実習に関する大学側の責任と実習校の責任をそれぞれ明確にする。

ウ 実習水準の確保の方策

実習担当教員と実習校の指導教員との打合せによる指導に加え、実習校における事前ガイダンスで指示された担当予定の授業内容の事前指導、実習担

当教員による実習校での研究授業の参観と事後指導を行うことで、実習生に対する指導の充実を図り、実習水準の確保につなげる。

エ 実習先との連携体制

教育実習に係る平塚市教育委員会及び秦野市教育委員会との連絡調整等を行うため、当該年度の実習がすべて終了した後に、平塚市教育委員会・秦野市教育委員会と東海大学による教育実習報告会を開催する。当該年度の実習を踏まえ、その成果や課題について意見交換を行うほか、次年度の実習に向けて情報交換を行うことで、緊密な連携体制を構築している。

オ 実習前の準備状況

大学が取りまとめて保険に加入しており、万一、実習実施中に事故が起きた場合には、必要かつ適切な処置を講じる。

カ 事前・事後における指導計画

事前指導においては、実習生に対し、中学校・高等学校管理職又は管理職経験者等による教育実習への指導・助言や教育実習の事例研究、指導主事等による教科指導や指導計画に関する解説を行う。

事後指導においては、実習生による、「教育実習記録簿」等に基づく教育実習の振り返りや教育実習の成果を踏まえた教材研究・指導案の再検討・グループ討議を踏まえ、教科担当教員等による講評、指導・助言等を行う。

キ 教員及び助手の配置並びに巡回指導計画

実習担当教員による実習校研究授業の参観時に指導を行う。

実習校研究授業担当者は、教職課程を置く各学部の教員で構成しており、教員の授業実施に支障が出ない体制とする。

ク 実習施設における指導者の配置計画

実習校は、教育実習を行う教科に応じ、担当教諭を配置して指導を行っている。

ケ 成績評価体制及び単位認定方法

事前指導・事後指導、「教育実習記録簿」「教育実習生成績評価表」を総合して成績評価を行う。

⑪ 管理運営

文化社会学部の管理運営は基本的には文化社会学部教授会によってなされる。教授会は「東海大学学部教授会規程」に従い、通常、月 1 回開催され、その構成員は教授、准教授、講師及び助教であるが、必要に応じてその他の教職員を加えることができる。

教授会は学部長がこれを招集し、その議長となるが、このとき構成員の3分の2以上の出席がなければ成立しない。また、その議決は、出席人員の過半数の賛成を要する。

なお、教授会では次のことを審議することで実際の学部運営を行っている。

- (1) 研究及び教育に関する事項
- (2) 学生の入学，卒業，学位の授与に関する事項
- (3) 学生の学籍異動に関する事項
- (4) 教務及び学生生活に関する事項
- (5) その他必要と認められる事項

文化社会学部には、教育・研究及び管理運営の質的向上を図るために必要な事項の検討・点検・評価活動に関する「評価委員会」、教務事項に関する「教務委員会」、FD活動の推進に関する「FD委員会」、広報活動の充実に係る「広報委員会」が設置され、これら委員会は、学部長及び教授会との連携と機能分担がなされる。

⑫ 自己点検・評価

東海大学は、学長の諮問機関として東海大学評価委員会が設置され、大学の自己点検・評価を行いながら、その結果に基づいて各種教学改革の提言を行っている。

各学部には、学部評価委員会が設置されており、ここで自己点検・評価を行うことになる。東海大学で実施している自己点検・評価活動は、機関点検・評価と教員個人の総合的業績評価に大別することができる。

1) 機関点検・評価

機関点検・評価は、学部・研究科等を単位として、各教育機関が、東海大学全体の中期目標・計画に沿って、学部・研究科の中期目標・計画を立て、ミッション・シェアリング・シート（5年計画で学部・研究科の教育研究改革、改善の目標と手段を明記した書類）に記載することから始まる。

このミッション・シェアリング・シート記載項目の達成度や問題点について、各学部・研究科が毎年度末に自己点検・評価を行った後、学部・研究科の相互評価に付され、さらに大学評価委員会によって最終的な評価が行われて学長に報告される。

また別途、大学基準協会が定めた点検・評価項目に従った自己点検評価報告書も作成している。

学長は、これに基づいて、翌年の改革改善を指揮する流れが作られている。

2) 教員個人の総合的業績評価

本学では、教員個人が、その活動状況についてWebを利用して登録することが定められており、登録された活動状況について、総合的業績評価システムによって評価を行う。主たる評価項目は、①研究活動、②教育活動、③学内外活動の3項目である。

研究活動については論文・著書の執筆、学会等発表状況を、教育活動については学部における教育活動、学内外活動については各種の学内運営業務の担当状況、学外における学会活動、審議会等学外の委員受託、地域貢献活動などが評価対象となる。これらは、教員の所属学部で毎年総合評価を受ける。

3) 認証評価及び大学全体の自己点検・評価

東海大学は、学部・大学院について、平成22（2010）年度に財団法人大学基準協会による認証評価を受審し、「適合」の判定を得た。次回の認証評価は、平成29（2017）年度が予定されている。

このような認証評価とともに、東海大学は、大学全体の自己・点検評価を、前記1）及び2）などを取り入れながら毎年度実施しており、毎年度「教育研究年報」を大学のオフィシャルホームページに掲載して公表している。

⑬ 情報の公表

本学は、「学校教育法施行規則」（平成23年4月1日施行）に基づき、以下の通り、各学部及び大学院各研究科における教育研究活動等の状況について、本学のオフィシャルサイトにより、広く社会に向けて開示している。

ア 大学の教育研究上の目的に関すること

本学では、大学院、学部における教育研究上の目的を、それぞれ各学則に定めており、オフィシャルサイトの＜大学概要＞において、「学則」の条文中の別表として公表している。

【オフィシャルサイト】<http://www.u-tokai.ac.jp>

「教育研究上の目的」：トップ＞大学案内＞学則

イ 教育研究上の基本組織に関すること

本学の教育研究上の基本組織については、オフィシャルサイト＜大学案内＞＜東海大学について＞において、「教育・研究組織」として、各事務部門の組織名称と併せて学部及び研究科の名称を公表している。なお、学部・学科及び研究科・専攻の名称については、オフィシャルサイトの＜学部・大学院＞において公表している。

【オフィシャルサイト】<http://www.u-tokai.ac.jp>

「教育・研究組織」の名称：トップ＞大学案内＞教育・研究組織

「学部・学科」「研究科・専攻」の名称：トップ＞学部・大学院

ウ 教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

本学においては、昭和59年度より、年度ごとの教育研究活動の客観的事実を広く社会に報告することを目的に「東海大学教育研究年報」を年1回編集・発行しており、その中で教員組織に関する情報も公表してきている。教育研究年

報がオフィシャルサイトトップページの＜取り組み＞において、「教育研究年報」として閲覧できるようになっており、専任教員数及び専任教員の年齢構成については、オフィシャルサイトトップページの＜大学案内＞＜東海大学について＞において、「教職員数」として公表している。

また、各教員が有する学位及び業績に関する情報については、オフィシャルサイトトップページの＜学部・大学院＞のページにおいて、各学部・学科及び研究科・専攻のトップページの「教員紹介」として公表している。なお、各教員の研究活動情報については、オフィシャルサイトトップページの＜研究・産官学連携＞において、研究活動・ライセンス検索（教員研究活動情報の検索）から検索ができるようになっている。

【オフィシャルサイト】 <http://www.u-tokai.ac.jp>

「教員組織等」：トップ＞取り組み＞教育研究活動＞教育研究年報

「教職員数、教員年齢構成」：トップ＞大学案内＞東海大学について＞教職員数

「教員が有する学位及び業績」：トップ＞学部・大学院＞学科トップ＞教員紹介

「教員研究活動情報」：トップ＞研究・産官学連携＞研究活動・ライセンス検索
＞教員研究活動情報の検索

エ 入学者に関する受入方針及び入学者の数，収容定員及び在学する学生の数，卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

入学者に関する受入方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数については、オフィシャルサイトトップページの＜大学概要＞東海大学について＞において、「学生数」として公表している。また、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況については、オフィシャルサイトトップページの＜キャリア・就職＞において、「各種データ」として公表している。

また、本学では、「就職指導も教育の一環」という理念に基づいて、全学的な就職支援体制を構築している。

【オフィシャルサイト】 <http://www.u-tokai.ac.jp>

「入学者に関する受入方針」

トップ＞大学案内＞理念・歴史＞理念・憲章＞アドミッション・ポリシー

「入学者の数、収容定員及び在学する学生の数」

トップ＞大学案内＞東海大学について＞学生数

「卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況」

トップ＞キャリア・就職＞各種データ

オ 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

本学では、授業の概要情報と、授業の基本・詳細情報を合わせてシラバスと称し、シラバスデータベースシステムは、授業内容や授業計画を網羅したシステムとなっている。学生の授業選択を強力にサポートする豊富な検索機能と、学習を進める上で有効となる最新の情報を提供しており、オフィシャルサイトトップページの＜学部・学科＞及び＜大学院＞の各学部・研究科のトップページにおいて「シラバス」として公表している。

【オフィシャルサイト】 <http://www.u-tokai.ac.jp>

「学部」のシラバス：トップ＞学部・大学院＞各学部トップ＞シラバス

「大学院」のシラバス：トップ＞学部・大学院＞各研究科トップ＞シラバス

カ 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

学修の成果に係る評価等、大学設置基準等において、学生に明示することとされている事項については、オフィシャルサイトトップページの＜学部・学科＞及び＜大学院＞のページにおいて、各学部・学科及び研究科・専攻のトップページの「カリキュラム」として公表している。

【オフィシャルサイト】 <http://www.u-tokai.ac.jp>

「学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準（学部・学科）」
トップ＞学部・大学院＞各学科トップ＞カリキュラム

「学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準（研究科・専攻）」
トップ＞学部・大学院＞各専攻トップ＞カリキュラム

キ 校地・校舎などの施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

校地・校舎等の施設等については、オフィシャルサイトトップページの＜大学概要＞において、「キャンパス案内」として、その概要をキャンパスごとに公表している。

【オフィシャルサイト】 <http://www.u-tokai.ac.jp>

「学生の教育研究環境等」：トップ＞大学案内＞キャンパス案内

ク 授業料、入学料その他の大学が徴収する費用に関すること

授業料等については、オフィシャルサイトトップページの＜大学案内＞において、「学部学科学費」及び「大学院学費」として公表している。

【オフィシャルサイト】 <http://www.u-tokai.ac.jp>

「授業料、入学料その他の大学が徴収する費用」
トップ＞大学案内＞学部学科学費、大学院学費

ケ 大学が行う学生の修学，進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

大学が行う学生の各種支援に関することについては、オフィシャルサイトトップページの＜学生生活＞及び＜就職＞において、それぞれ公表している。また、教育支援センターでは、東海大学が進めている教育改革を推進するために、すべての学生の目線に立ち、全学の組織的な教育改善計画（Faculty Development）を開発し、教育の質と教育力の向上を支援しており、大学のオフィシャルサイトとは別に教育支援センターサイトを開設し、その取り組みを公表している。

さらに、健康推進センターでは、病気の早期発見や健康の保持増進に努め、学生及び教職員が心身ともに健康で快適なキャンパスライフを送れるようサポートし、オフィシャルサイトでその取り組みを公表している。

【オフィシャルサイト】 <http://www.u-tokai.ac.jp>

「修学支援」：トップ＞学生生活＞教育サポート、学生生活サポート

「進路選択支援」：トップ＞キャリア・就職

「心身の健康等に係る支援」：トップ＞大学案内＞組織紹介＞関連機関・施設＞健康推進センター

【教育支援センターサイト】 <http://www.esc.u-tokai.ac.jp>

【健康推進センターサイト】 <http://www.tsc.u-tokai.ac.jp/pubhome/hokenc>

コ その他（教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報，学則等各種規程，設置認可申請書，設置届出書，設置計画履行状況等報告書，自己点検・評価報告書，認定評価の結果 等）

本学における「アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）」、「カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施の方針）」、「ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）」については、オフィシャルサイトトップページの＜大学案内＞において、「理念・憲章」として掲載している。

学則については、オフィシャルサイトトップページの＜大学案内＞＜理念・歴史＞において、「学則」として、東海大学大学院学則、東海大学学則、東海大学専門職大学院学則を、それぞれ掲載している。

設置届出書及び設置計画履行状況報告書については、オフィシャルサイトトップページの＜情報の公表＞において掲載している。

本学における自己点検評価活動、及び平成 22 年度に受審した第三者評価の結果については、オフィシャルサイトトップページの＜取り組み＞＜教育研究活動＞において、「自己点検評価」として掲載している。

⑭ 教育内容等の改善のための組織的な研修等

文化社会学部では、主専攻科目において授業アンケートを実施し、学生の理解度、講義形態に対する意見、学生・教員間のコミュニケーションの評価、などの意見を学

期毎に集め、次の講義にどのように改良していくのかについて、シラバスにおいても記載し、授業内容及び方法の改善について PDCA のサイクルを実施する。

また、FD 委員会を組織し、学士課程教育内容の改善を目標とした活動を実施する。活動内容は、多様な学修歴をもつ新生に対応するため初年次開講の専門基礎科目について、学生の履修履歴や学力実態に即した授業内容の組織的改善を行なうとともに、大学生生活全般への導入、学部・学科に関する理解を深め専門分野への勉学の意欲を高めるための初年次をターゲットとした FD 研究会を実施する。更に FD 委員会では、授業公開を促進させ、授業の内容について、幅広く他の教員からの意見を聞き、以降の講義へ反映させる試みを継続的に行う。また、FD の講演会を定期的に行い、多様な学生の気質の理解や、個々の教科における学生理解度の評価手法などについて理解を深める。更に、学部において MSS (Mission Sharing Sheet) を定義し、その中に授業内容・方法の改善に向けた個々の試みを登録し、学期毎にチェックすることにより、PDCA サイクルを実現する。

なお、東海大学は、組織的・継続的な F D 活動を推進する部署として、東海大学教育支援センターを設置している。

教育支援センターでは、各年度に複数回、教育活動の活性化を図ることを目的に、学外から講師を招き、全学共通の内容を盛り込んだ「F D ・ S D 研修会」を開催している。この研修会において、教員だけでなく、事務職員や技術職員などの大学職員を対象とした、管理運営や教育・研究支援までを含めた資質向上のための組織的な研修を実施している。

⑮ 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制

1) 教育課程内の取組について

本学においては、現代市民として身に付けるべき教養を修得するための方策として「パブリック・アチーブメント型教育」の導入を掲げている。「パブリック・アチーブメント」とは、米国では、立場や状況の異なる市民が社会で共存するためのルールを作り、環境整備を行う中で、若者が社会活動を通して民主社会における市民性を獲得していくための実践及びそのための組織と学習プログラムを意味している。日本という成熟した社会における若者の自己中心主義・政治的無関心・無気力感を克服し、「地域」の課題への取り組みをテーマとする科目を教養科目に開設し、ここで育てた問題意識や目的意識のもと専門教育へと展開し、教養教育と専門教育の融合・発展と、その相乗効果による教育効果の向上を行うことにより、社会的・職業的自立を目指している。

本学部では、上記のパブリック・アチーブメント型教育を中心とする教養科目を「人・社会・自然の共生に立脚した社会生活の基盤の構築に寄与できる人材」育成の基礎にあたる教育と位置づけ、主専攻科目（専門科目）の授業方法にもパブリック・アチーブメント型教育の特長である「課題を発見し、解決策を考え、実践する」仕組みを取り入れることで、社会的・職業的自立につながる学びを展開していく。アジア学科では、「アジア研究プロジェクト A・B」や「アジア海外研修」等の科目

によって、グローバル化が進展するなか多様性に満ちあふれたアジアを舞台に＜行動していく力＞を養う。

ヨーロッパ・アメリカ学科では、「ヨーロッパ・アメリカ特殊講義 A・B・C・D」や、「ヨーロッパ・アメリカ実地研修」等の科目によって、自分なりに高めた学知を他者に伝える能力を磨く。

北欧学科では、「北欧入門セミナー」や「北欧セミナーA・B」等の科目によって、学生自らが問題を発見し、解決する力を養う。また、「北欧現地研修」で自ら北欧を訪問し体験することで、教室では学べない多くのことを吸収する。

文芸創作学科では、「ストーリーを発見する」「文芸創作入門ワークショップ」「編集ワークショップ」「演劇ワークショップ」等の科目において、ディスカッションや対話を通じて、自らの思考を磨き、他者へ伝える力を養う。

広報メディア学科では、「映像制作」「出版文化史演習」「広告デザイン企画」「プロデューサー実践」等の制作・実践系科目によって、メディアや広報を担う人材に求められる職業観を培っていく。

心理・社会学科では、「プロジェクト演習 1・2」にアクティブラーニングの手法を取り入れ、学生が自ら課題を発見し、解決策を考える力を養う。また、「臨床ボランティア演習 1・2」によって、心理学系の専門的職業人に求められる職業観を培っていく。

2) 教育課程外の実践について

本学に在籍している学生全てに門戸が開かれているチャレンジセンターの「チャレンジプロジェクト」により、本学が実践している4つの力「自ら考える力・集い力・挑み力・成し遂げ力」を身に付ける活動を行っている。これは、学生が活動を企画・運営し、目標の達成を目指す課外活動であり、地域活性化、ボランティア等多様な活動を学生自身の手で展開している。

3) 適切な体制の整備について

教育課程については、東海大学教育審議会を柱として、パブリック・アチーブメント型教育の方向性を定め、現代教養センター・地域連携を担うT o - C o l l a b oを軸に運営を行っている。さらに、各学部・学科においては、専門科目へパブリック・アチーブメント型教育を展開している。また、教育課程外の活動についてはチャレンジセンターを中心に行っており、この双方の広がりから、地域連携を担うT o - C o l l a b oにより、実際に地域との連携する教育研究活動という形で、実践的な教育活動と学生の活動の場を維持している。

以 上

設置の趣旨等を記載した書類
文化社会学部

【資料目次】

資料 1 学校法人東海大学教職員定年規程

資料 2 履修モデル

資料 3 学術雑誌一覧

資料 4 実習施設一覧

資料 1 学校法人東海大学教職員定年規程

(制定 昭和28年 6 月 1 日)

改訂	昭和43年 4 月 1 日	昭和63年 4 月 1 日
	1991年 6 月17日	1994年 4 月 1 日
	2000年 4 月 1 日	2003年 4 月 1 日
	2004年 4 月 1 日	2006年 4 月 1 日
	2007年 4 月 1 日	2011年 4 月 1 日
	2012年 4 月 1 日	2013年 4 月 1 日
	2017 年 4 月 1 日	

第 1 条 学校法人東海大学に勤務する専任の教職員の定年は、次のとおりとする。

教員

職種	区分	身分	資 格	定年齢
教員	大学院・大学 短大・研究所等		教授	65
			准教授・講師・ 助教・助手	62
	高等学校・中等部 小学校・幼稚園	教諭・養護教諭 司書教諭	上級職 1 種・ 2 種	65
			中級職 1 種・ 2 種	62
			一般職 1 種	62
		助教諭	一般職 2 種	60
	2004 年 4 月 1 日以 後の採用者	教諭・養護教諭 司書教諭	一般職 1 種	60

職能資格制度を適用する職員

職種	区分	身分	資格	定年齢
職員	事務		参与・副参与 参事・副参事	65
			主事・副主事	62
			主査・職員一級 職員二級	60
	技術		主席技師・主任技師 技師	65
			技師補・上級技術員	62
			一級技術員・技術員 初級技術員	60
	看護		1 等級～ 4 等級	65
			5 等級～ 7 等級	62
			8 等級以下	60

	保健		主席保健技術員・副主席保健技術員・主任保健技術員	65
			上級保健技術員一・上級保健技術員二	62
			中級保健技術員・保健技術員・初級保健技術員	60

職能資格制度を適用しない職員

職種	区分	身分	資格	定年齢
職員	船舶		船長・機関長	65
			一等航海士，一等機関士，通信長，事務長，次席一等航海士，次席一等機関士，二等航海士，二等機関士，次席二等航海士，次席二等機関士，三等航海士，三等機関士，次席三等航海士，次席三等機関士，小型舟艇船長，小型舟艇機関長，小型舟艇甲板長，甲板長，操機長，司厨長	62
			操舵手，操機手，調理手，甲板員，機関員，司厨員	60
	その他		課長職以上の管理職	65
			上記以外の役職	62
			上記以外の職員	60

第2条 定年による退職は，定年に達した日の属する年度末日とする。

第3条 定年令の計算は，「年令計算ニ関スル法律」及び「民法」第143条による。ただし，2000年3月31日までに採用された教職員についてはこれを適用しない。

第4条 教育上又は経営上必要と認めた者については，第1条の規定を適用しない。

第5条 「高年齢者等の雇用の安定等に関する法律」により定年退職後に継続雇用する場合は，「学校法人東海大学大学・短大非常勤教員規程」，「学校法人東海大学初等中等教育機関非常勤講師規程」及び「学校法人東海大学臨時職員規程」を適用する。なお，継続雇用における条件については，「学校法人東海大学高齢者継続雇用運用細則」による。

付 則

- 1 この規程は，昭和28年6月1日から施行する。
- 2 この規程の施行にあたって必要な細則については，別に定める。

付 則（2017年4月1日）

この規程は，2017年4月1日から施行する。

資料2-1 履修モデル（文化社会学部アジア学科）

科目区分	1 年次				2 年次				3 年次				4 年次			
	春学期		秋学期		春学期		秋学期		春学期		秋学期		春学期		秋学期	
	授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数
I 現代文明論					現代文明論	2										
II 現代教養科目	自然科学	2	人文科学	2												
	地域理解	1	社会科学	2												
	国際理解	1	シティズンシップ	1												
	生涯スポーツ理論実習	1	ボランティア	1												
			健康・フィットネス理論実習	1												
III 英語科目	英語リーディング＆ライティング	2	英語リスニング＆スピーキング	2	グローバルスキル	2	アカデミック英語	2								
IV 主専攻科目	アジア研究入門	2	アジアの学び方 2	2	アジアの学び方 3	2	東アジア近現代史	2	黄河・長江文明	4	アジア文明交流史	2	アジアの思想と宗教A	2	アジア文明研究B	2
	アジアの学び方 1	2	文物に学ぶアジア	2	東洋史概説	4	東南アジア史	4	国際社会のなかのアジア	4	アジア文明研究A	2	アジアの芸術B	2	アジアの思想と宗教B	2
	東アジア概論	2	南アジア概論	2	ユーラシア史	2	アジアの世界遺産	2	日本とアジア	2	アジアの芸術A	2	現代中国論	2	現代コリア論	2
	東南アジア概論	2	西アジア概論	2	アジア海外研修	4	アジア文化理解A	2	現代アジアの課題A	2	現代東南アジア論	2	卒業論文 1	4	卒業論文 2	4
	ことばの世界	2	文章表現法	2			アジア言語A	2	アジア研究特別演習B	2	アジア文化理解B	2				
							アジア研究特別演習A	2	アジア研究特別演習C	2	現代アジアの課題B	2				
							アジア研究プロジェクトA	2	アジア研究セミナー 1	2	アジア研究特別演習D	2				
											アジア研究セミナー 2	2				
単位数合計		17		19		16		18		18		16		10		10

資料2-2 履修モデル（文化社会学部ヨーロッパ・アメリカ学科）

科目区分	1 年次				2 年次				3 年次				4 年次			
	春学期		秋学期		春学期		秋学期		春学期		秋学期		春学期		秋学期	
	授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数
I 現代文明論					現代文明論	2										
II 現代教養科目	人文学科	2	自然科学	2												
	社会科学	2	地域理解	1												
	シティズンシップ	1	国際理解	1												
	ボランティア	1	健康・フィットネス理論実習	1												
	生涯スポーツ理論実習	1														
III 英語科目	英語リーディング＆ライティング	2	英語リスニング＆スピーキング	2	グローバルスキル	2	アカデミック英語	2								
IV 主専攻科目	入門ゼミナール1	2	入門ゼミナール2	2	中世・ルネサンス論	2	原典を読む	2	スポーツ文化研究	2	ギリシア・ローマの神話	4	キリスト教文化	4	ヨーロッパ芸術論B	4
	ヨーロッパ・アメリカ概論	2	西ヨーロッパ地域研究B	2	ギリシア・ローマ思想	2	比較文化論B	2	ギリシア・ローマの世界A	4	ヨーロッパ民族問題	4	ヨーロッパの戦争と文明	4	ヨーロッパ近代哲学	4
	地中海地域研究A	2	アメリカ地域研究B	2	キリスト教入門	2	西洋文学の世界B	4	ヨーロッパ芸術論A	4	マイノリティと社会	4	ヨーロッパ・アメリカ特殊講義A	2	ヨーロッパ・アメリカ特殊講義C	2
	東ヨーロッパ地域研究A	2	ヨーロッパの都市と文化A	2	ヨーロッパとアメリカ	2	現代文化論	4	アメリカ文化の諸相	4	基礎ゼミナール2	2	卒業論文1	4	卒業論文2	4
			日本とヨーロッパ	2	ヨーロッパ・アメリカ実地研修	4	知のフロンティア	2	基礎ゼミナール1	2						
単位数合計		17		17		16		16		16		14		14		14

124

資料2-3 履修モデル（文化社会学部北欧学科）

科目区分	1 年次				2 年次				3 年次				4 年次			
	春学期		秋学期		春学期		秋学期		春学期		秋学期		春学期		秋学期	
	授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数
I 現代文明論					現代文明論	2										
II 現代教養科目	人文科学	2	社会科学	2												
	自然科学	2	地域理解	1												
	シティズンシップ	1	国際理解	1												
	ボランティア	1	健康・フィットネス理論実習	1												
	生涯スポーツ理論実習	1														
III 英語科目	英語リスニング&スピーキング	2	英語リーディング&ライティング	2	アカデミック英語	2	グローバルスキル	2								
IV 主専攻科目	北欧入門セミナー	2	スウェーデン史	2	北欧史概説	4	デンマーク史	2	北欧の教育と学び	2	現代北欧社会論	2	北欧の福祉政策	2	北欧語研究セミナーB	2
	スウェーデン概論	2	フィンランド史	2	北欧の福祉概説	2	ノルウェー史	2	北欧の環境政策	2	北欧児童文学研究	2	アイスランドのことばと文化	2	卒業研究B	4
	フィンランド概論	2	北欧ジェンダー論入門	2	北欧の自然と環境	2	北欧児童文学入門	2	北欧文学の探究	2	北欧語特講B	4	北欧語研究セミナーA	2		
	デンマーク概論	2	多文化社会としての北欧	2	北欧文化論	2	北欧の女性と社会	2	北欧語特講A	4	北欧セミナーB	2	卒業研究A	4		
	ノルウェー概論	2	北欧の神話	2	北欧のこどもと文化	2	北欧における多文化共生	2	北欧セミナーA	2						
	北欧の思想とアイデンティティ	2	フィンランド語講読1	4	北欧文学の世界	2	フィンランド語表現演習	4	北欧現地研修	2						
	フィンランド語入門	2			フィンランド語講読2	4			北欧現地研修事前演習	2						
単位数合計		23		21		22		16		16		10		10		6
																124

資料2-4 履修モデル（文化社会学部文芸創作学科）

科目区分	1 年次				2 年次				3 年次				4 年次				
	春学期		秋学期		春学期		秋学期		春学期		秋学期		春学期		秋学期		
	授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数	
I 現代文明論					現代文明論	2											
II 現代教養科目	人文科学	2	社会科学	2													
	自然科学	2	地域理解	1													
	シティズンシップ	1	国際理解	1													
	ボランティア	1	生涯スポーツ理論実習	1													
	健康・フィットネス理論実習	1															
III 英語科目	英語リーディング&ライティング	2	英語リスニング&スピーキング	2	グローバルスキル	2	アカデミック英語	2									
IV 主専攻科目	ストーリーを発見する	2	文芸批評入門	4	世界の文学を読むB	4	日本の古典ワークショップ	4	演劇ワークショップ	2	クリエイティブ・ライティング2	2	明治の文学～私の誕生	4	文学精読	2	
	文芸創作入門ワークショップ	2	世界の文学を読むA	4	思春期文学とファンタジー	4	文章と表現	2	民俗学入門	2	詩をつくる／読む	2	読み換えの技法	2	リーディング・ワークショップ	4	
	文学の遠近法（創作のための文学史）	4	編集と出版	2	ノンフィクションを読む	2	現代文学のフロンティア	4	詩の技法	2	現代映画論	4	卒業制作ワークショップ2	4	卒業制作ワークショップ3	4	
	日本の古典を読む	4			サブカルチャーと文学	2	小説で読む現代社会	4	クリエイティブ・ライティング1	2	比較文学の楽しみ	4					
					編集ワークショップ	2			俳句ワークショップ	2	卒業制作ワークショップ1	4					
									文学とセクシュアリティ	2							
									童話の世界	2							
									空想の美術館	2							
単位数合計		21		17		18		16		16		16		10		10	
																	124

資料2-5 履修モデル（文化社会学部広報メディア学科）

科目区分	1 年次				2 年次				3 年次				4 年次			
	春学期		秋学期		春学期		秋学期		春学期		秋学期		春学期		秋学期	
	授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数
I 現代文明論					現代文明論	2										
II 現代教養科目	社会科学	2	人文科学	2												
	自然科学	2	シティズンシップ	1												
	地域理解	1	ボランティア	1												
	国際理解	1	生涯スポーツ理論実習	1												
	健康・フィットネス理論実習	1														
III 英語科目	英語リスニング&スピーキング	2	英語リーディング&ライティング	2	アカデミック英語	2	グローバルスキル	2								
IV 主専攻科目	広報メディア基礎演習	2	放送論	4	コンテンツ分析論	4	映像制作	4	グローバル化とメディア	4	メディア文化と歴史	4	プロデューサー実践	4	マスコミ文章表現	4
	新聞・出版論	4	マス・コミュニケーション史	4	女性とメディア	4	新聞報道論	4	広告デザイン企画	4	映像表現論	4	ゼミナールC	4	ゼミナールD	4
	広報・広告論	4	メディア産業と倫理	4	スポーツとメディア	4	WEBメディア論	4	ラジオ番組制作	4	マスコミ音声表現	4				
					行政広報論	4	雑誌編集技術	4	ゼミナールA	4	ゼミナールB	4				
単位数合計		19		19		20		18		16		16		8		8

資料2-6 履修モデル（文化社会学部心理・社会学科）

科目区分	1 年次				2 年次				3 年次				4 年次				
	春学期		秋学期		春学期		秋学期		春学期		秋学期		春学期		秋学期		
	授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数	
I 現代文明論					現代文明論	2											
II 現代教養科目	自然科学	2	人文科学	2													
	地域理解	1	社会科学	2													
	国際理解	1	シティズンシップ	1													
	健康・フィットネス理論実習	1	ボランティア	1													
			生涯スポーツ理論実習	1													
III 英語科目	英語リーディング＆ライティング	2	英語リスニング＆スピーキング	2	アカデミック英語	2	グローバルスキル	2									
IV 主専攻科目	基礎ゼミナール 1	2	現代文化論	2	基礎ゼミナール 2	2	心理・社会学研究法	2	コミュニティと社会支援	2	犯罪と非行の心理学	2	精神医学	2	脳と心	2	
	心理学概論	4	パーソナリティ論	4	統計学	2	セクシュアリティと社会	2	組織心理学	2	カウンセリング	2	心理面接実習 1	2	心理実践職能論	2	
	社会学概論	4	学習心理学	2	身体論	2	地域社会論	4	コミュニティ心理学	2	心理学研究法	2	ゼミナール 3	2	卒業論文	4	
	社会心理学概論	2	知のフロンティア	2	ジェンダー論	2	社会変動論	2	社会意識論	2	心理・社会学文章表現法	2					
					大衆行動論	2	国際社会学	2	行動分析学	2	社会福祉学	2					
					人間関係の心理	4	家族関係論	4	社会調査入門	2	心理アセスメント	2					
									プロジェクト演習 1	2	プロジェクト演習 2	2					
									心理・社会学研究A	2	心理・社会学研究B	2					
									ゼミナール 1	2	ゼミナール 2	2					
単位数合計		19		19		18		18		18		18		6		8	124

資料3 学術雑誌所蔵一覧

文化社会学部アジア学科

No.	誌名(国内雑誌)
1	アジア研究: アジア政経学会季刊 / アジア政経学会編
2	オリエント / 日本オリエント学会 [編]
3	九州大学東洋史論集 / 九州大学文学部東洋史研究会
4	文物 / 文物編輯委員会編
5	史朋 / 北海道大学文学部東洋史談話会 [編集]
6	集刊東洋学 / 東北大学中国文史哲研究会 [編]
7	西南アジア研究 / 西南アジア研究会 [編]
8	中央大学アジア史研究 / 白東史学会
9	中国文化: 研究と教育: 漢文学会会報
10	朝鮮学報 / 朝鮮學會 [編集]
11	東南アジア研究 / 京都大学東南アジア研究センター [編]
12	東南アジア: 歴史と文化 / 東南アジア史学会 [編] = Southeast Asia: history and culture / Japan Society for Southeast Asian History
13	東方學 / 東方學會 [編]
14	東方學報
15	東洋学術研究 / 東洋哲学研究所
16	東洋學報 / 東洋協會調査部 [編輯]
17	東洋研究 / 大東文化大学東洋研究所
18	東洋史苑 / 龍谷大学 [編]
19	東洋史研究 / 東洋史研究会 [編]
20	名古屋大学東洋史研究報告
21	朝鮮史研究会論文集 / 朝鮮史研究会
22	イスラム世界 / 日本イスラム協会 [編集]
23	日本モンゴル学会紀要 = Bulletin of the Japan Association for Mongolian Studies = Яп о н ы Монголч Эрдэмтний Нийгэмлэгийн Мэдээ / 日本モンゴル学会 [編]
24	中國史學 / 中國史學會
25	亜細亜研究 = The journal of Asiatic studies / 高麗大学校亜細亜問題研究所 [編輯]
26	韓國史論 / 서울大学校韓國史學會 [編輯]
27	韓國史研究 / 韓國史研究會 [編]
28	史學研究 / 韓國史學會 [編]
29	韓國上古史學報 / 韓國上古史學會 [編]
30	日本中東学会年報 = Annals of Japan Association for Middle East Studies / 日本中東学会
31	アジア・アフリカ研究 / アジア・アフリカ研究所 [編]
32	南アジア研究: JJASAS / 日本南アジア学会 [編集]
33	貴州文史叢刊 / 貴州文史丛刊编辑部
34	近代史研究
35	近代史資料
36	中央研究院歴史語言研究所集刊 / 中央研究院歴史語言研究所集刊編輯委員會 [編輯]
37	中原文物
38	复印报刊資料. K3, 中国近代史
39	复印报刊資料. K4, 中国現代史
40	中國史研究
41	敦煌學輯刊 / 敦煌學輯刊編輯部編
42	歴史研究
43	東南文化
44	中國史研究動態
45	清史研究
46	二十一世紀
47	中国边疆史地研究 = Zhongguo bianjiang shidi yanjiu
48	复印报刊資料. K21, 先秦秦汉史
49	复印报刊資料. K22, 魏晉南北朝隋唐史
50	复印报刊資料. K23, 宋辽金元史
51	复印报刊資料. K24, 明清史
52	古代ロシア研究 / 日本古代ロシア研究会 [編]
53	西アジア考古学 = Journal of West Asian archaeology / 日本西アジア考古学会 [編集]

54	湖西考古學 / 湖西考古學會.
55	한국의 고고학 : 季刊 = Korean archaeology today : a quarterly magazine
56	三國志研究
57	湖南考古學報 / 湖南考古學會 [編輯]
58	嶺南考古學 / 嶺南考古學會 [編輯]
59	中国国家博物館館刊 = Journal of National Museum of China
60	古代オリエント博物館紀要 = Bulletin of the Ancient Orient Museum / 古代オリエント博物館
61	Oriente / 古代オリエント博物館研究部編
62	アフリカ研究 / 日本アフリカ学会 [編]
63	新地理 : 日本地理教育學會會誌 / 日本地理教育学会
64	人文地理 = Human geography / 人文地理學會 [編]
65	地域研究 / 立正地理学会 [編]
66	地理 / 古今書院 [編]
67	地理科学 / 広島地理学会 [編集]
68	地理誌叢 : 日本大学地理学会機関誌 / 日本大学地理学会 [編]
69	季刊地理学 = Quarterly journal of geography / 東北地理学会 [編]
70	地図情報
71	地理學報 / 中國地理學會編輯
72	地理教学
73	地域学研究 = Regional views / 駒沢大学応用地理研究所
74	中国国家地理 = Chinese national geography
75	复印报刊资料. K9, 地理
76	地理学評論 = Geographical review of Japan / 日本地理学会 [編]
77	National geographic = ナショナルジオグラフィック
78	愛知大学国際問題研究所紀要 / 愛知大学国際問題研究所 [編]
79	イベロアメリカ研究 / 上智大学イベロアメリカ研究所
80	季刊行政管理研究 / 行政管理研究センター
81	警察學論集 / 中央警察學校
82	藝能史研究 / 藝能史研究會
83	国際関係学研究 / 津田塾大学
84	国際政治 / 日本国際政治学会編
85	政治經濟史学 / 政治經濟史学会日吉史塾 [編集]
86	前衛 : the zenei : 日本共産黨中央機關雜誌
87	東海大學紀要
88	都市政策 / 神戸都市問題研究所 [編]
89	都市問題 / 東京市政調査會 [編]
90	広島平和科学 / 広島大学平和科学研究センター
91	部落問題研究 / 部落問題研究所
92	平和研究 = Peace studies / 日本平和学会 [編]
93	広報 / 日本広報協会 [編集]
94	地方自治 / 地方自治研究會編纂
95	人事院月報 / 人事院事務総局広報局 [編]
96	選挙
97	時の法令 / 法令普及会 [編]
98	東亜
99	アジア時報 / アジア調査会
100	渋沢研究 / 渋沢研究会編集
101	亜細亜大学国際関係紀要 / 亜細亜大学国際関係学会, 亜細亜学園創立50周年記念学術論文 集編纂小委員会
102	外交史料館報 / 外務省外交史料館 [編]
103	警察白書 : 警察活動の現況 / 警察庁編
104	公務員白書 / 人事院編
105	消防白書 / 国家消防本部教養課編
106	学習院大学大学院政治学研究科政治学論集
107	自治実務セミナー / 良書普及会 [編]
108	アジア動向年報 / アジア経済研究所
109	レヴァイアサン = Leviathan
110	年報自治体学 / 自治体学会編
111	中华人民共和国国务院公报
112	中共党史研究
113	复印报刊资料. D2, 中国共产党

114	复印报刊资料. D3, 世界社会主义运动
115	廣角鏡月刊: 知識趣味勾奇 = Wide angle
116	鏡報 = The mirror
117	求是
118	紫荊 = Bauhinia
119	政治学理論集 / 明治大学大学院政治経済学研究科
120	月刊地方自治職員研修 / 公職研 [編]
121	年報政治學 / 日本政治學會編
122	中国民族 = China ethnicity
123	地方自治職員研修
124	复印报刊资料. D4, 中国政治
125	季報情報公開個人情報保護 / 行政管理研究センター [編集] = / Institute of Administrative Management
126	國家學會雜誌
127	年報行政研究 / 日本行政学会編
128	人権と部落問題 / 部落問題研究所 [編]
129	フォーリン・アフェアーズリポート = Foreign affairs report
130	地方公務員月報 / 自治省行政局公務員課
131	地域づくり: 明日をひらく地域活性化のための情報誌
132	外交 = Diplomacy
133	島嶼研究ジャーナル = The journal of islands studies / 島嶼資料センター [編]
134	青山経済論集 / 青山学院大学経済學會 [編]
135	アジア経済 / アジア経済研究所 [編]
136	愛媛経済論集 / 愛媛大学経済学会 [編]
137	學習院大学経済論集
138	企業会計
139	経営史学 / 経営史学会編集
140	経営論集 / 東洋大学経営研究所 [編]
141	経営論集 / 明治大学経営学研究所
142	慶應経営論集 / 慶應義塾経営管理学会
143	経済学季報 / 立正大学経済学研究所 [編]
144	経済研究 = Economic review / 一橋大学経済研究所編輯
145	経済集志 / 日本大学商経研究会 [編]
146	経済志林 / 法政大学経済學部會 [編]
147	経済地理学年報 / 経済地理学会 [編]
148	経済貿易研究: 研究所年報 / 神奈川大学経済貿易研究所
149	経済論集 / 東洋大学経済研究会 [編]
150	経済論叢 / 京都帝國大学法科大学 [編]
151	研究年報経済學 / 東北帝國大学経済學會 [編]
152	國學院經濟學 / 國學院大学經濟學會 [編集]
153	國民經濟雜誌 / 神戸高等商業學校商業研究所 [編]
154	金融法務事情
155	商経論集 / 早稲田大学大学院商学研究学生会 [編]
156	商経論叢 / 神奈川大学経済学会
157	人口学研究 / 日本人口学会編集
158	人口問題研究 / 厚生省人口問題研究所 [編集]
159	創価経営論集 / 創価大学経営学会
160	組織科学 = Organizational science / 組織学会 [編]
161	中央大学大学院論究
162	東亞經濟研究 / 山口大学東亞經濟研究所
163	東京大学経済学研究 / 東京大学経済学研究会編
164	週刊東洋経済
165	南山論集
166	弘前大学経済研究 / 弘前大学経済学会
167	横浜経営研究 / 横浜国立大学経営学会
168	和光経済 / 和光大学社会経済研究所
169	賃金事情 / 産業労働調査所 [編]
170	会計人コース
171	エコノミスト
172	信託 / 信託協会
173	金融・商事判例 / 経済法令研究会

174	東経大論叢 / 東京経済大学大学院経済学研究科研究会 [編]
175	公益事業研究 = Journal of public utility economics
176	會計 / 日本會計學會編纂
177	産業訓練 / 日本産業訓練協會
178	金融研究 / 日本銀行金融研究所 [編]
179	産業経理 / 産業経理協會
180	週刊ダイヤモンド / ダイヤモンド社 [編]
181	世界経済評論
182	税経通信 / 税務経理協會 [編]
183	オペレーションズ・リサーチ : 経営の科学 = [O]perations research as a management science [r]esearch
184	社會經濟史學 / 社會經濟史學會 [編]
185	経営総合科学 / 愛知大学経営総合科学研究所 [編]
186	学習院大学大学院経済学研究科・経営学研究科研究論集
187	経営論集 / 文京女子大学経営学部 [編]
188	獨協経済 / 獨協大学経済学部
189	會社四季報 / 東洋経済新報社編
190	経済系 : 関東学院大学経済学会研究論集 / 関東学院大学経済研究所
191	県民経済計算年報 / 経済企画庁経済研究所編
192	公正取引委員会年次報告 / 公正取引委員会編
193	国民経済計算年報 / 経済企画庁編 = Annual report on national accounts / Economic Planning Agency, Government of Japan
194	経済研究所年報 / 成城大学 [編]
195	千葉大学経済研究 / 千葉大学法経学部経済学科
196	中小企業白書 / 中小企業庁編
197	法政大学多摩研究報告
198	法政大学多摩論集 / 法政大学経済学部
199	学習院大学経済経営研究所年報 = GEM bulletin
200	市場史研究 / 市場史研究会
201	月刊金融ジャーナル
202	愛知大学経済論集 / 愛知大学法経学会 [編]
203	経理知識 / 明治大学経理研究所 [編]
204	国際金融 = International finance journal / 外国為替貿易研究会 [編]
205	経済科学 : Jingji kexue / 北京大学経済系《経済科学》編輯委員会 [編]
206	経済管理 = Jingji guan li
207	経済研究
208	复印报刊资料. C5, 人口学
209	江淮論壇 = Jianghuai luntan
210	人口研究 = Renkou yanjiu / 人口研究編集部 [編輯]
211	中國經濟史研究
212	中國社会經濟史研究
213	中國钱币
214	銀行法務21 / 経済法令研究会
215	経済学研究論集 / 明治大学大学院政治経済学研究科
216	経営学研究論集 / 明治大学大学院経営学研究科
217	アジア研ワールド・トレンド : 発展途上国の明日を展望する分析情報誌
218	経済セミナー : the keizai seminar / 日本評論社 [編]
219	証券経済研究 / 日本証券経済研究所 [編]
220	外資系企業の動向 / 通商産業省企業局編
221	日本EU学会年報 / 日本EU学会編
222	一橋ビジネスレビュー = Hitotsubashi business review
223	税理 / 帝国地方行政学会
224	経済財政白書 / 内閣府編
225	世界経済の潮流 / 内閣府政策統括官(経済財政-景気判断・政策分析担当) [編]
226	愛知大学経営学部愛知経営論集 = Aichi journal of business / 愛知大学法経学会
227	이코노미스트 The Weekly Economist
228	市街地価格指数 / 日本不動産研究所 [編]
229	国立社会保障・人口問題研究所年報 / National Institute of Population and Social Security Research
230	株価総覧 / 東洋経済新報社 [編]
231	週刊東洋経済. 臨時増刊, 米国会社四季報

232	Transactions of the Operations Research Society of Japan = 日本オペレーションズ・リサーチ学会和文論文誌 / 日本オペレーションズ・リサーチ学会
233	週刊東洋経済. 臨時増刊, CSR企業総覧
234	週刊東洋経済. 臨時増刊, スーパーマーケット総覧
235	週刊東洋経済. 臨時増刊, 会社財務カルテ
236	週刊東洋経済. 臨時増刊, 海外進出企業総覧. 会社別編
237	週刊東洋経済. 臨時増刊, 海外進出企業総覧. 国別編
238	週刊東洋経済. 臨時増刊, 外資系企業総覧
239	日経グローバル: 地域創造のための専門情報誌 = Nikkei global / 日本経済新聞社, 日経産業消費研究所[編]
240	応用地域学研究 = Journal of applied regional science
241	日本経済法学会年報 / 日本経済法学会編
242	日本経済 / 内閣府政策統括官室(経済財政分析担当) [編]
243	鎌倉遺文研究 / 鎌倉遺文研究会編集
244	季刊国民経済計算 = National economic accounts quarterly / 経済企画庁経済研究所国民所得部編
245	复印报刊資料. F7, 経済史
246	プレジデント = President
247	Studies in applied economics = 応用経済学研究 / 日本応用経済学会編
248	外為白書 / 外為どっとコム総合研究所 [編]
249	週刊東洋経済. 臨時増刊, 全国大型小売店総覧
250	月刊経団連 / 日本経済団体連合会 [編]
251	JMAマネジメント / 日本能率協会 [編]
252	週刊東洋経済. 臨時増刊, 地域経済総覧
253	Harvard business review : Diamondハーバード・ビジネス・レビュー
254	週刊東洋経済. 臨時増刊, 中国会社四季報
255	ロシア・ユーラシアの経済と社会 = Russian Eurasian economy & society / ユーラシア研究所
256	週刊東洋経済. 臨時増刊, 日本の企業グループ
257	東海大学経営学部紀要 = Bulletin of Business Studies, Tokai University / Tokai University
258	全国信用金庫概況・統計
259	小売物価統計調査年報
260	獨協経済研究 / 獨協大学大学院経済学研究科 [編]
261	厚生指針 / 厚生統計協会
262	季刊労働法 / 労働法学的研究所 [編]
263	社会学研究
264	明治学院大学大学院社会学研究科社会学専攻紀要 / 明治学院大学大学院社会学研究科社会学専攻 [編]
265	社会学評論 / 日本社会学会編
266	社会学論叢 / 日本大学社会学研究室 [編]
267	週刊社会保障 / 社会保険法規研究会
268	上智大学社会学論集 / 上智大学社会学科 [編]
269	ソシオロジ / 社会学研究会 [編]
270	東洋大学社会学部紀要 / 東洋大学社会学部 [編]
271	関西大学大学院人間科学: 社会学・心理学研究 / 関西大学大学院社会学研究科院生協議会 [編集]
272	労働科学: 国民の生活と勤労とに関する総合的研究 / 日本労働科学研究所 [編]
273	労働の科学 = Science of labour / 労研・労働科学研究会 [編]
274	社会福祉研究 / 鉄道弘済会弘済会館 [編]
275	南島研究 / 南島研究会
276	社会福祉学 / 日本社会福祉学会編
277	社会事業史研究 / 社会事業史研究会 [編集]
278	日本女子大学紀要
279	人間文化: 愛知学院大学人間文化研究所紀要 / 愛知学院大学人間文化研究所
280	厚生統計要覧 / 厚生省大臣官房統計調査部編
281	子ども白書 / 日本子どもを守る会編
282	社会心理学研究 = Research in social psychology
283	社会生活基本調査報告 / 総理府統計局
284	社会分析: 社会学研究年報 / 社会分析学会
285	社会保障統計年報 / 総理府社会保障制度審議会事務局編
286	日本労働年鑑 / 大原社会問題研究所編纂
287	防災白書 / 総理府編

288	労働統計要覧 / 内閣統計局
289	労務年鑑 / 日本労務研究会編
290	家族社会学研究 / 家族社会学セミナー編
291	日本労働研究雑誌 / 日本労働研究機構編
292	青少年問題 / 中央青少年問題協議会 [編]
293	The community : コミュニティ / 地域社会研究所 [編]
294	地域学研究 / 日本地域学会 [編]
295	労働経済判例速報 / 日本経営者団体連盟
296	复印报刊資料. C4, 社会学
297	社会学研究
298	貴州民族研究
299	マス・コミュニケーション研究 / 日本マス・コミュニケーション学会
300	発達障害白書 / 日本精神薄弱者福祉連盟 [編]
301	データブック国民生活時間調査 / NHK放送文化研究所 [編]
302	比較家族史研究 / 比較家族史学会 [編]
303	高齢社会白書 / 総務庁編
304	社会志林 / 法政大学社会学部学会 [編]
305	ジェンダー研究 : お茶の水女子大学ジェンダー研究センター年報 = Journal of gender studies / お茶の水女子大学ジェンダー研究センター [編集]
306	発達障害研究 / 日本精神薄弱研究協会編集
307	月刊介護保険
308	異文化交流 / 東海大学外国語教育センター異文化交流研究会 [編]
309	障害者白書 / 総理府編
310	女性白書 / 日本婦人団体連合会編
311	活用労働統計 : 生産性・賃金・物価関連統計 / 日本生産性本部労働部
312	労働経済白書 / 厚生労働省編
313	アンケート調査年鑑
314	世界の社会福祉年鑑 = Global social welfare yearbook
315	子どもの虐待とネグレクト : 日本子どもの虐待防止研究会学術雑誌 / 日本子どもの虐待防止研究会 [編]
316	高齢社会基礎資料 / エイジング総合研究センター [編著]
317	国民生活基礎調査 / 厚生省大臣官房統計情報部編
318	季刊福祉労働 : 障害者・保育・教育の総合誌 : fukushi rodo : the all-round magazine for handicapped person, childcare & education
319	安全と健康 = Industrial safety & health
320	日本労働法学会誌 / 日本労働法学会
321	世界の厚生労働 : 海外情勢報告 / 厚生労働省編
322	女性労働の分析 / 厚生労働省雇用均等・児童家庭局編
323	家計調査年報
324	ソシオロギス / ソシオロギス編集委員会
325	帝京日本文化論集 / 帝京大学日本文化学会 [編集]
326	月刊福祉 / 全国社会福祉協議会 [編]
327	社会政策 = Social policy and labor studies / 社会政策学会編
328	国民生活研究 / 国民生活研究所
329	労働力調査報告 / 総理府統計局 [編] = Monthly report on the labor force survey / Bureau of Statistics, Office of the Prime Minister
330	労働統計年報 = Year book of labor statistics / 労働省大臣官房労働統計調査部 [編]
331	社会と調査 = Advances in social research / 社会調査士資格認定機構 [編集]
332	障害学研究 = Journal of disability studies
333	総合女性史研究 / 総合女性史研究会 [編]
334	日本都市社会学年報 = The annals of Japan Association for Urban Sociology / 日本都市社会学学会編
335	消費と生活
336	賃金と社会保障 / 労働旬報社
337	支援 / 「支援」編集委員会 [編]
338	自殺対策白書 / 内閣府 [編]
339	実験社会心理学研究 / 日本グループ・ダイナミックス学会編集
340	社会保障研究 / 国立社会保障・人口問題研究所 [編]
341	愛知大学総合郷土研究所紀要 / 愛知大学総合郷土研究所
342	まつり通信
343	西郊民俗 / 西郊民俗談話会

344	国立民族学博物館研究報告 / 国立民族学博物館
345	内海文化研究紀要 / 広島大学文学部内海文化研究室
346	日本常民文化紀要 / 成城大学大学院文学研究科 [編]
347	日本民俗学 / 日本民俗学会
348	民俗学研究所紀要 / 成城大学民俗学研究所
349	昔話伝説研究
350	まつり : matsuri = Festival
351	社会人類学年報
352	岡山民俗 / 岡山民俗学会 [編]
353	季刊民族学 / 国立民族学博物館監修
354	比較文明 / 比較文明学会 [編]
355	名古屋民俗 / 名古屋民俗研究会
356	民具研究 / 日本民具学会
357	南方文化 = Nampo-bunka / 天理南方文化研究会 [編]
358	歴史と民俗 : 神奈川大学日本常民文化研究所論集 / 神奈川大学日本常民文化研究所
359	民族研究
360	西北民族研究 / [西北民族学院]西北民族研究所 [主办]
361	あしなか / 山村民俗の会 [編]
362	常民文化 / 成城大学大学院
363	風俗史学 : 日本風俗史学会誌 = Historical review on manners customs / 日本風俗史学会 [編]
364	民博通信 / 国立民族学博物館 [編集]
365	复印报刊资料. D5, 民族问题研究
366	国立民族学博物館調査報告 / 国立民族学博物館 [編]
367	文化人類学 / 日本文化人類学会 [編]
368	中央民族大学学报
369	云南民族大学学报
370	Museum = ミューゼウム : 国立博物館美術誌
371	美術科学研究 / 大阪教育大学・美術学科 [編]
372	研究紀要 / 京都市立芸術大学美術学部 [編]
373	藝術新潮
374	國華
375	教育美術 / 教育美術振興會 [編]
376	日本美術年鑑 / 東京文化財研究所 [編集]

国内雑誌 376種

No.	誌名(国外雑誌)
1	Acta Asiatica : bulletin of the Institute of Eastern Culture
2	Acta orientalia Academiae Scientiarum Hungaricae / Magyar Tudományos Akadémia
3	Annales de démographie historique / Société de démographie historique
4	Annals of the Bhandarkar Oriental Research Institute, Poona / Bhandarkar Oriental Research Institute
5	Archiv für Orientforschung : internationale Zeitschrift für die Wissenschaft vom Vordere
6	Asian survey / Institute of International Studies, University of California
7	Anatolica : annuaire international pour les civilisation de l'Asie antérieure
8	Acta Iranica
9	Bibliotheca orientalis
10	Bulletin of the American Schools of Oriental Research / American Schools of Oriental Research, 19--
11	Bulletin d'études orientales / Institut français de Damas
12	Bulletin / the Museum of Far Eastern Antiquities (Östasiatiska museet) Stockholm
13	Bulletin of the School of Oriental and African Studies / University of London
14	The China quarterly
15	Iranica antiqua
16	Iraq / British School of Archaeology in Iraq
17	Iran : journal of the British Institute of Persian Studies
18	International journal of Middle East studies
19	Iranian studies : bulletin of the Society for Iranian Cultural and Social Studies / Society for Iranian Cultural and Social Studies
20	Journal of the American Oriental Society
21	Journal of economic and social history of the Orient = Journal de l'histoire economique et sociale de l'Orient

22	Journal of Near Eastern studies
23	Journal of the Oriental Institute / Oriental Institute, Maharaja Sayajirao University of Baroda
24	Journal asiatique : recueil de mémoires et de notices relatifs aux études orientales
25	Journal of Palestine studies : a quarterly on Palestinian affairs and the Arab-Israeli conflict
26	Mittheilungen der Deutschen Orient-Gesellschaft zu Berlin
27	Middle Eastern studies
28	Modern China : an international quarterly
29	Orientalia
30	Orient
31	Revue d'assyriologie et d'archéologie orientale
32	Studia iranica
33	Studia islamica
34	Zeitschrift des Deutschen Palästina-Vereins : Organ des Deutschen Evangelischen Instituts für Altertumswissenschaft des Heiligen Landes / Der Deutsche Verein zur Erforschung Palé
35	Zentralasiatische Studien : des Seminars für Sprach und Kulturwissenschaft Zentralasiens der Universität Bonn / Zentralasiens der Universität Bonn
36	Indian historical review / Indian Council of Historical Research
37	Ural-Altaische Jahrbücher
38	Asien
39	British journal of Middle Eastern studies / British Society for Middle Eastern Studies
40	Arabic sciences and philosophy : a historical journal
41	Cahiers d'Extrême-Asie : revue de l'École française d'Extrême-Orient, Section de Kyôto / École française d'Extrême-Orient, Section de Kyôto
42	Archivum Ottomanicum
43	Ars orientalis : the art of Islam and the East
44	Archivum Eurasiae medii aevi [i]
45	Jaarbericht
46	Akkadica
47	Proceedings of the Seminar for Arabian Studies
48	Bulletin of the Asia Institute
49	Index Islamicus
50	Transactions of the International Conference of Eastern Studies = 國際東方學者會議紀要
51	Journal of the Royal Asiatic Society
52	Islamic horizons
53	East Asia : an international quarterly
54	Archéologische Mitteilungen aus Iran und Turan / Deutsches Archéologisches Institut, Eurasien-Abteilung, Aussenstelle Teheran
55	Zeitschrift der Deutschen Morgenländischen Gesellschaft
56	Critical Asian studies
57	Israel exploration journal
58	Review of Middle East studies
59	Southeast Asian studies
60	Zeitschrift für Indologie und Südasiastudien
61	Iran nameh. New series : a quarterly of Iranian studies
62	African studies
63	The journal of Egyptian archaeology
64	Zeitschrift für ägyptische Sprache und Altertumskunde
65	Maghreb, Machrek : monde arabe
66	Studien zur Altägyptischen Kultur
67	The Maghreb review = Majallat al-Maghrib
68	Meroitica
69	Cahiers de la céramique égyptienne / Institut français d'archéologie orientale
70	Annales de géographie / Société de géographie
71	Archiv für Papyrusforschung und verwandte Gebiete
72	Erdkunde : Archiv für wissenschaftliche Geographie
73	Geographica helvetica / Geographische-Ethnographische Gesellschaft
74	Imago mundi : Jahrbuch der alten Kartographie
75	National geographic
76	Palestine exploration quarterly
77	The professional geographer
78	GeoHumanities : space, place, and the humanities : GH

79	Annals of the American Association of Geographers
80	О г о н е к
81	Annals of the American Academy of Political and Social Science / American Academy of Political and Social Science
82	Comparative political studies
83	Journal of peace research / University of Oslo
84	Local government studies
85	Parliamentarian : journal of the Parliaments of the Commonwealth
86	Der Staat : Zeitschrift für Staatslehre, öffentliches Recht und Verfassungsgeschichte
87	Central Asian survey
88	Immigrants & minorities
89	Studies in conflict and terrorism
90	Asian profile : Asia's international journal
91	The Pacific review
92	Statutes & decisions : the laws of the USSR and its successor states
93	Post-Soviet affairs
94	Political theory
95	West's Supreme Court reporter
96	German politics and society
97	Almanac of American politics : the senators, the representatives, their records, states and
98	Journal of Muslim minority affairs / Institute of Muslim Minority Affairs
99	Political science
100	New left review
101	Australian journal of political science : journal of the Australasian Political Studies Association
102	American politics research
103	Journal of women, politics & policy
104	American political science review / American Political Science Association
105	The Journal of legal studies
106	PS, political science & politics
107	Public administration review : journal of the American Society for Public Administration
108	The international journal of press/politics
109	East European politics
110	Applied economics
111	Challenge : the magazine of economic affairs
112	The developing economies
113	Indian economic and social history review / the Indian Economic and Social History
114	International studies : quarterly journal of the Indian School of International Studies
115	Jahrbuch für Wirtschaftsgeschichte / Deutsche Akademie der Wissenschaften zu Berlin
116	The journal of economic history
117	Journal of the Operational Research Society
118	Operations research/management science
119	Revue d'études comparatives est-ouest : économie, planification et organisation
120	Südost-Forschungen
121	Annals of operations research
122	Journal of accounting, auditing & finance
123	Journal of international economic studies
124	Histoire, économie et société
125	Journal of business & economic statistics : a publication of the American Statistical
126	Journal of management in engineering / American Society of Civil Engineers, Engineering Management Division
127	Constitutional political economy
128	International journal of political economy
129	The Journal of business forecasting methods & systems
130	Journal of South Asian and Middle Eastern Studies
131	Economy and society
132	Journal of population economics
133	The European accounting review
134	The journal of human resources
135	Journal of the Operations Research Society of Japan
136	Knowledge management research & practice
137	Key indicators / Asian Development Bank

138	Administrative science quarterly / Graduate School of Business and Public Administration, Cornell University
139	Accounting in Europe
140	Accounting history review
141	The American journal of sociology
142	L'Année sociologique
143	Archives européennes de sociologie = European journal of sociology = Europäisches Archiv für Soziologie
144	Consumer reports
145	Contributions to Indian sociology
146	The Journal of peasant studies
147	Recht der Arbeit : Zeitschrift für die Wissenschaft und Praxis des Gesamten Arbeitsrechts
148	Social problems
149	Signs : journal of women in culture and society
150	Social history
151	Sociological focus / Ohio Valley Sociological Society
152	Sociology : the journal of the British Sociological Association
153	Zeitschrift für Soziologie
154	Man and life : a journal of the Institute of Social Research and Applied Anthropology
155	Slavery & abolition
156	Sociological perspectives : SP : official publication of the Pacific Sociological Association
157	Cultural dynamics
158	Journal of refugee studies
159	Women : a cultural review
160	European journal of communication
161	Journal of family history : studies in family, kinship and demography
162	Research on aging : a quarterly of social gerontology
163	Ageing and society / Centre for Policy on Ageing and the British Society of Gerontology
164	European sociological review
165	Mélanges de l'École française de Rome
166	Comparative sociology
167	Leisure studies : the journal of the Leisure Studies Association
168	Journal of multicultural discourses
169	European journal of ageing
170	Group dynamics : theory, research, and practice
171	Cultural sociology : a journal of the British Sociological Association
172	Civilisations / Institut International des Civilisations Différentes
173	Ethnos / the Ethnographical Museum of Sweden
174	Ethnohistory / American Society for Ethnohistory
175	Fabula : Zeitschrift für Erzählforschung : journal of folklore studies : revue des études sur le conte populaire
176	Man in India : a quarterly anthropological journal / Surajit Chandra Sinha
177	Zeitschrift für Ethnologie / Berliner Gesellschaft für Anthropologie, Ethnologie und
178	Pacific studies : journal devoted to the study of the Pacific its islands and adjacent countries / Institute for Polynesian Studies, Brigham Young University
179	Б ъ л г а р с к и ф о л к л о р = Bulgarian folklore / Б ъ л г а р с к а а к а д е м и я н а н а у к и т е
180	Э т н о г р а ф и ч е с к о е о б о з р е н и е / И н с т и т у т -Э т н о л о г и и и А н т р о п о л о г и и
181	Canadian-American slavic studies : a quarterly journal devoted to Russia and East Europe = Revue canadienne-américaine d'études slaves : revue trimestrielle consacréeaux études russes et est-européennes / Univ
182	The Art bulletin
183	Art journal / College Art Association of America
184	Artibus Asiae / Institute of Fine Arts, New York University
185	Arts asiatiques : annales du musée Guimet et du musée Cernuschi
186	The British journal of aesthetics / British Society of Aesthetics

文化社会学部ヨーロッパ・アメリカ学科

No.	誌名(国内雑誌)
1	中世思想研究 = Studies in medieval thought / 中世哲学会編
2	コムニカチオン = Kommunikation / 日本ヤスパース協会 [編]
3	スピノザーナ : スピノザ協会年報 = Spinozana : Spinoza Kyokai review / スピノザ協会 [編]
4	『百科全書』・啓蒙研究論集 / 『百科全書』研究会 [編] = Recueil d'études sur l'Encyclopédie et les lumières / Société d'études sur l'Encyclopédie
5	キリシタン研究 / キリシタン文化研究所編
6	基督教研究 / 京都同志社大学神学科内基督教研究会 [編]
7	キリスト教史学 / キリスト教史学会 [編]
8	国際基督教大学学報
9	宗教と文化 / 聖心女子大学キリスト教文化研究所
10	日本基督教團年鑑
11	キリスト教年鑑
12	石川考古学研究会会誌 / 石川考古学研究会 [編]
13	沖国大考古 / 沖縄国際大学文学部考古学研究室 [編]
14	貝塚 / 物質文化研究会
15	考古學雑誌 / 考古學會
16	月刊考古学ジャーナル = The archaeological journal / ニュー・サイエンス社 [編]
17	古代學研究 / 學生考古學研究会 [編]
18	古代文化 / 古代學協會
19	史淵 / 九大史学会
20	史學 / 慶應義塾大學文學部内三田史學會 [編輯]
21	史學研究 / 廣島史學研究会 [編]
22	史學雑誌
23	史觀 / 早稲田大學史學科
24	史泉 / 関西大学史学会
25	史艸 / 日本女子大学史学会編
26	社会文化史学 / 社会文化史学会, 総合歴史教育研究所
27	史林 / 史學研究会 [編]
28	大境 / 富山考古學會 [編]
29	駿台史學 / 明治大學史學地理學會 [編集]
30	季刊考古学
31	東海史學 / 東海大学史学会 [編]
32	旧石器考古学 / 旧石器文化談話会 [編]
33	東洋大学文学部紀要
34	長野県考古学会誌 / 長野県考古学会 [編]
35	ヒストリア / 大阪歴史學會 [編]
36	福島考古
37	待兼山論叢
38	歴史人類 / 筑波大学歴史人類学系
39	歴史地理教育 / 歴史教育者協議会, 郷土教育全國連絡協議会 [共同編集]
40	歴史評論
41	歴史學研究 / 歴史學研究会 [編]
42	歴史地理学 / 歴史地理学会 [編集]
43	物質文化 : 考古学民俗学研究 / 物質文化研究会 [編]
44	古文化談叢 / 九州古文化研究会 [編]
45	考古学と自然科学 / 京都大学原子炉実験所
46	神奈川考古 / 神奈川考古同人会 [編]
47	考古学研究 / 考古学研究会 [編]
48	新潟考古 / 新潟県考古学会 [編]
49	土曜考古 / 土曜考古学研究会
50	史潮 / 歴史学会 [編]
51	現代史研究 / 現代史研究会
52	肥後考古 / 肥後考古学会 [編]
53	考古
54	考古学集刊
55	史学月刊
56	史學史研究
57	歴史地理 / 中国地理学会历史地理专业委员会《历史地理》编委会编

58	史滴 = The shiteki / 早稲田大学東洋史懇話会 [編]
59	歴史 / 東北史學會 [編]
60	歴史と地理
61	山梨縣考古學協會誌 / 山梨県考古学協会 [編集]
62	文化財発掘出土情報 : 歴史・考古の情報誌
63	中国考古学 / 日本中国考古学会 [編集]
64	総合教育センター紀要 / 東海大学 [編]
65	歴史と経済 / 政治経済学・経済史学会 [編]
66	アジア文化研究所研究年報 / 東洋大学アジア文化研究所 [編]
67	洛北史學 / 洛北史学会編集
68	新潟県立歴史博物館研究紀要 = Bulletin of the Niigata Prefectural Museum of History
69	貿易陶磁研究 = Trade ceramics studies / 日本貿易陶磁研究会 [編]
70	動物考古学 / 動物考古学研究会 [編]
71	韓式系土器研究 / 韓式系土器研究会 [編]
72	地中海学研究 / 地中海学会 [編]
73	スラヴ研究 = Slavic studies / 北海道大学スラブ研究室 [編]
74	西洋古典學研究 / 日本西洋古典學會 [編]
75	西洋史學 / 日本西洋史學會編
76	西洋史學論集
77	ドイツ文化 / 中央大学ドイツ学会
78	東欧史研究 / 東欧史研究会 [編]
79	Studi di Cultura Italo-Giapponese / 日伊學會 [編]
80	フランス文化研究 / 獨協大学外国学部 [編]
81	ロシア史研究 / ロシア史研究会
82	西洋史研究
83	北欧史研究 / バルト・スカンディナヴィア研究会
84	ゲシヒテ / ドイツ現代史研究会 [編]
85	西洋中世研究 = Medieval European studies / 西洋中世学会 [編]
86	アメリカ史研究 / アメリカ史研究会
87	古代アメリカ = América antigua / 古代アメリカ研究会 [編集]
88	新地理 : 日本地理教育學會會誌 / 日本地理教育学会
89	人文地理 = Human geography / 人文地理學會 [編]
90	地域研究 / 立正地理学会 [編]
91	地理 / 古今書院 [編]
92	地理科学 / 広島地理学会 [編集]
93	地理誌叢 : 日本大学地理学会機関誌 / 日本大学地理学会 [編]
94	季刊地理学 = Quarterly journal of geography / 東北地理学会 [編]
95	地図情報
96	地理學報 / 中國地理學會編輯
97	地理教学
98	地域学研究 = Regional views / 駒沢大学応用地理研究所
99	中国国家地理 = Chinese national geography
100	地理学評論 = Geographical review of Japan / 日本地理学会 [編]
101	National geographic = ナショナルジオグラフィック
102	海外事情 / 拓殖大学海外事情研究所
103	関西大学社会学部紀要 / 関西大学社会学部
104	高知論叢
105	社会科学研究年報 / 龍谷大学社会科学研究所
106	社会学年誌 / 早稲田大学社会学会 [編]
107	社会思想史研究 : 社会思想史学会年報
108	クロスロード
109	人文社会科学研究 / 早稲田大学理工学部・一般教育人文社会科学研究会 [編]
110	政経研究 / 日本大学法学会
111	政経論叢
112	中国研究月報 / 中国研究所 [編]
113	文明 / 東海大学文明研究所 [編]
114	明治大学社会科学研究所紀要 / 明治大学 [編] = Memoirs of the Institute of Social Sciences, Meiji University / Meiji University, Tokyo
115	日経ビジネス = Nikkei business
116	理論と方法 = Sociological theory and methods / 数理社会学会編集委員会
117	官報総索引 / 官報調査会

118	青山国際政経論集 / 青山学院大学国際政治経済学会 [編集]
119	官報
120	研究報告書 / 岡山大学産業経営研究会
121	日本都市年鑑 / 東京市政調査會
122	文明研究 / 東海大学文明研究会
123	ラテンアメリカ・レポート = Latin America report / アジア経済研究所 [編]
124	総合研究 / 高千穂商科大学総合研究所
125	相關社会科学 / 東京大学教養学部教養学科第三(相關社会科学), 東京大学大学院総合文化研究科相關社会科学専攻 [編]
126	中国社会科学 / 中国社会科学編輯部 [編輯]
127	中国社会科学院研究生院学报
128	南开学报
129	復旦学报
130	文物天地
131	北京大学学报
132	北方論丛 : beifang luncong
133	蘭州大学学报
134	辽宁大学学报
135	求索 / 求索編輯部編輯
136	西域研究 = The Western regions studies
137	鶴見大学紀要
138	首都师范大学学报
139	東洋大学大学院紀要
140	河南大学学报
141	中東研究 = Journal of middle eastern studies
142	超域文化科学紀要 = Interdisciplinary cultural studies / [東京大学/駒場編]
143	華中師範大学学报
144	日本女子大学大学院人間社会研究科紀要
145	中央大学社会科学研究所年報 / 中央大学社会科学研究所 [編]
146	社会論集 / 関東学院大学社会学会 [編集]
147	早稲田社会科学総合研究 / 早稲田大学社会科学学会 [編]
148	大学院研究年報
149	国際開発ジャーナル = International development journal
150	国際社会科学 = Advanced social and international studies / 東京大学大学院総合文化研究科国際社会科学専攻 [編]
151	武漢大學學報
152	国際日本学 : 文部科学省21世紀COEプログラム採択日本発信の国際日本学の構築研究成果報告集 / 法政大学国際日本学研究所・国際日本学研究所 [編]
153	西北師大学報
154	東海大学国際文化学部紀要 / 東海大学 [編]
155	大衆文化 = Popular culture / 立教大学江戸川乱歩記念大衆文化研究センター [編]
156	イスラーム地域研究ジャーナル = Journal of Islamic area studies / 早稲田大学イスラーム地域研究機構
157	公共選択 : 経済と政治の接点を研究する試み : その理論と現実への適用 / 公共選択学会編
158	変革のアソシエ : 資本主義に対抗し、新しい地平を開く、批判的・創造的知性の舵を!
159	ロシア月報 / 外務省欧亜局ロシア課監修
160	愛知大学国際問題研究所紀要 / 愛知大学国際問題研究所 [編]
161	イペロアメリカ研究 / 上智大学イペロアメリカ研究所
162	季刊行政管理研究 / 行政管理研究センター
163	警察學論集 / 中央警察學校
164	藝能史研究 / 藝能史研究會
165	国際関係学研究 / 津田塾大学
166	国際政治 / 日本国際政治学会編
167	國家學會雜誌
168	政治経済史学 / 政治経済史学会日吉史塾 [編集]
169	前衛 : the zenei : 日本共産党中央機關雜誌
170	東海大學紀要
171	都市政策 / 神戸都市問題研究所 [編]
172	都市問題 / 東京市政調査會 [編]
173	広島平和科学 / 広島大学平和科学研究所
174	部落問題研究 / 部落問題研究所

175	平和研究 = Peace studies / 日本平和学会 [編]
176	広報 / 日本広報協会 [編集]
177	地方自治 / 地方自治研究会編纂
178	人事院月報 / 人事院事務総局広報局 [編]
179	選挙
180	時の法令 / 法令普及会 [編]
181	東亜
182	アジア時報 / アジア調査会
183	渋沢研究 / 渋沢研究会編集
184	亜細亜大学国際関係紀要 / 亜細亜大学国際関係学会, 亜細亜学園創立50周年記念学術論文 集編纂小委員会
185	外交史料館報 / 外務省外交史料館 [編]
186	警察白書: 警察活動の現況 / 警察庁編
187	公務員白書 / 人事院編
188	消防白書 / 国家消防本部教養課編
189	学習院大学大学院政治学研究科政治学論集
190	自治実務セミナー / 良書普及会 [編]
191	レヴァイアサン = Leviathan
192	年報自治体学 / 自治体学会編
193	中华人民共和国国务院公报
194	中共党史研究
195	复印报刊资料. D4, 中国政治
196	复印报刊资料. D3, 世界社会主义运动
197	廣角鏡月刊: 知識趣味勾奇 = Wide angle
198	鏡報 = The mirror
199	求是
200	紫荊 = Bauhinia
201	政治学研究論集 / 明治大学大学院政治経済学研究科
202	アジア動向年報 / アジア経済研究所
203	月刊地方自治職員研修 / 公職研 [編]
204	年報政治学 / 日本政治学会編
205	中国民族 = China ethnicity
206	地方自治職員研修
207	复印报刊资料. D2, 中国共产党
208	季報情報公開個人情報保護 / 行政管理研究センター [編集] = / Institute of Administrative Management
209	年報行政研究 / 日本行政学会編
210	人権と部落問題 / 部落問題研究所 [編]
211	フォーリン・アフェアーズリポート = Foreign affairs report
212	地方公務員月報 / 自治省行政局公務員課
213	地域づくり: 明日をひらく地域活性化のための情報誌
214	外交 = Diplomacy
215	島嶼研究ジャーナル = The journal of islands studies / 島嶼資料センター [編]
216	愛知大学総合郷土研究所紀要 / 愛知大学総合郷土研究所
217	まつり通信
218	西郊民俗 / 西郊民俗談話会
219	国立民族学博物館研究報告 / 国立民族学博物館
220	内海文化研究紀要 / 広島大学文学部内海文化研究室
221	日本常民文化紀要 / 成城大学大学院文学研究科 [編]
222	日本民俗学 / 日本民俗学会
223	民俗学研究所紀要 / 成城大学民俗学研究所
224	昔話伝説研究
225	まつり: matsuri = Festival
226	社会人類学年報
227	岡山民俗 / 岡山民俗学会 [編]
228	季刊民族学 / 国立民族学博物館監修
229	比較文明 / 比較文明学会 [編]
230	名古屋民俗 / 名古屋民俗研究会
231	民具研究 / 日本民具学会
232	南方文化 = Nampo-bunka / 天理南方文化研究会 [編]
233	歴史と民俗: 神奈川大学日本常民文化研究所論集 / 神奈川大学日本常民文化研究所

234	民族研究
235	西北民族研究 / [西北民族学院]西北民族研究所 [主办]
236	あしなか / 山村民俗の会 [編]
237	常民文化 / 成城大学大学院
238	風俗史学 : 日本風俗史学会誌 = Historical review on manners customs / 日本風俗史学会 [編]
239	民博通信 / 国立民族学博物館 [編集]
240	复印报刊资料. D5, 民族问题研究
241	国立民族学博物館調査報告 / 国立民族学博物館 [編]
242	文化人類学 / 日本文化人類学会 [編]
243	中央民族大学学报
244	云南民族大学学报
245	Museum = ミュージアム : 国立博物館美術誌
246	美術科学研究 / 大阪教育大学・美術学科 [編]
247	研究紀要 / 京都市立芸術大学美術学部 [編]
248	藝術新潮
249	國華
250	教育美術 / 教育美術振興會 [編]
251	日本美術年鑑 / 東京文化財研究所 [編集]
252	デザイン学研究 / デザイン学会 [編]
253	東京芸術大学美術学部紀要 / 東京芸術大学美術学部
254	日本大学芸術学部紀要
255	美學 / 美学会編
256	美術史学 / 東北大学美学美術史研究室 [編]
257	美術史研究 / 早稲田大学美術史学会 [編集]
258	月刊文化財 / 文化財保護委員会監修
259	大和文華 / 大和文華館
260	史迹と美術 / 史迹・美術同攷會 [編]
261	文化財の虫菌害 / 文化財虫害研究所 [編]
262	月刊美術
263	東京国立近代美術館研究紀要 = Bulletin of the National Museum of Modern Art, Tokyo
264	美術年鑑 = Art annual / 美術年鑑社
265	フィロカリア / 大阪大学文学部美学科
266	芸術研究報
267	芸術研究報 = Bulletin of Institute of Art and Design of the University of Tsukuba / 筑波大学 芸術学系研究報編集委員会
268	故宮文物月刊 = The National Palace Museum monthly of Chinese art
269	美術研究 : 中央美術学院中央美術学院华东分院学报
270	武蔵野美術大学研究紀要 = Bulletin of the Musashino Art University
271	名古屋芸術大学研究紀要 / 名古屋芸術大学
272	BT : 美術手帖 : bijutsu techo : monthly art magazine / 美術出版社
273	デザイン学研究
274	文化財保存修復学会誌 : 古文化財之科学 / 文化財保存修復学会 [編]
275	京都市立芸術大学芸術資料館年報 / 京都市立芸術大学芸術資料館
276	正倉院紀要 / 宮内庁正倉院事務所 [編集]

国内雑誌 276種

No.	誌名(国外雑誌)
1	Archivum historicum Societatis Iesu : periodicum semestre a Collegio Scriptorum de Historia S
2	The Greek orthodox theological review / Holy Cross School of Theology, Hellenic College
3	Journal of semitic studies
4	Theologische Revue
5	Theologische Rundschau
6	Proche-Orient chrétien : revue d'études et d'informations / Professeurs du Séminaire Sainte-Anne de Jérusalem
7	Revue des études juives
8	Rivista di storia della chiesa in Italia
9	Oriens Christianus : Hefte für die Kunde des christlichen Orients
10	Исторически преглед : научно-теоретично списание на Института за история при Българската академия на науките
11	Acta archaeologica / Academiae Scientiarum Hungaricae

12	American journal of archaeology
13	L'Antiquité classique
14	Antiquity : a quarterly review of archaeology
15	Archaeologia Austriaca : Beiträge zur Paléanthropologie, Ur- und Frühgeschichte Österreichs / Institut für Ur- und Frühgeschichte der Universität Wien
16	Archaeological reports / Society for the Promotion of Hellenic Studies and British School of Archaeology at Athens
17	Archaeology : a magazine dealing with the antiquity of the world / Archaeological Institute of America
18	Archeologické rozhledy : informační orgán archeologických a příbuzných vědeckých ústavů v Československu = Археологические новости = Nouvelles arché
19	Archiv für Kultur-Geschichte
20	Abhandlungen der Sächsischen Akademie der Wissenschaften zu Leipzig
21	Arctic anthropology
22	Bibliothèque de l'École des chartes
23	Byzantinische Forschungen : Internationale Zeitschrift für Byzantinistik
24	Dumbarton Oaks papers
25	Ethnographisch-Archéologische Zeitschrift : EAZ
26	Expedition : bulletin of the University Museum of the University of Pennsylvania / University Museum, the University of Pennsylvania
27	Germania : Anzeiger der Römisch-Germanischen Kommission des Deutschen Archéologischen Instituts
28	Gallia : fouilles et monuments archéologiques en France métropolitaine / Centre national de la recherche scientifique, 194-
29	Historia : Zeitschrift für Alte Geschichte
30	The historical journal
31	Historische Zeitschrift
32	International history review
33	Jahrbuch des Deutschen Archéologischen Instituts
34	Jahresschrift für mitteldeutsche Vorgeschichte
35	Journal of contemporary history / the Institute of Contemporary History
36	The journal of interdisciplinary history
37	The journal of modern history / University of Chicago
38	Journal of field archaeology
39	Journal of urban history
40	Norwegian archaeological review
41	North American archaeologist
42	Oriens Extremus : Zeitschrift für Sprache, Kunst und Kultur der Länder des fernen Ostens
43	Orient : the reports of the Society for Near Eastern Studies in Japan / Nippon Oriento Gakkai (Society for Near Eastern Studies in Japan)
44	Praehistorische Zeitschrift
45	Paléorient : revue interdisciplinaire de préhistoire et protohistoire de l'Asie du Sud-Ouest / Association Paléorient
46	Quartér : Jahrbuch für Erforschung des Eiszeitalters und der Steinzeit = Annuaire pour l'étude du quaternaire et de l'âge de pierre = Annals for the study of the pleistocene and associated stone age cultures = Annali di ricerca sul quaternario e de l'epoca della pietra
47	Revue des études byzantines / Institut français d'études byzantines
48	Revue d'histoire moderne et contemporaine / Société d'histoire moderne
49	Revue d'égyptologie
50	Saeculum : Jahrbuch für Universalgeschichte
51	Semitica : cahiers publiés par l'Institut d'études sémitiques de l'Université de Paris / Centre national de la recherche scientifique
52	Speculum : a journal of mediaeval studies / Medieval Academy of America
53	Sefarad : revista de la Escuela de Estudios Hebraicos
54	South African archaeological bulletin
55	Supplementum epigraphicum graecum
56	Sphinx
57	World archaeology
58	Yale classical studies / Department of Classics, Yale University
59	Zeitschrift für historische Forschung
60	African archaeological review

61	Archéologie der Schweiz = Archéologie suisse = Archeologia svizzera
62	Jahrbuch des Römisch-germanischen Zentralmuseums Mainz
63	В и з а н т и й с к и й в р е м е н н и к
64	Anatolian studies : journal of the British Institute of Archaeology at Ankara / the British Institute of Archaeology at Ankara
65	History and anthropology
66	Revue archéologique
67	Le Moyen âge
68	Journal of Roman archaeology
69	Current archaeology
70	Cambridge archaeological journal
71	The Antiquaries journal : being the journal of the Society of Antiquaries of London / Society of Antiquaries
72	Archéologisches Korrespondenzblatt
73	Archeologia
74	Australian archaeology : AA
75	Boletín de Lima : revista cultural bilingüe con seis ediciones al año
76	Journal of world prehistory
77	History of the human sciences
78	Acta antiqua / Academiae Scientiarum Hungaricae
79	Journal des africanistes
80	The New Zealand journal of history
81	Journal of archaeological research
82	Cahier de recherches de l'Institut de papyrologie et d'égyptologie de Lille
83	Boreas : Münstersche Beiträge zur Archéologie
84	Journal of Mediterranean archaeology
85	Journal of archaeological method and theory
86	Reading medieval studies : annual proceedings of the Graduate Centre for Medieval Studies in the University of Reading
87	Ancient civilizations from Scythia to Siberia
88	Schriften der Philosophisch-Historischen Klasse der Heidelberger Akademie der
89	Supplemente zu den Schriften der Heidelberger Akademie der Wissenschaften, Philosophisch-Historische Klasse
90	Archaeological review from Cambridge
91	Bericht der bayerischen Bodendenkmalpflege / Bayerisches Landesamt für Denkmalpflege
92	Ancient near eastern studies : an annual published by the School of Fine Arts, Classical Studies and Archaeology, University of Melbourne
93	Bulletin / American School of Prehistoric Research
94	Ancient West & East
95	Revue numismatique
96	Ancient near eastern studies
97	CBRL : newsletter of the Council for British Research in the Levant
98	В е с т н и к С а н к т - П е т е р б у р г с к о г о у н и в е р с и т е т а
99	Heritage Turkey / British Institute at Ankara
100	Archæologiai értesítő
101	З б о р н и к р а д о в а / В и з а н т о л о ш к и и н с т и т у т = Recueil des travaux / Institut d'études byzantines
102	Annales historiques de la Révolution française
103	Byzantion : revue internationale des études byzantines
104	Central European history
105	Greece & Rome
106	Jahreshefte des Österreichischen Archéologischen Institutes in Wien
107	The Journal of Hellenic studies / Society for the Promotion of Hellenic Studies
108	The Journal of Roman studies
109	Klio : Beiträge zur Alten Geschichte / Akademie der Wissenschaften der DDR Zentralinstitut für Alte Geschichte und Archéologie
110	The London journal : a review of Metropolitan Society Past and Present
111	Mnemosyne
112	Rivista storica italiana
113	Slavic review : American quarterly of Soviet and East European studies / American Association for the Advancement of Slavic Studies

114	The Slavonic and East European review
115	Scandinavian journal of history
116	Zeitschrift für bayerische Landesgeschichte / Bayerische Akademie der Wissenschaften, Kommission für Bayerische Landesgeschichte
117	Zeitschrift für die Geschichte des Oberrheins
118	Archeologia : rocznik Towarzystwa Archeologicznego we Wroclawiu
119	Bulgarian historical review = Revue bulgare d'histoire / United Center for Research and Training in History at the Bulgarian Academy of Sciences
120	Revue du monde musulman et de la Méditerranée
121	Т о п о и : orient-occident
122	С л а в я н о в е д е н и е / Р о с с и й с к а я а к а д е м и я н а у к , И н с т и т у т с л а в я н о в е д е н и я и б а л к а н и с т и к и
123	Mediterranean historical review / Aranne School of History, Tel Aviv University
124	Balcanica : annuaire du Comite interacadémique de balkanologie du Conseil des académies des sciences et des arts de la R
125	Archivio storico italiano / Deputazione toscana di storia patria
126	Nottingham mediaeval studies
127	Medieval archaeology : journal of the Society for Medieval Archaeology / Society for Medieval Archaeology
128	Dix-huitième siècle : revue annuelle / publiée par la Société française d'étude du XVIIIe siècle ; avec le concours du C
129	Nikephoros : Zeitschrift für Sport und Kultur im Altertum
130	Mélanges de l'Ecole française de Rome
131	Balto-Scandia / The Association for Balto-Scandinavian Studies
132	Bulletin de la Société française d'étude du XVIIIe siècle
133	Rheinische Vierteljahrsblätter
134	Scandinavian economic history review / Scandinavian Society for Economic and Social History and Historical Geography
135	New surveys in the classics
136	Nikephoros
137	Journal of American studies
138	Pacific historical review / Pacific Coast Branch of the American Historical Association
139	Canadian journal of archaeology = Journal canadien d'archéologie
140	Annales de géographie / Société de géographie
141	Archiv für Papyrusforschung und verwandte Gebiete
142	Erdkunde : Archiv für wissenschaftliche Geographie
143	Geographica helvetica / Geographische-Ethnographische Gesellschaft
144	Imago mundi : Jahrbuch der alten Kartographie
145	National geographic
146	Palestine exploration quarterly
147	The professional geographer
148	GeoHumanities : space, place, and the humanities : GH
149	Annals of the American Association of Geographers
150	Annales : économies, sociétés, civilisations
151	Behaviormetrika / the Behaviormetric Society of Japan
152	Cahiers d'études africaines / École pratique des hautes études, Sorbonne sixième section: Sciences économiques et sociales
153	Cuadernos americanos
154	Ethics : an international journal of social, political, and legal philosophy
155	Geschichte und Gesellschaft : Zeitschrift für Historische Sozialwissenschaft
156	International review of social history / Internationaal Instituut voor Sociale Geschiedenis
157	The journal of modern African studies : a quarterly survey of politics, economics & related topics in contemporary Africa
158	The Journal of Indo-European studies
159	Revue française de sociologie / Centre d'études sociologiques
160	Social sciences information / International Social Science Council = Information sur les sciences sociales / Conceil international des sciences sociales
161	Sociological methods & research / Dept
162	Technology and culture / Society for the History of Technology
163	Urban studies
164	Vierteljahrschrift für Social- und Wirtschaftsgeschichte

165	Amerasia journal : a joint quarterly publication of the UCLA Asian American Studies Center and the Yale Asian American Students Association / Asian American Studies Center, University of California, Los Angeles
166	Recherches sur Diderot et sur l'Encyclopédie
167	Humor : international journal of humor research
168	Organization studies : an international multidisciplinary journal devoted to the study of organizations, organization, organizing and the organized in, of and between societies / the European Group for Organizational Studies
169	Actes de la recherche en sciences sociales
170	Theory and society : renewal and critique in social theory
171	Society : social science and modern
172	Cross-cultural research : the journal of comparative social science
173	О г о н е к
174	Annals of the American Academy of Political and Social Science / American Academy of Political and Social Science
175	Comparative political studies
176	Journal of peace research / University of Oslo
177	Local government studies
178	Parliamentarian : journal of the Parliaments of the Commonwealth
179	Der Staat : Zeitschrift für Staatslehre, öffentliches Recht und Verfassungsgeschichte
180	Immigrants & minorities
181	Studies in conflict and terrorism
182	The Pacific review
183	Statutes & decisions : the laws of the USSR and its successor states
184	Post-Soviet affairs
185	Political theory
186	German politics and society
187	Almanac of American politics : the senators, the representatives, their records, states and
188	Journal of Muslim minority affairs / Institute of Muslim Minority Affairs
189	Political science
190	New left review
191	Australian journal of political science : journal of the Australasian Political Studies Association
192	American politics research
193	Journal of women, politics & policy
194	American political science review / American Political Science Association
195	PS, political science & politics
196	Public administration review : journal of the American Society for Public Administration
197	The international journal of press/politics
198	East European politics
199	Civilisations / Institut International des Civilisations Différentes
200	Ethnos / the Ethnographical Museum of Sweden
201	Ethnohistory / American Society for Ethnohistory
202	Fabula : Zeitschrift für Erzählforschung : journal of folklore studies : revue des études sur le conte populaire
203	Bulletin de l'Institut français d'études andines = Boletín del Instituto Francés de Estudios
204	Zeitschrift für Ethnologie / Berliner Gesellschaft für Anthropologie, Ethnologie und
205	Pacific studies : journal devoted to the study of the Pacific its islands and adjacent countries / Institute for Polynesian Studies, Brigham Young University
206	Б ъ л г а р с к и ф о л к л о р = Bulgarian folklore / Б ъ л г а р с к а а к а д е м и я н а н а у к и т е
207	Э т н о г р а ф и ч е с к о е о б о з р е н и е / И н с т и т у т -Э т н о л о г и и и А н т р о п о л о г и и
208	Canadian-American slavic studies : a quarterly journal devoted to Russia and East Europe = Revue canadienne-américaine d'études slaves : revue trimestrielle consacréeaux études russes et est-européennes / Univ
209	The Art bulletin
210	Art journal / College Art Association of America
211	Artibus Asiae / Institute of Fine Arts, New York University
212	The British journal of aesthetics / British Society of Aesthetics
213	Bulletin / Metropolitan Museum of Art
214	The Burlington magazine

215	Gesta / International Center of Romanesque Art
216	Journal of the Warburg and Courtauld Institutes
217	Metropolitan Museum journal
218	Studies in conservation : journal of the International Institute for Conservation of Museum Objects = Études de Conservation / International Institute for Conservation of Museum
219	Zeitschrift für Kunstgeschichte

国外雑誌 219種

文化社会学部北欧学科

No.	誌名(国内雑誌)
1	中世思想研究 = Studies in medieval thought / 中世哲学会編
2	コムニカチオン = Kommunikation / 日本ヤスパース協会 [編]
3	スピノザーナ : スピノザ協会年報 = Spinozana : Spinoza Kyokai review / スピノザ協会 [編]
4	『百科全書』・啓蒙研究論集 / 『百科全書』研究会 [編] = Recueil d'études sur l'Encyclopédie et les lumières / Société d'études sur l'Encyclopédie
5	宗教法 : 宗教法学会誌 / 宗教法学会
6	世界宗教研究 / 中国社会科学院世界宗教研究所編
7	世界宗教文化 = The religious cultures in the world / 《世界宗教文化》編集部 [編輯]
8	地中海学研究 / 地中海学会 [編]
9	スラヴ研究 = Slavic studies / 北海道大学スラブ研究室 [編]
10	西洋古典學研究 / 日本西洋古典學會 [編]
11	西洋史學 / 日本西洋史學會編
12	西洋史學論集
13	ドイツ文化 / 中央大学ドイツ学会
14	東欧史研究 / 東欧史研究会 [編]
15	Studi di Cultura Italo-Giapponese / 日伊學會 [編]
16	フランス文化研究 / 獨協大学外国学部 [編]
17	ロシア史研究 / ロシア史研究会
18	西洋史研究
19	北欧史研究 / バルト・スカンディナヴィア研究会
20	ゲシヒテ / ドイツ現代史研究会 [編]
21	西洋中世研究 = Medieval European studies / 西洋中世学会 [編]
22	海外事情 / 拓殖大学海外事情研究所
23	関西大学社会学部紀要 / 関西大学社会学部
24	高知論叢
25	社会科学研究年報 / 龍谷大学社会科学研究所
26	社会学年誌 / 早稲田大学社会学会 [編]
27	社会思想史研究 : 社会思想史学会年報
28	クロスロード
29	人文社会科学研究 / 早稲田大学理工学部・一般教育人文社会科学研究会 [編]
30	政経研究 / 日本大学法学会
31	政経論叢
32	文明 / 東海大学文明研究所 [編]
33	明治大学社会科学研究所紀要 / 明治大学 [編] = Memoirs of the Institute of Social Sciences, Meiji University / Meiji University, Tokyo
34	日経ビジネス = Nikkei business
35	理論と方法 = Sociological theory and methods / 数理社会学会編集委員会
36	官報総索引 / 官報調査会
37	青山国際政経論集 / 青山学院大学国際政治経済学会 [編集]
38	官報
39	研究報告書 / 岡山大学産業経営研究会
40	日本都市年鑑 / 東京市政調査會
41	文明研究 / 東海大学文明研究会
42	ラテンアメリカ・レポート = Latin America report / アジア経済研究所 [編]
43	総合研究 / 高千穂商科大学総合研究所
44	相関社会科学 / 東京大学教養学部教養学科第三(相関社会科学), 東京大学大学院総合文化研究科相関社会科学専攻 [編]
45	思想戦線 / 云南大学学报編輯部
46	社會科學 / 上海社会科学院社会科学編委会 [編輯]
47	社会科学輯刊
48	社会科学战线
49	上海师范大学学报
50	争鳴
51	中华人民共和国全国人民代表大会常务委員会公报
52	中国社会科学 / 中国社会科学編輯部 [編輯]
53	中国社会科学院研究生院学报
54	南开学报

55	復旦学报
56	文物天地
57	北京大学学报
58	北方论丛：beifang luncong
59	蘭州大学学报
60	辽宁大学学报
61	求索 / 求索編輯部編輯
62	西域研究 = The Western regions studies
63	鶴見大学紀要
64	首都师范大学学报
65	東洋大学大学院紀要
66	河南大学学报
67	中東研究 = Journal of middle eastern studies
68	超域文化科学紀要 = Interdisciplinary cultural studies / [東京大学/駒場編]
69	華中師範大学学报
70	日本女子大学大学院人間社会研究科紀要
71	中央大学社会科学研究所年報 / 中央大学社会科学研究所 [編]
72	社会論集 / 関東学院大学社会学会 [編集]
73	早稲田社会科学総合研究 / 早稲田大学社会科学学会 [編]
74	大学院研究年報
75	国際開発ジャーナル = International development journal
76	国際社会科学 = Advanced social and international studies / 東京大学大学院総合文化研究科 国際社会科学専攻 [編]
77	武漢大學學報
78	国際日本学：文部科学省21世紀COEプログラム採択日本発信の国際日本学の構築研究成果 報告集 / 法政大学国際日本学研究所・国際日本学研究所 [編]
79	西北師大報
80	東海大学国際文化学部紀要 / 東海大学 [編]
81	大衆文化 = Popular culture / 立教大学江戸川乱歩記念大衆文化研究センター [編]
82	イスラーム地域研究ジャーナル = Journal of Islamic area studies / 早稲田大学イスラーム地域 研究機構
83	公共選択：経済と政治の接点を研究する試み：その理論と現実への適用 / 公共選択学会編
84	変革のアソシエ：資本主義に対抗し、新しい地平を開く、批判的・創造的知性の筋を!
85	ロシア月報 / 外務省欧亚局ロシア課監修
86	厚生指標 / 厚生統計協会
87	季刊労働法 / 労働法学会研究所 [編]
88	社會學研究
89	明治学院大学大学院社会学研究科社会学専攻紀要 / 明治学院大学大学院社会学研究科社 会学専攻 [編]
90	社会学評論 / 日本社会学会編
91	社会学論叢 / 日本大学社会学研究室 [編]
92	週刊社会保障 / 社会保険法規研究会
93	上智大学社会学論集 / 上智大学社会学科 [編]
94	ソシオロジ / 社会学研究会 [編]
95	東洋大学社会学部紀要 / 東洋大学社会学部 [編]
96	関西大学大学院人間科学：社会学・心理学研究 / 関西大学大学院社会学研究科院生協議会 [編集]
97	労働科学：国民の生活と勤労とに関する総合的研究 / 日本労働科学研究所 [編]
98	労働の科学 = Science of labour / 労研・労働科学研究会 [編]
99	社会福祉研究 / 鉄道弘済会弘済会館 [編]
100	南島研究 / 南島研究会
101	社会福祉学 / 日本社会福祉学会編
102	社会事業史研究 / 社会事業史研究会 [編集]
103	日本女子大学紀要
104	人間文化：愛知学院大学人間文化研究所紀要 / 愛知学院大学人間文化研究所
105	厚生統計要覧 / 厚生省大臣官房統計調査部編
106	子ども白書 / 日本子どもを守る会編
107	社会心理学研究 = Research in social psychology
108	社会生活基本調査報告 / 総理府統計局
109	社会分析：社会学研究年報 / 社会分析学会
110	社会保障統計年報 / 総理府社会保障制度審議会事務局編

111	日本労働年鑑 / 大原社会問題研究所編纂
112	防災白書 / 総理府編
113	労働統計要覧 / 内閣統計局
114	労務年鑑 / 日本労務研究会編
115	家族社会学研究 / 家族社会学セミナー編
116	日本労働研究雑誌 / 日本労働研究機構編
117	青少年問題 / 中央青少年問題協議会 [編]
118	The community : コミュニティ / 地域社会研究所 [編]
119	地域学研究 / 日本地域学会 [編]
120	労働経済判例速報 / 日本経営者団体連盟
121	复印报刊資料. C4, 社会学
122	社会学研究
123	貴州民族研究
124	マス・コミュニケーション研究 / 日本マス・コミュニケーション学会
125	発達障害白書 / 日本精神薄弱者福祉連盟 [編]
126	データブック国民生活時間調査 / NHK放送文化研究所 [編]
127	比較家族史研究 / 比較家族史学会 [編]
128	高齢社会白書 / 総務庁編
129	社会志林 / 法政大学社会学部学会 [編]
130	ジェンダー研究 : お茶の水女子大学ジェンダー研究センター年報 = Journal of gender studies / お茶の水女子大学ジェンダー研究センター [編集]
131	発達障害研究 / 日本精神薄弱研究協会編集
132	月刊介護保険
133	異文化交流 / 東海大学外国語教育センター異文化交流研究会 [編]
134	障害者白書 / 総理府編
135	女性白書 / 日本婦人団体連合会編
136	活用労働統計 : 生産性・賃金・物価関連統計 / 日本生産性本部労働部
137	労働経済白書 / 厚生労働省編
138	アンケート調査年鑑
139	世界の社会福祉年鑑 = Global social welfare yearbook
140	子どもの虐待とネグレクト : 日本子どもの虐待防止研究会学術雑誌 / 日本子どもの虐待防止研究会 [編]
141	高齢社会基礎資料 / エイジング総合研究センター [編著]
142	国民生活基礎調査 / 厚生省大臣官房統計情報部編
143	季刊福祉労働 : 障害者・保育・教育の総合誌 : fukushi rodo : the all-round magazine for handicapped person, childcare & education
144	安全と健康 = Industrial safety & health
145	日本労働法学会誌 / 日本労働法学会
146	世界の厚生労働 : 海外情勢報告 / 厚生労働省編
147	女性労働の分析 / 厚生労働省雇用均等・児童家庭局編
148	家計調査年報
149	ソシオロギス / ソシオロギス編集委員会
150	帝京日本文化論集 / 帝京大学日本文化学会 [編集]
151	月刊福祉 / 全国社会福祉協議会 [編]
152	社会政策 = Social policy and labor studies / 社会政策学会編
153	国民生活研究 / 国民生活研究所
154	労働力調査報告 / 総理府統計局 [編] = Monthly report on the labor force survey / Bureau of Statistics, Office of the Prime Minister
155	労働統計年報 = Year book of labor statistics / 労働省大臣官房労働統計調査部 [編]
156	社会と調査 = Advances in social research / 社会調査士資格認定機構 [編集]
157	障害学研究 = Journal of disability studies
158	総合女性史研究 / 総合女性史研究会 [編]
159	日本都市社会学学会年報 = The annals of Japan Association for Urban Sociology / 日本都市社会学学会編
160	消費と生活
161	賃金と社会保障 / 労働旬報社
162	支援 / 「支援」編集委員会 [編]
163	自殺対策白書 / 内閣府 [編]
164	実験社会心理学研究 / 日本グループ・ダイナミックス学会編集
165	社会保障研究 / 国立社会保障・人口問題研究所 [編]
166	英語教育 = The English teachers' magazine

167	学校教育 / 学校教育研究会
168	学校保健研究 / 日本学校保健学会 [編集]
169	季刊教育法
170	教育 / 国土社 [編]
171	教育科学
172	教育社会学研究 / 日本教育社会学会 [編]
173	月刊社会教育 / 国土社 [編]
174	国際基督教大学学報
175	視聴覚教育 = The audio-visual education / 日本映画教育協会
176	児童心理 = Child study
177	社会教育 = Social education
178	体育科教育 / 日本体育指導者連盟編集
179	東京大学史紀要 / 東京大学百年史編集室
180	受験新報
181	教職課程
182	大學時報 / 日本私立大學連盟 [編]
183	内外教育
184	大学資料 / 文部省大学学術局大学課 [編集]
185	別冊教職研修 / 教育開発研究所
186	中央大学保健体育研究所紀要 / 中央大学保健体育研究所
187	東海 : 学校法人東海大学通信
188	保育白書 / 全国保育団体合同研究集会実行委員会
189	留学ジャーナル / 国際文化教育センター
190	道徳と教育 / 日本道徳教育学会 [編]
191	指導と評価 / 日本教育評価研究会
192	月刊生徒指導
193	月刊学校教育相談 / 学校教育相談研究所編
194	生活指導
195	道徳教育
196	理科教室 = The journal of science education / 国土社 [編]
197	事実と創造 / 教授学研究の会
198	進路指導 = Educational & vocational guidance / 日本職業指導協会
199	IDE / 民主教育協会
200	教育展望 / 教育調査研究所
201	実践国語研究 / 全国国語教育実践研究会
202	新英語教育 / 新英語教育研究会
203	教職研修 / 教育開発研究所
204	新しい算数研究 / 算数教育研究会
205	理科の教育 = Science education monthly / 日本理科教育学会
206	月刊教育ジャーナル
207	教育研究 / 初等教育研究会編輯
208	総合教育技術 / 教育技術連盟
209	海外子女教育 / 海外子女教育振興財団
210	視聴覚教育時報 / 全国視聴覚教育連盟
211	教育フォーラム = Education for human growth / 人間教育研究協議会編
212	科学教育研究 / 日本科学教育学会 [編]
213	教育研究
214	教学與研究
215	人民教育
216	中学語文教学
217	中國教育年鑑 / 《中国教育年鑑》编辑部編
218	東海大学紀要 教育研究所
219	教育システム情報学会誌 = Transactions of Japanese Society for Information and Systems in Education / 教育システム情報学会
220	教育国語
221	社会科教育
222	文部科学白書 / 文部科学省編
223	東洋大学文学部紀要
224	文部科学教育通信 / ジアース教育新社 [編]
225	教育アンケート調査年鑑
226	東海大学課程資格教育センター論集 / 東海大学[課程資格教育センター編]

227	日本教育工学会論文誌 / 日本教育工学会
228	奈良女子大学文学部研究教育年報 / 奈良女子大学文学部 [編]
229	人間の発達と教育 : 明治学院大学教職課程論叢 / 明治学院大学文学部 [編]
230	東海大学教育研究年報 / 東海大学 [編]
231	東海大学短期大学部教育研究年報 / 東海大学短期大学部(高輪校舎・静岡校舎) [編]
232	子どもと発達 / 日本発達学会編
233	教育学論集 / 創価大学教育学部・教職大学院 [編]
234	子ども・若者白書 / 内閣府 [編集]
235	大学史研究 / 大学史研究会 [編]
236	VISTA = ビスタ : Tokai University Educational System : 学園教職員をつなぐコミュニケーション・ペーパー / 理事長室広報課 [編]
237	東海大学通信 / 東海大学広報課
238	東海大学学園史ニュース = Tokai Educational System archives news
239	コンピュータ&エデュケーション : CIEC会誌 = Computer & education
240	東海大学七十五年史編纂だより / 東海大学七十五年史編集委員会 [編]
241	東海大学教育開発研究センター研究資料集 = The Center for Educational Research and Development Review, Tokai University / 東海大学教育開発研究センター [編]
242	環境情報科学 = Environmental information science / 環境情報科学センター [編]
243	橋梁と基礎
244	空気清浄 / 日本空気清浄協会
245	空気調和・衛生工学 / 空気調和・衛生工学会 [編]
246	空気調和・衛生工学会論文集 = Transactions of the Society of Heating, Air-conditioning and Sanitary Engineers of Japan / 空気調和・衛生工学会 [編]
247	建設機械 / 日本工業出版
248	高速道路と自動車 / 高速道路調査会 [編]
249	コンクリート工学 / 日本コンクリート会議 [編] = Concrete journal / Japan National Council on Concrete
250	写真測量とリモートセンシング / 日本写真測量学会
251	水道協会雑誌
252	水利科学 / 水利科学研究所
253	セメントコンクリート / 日本セメント技術協会
254	測地学会誌
255	測量 = Surveying / 日本測量協会 [編]
256	竹中技術研究報告 = Takenaka technical research report / 竹中工務店 [編]
257	田中正造と足尾鉾毒事件研究 / 渡良瀬川研究会編集
258	土木學會誌
259	土木技術
260	土木技術資料 / 土木研究会
261	土木施工 : the doboku-seko
262	舗装 / 建設図書 [編]
263	用水と廃水
264	下水道協会誌 = Journal of Japan Sewage Works Association / 日本下水道協会 [編]
265	プレストレストコンクリート : journal of Japan Prestressed Concrete Engineering Association / プレストレストコンクリート技術協会 [編]
266	鉄道ジャーナル
267	鉄道ピクトリアル / 鉄道図書刊行会
268	水環境学会誌 = Journal of Japan Society on Water Environment / 日本水環境学会
269	環境と公害 : 自然と人間の共生を求めて
270	かながわ環境白書 / 神奈川県 [編]
271	下水道年鑑 / 水道産業新聞社編
272	水道年鑑 / 水道産業新聞社編
273	生コン年鑑
274	廃棄物年鑑
275	鉄道総研報告 : 鉄道総合技術論文誌 / 鉄道総合技術研究所 [編]
276	環境と測定技術 / 日本環境測定分析協会
277	月刊下水道
278	公害紛争処理白書 : 我が国の公害紛争処理・土地利用調整の現況 / 公害等調整委員会編
279	環境管理 = Environmental management / 産業環境管理協会 [編]
280	熊谷組技術研究報告 = Kumagai technical research report / 熊谷組技術開発本部 [編]
281	河川 / 河川協会

282	鹿島技術研究所年報 / 鹿島技術研究所 = Annual report / Kajima Technical Research Institute, Kajima Corporation
283	月刊廃棄物
284	大成建設技術センター報 = Report of Taisei Technology Center
285	官公庁環境専門資料
286	首都圏白書 / 国土庁 [編]
287	フジタ技術研究報告 = Fujita technical research report
288	環境情報科学
289	寒地土木研究所月報 = Monthly report, Civil Engineering Research Institute for Cold Region
290	環境ビジネス白書
291	国土技術政策総合研究所年報 / 国土交通省国土技術政策総合研究所 [編] = Yearbook of NILIM / National Institute for Land and Infrastructure Management, Ministry of Land, Infrastructure and Transport
292	地盤工学会誌 / 地盤工学会 [編] = / the Japanese Geotechnical Society
293	環境経済・政策研究 / 環境経済・政策学会編集
294	寒地土木研究所月報
295	環境白書：循環型社会白書/生物多様性白書 / 環境省編

国内雑誌 295種

No.	誌名(国外雑誌)
1	Annales islamologiques / Institut français d'archéologie orientale du Caire
2	History of religions : an international journal for comparative historical studies
3	Islam and the modern age
4	International journal for philosophy of religion
5	Orientalia christiana periodica / Pontificii Instituti Orientalium Studiorum
6	Parabola : the trickster, myth and the quest for meaning
7	Revue d'histoire et de philosophie religieuses / Faculté de théologie protestante de l'Université Strasbourg
8	Revue de l'histoire des religions
9	Revue bénédictine : de critique, d'histoire et de littérature religieuses
10	Hamdard Islamicus
11	Medieval encounters : Jewish, Christian and Muslim culture in confluence and dialogue
12	Bulletin d'histoire bénédictine : supplément à la revue bénédictine
13	З б о р н и к р а д о в а / В и з а н т о л о ш к и и н с т и т у т = Recueil des travaux / Institut d'études byzantines
14	Annales historiques de la Révolution française
15	Byzantion : revue internationale des études byzantines
16	Central European history
17	Greece & Rome
18	Jahreshefte des Österreichischen Archéologischen Institutes in Wien
19	The Journal of Hellenic studies / Society for the Promotion of Hellenic Studies
20	The Journal of Roman studies
21	Klio : Beiträge zur Alten Geschichte / Akademie der Wissenschaften der DDR Zentralinstitut für Alte Geschichte und Archéologie
22	The London journal : a review of Metropolitan Society Past and Present
23	Mnemosyne
24	Rivista storica italiana
25	Slavic review : American quarterly of Soviet and East European studies / American Association for the Advancement of Slavic Studies
26	The Slavonic and East European review
27	Scandinavian journal of history
28	Zeitschrift für bayerische Landesgeschichte / Bayerische Akademie der Wissenschaften, Kommission für Bayerische Landesgeschichte
29	Zeitschrift für die Geschichte des Oberrheins
30	Archeologia : rocznik Towarzystwa Archeologicznego we Wroclawiu
31	Bulgarian historical review = Revue bulgare d'histoire / United Center for Research and Training in History at the Bulgarian Academy of Sciences
32	Revue du monde musulman et de la Méditerranée
33	Т о п о и : orient-occident
34	С л а в я н о в е д е н и е / Р о с с и й с к а я а к а д е м и я н а у к , И н с т и т у т с л а в я н о в е д е н и я и б а л к а н и с т и к и

35	Mediterranean historical review / Aranne School of History, Tel Aviv University
36	Balkanica : annuaire du Comite interacadémique de balkanologie du Conseil des académies des sciences et des arts de la R
37	Archivio storico italiano / Deputazione toscana di storia patria
38	Nottingham mediaeval studies
39	Medieval archaeology : journal of the Society for Medieval Archaeology / Society for Medieval Archaeology
40	Dix-huitième siècle : revue annuelle / publiée par la Société française d'étude du XVIIIe siècle ; avec le concours du C
41	Nikephoros : Zeitschrift für Sport und Kultur im Altertum
42	Mélanges de l'Ecole française de Rome
43	Balto-Scandia / The Association for Balto-Scandinavian Studies
44	Bulletin de la Société française d'étude du XVIIIe siècle
45	Rheinische Vierteljahrsblätter
46	Scandinavian economic history review / Scandinavian Society for Economic and Social History and Historical Geography
47	New surveys in the classics
48	Nikephoros
49	Annales : économies, sociétés, civilisations
50	Behaviormetrika / the Behaviormetric Society of Japan
51	Cahiers d'études africaines / École pratique des hautes études, Sorbonne sixième section: Sciences économiques et sociales
52	Cuadernos americanos
53	Ethics : an international journal of social, political, and legal philosophy
54	Geschichte und Gesellschaft : Zeitschrift für Historische Sozialwissenschaft
55	International review of social history / Internationaal Instituut voor Sociale Geschiedenis
56	The journal of modern African studies : a quarterly survey of politics, economics & related topics in contemporary Africa
57	The Journal of Indo-European studies
58	Modern Asian studies
59	Revue française de sociologie / Centre d'études sociologiques
60	Social sciences information / International Social Science Council = Information sur les sciences sociales / Conceil international des sciences sociales
61	Sociological methods & research / Dept
62	Technology and culture / Society for the History of Technology
63	Urban studies
64	Vierteljahrschrift für Social- und Wirtschaftsgeschichte
65	Amerasia journal : a joint quarterly publication of the UCLA Asian American Studies Center and the Yale Asian American Students Association / Asian American Studies Center, University of California, Los Angeles
66	Recherches sur Diderot et sur l'Encyclopédie
67	Humor : international journal of humor research
68	Organization studies : an international multidisciplinary journal devoted to the study of organizations, organization, organizing and the organized in, of and between societies / the European Group for Organizational Studies
69	Actes de la recherche en sciences sociales
70	Theory and society : renewal and critique in social theory
71	Society : social science and modern
72	Cross-cultural research : the journal of comparative social science
73	Index to social sciences and humanities proceedings
74	Index to social sciences and humanities proceedings / Institute for Scientific Information
75	International review of social history
76	The American journal of sociology
77	L'Année sociologique
78	Archives européennes de sociologie = European journal of sociology = Europäisches Archiv für Soziologie
79	Consumer reports
80	Contributions to Indian sociology
81	The Journal of peasant studies
82	Recht der Arbeit : Zeitschrift für die Wissenschaft und Praxis des Gesamten Arbeitsrechts
83	Social problems

84	Signs : journal of women in culture and society
85	Social history
86	Sociological focus / Ohio Valley Sociological Society
87	Sociology : the journal of the British Sociological Association
88	Zeitschrift für Soziologie
89	Man and life : a journal of the Institute of Social Research and Applied Anthropology
90	Slavery & abolition
91	Sociological perspectives : SP : official publication of the Pacific Sociological Association
92	Cultural dynamics
93	Journal of refugee studies
94	Women : a cultural review
95	European journal of communication
96	Journal of family history : studies in family, kinship and demography
97	Research on aging : a quarterly of social gerontology
98	Ageing and society / Centre for Policy on Ageing and the British Society of Gerontology
99	European sociological review
100	Mélanges de l'École française de Rome
101	Archiv für Sozialgeschichte
102	Comparative sociology
103	Leisure studies : the journal of the Leisure Studies Association
104	Journal of multicultural discourses
105	European journal of ageing
106	Group dynamics : theory, research, and practice
107	Cultural sociology : a journal of the British Sociological Association
108	Educational and psychological measurement
109	Review of educational research / American Educational Research Association
110	Sociology of education / American Sociological Association
111	The Times educational supplement
112	Transactions of the American Society of Civil Engineers
113	Journal of surveying engineering
114	Journal of transportation engineering / American Society of Civil Engineers
115	Journal of waterway, port, coastal, and ocean engineering / American Society of Civil
116	Journal of water resources planning and management / American Society of Civil Engineers, Water Resources Planning and Management Division
117	Journal of urban planning and development
118	Journal of environmental engineering
119	Journal of cold regions engineering / American Society of Civil Engineers, Technical Council on Cold Regions Engineering
120	The structural engineer : journal of the Institution of Structural Engineers
121	Journal of professional issues in engineering education and practice
122	Journal of aerospace engineering
123	Journal of hydrologic engineering / American Society of Civil Engineers, Water Resources Engineering Division
124	Practice periodical on structural design and construction / American Society of Civil Engineers, Construction Division & Structural Division

国外雑誌 124種

文化社会学部文芸創作学科

No.	誌名(国内雑誌)
1	Museum = ミュージアム : 国立博物館美術誌
2	美術科学研究 / 大阪教育大学・美術学科 [編]
3	研究紀要 / 京都市立芸術大学美術学部 [編]
4	藝術新潮
5	國華
6	教育美術 / 教育美術振興會 [編]
7	日本美術年鑑 / 東京文化財研究所 [編集]
8	デザイン学研究 / デザイン学会 [編]
9	東京芸術大学美術学部紀要 / 東京芸術大学美術学部
10	日本大学芸術学部紀要
11	美學 / 美学会編
12	美術史学 / 東北大学美学美術史研究室 [編]
13	美術史研究 / 早稲田大学美術史学会 [編集]
14	月刊文化財 / 文化財保護委員会監修
15	大和文華 / 大和文華館
16	史迹と美術 / 史迹・美術同好會 [編]
17	文化財の虫菌害 / 文化財虫害研究所 [編]
18	月刊美術
19	東京国立近代美術館研究紀要 = Bulletin of the National Museum of Modern Art, Tokyo
20	美術年鑑 = Art annual / 美術年鑑社
21	フィロカリア / 大阪大学文学部美学科
22	芸術研究報
23	芸術研究報 = Bulletin of Institute of Art and Design of the University of Tsukuba / 筑波大学 芸術学系研究報編集委員会
24	故宮文物月刊 = The National Palace Museum monthly of Chinese art
25	美術研究 : 中央美術学院中央美術学院華東分院学报
26	武蔵野美術大学研究紀要 = Bulletin of the Musashino Art University
27	名古屋芸術大学研究紀要 / 名古屋芸術大学
28	BT : 美術手帖 : bijutsu techo : monthly art magazine / 美術出版社
29	デザイン学研究
30	文化財保存修復学会誌 : 古文化財之科学 / 文化財保存修復学会 [編]
31	京都市立芸術大学芸術資料館年報 / 京都市立芸術大学芸術資料館
32	正倉院紀要 / 宮内庁正倉院事務所 [編集]
33	ユネスコ世界遺産年報 = The yearbook of the world heritage / 日本ユネスコ協会連盟 [編集]
34	館報 / ブリヂストン美術館, 石橋美術館 = Annual report / Bridgestone Museum of Art & Ishibashi Museum of Art
35	芸術学研究 = Tsukuba studies in art and design / 筑波大学芸術学研究科 [編]
36	女子美術大学研究紀要 / 女子美術大学 [編集]
37	デザイン学研究作品集 = Annual design review of Japanese Society for the Science of Design / 日本デザイン学会 [編]
38	明治学院大学芸術学研究 / 明治学院大学芸術学会
39	東京芸術大学美術学部論叢 / 東京芸術大学美術学部 [編] = Journal of the Faculty of Fine Arts, Tokyo National University of Fine Arts and Music / the Faculty of Fine Arts, Tokyo National University of Fine Arts and Music
40	藝術文化研究 / 大阪芸術大学大学院芸術文化研究科 [編]
41	美学研究 = Studies in aesthetics & art criticism / 大阪大学大学院美学研究室 [編]
42	広島市立大学芸術学部芸術学研究科紀要
43	文化政策研究 = Cultural policy research : journal of the Japan Association for Cultural Policy Research / 日本文化政策学会 [編集]
44	美術の窓年鑑 : 現代日本の美術
45	聚美 = Shubi
46	東海大学教養学部芸術学科卒業研究要旨, 東海大学芸術学研究科年報
47	待兼山論叢
48	映画藝術
49	演劇界
50	演劇年鑑 / 日本年鑑協会
51	テアトロ : 総合演劇雑誌
52	悲劇喜劇

53	キネマ旬報 / キネマ旬報社編
54	スクリーン：外国映画紹介鑑賞誌 = Screen
55	歌舞伎：研究と批評 / [歌舞伎学会編集]
56	能楽研究：能楽研究所紀要 / 野上記念法政大学能楽研究所 [編]
57	演劇学論叢 / 大阪大学文学部演劇学研究室 [編]
58	シナリオ = Scenario
59	ドラマ / 映人社 [編]
60	Walpurgis / 國學院大學外國語研究室 [編]
61	愛知学院大学語研紀要 / 愛知学院大学語学研究所 [編]
62	言語研究 / 日本言語學會 [編]
63	姫路獨協大学外国語学部紀要 / 姫路獨協大学外国語学部
64	武庫川女子大学言語文化研究所年報 / 武庫川女子大学言語文化研究所
65	杏林大学外国語学部紀要 / 杏林大学外国語学部
66	言語と文化 / 文教大学言語文化研究所
67	中國翻譯 = Chinese translators journal / 中国翻譯工作者协会
68	民族語文
69	内陸アジア言語の研究 / アジア大陸の言語研究班 (神戸市外国語大学)
70	歴史言語学 = Historical linguistics in Japan
71	東海大学国際教育センター所報 (英語教育部門・国際言語教育部門) / 東海大学 [編]
72	東海大学紀要
73	日本語学 / 明治書院 [編]
74	計量国語学 / 計量国語学会 [編]
75	AJALT : Association for Japanese-Language Teaching : アジャルト / 国際日本語普及協会 [編]
76	日本語教育 / 日本語教育学会 [編]
77	日本語教育研究 / 言語文化研究所 [編]
78	日本語の研究 / 日本語学会 [編]
79	日本語文法 / 日本語文法学会編集
80	新國學 / 国学院大学院友振興學術会 [編]
81	日本語/日本語教育研究 / 日本語/日本語教育研究会 [編] = Studies in Japanese language and Japanese language teaching / Association of Japanese Language and Japanese Language Teaching
82	Hir@gana times
83	東海大学大学院日本語教育学論集 / 東海大学大学院文学研究科日本文学科日本語教育学コース [編]
84	中国語研究
85	語文建設
86	中國語文
87	方言
88	漢字文化 / 漢字文化雑誌編集部 [編]
89	新しい漢字漢文教育 / 全国漢文教育学会 [編]
90	立命館白川静記念東洋文字文化研究所紀要 / 立命館大學白川静記念東洋文字文化研究所
91	獨協大学ドイツ学研究 = Dokkyo Universitét Doitsugaku(Germanistik)-kenkyu / 獨協大学學術研究会
92	ふらんす
93	ロシア語ロシア文学研究 / 日本ロシア文学会
94	エスペラント La revuo orienta / 日本エスペラント学会
95	愛知学院大学文学部紀要 / 愛知学院大学文学会
96	愛知大學文學論叢 / 愛知大學文學會
97	研究年報 / 學習院大學文學部
98	ユリイカ：詩と詩論 = Eureka
99	千里山文學論集 / 関西大学大学院文学研究科院生協議会 [編集]
100	伝承文学研究 / 伝承文学研究会 [編]
101	東海大学紀要. 文学部
102	日本女子大学紀要
103	比較文学 / 日本比較文学会
104	比較文学研究 = Etudes de littérature comparée / 東大比較文学会 [編]
105	文學藝術 / 共立女子大学文學藝術研究所 [編]
106	文学部紀要 / 中京大学學術研究会
107	岡山大学文学部紀要 / 岡山大学文学部
108	詩・言語 / 詩・言語同人会 [編]
109	フェリス女学院大学文学部紀要

110	立正大学文学部研究紀要
111	表現研究 / 表現学会 [編]
112	花城
113	作品 = Zuopin
114	收穫
115	十月：文艺丛书 / 北京出版社 [編輯]
116	芒种：文学月刊
117	文学研究論集：文学・史学・地理学 = Studies in arts & letters : literature, history, geography / 明治大学大学院文学研究科
118	日本女子大学大学院文学研究科紀要 / 日本女子大学 [編]
119	東北大学文学研究科研究年報 / 東北大学大学院文学研究科 [編]
120	大学院研究年報
121	皇學館大學紀要
122	解釈：国語・国文 / 解釈学会編集
123	近世文藝 / 日本近世文學會 [編]
124	軍記と語り物 / 軍記物談話会 [編]
125	群像
126	国文学言語と文芸
127	國語國文 / 京都帝國大學國文學會編
128	国語国文学研究 / 熊本大学法文学部国語国文学会 [編集]
129	國語と国文学
130	島崎藤村研究 / 島崎藤村研究会
131	湘南文学 / 東海大学日本文学研究会 [編]
132	新潮
133	玉藻 / フェリス女学院大学国文学会 [編]
134	中世文學
135	日本児童文学 / 児童文学者協会
136	日本文学 / 日本文学協會 [編]
137	日本文學論究 / 國学院大学文学会 [編]
138	日本文藝研究 / 關西學院大學日本文學會 [編]
139	農民文学 / 日本農民文学会 [編]
140	俳句 / 角川書店
141	佛教文學 / 仏教文学研究会 [編集]
142	文學界
143	文学論藻 / 東洋大學國文學會編
144	文藝
145	文芸研究 / 明治大学文芸研究会 [編]
146	萬葉 / 萬葉學會 [編輯]
147	明治大学日本文学 / 明治大学日本文学土曜会
148	山辺道：国文学研究誌 / 天理大学国文学研究室
149	立教大学日本文学 / 立教大学日本文学会 [編]
150	連歌俳諧研究 / 俳文學會
151	和歌文學研究
152	短歌 / 角川書店 [編]
153	文学・語学 / 全国大学国語国文学会編
154	中古文学 / 中古文学会 [編集]
155	日本近代文学 / 日本近代文学会 [編]
156	現代詩手帖
157	すばる：昂：文芸季刊誌
158	三田文學 / 三田文學會
159	短歌研究
160	社会文学 / 日本社会文学会 [編]
161	新潟大学国語国文学会誌 / 新潟大学人文学部国文学会
162	文藝年鑑 / 文藝家協會 [編]
163	近代文学研究 / 日本文学協會近代部会
164	佐賀大國文 / 佐賀大学教育学部国語国文学会
165	昭和文学研究 / 昭和文学研究会
166	鷗外 / 森鷗外記念會 [編]
167	日本現代詩歌研究 / 日本現代詩歌文学館
168	文藝工房 / 文芸ワークショップ(言語芸術学特講)「文藝工房」編集委員会
169	文藝研究 / 日本文藝研究會 [編]

170	草野心平研究 / 草野心平研究会 [編]
171	物語研究 / 物語研究会 [編]
172	国文学研究資料館紀要

国内雑誌 172種

No.	誌名(国外雑誌)
1	The Art bulletin
2	Art journal / College Art Association of America
3	Artibus Asiae / Institute of Fine Arts, New York University
4	Arts asiatiques : annales du musée Guimet et du musée Cernuschi
5	The British journal of aesthetics / British Society of Aesthetics
6	Bulletin / Metropolitan Museum of Art
7	The Burlington magazine
8	Gesta / International Center of Romanesque Art
9	Journal of the Warburg and Courtauld Institutes
10	Metropolitan Museum journal
11	Studies in conservation : journal of the International Institute for Conservation of Museum Objects = Études de Conservation / International Institute for Conservation of Museum
12	Zeitschrift für Kunstgeschichte
13	Zeitschrift für Ästhetik und allgemeine Kunstwissenschaft
14	Word & image
15	Leonardo : international journal of the contemporary artist
16	Wiener Jahrbuch für Kunstgeschichte / Institut für Österreichische Kunstforschung des Bundesdenkmalamtes
17	Revue de l'art / Comité français d'histoire de l'art
18	Muqarnas : an annual on Islamic art and architecture
19	Journal für Kunstgeschichte : Die internationale Rezensionszeitschrift
20	Arte cristiana : rivista mensile illustrata
21	Paragone
22	Revue du Louvre : la revue des musées de France
23	Bollettino d'arte
24	Arte medievale
25	Dialog : miesięcznik poświęcony dramaturgii współczesnej
26	Classical philology : a quarterly journal devoted to research in the language, literatures, history, and life of classical antiquity
27	Harvard studies in classical philology / Harvard University
28	Journal of linguistics / Linguistics Association of Great Britain
29	Journal of psycholinguistic research
30	Journal of child language
31	Language : journal of the Linguistic Society of America
32	Language in society
33	Linguistics and philosophy
34	Modern language review : quarterly journal devoted to the study of medieval and modern literature and philology
35	Nordic journal of linguistics / Universitets for Laget
36	Ord och bild
37	Philologus : Zeitschrift für das Classische Alterthum / Zentralinstitut für Alte Geschichte und Archéologie der Akademie der Wissenschaften der DDR
38	PMLA : publications of the Modern Language Association of America / Modern Language Association of America
39	Revue de philologie, de littérature et d'histoire anciennes
40	Sprache : Zeitschrift für Sprachwissenschaft / Wiener Sprachgesellschaft
41	Virittéjé
42	Danske studier / Universitets-Jubilaets Danske Samfund
43	The linguistic review
44	Semiotica
45	Multilingua
46	International journal of the sociology of language
47	Applied linguistics
48	Linguistic inquiry
49	Natural language & linguistic theory

50	Abhandlungen der Akademie der Wissenschaften zu Göttingen
51	Language and intercultural communication
52	Studies in second language acquisition
53	Journal of applied linguistics and professional practice
54	Zeitschrift für arabische Linguistik = Journal of linguistique Arabe
55	Türkologiya
56	English teaching forum : facts and ideas for the teacher of English as a foreign language
57	English studies
58	English linguistics : journal of the English Linguistic Society of Japan
59	English today
60	Studies in English literature / the English Literary Society of Japan
61	Kratylos : Kritisches Berichts- und Rezensionsorgan für Indogermanische und Allgemeine Sprachwissenschaft / Aufträge der Indogermanischen Gesellschaft
62	Zeitschrift für Balkanologie
63	Hermes : Zeitschrift für Classische Philologie
64	Mittellateinisches Jahrbuch
65	Slavia orientalis / Polska Akademia Nauk
66	Slovo a slovesnost / Československa akademie věd peci Ústavu pro jazyk český
67	Turcica : revue d'études turques
68	Zeitschrift für Slawistik / Akademie der Wissenschaften der D
69	Enchoria : Zeitschrift für Demotistik und Koptologie / Otto Harrassowitz
70	Не в а / С о ю з п и с а т е л е й Р С Ф С Р
71	The Classical journal
72	The classical quarterly
73	The classical review
74	Classical world

国外雑誌 74種

文化社会学部広報メディア学科

No.	誌名(国内雑誌)
1	日経コンピュータ = Nikkei computer
2	理大科学フォーラム : 東京理科大学科学教養誌
3	電子情報通信学会技術研究報告
4	Software design = ソフトウェアデザイン
5	技報 = Technical report & information / 早稲田大学理工学術院技術部 [編]
6	Web+DB press = ウェブDBプレス
7	新聞研究 / 日本新聞協会 [編]
8	朝日新聞 [東京] / 朝日新聞東京本社
9	新聞ダイジェスト
10	新文化 / 新文化通信社
11	図書新聞
12	日本新聞年鑑 = Japanese newspaper annual
13	読書新聞
14	新聞戦線 / 中華全国新聞工作者協会 [編]
15	メディア史研究 = Media history / メディア史研究会
16	都新聞
17	日刊工業新聞
18	法制日報
19	経済参考報
20	日本教育新聞
21	政府刊行物新聞
22	社会新報
23	新文化
24	週刊読書人
25	東亜日報
26	官報
27	官報目録 / 太政官文書局 [編]
28	朝日新聞
29	毎日新聞
30	日本経済新聞
31	日本情報産業新聞
32	生産性新聞 / 社会経済生産性本部メディアセンター [編]
33	新美術新聞 : the shin bijutsu shinbun
34	環境新聞
35	神奈川新聞
36	産経新聞
37	日刊スポーツ
38	東海大学新聞 / 学校法人東海大学新聞編集委員会 [編]
39	日刊電波新聞 / 電波新聞社
40	電気新聞
41	化学工業日報
42	科学新聞
43	文匯報
44	新聞協會報 / 日本新聞協会
45	日経産業新聞
46	日経流通新聞
47	北京晩報, 19--
48	人民日報
49	光明日報
50	ジャーナリズム&メディア / 日本大学法学部新聞学研究所 [編]
51	中国能源報
52	沖縄タイムス
53	河北新報
54	四國新聞
55	中國新聞
56	中日新聞
57	新潟日報
58	西日本新聞

59	北海道新聞
60	東京新聞
61	信濃毎日新聞
62	旬刊旅行新聞：業界人のための業界専門紙 = The ryoko shimbun
63	交通新聞
64	週刊観光経済新聞 / 観光経済新聞社 [編]
65	The Japan times ST
66	北國新聞
67	大學新聞
68	厚生指標 / 厚生統計協会
69	季刊労働法 / 労働法研究所 [編]
70	社會學研究
71	明治学院大学大学院社会学研究科社会学専攻紀要 / 明治学院大学大学院社会学研究科社会学専攻 [編]
72	社会学評論 / 日本社会学会編
73	社会学論叢 / 日本大学社会学研究室 [編]
74	週刊社会保障 / 社会保険法規研究会
75	上智大学社会学論集 / 上智大学社会学科 [編]
76	ソシオロジ / 社会学研究会 [編]
77	東洋大学社会学部紀要 / 東洋大学社会学部 [編]
78	関西大学大学院人間科学：社会学・心理学研究 / 関西大学大学院社会学研究科院生協議会 [編集]
79	労働科学：国民の生活と勤労とに関する総合的研究 / 日本労働科学研究所 [編]
80	労働の科学 = Science of labour / 労研・労働科学研究会 [編]
81	社会福祉研究 / 鉄道弘済会弘済会館 [編]
82	南島研究 / 南島研究会
83	社会福祉学 / 日本社会福祉学会編
84	社会事業史研究 / 社会事業史研究会 [編集]
85	日本女子大学紀要
86	人間文化：愛知学院大学人間文化研究所紀要 / 愛知学院大学人間文化研究所
87	厚生統計要覧 / 厚生省大臣官房統計調査部編
88	子ども白書 / 日本子どもを守る会編
89	社会心理学研究 = Research in social psychology
90	社会生活基本調査報告 / 総理府統計局
91	社会分析：社会学研究年報 / 社会分析学会
92	社会保障統計年報 / 総理府社会保障制度審議会事務局編
93	日本労働年鑑 / 大原社会問題研究所編纂
94	防災白書 / 総理府編
95	労働統計要覧 / 内閣統計局
96	労務年鑑 / 日本労務研究会編
97	家族社会学研究 / 家族社会学セミナー編
98	日本労働研究雑誌 / 日本労働研究機構編
99	青少年問題 / 中央青少年問題協議会 [編]
100	The community：コミュニティ / 地域社会研究所 [編]
101	地域学研究 / 日本地域学会 [編]
102	労働経済判例速報 / 日本経営者団体連盟
103	复印报刊资料. C4, 社会学
104	社会学研究
105	貴州民族研究
106	マス・コミュニケーション研究 / 日本マス・コミュニケーション学会
107	発達障害白書 / 日本精神薄弱者福祉連盟 [編]
108	データブック国民生活時間調査 / NHK放送文化研究所 [編]
109	比較家族史研究 / 比較家族史学会 [編]
110	高齢社会白書 / 総務庁編
111	社会志林 / 法政大学社会学部学会 [編]
112	ジェンダー研究：お茶の水女子大学ジェンダー研究センター年報 = Journal of gender studies / お茶の水女子大学ジェンダー研究センター [編集]
113	発達障害研究 / 日本精神薄弱研究協会編集
114	月刊介護保険
115	異文化交流 / 東海大学外国語教育センター異文化交流研究会 [編]
116	障害者白書 / 総理府編

117	女性白書 / 日本婦人団体連合会編
118	活用労働統計：生産性・賃金・物価関連統計 / 日本生産性本部労働部
119	労働経済白書 / 厚生労働省編
120	アンケート調査年鑑
121	世界の社会福祉年鑑 = Global social welfare yearbook
122	子どもの虐待とネグレクト：日本子どもの虐待防止研究会学術雑誌 / 日本子どもの虐待防止研究会 [編]
123	高齢社会基礎資料 / エイジング総合研究センター [編著]
124	国民生活基礎調査 / 厚生省大臣官房統計情報部編
125	季刊福祉労働：障害者・保育・教育の総合誌：fukushi rodo：the all-round magazine for handicapped person, childcare & education
126	安全と健康 = Industrial safety & health
127	日本労働法学会誌 / 日本労働法学会
128	世界の厚生労働：海外情勢報告 / 厚生労働省編
129	女性労働の分析 / 厚生労働省雇用均等・児童家庭局編
130	ソシオロギス / ソシオロギス編集委員会
131	帝京日本文化論集 / 帝京大学日本文化学会 [編集]
132	月刊福祉 / 全国社会福祉協議会 [編]
133	社会政策 = Social policy and labor studies / 社会政策学会編
134	国民生活研究 / 国民生活研究所
135	労働力調査報告 / 総理府統計局 [編] = Monthly report on the labor force survey / Bureau of Statistics, Office of the Prime Minister
136	労働統計年報 = Year book of labor statistics / 労働省大臣官房労働統計調査部 [編]
137	家計調査年報
138	社会と調査 = Advances in social research / 社会調査士資格認定機構 [編集]
139	障害学研究 = Journal of disability studies
140	総合女性史研究 / 総合女性史研究会 [編]
141	日本都市社会学会年報 = The annals of Japan Association for Urban Sociology / 日本都市社会学会編
142	消費と生活
143	賃金と社会保障 / 労働旬報社
144	支援 / 「支援」編集委員会 [編]
145	自殺対策白書 / 内閣府 [編]
146	実験社会心理学研究 / 日本グループ・ダイナミクス学会編集
147	社会保障研究 / 国立社会保障・人口問題研究所 [編]
148	生産研究 / 東京大学生産技術研究所
149	玉川大学工学部紀要 / 玉川大学工学部 [編]
150	東海大学紀要. 工学部
151	東北学院大学工学部研究報告 = Science and engineering reports of North Japan College / 東北学院大学工学会 [編]
152	人間工学 = The Japanese journal of ergonomics / 日本人間工学会 [編集]
153	熱測定：netsu / 日本熱測定学会 [編] = Calorimetry and thermal analysis / the Society of Calorimetry and Thermal Analysis, Japan
154	非破壊検査：journal of N
155	標準化と品質管理 / 日本規格協会
156	福山大学工学部紀要 / 福山大学工学部
157	防衛大学校理工学研究報告 / 防衛大学校 [編]
158	北海学園大学工学部研究報告 / 北海学園大学工学部 [編]
159	明治大学科学技術研究所紀要 / 明治大学 [編] = Memoirs of the Institute of Sciences and Technology, Meiji University / Meiji University
160	明治大学科学技術研究所年報 / 明治大学科学技術研究所 [編]
161	日立評論 / 日立評論編集部 [編]
162	バリューエンジニアリング / 日本VE協会
163	太陽エネルギー = Solar energy / 日本太陽エネルギー学会編集委員会 [編集]
164	技術と経済 / 科学技術と経済の会 [編]
165	エネルギーレビュー：広く詳しく正確な情報・評論
166	技苑 / 関西大学工業技術研究所 [編集]
167	材料と環境：zairyo-to-kankyo / 腐食防食協会 [編]
168	可視化情報学会誌 = Journal of the Visualization Society of Japan / 可視化情報学会
169	VE資料

170	科学技術白書 / 科学技術庁 [編]
171	技術と文明 : 日本産業技術史学会会誌
172	システム/制御/情報 : システム制御情報学会誌 = Systems, control and information / システム制御情報学会
173	国土館大学理工学研究所報告 = Bulletin of Science and Engineering Research Institute, Kokushikan University / 国土館大学
174	科学技術要覧 / 科学技術庁計画局 [編]
175	Ricoh technical report / リコー技術本部
176	日本色彩学会誌 / 日本色彩学会
177	Readout : Horiba technical reports / 堀場製作所
178	設計工学 : 日本設計工学会誌 : journal of Japan Society for Design Engineering / 日本設計工学会 [編]
179	シミュレーション / 日本シミュレーション学会
180	太陽/風力エネルギー講演論文集 / 日本太陽エネルギー学会, 日本風力エネルギー協会 [編] = Proceedings of JSES/JWEA Joint Conference / Japan Solar Energy Society, Japan Wind Energy Association
181	日本ロボット学会誌
182	新菱冷熱中央研究所報
183	マテリアルフロー = Material flow
184	日本経営工学会論文誌 = Journal of Japan Industrial Management Association / 日本経営工学会 [編]
185	システム制御情報学会論文誌 / システム制御情報学会
186	日本大学工学部紀要 / 日本大学工学部 [編]
187	研究年報 / 日本放送協会放送技術研究所 [編]
188	研究所報告 / 大阪府立産業技術総合研究所 [編集]
189	神奈川大学工学部報告 = Reports of Faculty of Engineering, Kanagawa University / 神奈川大学工学部 [編集]
190	材料の科学と工学 / 日本材料科学会 [編] = Materials science and technology / the Materials Science Society of Japan
191	知能と情報 : 日本知能情報ファジィ学会誌 : journal of Japan Society for Fuzzy Theory and Intelligent Informatics / 日本知能情報ファジィ学会 [編]
192	広島大学大学院工学研究科研究年報 = Bulletin of the Graduate School of Engineering, Hiroshima University / 広島大学大学院工学研究科 [編]
193	西日本工業大学紀要 / 西日本工業大学 [編] = Memoirs of Nishinippon Institute of Technology / Nishinippon Institute of Technology
194	エネルギー白書 / 経済産業省編
195	大学院研究年報. 理工学研究科篇 / 中央大学 [編]
196	大分大学工学部研究報告 / 大分大学工学部
197	理工学と技術 : 関西大学理工学会誌 = Engineering & technology
198	Science and technology reports of Kansai University = 関西大学理工学研究報告
199	国土館大学理工学部紀要 / 国土館大学理工学部 [編集]
200	クリーンテクノロジー = Clean technology / クリーンテクノロジー編集委員会 [編集]
201	知財ぷりずむ : 知的財産情報会報 / 経済産業調査会知的財産情報センター [編]
202	月刊トライボロジ : 潤滑とシールの技術情報誌 : the Practice and technology of lubrication and sealing
203	東海大学紀要. 総合科学技術研究所
204	東海大学紀要. 生物学部
205	JLMA journal = 日本照明工業会報
206	資源・エネルギー統計年報
207	商学研究 / 日本大学商学部商学研究所 [編]
208	販売革新 = A revolution in retailing
209	広告科学 / 日本広告学会 [編集]
210	高千穂論叢 / 高千穂商科大学商学会
211	国際商業
212	広告
213	マーケティング・サイエンス : 日本マーケティング・サイエンス学会研究報告 / 日本マーケティング・サイエンス学会
214	商業統計表. 流通経路別統計編(卸売部門)
215	慶應商学論集 = Keio business and commerce review / 慶應商学論集編集委員会 [編]
216	ACCCM年鑑 = Annual of All Japan Radio/TV Commercial Council
217	ストアーズレポート = The Stores report

218	百貨店調査年鑑
219	貿易統計年鑑 / 国際連合統計部 [編]
220	Tokyo Art Directors Club annual
221	年鑑日本の空間デザイン : ディスプレイ・サイン・商環境 / 年鑑日本の空間デザイン刊行委員会編集部会
222	通商白書 / 通商産業省編
223	貿易と関税 = The tariffs and trade / 日本関税協会 [編]
224	商学研究論集 / 明治大学大学院商学研究科 [編] = Studies in commerce / Meiji University Graduate School
225	我が国の商業 / 通商産業大臣官房調査統計部 [編集]
226	ブレーン : 広告とマーケティング = Brain
227	大学院研究年報
228	コピー年鑑
229	日経広告研究所広告白書 / 日経広告研究所編
230	宣伝会議
231	ロシア連邦貿易通関統計 : 統計集 / ロシア連邦国家関税委員会 [編]
232	プラント輸出データ便覧 / 重化学工業通信社 [編]
233	商業統計表. 業態別統計編
234	商業統計表. 産業編
235	商業統計表. 品目編
236	商業統計表. 立地環境特性別統計編
237	ジェトロ世界貿易投資報告 / JETRO [編]
238	ホスピタリティ・マネジメント = Hospitality management / 亜細亜大学経営学部 [編]
239	ジェトロセンサー : 国際ビジネス情報 = Jetro sensor
240	販促会議 : top promotion's
241	JPM promotional solution exhibit
242	月刊放送ジャーナル : ミニコミとマスコミの総合誌 / 放送ジャーナル社 [編]
243	月刊民放 / 日本民間放送連盟
244	放送レポート / 放送レポート編集委員会
245	NHK技研R&D / 日本放送協会放送技術研究所 [編]
246	NHK年鑑 = Radio & television year book / 日本放送協会編

国内雑誌 246種

No.	誌名 (国外雑誌)
1	Proceedings of the School of Information Science and Technology, Tokai University / School of Information Science and Technology, Tokai University
2	Journal of simulation : JOS
3	The New York times / New York Times
4	The Statesman's year-book : statistical and historical account of the states of the civilised
5	The Guardian
6	The Guardian weekly
7	И з в е с т и я , 1---
8	Le Monde
9	The New York times
10	The Times
11	Die Welt : Unabhängige Tageszeitung für Deutschland
12	The Japan times
13	The Financial times
14	The American journal of sociology
15	L'Année sociologique
16	Archives européennes de sociologie = European journal of sociology = Europäisches Archiv für Soziologie
17	Consumer reports
18	Contributions to Indian sociology
19	The Journal of peasant studies
20	Recht der Arbeit : Zeitschrift für die Wissenschaft und Praxis des Gesamten Arbeitsrechts
21	Social problems
22	Signs : journal of women in culture and society
23	Social history
24	Sociological focus / Ohio Valley Sociological Society
25	Sociology : the journal of the British Sociological Association

26	Zeitschrift für Soziologie
27	Man and life : a journal of the Institute of Social Research and Applied Anthropology
28	Slavery & abolition
29	Sociological perspectives : SP : official publication of the Pacific Sociological Association
30	Cultural dynamics
31	Journal of refugee studies
32	Women : a cultural review
33	European journal of communication
34	Journal of family history : studies in family, kinship and demography
35	Research on aging : a quarterly of social gerontology
36	Ageing and society / Centre for Policy on Ageing and the British Society of Gerontology
37	European sociological review
38	Mélanges de l'École française de Rome
39	Archiv für Sozialgeschichte
40	Comparative sociology
41	Leisure studies : the journal of the Leisure Studies Association
42	Journal of multicultural discourses
43	European journal of ageing
44	Group dynamics : theory, research, and practice
45	Cultural sociology : a journal of the British Sociological Association
46	Ergonomics : an international journal devoted to the scientific study of human factors in relation to working environments and equipment design : the official publication of the Ergonomics Society International Ergonomic
47	Human factors : the journal of the Human Factors Society
48	International journal of production research / American Institute of Industrial Engineers
49	International journal of systems science
50	Automation and remote control / Academy of Science of the USSR
51	Materials evaluation
52	Report of the Research Institute of Industrial Technology, Nihon University
53	Cybernetics and systems
54	The International journal of robotics research
55	Journal of vacuum science & technology
56	Journal of energy engineering
57	Ergodic theory and dynamical systems
58	History and technology
59	Connection science : journal of neural computing, artificial intelligence and cognitive research
60	Journal of materials science
61	Journal of composite materials
62	Materials and structures
63	Measurement + control
64	Proceedings of the School of Engineering of Tokai University
65	International journal of bifurcation and chaos in applied sciences and engineering
66	Journal of legal affairs and dispute resolution in engineering and construction
67	Flexible services and manufacturing journal
68	Journal of nanomechanics & micromechanics / American Society of Civil Engineers, Engineering Mechanics Institute
69	Media culture & society
70	The international communication gazette
71	History of retailing & consumption
72	English teaching forum : facts and ideas for the teacher of English as a foreign language

国外雑誌 72種

文化社会学部心理・社会学科

No.	誌名(国内雑誌)
1	基礎心理学研究 / 日本基礎心理学会
2	応用心理学研究 = Japanese journal of applied psychology / 日本応用心理学会 [編]
3	教育心理学年報 / 日本教育心理学会編集
4	行動計量学 / 日本行動計量学会 [編]
5	上智大学心理学年報 / 上智大学心理学科 [編]
6	心理學研究 / 日本心理學會編輯
7	心理学評論
8	日本大学心理学研究 / 日本大学心理学会
9	教育心理学研究 / 日本教育心理学協会編集
10	カウンセリング研究 / 日本カウンセリング学会 [編集]
11	心理臨床学研究 = Journal of Japanese clinical psychology / 日本心理臨床学会 [編]
12	こころの科学 = Human mind
13	心理学报
14	明治学院大学心理学紀要 / 明治学院大学心理学会
15	臨床心理学 = Japanese journal of clinical psychology
16	日本音楽療法学会誌 = The journal of Japanese Music Therapy Association / 日本音楽療法学会 [編]
17	愛知大学国際問題研究所紀要 / 愛知大学国際問題研究所 [編]
18	イベロアメリカ研究 / 上智大学イベロアメリカ研究所
19	季刊行政管理研究 / 行政管理研究センター
20	警察學論集 / 中央警察學校
21	藝能史研究 / 藝能史研究會
22	国際関係学研究 / 津田塾大学
23	国際政治 / 日本国際政治学会編
24	國家學會雜誌
25	政治經濟史学 / 政治經濟史学会日吉史塾 [編集]
26	前衛 : the zenei : 日本共産黨中央機關雜誌
27	東海大學紀要
28	都市政策 / 神戸都市問題研究所 [編]
29	都市問題 / 東京市政調査會 [編]
30	広島平和科学 / 広島大学平和科学研究所
31	部落問題研究 / 部落問題研究所
32	平和研究 = Peace studies / 日本平和学会 [編]
33	広報 / 日本広報協会 [編集]
34	地方自治 / 地方自治研究會編纂
35	人事院月報 / 人事院事務総局広報局 [編]
36	選挙
37	時の法令 / 法令普及会 [編]
38	東亜
39	アジア時報 / アジア調査会
40	渋沢研究 / 渋沢研究会編集
41	亜細亜大学国際関係紀要 / 亜細亜大学国際関係学会, 亜細亜学園創立50周年記念学術論文 集編纂小委員会
42	外交史料館報 / 外務省外交史料館 [編]
43	警察白書 : 警察活動の現況 / 警察庁編
44	公務員白書 / 人事院編
45	消防白書 / 国家消防本部教養課編
46	学習院大学大学院政治学研究科政治学論集
47	自治実務セミナー / 良書普及会 [編]
48	レヴァイアサン = Leviathan
49	政治学研究論集 / 明治大学大学院政治経済学研究科
50	アジア動向年報 / アジア経済研究所
51	月刊地方自治職員研修 / 公職研 [編]
52	年報政治學 / 日本政治學會編
53	中国民族 = China ethnicity
54	地方自治職員研修
55	季報情報公開個人情報保護 / 行政管理研究センター [編集] = / Institute of Administrative Management

56	年報行政研究 / 日本行政学会編
57	人権と部落問題 / 部落問題研究所 [編]
58	フォーリン・アフェアーズリポート = Foreign affairs report
59	地方公務員月報 / 自治省行政局公務員課
60	地域づくり：明日をひらく地域活性化のための情報誌
61	外交 = Diplomacy
62	島嶼研究ジャーナル = The journal of islands studies / 島嶼資料センター [編]
63	厚生指標 / 厚生統計協会
64	季刊労働法 / 労働法学的研究所 [編]
65	社会学研究
66	明治学院大学大学院社会学研究科社会学専攻紀要 / 明治学院大学大学院社会学研究科社会学専攻 [編]
67	社会学評論 / 日本社会学会編
68	社会学論叢 / 日本大学社会学研究室 [編]
69	週刊社会保障 / 社会保険法規研究会
70	上智大学社会学論集 / 上智大学社会学科 [編]
71	ソシオロジ / 社会学研究会 [編]
72	東洋大学社会学部紀要 / 東洋大学社会学部 [編]
73	関西大学大学院人間科学：社会学・心理学研究 / 関西大学大学院社会学研究科院生協議会 [編集]
74	労働科学：国民の生活と勤労とに関する総合的研究 / 日本労働科学研究所 [編]
75	労働の科学 = Science of labour / 労研・労働科学研究会 [編]
76	社会福祉研究 / 鉄道弘済会弘済会館 [編]
77	南島研究 / 南島研究会
78	社会福祉学 / 日本社会福祉学会編
79	社会事業史研究 / 社会事業史研究会 [編集]
80	日本女子大学紀要
81	人間文化：愛知学院大学人間文化研究所紀要 / 愛知学院大学人間文化研究所
82	厚生統計要覧 / 厚生省大臣官房統計調査部編
83	子ども白書 / 日本子どもを守る会編
84	社会心理学研究 = Research in social psychology
85	社会生活基本調査報告 / 総理府統計局
86	社会分析：社会学研究年報 / 社会分析学会
87	社会保障統計年報 / 総理府社会保障制度審議会事務局編
88	日本労働年鑑 / 大原社会問題研究所編纂
89	防災白書 / 総理府編
90	労働統計要覧 / 内閣統計局
91	労務年鑑 / 日本労務研究会編
92	家族社会学研究 / 家族社会学セミナー編
93	日本労働研究雑誌 / 日本労働研究機構編
94	青少年問題 / 中央青少年問題協議会 [編]
95	The community：コミュニティ / 地域社会研究所 [編]
96	地域学研究 / 日本地域学会 [編]
97	労働経済判例速報 / 日本経営者団体連盟
98	社会学研究
99	マス・コミュニケーション研究 / 日本マス・コミュニケーション学会
100	発達障害白書 / 日本精神薄弱者福祉連盟 [編]
101	比較家族史研究 / 比較家族史学会 [編]
102	高齢社会白書 / 総務庁編
103	社会志林 / 法政大学社会学部学会 [編]
104	ジェンダー研究：お茶の水女子大学ジェンダー研究センター年報 = Journal of gender studies / お茶の水女子大学ジェンダー研究センター [編集]
105	発達障害研究 / 日本精神薄弱研究協会編集
106	月刊介護保険
107	異文化交流 / 東海大学外国語教育センター異文化交流研究会 [編]
108	障害者白書 / 総理府編
109	女性白書 / 日本婦人団体連合会編
110	活用労働統計：生産性・賃金・物価関連統計 / 日本生産性本部労働部
111	労働経済白書 / 厚生労働省編
112	アンケート調査年鑑
113	世界の社会福祉年鑑 = Global social welfare yearbook

114	子どもの虐待とネグレクト：日本子どもの虐待防止研究会学術雑誌 / 日本子どもの虐待防止研究会 [編]
115	高齢社会基礎資料 / エイジング総合研究センター [編著]
116	国民生活基礎調査 / 厚生省大臣官房統計情報部編
117	季刊福祉労働：障害者・保育・教育の総合誌：fukushi rodo : the all-round magazine for handicapped person, childcare & education
118	安全と健康 = Industrial safety & health
119	日本労働法学会誌 / 日本労働法学会
120	世界の厚生労働：海外情勢報告 / 厚生労働省編
121	女性労働の分析 / 厚生労働省雇用均等・児童家庭局編
122	家計調査年報
123	ソシオロギス / ソシオロギス編集委員会
124	帝京日本文化論集 / 帝京大学日本文化学会 [編集]
125	月刊福祉 / 全国社会福祉協議会 [編]
126	社会政策 = Social policy and labor studies / 社会政策学会編
127	国民生活研究 / 国民生活研究所
128	労働力調査報告 / 総理府統計局 [編] = Monthly report on the labor force survey / Bureau of Statistics, Office of the Prime Minister
129	労働統計年報 = Year book of labor statistics / 労働省大臣官房労働統計調査部 [編]
130	データブック国民生活時間調査 / NHK放送文化研究所 [編]
131	社会と調査 = Advances in social research / 社会調査士資格認定機構 [編集]
132	障害学研究 = Journal of disability studies
133	総合女性史研究 / 総合女性史研究会 [編]
134	日本都市社会学会年報 = The annals of Japan Association for Urban Sociology / 日本都市社会学会編
135	消費と生活
136	賃金と社会保障 / 労働旬報社
137	支援 / 「支援」編集委員会 [編]
138	自殺対策白書 / 内閣府 [編]
139	実験社会心理学研究 / 日本グループ・ダイナミクス学会編集
140	社会保障研究 / 国立社会保障・人口問題研究所 [編]
141	教育と医学 / 教育と医学の会 [編]
142	公衆衛生
143	ファルマシア / 日本薬学会
144	保健の科学
145	日本栄養・食糧学会誌：Nippon eiyo shokuryo gakkaiishi = Journal of Japanese Society of Nutrition and Food Science / 日本栄養・食糧学会
146	人間と環境 / 環境科学総合研究会・実行委員会 [編] = Man and environment / Japan Association on the Environmental Studies
147	臨床スポーツ医学 = The journal of clinical sports medicine
148	東海大学スポーツ医科学雑誌 / 東海大学スポーツ医科学研究所
149	厚生労働白書 / 厚生労働省監修
150	生体医工学：日本エム・イー学会誌 = Transactions of the Japanese Society for Medical and Biological Engineering : BME
151	東海大学医療技術短期大学総合看護研究施設論文集 / 東海大学医療技術短期大学総合看護研究施設 [編]
152	医療経済研究 / 医療経済研究機構編
153	食生活データ総合統計年報 = Yearbook of food consumption statistics / 食品流通情報センター [編]
154	東海大学医学部年報 / 東海大学医学部 [編]
155	東海大学健康科学部紀要 / 東海大学健康科学部 [編]
156	国民健康・栄養の現状：厚生労働省国民健康・栄養調査報告より = The national health and nutrition survey in Japan / 健康・栄養情報研究会編
157	医療機器学 = The Japanese journal of medical instrumentation / 日本医療機器学会
158	人工臓器 / 日本人工臓器学会

国内雑誌 158種

No.	誌名(国外雑誌)
1	The American journal of psychology
2	Journal of experimental psychology
3	Psychological bulletin

4	Psychological review
5	Psychometrika
6	Perception
7	Psychological reports
8	International journal of aging and human development
9	Annual review of psychology
10	Qualitative research in psychology
11	О р о н е к
12	The Pacific review
13	Statutes & decisions : the laws of the USSR and its successor states
14	Post-Soviet affairs
15	Political theory
16	West's Supreme Court reporter
17	German politics and society
18	Almanac of American politics : the senators, the representatives, their records, states and
19	Journal of Muslim minority affairs / Institute of Muslim Minority Affairs
20	Political science
21	New left review
22	Australian journal of political science : journal of the Australasian Political Studies Association
23	American politics research
24	Journal of women, politics & policy
25	American political science review / American Political Science Association
26	The Journal of legal studies
27	PS, political science & politics
28	Public administration review : journal of the American Society for Public Administration
29	The international journal of press/politics
30	East European politics
31	The American journal of sociology
32	L'Année sociologique
33	Archives européennes de sociologie = European journal of sociology = Europäisches Archiv für Soziologie
34	Consumer reports
35	Contributions to Indian sociology
36	The Journal of peasant studies
37	Recht der Arbeit : Zeitschrift für die Wissenschaft und Praxis des Gesamten Arbeitsrechts
38	Social problems
39	Signs : journal of women in culture and society
40	Social history
41	Sociological focus / Ohio Valley Sociological Society
42	Sociology : the journal of the British Sociological Association
43	Zeitschrift für Soziologie
44	Man and life : a journal of the Institute of Social Research and Applied Anthropology
45	Slavery & abolition
46	Sociological perspectives : SP : official publication of the Pacific Sociological Association
47	Cultural dynamics
48	Journal of refugee studies
49	Women : a cultural review
50	European journal of communication
51	Journal of family history : studies in family, kinship and demography
52	Research on aging : a quarterly of social gerontology
53	Ageing and society / Centre for Policy on Ageing and the British Society of Gerontology
54	European sociological review
55	Mélanges de l'École française de Rome
56	Archiv für Sozialgeschichte
57	Comparative sociology
58	Leisure studies : the journal of the Leisure Studies Association
59	Journal of multicultural discourses
60	European journal of ageing
61	Group dynamics : theory, research, and practice
62	Cultural sociology : a journal of the British Sociological Association
63	The Journal of sports medicine and physical fitness

64	Perceptual and motor skills
65	Culture, medicine and psychiatry
66	Industrial health
67	Journal of medical ethics : the journal of the Society for the Study of Medical Ethics
68	Journal of applied physiology
69	Social history of medicine : the journal of the Society for the Social History of Medicine /
70	Medizinrecht : MedR
71	Medical humanities : edition of the Journal of medical ethics

国外雑誌 71種

資料4 実習施設一覧

■実習受入承諾にあたっては、「教職課程認定基準」に基づいて承諾を得ている。

文部科学省「教職課程認定基準（一部改正 平成27年11月24日）」

1.1 教育実習、養護実習及び栄養教育実習

（1）教育実習及び養護実習については、以下に定めるところにより、入学定員に応じて、適当な規模・教員組織等を有する実習校が確保されていなければならない。

初等教育教員養成の場合 入学定員 5 人に 1 学級の割合
 中等教育教員養成の場合 入学定員 10 人に 1 学級の割合
 特別支援学校教員養成の場合 入学定員 5 人に 1 学級の割合
 養護教諭養成の場合 入学定員 5 人に 1 校の割合

（2）実習校については、当該学校の承諾を得ていなければならない（都道府県市によって特別の事情がある場合には、当該教育委員会の実習受入れ証明をもって代えることができる）

■承諾を得た学校一覧

平塚市教育委員会（中学校 15 校）

学校名	所在地
平塚市立江陽中学校	神奈川県平塚市浅間町 8-1
平塚市立大洋中学校	神奈川県平塚市高浜台 7-1
平塚市立春日野中学校	神奈川県平塚市中里 33-1
平塚市立浜岳中学校	神奈川県平塚市龍城ヶ丘 4-26
平塚市立大野中学校	神奈川県平塚市東中原 1-12-1
平塚市立神田中学校	神奈川県平塚市田村 4-31-1
平塚市立土沢中学校	神奈川県平塚市土屋 2244
平塚市立金旭中学校	神奈川県平塚市広川 12
平塚市立中原中学校	神奈川県平塚市御殿 4-5-1
平塚市立大住中学校	神奈川県平塚市城所 649
平塚市立山城中学校	神奈川県平塚市高村 166
平塚市立神明中学校	神奈川県平塚市四之宮 1-10-1
平塚市立金目中学校	神奈川県平塚市南金目 1013-2
平塚市立横内中学校	神奈川県平塚市横内 1948-3
平塚市立旭陵中学校	神奈川県平塚市日向岡 2-9-1

秦野市教育委員会（中学校 9 校）

学校名	所在地
秦野市立南中学校	神奈川県秦野市緑町 16-1
秦野市立鶴巻中学校	神奈川県秦野市鶴巻 2220
秦野市立西中学校	神奈川県秦野市柳町 2丁目 5-1
秦野市立南が丘中学校	神奈川県秦野市南が丘 1丁目 6
秦野市立東中学校	神奈川県秦野市寺山 509
秦野市立本町中学校	神奈川県秦野市富士見町 1-1
秦野市立大根中学校	神奈川県秦野市南矢名 4丁目 28-1
秦野市立渋沢中学校	神奈川県秦野市渋沢 2030
秦野市立北中学校	神奈川県秦野市横野 101

教職課程を置く、文化社会学部アジア学科、ヨーロッパ・アメリカ学科、広報メディア学科、心理・社会学科の入学定員の合計は330名であり、承諾いただいた上記の24校の学級数により基準を満たすことから、定員に応じた実習受入可能人数を確保している。

学生の確保の見通し等を記載した書類 文化社会学部

(1) 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

① 学生の確保の見通し

ア 定員充足の見込み

1) 新設する文化社会学部の定員充足の見込み

① 本学既設学部等における定員充足状況

平成 30 年度に新設する文化社会学部は、既設の文学部の一部学科を基礎として設置する。

すなわち、文化社会学部アジア学科は、既設の文学部アジア文明学科、文化社会学部ヨーロッパ・アメリカ学科は、既設の文学部ヨーロッパ文明学科及びアメリカ文明学科、文化社会学部北欧学科は、既設の文学部北欧学科、文化社会学部文芸創作学科は、既設の文学部文芸創作学科、文化社会学部広報メディア学科は、既設の文学部広報メディア学科、文化社会学部心理・社会学科は、既設の文学部心理・社会学科を基礎として設置する。

過去 5 年間の既設学科の入学人数について、新設学科ごとに集計した結果、すべての学科についてほぼ定員を満たしていることから、設定する入学定員を充足することが見込まれる（資料 1）。

② 高校生 2 年生を対象としたアンケート調査結果

平成 30 年度に大学進学対象となる高校 2 年生に対して、文化社会学部の新設に関する入学意向アンケート調査を実施した結果、第 1 希望として、入学を希望する学生は、次のとおりであった（資料 2-p13）。

文化社会学部アジア学科について、「入学を希望する」と回答した高校 2 年生が 479 名であり、設定する入学定員 70 名に対し、約 6.84 倍であった。

文化社会学部ヨーロッパ・アメリカ学科について、「入学を希望する」と回答した高校 2 年生が 393 名であり、設定する入学定員 70 名に対し、約 5.61 倍であった。

文化社会学部北欧学科について、「入学を希望する」と回答した高校 2 年生が 63 名であり、設定する入学定員 60 名に対し、1.05 倍であった。

文化社会学部文芸創作学科について、「入学を希望する」と回答した高校 2 年生が 137 名であり、設定する入学定員 60 名に対し、約 2.28 倍であった。

文化社会学部広報メディア学科について、「入学を希望する」と回答した高校 2 年生は 352 名であり、設定する入学定員 100 名に対し、3.52 倍であった。

文化社会学部心理・社会学科について、「入学を希望する」と回答した高校 2 年生は 474 名であり、設定する入学定員 90 名に対し、約 5.26 倍であった。

以上のことから、文化社会学部のすべての学科について、「入学を希望す

る」と回答した高校2年生の数が設定する定員を上回っており、定員を充足できる見込みである。

2)「既設大学等の状況」定員超過率 0.7 倍未満の学科等の定員充足の見込み

(資料 3)

【基盤工学部電気電子情報工学科】

本学科の教育目標である「電気・電子・情報工学及びその応用分野へ適用可能な基盤知識を幅広く理解し、その専門技術を急速に発展している情報化に提供できる実践的技術の育成」を掲げ、広報を展開したが、受験生にとってやや捉えにくく、平成 25 年度の開設から平成 29 年度入試までは入学者数が定員を下回り、平成 28 年度入試までは毎年入学者が減少した。しかし、平成 29 年度入試では平成 28 年度に発生した熊本地震の影響があったにも拘わらず平成 26 年度入学者数に近い 55 人(充足率 68%)の入学者があった。

平成 25 年度の入学者数は 71 名(充足率 88%)であり、平成 30 年度カリキュラムでは情報分野、植物工場、ロボット等の科目を充実させ魅力ある学科としてアピールしており、入学定員 80 名を充足できる見込みである。

【国際文化学部デザイン文化学科】

国際文化学部デザイン文化学科は平成 24 年度に新設され、平成 24 年度の入学者数は 67 名(充足率 95%)であった。

平成 25～平成 28 年度の入学者数は 30～40 名で推移したが、平成 29 年度の入学者数が 56 名(充足率 80%)となったことを考慮すれば、70 名の定員設定は適切と考えている。

イ 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

1)「新設する学部の基礎となる学科の過去 5 年間の入試状況」(資料 1)

平成 25 年度入試～平成 29 年度入試における、新設する文化社会学部の基礎となる既設学科の志願者数、受験者数、合格者数、入学者数、入学定員超過率の項目を記載し、併せて新設学科ごとに集計した。

2)「東海大学文化社会学部(仮称)、健康学部(仮称)、医学部看護学科(仮称)への高校生の入学意向に関するアンケート調査報告」(資料 2)

①目的

東海大学文化社会学部アジア学科、ヨーロッパ・アメリカ学科、北欧学科、文芸創作学科、広報メディア学科、心理・社会学科、健康学部健康マネジメント学科、医学部看護学科の開設に向けて、設置年度の進学対象層に対する東海大学文化社会学部、健康学部、医学部看護学科への入学意向を把握することを目的としてアンケート調査を実施した。

②対象

東海大学に進学実績のある高等学校を中心に、1都1道1府26県に所在する高等学校の在学者で、平成30年度大学進学対象となる高校2年生を調査対象とした。

③調査方法

平成28年11月から平成29年1月にかけて、高等学校149校に、34,925人分のアンケート用紙及び東海大学文化社会学部、健康学部、医学部看護学科の概要を示したリーフレットを送付し、教室等で直接アンケート用紙に記入する方法により実施した。

なお、高等学校への発送、アンケート結果の回収、集計・分析は、本学が業務を委託した一般財団法人日本開発構想研究所により実施された

この結果、高校2年生26,704人から有効回答（有効回収率約76.4%）があり、東海大学文化社会学部（アジア学科、ヨーロッパ・アメリカ学科、北欧学科、文芸創作学科、広報メディア学科、心理・社会学科）、健康学部健康マネジメント学科、医学部看護学科への入学意向を分析した。

3)「既設大学等の状況」定員超過率0.7倍未満の学科等の過去5年間の入試状況」（資料3）

平成25年度入試～平成29年度入試における、「既設大学等の状況」定員超過率0.7倍未満の学科の志願者数、受験者数、合格者数、入学者数、入学定員超過率の項目を記載した。

ウ 学生納付金の設定の考え方

1) 学費設定の考え方と比較（資料2-p17, p19）

新設する文化社会学部の学生納付金について、文化社会学部アジア学科、ヨーロッパ・アメリカ学科、北欧学科、文芸創作学科は、これら学科の学位の分野「文学関係」と同分野である、既設の文学部文明学科と同額（入学金300,000円、授業料650,000円、施設設備費等516,000円、諸会費59,200円／年）となっている。

また、文化社会学部広報メディア学科、心理・社会学科は、これら学科の学位の分野「社会学・社会福祉学関係」と同分野である、既設の観光学部観光学科と同額（入学金300,000円、授業料650,000円、施設設備費等527,000円、諸会費59,200円／年）となっており、既設学部と整合する金額の設定となっている。

2) 近隣の競合校等の状況との比較

文化社会学部は東海大学湘南校舎（神奈川県）に設置される。そこで、関東圏に所在し、学部学科名称や教育内容が類似している、他大学の学部等の初年度学生納付金との比較を行った結果、ほぼ同水準であり、適切な金額設

定と考えている（資料 2-p19）。

文化社会学部	比較する他大学の学部等
東海大学文化社会学部アジア学科 <u>1,525,200 円</u> （入学金 300,000 円、授業料 650,000 円／年、施設設備費等 516,000 円、諸会費 59,200 円／年）	清泉女子大学文学部文化史学科（東京都） <u>1,370,000 円</u> （入学金 250,000 円、授業料 780,000 円／年、施設設備費等 340,000 円／年）
東海大学文化社会学部ヨーロッパ・アメリカ学科 <u>1,525,200 円</u> （入学金 300,000 円、授業料 650,000 円／年、施設設備費等 516,000 円、諸会費 59,200 円／年）	大妻女子大学比較文化学部比較文化学科（東京都） <u>1,442,650 円</u> （入学金 250,000 円、授業料 745,000 円／年、施設設備費等 410,000 円、諸会費 37,650 円／年）
東海大学文化社会学部北欧学科 <u>1,525,200 円</u> （入学金 300,000 円、授業料 650,000 円／年、施設設備費等 516,000 円、諸会費 59,200 円／年）	大妻女子大学比較文化学部比較文化学科（東京都） <u>1,442,650 円</u> （入学金 250,000 円、授業料 745,000 円／年、施設設備費等 410,000 円、諸会費 37,650 円／年）
東海大学文化社会学部文芸創作学科 <u>1,525,200 円</u> （入学金 300,000 円、授業料 650,000 円／年、施設設備費等 516,000 円、諸会費 59,200 円／年）	日本大学芸術学部文芸学科（埼玉県） <u>1,760,000 円</u> （入学金 260,000 円、授業料 1,020,000 円／年、施設設備費等 450,000 円、諸会費 30,000 円／年）
東海大学文化社会学部広報メディア学科 <u>1,536,200 円</u> （入学金 300,000 円、授業料 650,000 円／年、施設設備費等 527,000 円、諸会費 59,200 円／年）	東京工科大学メディア学部メディア学科メディア社会コース（東京都） <u>1,569,300 円</u> （入学金 250,000 円、授業料 1,296,000 円／年、施設設備費等 0 円、諸会費 23,300 円／年）
東海大学文化社会学部心理・社会学科 <u>1,536,200 円</u> （入学金 300,000 円、授業料 650,000 円／年、施設設備費等 527,000 円、諸会費 59,200 円／年）	昭和女子大学人間社会学部心理学科（東京都） <u>1,458,000 円</u> （入学金 200,000 円、授業料 855,600 円／年、施設設備費等 400,000 円、諸会費 2,400 円／年）

② 学生確保に向けた具体的な取組状況

1) 新設する文化社会学部の取組状況

受験生、保護者、高等学校等の教員に加え、現代社会の問題点等や本学部の意義を含めて、社会全体への周知活動も行う。

①オープンキャンパス

付属高校生向けに 9 月、一般受験生向けに、7 月、8 月（2 回）、11 月、3 月に開催を計画している。実際に学修を進めるキャンパスにおいて、直接教員の説明を聞くこと、質問することにより、より学部・学科を身近なものとして、志願者の確保につなげている。

②高校訪問

全国の高校を個別に訪問し、本学部・学科の広報を行う。

③大学説明会の開催

本学が開催する高校教員向けの説明会において、新設学部の説明を行う。

④パンフレットの作成

各種パンフレットを作成し、学科の案内と入学試験について周知を行う。

⑤ホームページの開設

新設学部の特設サイトを作成し、学科の案内を行う。

⑥各種媒体による広報

電車内の広告、進学情報冊子、Web 広告など、幅広く広報を行う。

⑦シンポジウムの開催

直接的な広報ではないが、4 月、7 月、9 月、11 月にシンポジウムを開催し、現代社会の問題点から、健康学部設置の趣旨、研究教育内容などについて一般的に広報を行う。

2) 「既設大学等の状況」定員超過率 0.7 倍未満の学科等の取組状況

【基盤工学部電気電子情報工学科】

現行カリキュラムでも既に実施しているアクティブラーニングの一種である PBL (Project Based Learning) を今後更に強化し、自ら考え行動する能力を育成し、製造業界から注目される人材を増やして行く予定である。平成 27 年度、平成 28 年度は数名の学部 3 年生が学会で口頭発表している。また、本学科が中心となりロボットコンテスト・マイコンカーラリー等のイベントも開催している。毎年高校生の参加数が増え、過去には数名マイコンカーラリーに参加した高校生が本学科に入学しており平成 29 年度も 1 名入学している。今年三月に第一期生が卒業したが、就職内定率は 100 %であり、高い内定率を得ることができた。

既に学科独自のホームページは開設しているが、今後は更に内容を充実させ、学生の学会発表やイベント開催の様子、就職内定先など随時情報を発信し、高校生が本学科に興味を持つような内容にする予定である。

【国際文化学部デザイン文化学科】

定員未充足の原因のひとつとして、受験生に対する、卒業後の進路に関する広報の不足があったと考えている。

平成 27 年度には国際文化学部デザイン文化学科として最初の卒業生を輩出したが、就職率（就職希望者に対する就職内定者の割合）は 100%に達した。また、就職先も学科で学んだデザイン・建築の知識とスキルを生かせる職種に多く就職した。

その卒業後の進路に関する成果を広報した効果もあり、平成 29 年度の入学人数は昨年度の 35 名から 56 名に増加し、入学定員に対する充足率も 80%まで回復した。

平成 30 年度の学生募集においては、卒業後の進路や作品受賞の実績といった教育の成果を高校に発信するなど、教育広報を強化することにより、70 名の定員を確保したい。

（２）人材需要の動向等社会の要請

① 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

【アジア学科】

豊かな言語能力で国際的な相互理解を深められる力を身に付け、現代の課題に自ら取り組み、自分自身の意見をしっかりと持ちとともに、多様な人々と協力して世界に貢献しようとする姿勢を習得させることを教育研究上の目的とする。

この目的を踏まえ、多様性に満ち、グローバル化のなか急速な変化を遂げているアジアについて学識を深めることで、異文化に向き合い中長期的な展望をもって現代のさまざまな課題に取り組み、国際社会、地域社会に貢献できる人材を養成する。

【ヨーロッパ・アメリカ学科】

ヨーロッパとアメリカの社会的・文化的・歴史的な知識を身につけ、その知的伝統を読み解き、他者の意見に耳をかたむけ、解決までのプロセスを実践する能力、物事の真意を判断し、自分自身の思考によって問題の解決を模索し、共存や共生の道を探る姿勢を習得させることを教育研究上の目的とする。

この目的を踏まえ、西洋世界について古代から現代までの包括的な理解を深め、第一に、変動する世界情勢のなかでも揺るがない洞察力を持ち、新たな文明を創成するエネルギーに溢れた人材を養成する。第二に、多様性を尊び、共生を志向する精神をもって未来を切り開き、暮らしを豊かにする知恵をもつ人材を養成する。

【北欧学科】

北欧社会の先進的な取り組みや文化の特質を学び、多様な価値観や独自の理念を体系的に理解する力、コミュニケーション能力の活用、自らの考えを積極的に発信していく力、個人として自立した生き方を構想し、日本社会が抱える課題の

克服に向け積極的に取り組もうとする姿勢を習得させることを教育研究上の目的とする。

この目的を踏まえ、(1)北欧社会の先進的な取り組みや文化について学ぶことで広い視野と柔軟な発想力を備え、多様な価値観を受容することのできる人材、(2)言語学習や留学・海外研修などを通じて自らの考えを発信する力を高めた人材、(3)日本という視点から北欧を研究することで批判的考察力を身につけた人材、(4)自己と社会との関わり方や自立した生き方を主体的に構想し、日本社会が抱える課題の克服に積極的に取り組むことのできる人材を養成する。

【文芸創作学科】

文芸の創作と批評を通じ、現代社会に通用する正確な言葉によって自分の思考や感性を論理的かつクリエイティブに表現する力、広く諸芸術を鑑賞し、文芸の創作と批評を通じて培った教養を未来に向かって総合的に生かしてゆく姿勢を習得させることを教育研究上の目的とする。

この目的を踏まえ、文芸の創作と批評を通じて、(1)現代社会で通用する正確な言葉によって論理的かつクリエイティブに個々の感性と経験を表現する力、(2)人間と世界に関する情報や事象を柔軟かつクリティカルに読み取り、的確に分析し、本質を洞察する力、(3)広く諸芸術を鑑賞して培った教養を未来に向かって総合的に生かしてゆく力、という三つの力を備えた人材を養成する。

【広報メディア学科】

メディアに関する理論的・歴史的・制度的な研究成果を土台として、メッセージの社会的価値（政治的・経済的・文化的価値など）とは何かを理解する力、各メディアに関する基本的なルールと実践的技術を身につけ、「情報」を付加価値の高い「メッセージ」に変える能力、現代社会を構成する人々の多様性を理解し、明日のメディアやコミュニケーションの仕事を開拓していこうとする姿勢を習得させることを教育研究上の目的とする。

この目的を踏まえ、単なる技術の習得にとどまらず、メディアに関する理論的・歴史的・制度的な研究成果を土台としつつ、混沌としたメディアシーンに対応できる人材、社会的価値のあるメッセージを創造・発信できる人材、メディアや企業・行政の広報・広告部門で活躍できる人材を養成する。

【心理・社会学科】

現代社会の課題の解決に向けて、主として社会学の学問分野を学ぶことで、現代社会の構造と機能における基本的な問題点を自らの問題意識に即して理解する能力を習得させるとともに、心理学のアプローチも学ぶことで、変化しつつある社会集団と人と人とのつながりを豊かな感受性と論理的な思考にもとづいて考察できる能力を習得させることを教育研究上の目的とする。

上記の教育研究上の目的を踏まえ、社会的な課題や問題に対して具体的な解決策や行動計画を提案できる“社会的構想力”と、人間関係の充実に必要な社会的

スキルである“コミュニケーション能力”を育成する。加えて、実社会において、社会と人・集団、そしてそれらの関係性についての知識と情報を持ち、現代社会の諸問題と現代に生きる人間を多角的・複合的に考察できる力を育成し、“自立と共生を目指した社会の実現”に参画し貢献できる人材を養成する。

② 上記①が社会的、地域的な人材需要の動向を踏まえたものであることの客観的な根拠

先に述べたとおり、文化社会学部アジア学科は、既設の文学部アジア文明学科、文化社会学部ヨーロッパ・アメリカ学科は、既設の文学部ヨーロッパ文明学科及びアメリカ文明学科、文化社会学部北欧学科は、既設の文学部北欧学科、文化社会学部文芸創作学科は、既設の文学部文芸創作学科、文化社会学部広報メディア学科は、既設の文学部広報メディア学科、文化社会学部心理・社会学科は、既設の文学部心理・社会学科を基礎として設置する。

1) 就職決定状況

既設各学科の卒業生の過去2年間（平成27年度、平成26年度）における就職状況を見ると下表の通りとなり、就職を希望する学生について、高い割合で就職が決定している状況である（資料4）。

学科名	2015年度 (平成27年度)	2014年度 (平成26年度)
アジア学科（アジア文明学科の就職状況）	100%	97.2%
ヨーロッパ・アメリカ学科		
（ヨーロッパ文明学科の就職状況）	98.1%	95.8%
（アメリカ文明学科の就職状況）	97.6%	97.6%
北欧学科	93.0%	97.6%
文芸創作学科	82.9%	88.1%
広報メディア学科	97.9%	98.1%
心理・社会学科	94.3%	96.6%

2) 各県との就職協定の締結

本学においては、各県と就職協定（資料5）を結んでいるが、近年その要望は高まっている。平成27年度までは5県と協定を結んでいたが、平成28年度に3県、平成29年度に3県を加え、現在は合計11県と就職協定を結んでいる。超少子高齢社会が進むと予測されている現在、将来的な地方都市の人口減少への危機感等に起因し、多くの自治体が就職して定住する者を求めている状況であり、本学および本学部に対する期待も大きいと判断される。

加えて、外国人労働者増加に起因する問題、将来的な移民の受け入れの間

題、肥大化する医療費、福祉・社会保障サービスの問題等も顕在化しており、この解決への糸口は本学部の設置の趣旨と合致していると考えられる。したがって、今後も卒業生への期待、需要は続くものと予測される。

上記、1) 2) の状況から、基礎となる学科の就職状況は良好であること、将来的な観測を含めて自治体と大学との就職協定も活発になっていることにより、本学部・学科の卒業生への需要についても、現状と同様に高いものであり、卒業生の進路も見込まれるものと判断される。

以 上

資料1 新設する学部基礎となる学科の過去5年間の入試状況

【既設】文学部アジア文学科

	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平均入学定員超過率
入学定員	60	60	60	60	60	0.99
志願者数	246	223	235	224	273	
受験者数	235	211	223	212	262	
合格者数	143	149	145	132	129	
入学者数	51	59	62	61	65	
入学定員超過率	0.85	0.98	1.03	1.01	1.08	

→【新設】文化社会学部アジア学科は入学定員70名で設置

【既設】文学部ヨーロッパ文学科

	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平均入学定員超過率
入学定員	70	70	70	70	70	1.09
志願者数	372	358	359	277	438	
受験者数	357	345	346	267	427	
合格者数	183	193	184	175	188	
入学者数	75	83	73	74	78	
入学定員超過率	1.07	1.18	1.04	1.05	1.11	

【新設】文化社会学部ヨーロッパ・アメリカ学科
（【既設】文学部ヨーロッパ文学科＋文学部アメリカ文学科）で集計

	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平均入学定員超過率
入学定員	130	130	130	130	130	1.05
志願者数	700	579	567	542	832	
受験者数	659	563	543	522	807	
合格者数	335	338	329	335	331	
入学者数	139	145	130	140	136	
入学定員超過率	1.06	1.11	1.00	1.07	1.04	

↓

【新設】文化社会学部ヨーロッパ・アメリカ学科は入学定員70名で設置

【既設】文学部アメリカ文学科

	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平均入学定員超過率
入学定員	60	60	60	60	60	1.02
志願者数	328	221	208	265	394	
受験者数	302	218	197	255	380	
合格者数	152	145	145	160	143	
入学者数	64	62	57	66	58	
入学定員超過率	1.06	1.03	0.95	1.10	0.96	

【既設】文学部北欧学科

	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平均入学定員超過率
入学定員	60	60	60	60	60	1.09
志願者数	383	271	288	338	418	
受験者数	355	261	280	323	400	
合格者数	188	180	198	189	165	
入学者数	64	62	61	70	72	
入学定員超過率	1.06	1.03	1.01	1.16	1.20	

→【新設】文化社会学部北欧学科は、入学定員60名で設置

【既設】文学部文芸創作学科

	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平均入学定員超過率
入学定員	55	55	55	55	55	1.10
志願者数	347	266	249	260	390	
受験者数	326	256	240	242	376	
合格者数	119	119	150	139	124	
入学者数	57	60	56	69	64	
入学定員超過率	1.03	1.09	1.01	1.25	1.16	

→【新設】文化社会学部文芸創作学科は、入学定員60名で設置

【既設】文学部広報メディア学科

	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平均入学定員超過率
入学定員	110	110	110	110	110	1.11
志願者数	593	603	570	553	754	
受験者数	571	576	542	525	713	
合格者数	190	216	224	241	213	
入学者数	124	125	114	130	124	
入学定員超過率	1.12	1.13	1.03	1.18	1.12	

→【新設】文化社会学部広報メディア学科は、入学定員100名で設置

【既設】文学部心理・社会学科

	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平均入学定員超過率
入学定員	100	100	100	100	100	1.13
志願者数	813	697	666	771	1,026	
受験者数	779	660	626	714	952	
合格者数	215	227	248	238	232	
入学者数	113	117	117	110	108	
入学定員超過率	1.13	1.17	1.17	1.10	1.08	

→【新設】文化社会学部心理・社会学科は、入学定員90名で設置

東海大学 文化社会学部（仮称）、健康学部（仮称）、
医学部 看護学科（仮称）への
高校生の入学意向に関するアンケート調査報告

平成29年1月

一般財団法人 日本開発構想研究所

東海大学文化社会学部（アジア学科（仮称）、ヨーロッパ・アメリカ学科（仮称）、
北欧学科（仮称）、文芸創作学科（仮称）、広報メディア学科（仮称）、心理・社会学
科（仮称））、健康学部健康マネジメント学科（仮称）、医学部看護学科（仮称）への
高校生の入学意向に関するアンケート調査報告

1. 調査概要

（1） 調査目的

平成 30 年 4 月に予定している東海大学文化社会学部（アジア学科（仮称）、ヨーロッパ・アメリカ学科（仮称）、北欧学科（仮称）、文芸創作学科（仮称）、広報メディア学科（仮称）、心理・社会学科（仮称））、健康学部健康マネジメント学科（仮称）、医学部看護学科（仮称）の開設に向けて、設置年度の進学対象層に対する東海大学文化社会学部、健康学部、医学部看護学科（仮称）への入学意向を把握することを目的とする。

（2） 調査対象高校及び対象者

近隣に所在する高等学校、または、東海大学に進学実績のある高等学校を中心に、1 都 1 道 1 府 26 県（東京都、北海道、大阪府、青森県、秋田県、山形県、福島県、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、神奈川県、新潟県、富山県、福井県、山梨県、長野県、静岡県、愛知県、三重県、鳥取県、岡山県、愛媛県、福岡県、佐賀県、熊本県、鹿児島県、沖縄県）に所在する高等学校の在学者で平成 30 年度大学進学対象となる高校 2 年生。

（3） 調査方法

近隣に所在する高等学校、または、東海大学に進学実績のあるものを中心とした高等学校 149 校に 34,925 人分のアンケート用紙及び東海大学文化社会学部、健康学部、医学部看護学科（仮称）の概要を示したリーフレットを送付し、教室等で直接アンケート用紙に記入する方法により実施。回答用紙は一般財団法人日本開発構想研究所へ高校から直接郵送。

この結果、高校 2 年生 26,704 人から有効回答（有効回収率約 76.4%）があった。

集計結果より、東海大学文化社会学部（アジア学科（仮称）、ヨーロッパ・アメリカ学科（仮称）、北欧学科（仮称）、文芸創作学科（仮称）、広報メディア学科（仮称）、心理・社会学科（仮称））、健康学部健康マネジメント学科（仮称）、医学部看護学科（仮称）への入学意向を分析した。

（4） 調査実施期間

平成 28 年 11 月～平成 29 年 1 月

(5) 有効回収率等

調査対象者数：高等学校 149 校 34,925 人

有効回答者数：高等学校 147 校 26,928 人の回答のうち、高校 2 年生 26,704 人

有効回収率：約 76.4% (有効回答者 26,704 人÷調査対象者 34,925 人)

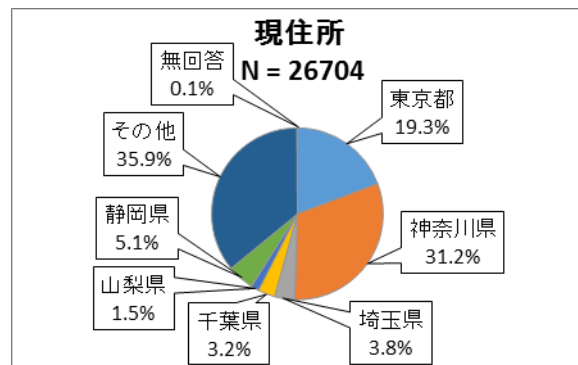
※東海大学にて設置を構想している文化社会学部（アジア学科、ヨーロッパ・アメリカ学科、北欧学科、文芸創作学科、広報メディア学科、心理・社会学科）、健康学部健康マネジメント学科、医学部看護学科は仮称であるが、その旨の表示を本文中では省略した。

2. 調査結果

(1) 現住所について

現住所について調査した結果、高校2年生26,704人のうち、「その他」が9,579人（35.9%）と最も多く、次いで「神奈川県」8,343人（31.2%）、「東京都」5,147人（19.3%）、「静岡県」1,355人（5.1%）、「埼玉県」1,004人（3.8%）、「千葉県」866人（3.2%）、「山梨県」396人（1.5%）の順になっている。 ※「無回答」14人（0.1%）

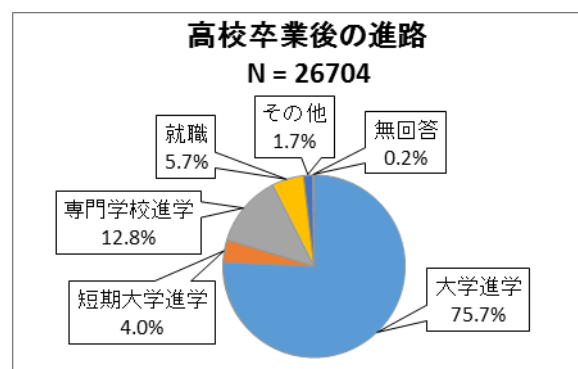
現住所			
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	東京都	5,147	19.3
2	神奈川県	8,343	31.2
3	埼玉県	1,004	3.8
4	千葉県	866	3.2
5	山梨県	396	1.5
6	静岡県	1,355	5.1
7	その他	9,579	35.9
	無回答	14	0.1
	N (%ベース)	26,704	100



(2) 高校卒業後の進路について

高校卒業後の進路について調査した結果、高校2年生26,704人のうち、20,208人（75.7%）が「大学進学」を希望しており、「短期大学進学」は1,069人（4.0%）、合わせて21,277人（79.7%）が国内の高等教育機関への進学を希望している。さらに、「専門学校進学」3,413人（12.8%）を合わせると、24,690人（92.5%）が高等学校卒業後、進学を希望している。

高校卒業後の進路			
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	大学進学	20,208	75.7
2	短期大学進学	1,069	4.0
3	専門学校進学	3,413	12.8
4	就職	1,519	5.7
5	その他	442	1.7
	無回答	53	0.2
	N (%ベース)	26,704	100



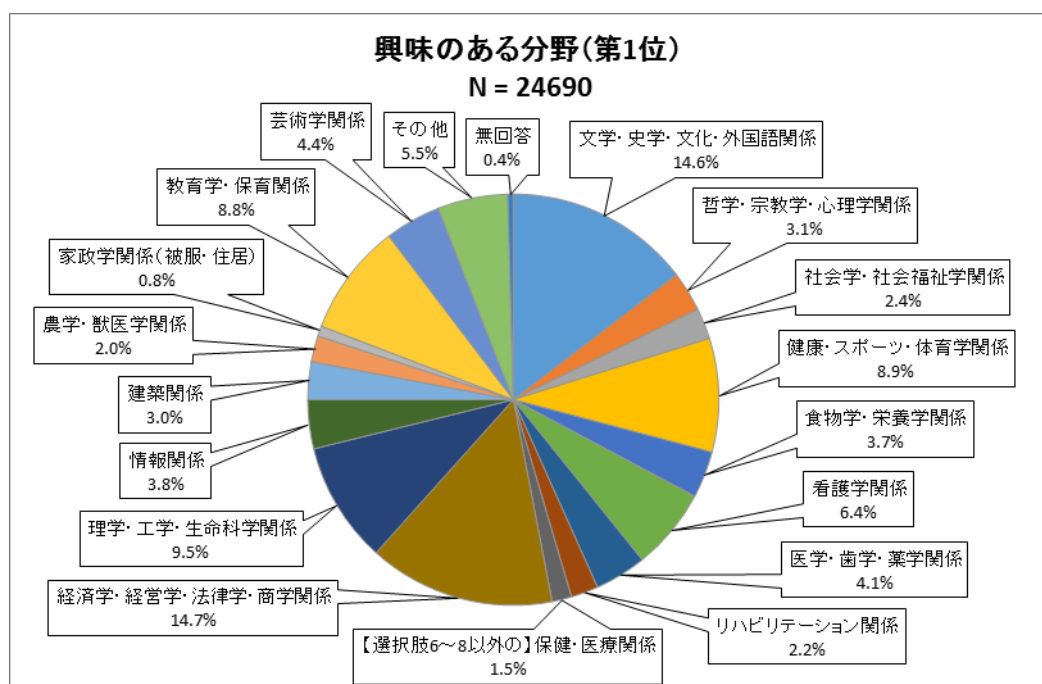
(3) 興味のある分野について

3-1 興味のある分野（第1位）について

「大学進学」、「短期大学進学」、「専門学校進学」を希望する 24,690 人に、興味のある分野（第1位）について調査した。その結果は、5.0%以上の割合を占めたものを挙げると、「経済学・経営学・法律学・商学関係」が 3,619 人（14.7%）と最も多く、次いで「文学・史学・文化・外国語関係」3,608 人（14.6%）、「理学・工学・生命科学関係」2,350 人（9.5%）、「健康・スポーツ・体育学関係」2,204 人（8.9%）、「教育学・保育関係」2,179 人（8.8%）、「看護学関係」1,588 人（6.4%）、「その他」1,363 人（5.5%）の順になっている。

※「無回答」105 人（0.4%）

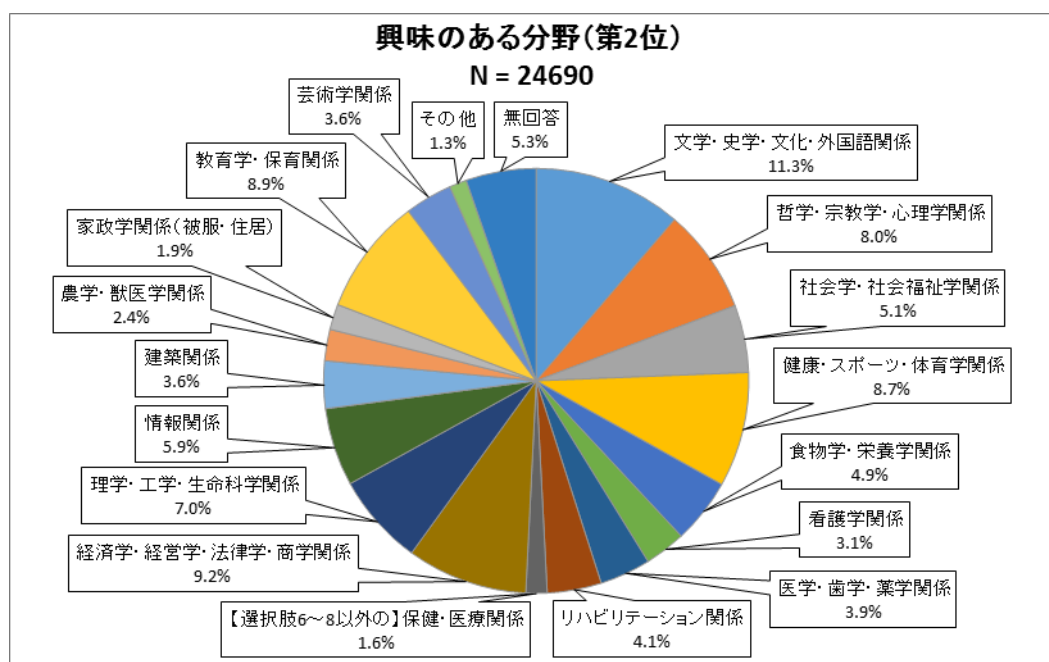
興味のある分野(第1位)			
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	文学・史学・文化・外国語関係	3,608	14.6
2	哲学・宗教学・心理学関係	776	3.1
3	社会学・社会福祉学関係	600	2.4
4	健康・スポーツ・体育学関係	2,204	8.9
5	食物学・栄養学関係	907	3.7
6	看護学関係	1,588	6.4
7	医学・歯学・薬学関係	1,004	4.1
8	リハビリテーション関係	531	2.2
9	【選択肢6～8以外の】保健・医療関係	381	1.5
10	経済学・経営学・法律学・商学関係	3,619	14.7
11	理学・工学・生命科学関係	2,350	9.5
12	情報関係	950	3.8
13	建築関係	732	3.0
14	農学・獣医学関係	505	2.0
15	家政学関係(被服・住居)	200	0.8
16	教育学・保育関係	2,179	8.8
17	芸術学関係	1,088	4.4
18	その他	1,363	5.5
	無回答	105	0.4
	N (%ベース)	24,690	100



3-2 興味のある分野（第2位）について

「大学進学」、「短期大学進学」、「専門学校進学」を希望する 24,690 人に、興味のある分野（第2位）について調査した。その結果は、5.0%以上の割合を占めたものを挙げると、「文学・史学・文化・外国語関係」が 2,784 人（11.3%）と最も多く、次いで「経済学・経営学・法学・商学関係」2,269 人（9.2%）、「教育学・保育関係」2,197 人（8.9%）、「健康・スポーツ・体育学関係」2,157 人（8.7%）、「哲学・宗教学・心理学関係」1,968 人（8.0%）、「理学・工学・生命科学関係」1,725 人（7.0%）、「情報関係」1,467 人（5.9%）、「社会学・社会福祉学関係」1,266 人（5.1%）の順になっている。 ※「無回答」1,318 人（5.3%）

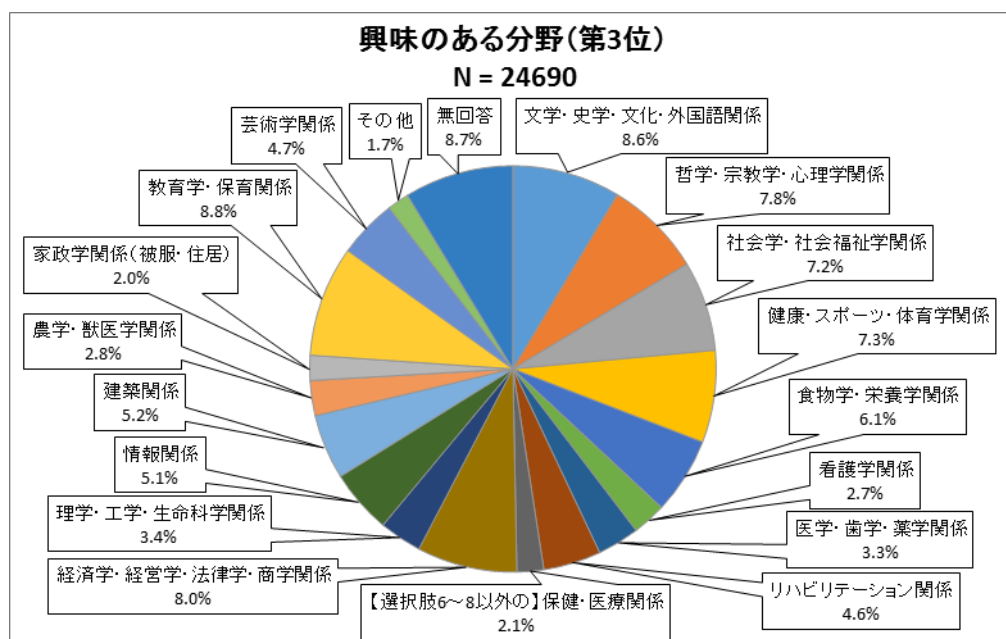
興味のある分野(第2位)			
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	文学・史学・文化・外国語関係	2,784	11.3
2	哲学・宗教学・心理学関係	1,968	8.0
3	社会学・社会福祉学関係	1,266	5.1
4	健康・スポーツ・体育学関係	2,157	8.7
5	食物学・栄養学関係	1,220	4.9
6	看護学関係	774	3.1
7	医学・歯学・薬学関係	955	3.9
8	リハビリテーション関係	1,018	4.1
9	【選択肢6～8以外の】保健・医療関係	397	1.6
10	経済学・経営学・法学・商学関係	2,269	9.2
11	理学・工学・生命科学関係	1,725	7.0
12	情報関係	1,467	5.9
13	建築関係	892	3.6
14	農学・獣医学関係	590	2.4
15	家政学関係(被服・住居)	477	1.9
16	教育学・保育関係	2,197	8.9
17	芸術学関係	890	3.6
18	その他	326	1.3
	無回答	1,318	5.3
	N (%ベース)	24,690	100



3-3 興味のある分野（第3位）について

「大学進学」、「短期大学進学」、「専門学校進学」を希望する 24,690 人に、興味のある分野（第3位）について調査した。その結果は、5.0%以上の割合を占めたものを挙げると、「教育学・保育関係」が 2,177 人（8.8%）と最も多く、次いで「文学・史学・文化・外国語関係」2,122 人（8.6%）、「哲学・宗教学・心理学関係」1,920 人（7.8%）、「経済学・経営学・法律学・商学関係」1,967 人（8.0%）、「哲学・宗教学・心理学関係」1,920 人（7.8%）、「健康・スポーツ・体育学関係」1,810 人（7.3%）、「社会学・社会福祉学関係」1,769 人（7.2%）、「食物学・栄養学関係」1,501 人（6.1%）、「建築関係」1,274 人（5.2%）、「情報関係」1,257 人（5.1%）の順になっている。 ※「無回答」2,142 人（8.7%）

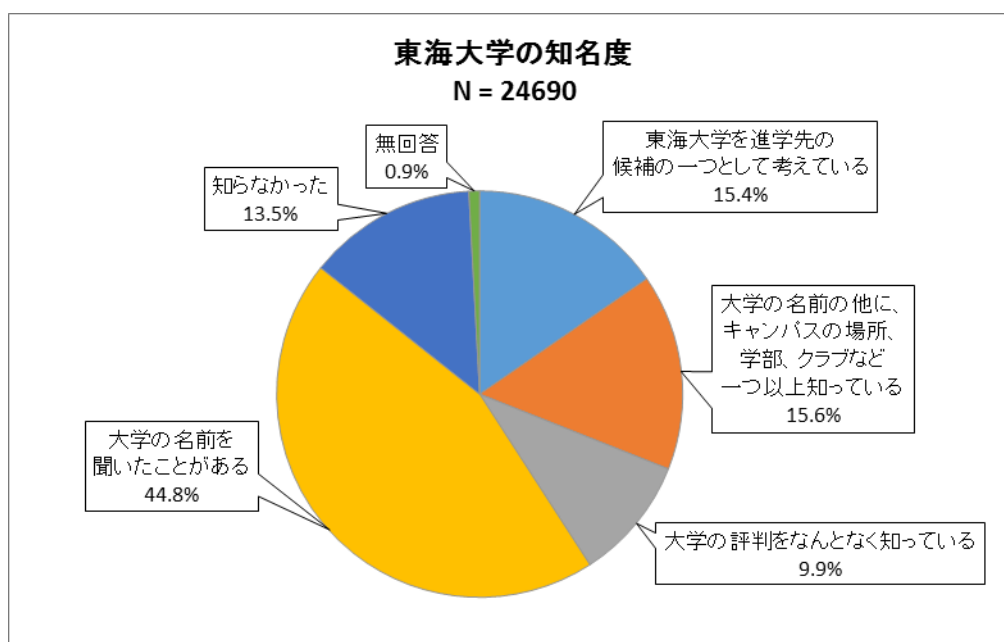
興味のある分野(第3位)			
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	文学・史学・文化・外国語関係	2,122	8.6
2	哲学・宗教学・心理学関係	1,920	7.8
3	社会学・社会福祉学関係	1,769	7.2
4	健康・スポーツ・体育学関係	1,810	7.3
5	食物学・栄養学関係	1,501	6.1
6	看護学関係	664	2.7
7	医学・歯学・薬学関係	826	3.3
8	リハビリテーション関係	1,133	4.6
9	【選択肢6～8以外の】保健・医療関係	525	2.1
10	経済学・経営学・法律学・商学関係	1,967	8.0
11	理学・工学・生命科学関係	835	3.4
12	情報関係	1,257	5.1
13	建築関係	1,274	5.2
14	農学・獣医学関係	690	2.8
15	家政学関係(被服・住居)	492	2.0
16	教育学・保育関係	2,177	8.8
17	芸術学関係	1,155	4.7
18	その他	431	1.7
	無回答	2,142	8.7
	N (%ベース)	24,690	100



(4) 東海大学の知名度について

「大学進学」、「短期大学進学」、「専門学校進学」を希望する 24,690 人に、東海大学の知名度について調査した。その結果は、「大学の名前を聞いたことがある」が 11,066 人 (44.8%) と最も多く、次いで「大学の名前の他に、キャンパスの場所、学部、クラブなど一つ以上知っている」3,856 人 (15.6%)、「東海大学を進学先の候補の一つとして考えている」3,799 人 (15.4%)、「知らなかった」3,325 人 (13.5%)、「大学の評判をなんとなく知っている」2,434 人 (9.9%) の順になっている。 ※「無回答」210 人 (0.9%)

東海大学の知名度			
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	東海大学を進学先の候補の一つとして考えている	3,799	15.4
2	大学の名前の他に、キャンパスの場所、学部、クラブなど一つ以上知っている	3,856	15.6
3	大学の評判をなんとなく知っている	2,434	9.9
4	大学の名前を聞いたことがある	11,066	44.8
5	知らなかった	3,325	13.5
	無回答	210	0.9
	N (%ベース)	24,690	100

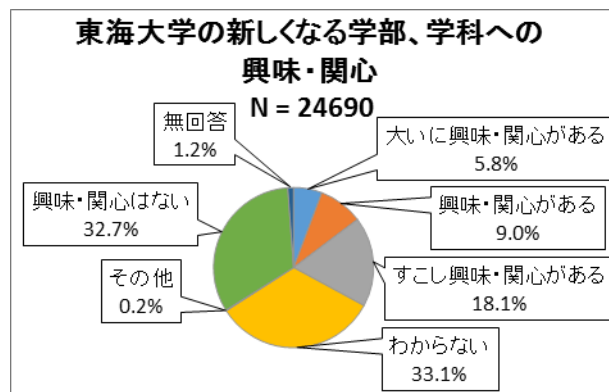


(5) 新学部・新学科への興味・関心について

「大学進学」、「短期大学進学」、「専門学校進学」を希望する 24,690 人のうち、東海大学文化社会学部アジア学科、ヨーロッパ・アメリカ学科、北欧学科、文芸創作学科、広報メディア学科、心理・社会学科、健康学部健康マネジメント学科、医学部看護学科について「大いに興味・関心がある」と回答したのは 1,421 人（5.8%）である。また、「興味・関心がある」2,214 人（9.0%）、「すこし興味・関心がある」4,480 人（18.1%）との回答があり、「大いに興味・関心がある」、「興味・関心がある」、「すこし興味・関心がある」の合計 8,115 人（32.9%）が東海大学文化社会学部アジア学科、ヨーロッパ・アメリカ学科、北欧学科、文芸創作学科、広報メディア学科、心理・社会学科、健康学部健康マネジメント学科、医学部看護学科に興味を示している。

東海大学の新しくなる学部、学科への興味・関心

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	大いに興味・関心がある	1,421	5.8
2	興味・関心がある	2,214	9.0
3	すこし興味・関心がある	4,480	18.1
4	わからない	8,165	33.1
5	その他	38	0.2
6	興味・関心はない	8,085	32.7
	無回答	287	1.2
	N (%ベース)	24,690	100



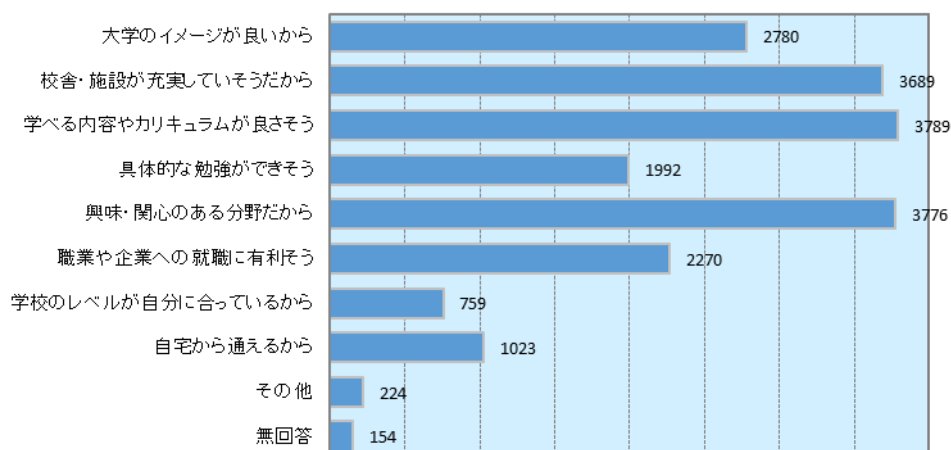
(6) 興味・関心の理由について（複数回答）

興味・関心の理由については、「(5) 新学部・新学科への興味・関心について」にて東海大学文化社会学部アジア学科、ヨーロッパ・アメリカ学科、北欧学科、文芸創作学科、広報メディア学科、心理・社会学科、健康学部健康マネジメント学科、医学部看護学科に興味・関心を示した 8,115 人のうち、「学べる内容やカリキュラムが良さそう」が 3,789 人（46.7%）、と最も多く、次いで「興味・関心のある分野だから」3,776 人（46.5%）、「校舎・施設が充実していそうだから」3,689 人（45.5%）、「大学のイメージが良いから」2,780 人（34.3%）、「職業や企業への就職に有利そう」2,270 人（28.0%）、「具体的な勉強ができそう」1,992 人（24.5%）、「自宅から通えるから」1,023 人（12.6%）、「学校のレベルが自分に合っているから」759 人（9.4%）、「その他」224 人（2.8%）の順になっている。 ※「無回答」154 人（1.9%）

東海大学の新しくなる学部、学科への興味・関心の理由（複数回答）

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	大学のイメージが良いから	2,780	34.3
2	校舎・施設が充実していそうだから	3,689	45.5
3	学べる内容やカリキュラムが良さそう	3,789	46.7
4	具体的な勉強ができそう	1,992	24.5
5	興味・関心のある分野だから	3,776	46.5
6	職業や企業への就職に有利そう	2,270	28.0
7	学校のレベルが自分に合っているから	759	9.4
8	自宅から通えるから	1,023	12.6
9	その他	224	2.8
	無回答	154	1.9
	N (%ベース)	8,115	100

東海大学の新しくなる学部、学科への興味・関心の理由
(複数回答) N = 8115



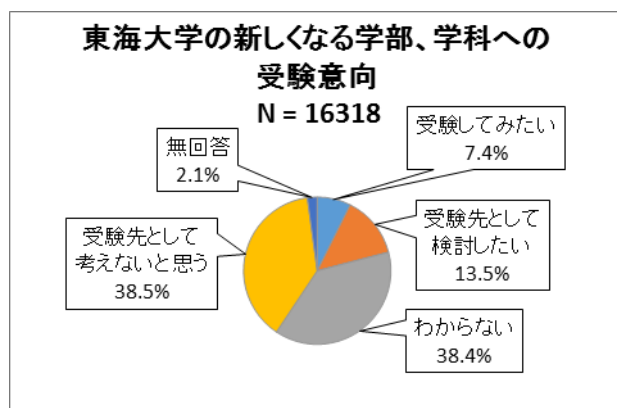
(7) 新学部・新学科への受験意向について

「(5) 新学部・新学科への興味・関心について」の回答者のうち、「興味・関心はない」と回答した者を除いた 16,318 人に、東海大学文化社会学部アジア学科、ヨーロッパ・アメリカ学科、北欧学科、文芸創作学科、広報メディア学科、心理・社会学科、健康学部健康マネジメント学科、医学部看護学科への受験意向について調査した。

その結果は、「受験してみたい」1,210 人 (7.4%)、「受験先として検討したい」2,211 人 (13.5%) の合計 3,421 人 (20.9%) が東海大学文化社会学部アジア学科、ヨーロッパ・アメリカ学科、北欧学科、文芸創作学科、広報メディア学科、心理・社会学科、健康学部健康マネジメント学科、医学部看護学科への受験意向を示している。

東海大学の新しくなる学部、学科への受験意向

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	受験してみたい	1,210	7.4
2	受験先として検討したい	2,211	13.5
3	わからない	6,264	38.4
4	受験先として考えないと思う	6,283	38.5
	無回答	350	2.1
	N (%ベース)	16,318	100



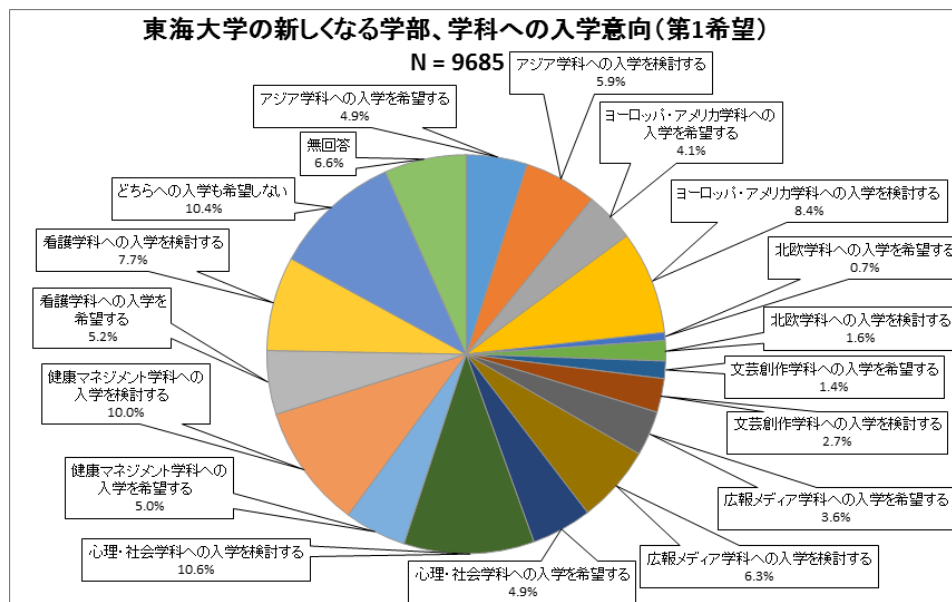
(8) 新学部・新学科への入学意向について

8-1 新学部・新学科への入学意向（第1希望）について

「(7) 新学部・新学科への受験意向について」の回答者のうち、「受験先として考えないと思う」と回答した者を除いた 9,685 人に、東海大学文化社会学部アジア学科、ヨーロッパ・アメリカ学科、北欧学科、文芸創作学科、広報メディア学科、心理・社会学科、健康学部健康マネジメント学科、医学部看護学科を受験し、合格した場合の入学意向（第1希望）について調査した。

その結果は、下記の表の通りとなった。

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	アジア学科への入学を希望する	479	4.9
2	アジア学科への入学を検討する	570	5.9
3	ヨーロッパ・アメリカ学科への入学を希望する	393	4.1
4	ヨーロッパ・アメリカ学科への入学を検討する	810	8.4
5	北欧学科への入学を希望する	63	0.7
6	北欧学科への入学を検討する	159	1.6
7	文芸創作学科への入学を希望する	137	1.4
8	文芸創作学科への入学を検討する	265	2.7
9	広報メディア学科への入学を希望する	352	3.6
10	広報メディア学科への入学を検討する	607	6.3
11	心理・社会学科への入学を希望する	474	4.9
12	心理・社会学科への入学を検討する	1,024	10.6
13	健康マネジメント学科への入学を希望する	486	5.0
14	健康マネジメント学科への入学を検討する	973	10.0
15	看護学科への入学を希望する	501	5.2
16	看護学科への入学を検討する	741	7.7
17	どちらへの入学も希望しない	1,008	10.4
	無回答	643	6.6
	N (%ベース)	9,685	100

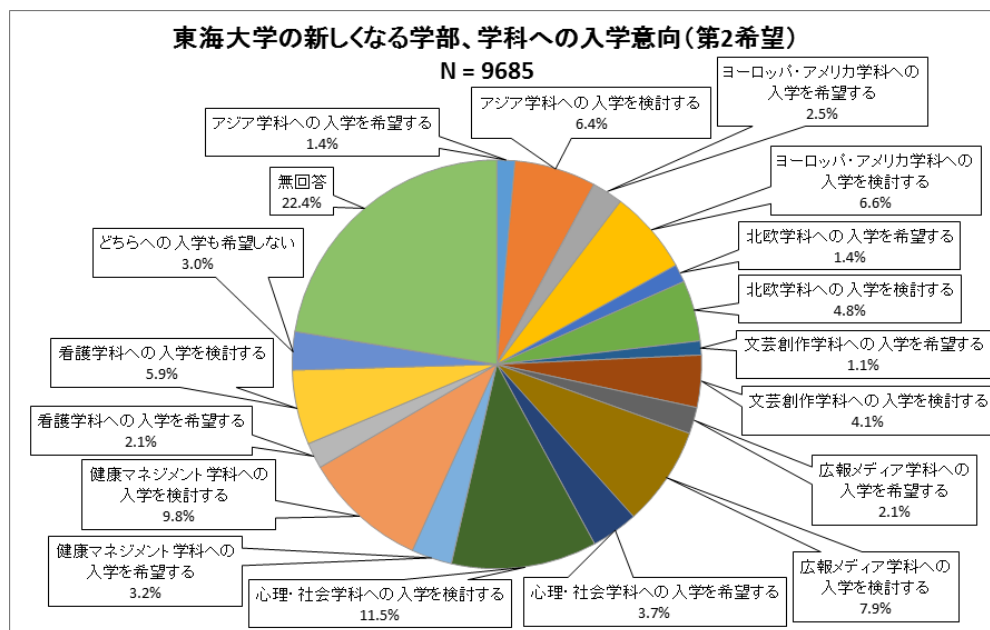


8-2 新学部・新学科への入学意向（第2希望）について

「(7) 新学部・新学科への受験意向について」の回答者のうち、「受験先として考えないと思う」と回答した者を除いた 9,685 人に、東海大学文化社会学部アジア学科、ヨーロッパ・アメリカ学科、北欧学科、文芸創作学科、広報メディア学科、心理・社会学科、健康学部健康マネジメント学科、医学部看護学科を受験し、合格した場合の入学意向（第2希望）について調査した。

その結果は、下記の表の通りとなった。

東海大学の新しくなる学部、学科への入学意向(第2希望)			
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	アジア学科への入学を希望する	137	1.4
2	アジア学科への入学を検討する	624	6.4
3	ヨーロッパ・アメリカ学科への入学を希望する	238	2.5
4	ヨーロッパ・アメリカ学科への入学を検討する	642	6.6
5	北欧学科への入学を希望する	137	1.4
6	北欧学科への入学を検討する	465	4.8
7	文芸創作学科への入学を希望する	108	1.1
8	文芸創作学科への入学を検討する	399	4.1
9	広報メディア学科への入学を希望する	203	2.1
10	広報メディア学科への入学を検討する	763	7.9
11	心理・社会学科への入学を希望する	359	3.7
12	心理・社会学科への入学を検討する	1,114	11.5
13	健康マネジメント学科への入学を希望する	310	3.2
14	健康マネジメント学科への入学を検討する	951	9.8
15	看護学科への入学を希望する	199	2.1
16	看護学科への入学を検討する	572	5.9
17	どちらへの入学も希望しない	292	3.0
	無回答	2,172	22.4
	N (%ベース)	9,685	100



3. 調査結果のまとめ

「(8) 新学部・新学科への入学意向について 8-1 新学部・新学科への入学意向（第1希望）について」にて東海大学文化社会学部アジア学科、ヨーロッパ・アメリカ学科、北欧学科、文芸創作学科、広報メディア学科、心理・社会学科、健康学部健康マネジメント学科、医学部看護学科への入学意向（第1希望）について調査した結果は以下の通りである。

東海大学の新しくなる学部、学科への入学意向(第1希望)			
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	アジア学科への入学を希望する	479	4.9
2	アジア学科への入学を検討する	570	5.9
3	ヨーロッパ・アメリカ学科への入学を希望する	393	4.1
4	ヨーロッパ・アメリカ学科への入学を検討する	810	8.4
5	北欧学科への入学を希望する	63	0.7
6	北欧学科への入学を検討する	159	1.6
7	文芸創作学科への入学を希望する	137	1.4
8	文芸創作学科への入学を検討する	265	2.7
9	広報メディア学科への入学を希望する	352	3.6
10	広報メディア学科への入学を検討する	607	6.3
11	心理・社会学科への入学を希望する	474	4.9
12	心理・社会学科への入学を検討する	1,024	10.6
13	健康マネジメント学科への入学を希望する	486	5.0
14	健康マネジメント学科への入学を検討する	973	10.0
15	看護学科への入学を希望する	501	5.2
16	看護学科への入学を検討する	741	7.7
17	どちらへの入学も希望しない	1,008	10.4
	無回答	643	6.6
	N (%ベース)	9,685	100

① 文化社会学部アジア学科について

「入学を希望する」、「入学を検討する」と回答した高校2年生は合計 1,049 人となり、東海大学文化社会学部アジア学科の入学定員 70 人に対し、約 14.98 倍の入学意向を示している。

また、「入学を希望する」と回答した高校2年生は 479 人となり、東海大学文化社会学部アジア学科の入学定員 70 人に対し、約 6.84 倍の入学意向を示している。

② 文化社会学部ヨーロッパ・アメリカ学科について

「入学を希望する」、「入学を検討する」と回答した高校2年生は合計 1,203 人となり、東海大学文化社会学部ヨーロッパ・アメリカ学科の入学定員 70 人に対し、約 17.18 倍の入学意向を示している。

また、「入学を希望する」と回答した高校2年生は 393 人となり、東海大学文化社会学部ヨーロッパ・アメリカ学科の入学定員 70 人に対し、約 5.61 倍の入学意向を示している。

③ 文化社会学部北欧学科について

「入学を希望する」、「入学を検討する」と回答した高校 2 年生は合計 222 人となり、東海大学文化社会学部北欧学科の入学定員 60 人に対し、3.7 倍の入学意向を示している。

また、「入学を希望する」と回答した高校 2 年生は 63 人となり、東海大学文化社会学部北欧学科の入学定員 60 人に対し、1.05 倍の入学意向を示している。

④ 文化社会学部文芸創作学科について

「入学を希望する」、「入学を検討する」と回答した高校 2 年生は合計 402 人となり、東海大学文化社会学部文芸創作学科の入学定員 60 人に対し、6.7 倍の入学意向を示している。

また、「入学を希望する」と回答した高校 2 年生は 137 人となり、東海大学文化社会学部文芸創作学科の入学定員 60 人に対し、約 2.28 倍の入学意向を示している。

⑤ 文化社会学部広報メディア学科について

「入学を希望する」、「入学を検討する」と回答した高校 2 年生は合計 959 人となり、東海大学文化社会学部広報メディア学科の入学定員 100 人に対し、9.59 倍の入学意向を示している。

また、「入学を希望する」と回答した高校 2 年生は 352 人となり、東海大学文化社会学部広報メディア学科の入学定員 100 人に対し、3.52 倍の入学意向を示している。

⑥ 文化社会学部心理・社会学科について

「入学を希望する」、「入学を検討する」と回答した高校 2 年生は合計 1,498 人となり、東海大学文化社会学部心理・社会学科の入学定員 90 人に対し、約 16.64 倍の入学意向を示している。

また、「入学を希望する」と回答した高校 2 年生は 474 人となり、東海大学文化社会学部心理・社会学科の入学定員 90 人に対し、約 5.26 倍の入学意向を示している。

⑦ 健康学部健康マネジメント学科について

「入学を希望する」、「入学を検討する」と回答した高校 2 年生は合計 1,459 人となり、東海大学健康学部健康マネジメント学科の入学定員 200 人に対し、約 7.29 倍の入学意向を示している。

また、「入学を希望する」と回答した高校 2 年生は 486 人となり、東海大学健康学部健康マネジメント学科の入学定員 200 人に対し、2.43 倍の入学意向を示している。

⑧ 医学部看護学科について

「入学を希望する」、「入学を検討する」と回答した高校 2 年生は合計 1,242 人となり、東海大学医学部看護学科の入学定員 85 人に対し、約 14.61 倍の入学意向を示している。

また、「入学を希望する」と回答した高校 2 年生は 501 人となり、東海大学医学部看護学科の入学定員 85 人に対し、約 5.89 倍の入学意向を示している。

以上の調査結果と、調査対象の高等学校以外からの高校生の進学も考えられることから、東海大学文化社会学部アジア学科、ヨーロッパ・アメリカ学科、北欧学科、文芸創作学科、広報メディア学科、心理・社会学科、健康学部健康マネジメント学科、医学部看護学科の入学定員を満たす学生は十分に確保できるものとする。

調査票等

東海大学 文化社会学部、健康学部、医学部看護学科の設置に係るアンケート調査

- ・東海大学では、2018（平成 30）年 4 月に、文化社会学部、健康学部、医学部看護学科の設置を計画しております。このアンケート調査は、その計画の基礎資料にするため、高校 2 年生のみなさんの卒業後の進路等についてお聞きするものです。ご協力をお願いいたします。
- ・このアンケート結果は、統計資料としてのみ用い、目的以外に利用することはありません。
- ・回答は、該当する番号を回答欄の □ の中へ直接記入してください。

東海大学の学部・学科の設置計画〔予定〕

設置は計画中であり、正式に決まったものではありません。

■文化社会学部

アジア学科（仮称）

・入学定員（予定）：70名

入学金：300,000円

授業料等：1,225,200円

合計：1,525,200円（初年度）

■文化社会学部

ヨーロッパ・アメリカ学科（仮称）

・入学定員（予定）：70名

入学金：300,000円

授業料等：1,225,200円

合計：1,525,200円（初年度）

■文化社会学部

北欧学科（仮称）

・入学定員（予定）：60名

入学金：300,000円

授業料等：1,225,200円

合計：1,525,200円（初年度）

■文化社会学部

文芸創作学科（仮称）

・入学定員（予定）：60名

入学金：300,000円

授業料等：1,225,200円

合計：1,525,200円（初年度）

■文化社会学部

広報メディア学科（仮称）

・入学定員（予定）：100名

入学金：300,000円

授業料等：1,236,200円

合計：1,536,200円（初年度）

■文化社会学部

心理・社会学科（仮称）

・入学定員（予定）：90名

入学金：300,000円

授業料等：1,236,200円

合計：1,536,200円（初年度）

■健康学部

健康マネジメント学科（仮称）

・入学定員（予定）：200名

入学金：300,000円

授業料等：1,236,200円

合計：1,536,200円（初年度）

■医学部

看護学科（仮称）

・入学定員（予定）：85名

入学金：300,000円

授業料等：1,363,200円

合計：1,663,200円（初年度）

※上記以外に、学科によっては実習費などがかかる場合があります。

〔あなたに関することについてお答えください〕

【回答欄】

問 1. あなたの学年をおたずねします。

1. 高校 2 年生 2. その他（ ）

問 2. あなたの性別についておたずねします。

1. 男子 2. 女子

問 3. あなたのお住まい（現住所）についておたずねします。

1. 東京都 2. 神奈川県 3. 埼玉県 4. 千葉県
5. 山梨県 6. 静岡県 7. その他（ ）

〔卒業後の進路についてお答えください〕

問 4. あなたは高校卒業後どのような進路をお考えですか。次の中から 1 つだけ選んでください。

1. 大学進学
2. 短期大学進学
3. 専門学校進学
4. 就職
5. その他（ ）

1、2、3 を選ばれた方は問 5 へお進みください。

4、5 を選ばれた方は問 11 へお進みください。

問 5. あなたは進学先（大学、短期大学、専門学校）で学ぶ分野として、どの分野に興味を持っていますか。次の中であてはまるものを第 3 位まで選んでください。

- | | | |
|-------------------------|--------------------------------------|-------|
| 1. 文学・史学・文化・外国語関係 | 10. 経済学・経営学・法律学・商学関係 | |
| 2. 哲学・宗教学・心理学関係 | 11. 理学・工学・生命科学関係 | 第 1 位 |
| 3. 社会学・社会福祉学関係 | 12. 情報関係 | |
| 4. 健康・スポーツ・体育学関係 | 13. 建築関係 | 第 2 位 |
| 5. 食物学・栄養学関係 | 14. 農学・獣医学関係 | |
| 6. 看護学関係 | 15. 家政学関係（被服・住居） | 第 3 位 |
| 7. 医学・歯学・薬学関係 | 16. 教育学・保育関係 | |
| 8. リハビリテーション関係 | 17. 芸術学関係 | |
| 9. 【選択肢 6～8 以外の】保健・医療関係 | 18. その他（具体的に： ） | |

次のページへお進みください 

問 6. あなたは東海大学を知っていますか。次の中から 1 つだけ選んでください。

1. 東海大学を進学先の候補の一つとして考えている
2. 大学の名前の他に、キャンパスの場所、学部、クラブなど一つ以上知っている
3. 大学の評判をなんとなく知っている
4. 大学の名前を聞いたことがある
5. 知らなかった

☐

問 7. あなたは東海大学に設置予定の学部、学科について、どのように考えますか。
次の中から 1 つだけ選んでください。

1. 大いに興味・関心がある
2. 興味・関心がある
3. すこし興味・関心がある
4. わからない
5. その他（具体的に:
6. 興味・関心はない

1、2、3 を選ばれた方は問 8 へお進みください。

4、5 を選ばれた方は問 9 へお進みください。

6 を選ばれた方は問 11 へお進みください。

☐

問 8. 問 7 で「大いに興味・関心がある」、「興味・関心がある」、「すこし興味・関心がある」と回答された方におたずねします。それは、どのような理由からですか。
次の中から 3 つまで選んでください。回答後は問 9 へお進みください。

- | | |
|----------------------|----------------------|
| 1. 大学のイメージが良いから | 6. 職業や企業への就職に有利そう |
| 2. 校舎・施設が充実していそうだから | 7. 学校のレベルが自分に合っているから |
| 3. 学べる内容やカリキュラムが良さそう | 8. 自宅から通えるから |
| 4. 具体的な勉強ができそう | 9. その他 |
| 5. 興味・関心のある分野だから | 具体的に: |

☐
☐
☐

問 9. あなたは東海大学に設置予定の学部、学科を受験したいと思いますか。
次の中から 1 つだけ選んでください。

1. 受験してみたい
2. 受験先として検討したい
3. わからない
4. 受験先として考えないと思う

1～3 を選ばれた方は問 10 へお進みください。

4 を選ばれた方は問 11 へお進みください。

☐

問 10. 東海大学に設置予定の学部、学科を受験し、合格した場合の入学意向について、
次の中から第 2 希望まで選んでください。

- | | | |
|--------------------------|-------------------------|--------------------------|
| (文化社会学部 アジア学科) | (文化社会学部 広報メディア学科) | 第 1 希望 |
| 1. アジア学科への入学を希望する | 9. 広報メディア学科への入学を希望する | ☐ |
| 2. アジア学科への入学を検討する | 10. 広報メディア学科への入学を検討する | |
| (文化社会学部 ヨーロッパ・アメリカ学科) | (文化社会学部 心理・社会学科) | 第 2 希望 |
| 3. ヨーロッパ・アメリカ学科への入学を希望する | 11. 心理・社会学科への入学を希望する | ☐ |
| 4. ヨーロッパ・アメリカ学科への入学を検討する | 12. 心理・社会学科への入学を検討する | |
| (文化社会学部 北欧学科) | (健康学部 健康マネジメント学科) | |
| 5. 北欧学科への入学を希望する | 13. 健康マネジメント学科への入学を希望する | |
| 6. 北欧学科への入学を検討する | 14. 健康マネジメント学科への入学を検討する | |
| (文化社会学部 文芸創作学科) | (医学部 看護学科) | |
| 7. 文芸創作学科への入学を希望する | 15. 看護学科への入学を希望する | |
| 8. 文芸創作学科への入学を検討する | 16. 看護学科への入学を検討する | |
| 17. どちらへの入学も希望しない | | |

問 11. 東海大学の文化社会学部、健康学部、医学部看護学科設置の計画について、ご意見・ご要望がありましたらお聞かせください。

◆ご協力ありがとうございました。

類似する近隣の大学・学部・学科一覧

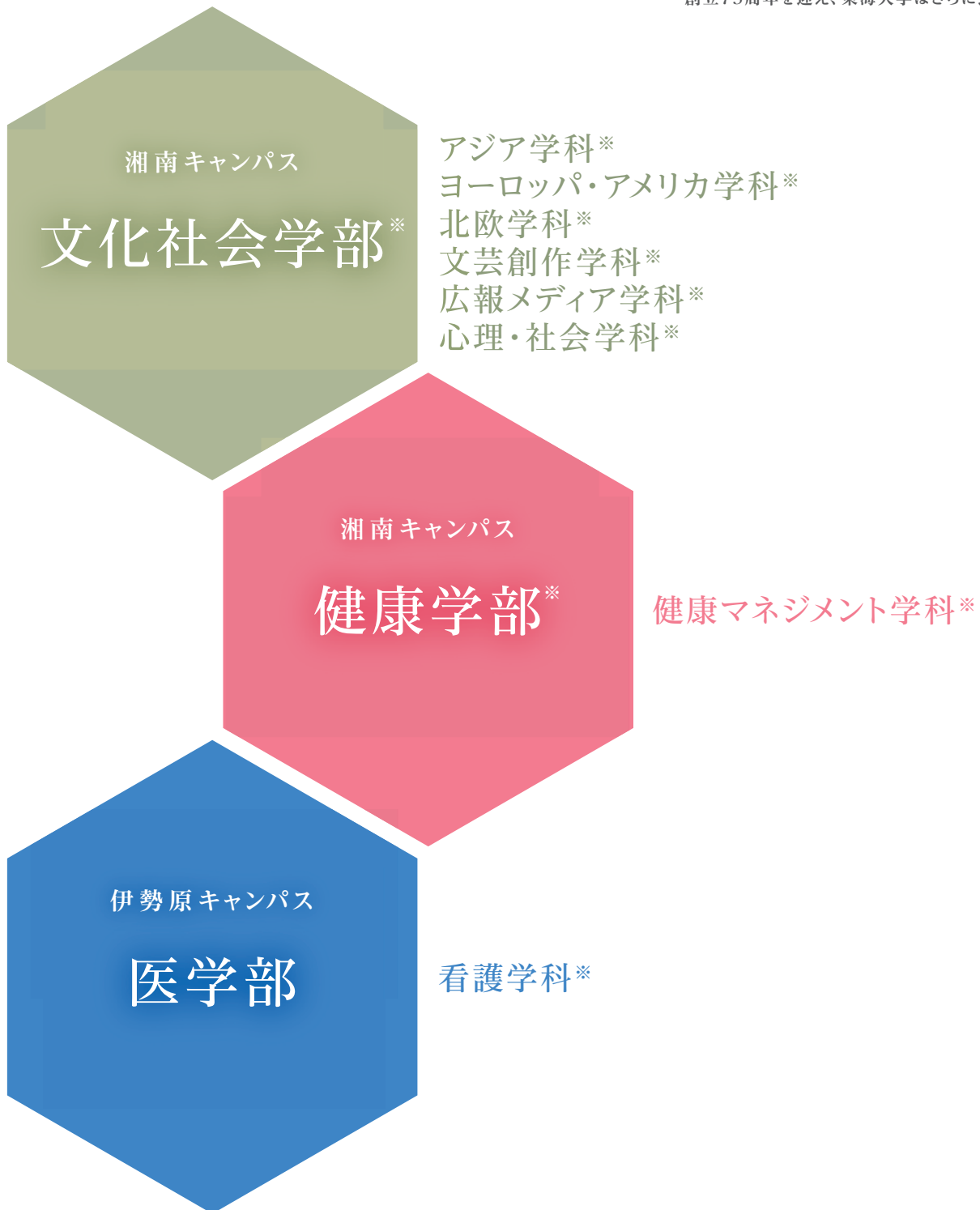
東海大学が設置を計画している学部・学科 文化社会学部（仮称）／健康学部（仮称）／医学部 看護学科（仮称）

所在地	区分	大学名	学部名	学科名	専攻等名	入学定員	入学金	授業料	施設設備費等	諸会費	合計
文化社会学部 アジア学科（仮称）											
東京都	私立	清泉女子大学	文学部	文化史学科		100	250,000	780,000	340,000		1,370,000
東京都	私立	武蔵大学	人文学部	日本・東アジア文化学科		100	270,000	740,000	300,000	28,900	1,338,900
東京都	私立	国士舘大学	21世紀アジア学部	21世紀アジア学科		385	240,000	762,000	282,000	24,940	1,308,940
神奈川県	私立	東海大学	文化社会学部（仮称）	アジア学科（仮称）		70 （予定）	300,000	650,000	516,000	59,200	1,525,200
文化社会学部 ヨーロッパ・アメリカ学科（仮称）											
東京都	私立	大妻女子大学	比較文化学部	比較文化学科		165	250,000	745,000	410,000	37,650	1,442,650
東京都	私立	武蔵大学	人文学部	ヨーロッパ文化学科		100	270,000	740,000	300,000	28,900	1,338,900
東京都	私立	成城大学	文芸学部	ヨーロッパ文化学科		60	200,000	790,000	280,000	35,500	1,305,500
神奈川県	私立	東海大学	文化社会学部（仮称）	ヨーロッパ・アメリカ学科（仮称）		70 （予定）	300,000	650,000	516,000	59,200	1,525,200
文化社会学部 北欧学科（仮称）											
東京都	私立	大妻女子大学	比較文化学部	比較文化学科		165	250,000	745,000	410,000	37,650	1,442,650
東京都	私立	武蔵大学	人文学部	ヨーロッパ文化学科		100	270,000	740,000	300,000	28,900	1,338,900
東京都	私立	成城大学	文芸学部	ヨーロッパ文化学科		60	200,000	790,000	280,000	35,500	1,305,500
神奈川県	私立	東海大学	文化社会学部（仮称）	北欧学科（仮称）		60 （予定）	300,000	650,000	516,000	59,200	1,525,200
文化社会学部 文芸創作学科（仮称）											
埼玉県	私立	日本大学	芸術学部	文芸学科		120	260,000	1,020,000	450,000	30,000	1,760,000
東京都	私立	淑徳大学	人文学部	表現学科	文芸表現コース	60	200,000	800,000	200,000	61,210	1,261,210
東京都	私立	大正大学	表現学部	表現文化学科	クリエイティブライティングコース	200	200,000	750,000	250,000		1,200,000
神奈川県	私立	東海大学	文化社会学部（仮称）	文芸創作学科（仮称）		60 （予定）	300,000	650,000	516,000	59,200	1,525,200
文化社会学部 広報メディア学科（仮称）											
東京都	私立	東京工科大学	メディア学部	メディア学科	メディア社会コース	300	250,000	1,296,000	0	23,300	1,569,300
神奈川県	私立	文教大学	情報学部	メディア表現学科		95	280,000	730,000	270,000		1,280,000
東京都	私立	東洋大学	社会学部	メディアコミュニケーション学科		150	250,000	710,000	220,000	10,000	1,190,000
神奈川県	私立	東海大学	文化社会学部（仮称）	広報メディア学科（仮称）		100 （予定）	300,000	650,000	527,000	59,200	1,536,200
文化社会学部 心理・社会学科（仮称）											
東京都	私立	昭和女子大学	人間社会学部	心理学科		100	200,000	855,600	400,000	2,400	1,458,000
東京都	私立	大妻女子大学	人間関係学部	人間関係学科	社会・臨床心理学専攻	75	250,000	745,000	410,000	37,650	1,442,650
東京都	私立	明星大学	心理学部	心理学科		120	250,000	800,000	350,000	18,600	1,418,600
神奈川県	私立	東海大学	文化社会学部（仮称）	心理・社会学科（仮称）		90 （予定）	300,000	650,000	527,000	59,200	1,536,200
健康学部 健康マネジメント学科（仮称）											
埼玉県	私立	大東文化大学	スポーツ・健康科学部	健康科学科		100	250,000	995,000	496,000	25,600	1,766,600
埼玉県	私立	早稲田大学	人間科学部	健康福祉科学科		200	200,000	1,371,000	27,000	3,000	1,601,000
東京都	私立	桜美林大学	健康福祉学群	健康科学専修		200	100,000	1,034,000	300,000		1,434,000
神奈川県	私立	東海大学	健康学部（仮称）	健康マネジメント学科（仮称）		200 （予定）	300,000	650,000	527,000	59,200	1,536,200
医学部 看護学科（仮称）											
東京都	私立	杏林大学	保健学部	看護学科		140	250,000	1,150,000	500,000	73,370	1,973,370
神奈川県	私立	北里大学	看護学部	看護学科		120	400,000	1,200,000	300,000		1,900,000
東京都	私立	東京慈恵会医科大学	医学部	看護学科		60	500,000	1,000,000	0		1,500,000
神奈川県	私立	東海大学	医学部	看護学科（仮称）		85 （予定）	300,000	735,000	569,000	59,200	1,663,200

注1）各大学の情報については、2016年10月時点の公式ウェブサイトにより調査しました。

注2）各大学の学費については、各大学の公表方法に基づいています。諸会費などを含まない場合や2016年度・2017年度の学費が混在している場合があるため、あくまでも概算として参考にしてください。

注3）東海大学の学費は予定であり、変更する場合があります。また、上記以外に、学科によっては実習費などがかかる場合があります。



知と実践の力を育てる新たなフィールド、誕生。

2018年4月、東海大学は、
文化社会学部／健康学部／医学部看護学科の
新設を計画しています。

※仮称／設置計画中(上記の内容は予定であり、変更する場合があります。)

調和のとれた文明社会を建設することのできる人材を育成する。

人材を育成するための教育理念

自らの 思想を培う

知識や技術の単なる教授にとどまらず、ヒューマニズムに立脚した教養を重視し、人間、社会、歴史、世界、文明などについて、学生一人ひとりが「自らの思想を培う」ことのできる教育を実践しています。

学生一人ひとりの素質の 伸張を支援する

本学は知識偏重ではなく、学生一人ひとりの素質を伸ばす支援をすることで、個性ある多様な人材を社会に送り出すことを目指しています。

文理融合の幅広い知識と 国際性豊かな視野の獲得

教育と研究の場において、総合大学としての特性を生かし、文系・理系の領域を融合した幅広い知識と、他文化を理解し、国際性豊かな視野を持つ人材の育成をはかっています。

東海大学は社会で役立つ「4つの力」を育てます。

自ら考える力

未来を見据え、
つねに課題を探究する力。

集い力

多様な人たちと手を取り、
結集する力。

挑み力

困難な課題にも
勇気を持って挑戦する力。

成し遂げ力

失敗や挫折を乗り越え、
目標を実現する力。

本学は全学生が身につけるべき素養として、「4つの力」を掲げ、社会に貢献できる人を育てるための特色ある教育を行っています。



4つの力を伸ばす、鍛える、 チャレンジセンター

4つの力を養うため、学部・学科、学年を超えて学生が集い、ものづくり、ボランティア、地域活性化などの目標に取り組む場がチャレンジセンターです。大学として、支援金の支給や活動スペースの提供、教職員によるアドバイスなどを行い、学生が自由な発想で企画立案したプロジェクト活動を全面的に支援しています。



グローバル人材を育成するための取り組み



1 湘南キャンパスに 「International Café」がオープン

店員は英語で接客し、店内には英語ニュースの映像が流れています。キャンパスで学ぶ留学生とのふれあいの場として、英語を身近に感じる場として、多くの学生が利用しています。



2 使える外国語力を磨く 国際教育センター

国際教育センターでは、英語・中国語・フランス語・ドイツ語・ロシア語・韓国語・スペイン語などの外国語教育プログラムを用意。レベルに応じたコースで開講しています。



3 充実した海外留学制度

世界20カ国・地域、40機関との交換協定による留学制度を準備しています。奨学金の給付や単位認定制度、出発前のオリエンテーションなどで、学生の学ぶ意欲をサポートします。

現代社会の課題に、 さまざまな角度から アプローチ

本学は現代社会の課題に、人文・社会学から理・工学、航空宇宙学、医学、海洋学、農学などさまざまな角度からアプローチしています。文系と理系の両分野にわたる学部・学科の設置、時代の先端を行く個性的な学科の新設など、本学はつねに進化を続けています。



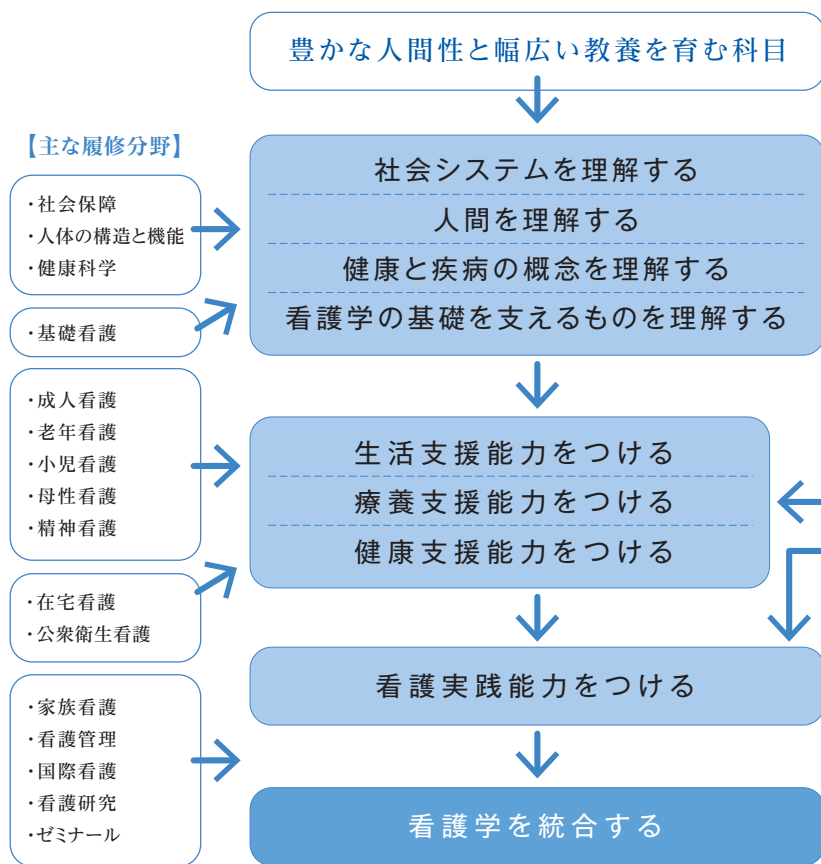


保健・医療の知識・技術と幅広い教養を身につけ、
確かな臨床判断のできる看護職を育成します。

20年以上看護職を育成してきた看護学科を医学部に設置(設置計画中)します。
医学部の中で教育を行うことによって基礎的な医学知識の充実・向上をはかり、高度な看護の
専門知識と技術を習得し、根拠をもった臨床判断のできる看護職の育成を目指します。
またこれまでの看護学科の理念を継承し、人間・社会・環境に対する深い理解と、
コミュニケーション能力や問題解決力とともに、実践力を備えた看護職者を育てます。

履修イメージ

豊かな人間性と幅広い教養を育む科目をベースに、
社会における多様な看護支援領域とその実務能力を、
多彩な科目と豊富な実習で確かなものにし、
トータルに看護を実践できる人を目指します。



取得可能な資格 (予定)^{※1}

- 看護師国家試験受験資格^{※2}
- 保健師国家試験受験資格^{※2}
- 養護教諭一種免許状^{※3}

目指せる主な進路

東海大学附属病院をはじめとする大学病院、
国公立病院、一般病院、市町村保健センター、
保健所、看護系大学院など

学位：学士(看護学) 定員：85名 (予定)

^{※1} いずれの資格も所定の条件を満たす必要があります。^{※2} 指定申請予定。保健師国家試験受験資格は学内選抜による定員制(30名程度)
^{※3} 教職課程認定申請予定。ただし、文部科学省における審査の結果、予定している教職課程の開設時期が変更になる可能性があります。

東海大学 医学部 看護学科で学ぶメリット

看護学科生が学ぶキャンパスには、東海大学医学部附属病院が併設されており、高度救命救急センターを含む37診療科、ドクターヘリを備えた先端医療を展開する臨床現場で、豊富な実習を受けることができます。

▼伊勢原キャンパス



東海大学附属病院

- 教員と附属病院の看護師の重層的な指導により、技術を確実に習得できる。
- 医学部医学科、工学部医用生体工学科、健康学部(設置計画中)等の医療・福祉系の他学科連携により、多職種連携の理解を深めることができる。
- 伊勢原キャンパス内の附属病院のほかにも3つの附属病院があり、多くの卒業生が活躍。将来像をイメージしながら、実習に取り組むことができる。



大磯病院



東京病院



八王子病院

本学科は2018年4月開設に向けて設置計画中です。学科の概要等は予定であり、変更になる可能性があります

文化社会学部 (仮称／設置計画中)



世界中の人々と交流し、力を合わせて
現代の課題解決に挑む人材を育成します。

文化社会学部(仮称)の目標は、グローバル化、デジタル化が進む世界で、
拡大を続ける紛争や格差、環境問題などの解決に貢献できる人材の育成です。
「多文化理解の促進」「高度な言語表現力の育成」「メディアの理解・利用・創造」
「自立と共生を実現する知識と力」の4つを柱とする教育・研究を行い、
人と社会と自然が豊かに共生する未来を目指します。

アジア学科 (仮称)

多様なアジアを多角的に学ぶ



アジアの多様な文明と文化を「歴史と文明」「文化と社会」「アジア各国の言語」の観点から学び、現代のアジアと日本を読み解きます。同時に、現代社会の問題や課題がなぜ起こり、どうすれば解決できるかを考え、同じアジアの一員として「行動する力」を身につけます。

取得可能な資格 (予定)※1

- 中学校教諭一種免許状(社会)※2
- 高等学校教諭一種免許状(地理歴史)※2
- 司書・司書教諭 ■学芸員
- 社会教育主事任用資格※3

目指せる主な進路

アジアへの広い知識や文化的な理解を生かして、活躍できる分野や企業への就職。

→旅行業、商社、公務員など。

定員:70名 (予定)

ヨーロッパ・アメリカ学科 (仮称)

西洋世界を学び未来を創造する



西洋世界への理解は、現代社会に生きる私たちに欠かせません。各地域について深く知るとともに、文化の源流を辿り、多様性を受容しながら、欧米の「文学・芸術」「宗教・思想」「歴史・社会」という分野を学び、国際人に必要な知識と共生の精神を学びます。

取得可能な資格 (予定)※1

- 中学校教諭一種免許状(社会)※2
- 高等学校教諭一種免許状(地理歴史)※2
- 司書・司書教諭 ■学芸員
- 社会教育主事任用資格※3

目指せる主な進路

ヨーロッパとアメリカの文化や言語、歴史への理解や考え方を生かして働くことができる企業への就職や進学。

→旅行業、金融、保険、公務員など。

定員:70名 (予定)

北欧学科 (仮称)

北欧の先進性に学び共生社会を目指す



人間らしく生きる社会の構築を目指す北欧。その取り組みや文化・言語を学ぶことで、多様な価値観を受容する視野の広さ、柔軟な発想力、コミュニケーション力、自らを客観的に見つめる目を養い、日本社会の課題克服にも取り組むことのできる人材を育成します。

取得可能な資格 (予定)※1

- 司書
- 学芸員
- 社会教育主事任用資格※3

目指せる主な進路

北欧に関する学びで得た幅広い知識と視野の広さ、発想力、コミュニケーション力を生かし活躍のできるさまざまな分野や企業への就職。

→商社、旅行業、公務員など。

定員:60名 (予定)

文芸創作学科 (仮称)

表現力を磨き社会を生き抜く



情報社会では、ものごとを的確に、効果的に伝える「表現力」が重要。その基礎は「言葉」「文章を書く力」です。本学科では、出来事の本質を読み取り正確な言葉で表現する力、培った教養を未来に向かって生かしていく力を養うことで、表現力や人間性を高めます。

取得可能な資格 (予定)※1

- 司書
- 学芸員
- 社会教育主事任用資格※3

目指せる主な進路

身につけた分析力や表現力を生かし、応用力を持って活躍できる、さまざまな分野や企業への就職。

→ 編集出版、マスコミ関連、広告関連など。

定員: 60名 (予定)

広報メディア学科 (仮称)

価値あるメッセージを創造し発信する



デジタル技術の普及が世界規模で人々に影響を与えている現代。本学科はメディアと社会の関係を理論的・歴史的に捉え、価値あるメッセージとは何かを判断する力、社会に適切なメッセージを送る力を養い、刻々と変化するメディアの状況に即応できる人材を育てます。

取得可能な資格 (予定)※1

- 中学校教諭一種免許状(社会)※2
- 高等学校教諭一種免許状(公民)※2
- 司書・司書教諭 ■ 学芸員
- 社会教育主事任用資格※3

目指せる主な進路

身につけたメディアの知識や技術を活用できるさまざまな分野や企業への就職。

→ マスコミ関連、広報・広告関連、情報関連など。

定員: 100名 (予定)

心理・社会学科 (仮称)

心理と社会を分析し実践力を育てる



心理学・社会心理学・社会学の学びや、フィールドでの実践を通して、日々の生活に必要な「コミュニケーション能力」と、社会の課題に具体的な解決策を提案できる「社会的構想力」を養い、心の安定に関する技法や、人と地域をつなぐ方法を身につけた人材を育てます。

取得可能な資格 (予定)※1

- 中学校教諭一種免許状(社会)※2
- 高等学校教諭一種免許状(公民)※2
- 司書・司書教諭 ■ 学芸員
- 社会教育主事任用資格※3

目指せる主な進路

身につけた知識を専門分野で生かすだけでなく、心理的、社会的な課題や問題を解決する応用力で、さまざまな分野や企業への就職。

→ 教育医療福祉関連、マスコミ関連、情報関連など。

定員: 90名 (予定)

※1 いずれの資格も所定の条件を満たす必要があります。 ※2 教職課程認定申請予定。ただし、文部科学省における審査の結果、予定している教職課程の開設時期が変更になる可能性があります。
※3 卒業後一定の経験年数を経て取得可能。

学位: 学士(文化社会学)

主な就職先 <参考: 2015年度文学部(学部・学科改編前)実績>

エコ・プラン/トランスコスモス/全日本空輸/日本航空/リコーロジスティクス/下野新聞社/山愛/山口放送/スズキ自販神奈川/みずほフィナンシャルグループ/明治安田生命保険/セブン&アイ・ホールディングス/サントリー食品インターナショナル/ANAエアポートサービス/トヨタタイヤジャパン/ホンダプリモ小見川/横浜環境デザイン/ドンク/PFU/アイ・エス・ビー/カインズ/マルエツ/大塚家具/カネボウ化粧品販売/日本郵便/湘南ケーブルネットワーク/アサヒクリエーション/共同通信社/マイナビ/ユナイテッドアローズ/エヌ・ティ・ティ・インターネット/日本通運/東京ガス/三井住友銀行/横浜銀行/三菱東京UFJ銀行/法務省/千葉県庁/十和田市役所/神奈川県警察本部

本学部・学科は2018年4月開設に向けて設置計画です。学部・学科の概要等は予定であり、変更になる可能性があります



栄養、運動、メンタルヘルス、福祉の専門知識・技能をベースに、健康社会の創成と健康産業に貢献できる人材を養成します。

人口減少と高齢化が急速に進む日本において、人的資源、公的資源に限られる一方で、保健・医療・福祉に対するニーズはますます多様化し、多くの問題や課題が生じています。健康学部健康マネジメント学科では、こうした課題を解決するため、身体的な健康だけでなく、精神的、社会的、経済的な健康についての多角的な知識と、地域社会や企業と連携協働できるネットワーク力とマネジメント能力をもった人材を育成します。

健康マネジメント学科(仮称)の学びのイメージ

現在の興味や知識を育て、健康をマネジメントする。

「健康」は一つの分野だけで捉えられません。健康を構成するさまざまな要素を、まとめ、分析し、管理する「マネジメント力」を育成します。



健康社会の創成と健康産業に貢献できる

食・栄養、運動、メンタルヘルス、福祉のプロフェッショナルになりたい。プラス、自分らしさ。さまざまなアプローチで、高い力と、多様な力をつけていくことができます。

健康マネジメント学科(仮称)の学びのポイント

1 複数の資格取得が可能

学生の希望に合わせ、定められた科目を履修することにより、社会福祉士、精神保健福祉士、健康運動実践指導者、サプリメントアドバイザーなど、複数の資格や受験資格が取得できます。

2 自分の健康データを収集し、セルフケアを実践

入学から卒業まで授業を通じ、自分の体重・体組成・筋力・骨密度などに関するデータを収集し、健康状態を把握して、セルフケアを実践します。

3 地域や海外で現場を体験するプログラム

地域または海外で現場体験ができる実践型(フィールドワークやインターンシップなど)の教育プログラムを低学年から実施します。

4 学内・学外との連携を強化

医学部、体育学部、付属病院、医療技術短大、神奈川県、近隣自治体など、学内外の連携強化をはかり、東海大学でしか学べない高度な実践教育プログラムを実施。また本学のさまざまな専門研究機関による先端研究に触れることもできます。

取得可能な資格(予定)*

- 社会福祉士国家試験受験資格
- 精神保健福祉士国家試験受験資格
- 社会調査士
- 健康運動実践指導者
- 健康運動指導士
- サプリメントアドバイザー

* いずれの資格も所定の条件を満たす必要があります。

目指せる主な進路

一般企業(健康関連企業、フィットネスクラブ、測定機器メーカー、医薬品・健康食品・福祉用具・サプリメントアドバイザー、食品メーカー等)、ケースワーカー、病院職員、ケアマネージャー、福祉施設(デイサービス、介護予防サービス)、公務員など

学位:学士(健康マネジメント学) 定員:200名(予定)

(仮称／設置計画中)

学びの領域とカリキュラム

問題解決型の教育や能動的な研究活動による学びの中で、“健康社会”の基礎的な知識とともに、運動、栄養、メンタルヘルスなど、健康にかかわる多様な分野の専門知識と実践力を身につけた「T字型人材」を育成します。



履修モデルと将来イメージ

モデル1

子ども、障がい者、高齢者の誰もが、健康で安心して地域で暮らせるように支えたい。

【履修科目の組み合わせ例】

ソーシャルウェルネス + ソリューション + メンタルヘルス

社会福祉の相談援助の知識とスキルを学び、社会福祉の国家資格である「社会福祉士」や「精神保健福祉士」を取得し、子ども、障がい者、高齢者など多様な人々を支援できる社会福祉の相談援助のエキスパートになることを目指します。

【資格の取得例】 社会福祉士国家試験受験資格、
精神保健福祉士国家試験受験資格、社会調査士

モデル2

運動によって人びとの健康を支えたい。

【履修科目の組み合わせ例】

ソーシャルウェルネス + ソリューション + 健康と運動

健康運動実践指導者等の資格を取得し、年齢や体力、障がいにかかわらず皆が共に楽しめる健康スポーツの開発、イベントの企画、指導ができる人を目指します。

【資格の取得例】 健康運動実践指導者、健康運動指導士、社会調査士

モデル3

栄養と運動の知識を活用して、健康に関する商品・サービスを開発する企業で活躍したい。

【履修科目の組み合わせ例】

ソーシャルウェルネス + ソリューション + 健康と運動
+ 健康と栄養

健康に関する総合的な知識をもち、食品、運動、福祉ビジネスなどの企業で商品開発やサービスコーディネートができる人を目指します。

【資格の取得例】 サプリメントアドバイザー、社会調査士

モデル4

保健・医療・福祉の現場で、マネジメントリーダーとして活躍したい。

【履修科目の組み合わせ例】

ソーシャルウェルネス + ソリューション + 健康と運動
+ メンタルヘルス + 健康と栄養

健康に関する総合的な知識をもち、さらにマネジメントやリーダーシップを身につけ、自治体や病院・施設、健康に関する企業でのマネジメントリーダーになれる人を目指します。

【資格の取得例】 社会調査士

本学部・学科は2018年4月開設に向けて設置計画中です。学部・学科の概要等は予定であり、変更になる可能性があります

湘南キャンパス（神奈川県平塚市）

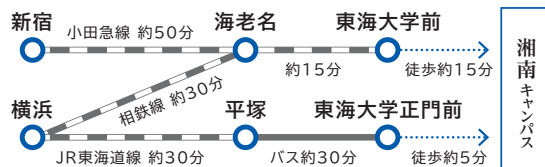
9学部約2万人が学ぶメインキャンパス。公園都市をイメージさせる豊かな自然環境の中、文理融合型総合大学の多様性とスケールの大きさが実感できます。



ACCESS

小田急線「東海大学前」駅下車
徒歩約15分
JR東海道線「平塚」駅より、
バス乗車（約30分）、
「東海大学正門前」下車
徒歩約5分

〒259-1292
神奈川県平塚市北金目4-1-1
TEL.0463-58-6422



伊勢原キャンパス（神奈川県伊勢原市）

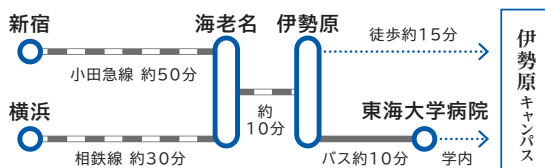
東海大学医学部付属病院を併設する伊勢原キャンパス。ここでは最先端の医療現場に触れながら、人間性豊かな医療人としての専門教育を受けることができます。



ACCESS

小田急線「伊勢原」駅下車、
「東海大学病院」行きバス、
または
「愛甲石田駅」行きバス（約10分）で
「東海大学病院」下車

〒259-1193
神奈川県伊勢原市下糟屋143
TEL.0463-93-1121



お問い合わせ | 大学運営本部高等教育室

〒259-1292 神奈川県平塚市北金目4-1-1
TEL.0463-58-1211（内線：2260・2281）

〈湘南キャンパス〉

文化社会学部（仮称／設置計画中）／健康学部（仮称／設置計画中）／
文学部／政治経済学部／法学部／教養学部／体育学部／理学部／
情報理工学部／工学部（医用生体工学科のみ1～2年次）／観光学部（1年次）／大学院

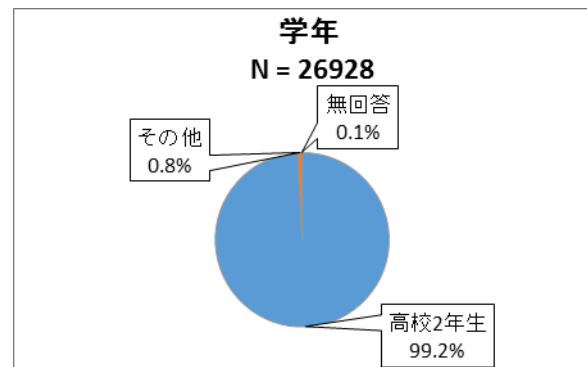
〈伊勢原キャンパス〉

医学部看護学科（仮称／設置計画中）／医学部医学科／
工学部（医用生体工学科3～4年次）／大学院

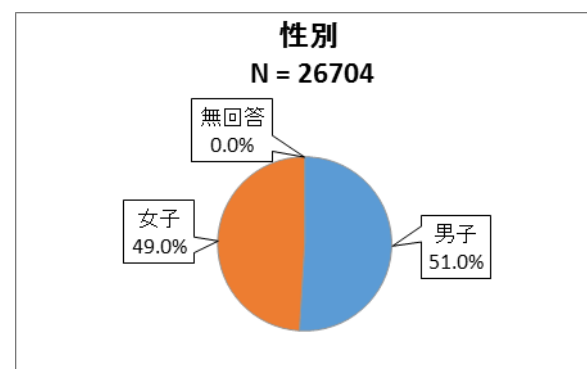
[http:// www.u-tokai.ac.jp/](http://www.u-tokai.ac.jp/)

単純集計表

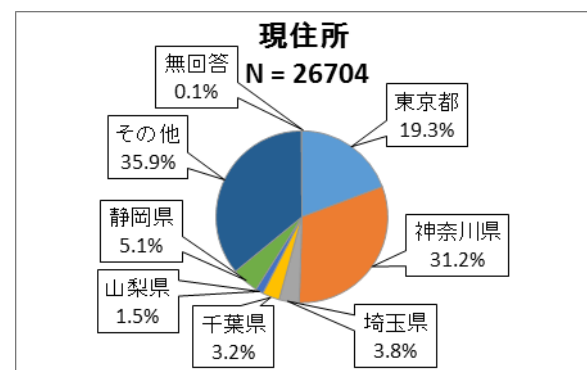
学年			
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	高校2年生	26,704	99.2
2	その他	210	0.8
	無回答	14	0.1
	N (%ベース)	26,928	100



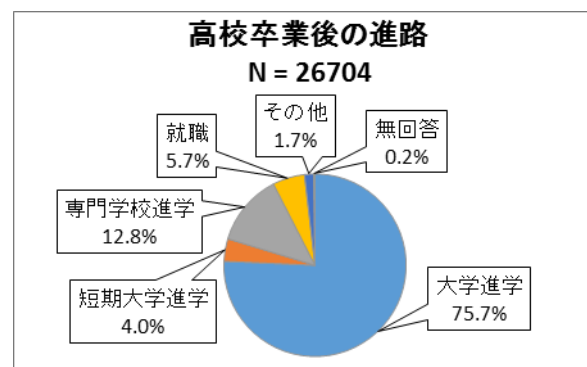
性別			
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	男子	13,610	51.0
2	女子	13,082	49.0
	無回答	12	0.0
	N (%ベース)	26,704	100



現住所			
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	東京都	5,147	19.3
2	神奈川県	8,343	31.2
3	埼玉県	1,004	3.8
4	千葉県	866	3.2
5	山梨県	396	1.5
6	静岡県	1,355	5.1
7	その他	9,579	35.9
	無回答	14	0.1
	N (%ベース)	26,704	100



高校卒業後の進路			
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	大学進学	20,208	75.7
2	短期大学進学	1,069	4.0
3	専門学校進学	3,413	12.8
4	就職	1,519	5.7
5	その他	442	1.7
	無回答	53	0.2
	N (%ベース)	26,704	100

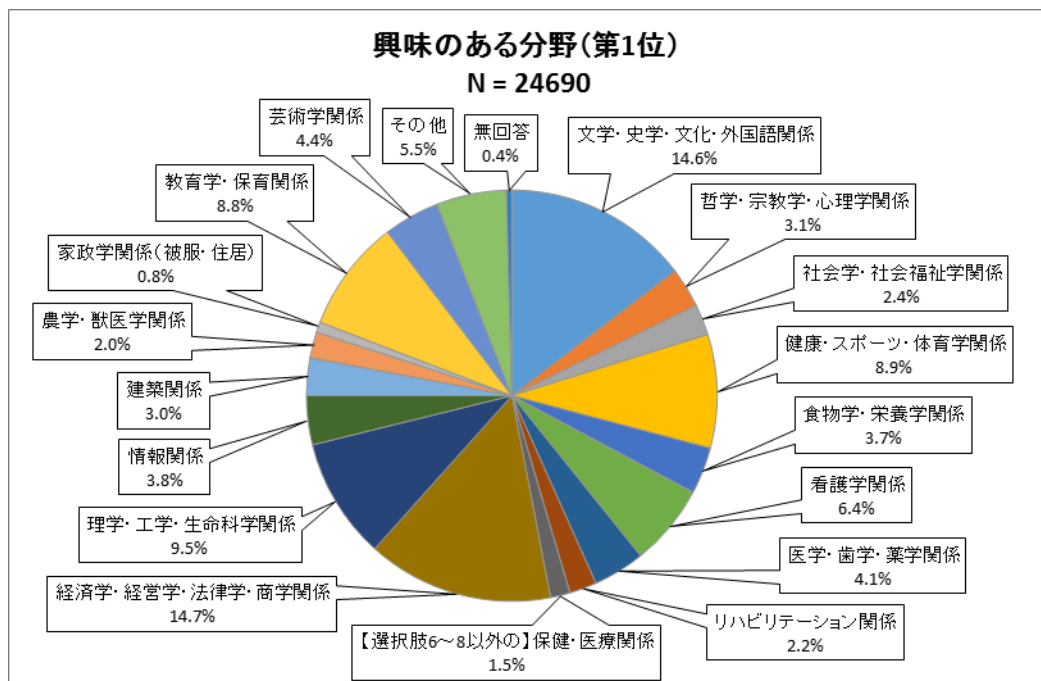


興味のある分野(第1位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	文学・史学・文化・外国語関係	3,608	14.6
2	哲学・宗教学・心理学関係	776	3.1
3	社会学・社会福祉学関係	600	2.4
4	健康・スポーツ・体育学関係	2,204	8.9
5	食物学・栄養学関係	907	3.7
6	看護学関係	1,588	6.4
7	医学・歯学・薬学関係	1,004	4.1
8	リハビリテーション関係	531	2.2
9	【選択肢6～8以外の】保健・医療関係	381	1.5
10	経済学・経営学・法律学・商学関係	3,619	14.7
11	理学・工学・生命科学関係	2,350	9.5
12	情報関係	950	3.8
13	建築関係	732	3.0
14	農学・獣医学関係	505	2.0
15	家政学関係(被服・住居)	200	0.8
16	教育学・保育関係	2,179	8.8
17	芸術学関係	1,088	4.4
18	その他	1,363	5.5
	無回答	105	0.4
	N (%ベース)	24,690	100

興味のある分野(第1位)

N = 24690

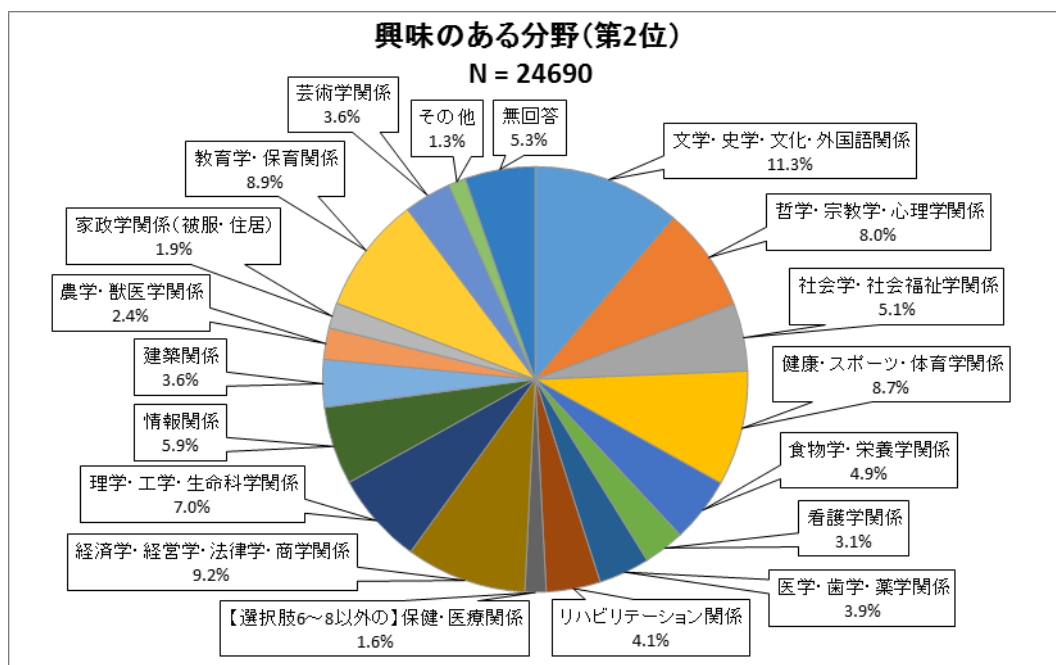


興味のある分野(第2位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	文学・史学・文化・外国語関係	2,784	11.3
2	哲学・宗教学・心理学関係	1,968	8.0
3	社会学・社会福祉学関係	1,266	5.1
4	健康・スポーツ・体育学関係	2,157	8.7
5	食物学・栄養学関係	1,220	4.9
6	看護学関係	774	3.1
7	医学・歯学・薬学関係	955	3.9
8	リハビリテーション関係	1,018	4.1
9	【選択肢6～8以外の】保健・医療関係	397	1.6
10	経済学・経営学・法律学・商学関係	2,269	9.2
11	理学・工学・生命科学関係	1,725	7.0
12	情報関係	1,467	5.9
13	建築関係	892	3.6
14	農学・獣医学関係	590	2.4
15	家政学関係(被服・住居)	477	1.9
16	教育学・保育関係	2,197	8.9
17	芸術学関係	890	3.6
18	その他	326	1.3
	無回答	1,318	5.3
	N (%ベース)	24,690	100

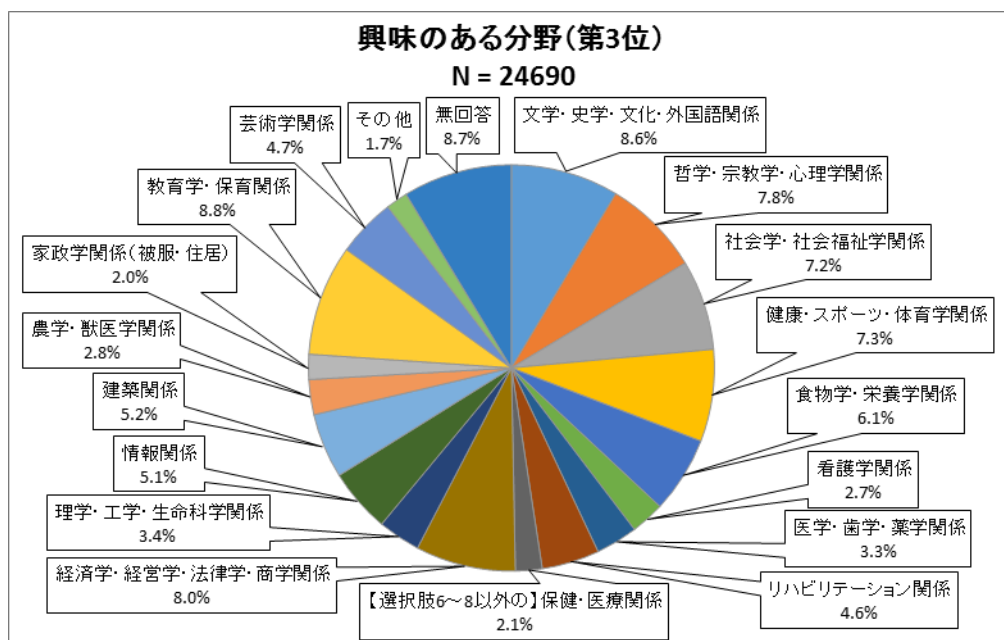
興味のある分野(第2位)

N = 24690



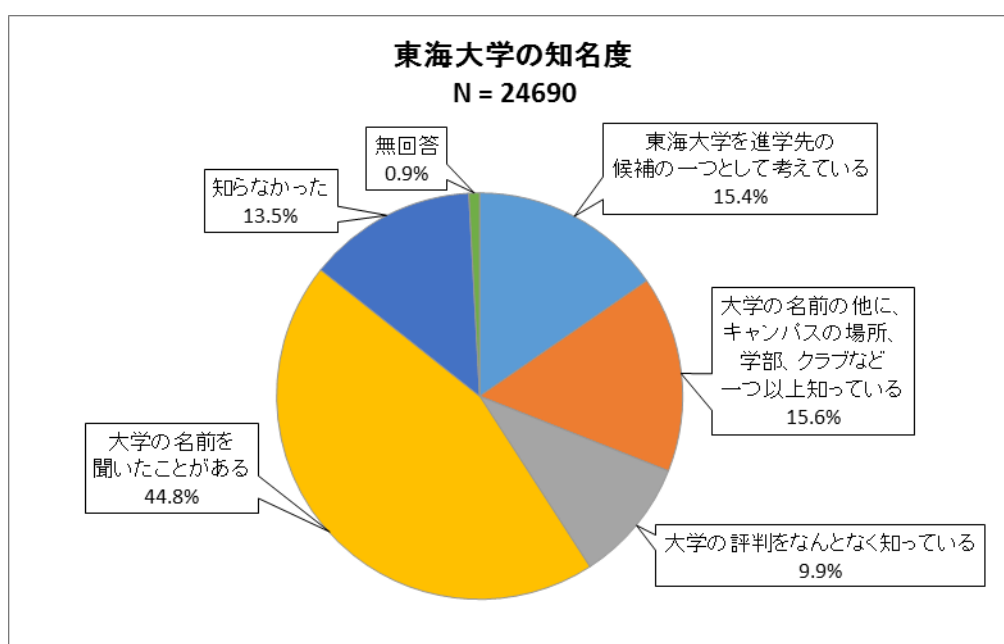
興味のある分野(第3位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	文学・史学・文化・外国語関係	2,122	8.6
2	哲学・宗教学・心理学関係	1,920	7.8
3	社会学・社会福祉学関係	1,769	7.2
4	健康・スポーツ・体育学関係	1,810	7.3
5	食物学・栄養学関係	1,501	6.1
6	看護学関係	664	2.7
7	医学・歯学・薬学関係	826	3.3
8	リハビリテーション関係	1,133	4.6
9	【選択肢6～8以外の】保健・医療関係	525	2.1
10	経済学・経営学・法学・商学関係	1,967	8.0
11	理学・工学・生命科学関係	835	3.4
12	情報関係	1,257	5.1
13	建築関係	1,274	5.2
14	農学・獣医学関係	690	2.8
15	家政学関係(被服・住居)	492	2.0
16	教育学・保育関係	2,177	8.8
17	芸術学関係	1,155	4.7
18	その他	431	1.7
	無回答	2,142	8.7
	N (%ベース)	24,690	100



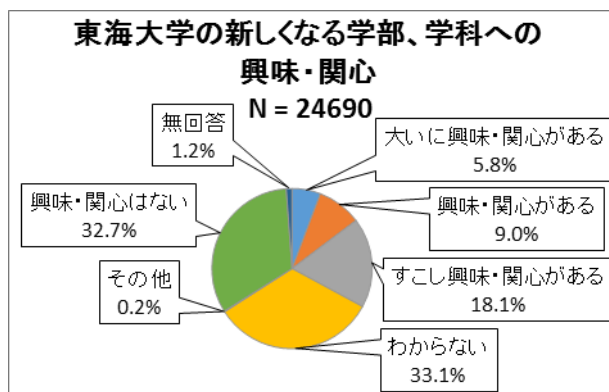
東海大学の知名度

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	東海大学を進学先の候補の一つとして考えている	3,799	15.4
2	大学の名前の他に、キャンパスの場所、学部、クラブなど一つ以上知っている	3,856	15.6
3	大学の評判をなんとなく知っている	2,434	9.9
4	大学の名前を聞いたことがある	11,066	44.8
5	知らなかった	3,325	13.5
	無回答	210	0.9
	N (%ベース)	24,690	100



東海大学の新しくなる学部、学科への興味・関心

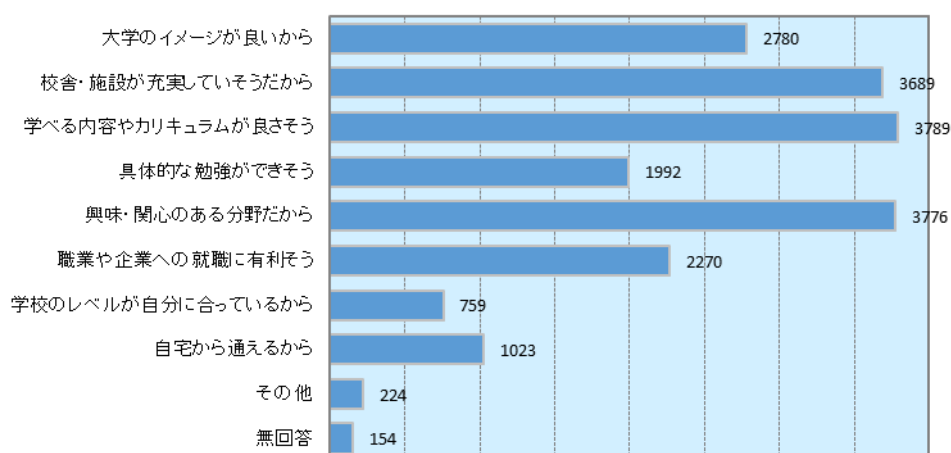
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	大いに興味・関心がある	1,421	5.8
2	興味・関心がある	2,214	9.0
3	すこし興味・関心がある	4,480	18.1
4	わからない	8,165	33.1
5	その他	38	0.2
6	興味・関心はない	8,085	32.7
	無回答	287	1.2
	N (%ベース)	24,690	100



東海大学の新しくなる学部、学科への興味・関心の理由（複数回答）

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	大学のイメージが良いから	2,780	34.3
2	校舎・施設が充実していそうだから	3,689	45.5
3	学べる内容やカリキュラムが良さそう	3,789	46.7
4	具体的な勉強ができそう	1,992	24.5
5	興味・関心のある分野だから	3,776	46.5
6	職業や企業への就職に有利そう	2,270	28.0
7	学校のレベルが自分に合っているから	759	9.4
8	自宅から通えるから	1,023	12.6
9	その他	224	2.8
	無回答	154	1.9
	N (%ベース)	8,115	100

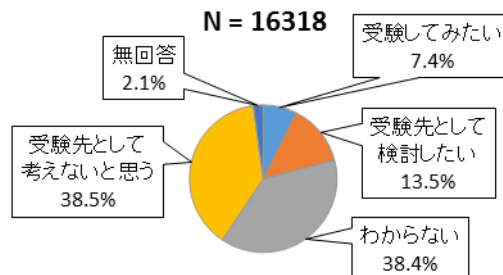
東海大学の新しくなる学部、学科への興味・関心の理由
(複数回答) N = 8115



東海大学の新しくなる学部、学科への受験意向

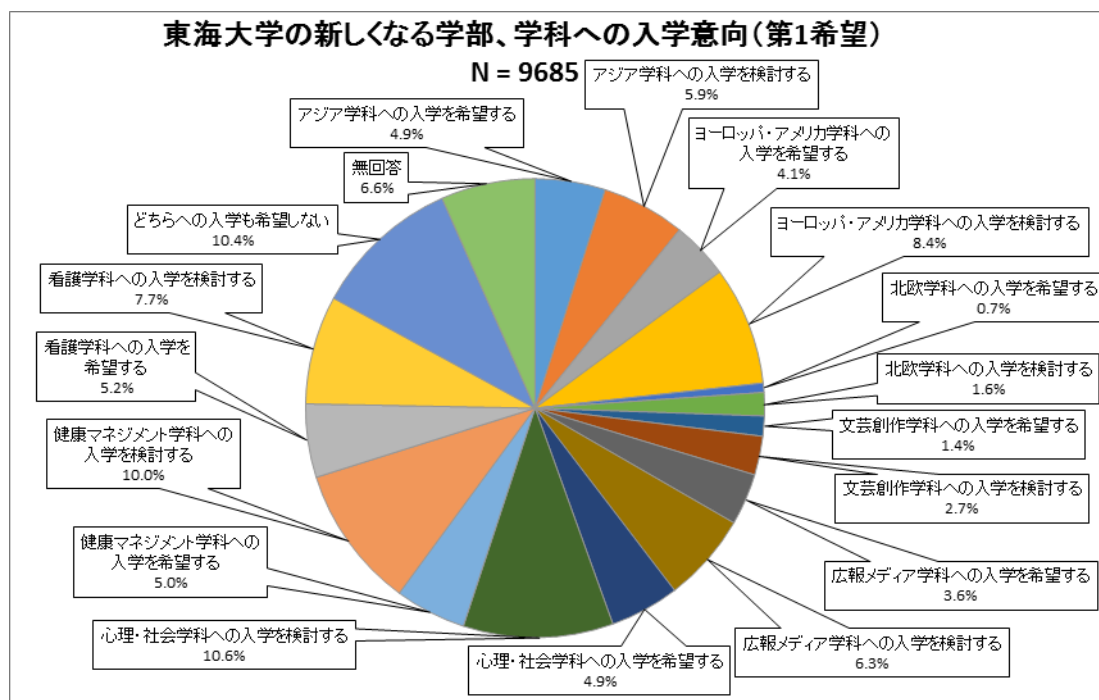
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	受験してみたい	1,210	7.4
2	受験先として検討したい	2,211	13.5
3	わからない	6,264	38.4
4	受験先として考えないと思う	6,283	38.5
	無回答	350	2.1
	N (%ベース)	16,318	100

東海大学の新しくなる学部、学科への
受験意向
N = 16318



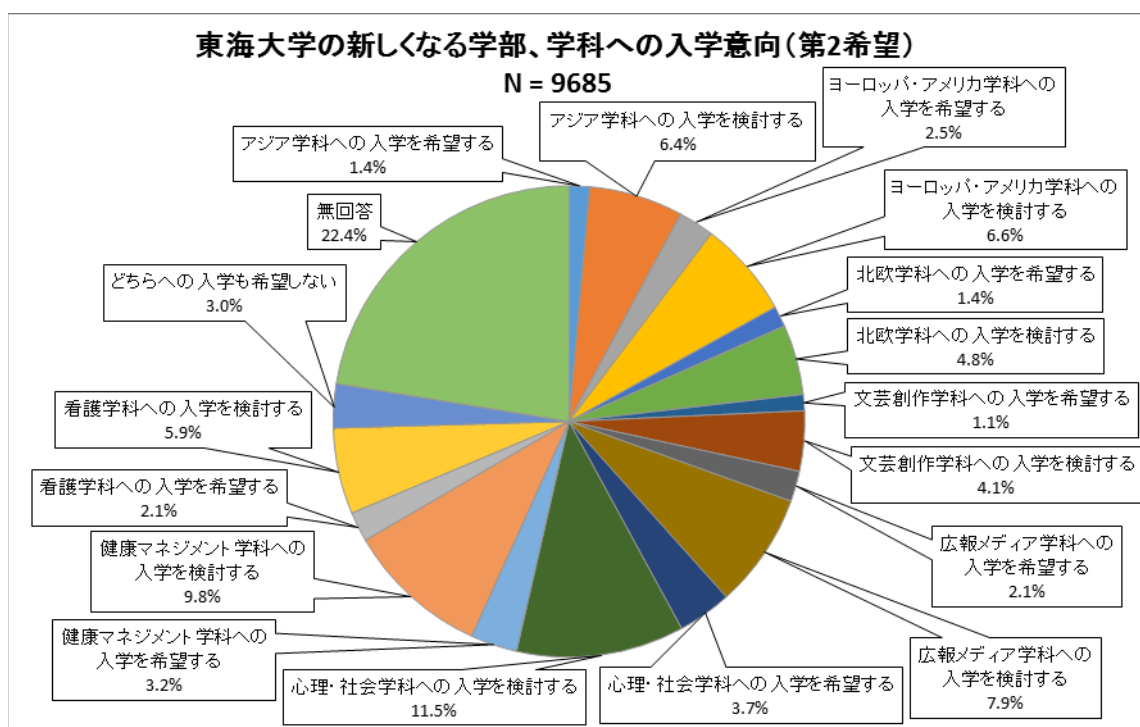
東海大学の新しくなる学部、学科への入学意向(第1希望)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	アジア学科への入学を希望する	479	4.9
2	アジア学科への入学を検討する	570	5.9
3	ヨーロッパ・アメリカ学科への入学を希望する	393	4.1
4	ヨーロッパ・アメリカ学科への入学を検討する	810	8.4
5	北欧学科への入学を希望する	63	0.7
6	北欧学科への入学を検討する	159	1.6
7	文芸創作学科への入学を希望する	137	1.4
8	文芸創作学科への入学を検討する	265	2.7
9	広報メディア学科への入学を希望する	352	3.6
10	広報メディア学科への入学を検討する	607	6.3
11	心理・社会学科への入学を希望する	474	4.9
12	心理・社会学科への入学を検討する	1,024	10.6
13	健康マネジメント学科への入学を希望する	486	5.0
14	健康マネジメント学科への入学を検討する	973	10.0
15	看護学科への入学を希望する	501	5.2
16	看護学科への入学を検討する	741	7.7
17	どちらへの入学も希望しない	1,008	10.4
	無回答	643	6.6
	N (%ベース)	9,685	100



東海大学の新しくなる学部、学科への入学意向(第2希望)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	アジア学科への入学を希望する	137	1.4
2	アジア学科への入学を検討する	624	6.4
3	ヨーロッパ・アメリカ学科への入学を希望する	238	2.5
4	ヨーロッパ・アメリカ学科への入学を検討する	642	6.6
5	北欧学科への入学を希望する	137	1.4
6	北欧学科への入学を検討する	465	4.8
7	文芸創作学科への入学を希望する	108	1.1
8	文芸創作学科への入学を検討する	399	4.1
9	広報メディア学科への入学を希望する	203	2.1
10	広報メディア学科への入学を検討する	763	7.9
11	心理・社会学科への入学を希望する	359	3.7
12	心理・社会学科への入学を検討する	1,114	11.5
13	健康マネジメント学科への入学を希望する	310	3.2
14	健康マネジメント学科への入学を検討する	951	9.8
15	看護学科への入学を希望する	199	2.1
16	看護学科への入学を検討する	572	5.9
17	どちらへの入学も希望しない	292	3.0
	無回答	2,172	22.4
	N (%ベース)	9,685	100



資料3 「既設大学等の状況」定員超過率0.7倍未満の学科等の過去5年間の入試状況

基盤工学部電気電子情報工学科

	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	平均 入学定員超過率
入学定員	80	80	80	80	80	0.63
志願者数	189	191	172	117	155	
受験者数	177	181	158	103	142	
合格者数	145	147	135	83	114	
入学者数	71	58	46	25	55	
入学定員超過率	0.88	0.72	0.57	0.31	0.68	

国際文化学部デザイン文化学科

	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	平均 入学定員超過率
入学定員	70	70	70	70	70	0.62
志願者数	123	109	106	87	131	
受験者数	118	107	104	82	127	
合格者数	97	94	94	74	102	
入学者数	49	40	38	35	56	
入学定員超過率	0.70	0.57	0.54	0.50	0.80	

2015年度就職決定状況(2016年3月卒業生)

2016年5月13日現在

<就職決定率の算出方法>

※就職決定率=調査時点の就職決定者数/就職希望者数×100

※2014年度決定率は2015年5月31日現在の数値。

<就職希望者数の算出方法>

就職希望者数=2016年3月卒業生数-進学希望-公務員試験受験準備-就職の意思なし-未報告

2015年度						2014年度
学部	学科	専攻・課程等	卒業生数	就職希望者数	就職決定者数	決定率(%)
全校舎総計			6129	4979	4870	97.8
文学部	文明学科		56	43	41	95.3
	アジア文明学科		44	35	35	100.0
	ヨーロッパ文明学科		72	54	53	98.1
	アメリカ文明学科		49	42	41	97.6
	北欧学科		60	43	40	93.0
	歴史学科	日本史専攻	59	46	45	97.8
		東洋史専攻	47	39	38	97.4
		西洋史専攻	53	46	42	91.3
		考古学専攻	23	12	10	83.3
	日本文学科		84	69	66	95.7
	文芸創作学科		58	41	34	82.9
	英語文化コミュニケーション学科		95	74	73	98.6
	広報メディア学科		108	95	93	97.9
心理・社会学科		110	87	82	94.3	
文学部計			918	726	693	95.5

資料 5 地域と東海大学との就職に関する協定一覧

	地域	協定	協定締結日
1	山梨県	山梨県と東海大学との学生U・Iターン就職促進に関する協定	平成 24 年 10 月 15 日
2	新潟県	新潟県と東海大学との学生U・Iターン就職促進に関する協定	平成 26 年 10 月 14 日
3	石川県	石川県と東海大学との県内就職支援に関する協定	平成 27 年 1 月 30 日
4	山形県	山形県と東海大学との学生U・Iターン就職促進に関する協定	平成 27 年 8 月 6 日
5	熊本県	熊本県と東海大学との就職支援に関する協定	平成 27 年 11 月 19 日
6	香川県	香川県と東海大学との就職支援に関する協定	平成 28 年 3 月 3 日
7	静岡県	静岡県と東海大学との就職支援に関する協定	平成 28 年 3 月 14 日
8	福岡県	福岡県と東海大学との就職支援に関する協定	平成 28 年 11 月 15 日
9	長野県	長野県と東海大学との学生Uターン就職促進に関する協定	平成 29 年 1 月 19 日
10	北海道	北海道と東海大学との学生U・Iターン就職促進に関する協定	平成 29 年 1 月 25 日
11	秋田県	秋田県と東海大学とのAターン就職促進に関する協定	平成 29 年 3 月 22 日

※Aターン（Uターン・Iターン・Jターンの総称）